

茨城県教育財団文化財調査報告第134集

(仮称)葛城地区特定土地地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書II

神 田 遺 跡

平成10年3月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

作業室用

茨城県教育財団文化財調査報告第134集

(仮称)葛城地区特定土地区画整理 事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

じん でん
神 田 遺 跡

平成10年3月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団



和鏡（松樹千鳥鏡）



漆器鏡筥

序

茨城県は、世界の科学技術をリードし世界に貢献する研究学園都市としてさらなる発展を期待されているつくば市において、国際交流の拠点としての国際都市にふさわしい町づくりを進めております。

新しい町づくりに欠かせない交通機関である常磐新線の整備は、つくばと東京圏を直結し、人・物・情報の交流を盛んにするだけではなく、地域活性化の大きな力になります。そこで、平成6年7月に県、市、地権者代表の三者協議が合意し、新線開発と沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業が進められております。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県と常磐新線沿線地域の土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査事業について委託契約を結び、平成7年4月から発掘調査を実施してきました。その成果の一部は、既に「(仮称)葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」として刊行しました。

本書は、平成8年度に発掘調査を行った神田遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が、研究の資料としてはもとより、郷土史の理解を深めると共に、教育、文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査及び整理を進めるにあたり、委託者である茨城県からいただいた多大なる御協力に対し心から御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力をいただいたことに、衷心より感謝の意を表します。

平成10年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 橋本 昌

例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成8年4月から平成9年3月まで発掘調査を実施した茨城県つくば市^{おおざかりまあざかみのまへ}大字^{まへ}町^{まへ}間^{まへ}字^{まへ}上^{まへ}ノ^{まへ}前^{まへ}1,006番地に所在する^{じんてん}神田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 神田遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は、次のとおりである。

理 事 長	橋 本 昌	平成7年4月～	
副 理 事 長	中 島 弘 光	平成7年4月～	
副 理 事 長	齋 藤 佳 郎	平成8年4月～	
常 務 理 事 長	梅 澤 秀 夫	平成8年4月～平成9年3月	
常 務 理 事	齋 藤 紀 彦	平成9年4月～	
事 務 局 長	小 林 隆 郎	平成8年4月～平成9年3月	
事 務 局 長	西 村 敏 一	平成9年4月～	
埋 蔵 文 化 財 部 長	沼 田 文 夫	平成8年4月～	
埋蔵文化財部長代理	河 野 佑 司	平成6年4月～	
企 画 管 理 課	課 長	小 幡 弘 明	平成8年4月～平成9年3月
	課 長	河 崎 孝 典	平成9年4月～
	課 長 代 理	根 本 達 夫	平成7年4月～
	課 長 代 理	清 水 薫	平成9年4月～ (平成8年4月～平成9年3月 係長)
	主 任 調 査 員	小 高 五 十 二	平成8年4月～
経 理 課	課 長	河 崎 孝 典	平成8年4月～平成9年3月
	課 長	鈴 木 三 郎	平成9年4月～
	主 査	田 所 多 佳 男	平成8年4月～
	課 長 代 理	大 高 春 夫	平成7年4月～平成9年3月
	主 任	小 池 孝	平成7年4月～
	主 任	宮 本 勉	平成9年4月～
	主 事	柳 澤 松 雄	平成8年4月～平成9年3月
	主 事	小 西 孝 典	平成9年4月～
調 査 一 課	課 長	和 田 雄 次	平成8年4月～
	調 査 第 一 班 長	後 藤 哲 也	平成7年4月～平成9年3月
	主 任 調 査 員	長 岡 正 雄	平成8年4月～平成9年3月 調査
	主 任 調 査 員	江 幡 良 夫	平成8年4月～平成8年9月 調査
	主 任 調 査 員	菱 沼 良 幸	平成8年10月～平成9年3月 調査
整 理 課	課 長	小 泉 光 正	平成9年4月～
	首 席 調 査 員	川 井 正 一	平成8年4月～
	主 任 調 査 員	長 岡 正 雄	平成9年4月～平成10年3月 整理・執筆・編集

- 3 本書で使用した記号等については、凡例を参照されたい。
- 4 本書の作成にあたり、和鏡の鑑定については国学院大学講師青木豊氏、須恵器の年代と生産地については千代川村教育委員会の赤井博之氏に御指導を戴いた。
- 5 和鏡と鏡筒の保存処理業務は財団法人岩手県文化振興事業団に委託した。
- 6 発掘調査及び整理に際して、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

7 遺跡の概略

ふりがな	(かしょう) かつらぎちくとくていとちかくせいりじぎょうちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	(仮称) 葛城地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書
副書名	神田遺跡
巻次	II
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第134集
著者名	長岡 正雄
編集機関	財団法人 茨城県教育財団
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587
発行年月日	1998(平成10)年3月20日

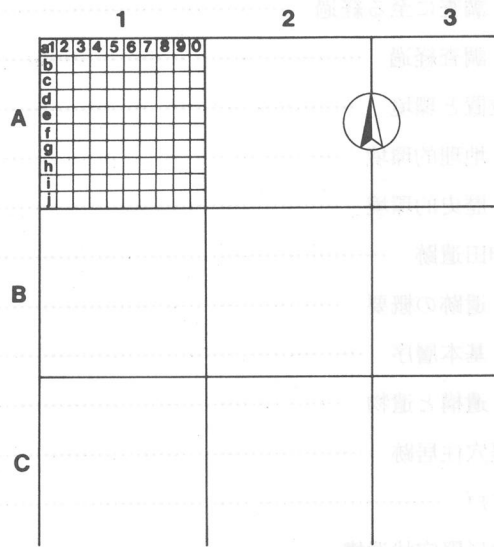
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
じんてん 神田遺跡	いばらきけん 茨城県つくば市大字	08220	36度	140度	19.5m	19960401	18,207㎡	(仮称) 葛城地区特定土地区画整理事業に伴う事前調査
	かりま あざ かのまへ 苅間字上ノ前1,006	- 185	4分 39秒	5分 48秒	~ 23.5m	~ 19970331		
ばんち 番地ほか								
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
神田遺跡	集落跡	旧石器		ナイフ形石器, 剝片	古墳時代から平安時代の集落跡と、中世から近世の墓域が中心の複合遺跡である。 調査区東側の墓域から、鎌倉時代初期の和鏡「松樹千鳥鏡」と漆器鏡筒が出土している。			
		縄文	陥し穴 1基	縄文土器片, 石鏃, 凹石, 石錘				
		古墳	竪穴住居跡1軒	土師器, 須恵器, 砥石, 支脚				
	奈良・平安	竪穴住居跡61軒 井戸 2基 大形竪穴状遺構 1基 竪穴状遺構2基 埋葬施設 1基 土坑 1基	土師器, 須恵器, 墨書土器, 灰釉陶器, 土玉, 紡錘車, 支脚, 砥石, 鉄鏃, 刀子, 鉄斧					
墓域	中・近世	井戸 3基 土坑 22基	和鏡, 鏡筒, 土師質土器, 陶磁器片, 短刀, 煙管の吸い口, 泥人形					
その他	不明	土坑 236基 溝 8条	土師器, 須恵器, 陶磁器片, 砥石					

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を原点とし、X軸=+8,680m、Y軸=+23,640mの交点を基準点(B3a₁)とした。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C……、西から東へ1、2、3……とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は、北から南へa、b、c……j、西から東へ1、2、3……0とし、名称は、大調査区の名称を冠し、「A1a₁区」、「B2b₂区」のように呼称した(第1図)。



第1図 調査区呼称方法概念図

2 遺構、遺物、土層に使用した記号は、次のとおりである。

遺構 住居跡-S I 溝-SD 井戸-SE 土坑-SK 埋葬施設-M

遺物 土器・陶磁器-P 土製品-D P 石製品-Q 金属製品-M 木製品-W 拓本土器-T P

土層 攪乱-K

3 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

繊維土器
 焼土
 粘土・黒色処理
 施釉
 炭化物

●土器
 ■石器・石製品
 ▲土製品
 △金属製品
 ----- 硬化面

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

5 遺構・遺物実測図の作成方法と掲載方法については、次のとおりである。

- (1) 遺跡の全体図は400分の1、竪穴住居跡、土坑は原則的に60分の1に縮尺して、掲載した。
- (2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々に $S = 1/\bigcirc$ と表示した。
- (3) 「主軸方向」は長軸(径)方向とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E, N-10°-W)。なお、[]を付したものは推定である。
- (4) 土器の計測値は、A-口径、B-器高、C-底径、D-高台(脚)径、E-高台(脚)高、F-つまみ径、G-つまみ高とし、単位はcmである。なお、現存値は()で、推定値は[]を付して示した。
- (5) 遺物観察表の備考の欄は、土器の残存率、実測番号(P)、出土位置及び必要と思われる事項を記した。

目 次

序	
例 言	
凡 例	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4
第3章 神田遺跡	8
第1節 遺跡の概要	8
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	10
1 竪穴住居跡	10
2 井戸	182
3 大形竪穴状遺構	192
4 竪穴状遺構	195
5 土坑	202
(1) 陥し穴	203
(2) 墓壙と考えられる土坑	203
(3) 墓壙の可能性のある土坑	206
(4) その他の土坑	211
6 埋葬施設	227
7 溝	228
8 遺構外出土遺物	230
神田遺跡遺構一覧表	236
第4節 まとめ	245
写真図版	

挿 図 目 次

第1図 調査区呼称方法概念図	第36図 第94号住居跡実測図 50
第2図 周辺遺跡位置図 7	第37図 第94号住居跡出土遺物実測図 51
第3図 神田遺跡調査区割図 8	第38図 第95号住居跡実測図 52
第4図 調査C区基本土層図 9	第39図 第95号住居跡出土遺物実測図 53
第5図 第78号住居跡実測図 10	第40図 第96号住居跡実測図 55
第6図 第79号住居跡実測図 12	第41図 第96号住居跡出土遺物実測図 56
第7図 第79号住居跡出土遺物実測図 13	第42図 第97号住居跡実測図 57
第8図 第80号住居跡実測図 14	第43図 第97号住居跡出土遺物実測図 58
第9図 第80号住居跡出土遺物実測図 15	第44図 第98号住居跡実測図 60
第10図 第81号住居跡実測図 16	第45図 第98号住居跡出土遺物実測図 61
第11図 第81号住居跡出土遺物実測図 17	第46図 第99号住居跡実測図 63
第12図 第82号住居跡実測図 18	第47図 第99号住居跡出土遺物実測図 64
第13図 第82号住居跡出土遺物実測図 19	第48図 第100号住居跡実測図 66
第14図 第83号住居跡実測図 21	第49図 第100号住居跡竈実測図 67
第15図 第83号住居跡出土遺物実測図 22	第50図 第100号住居跡出土遺物実測図(1) 68
第16図 第84号住居跡実測図 24	第51図 第100号住居跡出土遺物実測図(2) 69
第17図 第84号住居跡出土遺物実測図(1) 25	第52図 第100号住居跡出土遺物実測図(3) 70
第18図 第84号住居跡出土遺物実測図(2) 26	第53図 第101号住居跡実測図 73
第19図 第85号住居跡実測図 28	第54図 第101号住居跡出土遺物実測図 74
第20図 第85号住居跡出土遺物実測図 28	第55図 第102号住居跡実測図 76
第21図 第86号住居跡実測図 30	第56図 第102号住居跡出土遺物実測図 77
第22図 第86号住居跡出土遺物実測図 31	第57図 第103号住居跡実測図 79
第23図 第87号住居跡実測図 33	第58図 第103号住居跡出土遺物実測図 80
第24図 第87号住居跡出土遺物実測図 34	第59図 第104号住居跡実測図 82
第25図 第88号住居跡実測図 36	第60図 第104号住居跡出土遺物実測図 83
第26図 第88号住居跡出土遺物実測図 37	第61図 第105号住居跡実測図 85
第27図 第89号住居跡実測図 39	第62図 第105号住居跡出土遺物実測図 86
第28図 第89号住居跡出土遺物実測図 40	第63図 第106号住居跡実測図 87
第29図 第90号住居跡実測図 42	第64図 第106号住居跡出土遺物実測図 88
第30図 第91号住居跡実測図 43	第65図 第107号住居跡実測図 89
第31図 第91号住居跡出土遺物実測図 44	第66図 第107号住居跡出土遺物実測図 90
第32図 第92号住居跡実測図 45	第67図 第108号住居跡実測図 92
第33図 第92号住居跡出土遺物実測図 46	第68図 第108号住居跡出土遺物実測図 93
第34図 第93号住居跡実測図 48	第69図 第109号住居跡実測図 94
第35図 第93号住居跡出土遺物実測図 48	第70図 第109号住居跡出土遺物実測図 95

第71 図	第110号住居跡実測図	97	第109 図	第128号住居跡実測図	151
第72 図	第110号住居跡出土遺物実測図	98	第110 図	第128号住居跡出土遺物実測図	152
第73 図	第111号住居跡出土遺物実測図	100	第111 図	第130号住居跡実測図	153
第74 図	第111号住居跡実測図	101	第112 図	第130号住居跡出土遺物実測図	154
第75 図	第112号住居跡実測図	103	第113 図	第131号住居跡実測図	155
第76 図	第112号住居跡出土遺物実測図	104	第114 図	第131号住居跡出土遺物実測図	156
第77 図	第113号住居跡実測図	106	第115 図	第132-A号,第132-B号住居跡実測図	158
第78 図	第114号住居跡実測図	107	第116 図	第132-A号,第132-B号住居跡 出土遺物実測図	159
第79 図	第114号住居跡竈実測図	108	第117 図	第133号住居跡実測図	162
第80 図	第114号住居跡出土遺物実測図	109	第118 図	第133号住居跡出土遺物実測図	163
第81 図	第115号住居跡実測図	111	第119 図	第134号住居跡実測図	164
第82 図	第115号住居跡出土遺物実測図	112	第120 図	第134号住居跡出土遺物実測図	165
第83 図	第116号住居跡実測図	114	第121 図	第135号住居跡実測図	167
第84 図	第116号住居跡出土遺物実測図	115	第122 図	第135号住居跡出土遺物実測図	168
第85 図	第117号住居跡実測図	116	第123 図	第136号住居跡実測図	169
第86 図	第117号住居跡竈実測図	117	第124 図	第136号住居跡出土遺物実測図	170
第87 図	第117号住居跡出土遺物実測図(1)	118	第125 図	第137号住居跡実測図	172
第88 図	第117号住居跡出土遺物実測図(2)	119	第126 図	第137号住居跡出土遺物実測図	173
第89 図	第118号住居跡実測図	122	第127 図	第138号住居跡実測図	175
第90 図	第118号住居跡出土遺物実測図	123	第128 図	第138号住居跡出土遺物実測図(1)	176
第91 図	第119号住居跡実測図	125	第129 図	第138号住居跡出土遺物実測図(2)	177
第92 図	第119号住居跡出土遺物実測図	126	第130 図	第139号住居跡実測図	179
第93 図	第120号住居跡実測図	128	第131 図	第139号住居跡出土遺物実測図	180
第94 図	第120号住居跡出土遺物実測図	129	第132 図	第8号井戸実測図	182
第95 図	第121号住居跡実測図	131	第133 図	第8号井戸出土遺物実測図	183
第96 図	第121号住居跡出土遺物実測図	132	第134 図	第9号井戸実測図	184
第97 図	第122号住居跡実測図	134	第135 図	第10号井戸実測図	186
第98 図	第122号住居跡出土遺物実測図	135	第136 図	第10号井戸出土遺物実測図(1)	187
第99 図	第123号住居跡実測図	136	第137 図	第10号井戸出土遺物実測図(2)	188
第100 図	第123号住居跡出土遺物実測図	137	第138 図	第10号井戸出土遺物実測図(3)	189
第101 図	第124号住居跡実測図	138	第139 図	第11・12号井戸実測図	191
第102 図	第124号住居跡出土遺物実測図	139	第140 図	第12号井戸出土遺物実測図	192
第103 図	第125号住居跡実測図	140	第141 図	第3号大形竪穴状遺構実測図	193
第104 図	第125号住居跡出土遺物実測図	141	第142 図	第3号大形竪穴状遺構 出土遺物実測図	194
第105 図	第126号住居跡実測図	144	第143 図	第3号竪穴状遺構実測図	196
第106 図	第126号住居跡出土遺物実測図	145	第144 図	第4号竪穴状遺構実測図	197
第107 図	第127号住居跡実測図	147			
第108 図	第127号住居跡出土遺物実測図	148			

第145図	第4号竪穴状遺構 出土遺物実測図(1)	198	第165図	その他の土坑実測図(3)	214
第146図	第4号竪穴状遺構 出土遺物実測図(2)	199	第166図	その他の土坑実測図(4)	215
第147図	第4号竪穴状遺構 出土遺物実測図(3)	200	第167図	その他の土坑実測図(5)	216
第148図	第1号陥し穴実測図	203	第168図	その他の土坑実測図(6)	217
第149図	第605号土坑実測図	204	第169図	その他の土坑実測図(7)	218
第150図	第605号土坑出土遺物実測図	204	第170図	その他の土坑実測図(8)	219
第151図	第453号土坑実測図	205	第171図	その他の土坑実測図(9)	220
第152図	第453号土坑出土遺物実測図	205	第172図	その他の土坑実測図(10)	221
第153図	第497号土坑実測図	206	第173図	その他の土坑実測図(11)	222
第154図	第497号土坑出土遺物実測図	206	第174図	その他の土坑実測図(12)	223
第155図	第589号土坑実測図	207	第175図	その他の土坑実測図(13)	224
第156図	第590号土坑実測図	207	第176図	その他の土坑実測図(14)	225
第157図	第591号土坑実測図	208	第177図	第370・555号土坑出土遺物実測図	226
第158図	第597号土坑実測図	208	第178図	第1号埋葬施設実測図	227
第159図	第600号土坑実測図	208	第179図	第1号埋葬施設出土遺物実測図	228
第160図	第604号土坑実測図	209	第180図	第21～28号溝土層断面図	229
第161図	第492号土坑実測図	209	第181図	遺構外出土遺物実測図(1)	230
第162図	墓墳の可能性のある その他の土坑実測図	210	第182図	遺構外出土遺物実測図(2)	231
第163図	その他の土坑実測図(1)	212	第183図	遺構外出土遺物実測図(3)	232
第164図	その他の土坑実測図(2)	213	第184図	遺構外出土遺物実測図(4)	233
			第185図	時期別住居跡配置図(1)	248
			第186図	時期別住居跡配置図(2)	249
			付図	神田遺跡全体図	

表 目 次

表1	周辺遺跡一覧表	6	表7	墓墳と考えられる土坑一覧表	238
表2	住居跡一覧表	236	表8	墓墳の可能性のある土坑一覧表	238
表3	井戸一覧表	237	表9	その他の土坑一覧表	239
表4	大形竪穴状遺構一覧表	237	表10	埋葬施設一覧表	244
表5	竪穴状遺構一覧表	238	表11	溝一覧表	244
表6	陥し穴一覧表	238			

写真図版目次

- PL 1 神田遺跡遠景, 神田遺跡全景
- PL 2 遺構確認状況(北側, 南側), 第78号住居跡
- PL 3 第79・80号住居跡, 第80号住居跡竈遺物出土状況
- PL 4 第83・84・85号住居跡
- PL 5 第86・87・88号住居跡, 第88号住居跡竈
- PL 6 第89号住居跡, 第89号住居跡竈, 第90号住居跡
- PL 7 第90号住居跡出入り口施設, 第91・92号住居跡
- PL 8 第92号住居跡竈, 第93号住居跡竈遺物出土状況, 第95号住居跡
- PL 9 第97・98・99号住居跡
- PL10 第100号住居跡, 第100号住居跡遺物出土状況, 第100号住居跡竈遺物出土状況
- PL11 第101号住居跡, 第101号住居跡竈遺物出土状況, 第101号住居跡竈
- PL12 第102・103・104号住居跡
- PL13 第105・106号住居跡, 第107号住居跡竈遺物出土状況
- PL14 第108号住居跡, 第108号住居跡竈遺構, 第109号住居跡
- PL15 第110・111・112号住居跡
- PL16 第112号住居跡竈遺物出土状況, 第113・114号住居跡
- PL17 第115号住居跡, 第115号住居跡竈遺物出土状況, 第116~119号住居跡
- PL18 第117号住居跡, 第117号住居跡竈, 第118号住居跡遺物出土状況
- PL19 第119号住居跡, 第119号住居跡竈遺物出土状況, 第120号住居跡
- PL20 第121号住居跡, 第121号住居跡竈, 第122号住居跡
- PL21 第122・123・124・125号住居跡
- PL22 第125号住居跡竈遺物出土状況, 第126・139号住居跡
- PL23 第127号住居跡, 第127号住居跡竈遺物出土状況, 第128号住居跡
- PL24 第128号住居跡竈, 第130・131号住居跡
- PL25 第132-A・B号住居跡, 第132-B号住居跡竈, 第133号住居跡
- PL26 第134・135・136号住居跡
- PL27 第136号住居跡遺物出土状況, 第137号住居跡, 第137号住居跡竈
- PL28 第138号住居跡, 第138号住居跡竈, 第139号住居跡
- PL29 第453号土坑, 第453号土坑遺物出土状況
- PL30 第453号土坑遺物出土状況
- PL31 第8・9・10号井戸, 第4号竪穴状遺構, 第10号井戸遺物出土状況, 第3号大形竪穴状遺構, 第3号竪穴状遺構, 第4号竪穴状遺構遺物出土状況
- PL32 第4号竪穴状遺構, 第10号井戸, 第491・492・493・495・496号土坑, 第497号土坑遺物出土状況
- PL33 第497号土坑遺物出土状況, 第501・589・590・591・592・593・594号土坑
- PL34 第595・597・598・600・602・604・605号土坑, 第605号土坑遺物出土状況, 第606号土坑
- PL35 第589~591・598号土坑, 第609号土坑土層断面, 第609号土坑, 第562~580号土坑, 第1号埋葬施設遺物出土状況, 第1号埋葬施設土層断面
- PL36 第22号溝(南側, 北側), 第21・23・27・28号溝
- PL37 第79~81・83・84号住居跡出土遺物
- PL38 第84・85号住居跡出土遺物
- PL39 第86~88号住居跡出土遺物
- PL40 第89・91~93号住居跡出土遺物
- PL41 第92・94~98号住居跡出土遺物
- PL42 第98~100号住居跡出土遺物
- PL43 第100号住居跡出土遺物
- PL44 第100~102号住居跡出土遺物

- PL45 第103~107号住居跡出土遺物
- PL46 第107・109・110・112号住居跡出土遺物
- PL47 第110・112・114号住居跡出土遺物
- PL48 第115~118号住居跡出土遺物
- PL49 第118・119号住居跡出土遺物
- PL50 第120~124号住居跡出土遺物
- PL51 第123~126号住居跡出土遺物
- PL52 第126~128号住居跡出土遺物
- PL53 第127・128・130~132 - A・B号住居跡出土遺物
- PL54 第132 - A・B・133・135~138号住居跡出土遺物
- PL55 第137~139号住居跡出土遺物
- PL56 第138・139号住居跡, 第10号井戸出土遺物
- PL57 第10号井戸出土遺物
- PL58 第10号井戸, 第3号大形竪穴状遺構, 第4号竪穴状遺構出土遺物
- PL59 第4号竪穴状遺構, 第370号土坑出土遺物
- PL60 第4号竪穴状遺構, 第1号埋葬施設, 遺構外出土遺物
- PL61 出土石器, 出土石製品
- PL62 出土石製品, 出土土製品
- PL63 出土土製品, 出土金属製品
- PL64 出土金属製品, 出土木製品
- PL65 出土金属製品, 遺構外出土遺物

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経過

茨城県では、世界に開かれた国際交流の中心、世界の科学技術をリードする研究開発の拠点として、21世紀の新しい町づくりをつくば市において進めている。その一環として取り組んでいるのが、西暦2005年開業をめざしている常磐新線の建設とそれに伴う沿線開発である。

当遺跡のある葛城地区については、平成6年8月18日、茨城県知事が茨城県教育委員会あてに、常磐新線沿線地域の土地区画整理事業地域内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これに対して茨城県教育委員会は平成6年9月19日から27日にかけて現地踏査を行い、埋蔵文化財の存在を確認した。平成7年3月8日、茨城県教育委員会から茨城県知事あてに、常磐新線沿線地域の土地区画整理事業地域内に神田遺跡（葛城地区）が所在する旨回答した。平成8年2月5日、茨城県知事から茨城県教育委員会あてに、平成8年度の葛城特定土地区画整理事業に係る神田遺跡（18,207㎡）の取り扱いについて協議があり、文化財保護の立場から再三協議を行った。その結果、平成8年2月9日、茨城県教育委員会から茨城県知事あてに、神田遺跡を記録保存とする旨回答があった。埋蔵文化財の調査機関として、引き続き財団法人茨城県教育財団を紹介した。

そこで、茨城県から財団法人茨城県教育財団に神田遺跡の発掘調査の依頼があり、発掘調査について協議を行った結果、茨城県と神田遺跡の埋蔵文化財発掘調査の委託契約を結び、平成8年4月1日から発掘調査を開始することとなった。そして、財団法人茨城県教育財団は、平成7年度にはA区とB区、平成8年度にはC区の発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

神田遺跡C区の発掘調査を平成8年4月1日から平成9年3月31日までの1年間にわたって実施した。以下、調査経過について、その概要を記述する。

- 4月 発掘調査を開始するための諸準備を行う。5日に調査区内の現地踏査を行う。16日、18日に調査器材の搬入を行う。24日に茨城県土木部都市局都市整備課、茨城県つくば都市整備局、茨城県県南都市建設事務所と平成8年度埋蔵文化財発掘調査打ち合わせ会議を開く。
- 5月 7日に県南都市建設事務所と境界杭の立ち会い確認を行う。9日に補助員を投入して現場作業を開始する。13日から人力による栗畑の伐採と調査C区（第2図）の試掘を開始した。
- 6月 3日に試掘を終了し、調査区の南東部分から人力による表土除去及び遺構確認作業を行う。5日から重機による昨年度の排土運搬作業、10日から表土除去を開始し、引き続き遺構確認作業を行う。
- 7月 16日に茨城県建設技術公社による方眼杭打ち測量を行う。18日に表土除去と遺構確認作業が終了し、竪穴住居跡66軒、土坑500基、溝28条、掘立柱建物跡3棟を確認した。19日から調査区北側の住居跡の遺構調査を開始する。
- 8月 引き続き遺構調査を行い、31日までに竪穴住居跡5軒、土坑1基、火葬墓1基の遺構調査を終了した。降雨が少なく、土壌が粘土質のため、調査に困難を極めた。

- 9月 引き続き遺構調査を行い、30日までに竪穴住居跡6軒の遺構調査を終了した。
- 10月 降雨が少なく、乾きやすい土壌のため、堅くなった粘土を掘り込むことが困難であったが、竪穴住居跡19軒、土坑96基、井戸1基の遺構調査を終了した。
- 11月 引き続き遺構調査を行い、竪穴住居跡3軒、土坑5基、溝4条の遺構調査を終了した。
- 12月 継続して遺構調査を行い、竪穴住居跡9軒、土坑2基、テストピットの遺構調査を終了した。
- 1月 継続して遺構調査を行い、竪穴住居跡12軒、土坑1基の遺構調査を終了した。季節風の影響で土埃が舞い上がることが多く、補助員の健康管理だけでなく、遺構の安全対策にも苦慮することが多かった。
- 2月 17日に千代川村教育委員会の赤井博之氏を招聘して、班内研修会を開く。28日までに竪穴住居跡5軒、井戸3基、土坑2基の遺構調査を終了した。
- 3月 11日に委託者への報告会を行う。13日に航空写真撮影を実施し、午後から報道関係者への公開を行った。14日までに土坑39基、井戸2基の遺構調査を終了した。16日に現地説明会を開催し、遺構、遺物を一般に公開した。17日から補足調査として竪穴住居跡の竈の調査を実施し、並行して安全対策のために、人力による埋め戻し作業を行った。18日に出土遺物を整理センター国田分館に搬出する。19日に事務所と休憩所と倉庫等の整理を行い、現地調査を終了した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

神田遺跡は、茨城県つくば市大字苅間字上ノ前1,006番地ほかに所在し、常磐自動車道・桜土浦インターチェンジの西北西約6.2kmの地点に位置している。

遺跡の所在するつくば市は、茨城県の南西部に位置し、北は真壁郡明野町、同郡真壁町、新治郡八郷町に、東は新治郡新治村、土浦市に、南は牛久市、稲敷郡莖崎町、筑波郡伊奈町、同郡谷和原村に、西は水海道市、結城郡石下町、同郡千代川村、下妻市に接している。

つくば市は、昭和62年11月に、筑波郡谷田部町、同郡豊里町、同郡大穂町、新治郡桜村が合併し誕生したが、その後、昭和63年1月には筑波郡筑波町が編入された。市域は、東西が約14km、南北が約25km、面積は約259.5km²であり、人口157,112人（平成9年4月1日現在）を擁している。なお、当遺跡は旧谷田部町に属していた。この地域は昔から自然に恵まれ、産業の中心も主に農業であったが、昭和40年代以降「研究学園都市」として、国際的な研究機関の中心としての大きな発展を遂げ、現在も常磐新線や周辺地域の開発と整備が進められ、首都圏との結びつきはますます強くなっている。

つくば市は、市の南東端から東方約5kmには霞ヶ浦が、北端には筑波山がそびえており、この地域一帯は水郷筑波国定公園に指定されている、風光明媚な場所として知られている。地形的には、北東部に筑波山塊の南西端が接し、その山塊の端を西茨城郡岩瀬町高峯南麓の鏡が池を水源とする桜川が、南下して霞ヶ浦へと注いでいる。また、市の西端を栃木県那須郡南那須町を水源とする小貝川がほぼ南下し、利根川に合流して太平洋へと流入する。この両河川に挟まれた平坦な台地は、筑波・稲敷台地と呼ばれている。

筑波・稲敷台地は、千葉県北部から茨城県南部に広がる常総台地の一部であるが、地質的には、新生代第四期洪積世に作られた地層が見られる。下層は竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層が主体をなし、その上に板橋層または常総粘土層と呼ばれる灰白色粘土層（0.3～0.5m）、その上に関東ローム層（0.5～2.5m）が堆積し、最上部は腐植土層となっている。特に、関東ローム層全体から見ると、新期ロームに属し、武蔵野ローム、立川ローム、宝木ローム、田原ロームなどが堆積しており、軽石層の分布をみると、富士・箱根火山群の活動に由来するものと考えられる。

神田遺跡は、つくば市の中央部やや南側に位置し、つくば市立葛城小学校から北西に約300m離れた、東谷田川の支流である蓮沼川の左岸の、支谷を望む標高19.5～23.5mの台地上に立地している。今回調査した調査C区は平坦な地形ではあるが、南側から北側に向かって緩やかに傾斜している。

当遺跡周辺の土地利用の現状は、主として宅地、畑地、一部の平地林となっており、蓮沼川流域の沖積低地は水田として利用されている。遺跡の現況は芝や麦作の畑地と栗林であった。

参考文献

- ・大山年次、蜂須紀夫「茨城県 地学のガイド」 1977年8月
- ・蜂須紀夫、大森昌衛「茨城の地質をめぐって」 1979年9月

第2節 歴史的環境

つくば市には、縄文時代から近世にかけての遺跡が数多く存在している。桜川、小貝川をはじめとした河川に挟まれた台地上は、古代から人々が生活を営む場としては絶好の舞台となってきたようである。ここでは、神田遺跡周辺の主な遺跡（第3図）について、すでに確認されている遺跡をもとに、時代を追って述べることにする。また、調査が行われていない遺跡については、時期を特定していない。

神田遺跡の所在する葛城地区周辺（つくば市旧谷田部地区北東部から隣接地域にかけて）では、西側の西谷田川、東谷田川、その支流である蓮沼川、東側の花室川、桜川などの流域に、数多くの遺跡が確認されている。ここ葛城地区でも昔から土器片や石鏃が出土することが伝えられている。

旧石器時代の遺跡はまだ確認されていないが、旧大穂町の^{まゑの}前野遺跡、^{おおすな}大砂遺跡からは尖頭器が、旧豊里町の^{おおざかい}大境遺跡からは尖頭器、ナイフ形石器などが、旧桜村の^{しばき}柴崎遺跡〈7〉と旧筑波町の^{なかだい}中台遺跡からはナイフ形石器などが、新治村の^{たかおかね}高岡根遺跡から尖頭器が採集されている。いずれも表採や表土中から出土した資料であり、今後の調査が待たれる。

縄文時代になると、各河川流域で遺跡の存在が確認されている。花室川、桜川流域には、^{だいつばさいじゅうろう}台坪才十郎遺跡（中期）〈3〉、^{おおやま}大山遺跡（早期）〈4〉、^{てんじん}天神遺跡（中期）〈6〉、^{しばき}柴崎遺跡（早期～前期、後期）などが確認されている。また、西谷田川と東谷田川流域では、旧豊里地区に^{おおざかい}大境遺跡（前期～中期）、^{やかしら}八ヶ代遺跡（中期）〈14〉、^{さかまる}酒丸遺跡（中期）〈15〉などが、また、旧谷田部地区においては^{ふくだ}福田遺跡（中期～後期）〈24〉、^{だいならい}台成井遺跡（中期）〈25〉、^{さかいまつ}境松遺跡（前期～中期）〈31〉、小野川上流の^{おののきま}小野崎遺跡（早期、中期）〈30〉などが確認されているが、湮滅した遺跡やまだ学術調査が行われていない遺跡も多い。

弥生時代の遺跡は、あまり確認されていないのが現状である。桜川左岸の中台遺跡において後期後半の竪穴住居跡が確認され、花室川左岸の^{にしつば}西坪遺跡〈10〉や西谷田川左岸の^{たかやま}高山遺跡などで弥生土器の甕が出土している。

この地域で一番数多く確認されているのが、古墳時代の遺跡である。花室川、桜川流域では、^{たまとり}玉取古墳群〈2〉、^{てんじんつか}大山遺跡、^{てんじんつか}天神塚古墳〈5〉、^{てんじん}天神遺跡、^{しばき}柴崎遺跡、^{にしつば}西坪遺跡、^{くらかけ}倉掛遺跡〈13〉などがある。次に西谷田川と東谷田川流域では、旧谷田部地区が特に多く、古墳約300基が確認されており、^{こうや}高野古墳群〈16〉、^{たかだ}高田遺跡〈17〉、^{せきだい}関の台古墳群〈18〉、^{しまなぐま}島名熊の山古墳群〈19〉、^{くまやま}熊の山遺跡〈20〉、^{やくし}薬師遺跡〈21〉、^{みずほり}水堀遺跡〈22〉、^{やぎはし}柳橋遺跡〈23〉、^{ろきじゆ}六十目遺跡〈26〉、^{かりま}苅間遺跡〈27〉、^{かりま}苅間古墳〈28〉、^{つばた}ツバタ遺跡〈32〉、^{たかやま}高山古墳群〈33〉などがある。これらの遺跡の古墳は、ほとんどが小円墳を中心に構成されている。

奈良・平安時代になると、律令制度の確立に伴い、葛城地区は河内郡菅田郷に所属するようになり、のち12世紀後半にかけて、大井庄、続いて田中庄と呼ばれることになる。この時代の遺跡としては、確認されているものも少ないが、花室川と桜川流域の^{ここのまはいじ}柴崎遺跡、^{うへのむろじょうり}九重廃寺跡〈9〉、^{うへのむろじょうり}上ノ室条里遺跡、東谷田川流域の^{くまやま}熊の山遺跡、^{やくし}薬師遺跡などがあげられる。また、手代木地区において、奈良時代の古瓦（鑑瓦）が出土しており、今後の調査研究が待たれるところである。

中世の遺跡としては、ほとんどが城館跡になる。鎌倉幕府の成立後、小田氏の支配下となった近隣一帯には、多くの城が築かれた。方穂氏の方穂故城跡〈1〉、沼尻氏の^{こんだじょう}金田城跡〈8〉、^{はなむろじょう}大津氏の花室城跡〈11〉、吉原氏の^{うへのむろじょう}上ノ室城跡〈12〉、平井手氏の^{おものいじょう}面野井城跡、荒井氏の^{おののきま}小野崎館跡〈29〉などが確認されている。特に注目したいのは、当遺跡の隣に位置していたとされる、野中瀬氏の^{かりまじょう}苅間城跡である。野中瀬氏は古河公方の旗本柳橋豊前守の妹婿であり、小田氏の忠臣として活躍したが、天承2年（1574）、小田氏滅亡の時、小田父子を追っ

て最後を遂げた。苅間城はその後に廃城となり、今でも土塁と思われる跡が残っている。当遺跡の平成7年度の調査でも城に関連していると思われる掘立柱建物跡と堀が確認されている。

参考文献

- ・茨城県教育庁文化課 『茨城県遺跡地図』 茨城県教育委員会 1990年3月
- ・埴泉嶺 『筑波郡郷土史 全(復刻版)』 賢美閣 1979年12月
- ・谷田部の歴史編さん委員会 『谷田部の歴史』 谷田部町教育委員会 1975年9月
- ・大野慎 『葛城の郷土史』 常総史談会 1977年3月
- ・桜村史編さん委員会 『桜村史 上巻』 桜村教育委員会 1982年3月
- ・大穂町史編纂委員会 『大穂町史』 つくば市大穂地区教育事務所 1989年3月
- ・豊里町史編纂委員会 『豊里の歴史』 豊里町 1985年3月
- ・中山信名 『新編常陸国誌』 嶺書房 1978年12月
- ・茨城県教育財団 「科学博関連道路谷田部明野線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 ツバタ遺跡高山古墳群」『茨城県教育財団文化財調査報告第22集』 1983年3月
- ・茨城県教育財団 「研究学園都市計画手生子工業団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書 大境遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告第34集』 1986年3月
- ・茨城県教育財団 「研究学園都市計画大砂工業団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書 大久保A遺跡
大久保B遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第37集』 1986年3月
- ・茨城県教育財団 「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書 境松遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告第41集』 1987年3月
- ・茨城県教育財団 「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(IV) 柴崎遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第93集』 1994年9月
- ・茨城県教育財団 「(仮称)北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書 中台遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第102集』 1995年12月

表1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	県遺跡番号	時代					番号	遺跡名	県遺跡番号	時代					
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平				中・近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平
◎	神田遺跡	5841		○		○	○	17	高田遺跡	2920				○		
1	方穂故城	5866					○	18	関の台古墳群	2112				○		
2	玉取古墳群	2163				○		19	島名熊の山古墳群	2120				○		
3	台坪才十郎遺跡	2876		○				20	熊の山遺跡					○	○	○
4	大山遺跡	2877		○		○		21	葉師遺跡	2105				○		○
5	天神塚古墳	2088				○		22	水堀遺跡	5838				○		
6	天神遺跡	2878		○		○		23	柳橋遺跡	5839				○		
7	柴崎遺跡	2897	○	○		○	○	24	福田遺跡	2099		○				
8	金田城跡	2891					○	25	台成井遺跡	2910		○				
9	九重廃寺跡	2890					○	26	六十目遺跡	5842				○		
10	西坪遺跡	2085			○	○		27	苅間遺跡	2917				○		
11	花室城跡	2893					○	28	苅間古墳	2922				○		
12	上ノ室城跡	2892					○	29	小野崎館跡	2913						○
13	倉掛遺跡	2886				○		30	小野崎遺跡	2918		○		○		
14	八ヶ代遺跡	2938		○		○		31	境松遺跡	2098		○	○	○		
15	酒丸遺跡	2939		○				32	ツバタ遺跡	2906				○		
16	高野古墳群	2142				○		33	高山古墳群	2114				○		

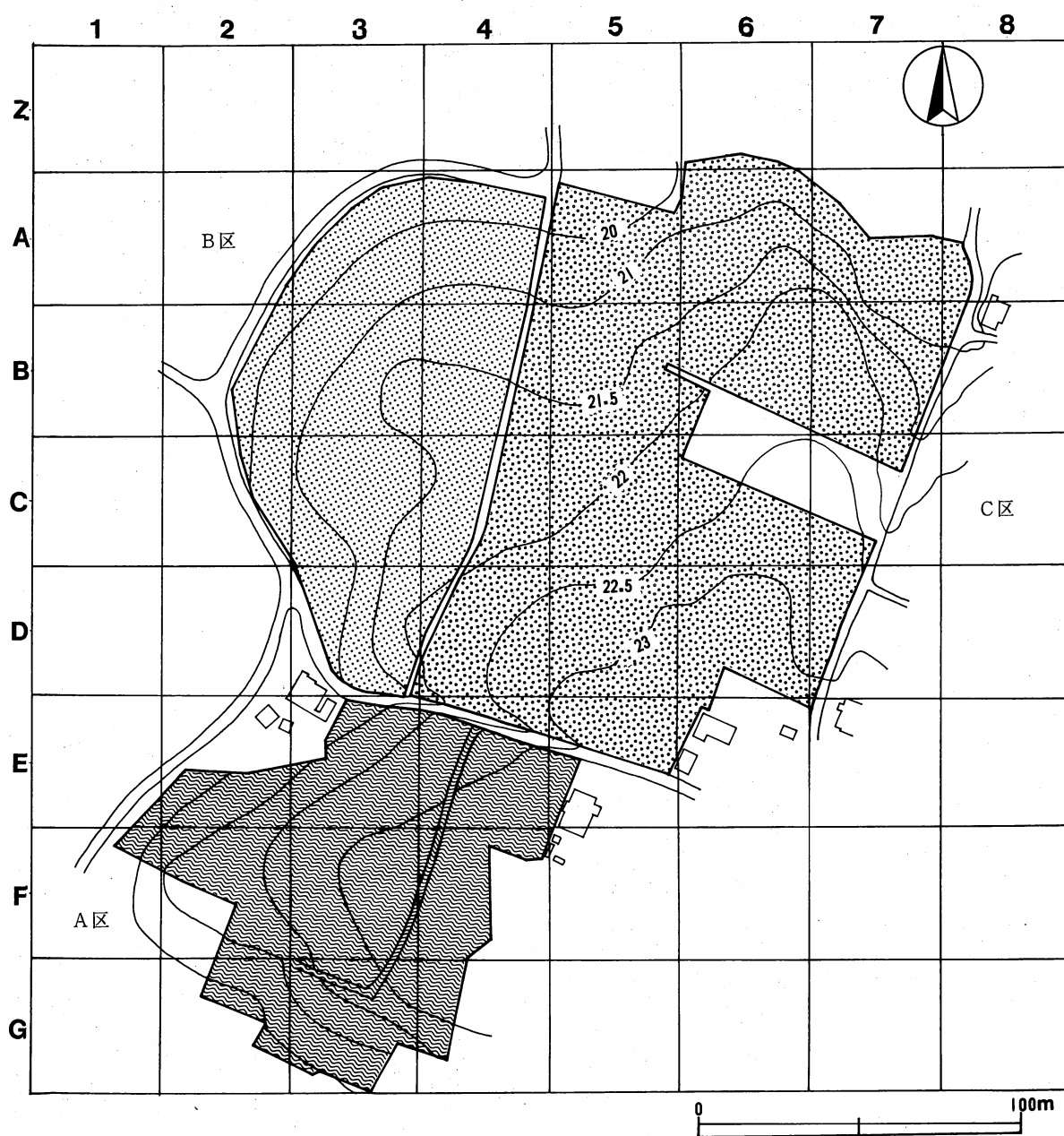


第2図 周辺遺跡位置図

第3章 神田遺跡

第1節 遺跡の概要

神田遺跡は、つくば市の中央部やや南、蓮沼川左岸の標高19.5～23.5mの台地上に位置している。調査区は、南北に約185m、東西に約120m、面積18,207㎡である。現況は畑地と平地林であり、畑地は主に芝畑と麦畑として利用されていた。調査区の南側を市道が通り、今回調査したC区は、平成7年度に調査した調査B区の東側にあたる。



第3図 神田遺跡調査区割図

今回の調査によって、竪穴住居跡62軒、井戸5基、大形竪穴状遺構1基、竪穴状遺構2基、土坑260基、溝8条、埋葬施設1基を確認した。このうち縄文時代の遺構は、調査区の北側で陥し穴1基が確認され、遺跡付近は狩猟の場として利用されていたと考えられる。古墳時代から平安時代の遺構は、竪穴住居跡62軒が確認され、ほとんどが竈を持って、調査区の東側に集中している。当時は多数の住居が繰り返し構築され、集落が形成されていたものとみられる。土坑は調査区の全域で中世以降のものが多く確認され、特に調査区北側の溝付近と調査区西側の長方形の土坑群は墓壇として使用されていたものと思われる。また、溝は覆土が薄く、出土遺物がほとんどないことから、性格や時期は不明である。

遺物は、遺物収納箱(60×40×20cm)に103箱出土している。遺物の大部分は奈良時代から平安時代にかけての土師器、須恵器である。中近世の墓壇に関する遺物は、和鏡(松樹千鳥鏡)、漆器鏡筒、短刀、煙管の吸い口等が出土している。その他の遺物としては、剝片、縄文土器片、石鏃、墨書土器、灰釉陶器、土玉、紡錘車、支脚、砥石、鉄鏃、刀子、鉄斧、土師質土器、陶磁器片等が出土している。

第2節 基本層序

調査区内にテストピットを設定し、深さ2.0mまで掘り下げ、第4図に示すような土層の堆積状況を確認した。

第1層は、26～41cmの厚さの耕作土層で、黒褐色をしている。

第2層は、17～47cmの厚さで、暗褐色をしたソフトローム層である。

第3層は、6～33cmの厚さで、ローム中・小ブロックを中量含む、黒褐色をした黒色帯である。

第4層は、6～26cmの厚さで、暗褐色をしたハードローム層である。

第5層は、8～20cmの厚さで、黒色スコリアを多量に含む、褐色をした粘土層である。

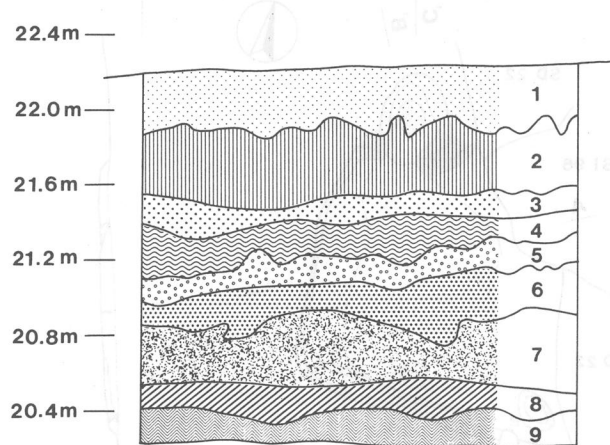
第6層は、10～38cmの厚さで、にぶい黄褐色をした粘土層である。

第7層は、16～43cmの厚さで、オリーブ黄色をした粘土層である。

第8層は、8～21cmの厚さで、砂混じりの明黄褐色をした粘土層である。

第9層は、9～20cmの厚さで、砂質を多量に含むにぶい黄褐色をした粘土層である。

住居跡などの遺構は、第2層上面で確認され、第2層から第3層にかけて掘り込まれている。



第4図 調査C区基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

当遺跡の竪穴住居跡は、古墳時代から平安時代に至るもので、重複や建て替えの住居跡も含み、62軒を検出した。以下、検出された竪穴住居跡の特徴や出土遺物について記載する。なお、遺構番号は平成7年度調査からの継続番号とした。

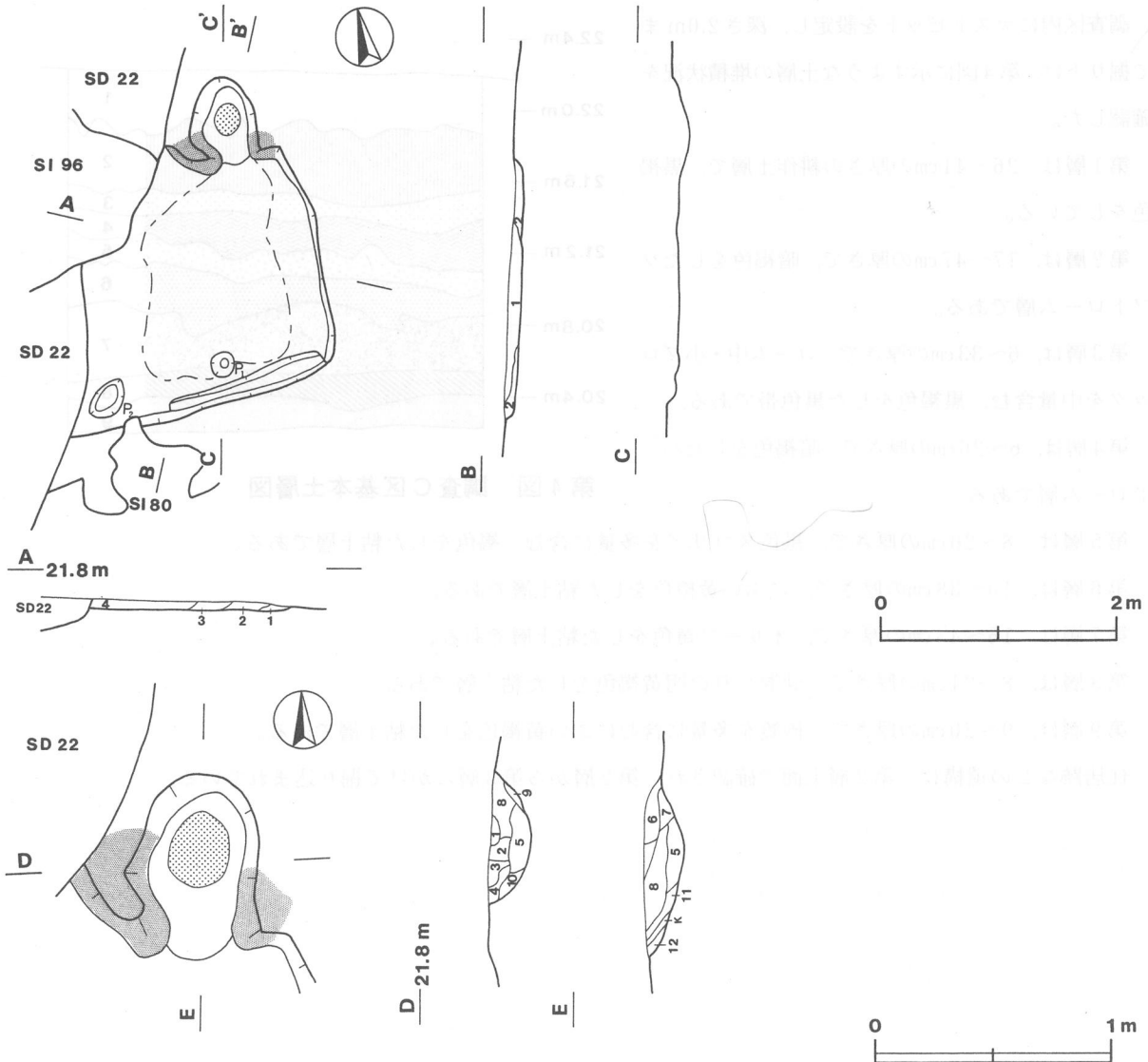
第78号住居跡 (第5図)

位置 調査区北東部, B7h7区。

重複関係 本跡は、第80・96号住居跡, 第22号溝と重複している。第80・96号住居跡, 第22号溝が本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸(2.37)m, 短軸2.25mの長方形と推定される。

主軸方向 N-0°



第5図 第78号住居跡実測図

壁 壁高は8～12cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁下の一部で確認した。上幅12～21cm、下幅5～13cm、深さ1～2cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、南壁付近から竈手前まで踏み固められている。

竈 北壁の北東コーナー部寄りに、砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。東側の袖部は、北東コーナー部を利用して、粘土で作られている。規模は、煙道部から焚口部まで78cm、最大幅91cm、壁外への掘り込みは55cmである。火床部は床面を11cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|---|--|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子微量 | 7 極暗褐色 砂中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 2 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、砂微量 | 8 極暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土中ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 9 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 4 極暗褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 10 暗赤褐色 焼土中ブロック中量、焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 5 極暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土大・中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 11 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土中・小ブロック少量、炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 6 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 12 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子微量 |

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₁は径22cmの円形、P₂は長径38cm、短径24cmの楕円形で、いずれも深さ3～6cmで、性格は不明である。

覆土 4層からなり、不自然な堆積の状況がみられることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量、砂少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子中量、焼土中ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片24点、須恵器片8点が出土している。覆土が浅かったことから、遺物が少なく、ほとんどが細片である。

所見 時期は、出土遺物と9世紀後葉の第96号住居跡との重複から、本跡は平安時代の9世紀後葉以前のものであると考えられる。

第79号住居跡 (第6図)

位置 調査区北東部、B7h₆区。

重複関係 本跡は、第80号住居跡、第22号溝と重複している。第80号住居跡、第22号溝が本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸2.85m、短軸(1.50)mで、方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は20cmほどで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁下と西壁下の一部で確認した。上幅[11～24]cm、下幅[3～10]cm、深さ[3～5]cmで、断面形はU字状と推定される。

床 平坦で、南壁付近から竈手前にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、東側袖部は第22号溝によって掘り込まれているが、西側袖部は残存している。規模は、煙道部から焚口部まで94cm、最大幅(85)cm、壁外への掘り込みは39cmである。火床部は床面を3cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、

あまり硬化していない。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 粘土粒子微量
- 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土大・中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土大・小ブロック・ローム粒子少量

ピット 1か所 (P₁)。P₁は長径80cm, 短径74cmの楕円形, 深さ38cmで, 性格は不明である。

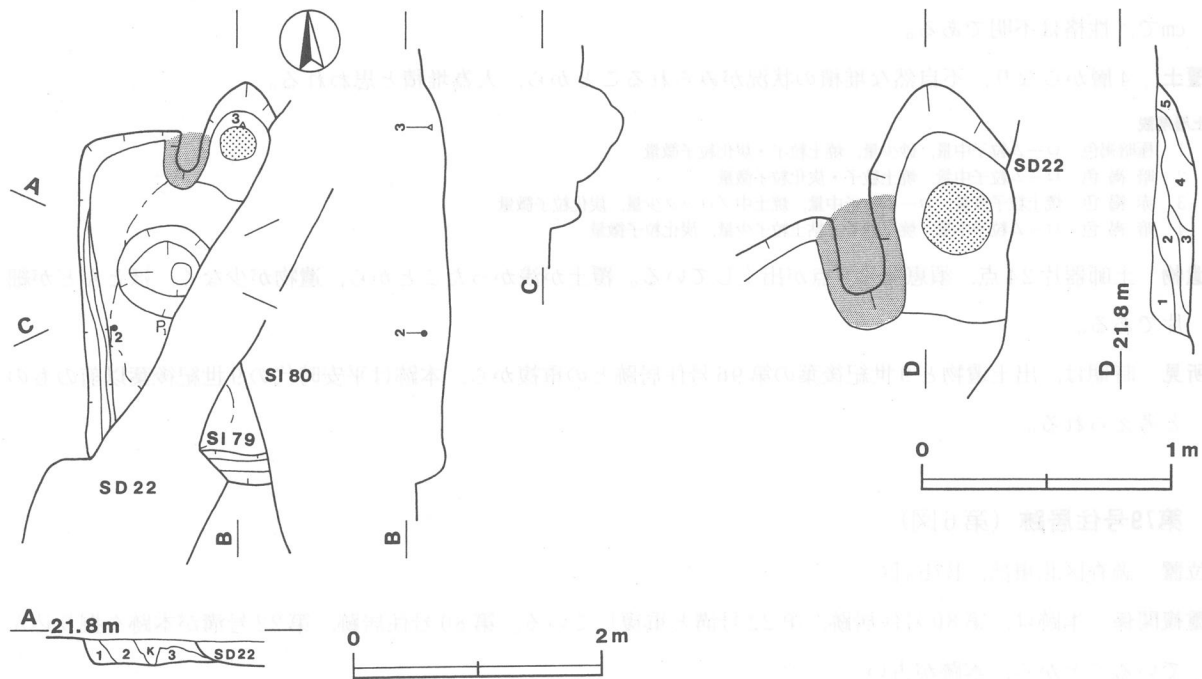
覆土 3層からなり, 不自然な堆積の状況がみられることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
- 2 灰褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・粘土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片166点, 須恵器片78点, 鎌1点, および混入した陶器片5点が出土している。1の土師器小形甕が覆土中から, 2の須恵器長頸瓶が西壁寄りの覆土中層から, 3の鎌が竈内からそれぞれ出土している。

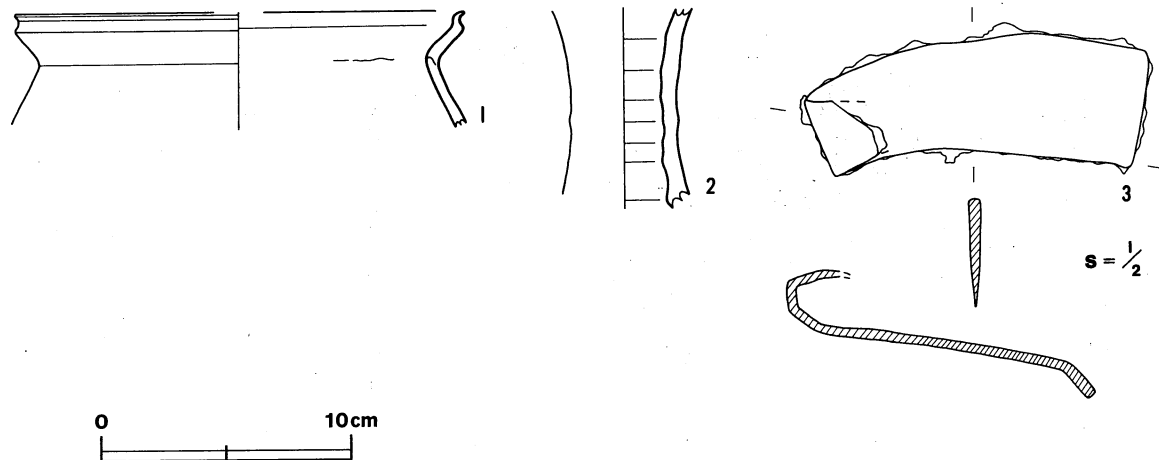
所見 時期は, 出土遺物と9世紀後葉の第80号住居跡との重複から, 本跡は9世紀後葉以前の平安時代前期と考えられる。



第6図 第79号住居跡実測図

第79号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第7図 1	小形甕 土師器	A [17.9] B (4.5)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 砂粒 橙色 普通	5% P5 覆土中
2	長頸瓶 須恵器	B (8.1)	頸部の破片。頸部はわずかに外反して立ち上がる。内面には強いロクロ目が残る。	頸部内・外面ロクロナデ。	長石 砂粒 緻密 黄灰色 良好	5% P7 覆土中層



第7図 第79号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第7図3	鉄 鎌	(9.6)	(3.4)	(0.3)	(37)	竈内	M1

第80号住居跡 (第8図)

位置 調査区北東部, B7h7区。

重複関係 本跡は, 第78・79号住居跡, 第22号溝と重複している。本跡は第22号溝に掘り込まれ, 第78・79号住居跡を掘り込んでいることから, 本跡は第22号溝より古く, 第78・79号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸3.95m, 短軸3.87mの方形である。

主軸方向 N-13°-W

壁 壁高は10~14cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 第22号溝に掘り込まれた北西コーナー部は確認できないが, ほぼ全周していると推定される。上幅 [10~37] cm, 下幅 [4~17] cm, 深さ [4~9] cmで, 断面形はU字状と推定される。

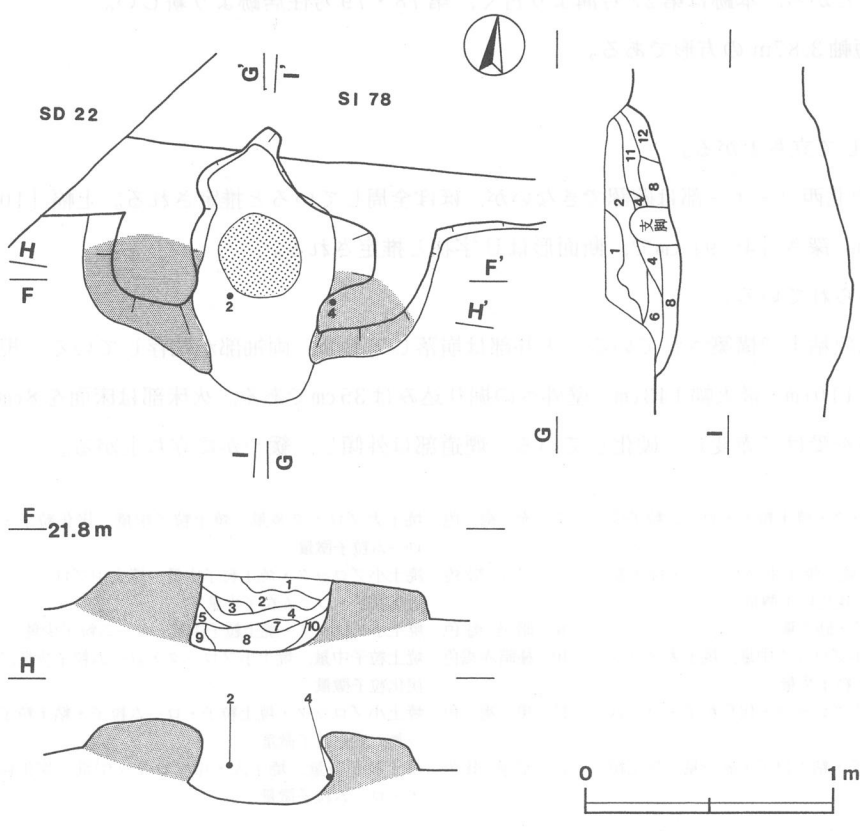
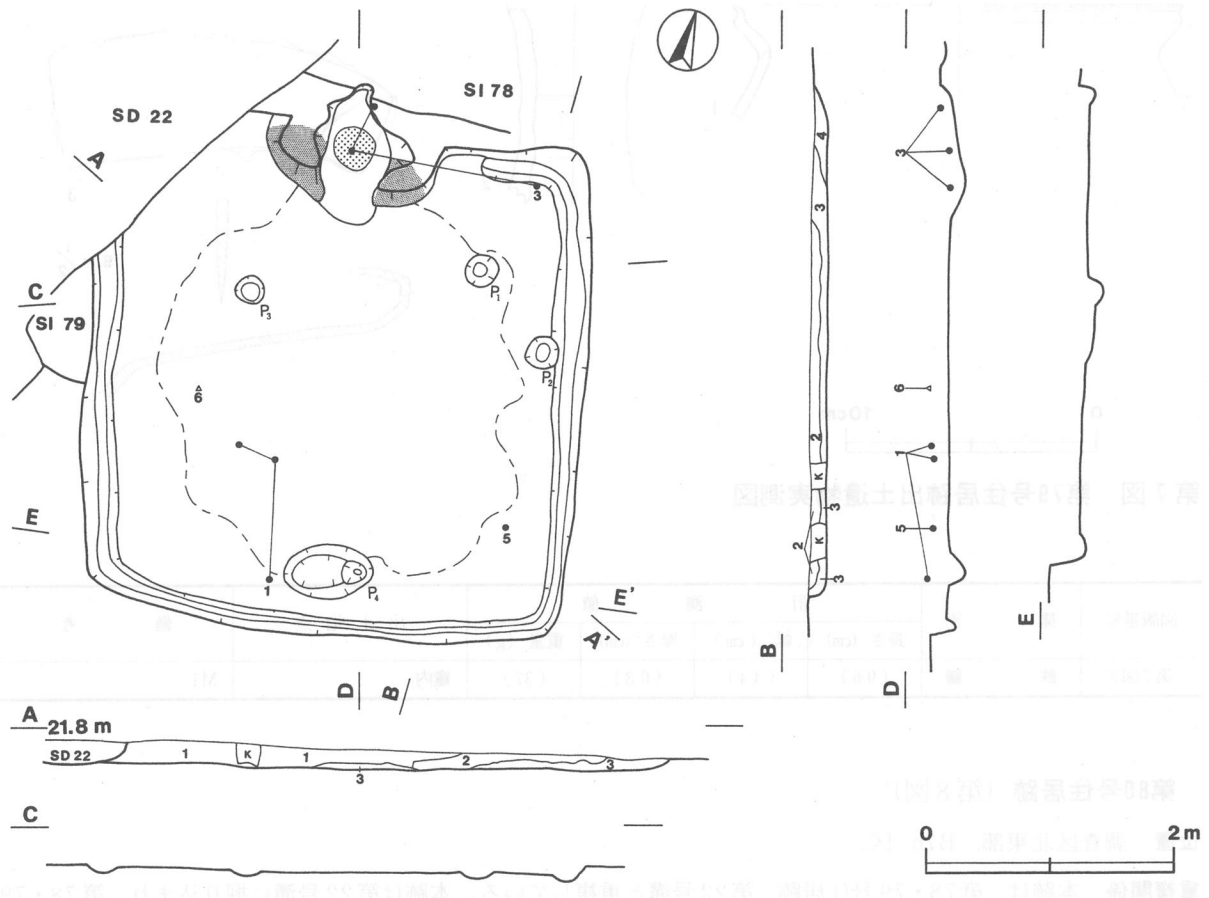
床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで110cm, 最大幅143cm, 壁外への掘り込みは35cmである。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。煙道部は外傾し, 緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|---|---|
| 1 暗褐色 砂中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 赤褐色 焼土大ブロック多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 粘土粒子多量, 砂中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・砂少量 | 9 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土大ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量 | 10 極暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 11 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂少量, 炭化粒子微量 | 12 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土大・中ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₄は長径73cm, 短径44cmの楕円形で, 深さ14cmの出入り口施設に伴うピットである。P₁~P₃は径25~28cmの円形で, いずれも深さは4~7cmで, 性格は不明である。



第 8 图 第 80 号住居跡実测图

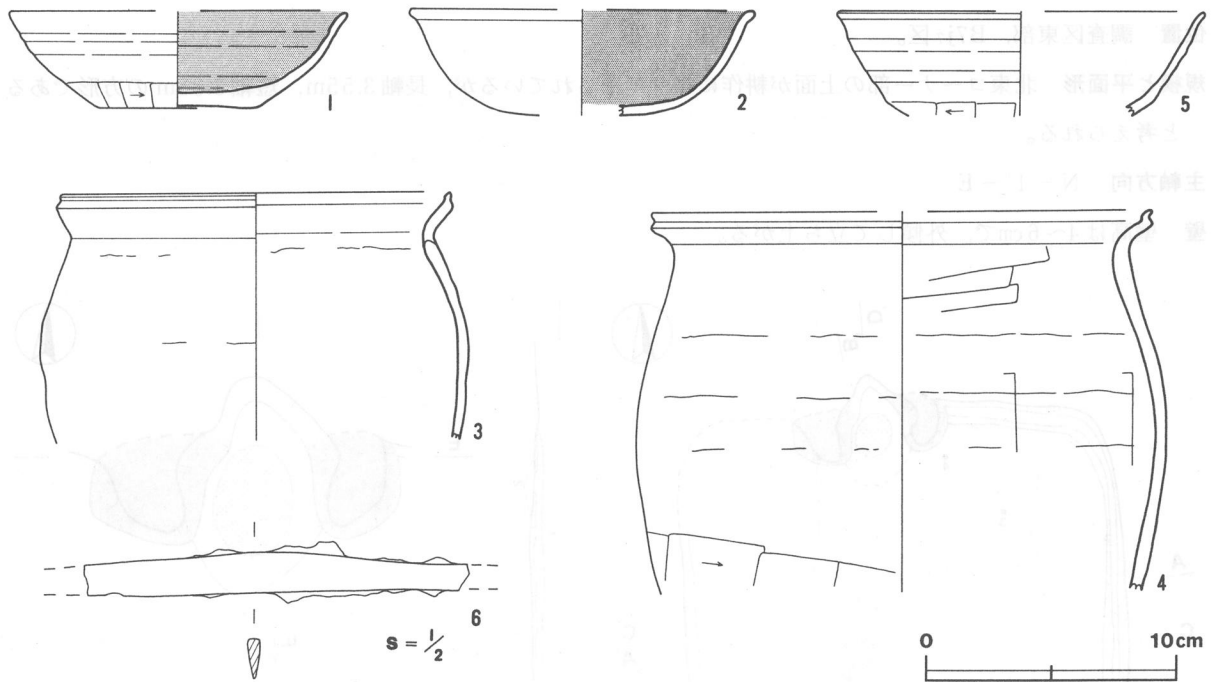
覆土 4層からなり、不自然な堆積の状況がみられることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|--|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量 |

遺物 土師器片 110点, 須恵器片 19点, 刀子1点, 角釘1点, 土製支脚1点が出土している。ほとんどの遺物が竈内と南壁寄りに集中している。1の土師器坏が南壁寄りの覆土中層から, 2の土師器坏, 4の土師器甕が竈内から, 3の土師器甕が竈内と竈東側の床面直上から, 5の須恵器坏が東壁寄りの覆土中層から, 6の刀子が西壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 竈袖部の中や袖部の脇から遺物が出土していることから, それらは竈の補強材として使用されていたと考えられる。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀後葉と考えられる。



第9図 第80号住居跡出土遺物実測図

第80号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第9図 1	坏 土師器	A [13.6] B 3.9 C 6.2	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部は磨滅のため不明。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	70% P8 内面黒色処理 覆土中層
2	坏 土師器	A [13.9] B (4.2) C [6.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	30% P9 内面黒色処理 竈内
3	甕 土師器	A 15.6 B (9.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	30% P11 二次焼成痕 竈内 床面直上

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第9図 4	甕 土師器	A [20.0] B (15.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部は外反し、 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中 位ヘラ削り。内面ヘラナデ。輪積み 痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	25% P12 竈内
5	坏 須恵器	A [14.6] B (4.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部はわずかに 外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	30% P10 覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
6	刀子	(10.3)	(1.1)	(0.3)	(11)	覆土中層	M2

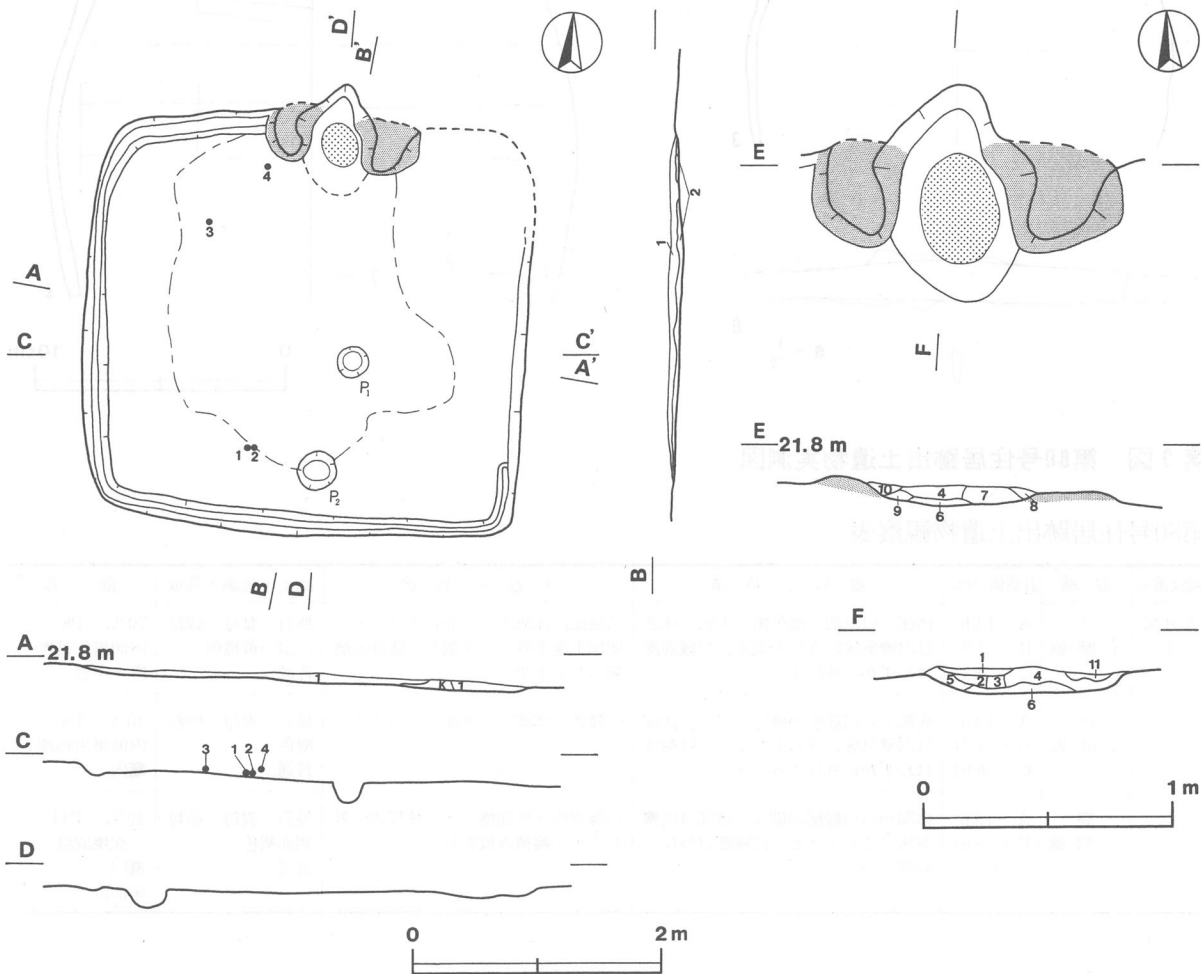
第81号住居跡 (第10図)

位置 調査区東部, B7j7区。

規模と平面形 北東コーナー部の上面が耕作により削平されているが, 長軸3.55m, 短軸3.38mの方形であると
考えられる。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は4~6cmで, 外傾して立ち上がる。



第10図 第81号住居跡実測図

壁溝 南東コーナー部から北壁下の西側にかけて半周している。上幅14~21cm, 下幅4~10cm, 深さ3~4cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、出入口口施設から竈手前にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで96cm, 最大幅125cm, 壁外への掘り込みは28cmである。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------------|---------|------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 9 極暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 5 極暗褐色 | 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム | 10 黒褐色 | 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| | | 11 極暗褐色 | 炭化粒子・ローム粒子微量 |

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₂は径32cmの円形で、深さ16cmの出入口口施設に伴うピットである。P₁は径26cmの円形、深さ16cmで、性格は不明である。

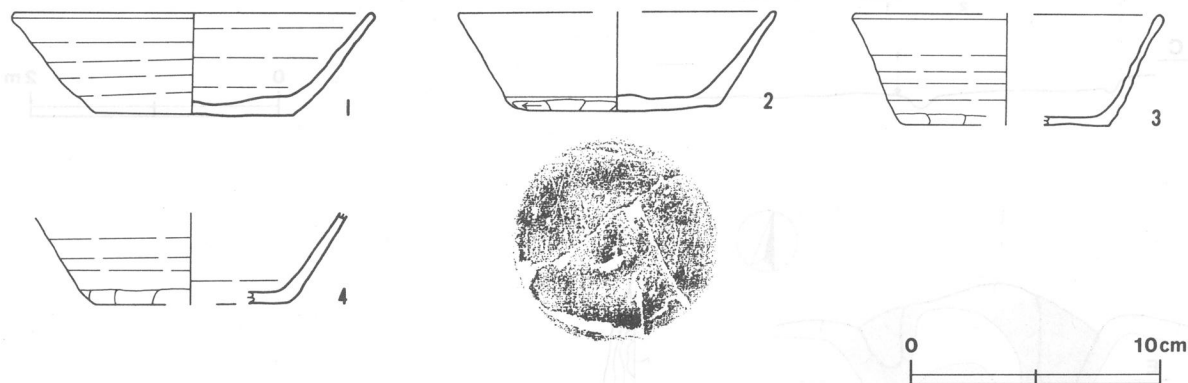
覆土 2層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|---|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック微量 | 2 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量 |
|-------|--|-------|---|

遺物 土師器片14点, 須恵器片15点が出土している。1, 2の須恵器坏が南壁寄りの覆土下層から, 3, 4の須恵器坏が竈手前西側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀後葉と考えられる。



第11図 第81号住居跡出土遺物実測図

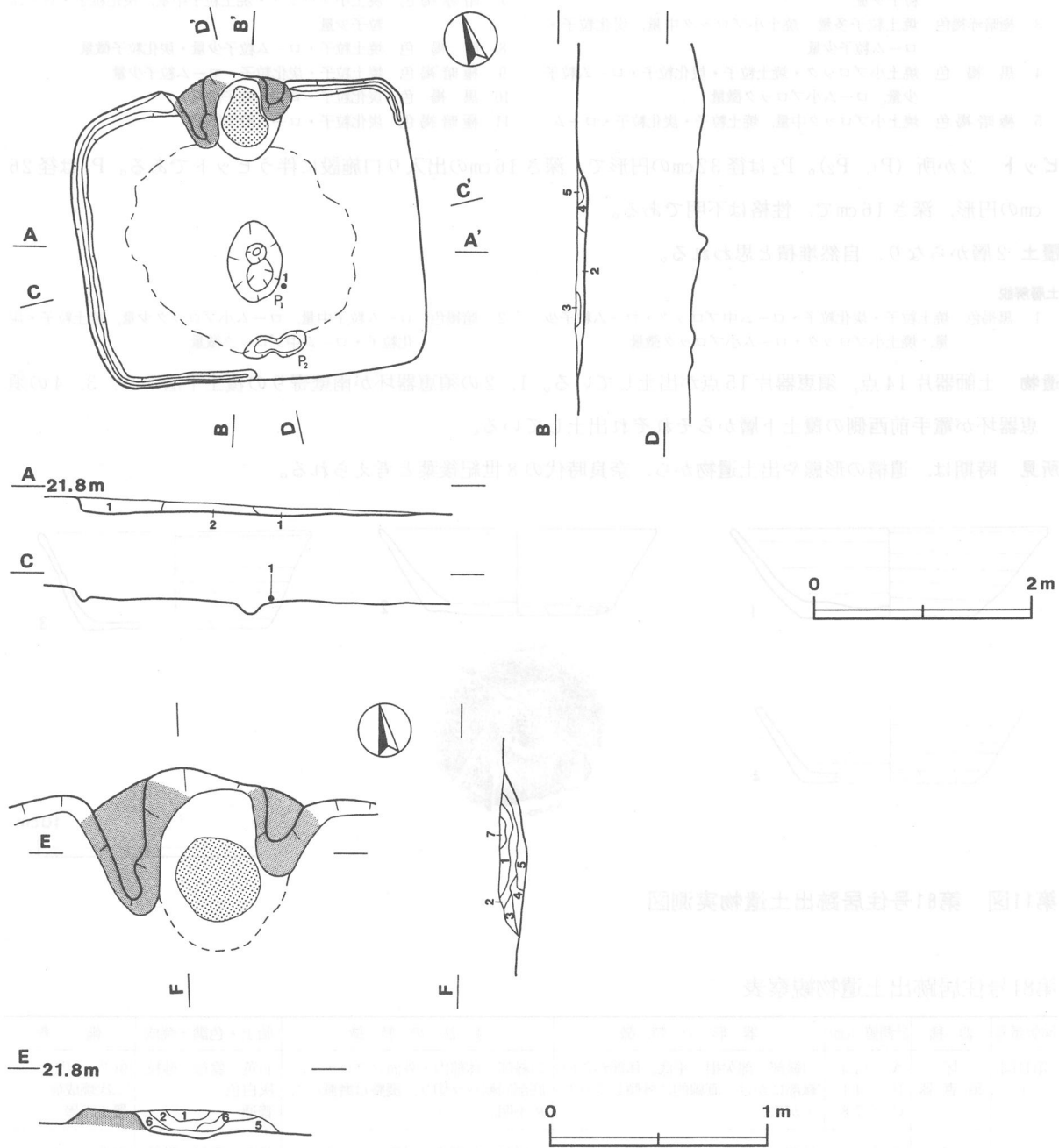
第81号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第11図 1	須恵器 坏	A 14.4	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り, 調整は磨滅のため不明。	石英 雲母 砂粒 灰白色 普通	90% P15 二次焼成痕 覆土下層
		B 4.1				
		C 7.8				
2	須恵器 坏	A [12.6]	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後, 手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	70% P16 覆土下層
		B 4.0				
		C 8.1				

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第11図 3	坏 須恵器	A [12.2] B 4.4 C [8.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	長石 砂粒 灰色 良好	25% P17 覆土下層
4	坏 須恵器	B (3.7) C [7.6]	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	25% P19 覆土下層

第82号住居跡 (第12図)

位置 調査区東部, C7a7区。



第12図 第82号住居跡実測図

規模と平面形 長軸 3.10m, 短軸 2.74m の長方形である。

主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は2~8cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁と南壁の一部を除いて, 半周している。上幅8~23cm, 下幅3~15cm, 深さ1~3cmで, 断面形はU字状である。

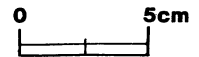
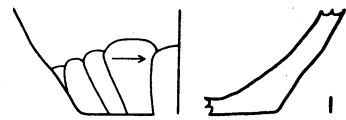
床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで84cm, 最大幅114cm, 壁外への掘り込みは14cmである。火床部は床面を7cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。煙道部は外傾し, 緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤灰色 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子中量, 炭化粒子・砂少量
- 3 におい赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・砂少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 4 赤褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₂は長径58cm, 短径9cmの不整楕円形で, 深さ8cmの出入り口施設に伴うピットである。P₁は長径74cm, 短径48cmの楕円形, 深さ9cmで, 性格は不明である。



覆土 5層からなり, 焼土ブロック・ロームブロックを含有し, 不自然な堆積の状況が見られることから, 人為堆積と思われる。

第13図 第82号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土中ブロック少量
- 5 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量

遺物 土師器片13点, 須恵器片2点が出土している。覆土が浅かったことから, 遺物が少なく, ほとんどが細片である。1の土師器甕が中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 遺物が少なく明確ではないが, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の前期と考えられる。

第82号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第13図 1	甕 土師器	B (4.2) C [7.4]	底部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 外面におい赤褐色 内面におい褐色 普通	5% P21 底部木葉痕 覆土下層

第83号住居跡 (第14図)

位置 調査区北東部, B7h5区。

重複関係 本跡は第587号土坑と重複している。第587号土坑が、本跡の竈付近を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.85m, 短軸3.82mの方形である。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は26~30cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北東コーナー部と、攪乱を受けている南壁の一部は確認できないが、ほぼ全周していると推定される。上幅[14~32]cm, 下幅[3~9]cm, 深さ[3~5]cmで、断面形はU字状と推定される。

床 平坦で、出入口施設から竈手前まで踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、第587号土坑に掘り込まれており、両袖部の一部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで130cm, 最大幅113cm, 壁外への掘り込みは53cmである。火床部は床面を6cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。

竈土層解説

1 暗赤褐色	焼土粒子中量, 焼土中ブロック・ローム粒子・砂少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量	12 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 粘土小ブロック微量
2 暗赤褐色	焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック微量	13 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
3 極暗赤褐色	ローム粒子・粘土小ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	14 暗赤褐色	焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	15 極暗赤褐色	焼土粒子多量, ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
5 黒褐色	焼土小ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量	16 暗赤褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
6 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量	17 黒褐色	焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土小ブロック少量
7 暗赤褐色	ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量・焼土粒子微量	18 黒褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
8 黒褐色	焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量	19 黒褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
9 暗赤褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子中量, 粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量	20 暗赤褐色	焼土小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
10 暗赤褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量	21 黒褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
11 黒褐色	焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・砂少量, 炭化粒子微量		

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は長径32~45cm, 短径26~39cmの楕円形で、深さ9~16cmの支柱穴である。P₅は長径42cm, 短径32cmの楕円形で、深さ23cmの出入口施設に伴うピットである。

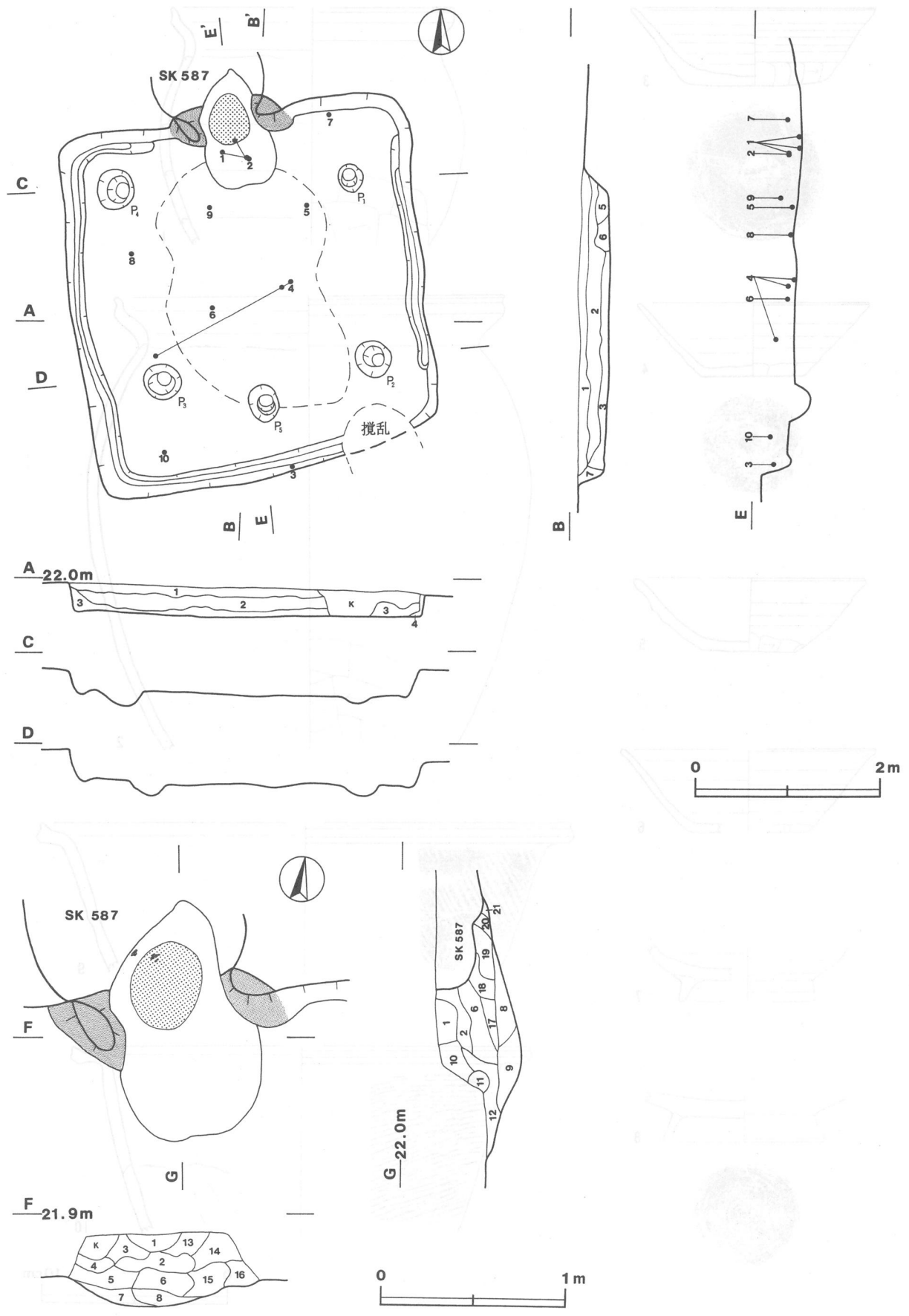
覆土 7層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

1 黒褐色	焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子微量	5 暗褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 粘土小ブロック微量
2 黒褐色	焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量	6 黒色	焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量	7 極暗褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
4 暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量		

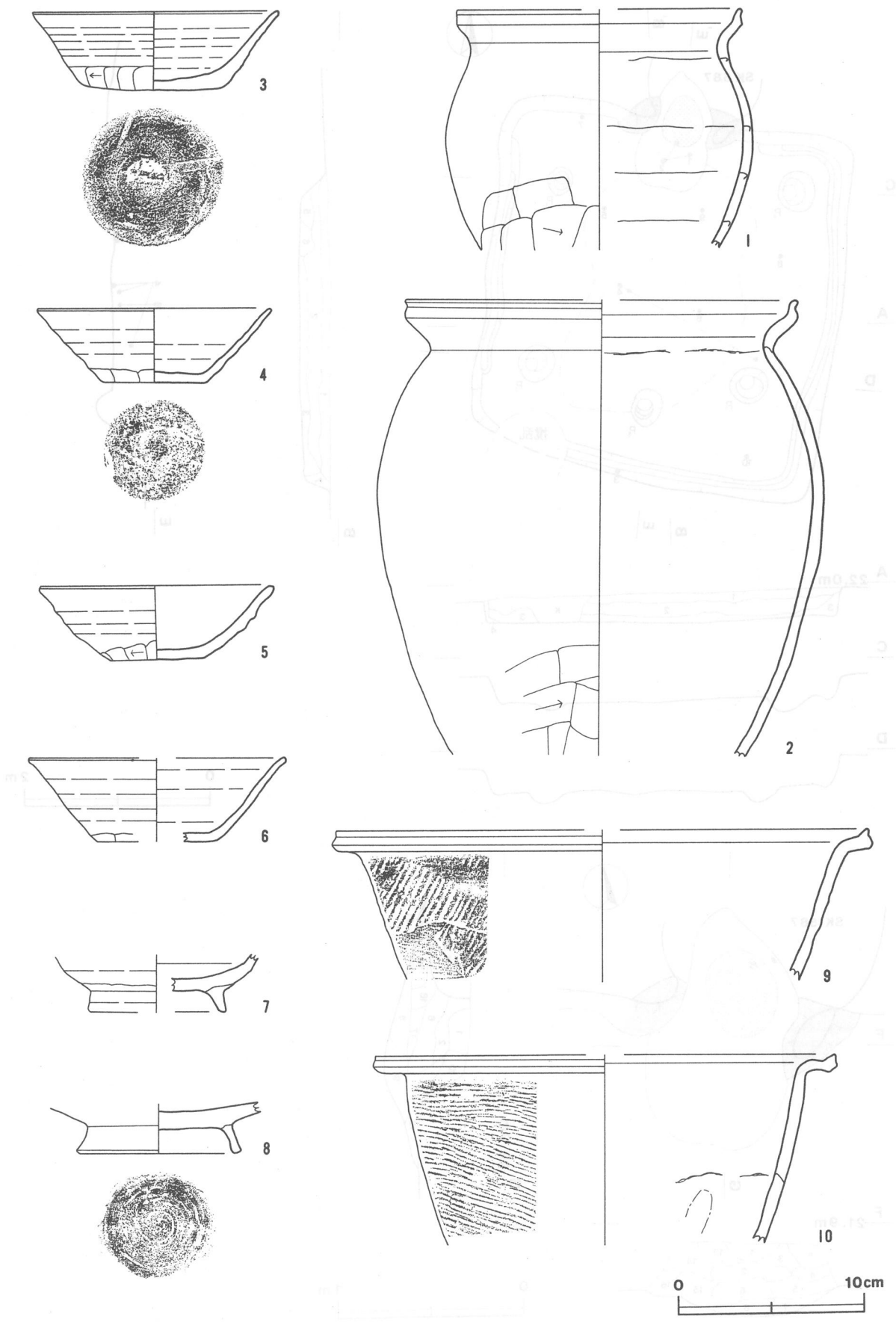
遺物 土師器片122点, 須恵器片302点が出土している。1の土師器小形甕, 2の土師器甕が竈内から, 3の須恵器坏が南壁寄りの覆土中層から, 4の須恵器坏が中央部の床面直上と西壁寄りの覆土中層から, 5の須恵器坏が中央部の覆土下層から, 6の須恵器坏が中央部の覆土中層から, 7の須恵器高台付坏が竈東側の覆土中層から, 8の須恵器高台付皿が西壁寄りの覆土下層から, 9の須恵器鉢が竈手前の覆土中層から, 10の須恵器鉢が南西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後葉と考えられる。



第14图 第83号住居迹实测图

图例 国家图书馆藏 出土文献与考古学 图例



第15图 第83号住居跡出土遺物実測図

第83号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第15図 1	小形甕 土師器	A [15.4] B (12.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部は外反し、 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下 位ヘラ削り。内面ナデ。輪積み痕有 り。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	25% P29 二次焼成痕 竈内
2	甕 土師器	A [21.1] B (24.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部は外反し、 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下 位ヘラ削り。内面ヘラナデ。輪積み 痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	20% P30 竈内 覆土中層
3	坏 須恵器	A 13.2 B 4.3 C 7.6	口縁部一部欠損。平底。体部から口 縁部にかけて、直線的に外傾して立ち 上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部回転 ヘラ切り後、ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	90% P22 覆土中層
4	坏 須恵器	A 12.5 B 4.0 C 4.5	体部、口縁部一部欠損。平底。体部 から口縁部にかけて、直線的に外傾し て立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部回転 ヘラ切り後、ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	90% P23 床面直上 覆土中層
5	坏 須恵器	A 12.5 B 4.2 C 5.0	底部から口縁部の破片。平底。体部 は内彎気味に立ち上がる。外面には 強いロクロ目が残る。口縁部はわず かに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部ナデ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	40% P24 覆土下層
6	坏 須恵器	A [13.8] B 4.5 C [6.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部 は直線的に外傾して立ち上がる。口 縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部手持 ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	20% P25 覆土中層
7	高台付坏 須恵器	B (3.1) D [7.3] E 1.2	高台部から体部の破片。高台部はハ の字状に開く。平底。体部は内彎気 味に立ち上がる。	底部回転ヘラ削り。高台部張り付け、 ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	20% P26 覆土中層
8	高台付皿 須恵器	B (2.7) D 8.8 E 1.5	高台部から体部の破片。高台部はハ の字状に開く。平底。	底部回転ヘラ削り。高台部張り付け、 ロクロナデ。体部断面全周に削り痕 有り。	長石 石英 雲母 砂粒 内面にぶい褐色 外面黒色 普通	20% P28 覆土下層
9	鉢 須恵器	A [28.8] B (8.1)	体部から口縁部の破片。体部は直線 的に外傾して立ち上がる。口縁部は 強く外反し、端部はつまみ上げられ ている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外 面平行叩き。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	5% P31 覆土中層
10	鉢 須恵器	A [24.8] B (10.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部は強く外 反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外 面平行叩き。内面ナデ、輪積み痕有 り。	雲母 砂粒 灰黄色 普通	5% P32 覆土上層

第84号住居跡 (第16図)

位置 調査区北東部, B7e4区。

重複関係 本跡は第1号埋葬施設と重複している。第1号埋葬施設が、本跡の竈の東側袖部の一部を掘り込んで
いることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.50m, 短軸3.42mの方形である。

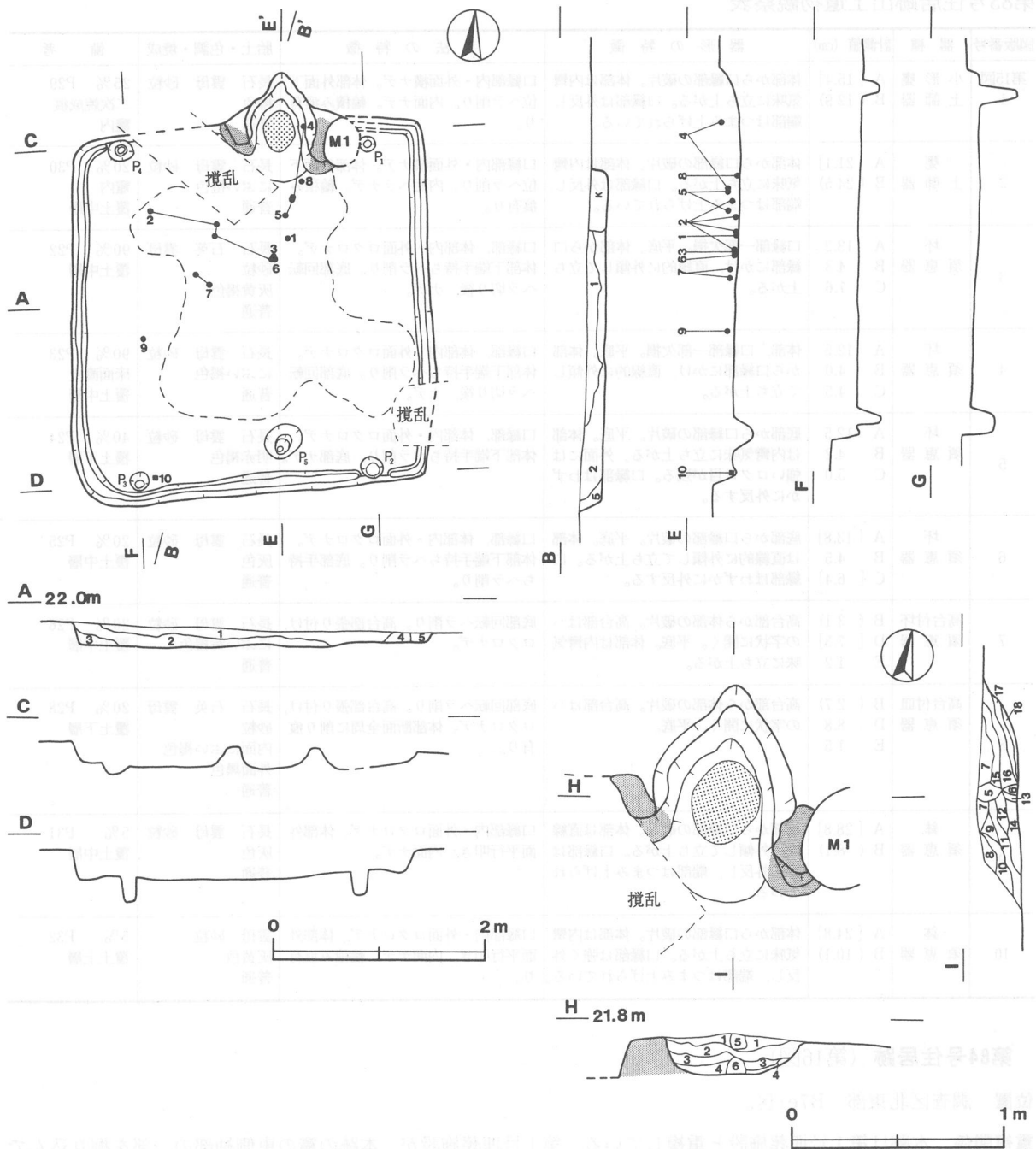
主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は19~20cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 攪乱を受けている北壁と東壁の一部は確認できないが、ほぼ全周していると推定される。上幅 [13~22]
cm, 下幅 [3~11] cm, 深さ [3~5] cmで、断面形はU字状と推定される。

床 平坦で、出入口施設から竈手前まで踏み固められている。

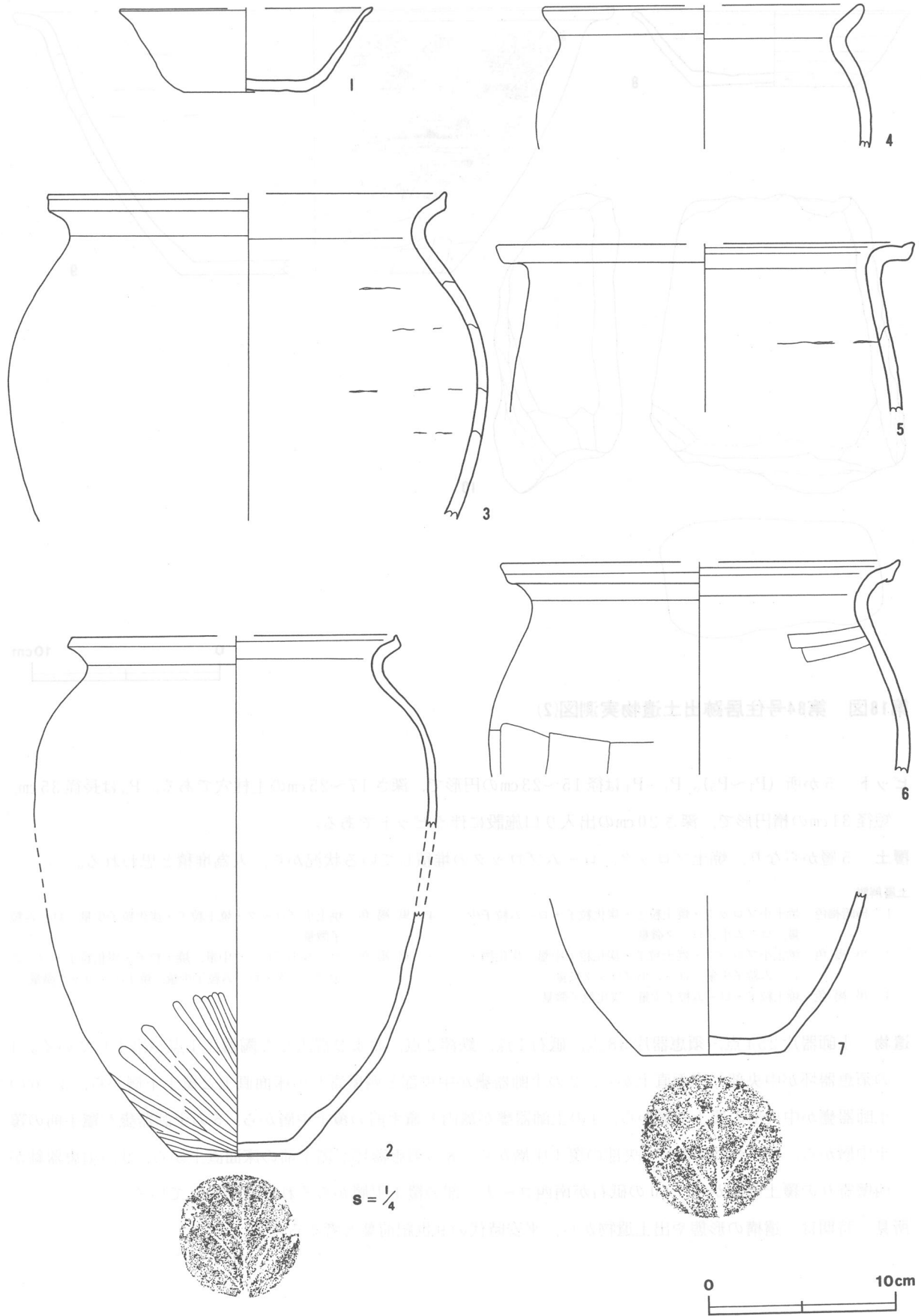
竈 北壁のやや東寄りに、砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存し
ている。規模は、煙道部から焚口部まで133cm, 最大幅(98)cm, 壁外への掘り込みは51cmである。火床部
は床面を3cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。



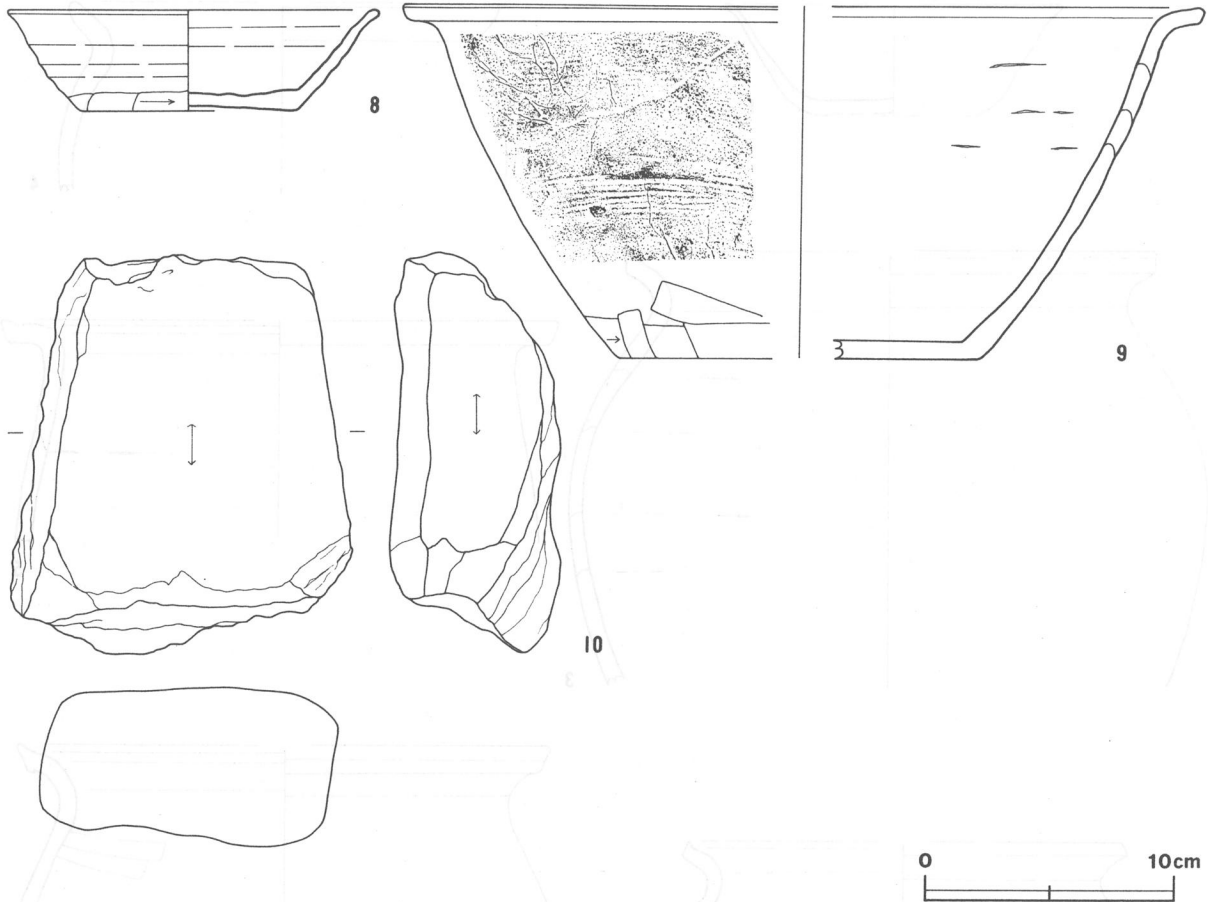
第16図 第84号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---|----------|---|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子・焼土小ブロック多量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 12 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 13 極暗赤褐色 | 焼土粒子・焼土小ブロック多量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 | 14 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 15 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 灰褐色 | 粘土大ブロック多量 | 16 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 | 17 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 8 灰褐色 | 粘土小ブロック中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量・焼土粒子微量 | 18 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 10 暗褐色 | 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第17図 第84号住居跡出土遺物実測図(1)



第18図 第84号住居跡出土遺物実測図(2)

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径15~23cmの円形で、深さ17~25cmの支柱穴である。P₅は長径35cm、短径31cmの楕円形で、深さ20cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 5層からなり、焼土ブロック、ロームブロックの堆積している状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|--|---|
| 1 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 4 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量、炭化物・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 5 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | |

遺物 土師器片254点、須恵器片38点、砥石1点、鉄滓2点、および混入した陶器片1点が出土している。1の須恵器坏が中央部の床面直上から、2の土師器甕が中央部と西壁寄りの床面直上と覆土下層から、3、6の土師器甕が中央部の覆土下層から、4の土師器甕が竈内と竈手前の覆土中層から、5の土師器甕が竈手前の覆土中層から、7の土師器甕が中央部の覆土中層から、8の須恵器坏が竈手前の床面直上から、9の須恵器鉢が西壁寄りの覆土中層から、10の砥石が南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀前葉と考えられる。

第84号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第17図 1	坏 須恵器	A [13.4] B 4.5 C 6.4	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、雑なナデ。	長石 雲母 砂粒 赤色 普通	40% P35 二次焼成痕 床面直上
2	甕 土師器	A [23.4] B (31.2) C 8.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ磨き。内面横ナデ。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	45% P38 床面直上 覆土下層 底部木葉痕
3	甕 土師器	A [21.4] B (17.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面に輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 スコリア 明褐色 普通	20% P39 覆土下層
4	甕 土師器	A [17.3] B (7.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	10% P40 竈内 覆土中層
5	甕 土師器	A [22.4] B (9.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面に輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 明褐色 普通	10% P41 覆土中層
6	甕 土師器	A [21.4] B (11.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい赤褐色 普通	10% P42 覆土下層
7	甕 土師器	B (8.5) C 7.7	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	30% P46 底部木葉痕 覆土中層
第18図 8	坏 須恵器	A 14.8 B 4.1 C 8.7	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方方向の手持ちヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰色 普通	90% P34 床面直上
9	鉢 須恵器	A [41.6] B 19.0 C [18.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 灰オリーブ色 普通	30% P37 覆土中層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
10	砥石	(16.1)	(13.7)	(6.9)	(2160)	砂岩	覆土下層	Q1

第85号住居跡 (第19図)

位置 調査区北部, B7a2区。

規模と平面形 長軸2.90m, 短軸2.50mの長方形である。

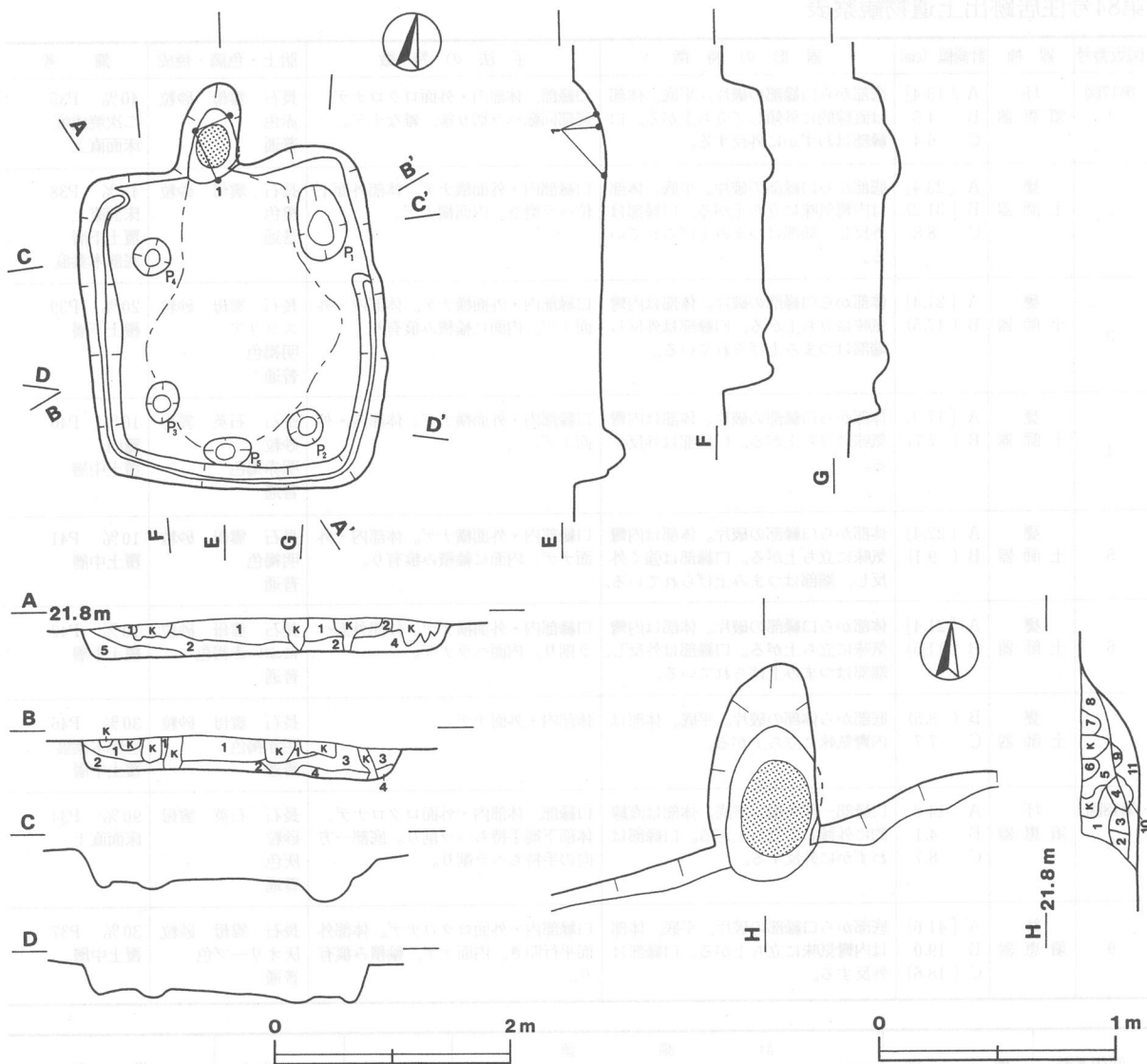
主軸方向 N-11°-W

壁 壁高は22~28cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

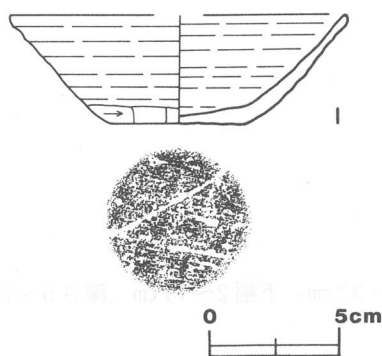
壁溝 東壁下の中央から南壁下を経て、西壁下まで半周している。上幅19~32cm, 下幅2~11cm, 深さ5~7cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、出入口施設から竈手前まで踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており残存していない。壁を外側へ掘り込んでいるため、袖部は特に作られていない。規模は、煙道部から焚口部まで91cm, 最大幅47cm, 壁外への掘り込みは72cmである。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。



第19図 第85号住居跡実測図



第20図 第85号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 極暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子多量, 粘土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・砂少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子・砂多量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子・砂少量, 炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・砂微量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 9 極暗赤褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子少量
- 10 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量
- 11 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁, P₃は長径37~65cm, 短径26~42cmの楕円形, P₂, P₄は径32~33cmの円形で, いずれも深さ7~16cmの主柱穴である。P₅は長径40cm, 短径24cmの楕円形で, 深さ20cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 5層からなり, 不自然な堆積の状況がみられることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・粘土粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量・ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片 27点, 須恵器片 21点が出土している。1の須恵器坏が竈内から出土している。

所見 時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀後葉と考えられる。

第85号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 1	坏 須恵器	A [13.5] B 4.3 C 5.6	体部, 口縁部一部欠損。体部から口縁部にかけて, 直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 暗灰黄色 普通	50% P48 竈内

第86号住居跡 (第21図)

位置 調査区北部, B6b₀区。

規模と平面形 長軸 4.90m, 短軸 4.62m の方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は 42~46cm で, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅 16~46cm, 下幅 7~16cm, 深さ 4~8cm で, 断面形は U 字状である。

床 平坦で, 出入口施設から竈手前まで踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで 126cm, 最大幅 142cm, 壁外への掘り込みは 38cm である。火床部は床面を 9cm ほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。煙道部は外傾し, 急に立ち上がる。

竈土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子・粘土粒子中量, ローム粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子多量, 焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量, ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土小ブロック微量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 7 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 炭化粒子中量, ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 8 暗褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 9 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 粘土小ブロック微量
- 10 黒褐色 焼土粒子多量, ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 11 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土中・小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 12 黒褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量

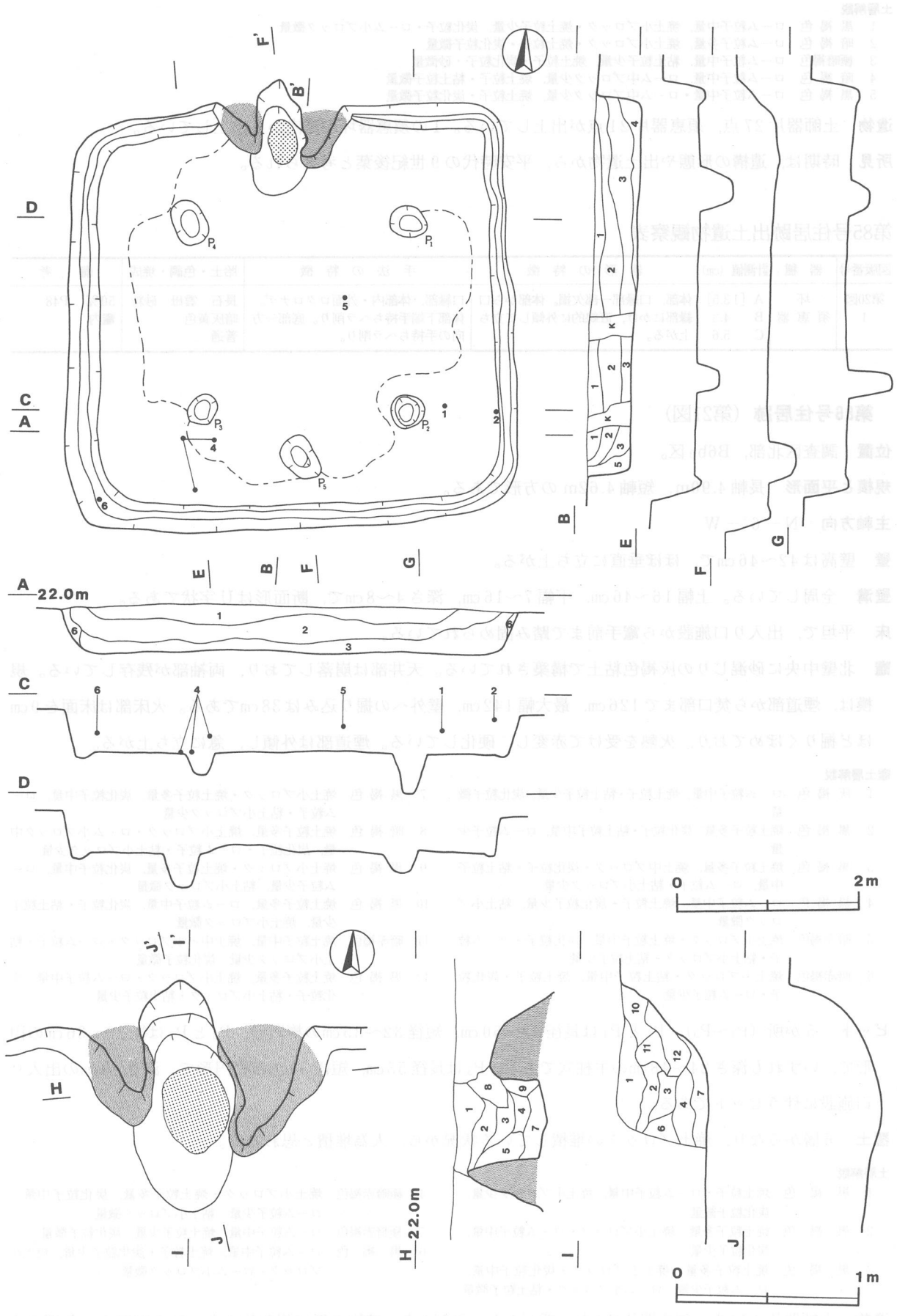
ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁とP₄は長径 42~50cm, 短径 32~35cm の楕円形, P₂とP₃は径 32~36cm の円形で, いずれも深さ 24~48cm の支柱穴である。P₅は長径 53cm, 短径 33cm の楕円形で, 深さ 30cm の出入口施設に伴うピットである。

覆土 6層からなり, 焼土ブロックの堆積している状況から, 人為堆積と思われる。

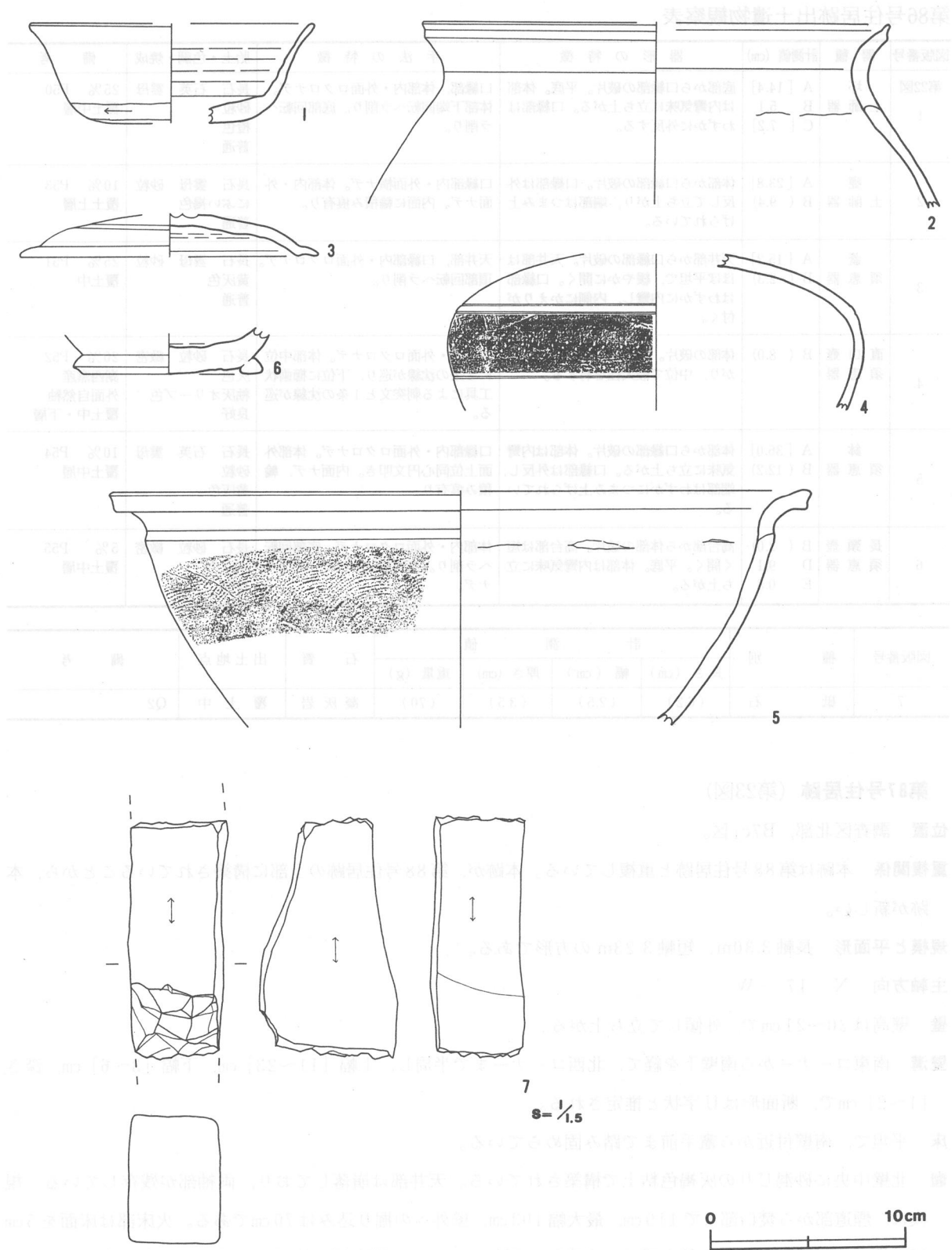
土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 4 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 粘土小ブロック微量
- 5 極暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片 433点, 須恵器片 93点, 砥石 1点, 角釘 1点, 植物の種子炭化物 1点, および混入した縄文土器片 1点, 陶器片 2点出土している。ほとんどの遺物が南壁寄りに集中し, 1の土師器坏, 6の須恵器長頸



第21図 第86号住居跡実測図



第22図 第86号住居跡出土遺物実測図

壺が覆土中層から、2の土師器甕が覆土上層から、4の須恵器直口壺（湖西窯産）が覆土中層と下層から、3の須恵器蓋が覆土中からそれぞれ出土している。また、5の須恵器鉢が中央部の覆土中層から出土している。
 所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀前葉と考えられる。

第86号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 1	坏土師器	A [14.4] B 5.1 C [7.2]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 橙色 普通	25% P50 覆土中層
2	甕土師器	A [23.8] B (9.4)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面に輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	10% P53 覆土上層
3	蓋須恵器	A [15.2] B (2.3)	天井部から口縁部の破片。天井部はほぼ平坦で、緩やかに開く。口縁部はわずかに内彎し、内側にかえりが付く。	天井部、口縁部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	25% P51 覆土中
4	直口壺須恵器	B (8.0)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、中位で最大径を有する。	体部内・外面ロクロナデ。体部中に2条の沈線が巡り、下位に櫛歯状工具による刺突文と1条の沈線が巡る。	長石 砂粒 緻密 灰色 釉灰オリーブ色 良好	20% P52 湖西窯産 外面自然釉 覆土中・下層
5	鉢須恵器	A [36.0] B (12.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面上位同心円文叩き。内面ナデ、輪積み痕有り。	長石 石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	10% P54 覆土中層
6	長頸壺須恵器	B (2.0) D 9.1 E 0.8	高台部から体部の破片。高台部は短く開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 砂粒 緻密 灰白色 普通	5% P55 覆土中層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
7	砥石	(6.2)	(2.5)	(3.5)	(70)	凝灰岩	覆土中	Q2

第87号住居跡 (第23図)

位置 調査区北部, B7c1区。

重複関係 本跡は第88号住居跡と重複している。本跡が、第88号住居跡の上部に構築されていることから、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.30m, 短軸3.23mの方形である。

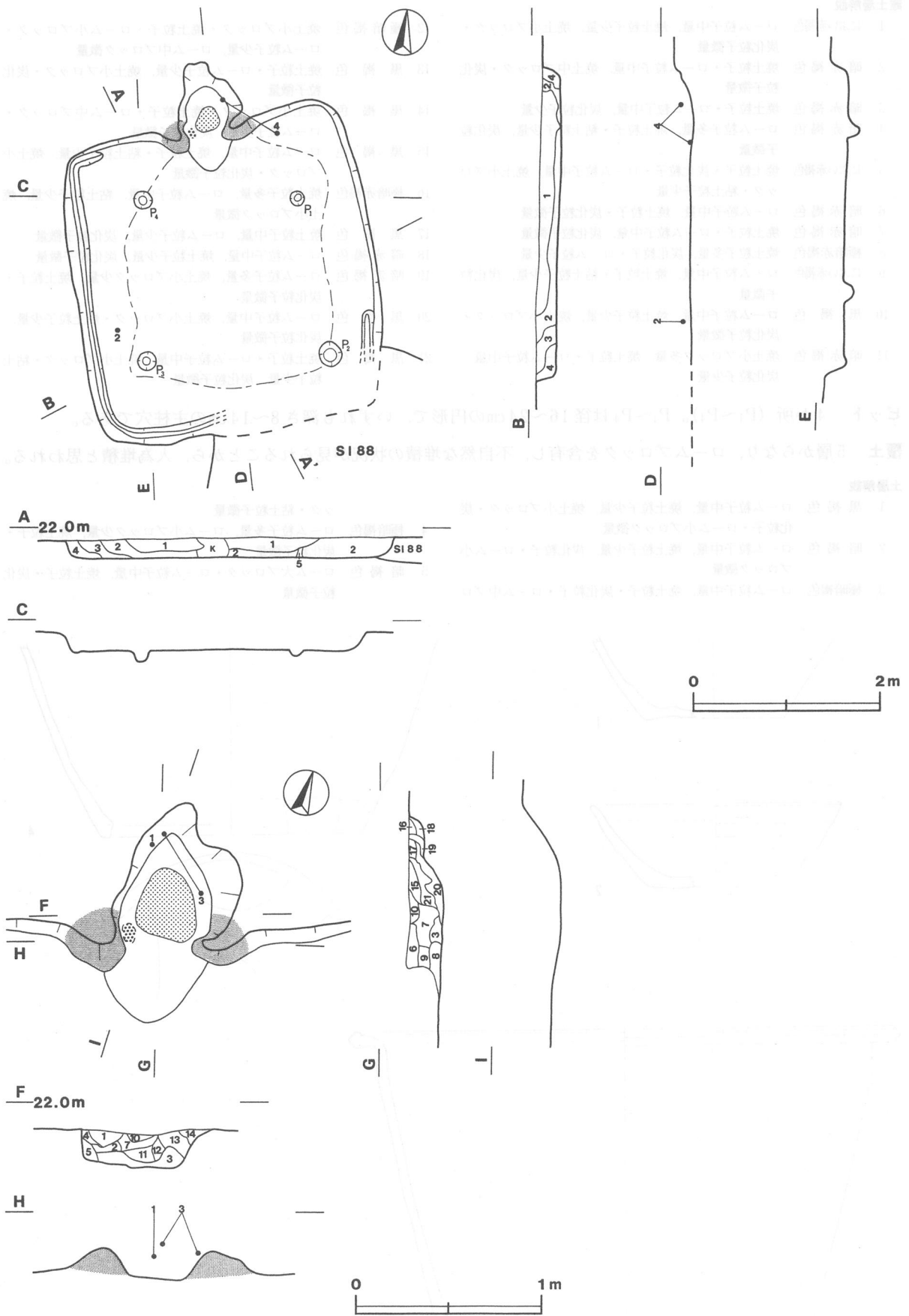
主軸方向 N-17°-W

壁 壁高は20~21cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南東コーナーから南壁下を経て、北西コーナーまで半周し、上幅 [11~23] cm, 下幅 [3~6] cm, 深さ [1~2] cmで、断面形はU字状と推定される。

床 平坦で、南壁付近から竈手前まで踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで119cm, 最大幅103cm, 壁外への掘り込みは70cmである。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。



第23图 第87号住居跡実測图

图例 实测图 出土物 位置 1-21 图例

竈土層解説

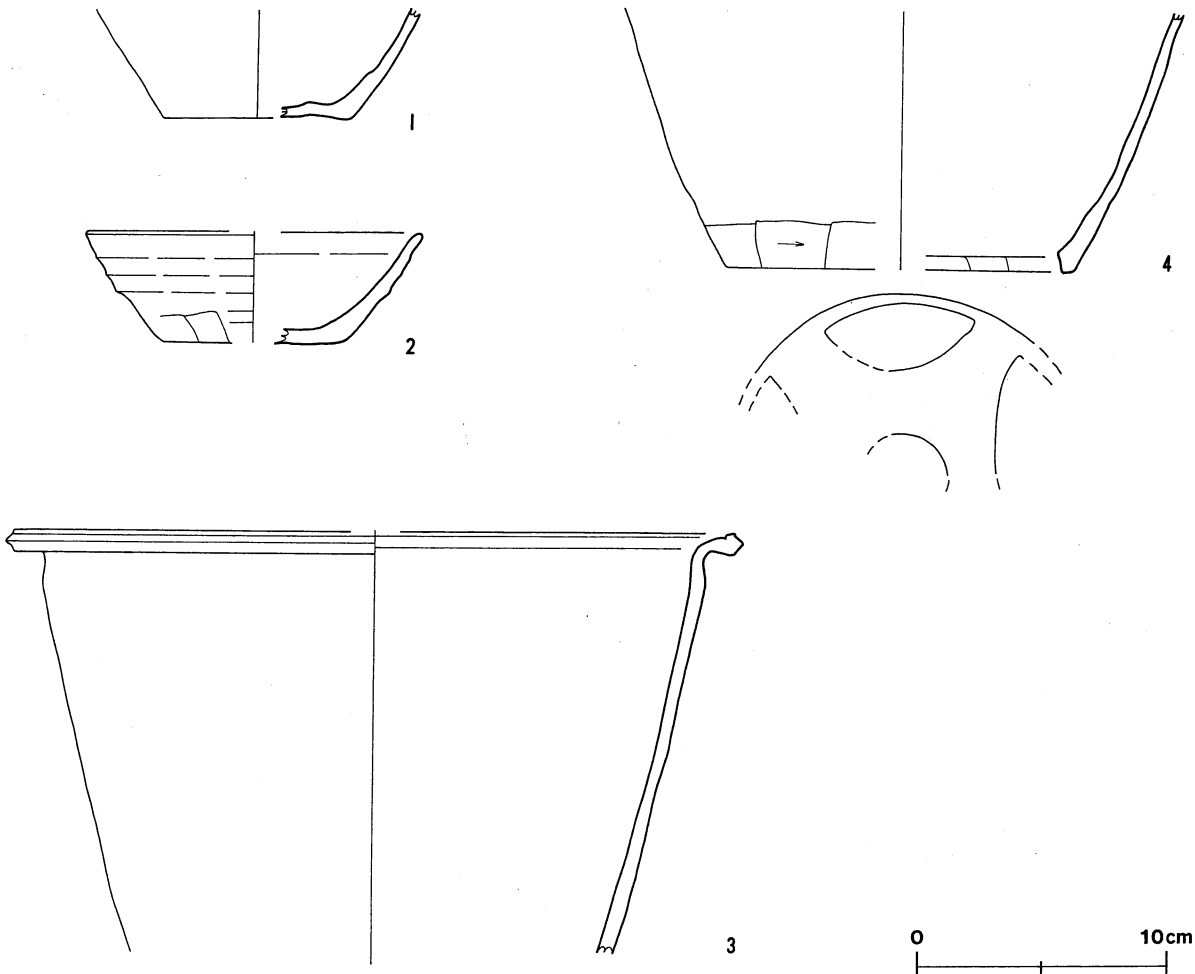
- | | | | |
|----------|-----------------------------------|----------|---|
| 1 にぶい赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 12 極暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 14 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量 | 16 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 6 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 黒褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 18 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 8 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子・ローム粒子少量 | 19 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 にぶい赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 20 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 21 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 11 暗赤褐色 | 焼土小ブロック多量, 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | | |

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₄は径16~24cmの円形で、いずれも深さ8~14cmの支柱穴である。

覆土 5層からなり、ロームブロックを含有し、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|--|--------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・粘土粒子微量 | | |



第24図 第87号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片119点, 須恵器片51点, 支脚1点が出土している。1の土師器甕, 3の須恵器鉢が竈内から, 2の須恵器坏が西壁寄りの覆土中層から, 4の須恵器甌が竈東側の床面直上と竈内からそれぞれ出土している。
所見 4の須恵器甌は, 第88号住居跡の竈西側の覆土中層出土遺物と接合関係にある。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀中葉と考えられる。

第87号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第24図 1	甕 土師器	B (4.3) C 7.5	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	長石 砂粒 にぶい褐色 普通	5% P60 二次焼成痕 竈内
2	坏 須恵器	A [13.5] B 4.5 C [7.2]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて, 直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部手持ちへら削り。	長石 雲母 砂粒 灰褐色 普通	20% P56 覆土中層
3	鉢 須恵器	A [29.6] B (17.1)	体部から口縁部の破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は強く外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	10% P57 内面煤付着 竈内
4	甌 須恵器	B (10.4) C [14.0]	底部から体部の破片。多孔式。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面平行叩き, 下位へら削り。内面ナデ, 下端へら削り。	長石 石英 雲母 砂粒 明褐色 普通	10% P61 二次焼成痕 床面直上 竈内

第88号住居跡 (第25図)

位置 調査区北部, B7d₁区。

重複関係 本跡は第87号住居跡と重複している。第87号住居跡が, 本跡の上部に構築されていることから, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.30m, 短軸4.24mの方形である。

主軸方向 N-1°-W

壁 壁高は28~30cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅6~28cm, 下幅2~14cm, 深さ4~6cmで, 断面形はU字状である。

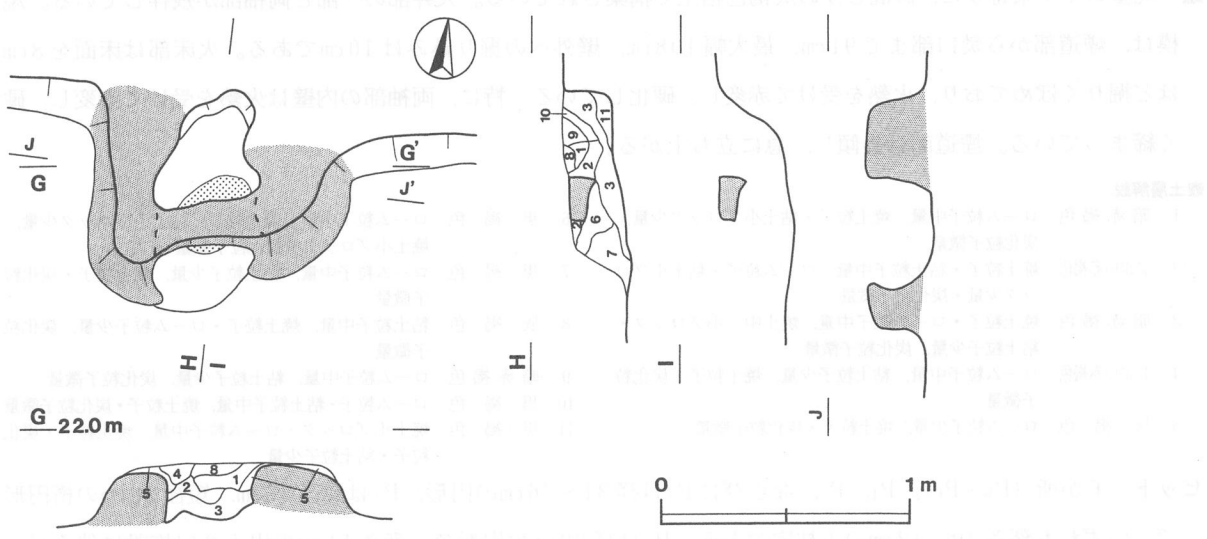
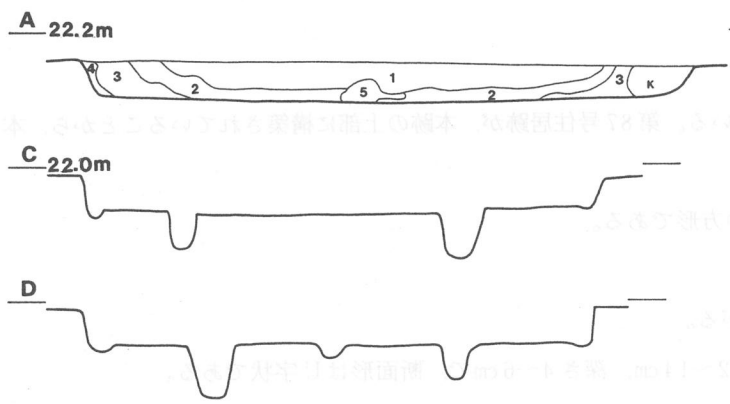
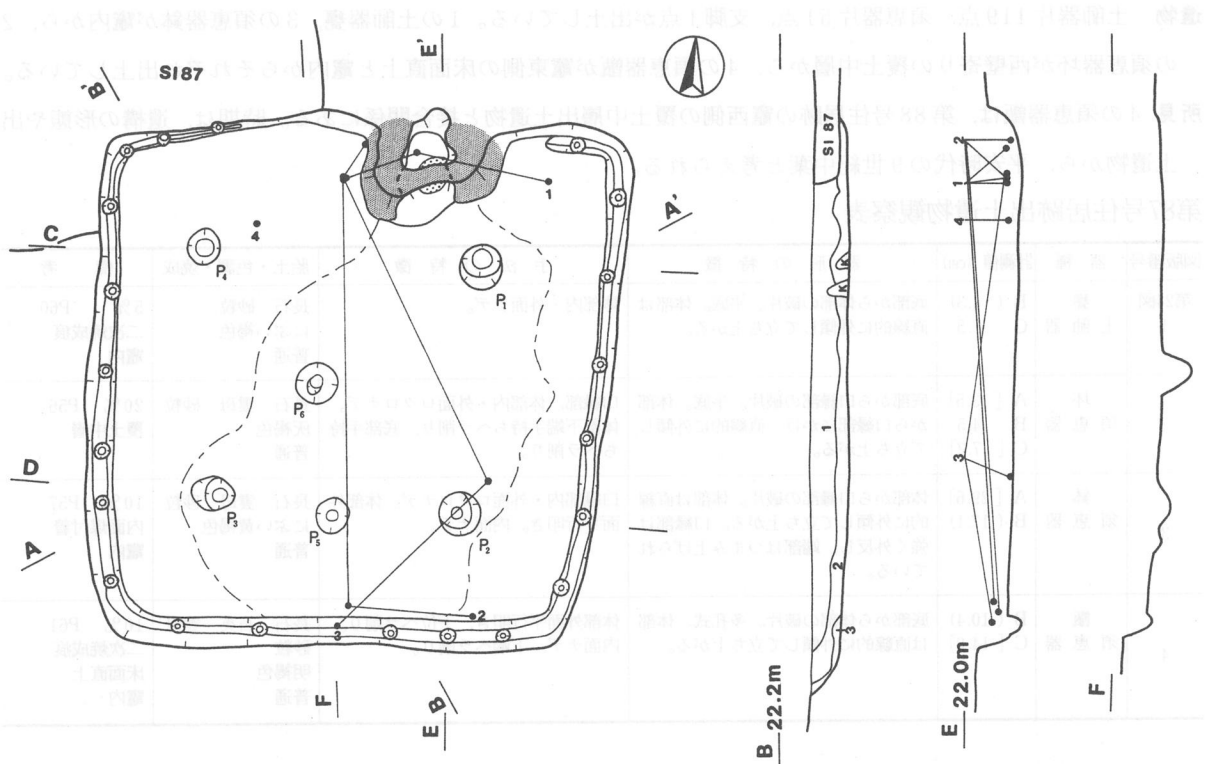
床 平坦で, 南壁付近から竈手前まで踏み固められている。

竈 北壁のやや東寄りに, 砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部の一部と両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで91cm, 最大幅108cm, 壁外への掘り込みは10cmである。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。特に, 両袖部の内壁は火熱を受けて赤変し, 硬く締まっている。煙道部は外傾し, 急に立ち上がる。

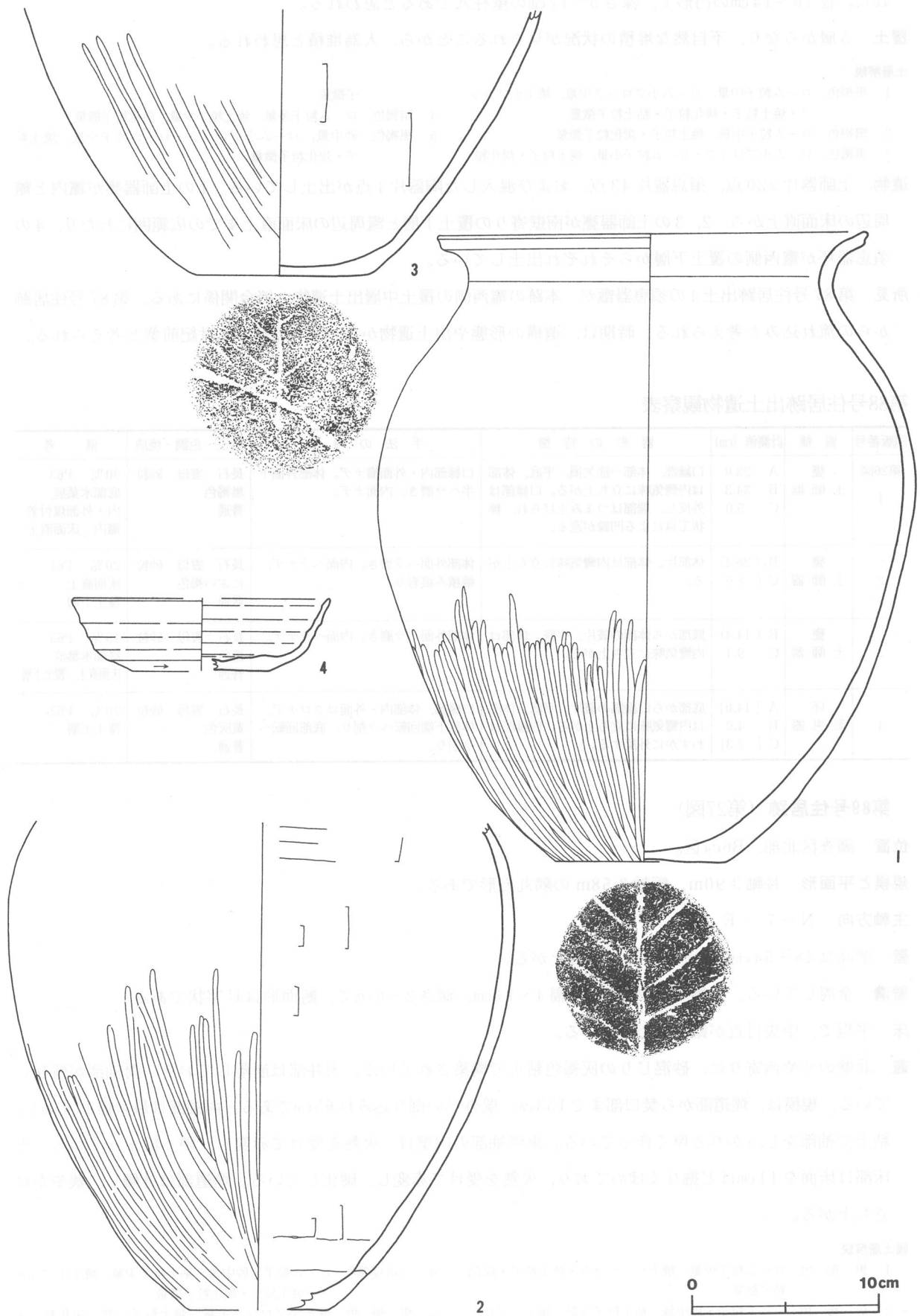
竈土層解説

- | | | | |
|----------|--|--------|---|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, ローム粒子・粘土小ブロック少量・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土中・小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 灰褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 灰褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 11 黒褐色 | 焼土小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |

ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁, P₂, ならびにP₄は径31~36cmの円形, P₃は長径36cm, 短径26cmの楕円形で, いずれも深さ29~42cmの支柱穴である。P₅は径30cmの円形で, 深さ11cmの出入口施設に伴うピットである。P₆は径34cmの円形, 深さ25cmで, 性格は不明である。また, 壁溝内に小ピットが21か所確認さ



第25図 第88号住居跡実測図



第26図 第88号住居跡出土遺物実測図

れた。径10～14cmの円形で、深さ5～12cmの壁柱穴であると思われる。

覆土 5層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | | |
|-------|---|-----|-------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | 5 黒褐色 | 砂中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒 | | | |

遺物 土師器片220点, 須恵器片43点, および混入した陶器片1点が出土している。1の土師器甕が竈内と竈周辺の床面直上から, 2, 3の土師器甕が南壁寄りの覆土下層と竈周辺の床面直上までの広範囲にわたり, 4の須恵器坏が竈西側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 第87号住居跡出土4の須恵器甕が, 本跡の竈西側の覆土中層出土遺物と接合関係にある。第87号住居跡からの流れ込みと考えられる。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 奈良時代の8世紀前葉と考えられる。

第88号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第26図 1	甕 土師器	A 23.0 B 34.3 C 9.0	口縁部, 体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられ, 棒状工具による凹線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下半ヘラ磨き。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 黒褐色 普通	90% P63 底部木葉痕 内・外面煤付着 竈内 床面直上
2	甕 土師器	B (26.4) C [8.0]	体部片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き。内面ヘラナデ, 輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	20% P64 床面直上 覆土下層
3	甕 土師器	B (14.4) C 9.4	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	15% P65 底部木葉痕 床面直上 覆土下層
4	坏 須恵器	A [14.0] B 4.0 C [7.3]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	20% P62 覆土下層

第89号住居跡 (第27図)

位置 調査区北部, B6c9区。

規模と平面形 長軸3.90m, 短軸3.58mの隅丸方形である。

主軸方向 N-7°-E

壁 壁高は48～54cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

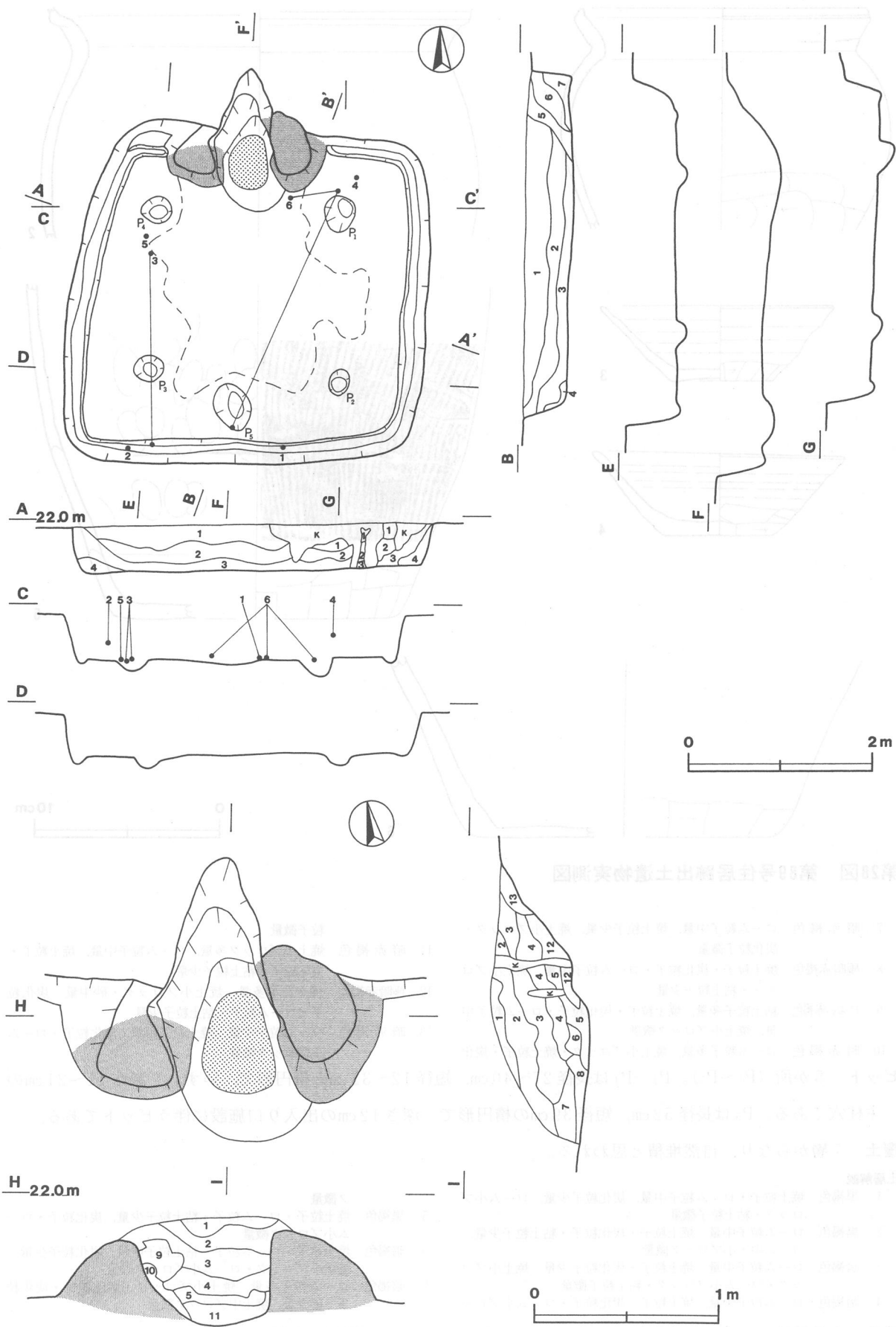
壁溝 全周している。上幅16～28cm, 下幅4～14cm, 深さ2～6cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央付近が踏み固められている。

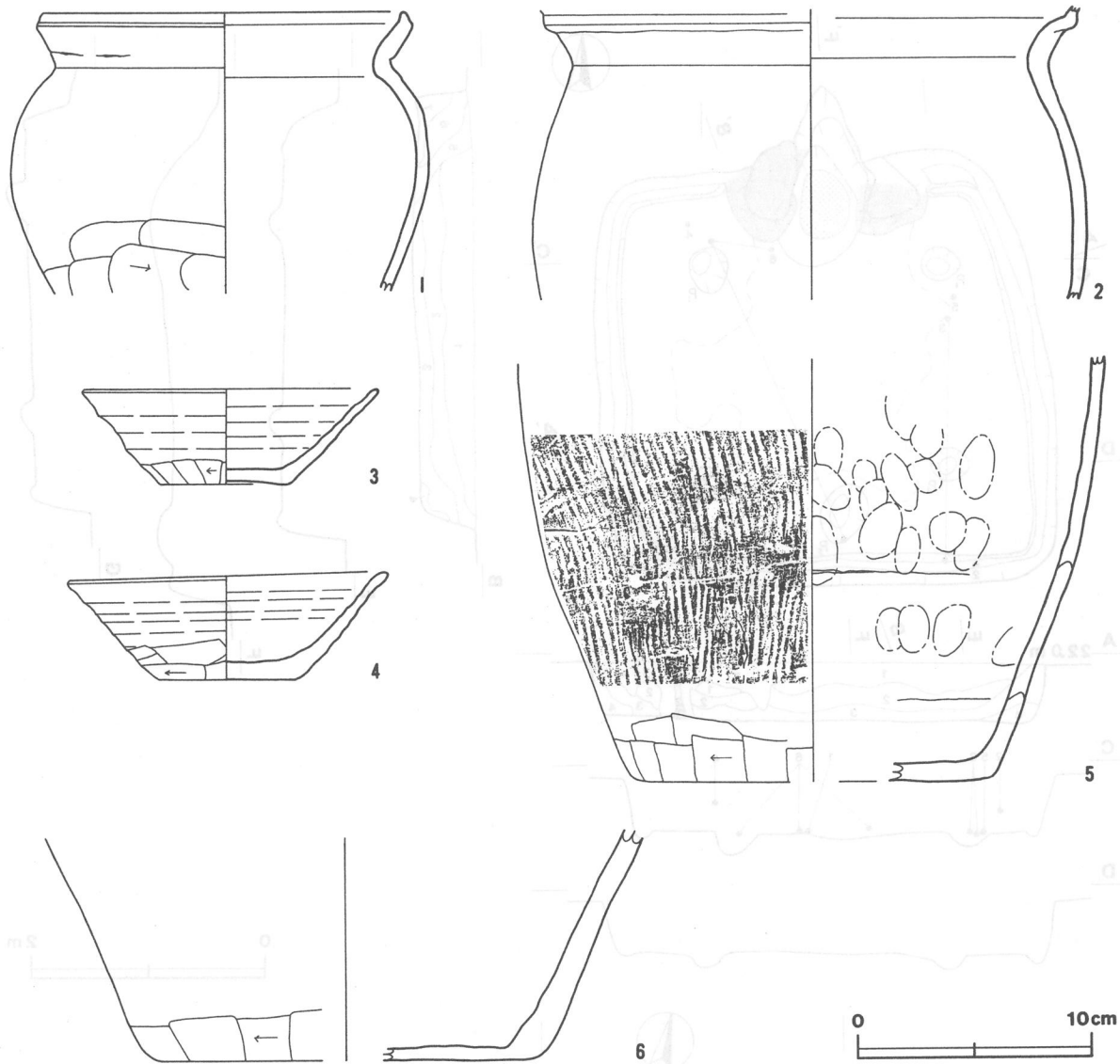
竈 北壁のやや西寄りに, 砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで153cm, 壁外への掘り込みは65cmである。両袖部は最大幅174cmで, 粘土で袖部をしっかりと厚く作っている。東側袖部の内壁は, 火熱を受けて赤変し, 硬く締まっている。火床部は床面を11cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。煙道部は外傾し, 緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--|----------|--|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 にぶい赤褐色 | ローム粒子・砂中量, 粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子・砂中量, 粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土小ブロック多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・砂微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |



第27图 第89号住居跡実測图



第28図 第89号住居跡出土遺物実測図

- 7 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 8 極暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 9 にぶい赤褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック微量
- 10 暗赤褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化

- 11 暗赤褐色 焼土小ブロック多量, ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 12 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・砂中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
- 13 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は長径27~40cm, 短径12~32cmの楕円形で, いずれも深さ11~21cmの主柱穴である。P₅は長径52cm, 短径39cmの楕円形で, 深さ12cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 7層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, ローム中・小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブ

- 5 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂少量, 焼土中ブロック微量

遺物 土師器片344点, 須恵器片262点が出土している。3の須恵器坏が南壁と西壁寄りの床面直上から, 5の須恵器鉢が西壁寄りの床面直上から, 6の須恵器鉢が南壁寄りから竈東側の床面直上までの広範囲にわたりそ

それぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後葉と考えられる。

第89号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第28図 1	小形甕 土師器	A 15.4 B (11.9)	底部、体部一部欠損。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へら削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 赤褐色 普通	60% P72 覆土下層
2	甕 土師器	B (12.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 明褐色 普通	10% P73 覆土中層
3	坏 須恵器	A 12.1 B 4.1 C 5.4	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部一方向の手持ちへら削り。	長石 雲母 砂粒 暗灰黄色 普通	65% P67 床面直上
4	坏 須恵器	A 13.3 B 4.1 C 5.8	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部手持ちへら削り。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	60% P68 覆土中層
5	鉢 須恵器	B (18.2) C [15.2]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面平行叩き、下位へら削り。内面に指頭圧痕、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	20% P69 床面直上
6	鉢 須恵器	B (9.6) C [16.0]	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面平行叩き、下位へら削り。内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 浅黄色 普通	20% P70 床面直上

第90号住居跡 (第29図)

位置 調査区中央部、B6i9区。

規模と平面形 長軸2.85m、短軸2.77mの隅丸方形である。

主軸方向 N-22°-E

壁 壁高は28~40cmで、外傾して立ち上がる。

床 全面が粘土質で、平坦で締まっている。特に、中央部が踏み固められている。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁は長径39cm、短径31cmの楕円形、P₂は径33cmの円形で、いずれも深さ45~53cm、P₃は長径14cm、短径9cmの楕円形、P₄は径16cmの円形で、いずれも深さ7cmほどで、ともに性格は不明である。

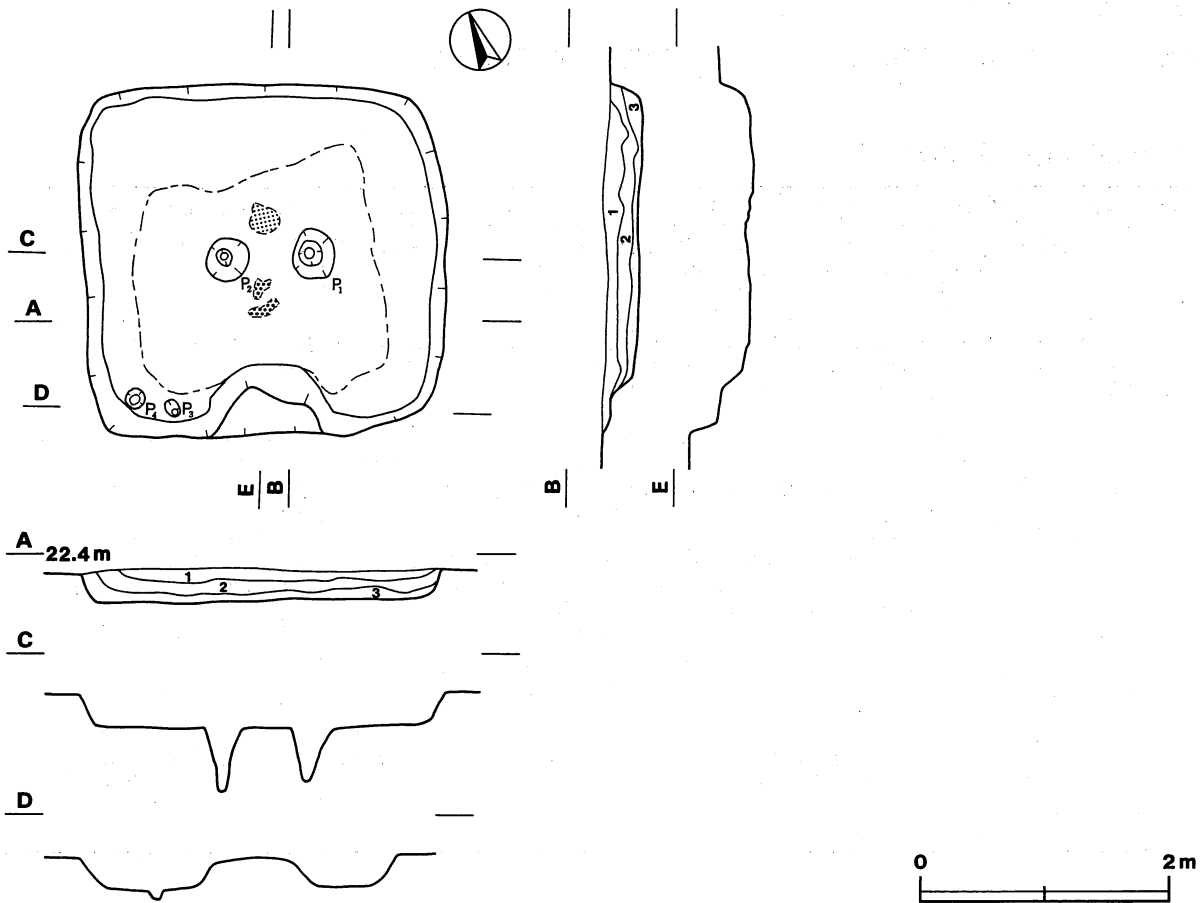
覆土 3層からなり、ロームブロック、粘土ブロックが堆積している状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム中・小ブロック・粘土中ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量、ローム中ブロック微量

遺物 土師器片45点、須恵器片34点が出土している。遺物が少なく、ほとんどが細片である。

所見 住居跡の中央部から、焼土塊と炭化物が確認されている。焼土塊は床面を掘り込んだものではないことから、炉として使用された可能性は低いと思われる。南西壁の中央部にある硬く締まったステップは、出入り口部の付帯施設と思われる。地山の粘土質の多いローム土を掘り残して作られている。時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代から平安時代の前期と考えられる。



第29図 第90号住居跡実測図

第91号住居跡 (第30図)

位置 調査区中央部, B6h₈区。

重複関係 本跡は第92号住居跡と重複している。第92号住居跡が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.05m, 短軸(2.60)mである。本跡の南壁が調査区域外のため、平面形は不明である。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は14~16cmで、外傾して立ち上がる。

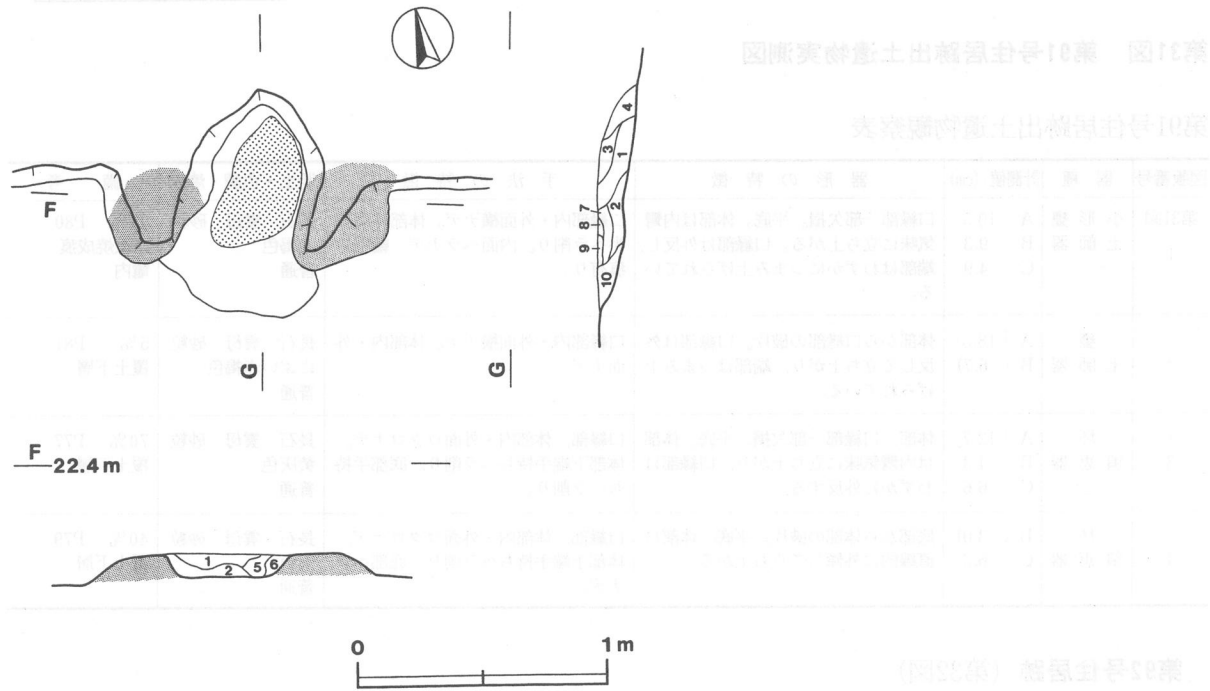
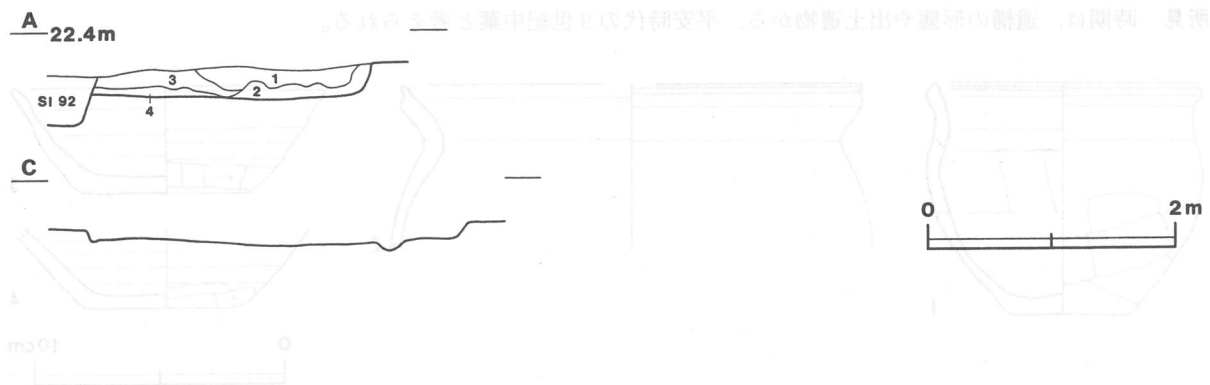
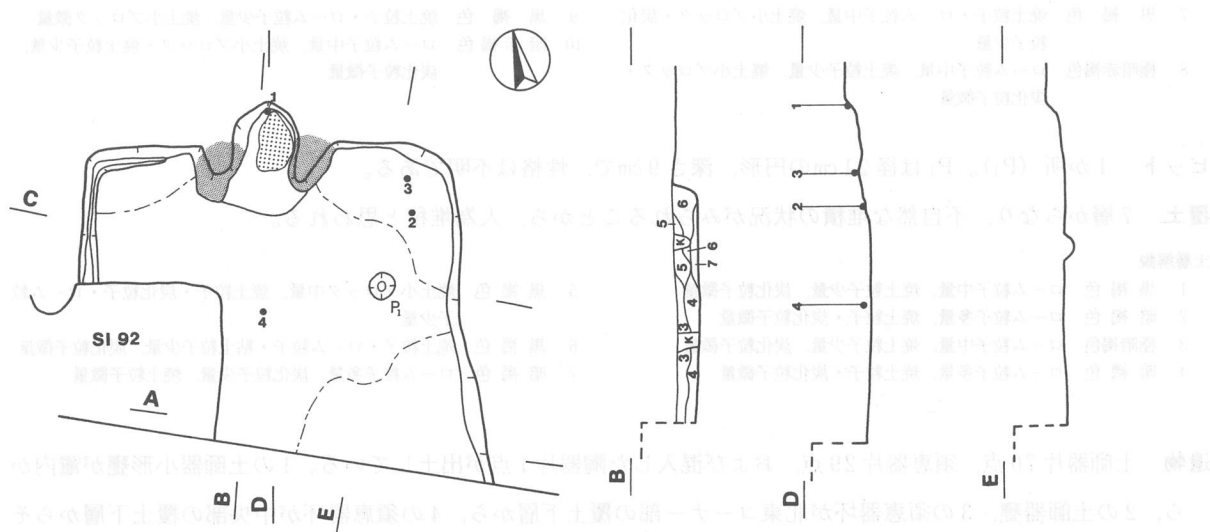
壁溝 北西コーナー部下の一部で確認した。上幅[10~18]cm, 下幅[2~8]cm, 深さ[1~3]cmで、断面形はU字状と推定される。

床 平坦で、各コーナー部を除き、踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで90cm, 最大幅116cm, 壁外への掘り込みは33cmである。火床部は火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|---|---|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 4 黒褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |



第30図 第91号住居跡実測図

- 7 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
 8 極暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
 9 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
 10 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量

ピット 1か所 (P₁)。P₁は径21cmの円形, 深さ9cmで, 性格は不明である。

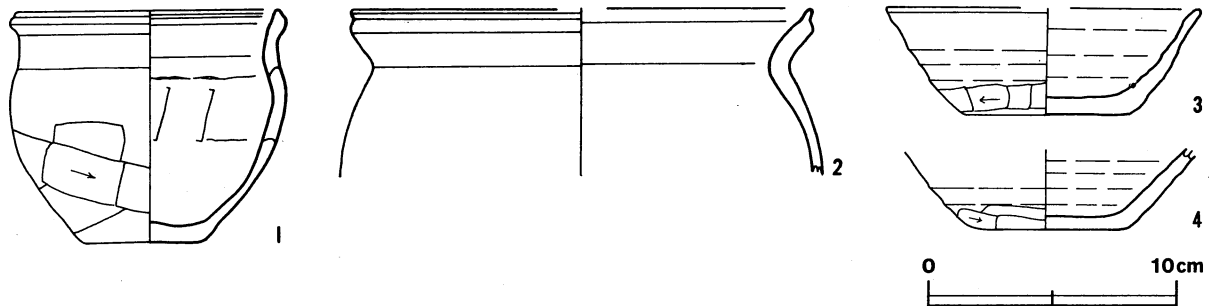
覆土 7層からなり, 不自然な堆積の状況がみられることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 3 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
 4 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 5 黒褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
 6 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
 7 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片70点, 須恵器片29点, および混入した陶器片1点が出土している。1の土師器小形甕が竈内から, 2の土師器甕, 3の須恵器坏が北東コーナー部の覆土下層から, 4の須恵器坏が中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀中葉と考えられる。



第31図 第91号住居跡出土遺物実測図

第91号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図 1	小形甕 土師器	A 10.5 B 9.3 C 4.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下半ヘラ削り。内面ヘラナデ, 輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 赤褐色 普通	95% P80 二次焼成痕 竈内
2	甕 土師器	A [18.5] B (6.7)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 におい赤褐色 普通	5% P81 覆土下層
3	坏 須恵器	A [12.7] B 4.3 C 6.6	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	70% P77 覆土下層
4	坏 須恵器	B (3.0) C 6.2	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	40% P79 覆土下層

第92号住居跡 (第32図)

位置 調査区中央部, B6h₈区。

重複関係 本跡は第91号住居跡と重複している。本跡が第91号住居跡を掘り込んでいることから, 本跡が新しい。

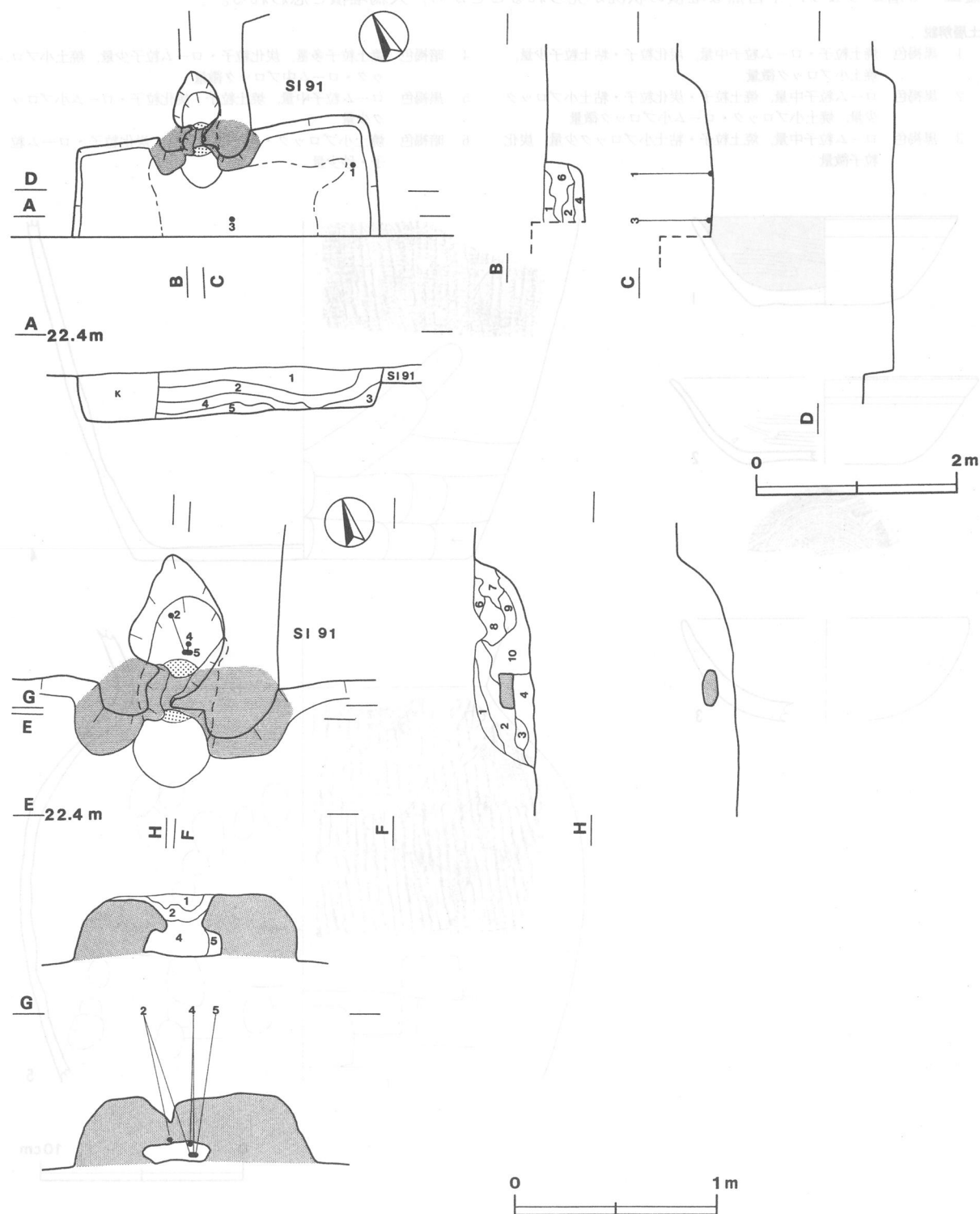
規模と平面形 長軸3.04m, 短軸(1.20)mである。本跡の南壁が調査区域外のため, 平面形は不明である。

主軸方向 N-17°-W

壁 壁高は29~35cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、竈手前が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部の一部と両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで116cm、最大幅119cm、壁外への掘り込みは64cmである。火床部は火熱を受けて赤変し、硬化している。特に、天井部の内壁と煙道部付近が赤変し、硬く締まっている。煙道部は外傾し、立ち上がる。



第32図 第92号住居跡実測図

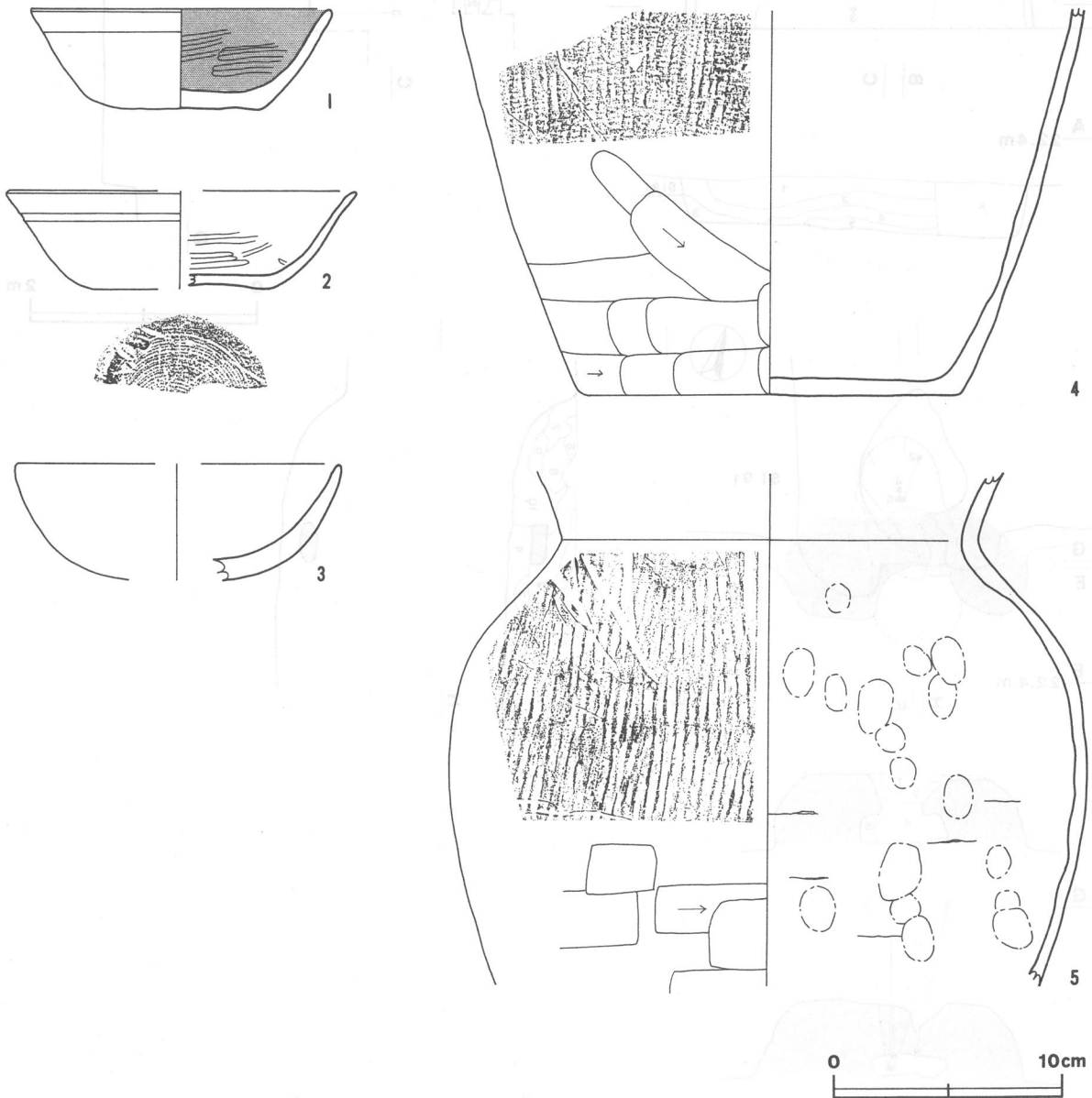
竈土層解説

- | | | | |
|----------|---|---------|--|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量,
焼土小ブロック・ローム小ブロック微量 | 6 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量,
焼土小ブロック・粘土小ブロック微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土中ブロック中量, ローム粒子微量 |
| 3 赤褐色 | 焼土小ブロック多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子・
ローム粒子・粘土粒子少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子
少量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 炭化粒子・ローム
粒子・粘土小ブロック少量 | 9 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土中ブロック中量, 炭化粒子少
量, ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子少
量, ローム粒子微量 |

覆土 6層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量,
焼土小ブロック微量 | 4 暗褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブ
ロック・ローム中ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロッ
ク少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロッ
ク少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土小ブロック少量, 炭化
粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒
子・砂少量 |



第33図 第92号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片 84 点, 須恵器片 14 点が出土している。1 の土師器坏が北東コーナー部の覆土下層から, 3 の土師器坏が中央部の覆土下層から, 2 の土師器坏, 4 の須恵器鉢, 5 の須恵器甕が竈内からそれぞれ出土している。

所見 3 の土師器坏は古く, 時期的な違いがあることから, 流れ込みと考えられる。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の 9 世紀後葉と考えられる。

第92号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第33図 1	坏 土師器	A 13.2 B 4.5 C 6.8	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。底部へラナデ。	長石 雲母 砂粒 外面橙色 内面褐灰色 普通	90% P82 内面黒色処理 二次焼成痕 覆土下層
2	坏 土師器	A [15.6] B 4.2 C [7.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。底部回転糸切り。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	30% P83 竈内
3	坏 土師器	A [14.4] B (5.1)	底部から口縁部の破片。丸底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面摩滅のため, 調整不明。	長石 砂粒 橙色 普通	30% P84 覆土下層
4	鉢 須恵器	B (17.0) C 16.5	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面格子叩き, 下位へラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	20% P85 竈内
5	甕 須恵器	B (22.6)	体部から頸部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 頸部はくの字状に屈曲する。	体部外面平行叩き, 下位へラ削り。内面に指頭圧痕, 輪積み痕有り。	長石 石英 雲母 砂粒 上位黒褐色 下位にぶい橙色 普通	20% P87 内・外面煤付着 竈内

第93号住居跡 (第34図)

位置 調査区北部, A6g8区。

規模と平面形 長軸 [3.12] m, 短軸 2.90m の方形と推定される。

主軸方向 N-2°-W

壁 東壁から北壁の一部にかけて残存しているのみであり, 壁高は 3cm ほどで, 外傾して立ち上がる。

床 やや凹凸で, 中央付近が踏み固められている。

竈 上面が耕作により削平され, 覆土が薄く, 残存している部分は少ないが, 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。規模は, 煙道部から焚口部まで 105cm, 最大幅 124cm, 壁外への掘り込みは 23cm である。火床部は床面を 6cm ほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄ は径 27~30cm の円形で, いずれも深さ 12~20cm の支柱穴である。P₅ は長径 30cm, 短径 25cm の楕円形で, 深さ 10cm の出入口口施設に伴うピットである。

覆土 覆土が薄く, 単一層であり, 人為堆積か自然堆積かは不明である。

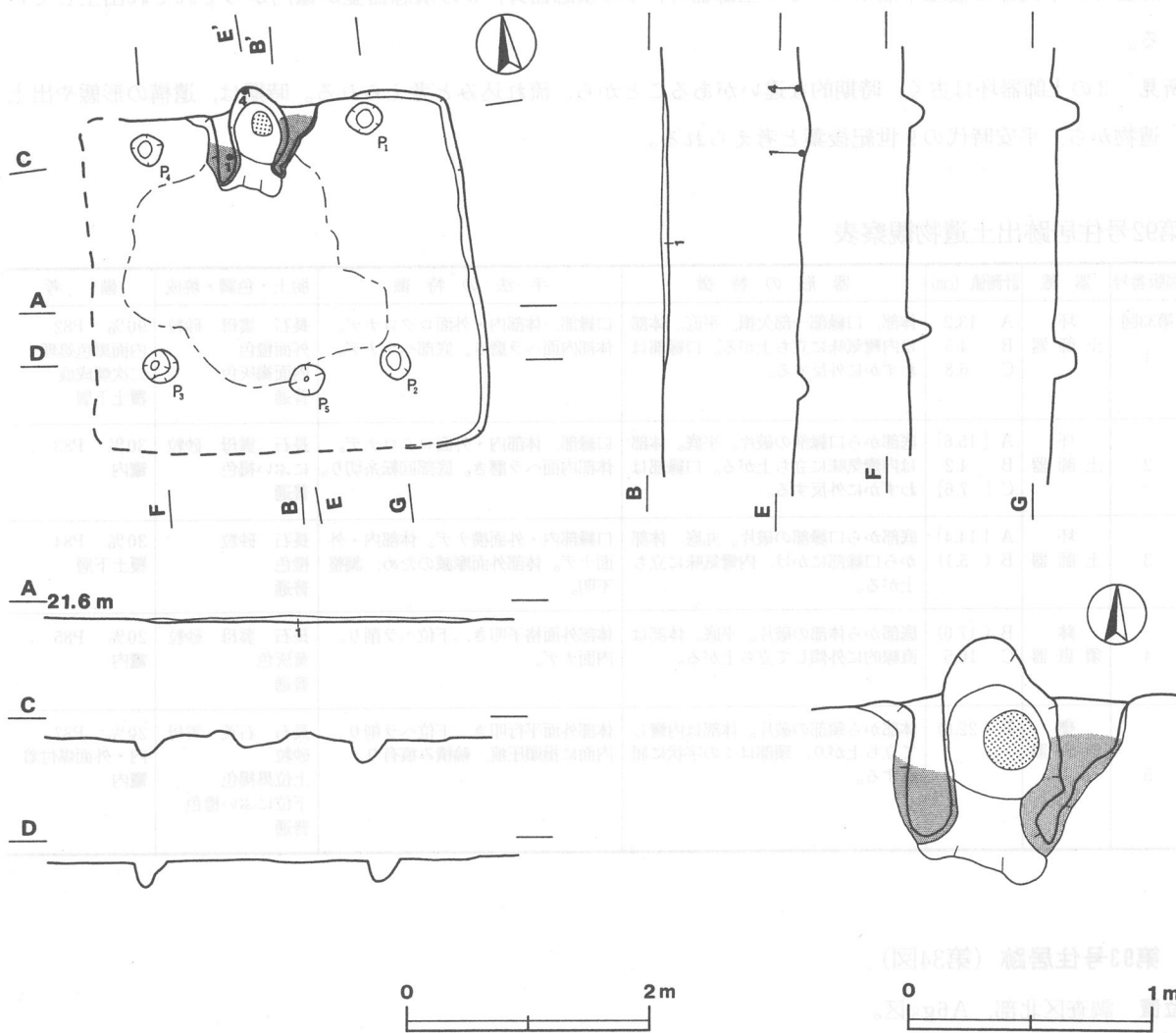
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量

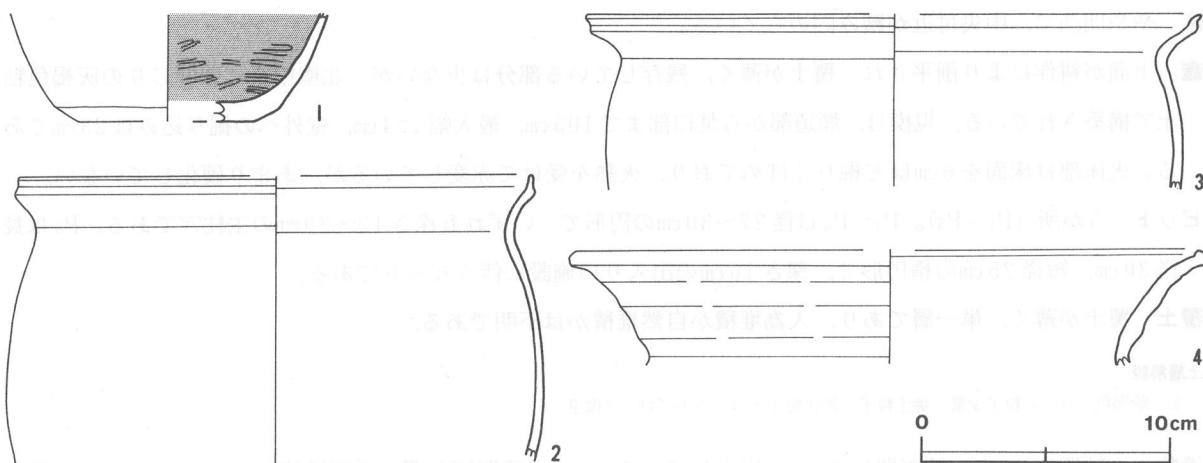
遺物 土師器片 34 点, 須恵器片 13 点が出土している。1 の土師器坏が竈の西側袖部の中から, 2, 3 の土師器甕が覆土中から, 4 の須恵器甕が竈内からそれぞれ出土している。

所見 竈袖部の中と竈内から遺物が出土しており, 土器片を竈の補強材として使用していた可能性がある。時

期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後葉と考えられる。



第34図 第93号住居跡実測図



第35図 第93号住居跡出土遺物実測図

第93号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第35図 1	坏 土師器	B (4.3) C [7.0]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	15% P88 内面黒色処理 袖部内
2	甕 土師器	A [20.5] B (11.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	10% P89 覆土中
3	甕 土師器	A [24.6] B (7.0)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	5% P90 覆土中
4	須 恵器	A [25.0] B (4.5)	口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 灰褐色 普通	5% P91 竈内

第94号住居跡 (第36図)

位置 調査区北部, A6h8区。

規模と平面形 長軸 4.56m, 短軸 4.03m の長方形である。

主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は8~12cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、全面が粘土質で、硬く締まっている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで105cm, 最大幅140cm, 壁外への掘り込みは20cmである。火床部は床面を6cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--|--------|--|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 粘土小ブロック少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 6 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 砂中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子・砂多量, 焼土粒子少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量, ローム粒子・砂中量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子多量, 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 灰褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・砂・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・砂少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・砂少量, 炭化粒子微量 | | |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径24~35cmの円形で、いずれも深さ17~46cmの主柱穴である。P₅は長径53cm, 短径30cmの楕円形で、深さ6cmの出入り口施設に伴うピットである。

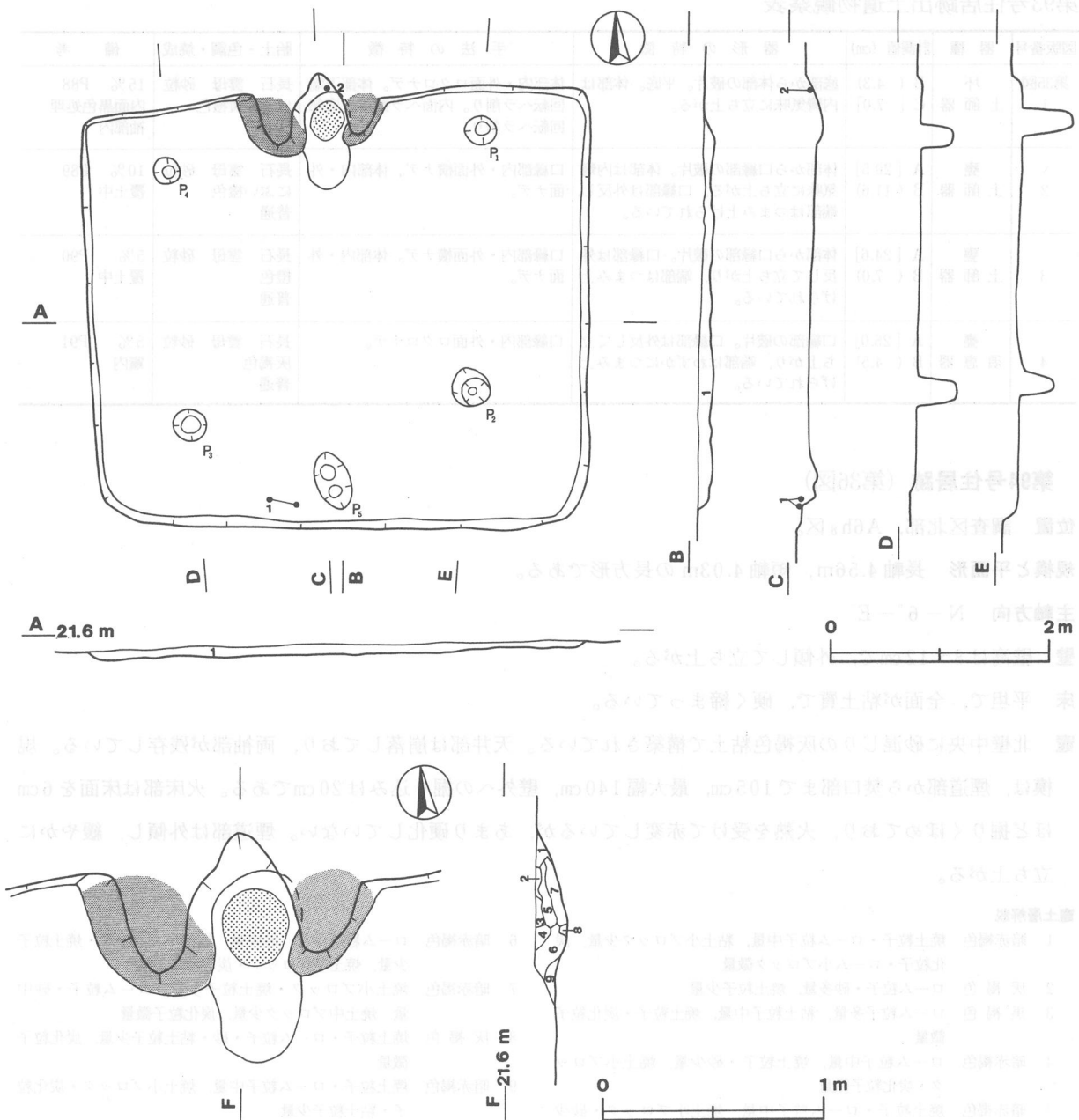
覆土 覆土が薄く、単一層であり、人為堆積か自然堆積かは不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片132点, 須恵器片52点, 砥石1点, および混入した陶器片1点が出土している。1の土師器甕が南壁寄りの覆土下層から, 2の須恵器鉢が竈内から, 3の砥石が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀後葉と考えられる。

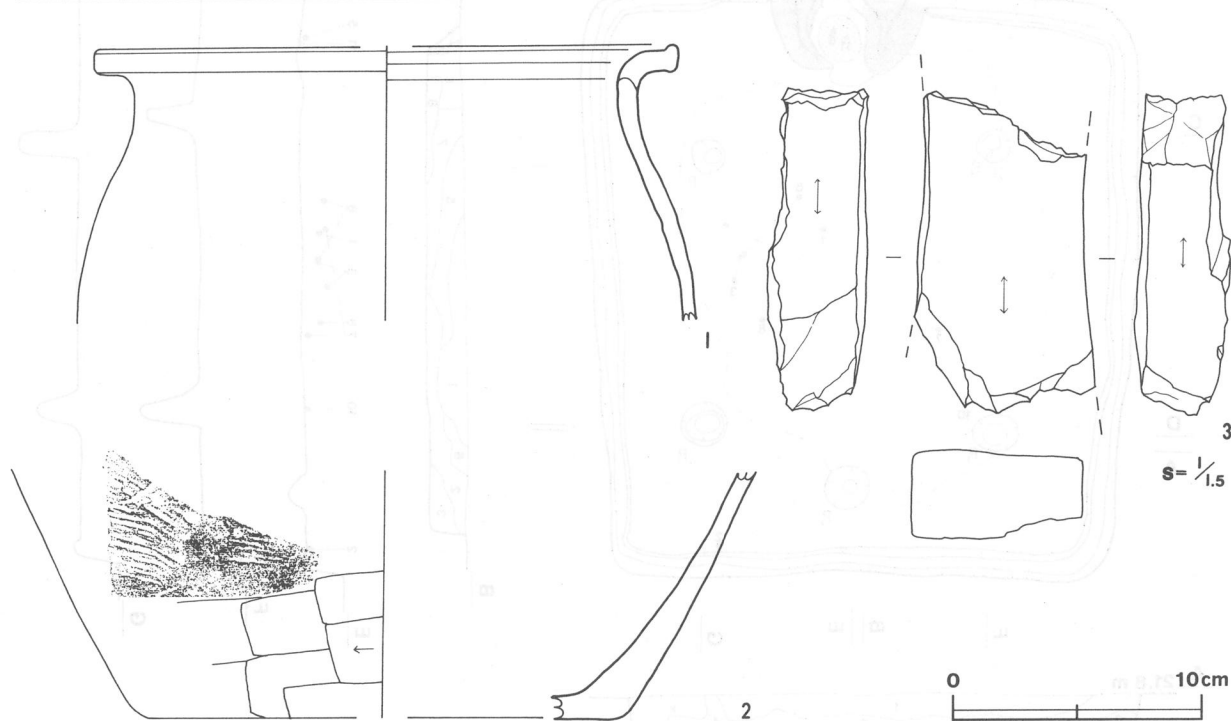


第36図 第94号住居跡実測図

第94号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第37図 1	甕 土師器	A [23.2] B (11.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部は強く外 反し、端部はわずかにつまみ上げら れている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外 面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	10% P94 覆土下層
2	鉢 須恵器	B (10.0) C [18.8]	底部から体部の破片。平底。体部は 直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面平行叩き、下位へら削り。 内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	5% P93 竈内

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第37図3	砥石	(6.5)	(3.7)	(2.0)	(60)	凝灰岩	覆土中	Q4



第37図 第94号住居跡出土遺物実測図

第95号住居跡 (第38図)

位置 調査区北部, B6a7区。

規模と平面形 長軸 4.76m, 短軸 4.30m の長方形である。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は 21~32cm で, 外傾して立ち上がる。

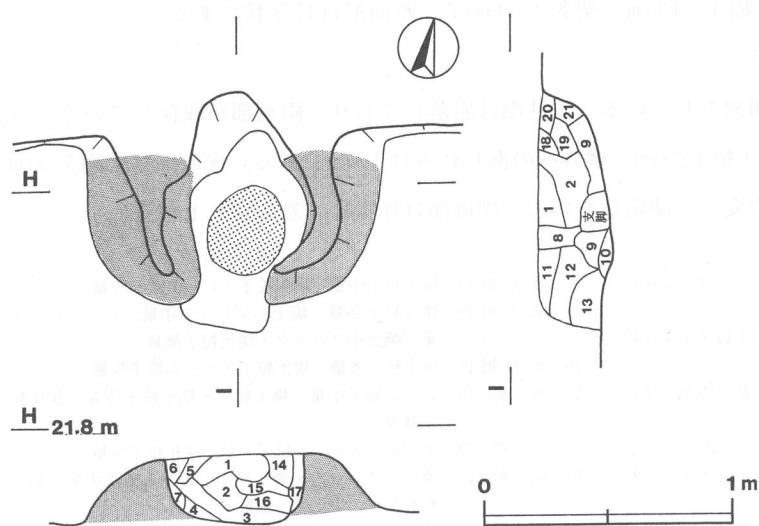
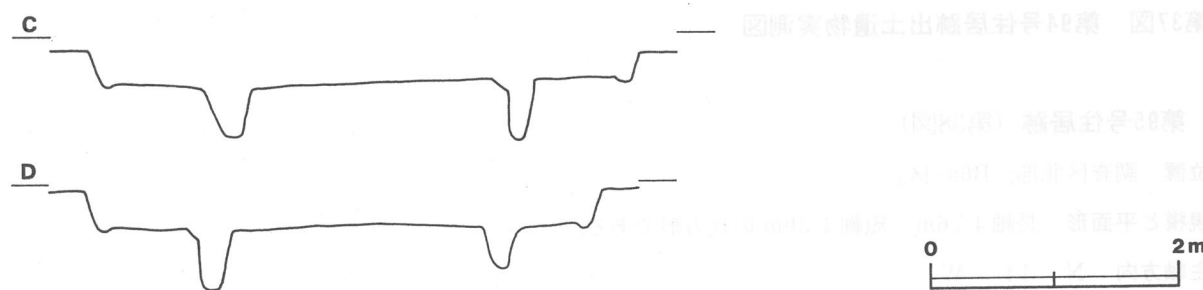
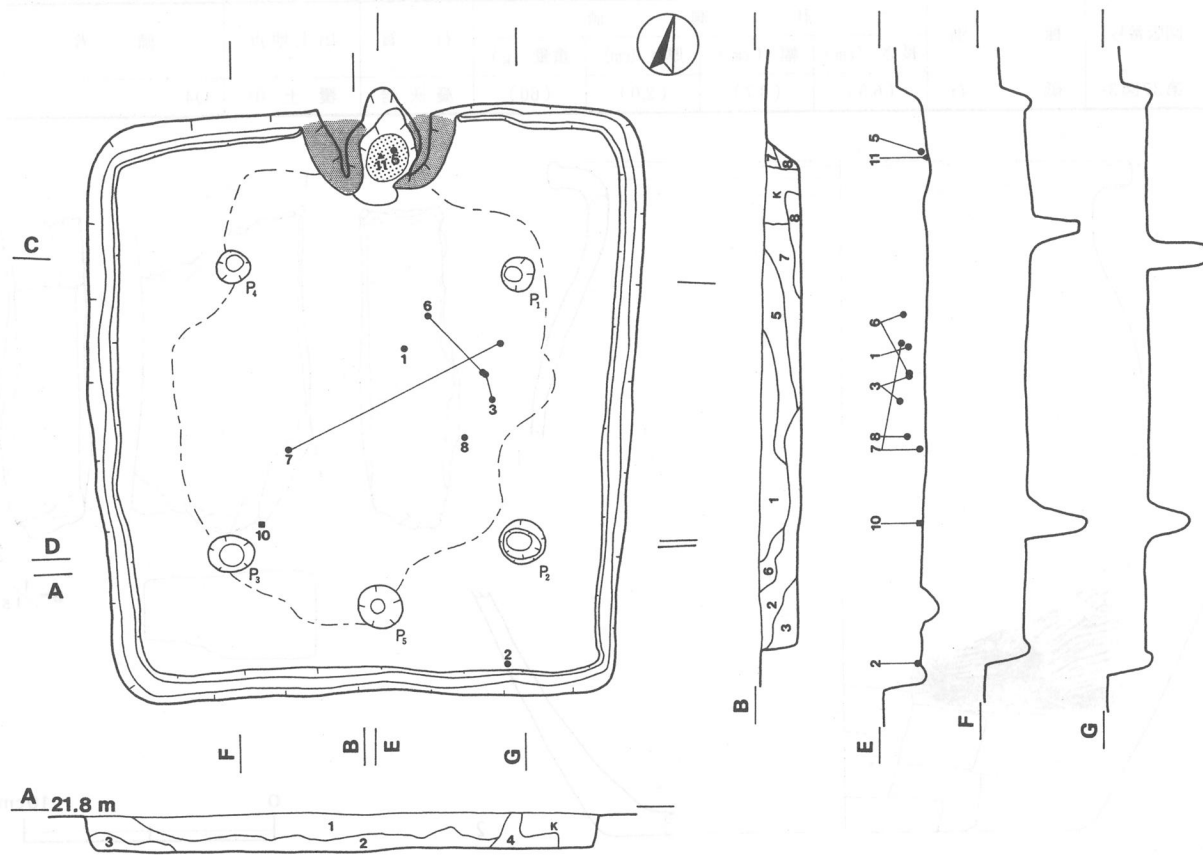
壁溝 全周している。上幅 12~28cm, 下幅 4~13cm, 深さ 2~4cm で, 断面形は U 字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで 95cm, 最大幅 125cm, 壁外への掘り込みは 17cm である。火床部は床面を 5cm ほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。煙道部は外傾し, 急に立ち上がる。

竈土層解説

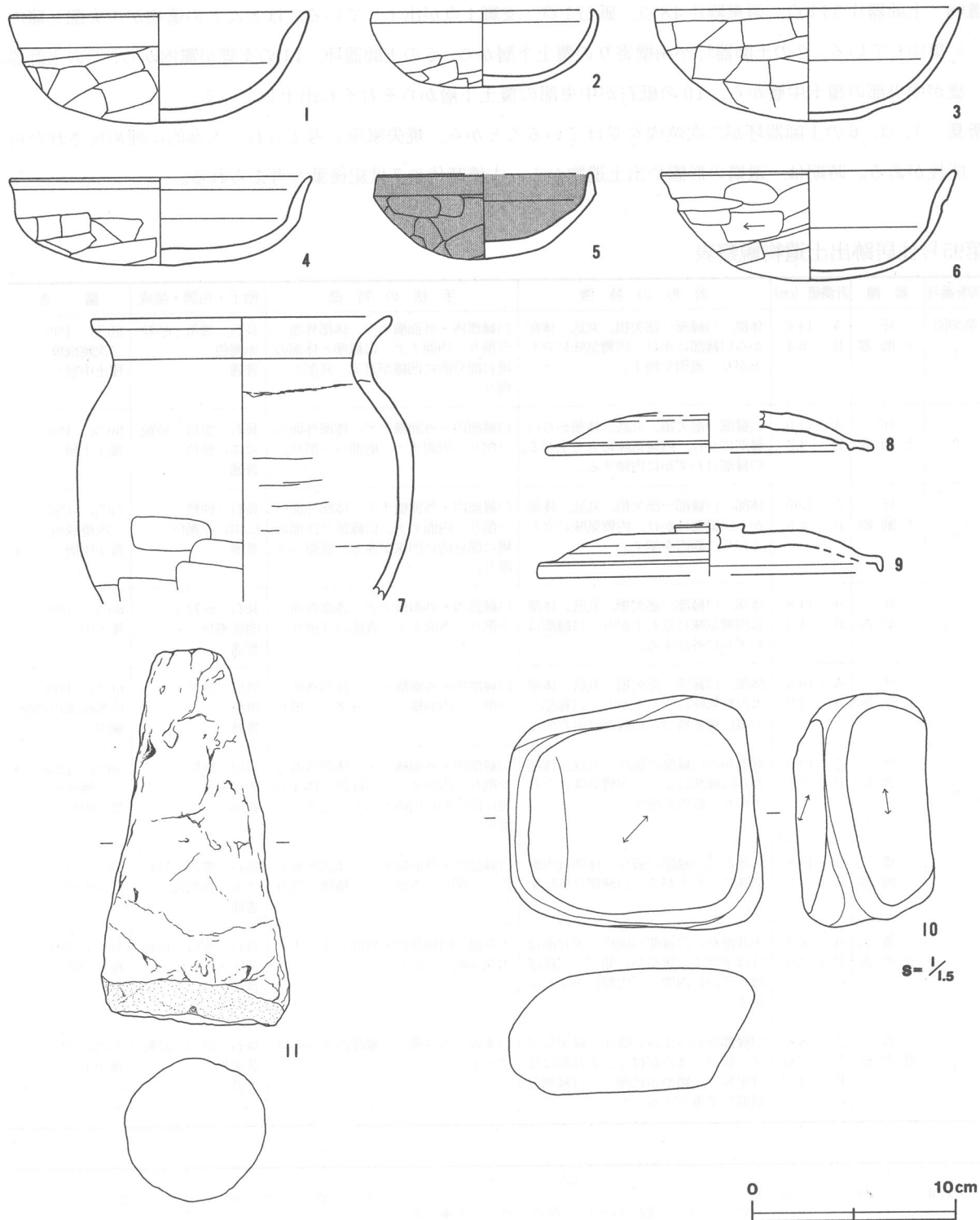
- | | | | |
|----------|--|---------|--|
| 1 灰褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 4 灰褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 灰褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 | ローム粒子多量, 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 6 にぶい赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 13 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 7 にぶい赤褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 14 灰褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| | | 15 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・砂少量, 炭化粒子微量 |
| | | 16 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |



第38图 第95号住居跡実測图

- | | | | |
|---------|---|--------|---------------------------------|
| 17 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 19 黒褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土中ブロック微量 |
| 18 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 20 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 21 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁, P₂, ならびに P₄ は径 27~38 cm の円形, P₃ は長径 38 cm, 短径 28 cm の楕円形で, いずれも深さ 34~50 cm の支柱穴である。P₅ は径 36 cm の円形, 深さ 14 cm で, 出入口口施設に伴うピットである。



第39図 第95号住居跡出土遺物実測図

覆土 8層からなり、焼土ブロックを含有し、不自然な堆積の状況がみられることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---|--------|--|
| 1 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量 | 5 黒褐色 | 焼土中ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム中・小ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量, ローム小ブロック微量 | 8 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物 土師器片 341点, 須恵器片 48点, 砥石 1点, 支脚 1点が出土している。ほとんどの遺物が中央部と竈内に集中している。2の土師器坏が南壁寄りの覆土下層から, 5の土師器坏, 11の支脚が竈内から, 7の土師器甕が中央部の覆土中層から, 10の砥石が中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 1, 3, 6の土師器坏が二次焼成を受けていることから, 焼失家屋と考えられ, 人為的に埋め戻された可能性がある。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 古墳時代の7世紀後葉と考えられる。

第95号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第39図 1	坏 土師器	A 14.6	体部, 口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に立ち上がり, 器肉を増す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部と体部の境に部分的に凹線が巡る。底部へラ削り。	長石 雲母 砂粒 赤褐色 普通	90% P95 二次焼成痕 覆土中層
		B 5.4				
2	坏 土師器	A 11.0	口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。底部へラ削り。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	90% P96 覆土下層
		B 4.3				
3	坏 土師器	A 15.0	体部, 口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に立ち上がり, 器肉を増す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部と体部の境に部分的に凹線が巡る。底部へラ削り。	長石 砂粒 にぶい赤褐色 普通	70% P97 二次焼成痕 覆土中層
		B 5.5				
4	坏 土師器	A 14.8	体部, 口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。底部へラ削り。	長石 砂粒 明赤褐色 普通	60% P98 覆土中
		B 4.3				
5	坏 土師器	A [10.5]	体部, 口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面横ナデ。底部へラ削り。	雲母 砂粒 黒色 普通	60% P99 内外面黒色処理 竈内
		B 4.2				
6	坏 土師器	A 14.5	底部から口縁部の破片。丸底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に立ち上がり, 器肉を増す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部と体部の境に部分的に凹線が巡る。底部へラ削り。	雲母 砂粒 明赤褐色 普通	50% P100 二次焼成痕 覆土中層
		B 5.4				
7	甕 土師器	A 14.8	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へラ削り。内面ナデ, 輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい赤褐色 普通	30% P103 覆土中層
		B (14.0)				
8	蓋 須恵器	A [16.2]	天井部から口縁部の破片。天井部はほぼ平坦で, 緩やかに開く。口縁部はわずかに内彎し, 内側にかえりが付く。	天井部, 口縁部内・外面クロナデ。頂部回転へラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	30% P101 覆土中層
		B (2.0)				
9	蓋 須恵器	A [16.8]	口縁部からつまみの破片。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で, 緩やかに開く。口縁部は屈曲して垂下する。	つまみ, 天井部, 口縁部内・外面クロナデ。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	25% P102 覆土中
		B (2.6) F [3.3] G (0.4)				

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
10	砥石	(5.8)	(6.2)	(3.5)	(180)	砂岩	覆土下層	Q5

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
第39図11	支脚	(18.6)	(9.3)	(850)	竈内	DP1 80%

第96号住居跡 (第40図)

位置 調査区北東部, B7g6区。

重複関係 本跡は, 第78号住居跡, 第588号土坑, 第22号溝と重複している。本跡は第78号住居跡, 第588号土坑を掘り込み, 第22号溝に掘り込まれているので, 第78号住居跡, 第588号土坑より新しく, 第22号溝より古い。

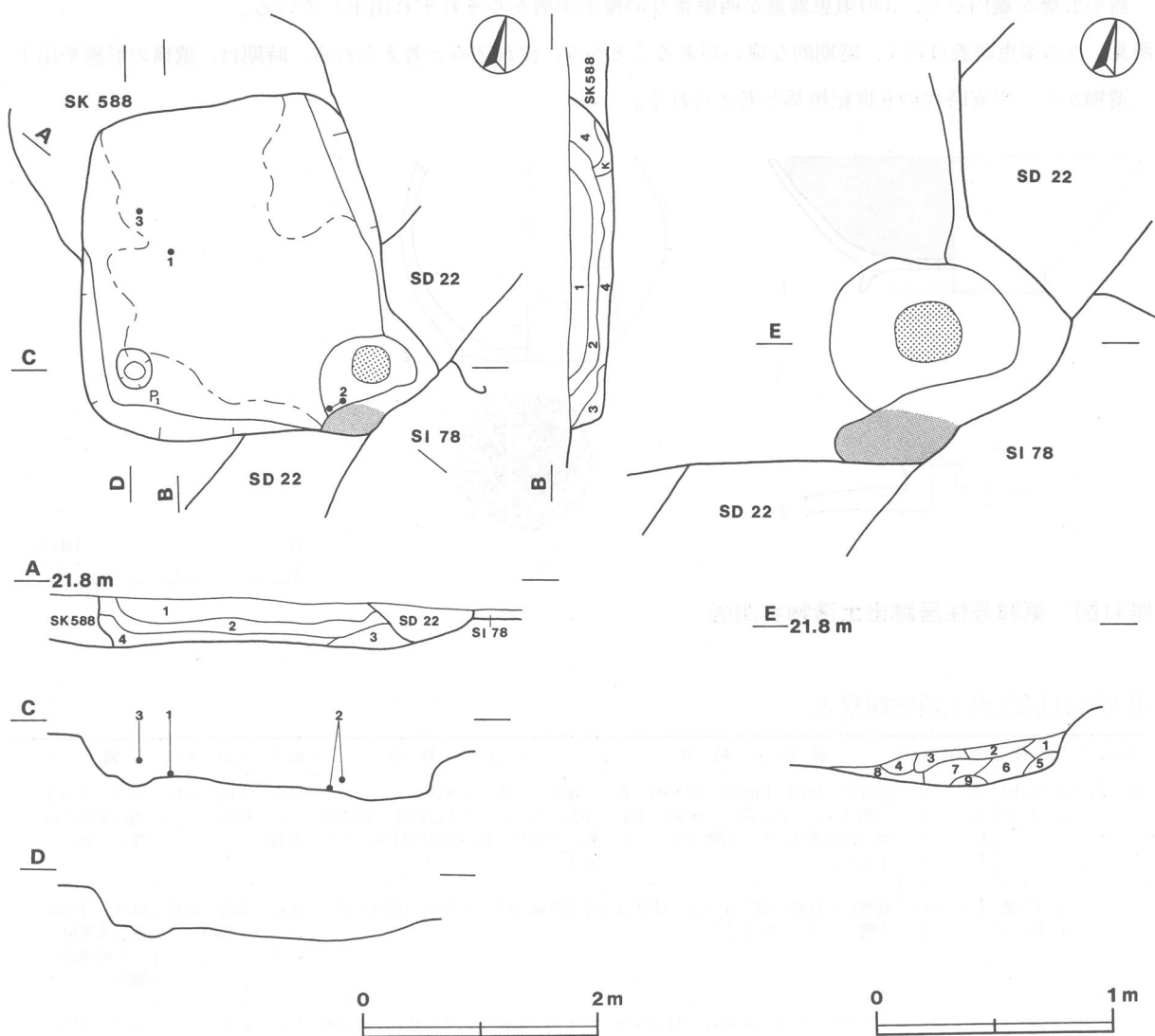
規模と平面形 長軸2.81m, 短軸2.53mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-77°-E

壁 壁高は30~36cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 北壁から竈手前まで踏み固められている。

竈 東壁の南東コーナー部付近に, 砂混じりの灰褐色粘土で構築されているが, 第22号溝に掘り込まれており, 残存している部分は少ない。南側袖部は南東コーナー部を利用して, 粘土で作っている。規模は, 煙道部か



第40図 第96号住居跡実測図

ら焚口部まで101cm, 最大幅(106)cm, 壁外への掘り込みは60cmである。火床部は床面を11cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。煙道部は外傾して, 急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--|---------|---------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 極暗赤褐色 | 焼土中・小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・砂少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土中・小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 | 9 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 焼土中ブロック少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土中ブロック中量, 焼土大ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | | |

ピット 1か所(P₁)。P₁は長径35cm, 短径28cmの楕円形, 深さ10cmで, 性格は不明である。

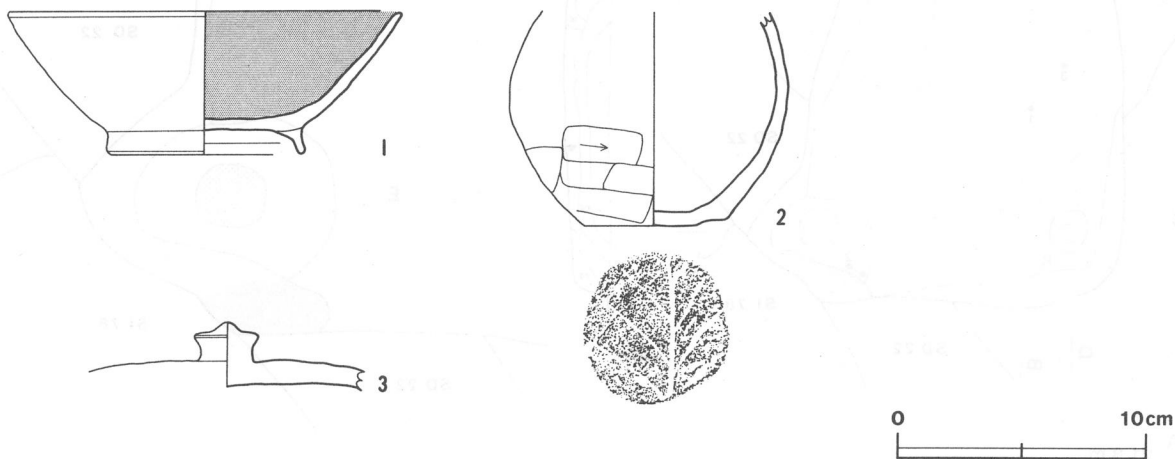
覆土 4層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |

遺物 土師器片67点, 須恵器片42点が出土している。1の土師器高台付椀が中央部の覆土下層から, 2の土師器小形甕が竈内から, 3の須恵器蓋が西壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 3の須恵器蓋は古く, 時期的な違いがあることから, 流れ込みと考えられる。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀後葉と考えられる。



第41図 第96号住居跡出土遺物実測図

第96号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第41図 1	高台付椀 土師器	A 7.9 B 5.8 C 7.8 E 1.1	高台部, 体部, 口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部内面にヘラ磨き痕有り。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け, ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	85% P104 内面黒色処理 覆土下層
2	小形甕 土師器	B (8.6) C 5.8	底部から体部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい赤褐色 普通	60% P106 底部木葉痕 二次焼成痕 竈内
3	蓋 須恵器	B (2.7) F 2.5 G 1.6	天井部からつまみの破片。擬宝珠状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦である。	つまみ, 天井部ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 砂粒 灰色 普通	10% P105 覆土中層

第97号住居跡 (第42図)

位置 調査区北部, A6i5区。

規模と平面形 長軸3.14m, 短軸2.80mの長方形である。

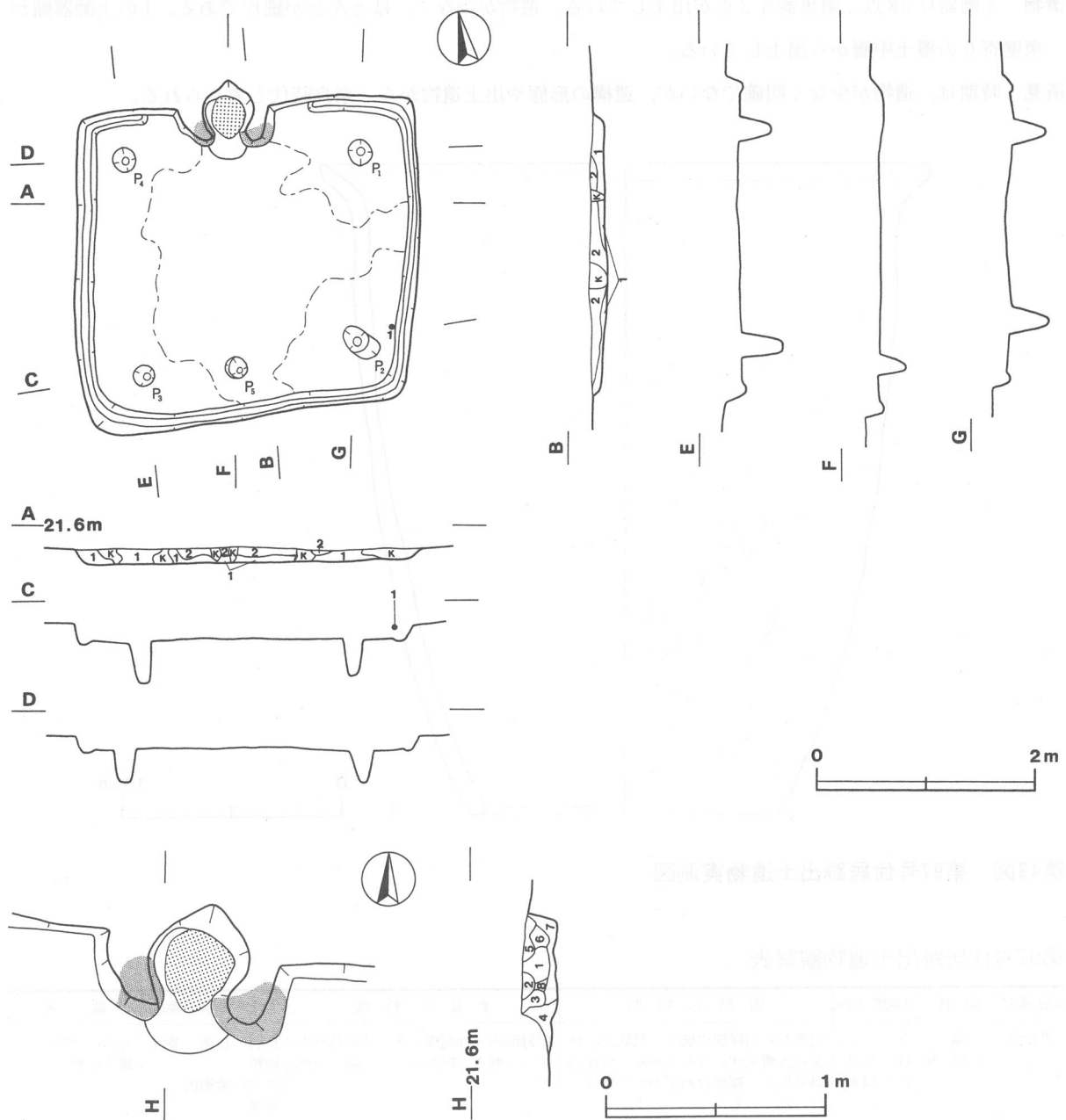
主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は12~18cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅10~27cm, 下幅4~7cm, 深さ3~5cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 南壁から竈手前と東壁付近まで踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで72cm, 最大幅93cm, 壁外への掘り込みは24cmである。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。煙道部は外傾し, 立ち上がる。



第42図 第97号住居跡実測図

甕土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 | 6 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 灰褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | | |
| 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | | |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁, P₃, P₄ は径 19~23 cm の円形, P₂ は長径 37 cm, 短径 20 cm の楕円形で, いずれも深さ 31~40 cm の支柱穴である。P₅ は径 19 cm の円形で, 深さ 29 cm の出入り口施設に伴うピットである。

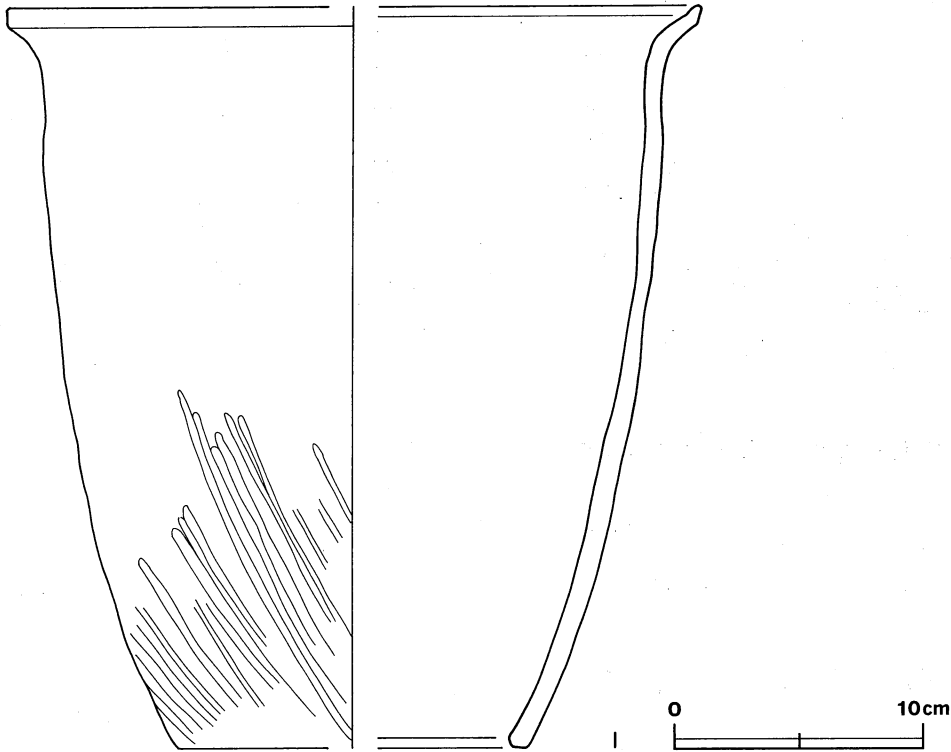
覆土 2層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片 38 点, 須恵器片 3 点が出土している。遺物が少なく, ほとんどが細片である。1 の土師器甕が東壁寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は, 遺物が少なく明確でないが, 遺構の形態や出土遺物から, 奈良時代と考えられる。



第43図 第97号住居跡出土遺物実測図

第97号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第43図 1	甕 土師器	A [27.7] B 29.9 C [14.0]	底部から口縁部の破片。無底式。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下半へラ磨き。内面ナデ, 下端へラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	15% P107 覆土中層

第98号住居跡 (第44図)

位置 調査区北部, B6a5区。

規模と平面形 長軸4.67m, 短軸4.65mの隅丸方形である。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は31~34cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁の一部を除いて, ほぼ全周している。上幅15~41cm, 下幅3~13cm, 深さ3~5cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで119cm, 最大幅178cm, 壁外への掘り込みは15cmである。火床部は床面を2cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。西側の袖部は東側の袖部に比べて, 厚く粘土で作られている。煙道部は外傾し, 緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---|----------|---|
| 1 におい赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 におい赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・砂・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 暗赤褐色 | 砂多量, 焼土粒子中量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土小ブロック多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土中ブロック微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土中ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量, 砂少量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・砂少量, 焼土小ブロック微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・砂少量, 焼土大ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | | |

ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁とP₄は長径59~66cm, 短径44~48cmの楕円形, P₂とP₃は径31~40cmの円形で, いずれも深さ15~39cmの支柱穴である。P₅は長径85cm, 短径66cmの不整楕円形で, 深さ29cmの出入口施設に伴うピットである。P₆は径35cmの円形, 深さ41cmで, 性格は不明である。

覆土 6層からなり, 焼土ブロックの堆積の状況が見られることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

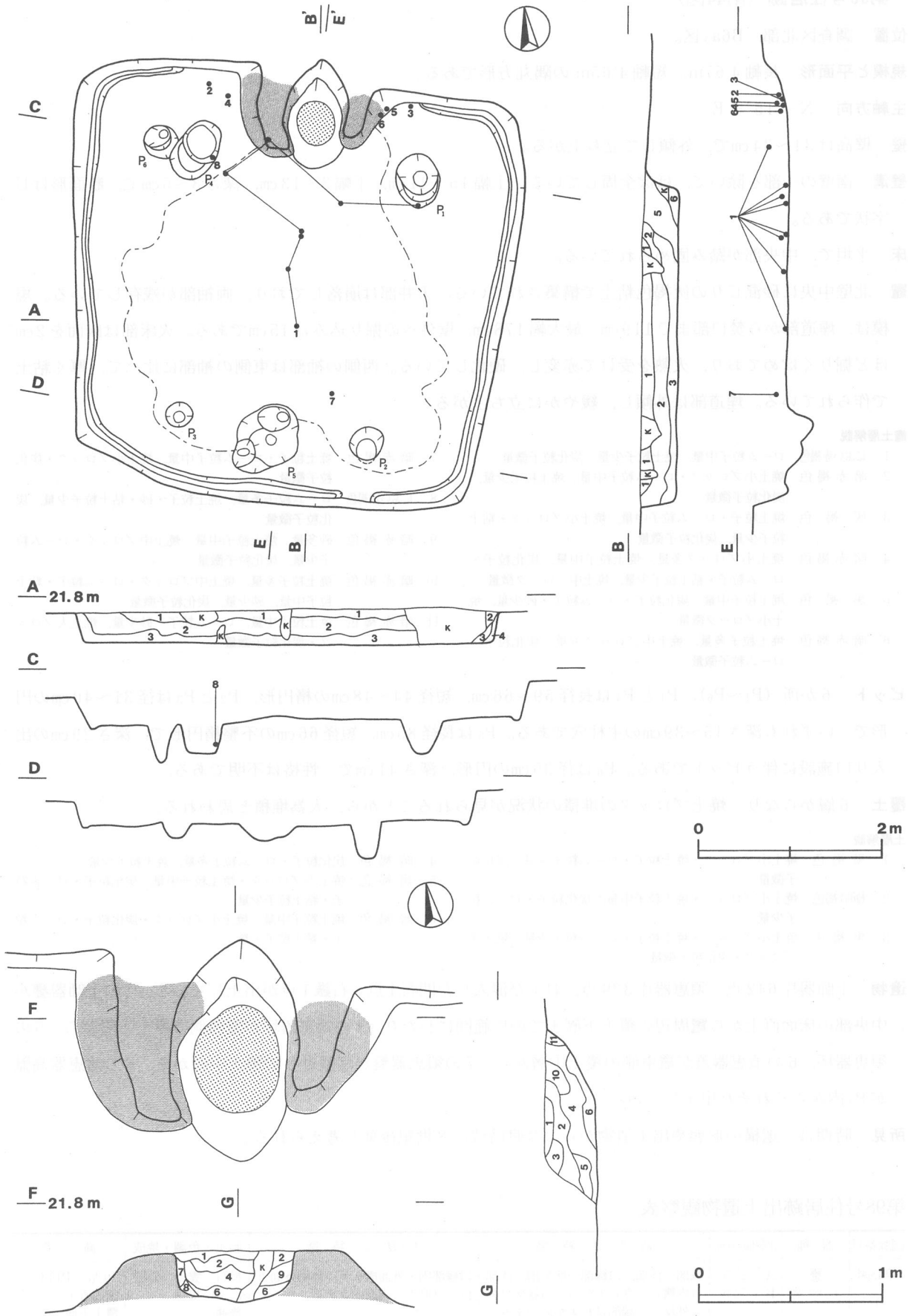
- | | | | |
|--------|--------------------------------------|-------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 炭化粒子・ローム粒子多量, 焼土粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 | 5 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |

遺物 土師器片642点, 須恵器片329点, および混入した凹石1点, 石鏃1点が出土している。1の土師器甕が中央部の床面直上から竈周辺の覆土下層までの広範囲にわたり, 4の須恵器坏が竈西側の覆土下層から, 5の須恵器坏, 6の須恵器蓋が竈東側の覆土中層から, 7の須恵器盤が南壁寄りの覆土中層から, 8の須恵器高盤がP₄内からそれぞれ出土している。

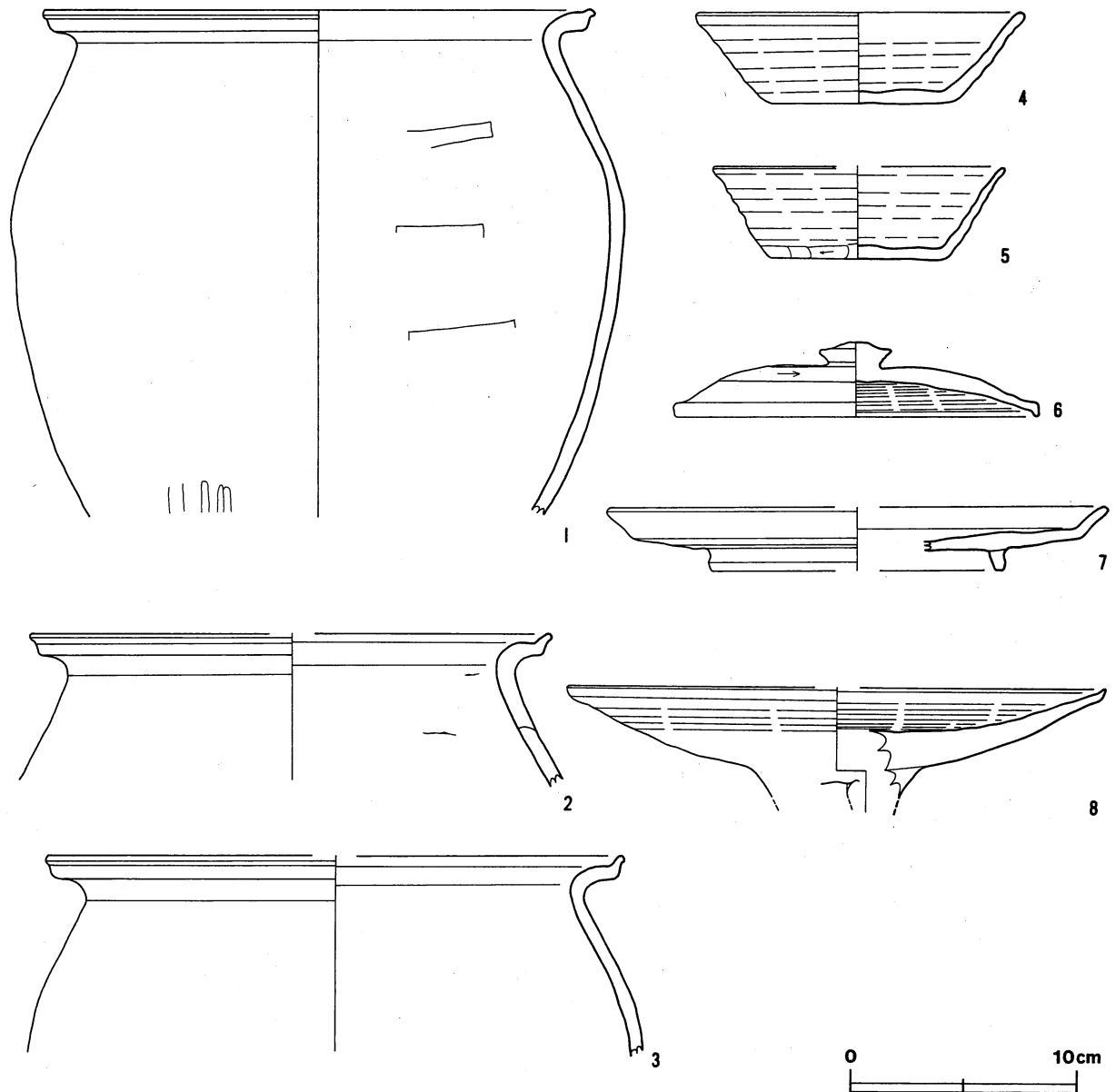
所見 時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 奈良時代の8世紀後葉と考えられる。

第98号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 1	甕 土師器	A 24.3 B (22.5)	底部, 体部, 口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は強く外反し, 端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へラ磨き。内面へラナデ。	長石 雲母 砂粒 におい褐色 普通	60% P113 床面直上 覆土下層



第44图 第98号住居跡実测图



第45図 第98号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 2	甕 土師器	A [22.8] B (6.5)	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面に輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 明褐色 普通	5% P114 覆土中層 覆土下層
3	甕 土師器	A [25.4] B (8.7)	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	5% P115 覆土下層
4	坏 須恵器	A 14.4 B 4.1 C 7.9	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	65% P108 覆土下層
5	坏 須恵器	A [12.8] B 4.1 C 7.8	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、一方向の手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	60% P109 覆土中層

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 6	蓋 須恵器	A [16.0] B 3.3 F 3.1 G 1.2	口縁部、天井部一部欠損。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で、緩やかに開く。口縁部は屈曲して垂下する。	つまみ、天井部、口縁部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	60% P110 覆土中層
7	盤 須恵器	A [21.9] B 2.8 D [13.0] E 1.0	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部の境に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 砂粒 灰色 良好	25% P111 覆土中層
8	高盤 須恵器	A [23.8] B (4.9)	脚部から口縁部の破片。底部は丸みを持った平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はつまみ上げられている。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。脚部貼り付け、ロクロナデ。	長石 砂粒 灰色 良好	15% P112 P4内

第99号住居跡 (第46図)

位置 調査区北部, B6a4区。

規模と平面形 長軸4.37m, 短軸4.32mの方形である。

主軸方向 N-14°-E

壁 壁高は34~42cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅10~25cm, 下幅5~10cm, 深さ3~8cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、各コーナー部付近を除き、踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで102cm, 最大幅145cm, 壁外への掘り込みは13cmである。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。特に、東側の袖部の内壁が赤変し、硬く締まっている。煙道部は外傾し、急に立ち上がる。

竈土層解説

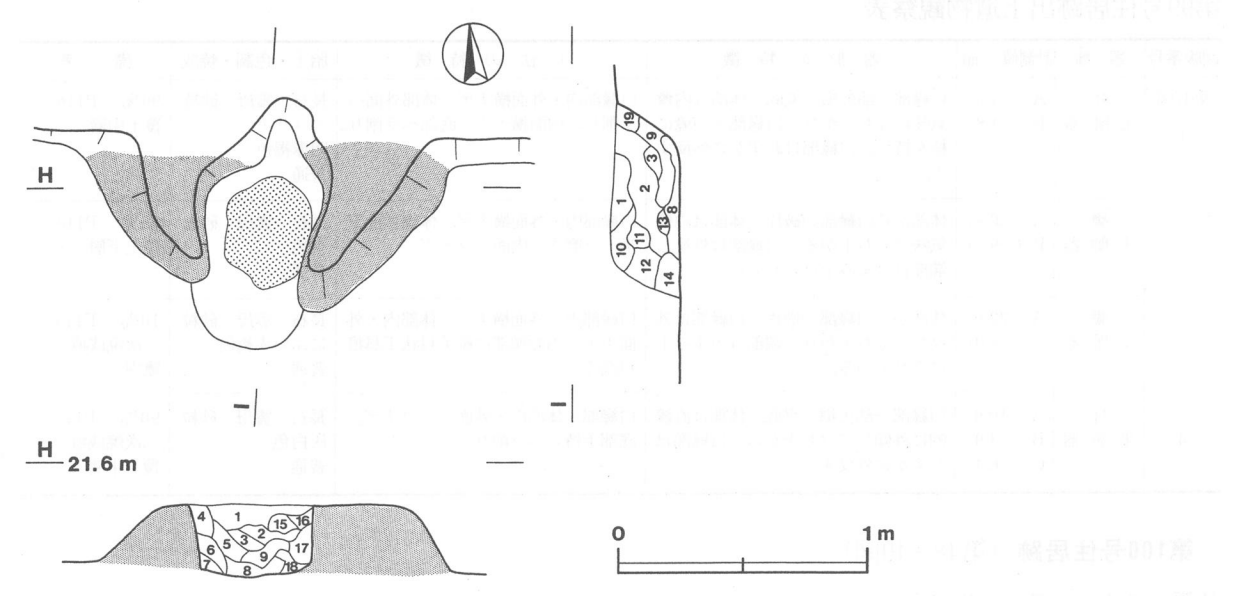
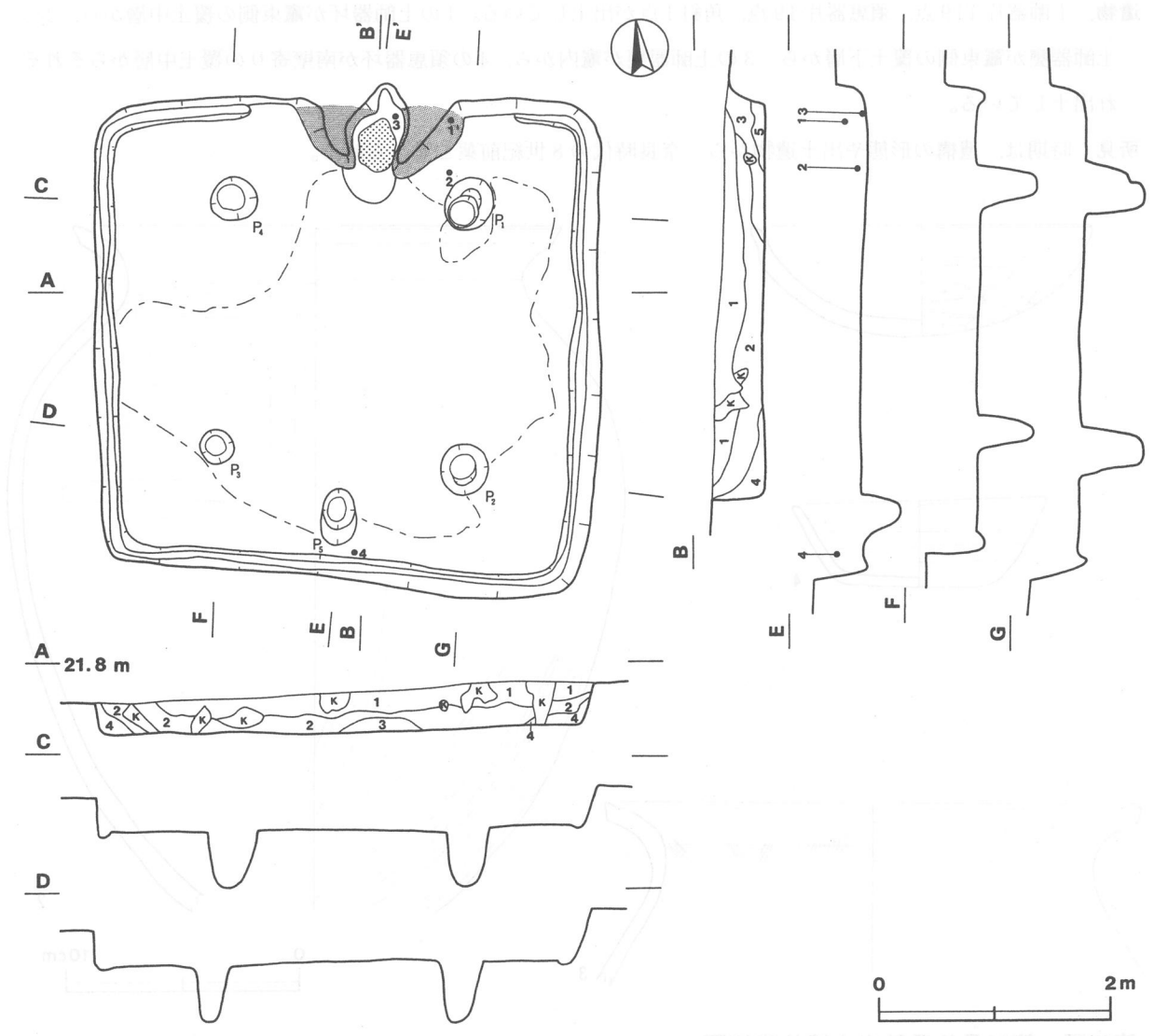
- | | |
|---|---|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 11 黒褐色 ローム粒子中量, 砂少量, 炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 12 暗赤褐色 ローム粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 13 赤褐色 焼土粒子多量, 焼土中ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 4 におい赤褐色 砂多量, ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 黒褐色 ローム粒子・砂中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 15 暗赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 6 極暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子中量, 炭化粒子・砂少量 | 16 暗赤褐色 ローム粒子・砂中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂微量 | 17 灰褐色 砂多量, ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 8 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量, ローム粒子・砂中量, 炭化粒子少量 | 18 黒褐色 焼土粒子多量, ローム粒子・砂少量, 炭化粒子微量 |
| 9 におい赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子・砂中量, 炭化粒子微量 | 19 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・砂少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 灰褐色 ローム粒子多量, 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | |

ピット 5か所 (P1~P5)。P1は長径49cm, 短径40cmの楕円形, P2~P4は径30~45cmの円形で、いずれも深さ47~53cmの支柱穴である。P5は長径49cm, 短径30cmの楕円形で、深さ33cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 5層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

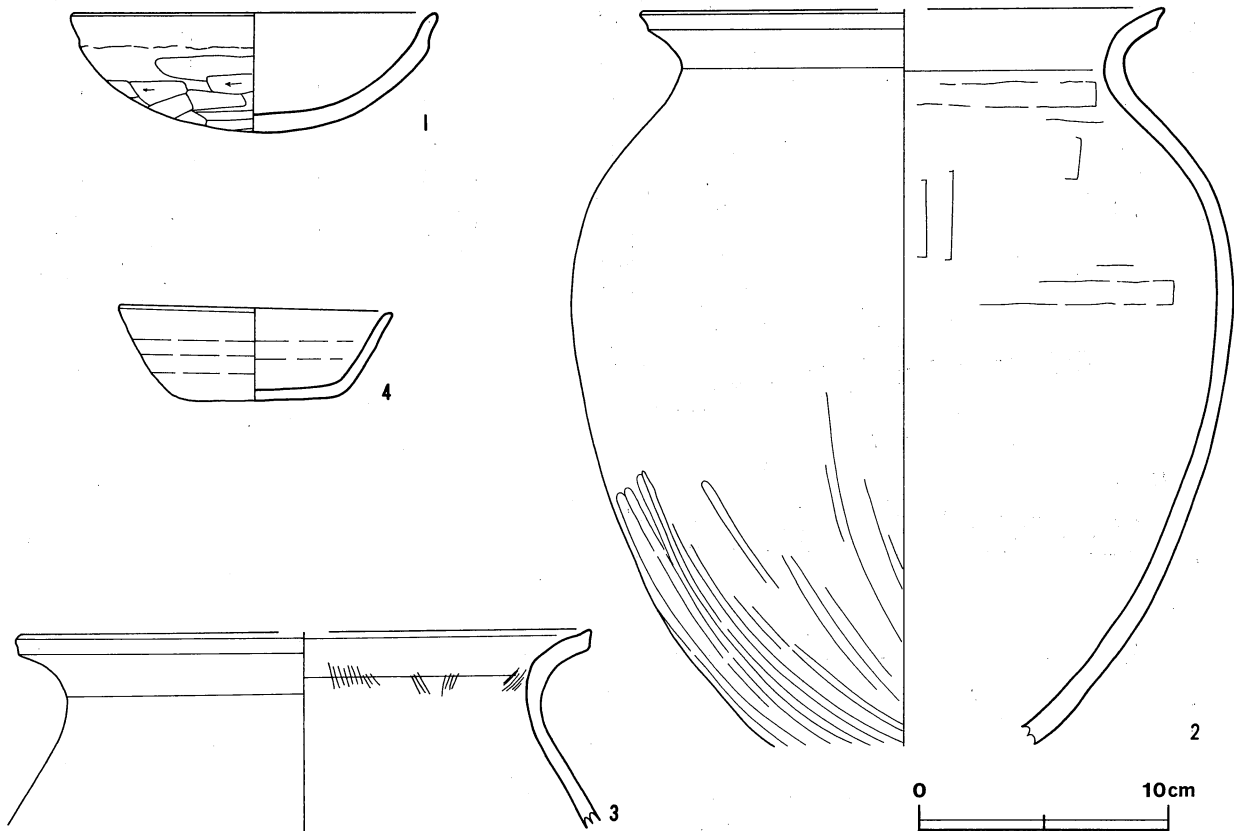
- | | |
|---|--|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量 | 3 暗褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量, 炭化物微量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム大・中ブロック微量 |
| | 5 黒褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |



第46图 第99号住居跡実测图

遺物 土師器片 119点, 須恵器片 19点, 角釘1点が出土している。1の土師器坏が竈東側の覆土中層から, 2の土師器甕が竈東側の覆土下層から, 3の土師器甕が竈内から, 4の須恵器坏が南壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 奈良時代の8世紀前葉と考えられる。



第47図 第99号住居跡出土遺物実測図

第99号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第47図 1	坏 土師器	A 14.5 B 4.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎 気味に立ち上がり, 口縁部との境に 稜を持つ。口縁部はわずかに外反す る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ ラ削り。内面横ナデ。底部へラ削り。	長石 雲母 砂粒 スコリア 明赤褐色 普通	90% P116 覆土中層
2	甕 土師器	A [20.8] B (29.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下 半へラ磨き。内面へラナデ。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	35% P118 覆土下層
3	甕 土師器	A [22.9] B (8.0)	体部から口縁部の破片。口縁部は外 反して立ち上がり, 端部はつまみ上 げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外 面ナデ。内面頸部に刷毛目状工具痕 が残る。	長石 雲母 砂粒 にぶい赤褐色 普通	10% P119 二次焼成痕 竈内
4	坏 須恵器	A 10.9 B 3.9 C 6.4	口縁部一部欠損。平底。体部は直線 的に外傾して立ち上がる。口縁部は わずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面クロロナデ。 底部手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	90% P117 二次焼成痕 覆土中層

第100号住居跡 (第48・49図)

位置 調査区北部, B6b5区。

規模と平面形 長軸 6.38m, 短軸 6.30m の隅丸方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は24~29cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁の西側を除いて、ほぼ全周している。上幅26~48cm、下幅5~18cm、深さ5~10cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで164cm、最大幅192cm、壁外への掘り込みは73cmである。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。東側の袖部は西側の袖部に比べて、厚く粘土で作られている。煙道部は外傾し、階段状に立ち上がる。

竈土層解説

1 暗赤褐色	焼土粒子中量, 焼土大・中・小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量	13 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土大ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
2 黒褐色	焼土小ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量	14 極暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子少量
3 極暗赤褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土大・中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量	15 極暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
4 極暗赤褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量	16 極暗赤褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
5 暗赤褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量	17 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
6 極暗赤褐色	焼土小ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子少量	18 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
7 黒褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム粒子少量	19 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量
8 極暗赤褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック少量, ローム粒子微量	20 暗赤褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム粒子・砂少量, 炭化粒子微量
9 暗褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量	21 黒褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
10 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土大・中ブロック少量, ローム粒子微量	22 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
11 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量	23 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土大・中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
12 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子少量		

ピット 7か所 (P₁~P₇)。P₁, P₂, ならびにP₄は長径110~143cm, 短径65~79cmの楕円形, P₃は長径137cm, 短径70cmの不定形で、いずれも深さ58~76cmの主柱穴である。P₅は長径87cm, 短径77cmの楕円形で、深さ32cmの出入り口施設に伴うピットである。P₆とP₇は長径95~167cm, 短径94~110cmの不整楕円形で、いずれも深さ23~28cmで、性格は不明である。

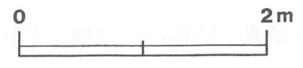
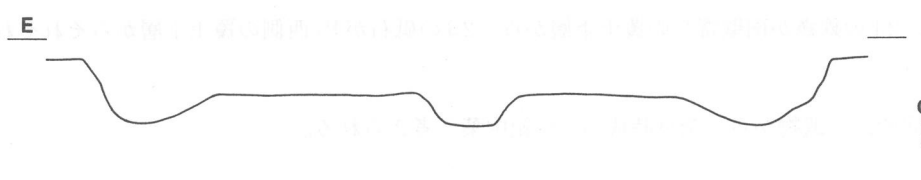
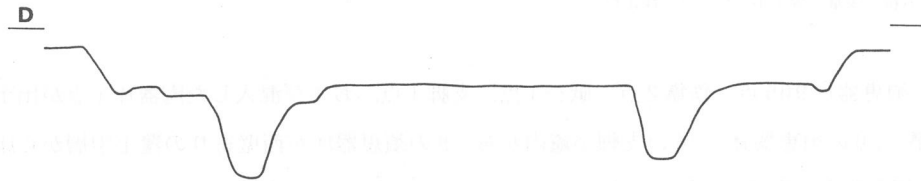
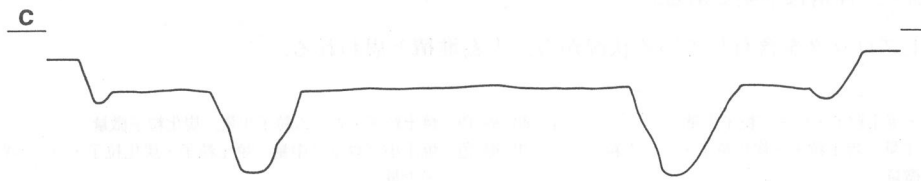
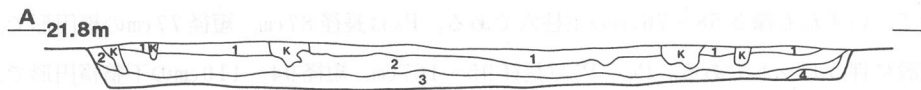
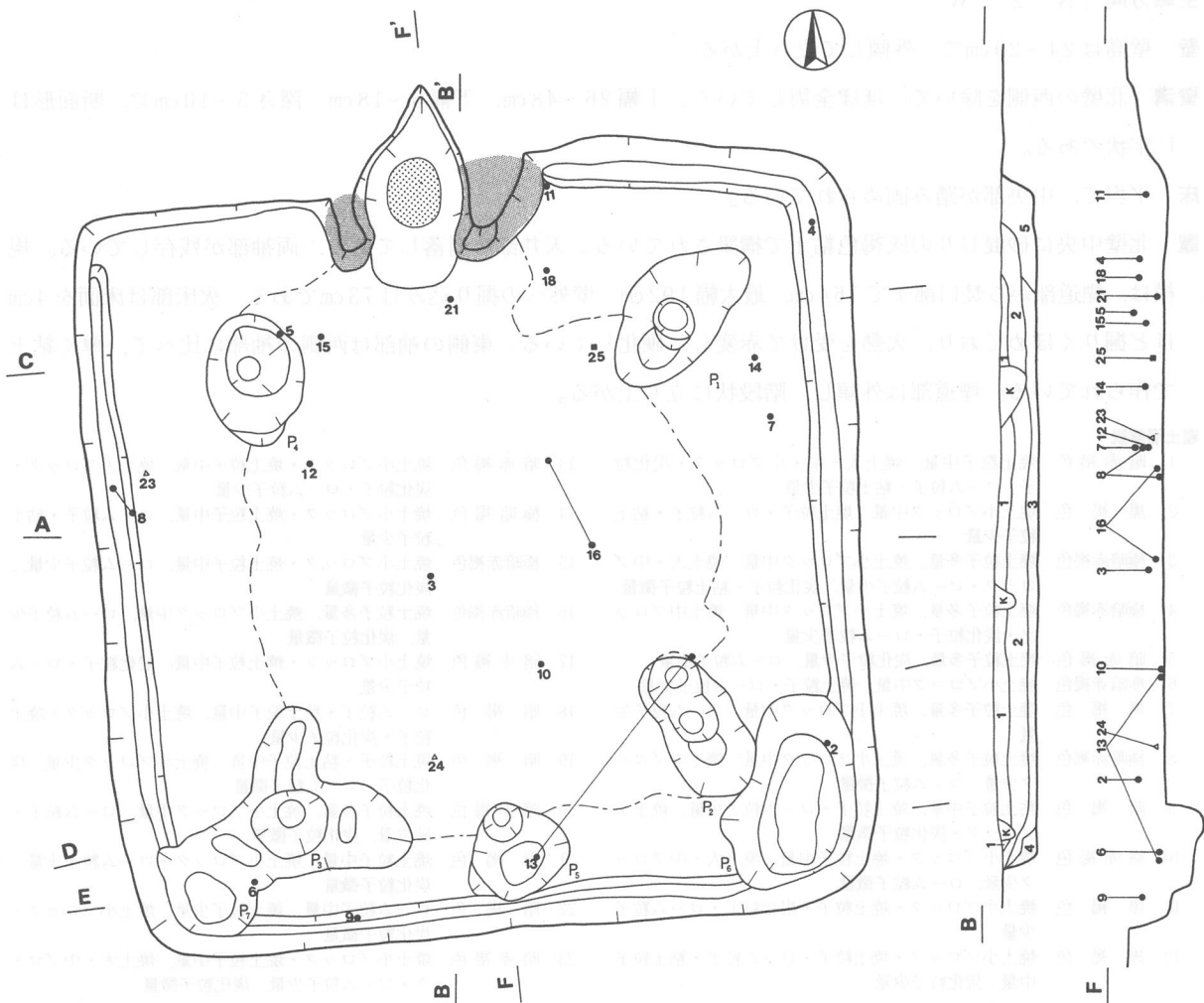
覆土 5層からなり、焼土ブロックを含有している状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

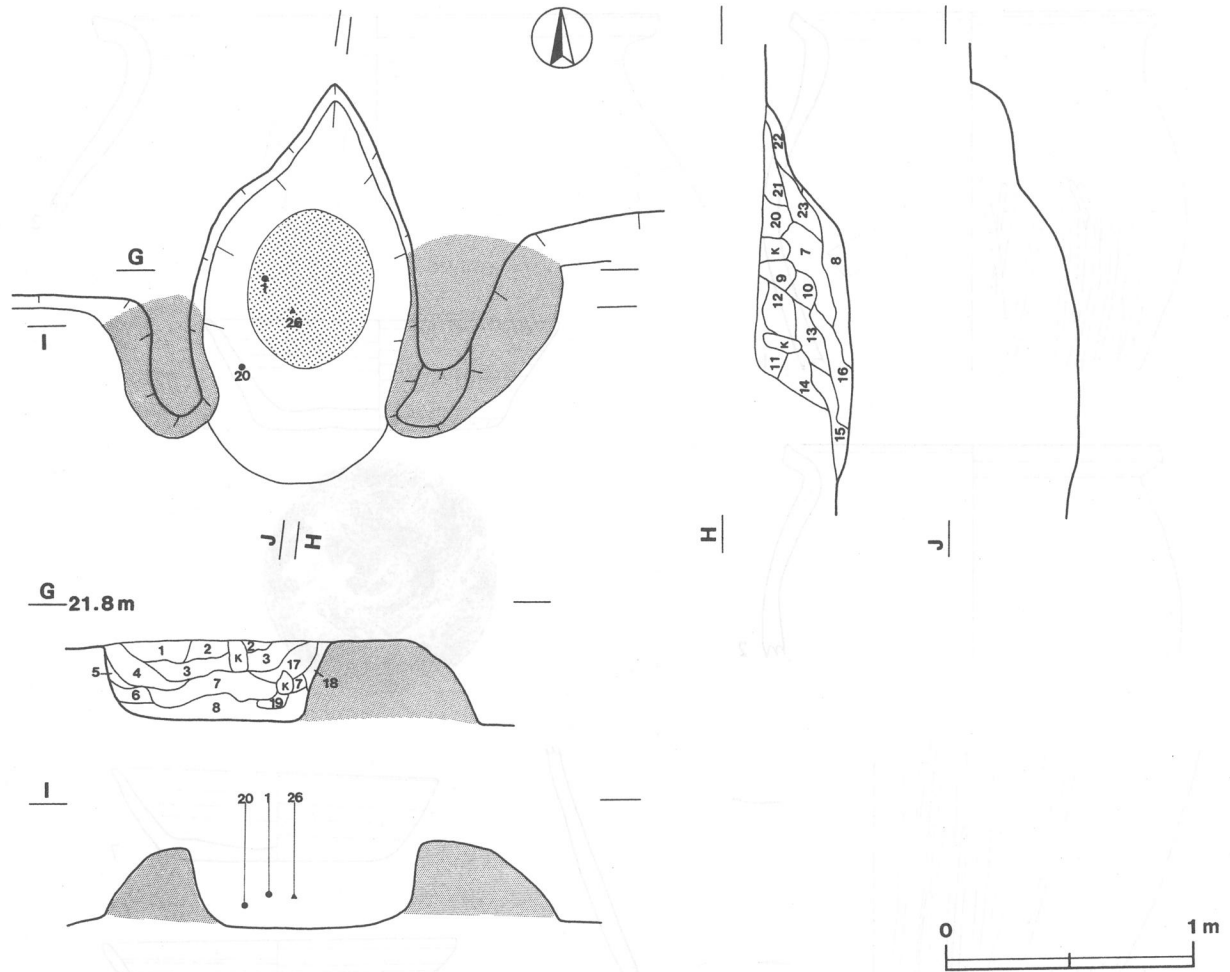
1 暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量	4 暗褐色	焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2 黒褐色	焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, 炭化物微量	5 黒褐色	焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
3 極暗褐色	焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量		

遺物 土師器片1348点, 須恵器片905点, 鉄鏃2点, 砥石1点, 支脚1点, および混入した陶器片1点が出土している。1の土師器甕, 20の須恵器鉢, 26の支脚が竈内から, 8の須恵器坏が西壁寄りの覆土中層から床面直上にかけて, 21の須恵器甕が竈手前の覆土下層から, 22の須恵器円面硯が覆土中から, 23の刀子が西壁寄りの覆土下層から, 24の鉄鏃が南壁寄りの覆土下層から, 25の砥石がP₁西側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀中葉と考えられる。



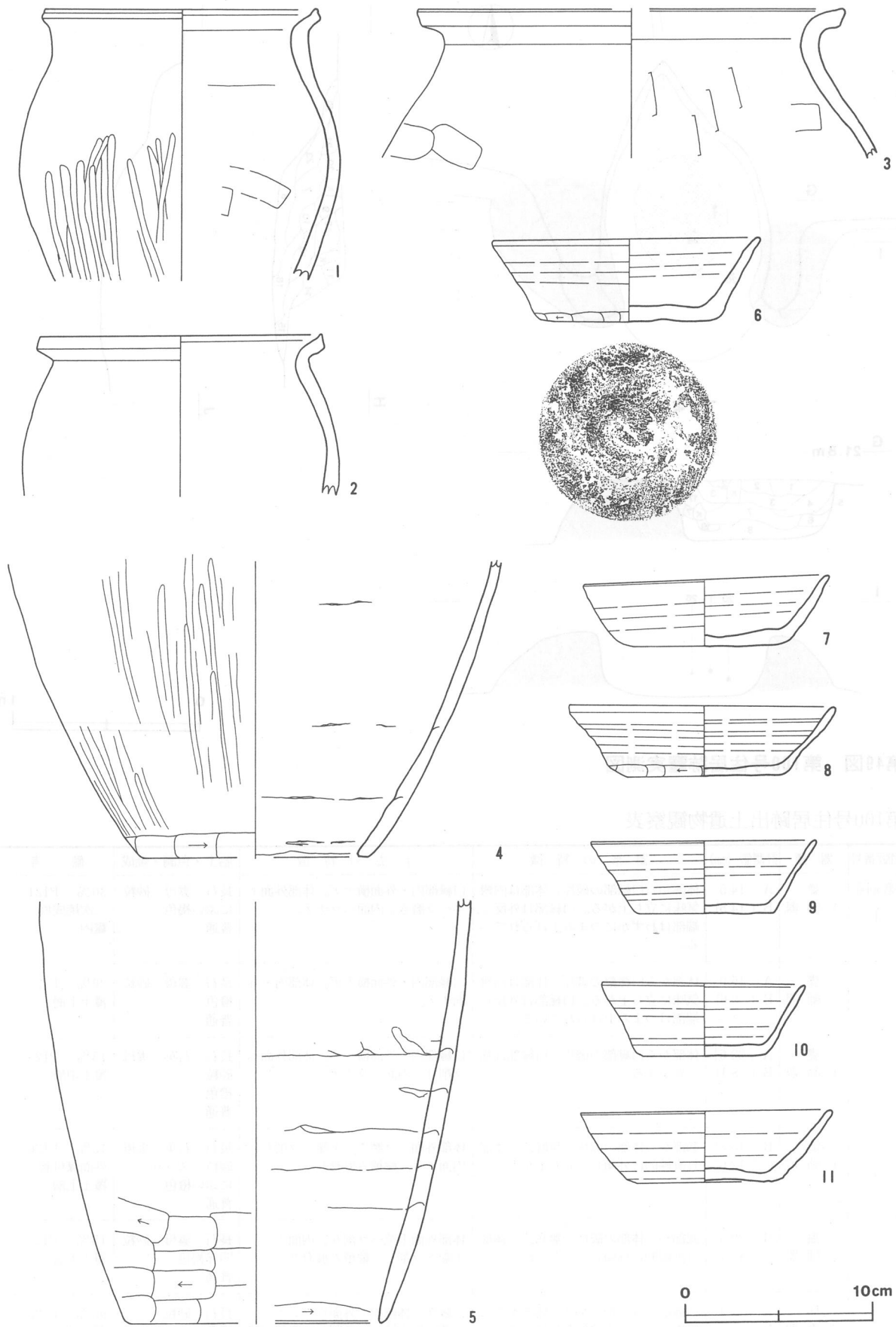
第48图 第100号住居跡実測图



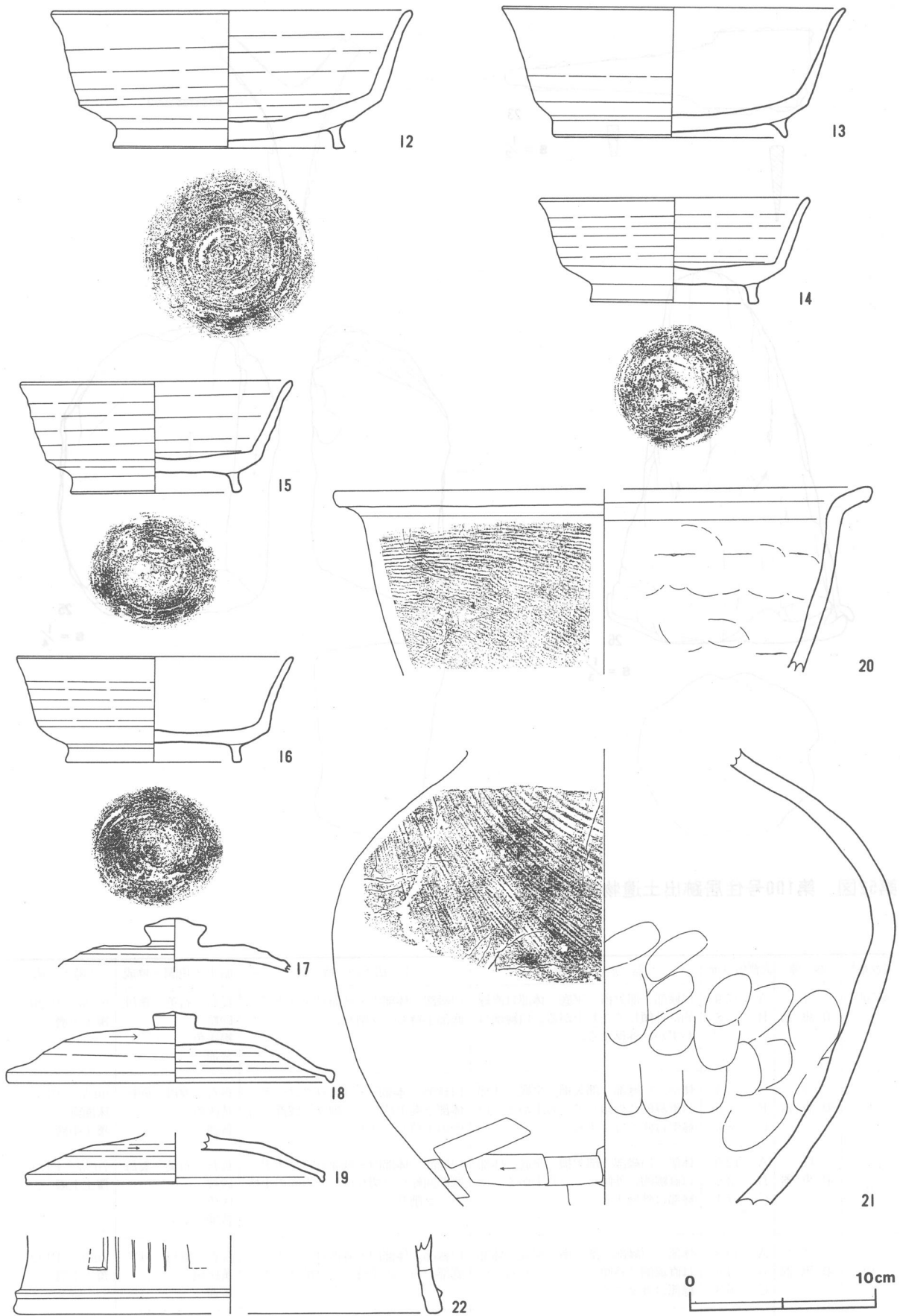
第49図 第100号住居跡竈実測図

第100号住居跡出土遺物観察表

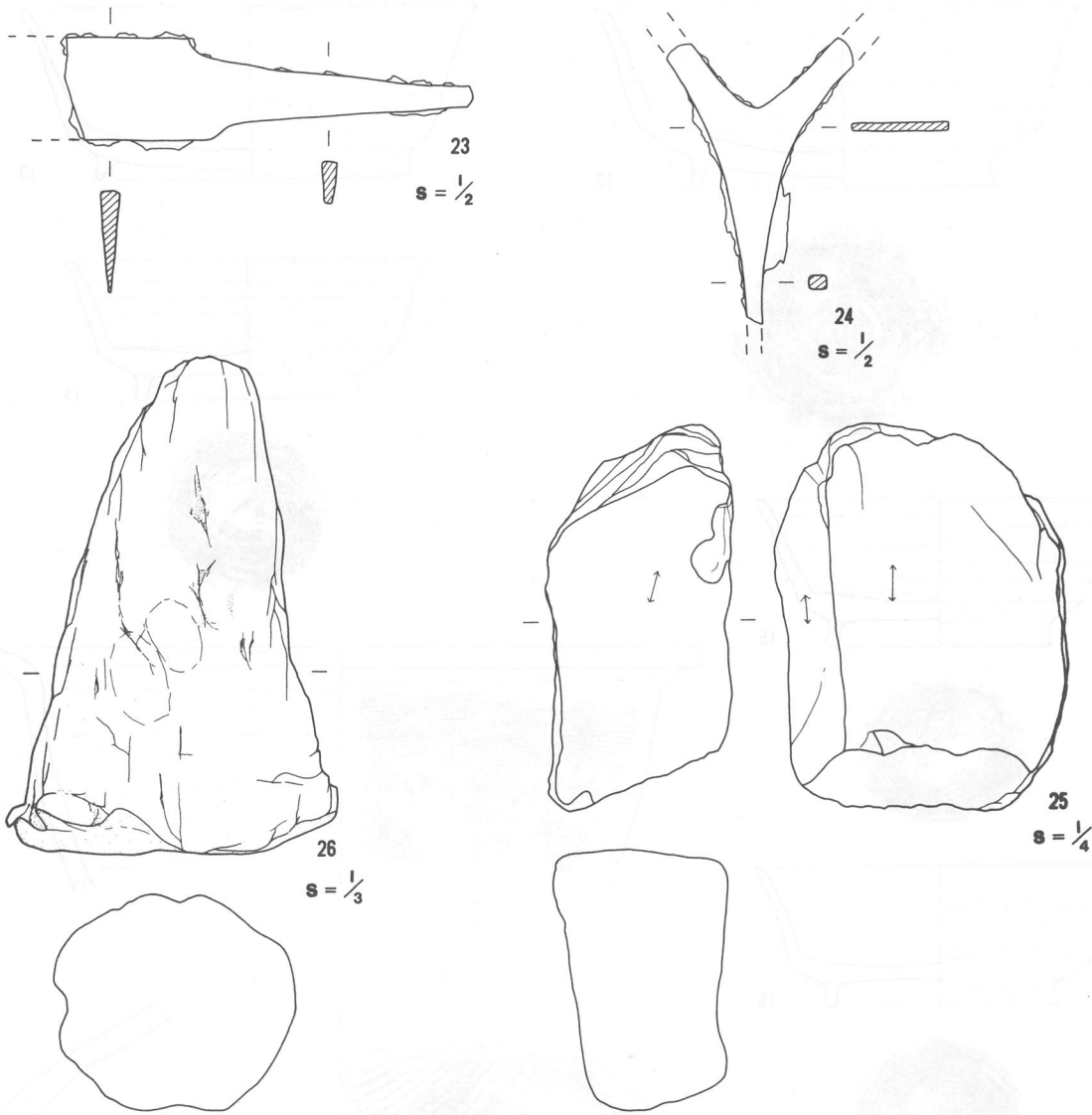
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第50図 1	甕 土師器	A 14.5 B (14.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部は外反し、 端部はわずかにつまみ上げられてい る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下 半ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 にふい褐色 普通	30% P121 二次焼成痕 竈内
2	甕 土師器	A 15.0 B (8.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部は外反し、 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外 面ナデ。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	20% P122 覆土上層
3	甕 土師器	A [22.6] B (8.1)	体部から口縁部の破片。口縁部は強 く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘ ラ削り。内面ヘラナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 橙色 普通	15% P123 覆土中層
4	甕 土師器	B (15.8) C [12.0]	底部から体部の破片。無底式。体部 は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き、下端ヘラ削り。 内面ナデ、輪積み痕有り。	長石 石英 雲母 砂粒 スコリア にふい橙色 普通	15% P126 外面煤付着 覆土上層
5	甕 土師器	B (22.5) C [13.6]	底部から体部の破片。無底式。体部 は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ、 下端ヘラ削り、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	15% P127 覆土上層
6	坏 須恵器	A 14.4 B 4.6 C 9.4	口縁部一部欠損。平底。体部から口 縁部にかけて、直線的に外傾して立ち 上がる。	口縁部、体部内・外面クロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部回転 ヘラ切り後、雑な手持ちヘラ削り。	長石 砂粒 灰色 普通	95% P128 覆土下層



第50图 第100号住居跡出土遺物実測図(1)



第51图 第100号住居跡出土遺物実測図(2)



第52図 第100号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第50図 7	坏 須恵器	A 12.9 B 3.8 C 7.8	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちへら削り。	長石 石英 雲母 砂粒 褐灰色 普通	95% P129 覆土上層
8	坏 須恵器	A 14.1 B 3.9 C 8.3	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は強く外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部一方向の手持ちへら削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	90% P130 床面直上 覆土中層
9	坏 須恵器	A 12.0 B 3.9 C 7.1	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら切り後, 一方向の手持ちへら削り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰色 普通	70% P131 覆土上層
10	坏 須恵器	A 10.8 B 4.0 C 6.8	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部一方向の手持ちへら削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	70% P132 覆土下層
11	坏 須恵器	A 13.5 B 3.9 C 7.2	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて, 直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転へら削り。底部回転へら削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	70% P133 覆土中層

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第51図 12	高台付坏 須恵器	A 19.5	体部、口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、下位に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 砂粒 灰色 普通	85% P134 覆土中層
		B 7.5				
		D 12.4				
		E 1.4				
13	高台付坏 須恵器	A 18.5	高台部、体部、口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、下位に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	85% P135 覆土下層
		B 7.0				
		D 12.4				
		E 1.0				
14	高台付坏 須恵器	A 14.5	体部、口縁部一部欠損。高台部は直線的に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、下位に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 砂粒 灰色 普通	80% P136 覆土中層
		B 5.7				
		D 8.9				
		E 1.1				
15	高台付坏 須恵器	A 14.5	体部、口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、下位に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 砂粒 灰色 普通	70% P137 覆土中層
		B 6.0				
		D 9.1				
		E 1.2				
16	高台付坏 須恵器	A 15.0	高台部、体部、口縁部一部欠損。高台部は直線的に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、下位に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 砂粒 灰色 普通	70% P138 覆土下層
		B 5.7				
		D 9.5				
		E 0.9				
17	蓋 須恵器	B (2.8)	天井部の破片。ボタン状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で、緩やかに開く。	つまみ、天井部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 スコリア にぶい褐色 普通	15% P120 覆土中
		F 3.4				
		G 1.5				
18	蓋 須恵器	A 17.3	口縁部一部欠損。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で、緩やかに開く。口縁部は屈曲して垂下する。	つまみ、天井部、口縁部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 砂粒 黄灰色 普通	70% P139 覆土上層
		B 3.8				
		F 2.3				
		G 1.0				
19	蓋 須恵器	A 16.0	つまみ、天井部、口縁部一部欠損。天井部はほぼ平坦で、内彎気味に開く。口縁部は屈曲して垂下する。	天井部、口縁部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	70% P140 覆土中
		B (2.7)				
20	鉢 須恵器	A [38.0]	体部から口縁部の破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ、当て具痕、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	10% P141 竈内
		B (13.4)				
21	甕 須恵器	B (24.6)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、上位で最大径を有する。	体部外面平行叩き、下位ヘラ削り。内面ナデ、当て具痕有り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰色 普通	60% P142 二次焼成痕 覆土下層
22	円面 硯 須恵器	B (4.3)	脚部片。透かし窓の間に4本の刻みがある。下位に1条の隆帯が巡る。	脚部内・外面ロクロナデ。透かし窓ヘラ切り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	5% P143 覆土中
		D [22.5]				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第52図23	刀子	(10.7)	(2.8)	(0.5)	(30)	覆土下層	M6
24	鉄 鏃	(7.7)	(5.0)	(0.4)	(16)	覆土下層	M7 80%

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
25	砥石	20.7	10.0	15.5	4520	砂岩	覆土下層	Q6 100%

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
26	支脚	20.2	13.3	1470	竈内	DP2 100%

第101号住居跡 (第53図)

位置 調査区北部, A6i2区。

規模と平面形 長軸4.54m, 短軸3.80mの長方形である。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は35~43cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北東コーナー部を除いて, ほぼ全周している。上幅12~38cm, 下幅6~11cm, 深さ5~8cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで124cm, 最大幅185cm, 壁外への掘り込みは48cmである。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。特に, 両袖部の内壁が赤変し, 硬く締まっている。煙道部は外傾し, 階段状に立ち上がる。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量		炭化粒子・粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量	10 灰褐色	ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
3 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量	11 暗赤褐色	焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子・砂中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
5 極暗赤褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量	13 暗赤褐色	焼土粒子多量, 粘土粒子・砂中量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
6 におい赤褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子微量	14 暗赤褐色	焼土粒子・ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量
7 暗赤褐色	焼土粒子多量, 焼土中ブロック中量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量	15 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子・砂少量, 炭化粒子微量
8 暗赤褐色	焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量	16 極暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・砂少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
9 暗赤褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・		

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁とP₂は長径48~58cm, 短径27~34cmの楕円形, P₃は径33cmの円形で, いずれも深さ37~49cmの支柱穴である。P₄は径27cmの円形で, 深さ14cmの出入り口施設に伴うピットである。

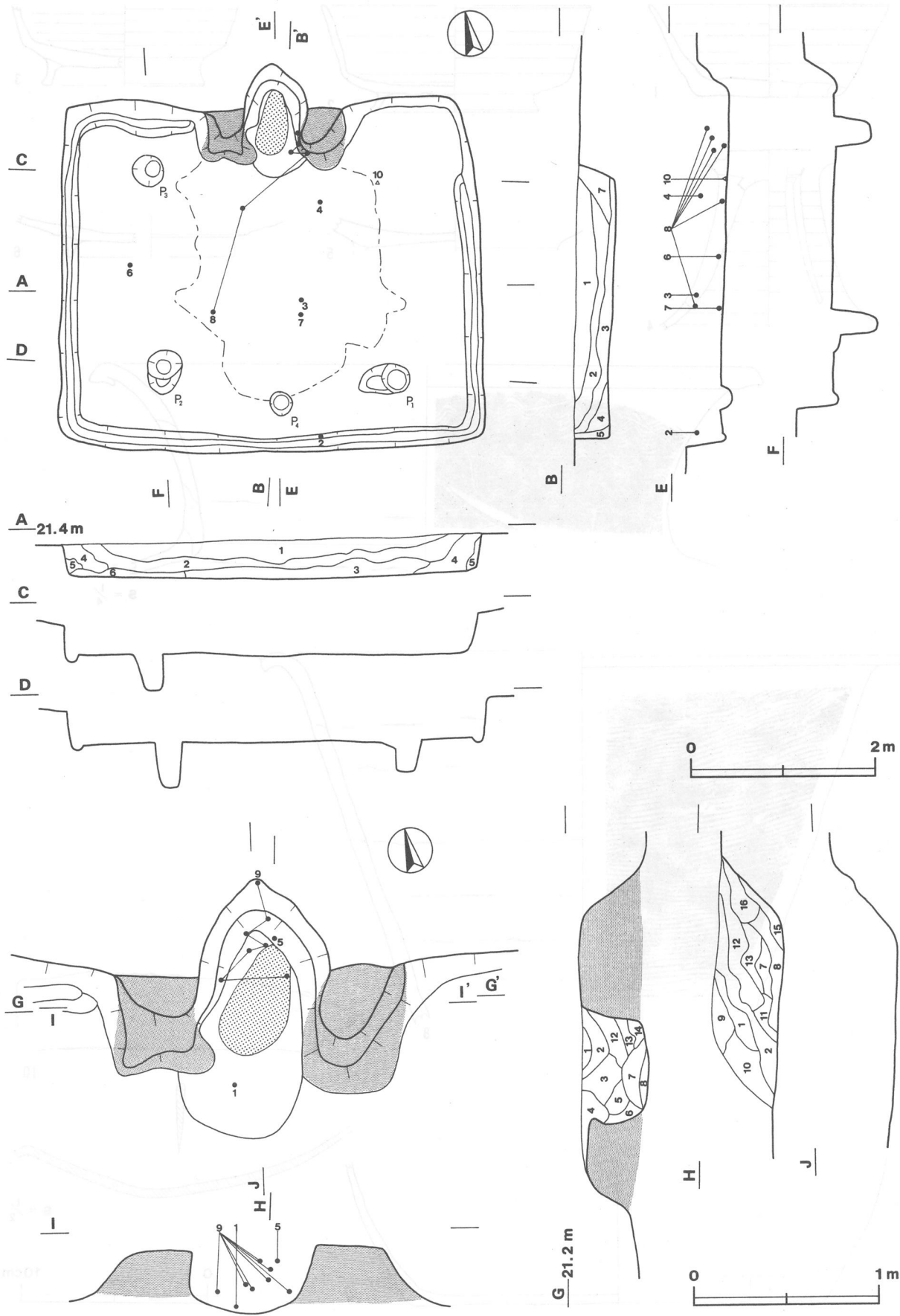
覆土 7層からなり, 不自然な堆積の状況がみられることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

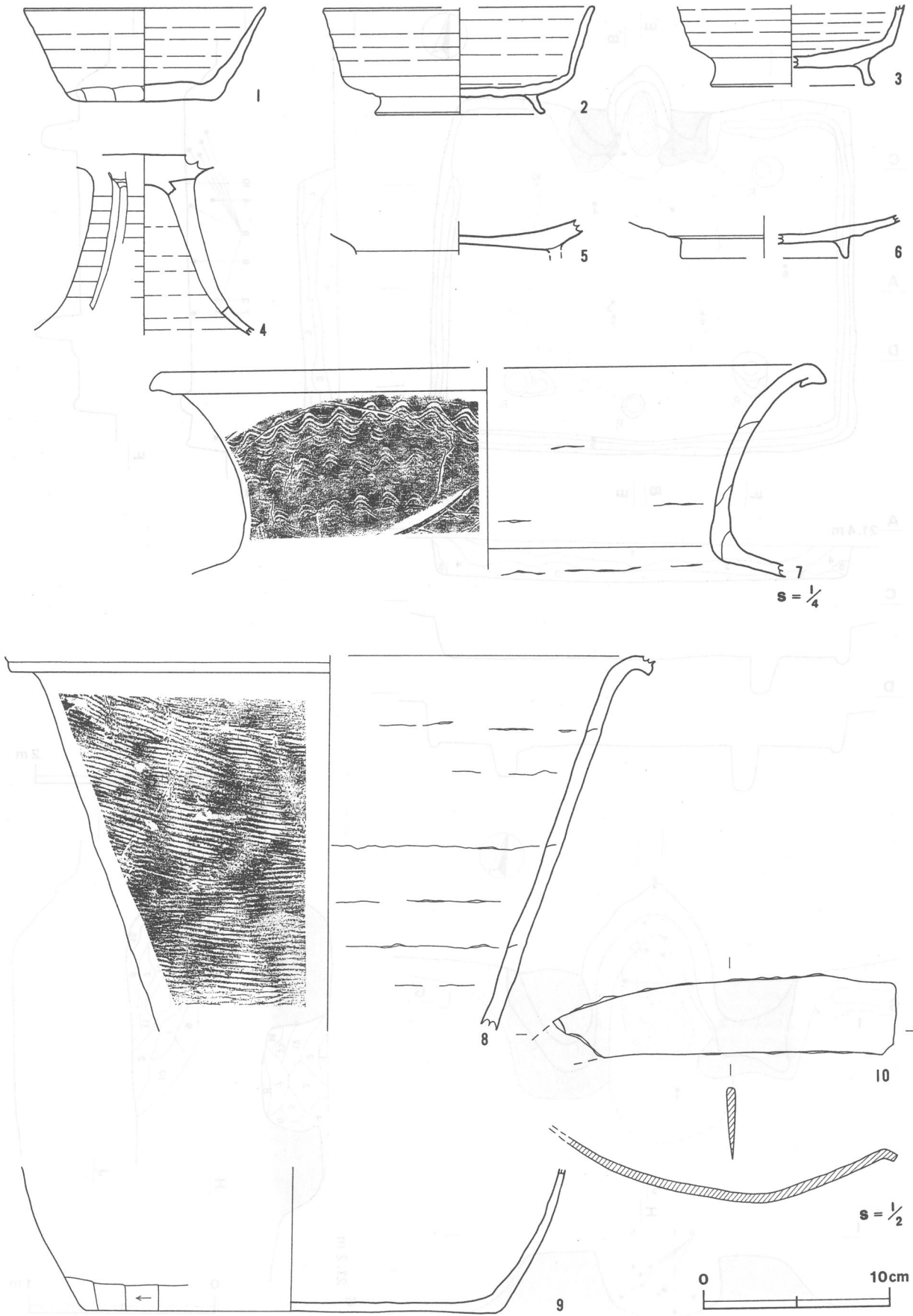
1 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量		焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量	5 褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
3 灰褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量	6 黒褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
4 黒褐色	炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量,	7 暗褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量

遺物 土師器片214点, 須恵器片124点, 鎌1点, 鉄滓4点, および混入した陶器片5点が出土している。1の須恵器坏が逆位で, 5の須恵器盤, 9の須恵器甕が竈内から, 6の須恵器盤が西壁寄りの覆土下層から, 7の須恵器甕が中央部の覆土下層から, 8の須恵器鉢が中央部の覆土上層から竈内までの広範囲にわたり, 10の鎌が竈手前東側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 1の須恵器坏は竈内から出土しているが, 二次焼成を受けていないことから, 竈祭祀に使用された可能性がある。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 奈良時代の8世紀後葉と考えられる。



第53图 第101号住居跡実測图



第54图 第101号住居跡出土遺物実測図

第101号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第54図 1	坏 須恵器	A 13.0 B 5.1 C 8.0	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、雑な手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	95% P144 竈内
2	高台付坏 須恵器	A [14.5] B 5.8 D 9.0 E 1.0	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、下位に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	40% P145 覆土上層
3	高台付坏 須恵器	B (4.4) D [8.6] E 1.4	高台部から体部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、下位に稜を持つ。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 石英 砂粒 灰色 普通	30% P146 覆土上層
4	高 盤 須恵器	B (9.8)	脚部から底部の破片。脚部はラッパ状に開き、3孔を有する。	脚部貼り付け、ロクロナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 橙色 普通	15% P147 覆土上層
5	盤 須恵器	B (1.7)	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 橙色 普通	20% P148 竈内
6	盤 須恵器	B (2.3) C [9.0]	高台部から体部の破片。高台部は直線的に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 におい褐色 普通	15% P149 覆土下層
7	甕 須恵器	A [45.8] B (14.5)	体部から口縁部の破片。頸部はくの字状に強く屈曲する。端部直下は折り返されている。	口縁部外面に7本単位の櫛歯状工具による波状文が3条施されている。内面ナデ、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 におい黄褐色 普通	15% P150 二次焼成痕 覆土下層
8	鉢 須恵器	B (20.1)	体部から口縁部の破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ、輪積み痕有り。	長石 砂粒 灰色 普通	15% P151 竈内 覆土上層
9	甕 須恵器	B (7.9) C 22.5	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面摩擦のため調整不明。外面下位ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 におい黄褐色 不良	20% P152 竈内

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
10	鉄 鎌	(12.3)	(2.7)	(0.3)	(33)	覆土下層	M8

第102号住居跡 (第55図)

位置 調査区北部, B6a1区。

重複関係 本跡は、第103・104号住居跡と重複している。第103・104号住居跡が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.65m, 短軸(3.10)mの方形または長方形と推定される。

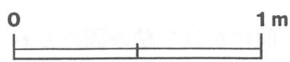
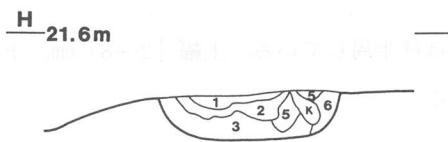
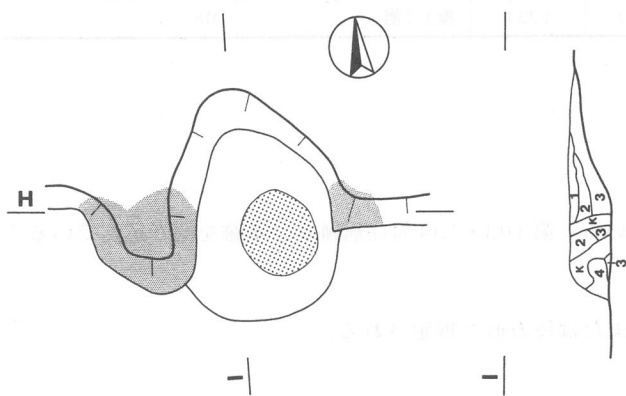
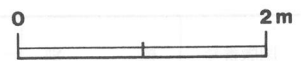
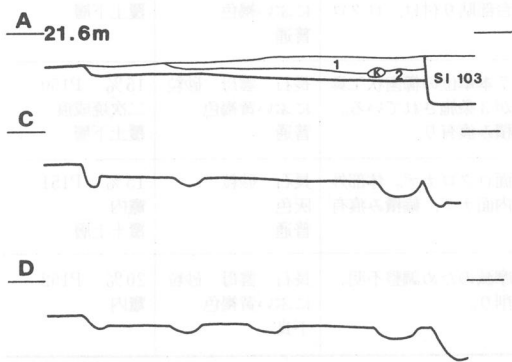
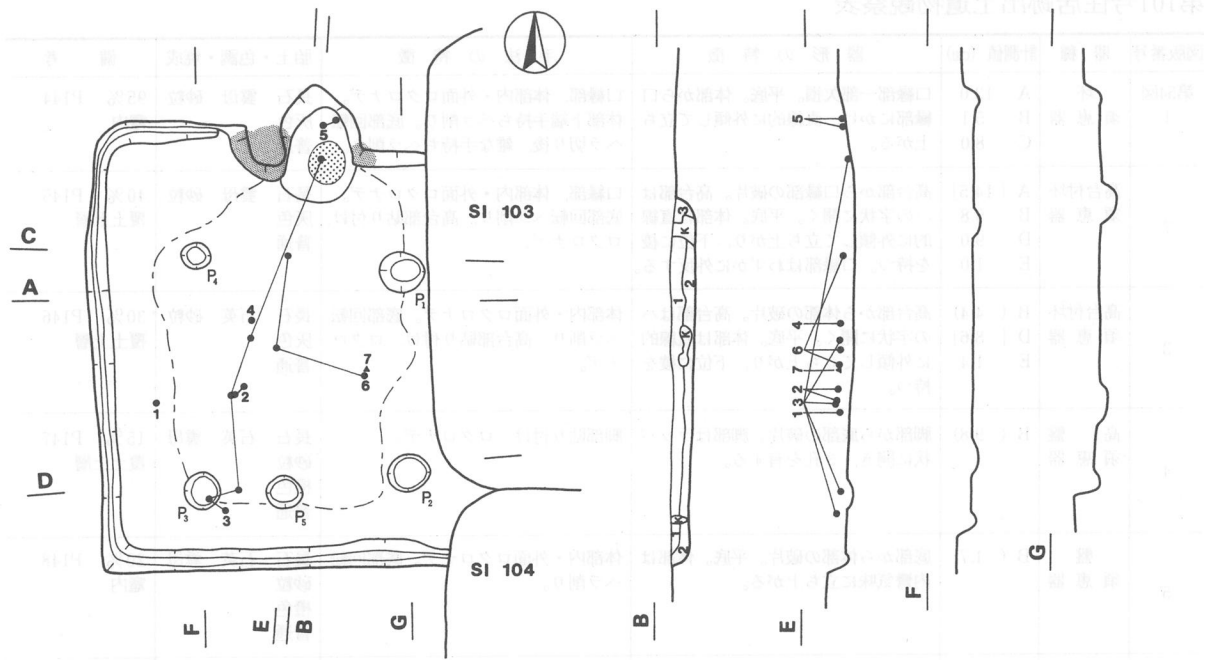
主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は10~16cmで、外傾して立ち上がる。

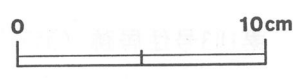
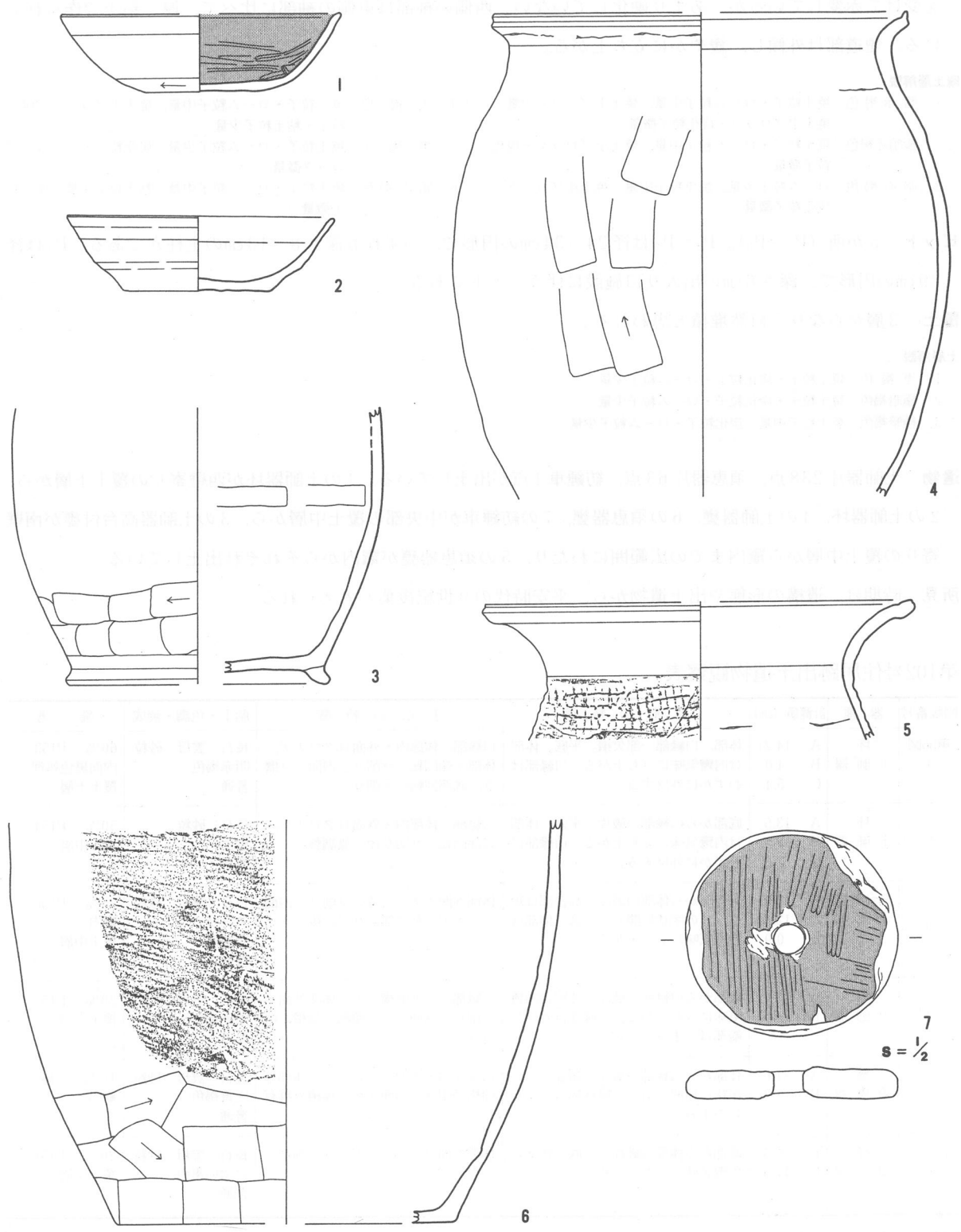
壁溝 第103・104号住居跡に掘り込まれた東壁は確認できないが、ほぼ半周している。上幅[2~8]cm, 下幅[10~28]cm, 深さ[3~8]cmで、断面形はU字状と推定される。

床 平坦で、出入り口施設から竈手前にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央付近に、砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで94cm, 最大幅123cm, 壁外への掘り込みは43cmである。火床部は火熱



第55图 第102号住居迹実测图



第56图 第102号住居跡出土遺物実測図

を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。西側の袖部は東側の袖部に比べて、厚く粘土で作られている。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---|--------|-----------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 2 極暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径24~34cmの円形で、いずれも深さ8~13cmの支柱穴である。P₅は径29cmの円形で、深さ6cmの出入口施設に伴うピットである。

覆土 3層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量

遺物 土師器片238点, 須恵器片63点, 紡錘車1点が出土している。1の土師器坏が西壁寄りの覆土下層から、2の土師器坏, 4の土師器甕, 6の須恵器甕, 7の紡錘車が中央部の覆土中層から、3の土師器高台付甕が南壁寄りの覆土中層から竈内までの広範囲にわたり、5の須恵器甕が竈内からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後葉と考えられる。

第102号住居跡出土遺物観察表

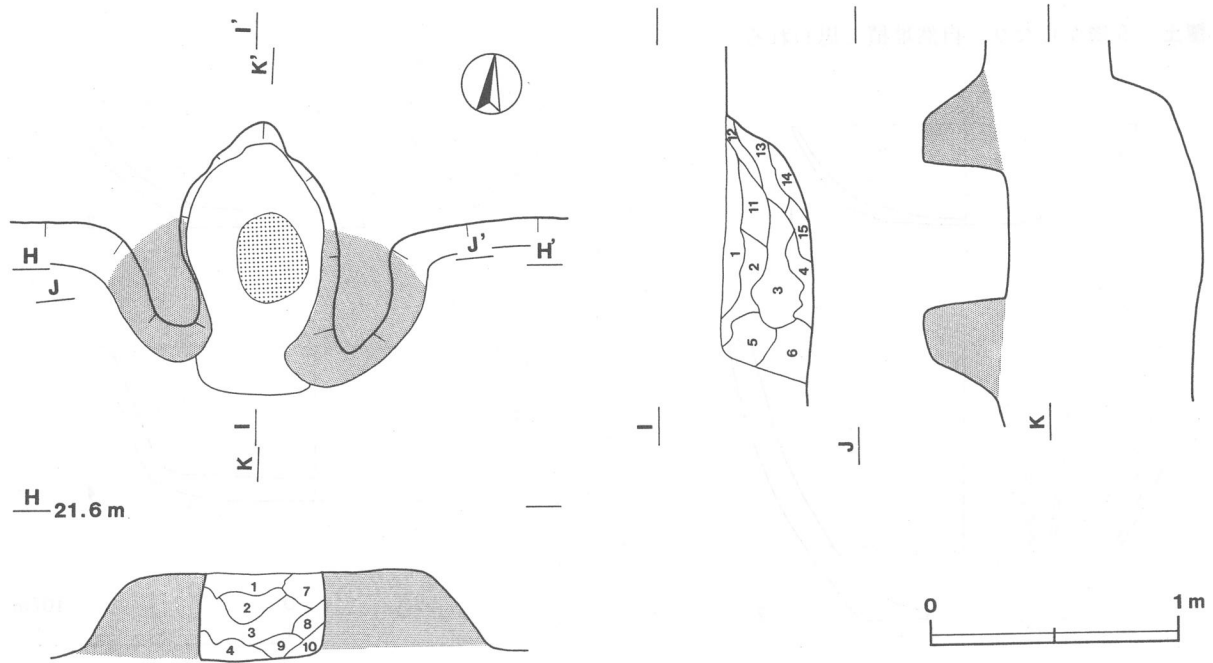
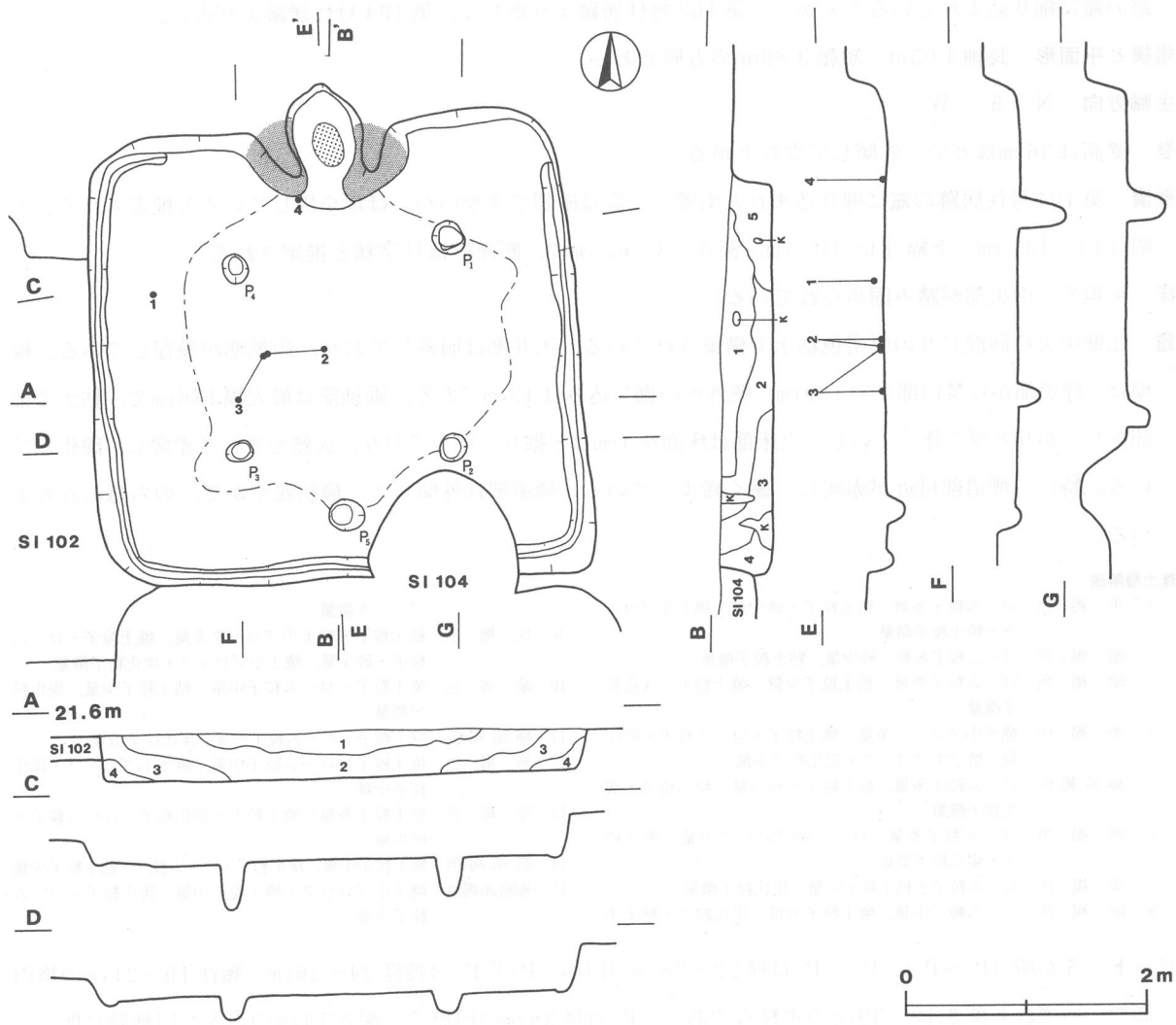
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第56図 1	坏 土師器	A [14.2] B 4.0 C 5.4	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	60% P153 内面黒色処理 覆土下層
2	坏 土師器	A 13.5 B 3.9 C 7.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後, 無調整。	長石 砂粒 橙色 普通	50% P154 覆土中層
3	高台付甕 土師器	B (14.0) D [12.8] E 0.9	高台部から体部の破片。高台部は短く, ハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ナデ, 下位ヘラ削り。内面ヘラナデ。高台部貼り付け後, ナデ。	長石 雲母 砂粒 スコリア 明褐色 普通	25% P156 竈内 覆土中層
4	甕 土師器	A [21.0] B (24.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。頸部に輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	20% P157 覆土中層
5	甕 須恵器	A [21.6] B (6.9)	体部から口縁部の破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面格子叩き。内面ナデ, 輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	10% P155 竈内
6	甕 須恵器	B (20.3) C [17.0]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面平行叩き, 下位ヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	20% P158 覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
7	紡錘車	7.1	1.0	1.0	(64)	覆土中層	DP3 土師器転用 黒色処理 ヘラ磨き痕有り 95%

第103号住居跡 (第57図)

位置 調査区北部, A6j₂区。

重複関係 本跡は、第102・104号住居跡と重複している。本跡は第102号住居跡を掘り込み、第104号住居



第57图 第103号住居跡実測図

跡の竈に掘り込まれていることから、第102号住居跡より新しく、第104号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸4.03m、短軸3.89mの方形である。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は36cmほどで、外傾して立ち上がる。

壁溝 第104号住居跡の竈に掘り込まれた南壁の一部は確認できないが、ほぼ全周していると推定される。上幅[13~33]cm、下幅[4~10]cm、深さ[3~6]cmで、断面形はU字状と推定される。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

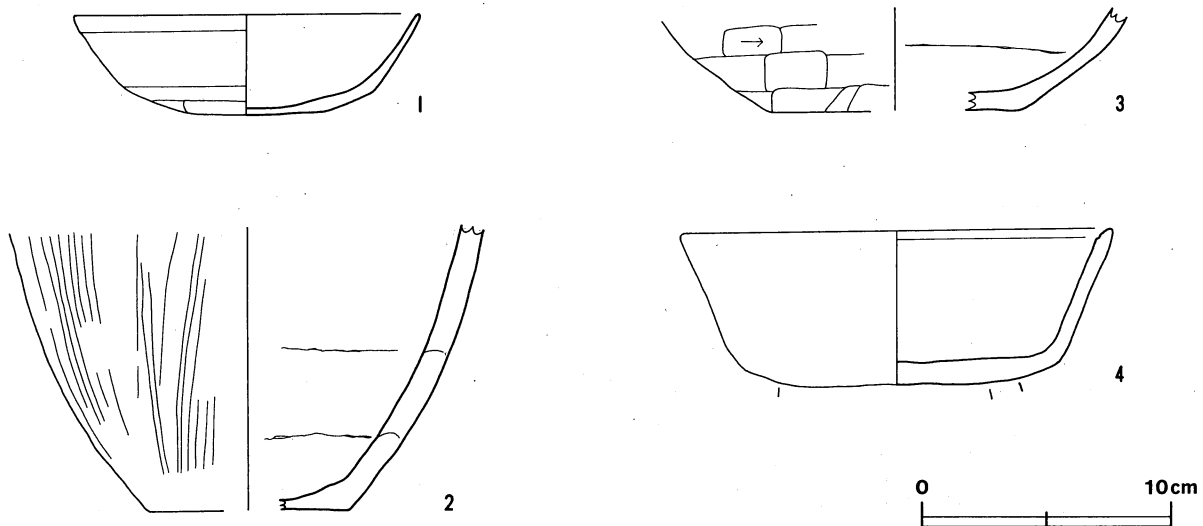
竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで109cm、壁外への掘り込みは43cmである。両袖部は最大幅136cmで、粘土で袖部をしっかりと厚く作っている。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。特に、煙道部付近が赤変し、硬く締まっている。煙道部は外傾して、最初緩やかで、のち急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---|----------|--|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量, 粘土粒子・砂少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 9 灰褐色 | 粘土粒子・粘土小ブロック多量, 焼土粒子・ローム粒子・砂少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量, 砂少量, 粘土粒子微量 | 10 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土小ブロック多量, 焼土粒子・ローム粒子・砂中量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量 | 12 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 極暗褐色 | ローム粒子多量, 粘土粒子・砂少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | 粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子微量 | 15 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土小ブロック微量 | | |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁とP₂は径22~28cmの円形、P₃とP₄は長径24~26cm、短径16~21cmの楕円形で、いずれも深さ18~39cmの主柱穴である。P₅は径28cmの円形で、深さ14cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 5層からなり、自然堆積と思われる。



第58図 第103号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|--|--------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片 46点, 須恵器片 12点が出土している。1の土師器坏が西壁寄りの覆土中層から, 2, 3の土師器甕が中央部の覆土下層から, 4の須恵器高台付坏が竈手前の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 4の須恵器高台付坏は古く, 時期的な違いがあることから, 流れ込みと考えられる。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀後葉と考えられる。

第103号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第58図 1	坏 土師器	A 13.8 B 4.1 C 5.3	底部, 体部, 口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	80% P161 二次焼成痕 覆土中層
2	甕 土師器	B (11.2) C [8.0]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き。内面ナデ, 輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	10% P163 覆土下層
3	甕 土師器	B (3.7) C [10.0]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	10% P164 覆土下層
4	高台付坏 須恵器	A [17.3] B (6.2)	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。口縁端部内面に1条の沈線が巡る。底部摩滅のため調整痕不明。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	50% P162 床面直上

第104号住居跡 (第59図)

位置 調査区北部, B6a₂区。

重複関係 本跡は第102・103号住居跡と重複している。本跡が, 第102・103号住居跡を掘り込んでいることから, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸 4.23m, 短軸 3.92m の方形である。

主軸方向 N-0°

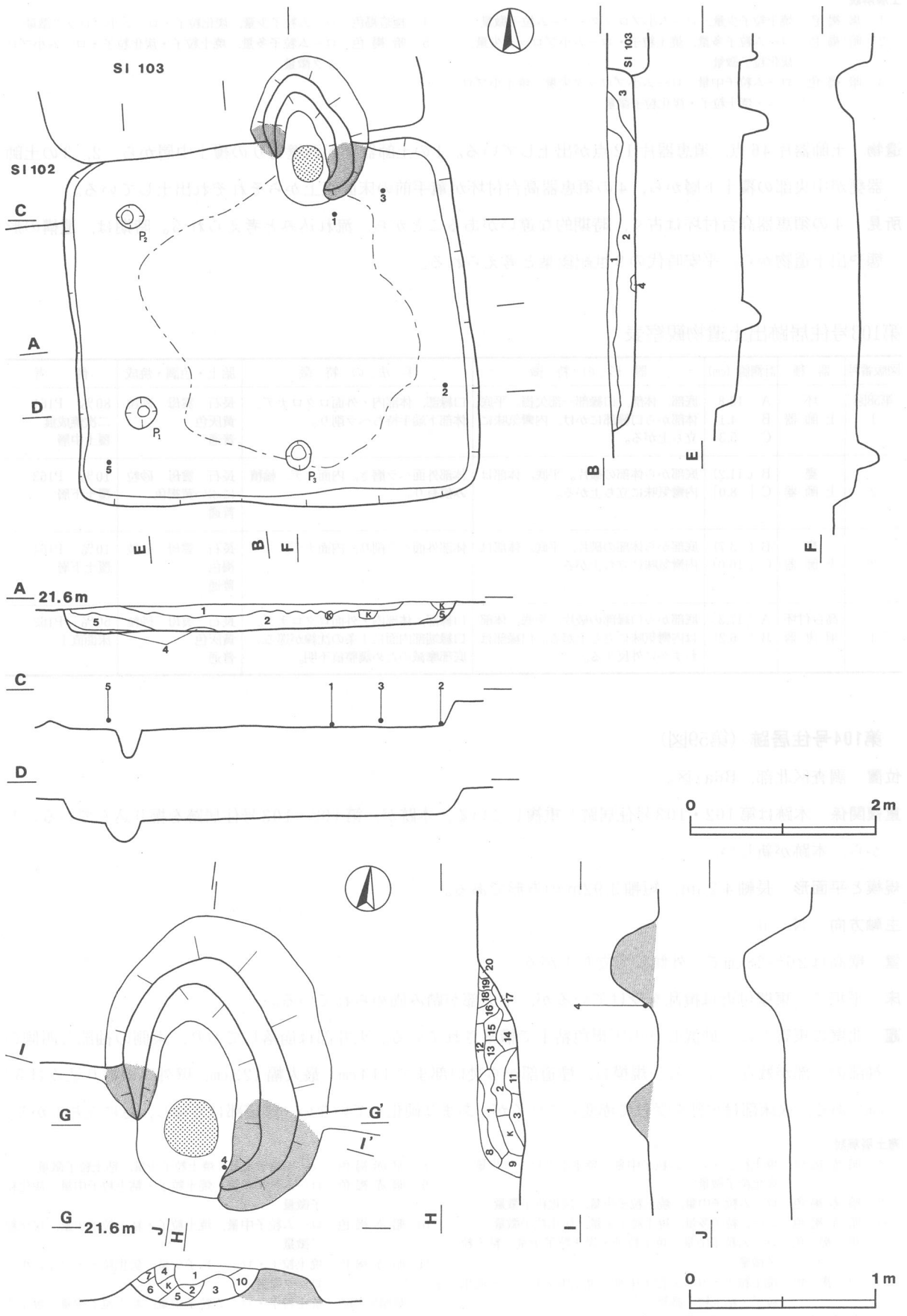
壁 壁高は 26~28cm で, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 東壁付近は攪乱を受けているが, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁の東寄りに, 砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 東側の袖部と西側の袖部の一部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで 114cm, 最大幅 123cm, 壁外への掘り込みは 52cm である。火床部は火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。煙道部は外傾し, 急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--|----------|--------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 粘土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 12 極暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土中ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 13 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | | |



第59图 第104号住居跡実測図

- 14 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 15 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量・焼土小ブロック微量
- 16 灰褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子微量
- 17 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 18 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 19 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 20 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁は径34cmの円形, P₂は長径30cm, 短径24cmの楕円形で, いずれも深さ25~34cmの支柱穴である。P₃は径32cmの円形で, 深さ25cmの出入り口施設に伴うピットである。

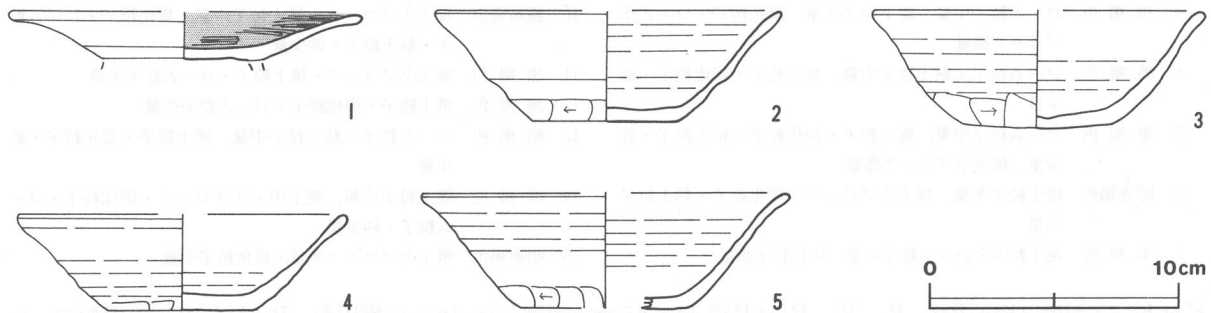
覆土 5層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化物微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片188点, 須恵器片161点, 鉄滓1点が出土している。1の土師器高台付皿が竈手前の覆土下層から, 2の須恵器坏が東壁寄りの床面直上から, 3の須恵器坏が竈東側の覆土下層から, 4の須恵器坏が竈内から, 5の須恵器坏が南西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀後葉と考えられる。



第60図 第104号住居跡出土遺物実測図

第104号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図 1	高台付皿 土師器	A [14.1] B (1.9)	高台部, 体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部内面へら磨き。底部回転へら削り。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい赤褐色 普通	60% P169 内面黒色処理 覆土下層
2	坏 須恵器	A [6.8] B 4.5 C 5.7	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部手持ちへら削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	50% P165 床面直上
3	坏 須恵器	A [13.2] B 4.7 C 5.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部回転へら削り後, 雑なへらナデ。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	40% P166 覆土下層
4	坏 須恵器	A [13.2] B 3.9 C [5.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部手持ちへら削り。	長石 雲母 砂粒 にぶい赤褐色 普通	25% P167 二次焼成痕 竈内
5	坏 須恵器	A [14.6] B 4.7 C [6.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	20% P168 覆土中層

第105号住居跡 (第61図)

位置 調査区北部, B6d₂区。

重複関係 本跡は第106号住居跡と重複している。本跡が第106号住居跡の上部に構築されていることから、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.18m, 短軸3.95mの隅丸方形である。

主軸方向 N-16°-E

壁 壁高は32~37cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁の一部は確認できないが, ほぼ全周していると推定される。上幅 [21~36] cm, 下幅 [3~9] cm, 深さ [2~5] cmで, 断面形はU字状と推定される。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで150cm, 壁外への掘り込みは46cmである。両袖部は最大幅194cmで, 粘土で袖部をしっかりと厚く作っている。火床部は床面を2cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。煙道部は外傾して, 最初緩やかで, のち急に立ち上がる。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|--|---------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 10 極暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂少量 | 11 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂少量, 焼土小ブロック微量 | 12 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂少量 |
| 7 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 14 黒褐色 | 焼土粒子中量, 焼土中・小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・砂少量 |
| | | 15 暗赤褐色 | 焼土大ブロック多量・炭化粒子少量 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁, P₂, P₄は長径44~65cm, 短径32~38cmの楕円形, P₃は径30cmの円形で, いずれも深さ16~31cmの支柱穴である。P₅は径26cmの円形で, 深さ9cmの出入り口施設に伴うピットである。

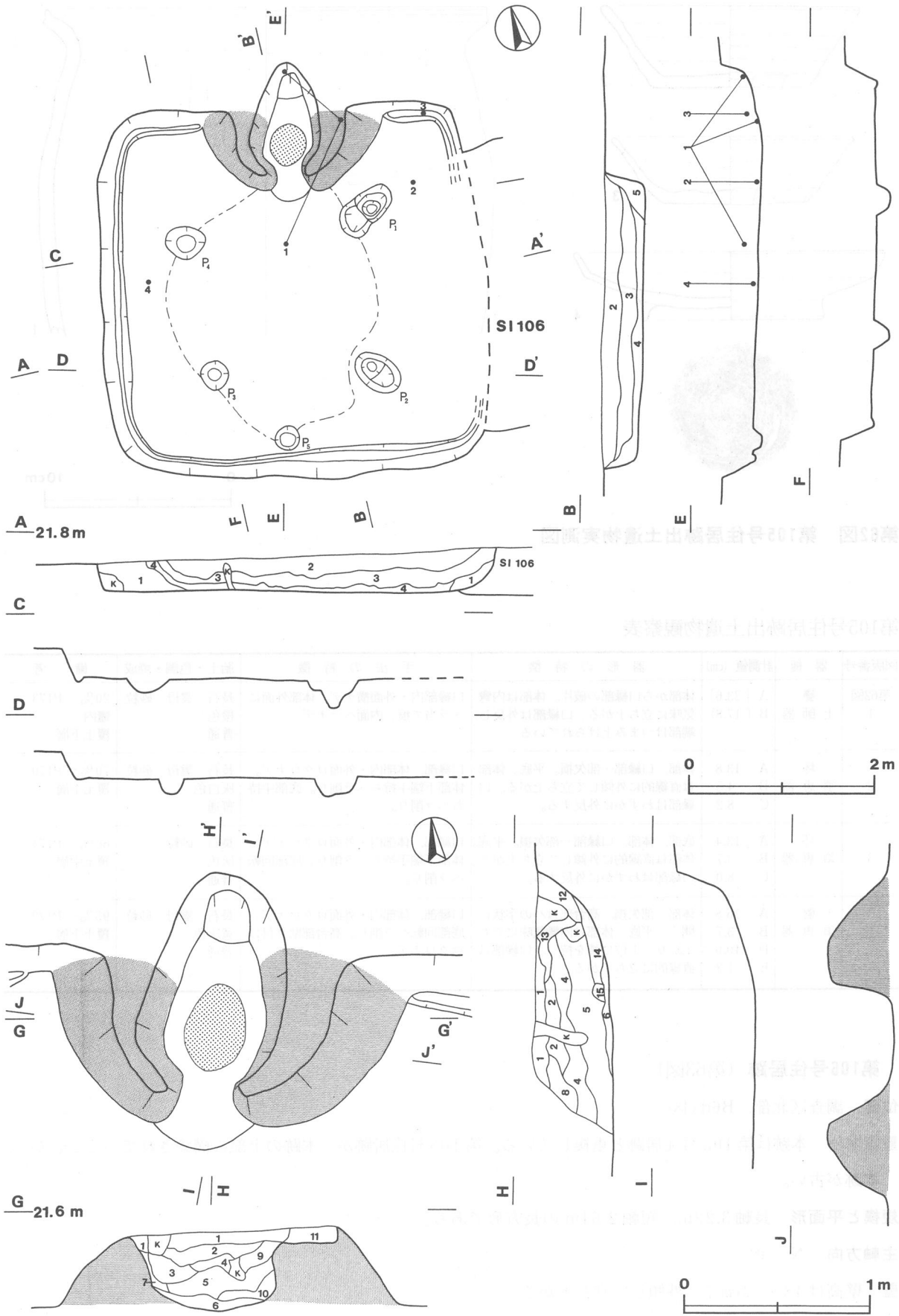
覆土 5層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

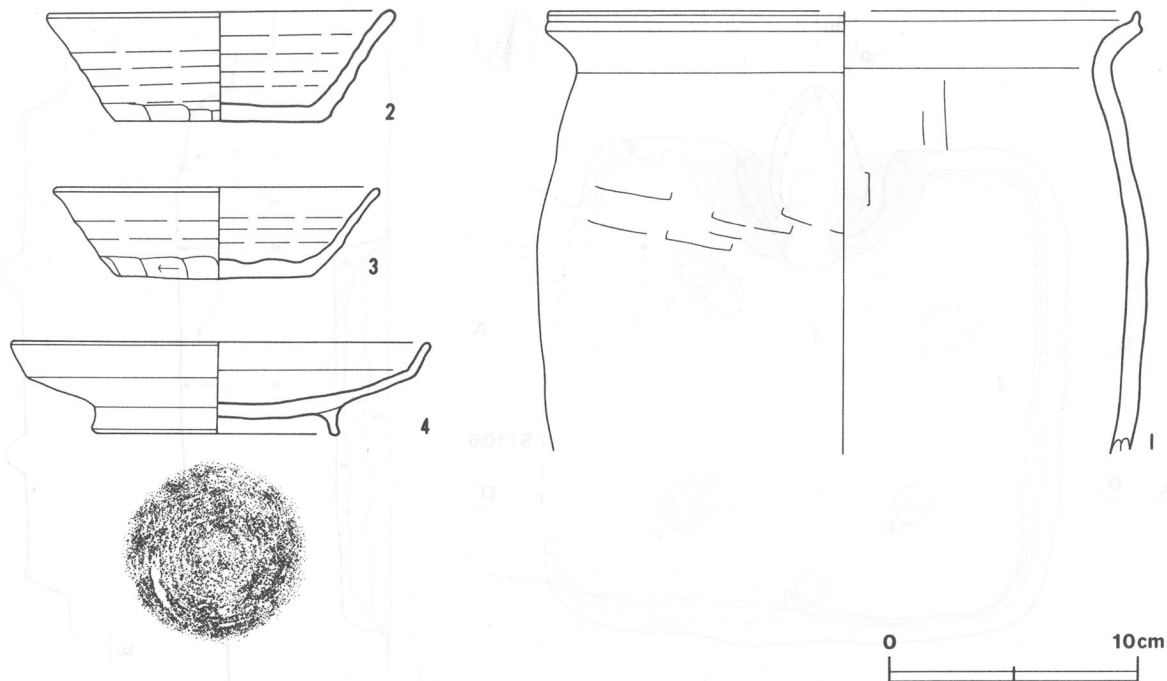
- 1 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量

遺物 土師器片182点, 須恵器片76点, 鉄滓10点, および混入した陶器片1点が出土している。1の土師器甕が竈手前の覆土下層と竈内から, 2の須恵器坏が東壁寄りの覆土下層から, 3の須恵器坏が北東コーナー部の覆土中層から, 4の須恵器盤が西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀前葉と考えられる。



第61图 第105号住居跡実測図



第62図 第105号住居跡出土遺物実測図

第105号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 1	甕 土師器	A [23.6] B (17.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部は外反し、 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面に ヘラ当て痕。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	20% P173 竈内 覆土下層
2	坏 須恵器	A 13.8 B 4.5 C 8.2	体部、口縁部一部欠損。平底。体部 は直線的に外傾して立ち上がる。口 縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部手持 ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	70% P170 覆土下層
3	坏 須恵器	A 13.4 B 3.7 C 8.0	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。 体部は直線的に外傾して立ち上がる。 口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部回転 ヘラ削り。	長石 砂粒 灰色 普通	60% P171 覆土中層
4	盤 須恵器	A 16.8 B 3.7 D 10.0 E 1.2	体部一部欠損。高台部はハの字状に 開く。平底。体部は内彎気味に立ち 上がり、上位に稜を持つ。口縁部は 直線的に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、 ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	95% P172 覆土下層

第106号住居跡 (第63図)

位置 調査区北部, B6d₃区。

重複関係 本跡は第105号住居跡と重複している。第105号住居跡が、本跡の上部に構築されていることから、本跡が古い。

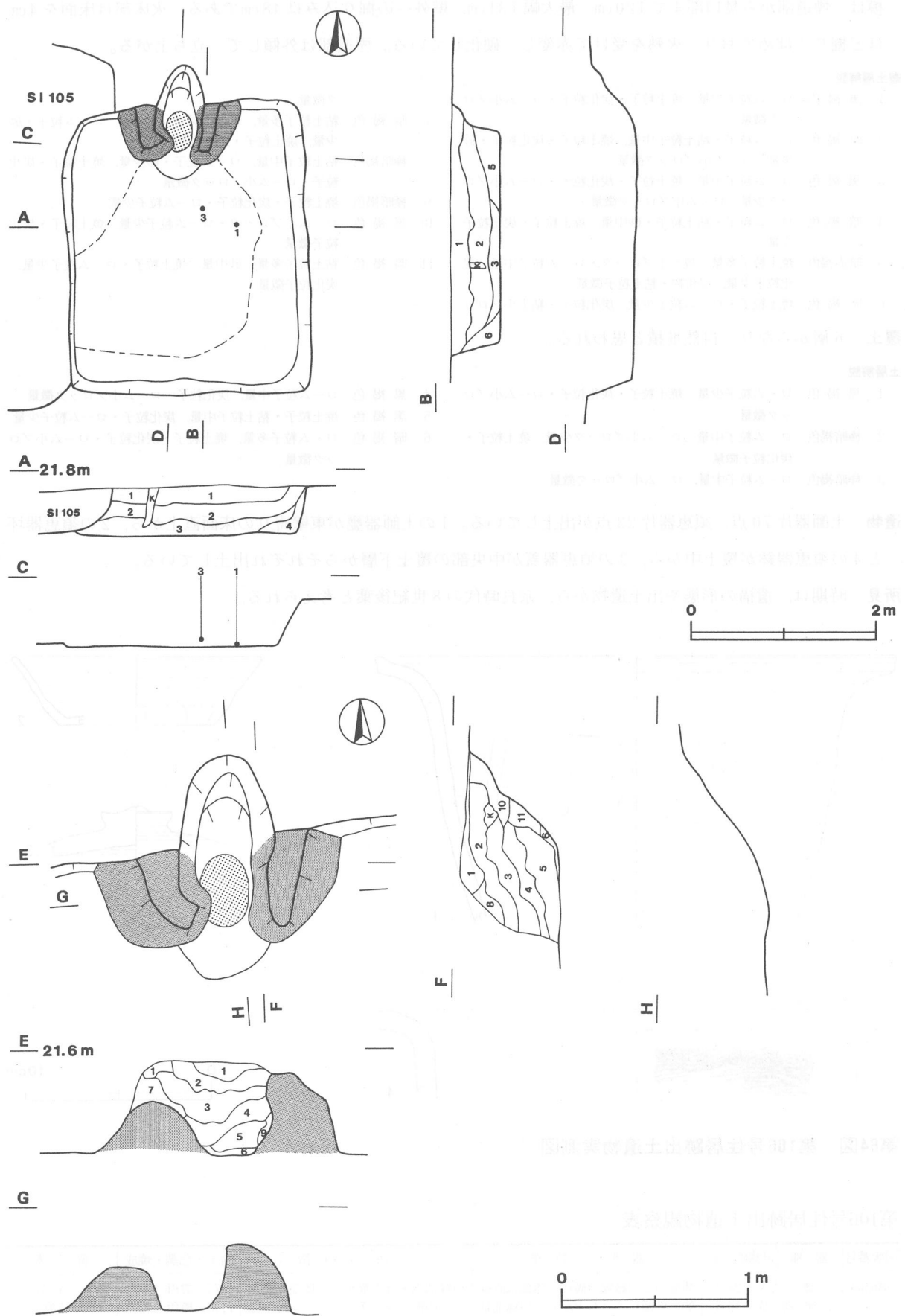
規模と平面形 長軸3.22m, 短軸2.61mの長方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は48~52cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部から西壁付近にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規



第63图 第106号住居跡実測図

模は、煙道部から焚口部まで120cm、最大幅131cm、壁外への掘り込みは48cmである。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾して、立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---|--------|---|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 7 暗褐色 | 粘土粒子多量, 粘土小ブロック中量, ローム粒子・砂少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂少量, ローム小ブロック微量 | 8 極暗褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子・砂少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 | 9 極暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 炭化物・粘土粒子微量 | 11 暗褐色 | 粘土粒子多量, 砂中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土小ブロック微量 | | |

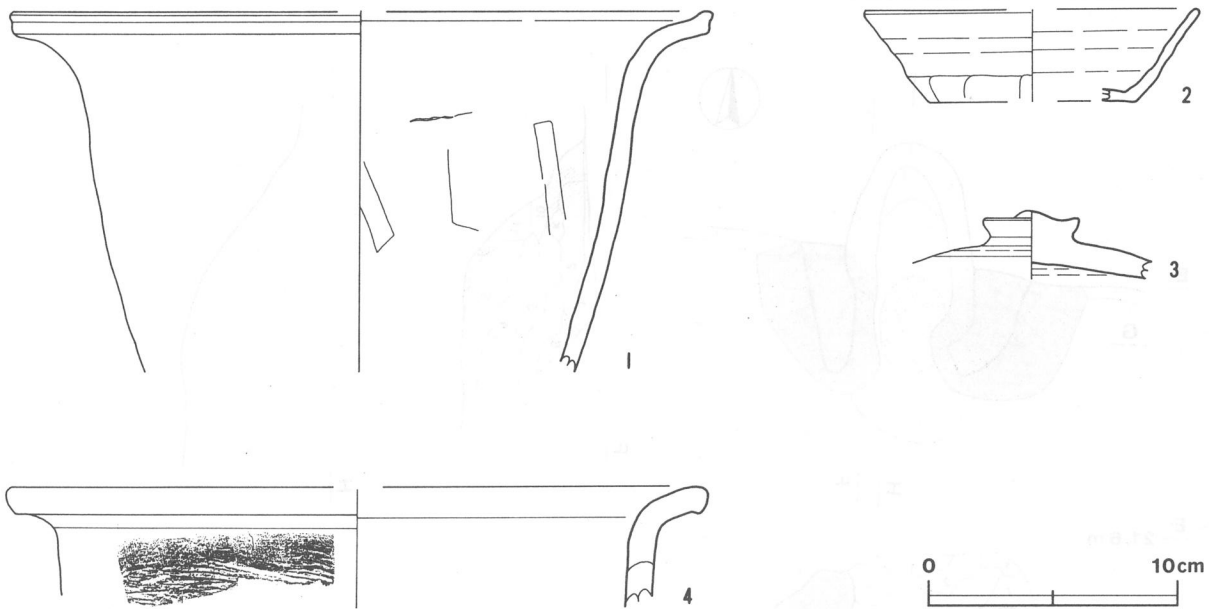
覆土 6層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |

遺物 土師器片70点, 須恵器片23点が出土している。1の土師器甕が東壁寄りの床面直上から、2の須恵器杯と4の須恵器鉢が覆土中から、3の須恵器蓋が中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀後葉と考えられる。



第64図 第106号住居跡出土遺物実測図

第106号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第64図 1	甕 土師器	A [28.3] B (14.5)	体部から口縁部の破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられ、棒状工具による凹線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい 橙色 普通	20% P176 二次焼成痕 床面直上

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第64図 2	坏 須恵器	A [13.3] B 3.8 C [8.2]	底部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	15% P174 覆土中
3	蓋 須恵器	B (2.1) F [3.9] G 1.2	つまみから天井部の破片。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部は内彎気味に開く。	つまみ、天井部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	20% P175 覆土下層
4	鉢 須恵器	A [25.7] B (4.4)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。頸部、体部外面平行叩き。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	5% P177 覆土中

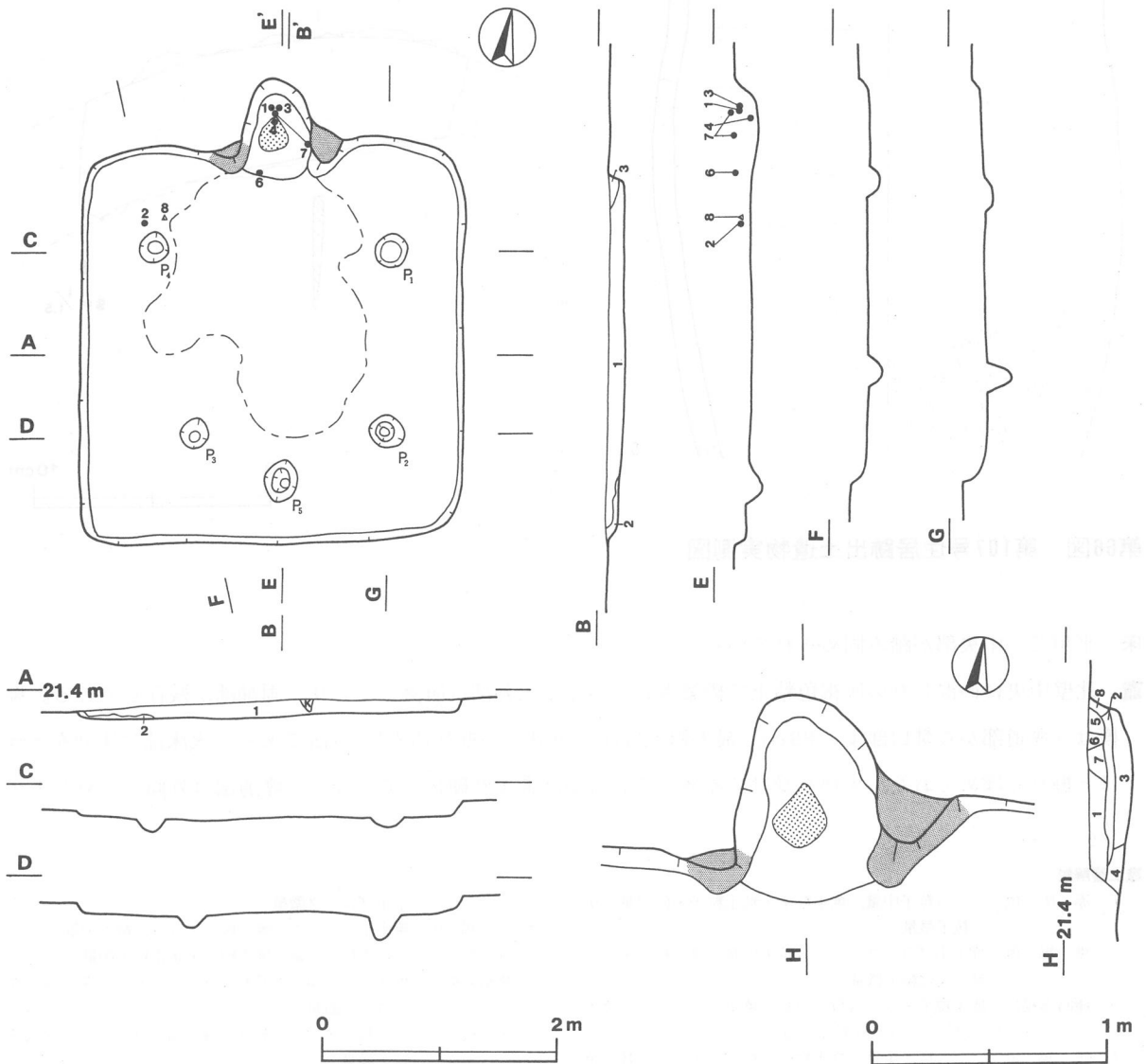
第107号住居跡 (第65図)

位置 調査区北西部, B5b0区。

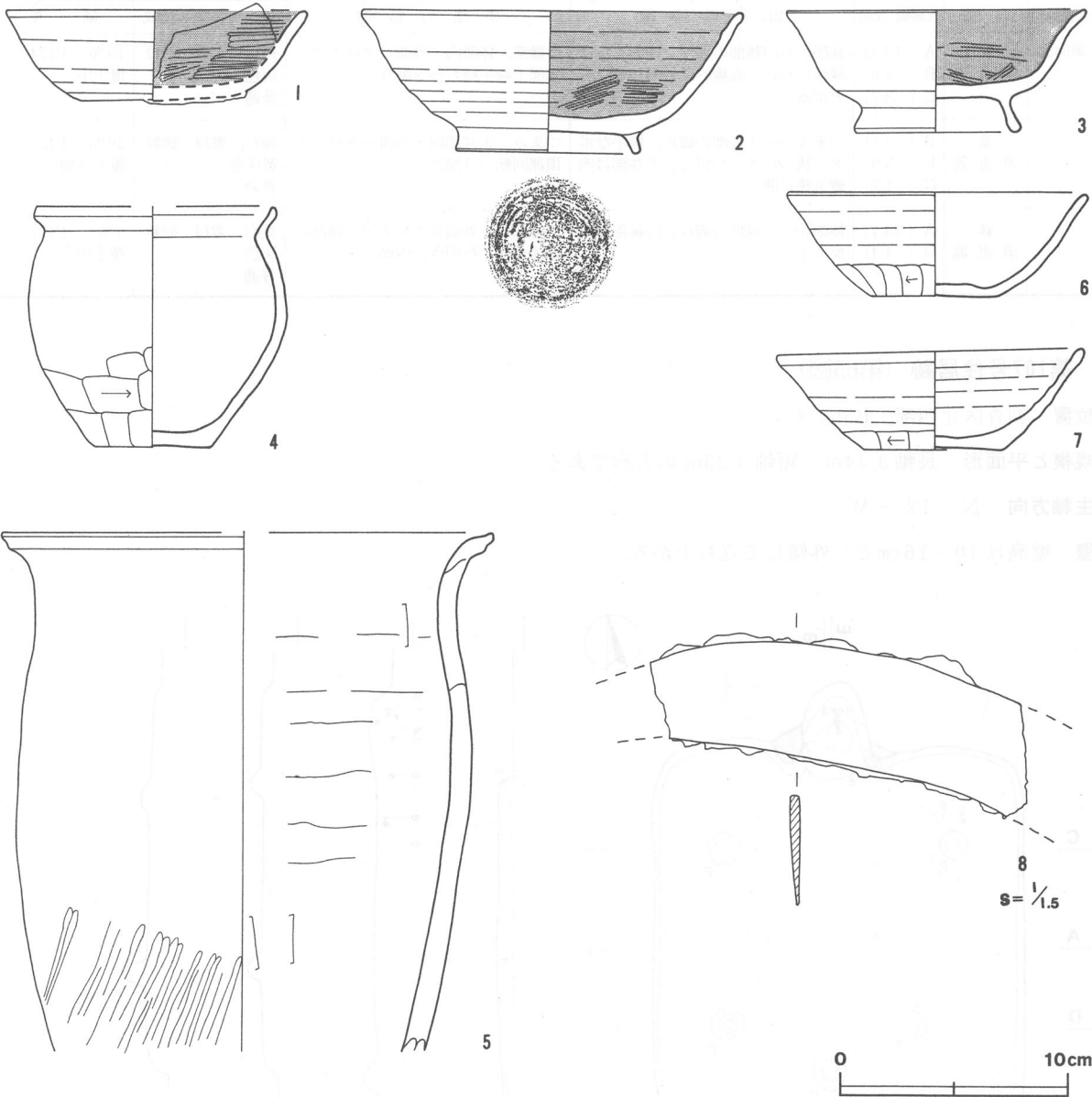
規模と平面形 長軸3.44m, 短軸3.25mの方形である。

主軸方向 N-12°-W

壁 壁高は10~16cmで, 外傾して立ち上がる。



第65図 第107号住居跡実測図



第66図 第107号住居跡出土遺物実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで89cm、最大幅121cm、壁外への掘り込みは55cmである。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、立ち上がる。

竈土層解説

- | | | |
|---------|--------------------------------------|---|
| 1 赤 灰 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子・砂少量, 炭化粒子微量 | 土小ブロック微量 |
| 2 黒 褐 色 | 焼土小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・砂少量, 炭化粒子微量 | 5 黒 褐 色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 6 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 灰 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子・砂少量, 焼 | 7 極暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| | | 8 黒 褐 色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径25~31cmの円形で、いずれも深さ9~23cmの主柱穴である。P₅は長

径 36 cm, 短径 28 cm の楕円形で、深さ 13 cm の出入り口施設に伴うピットである。

覆土 3 層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片 72 点, 須恵器片 24 点, 鎌 1 点, および混入した陶器片 1 点が出土している。4 の土師器小形甕は竈の火床面に逆位で置かれ、その上部に 1 の土師器坏と 7 の須恵器坏がそれぞれ逆位で重なり合っている。また、5 の土師器甕が覆土中から、8 の鎌が北西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 重なり合っている 4 の土師器小形甕, 1 の土師器坏, 7 の須恵器坏の間には粘土が充填されており、二次焼成を受けていることから、支脚として利用していたと考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の 9 世紀後葉と考えられる。

第107号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第66図 1	坏 土師器	A 13.2 B 4.0 C [6.4]	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	65% P180 内面黒色処理 二次焼成痕 内・底面粘土付着 竈内
2	高台付椀 土師器	A 16.8 B 6.3 D 7.9 E 0.9	体部, 口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け, ロクロナデ。	長石 砂粒 黒褐色 普通	80% P181 内面黒色処理 二次焼成痕 覆土下層
3	高台付坏 土師器	A 13.2 B 5.4 D 7.3 E 1.5	高台部, 体部, 口縁部一部欠損。高台部は長く, ハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。高台部貼り付け, ロクロナデ。	長石 砂粒 にぶい黄橙色 普通	60% P182 内面黒色処理 二次焼成痕 竈内
4	小形甕 土師器	A [10.4] B 10.6 C 5.1	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面横ナデ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	70% P183 二次焼成痕 外面粘土付着 竈内
5	甕 土師器	A [21.5] B (22.9)	底部, 体部, 口縁部一部欠損。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられ, 棒状工具による凹線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ磨き。内面ヘラナデ, 輪積み痕有り。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	60% P184 覆土中
6	坏 須恵器	A 13.2 B 4.6 C 5.6	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	100% P178 覆土中層
7	坏 須恵器	A 13.5 B 4.5 C 5.9	底部, 体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	80% P179 二次焼成痕 内・外面粘土付着 竈内

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
8	鉄 鎌	(8.6)	(2.5)	(0.2)	(24)	覆土下層	M9

第108号住居跡 (第67図)

位置 調査区北西部, A5g7区。

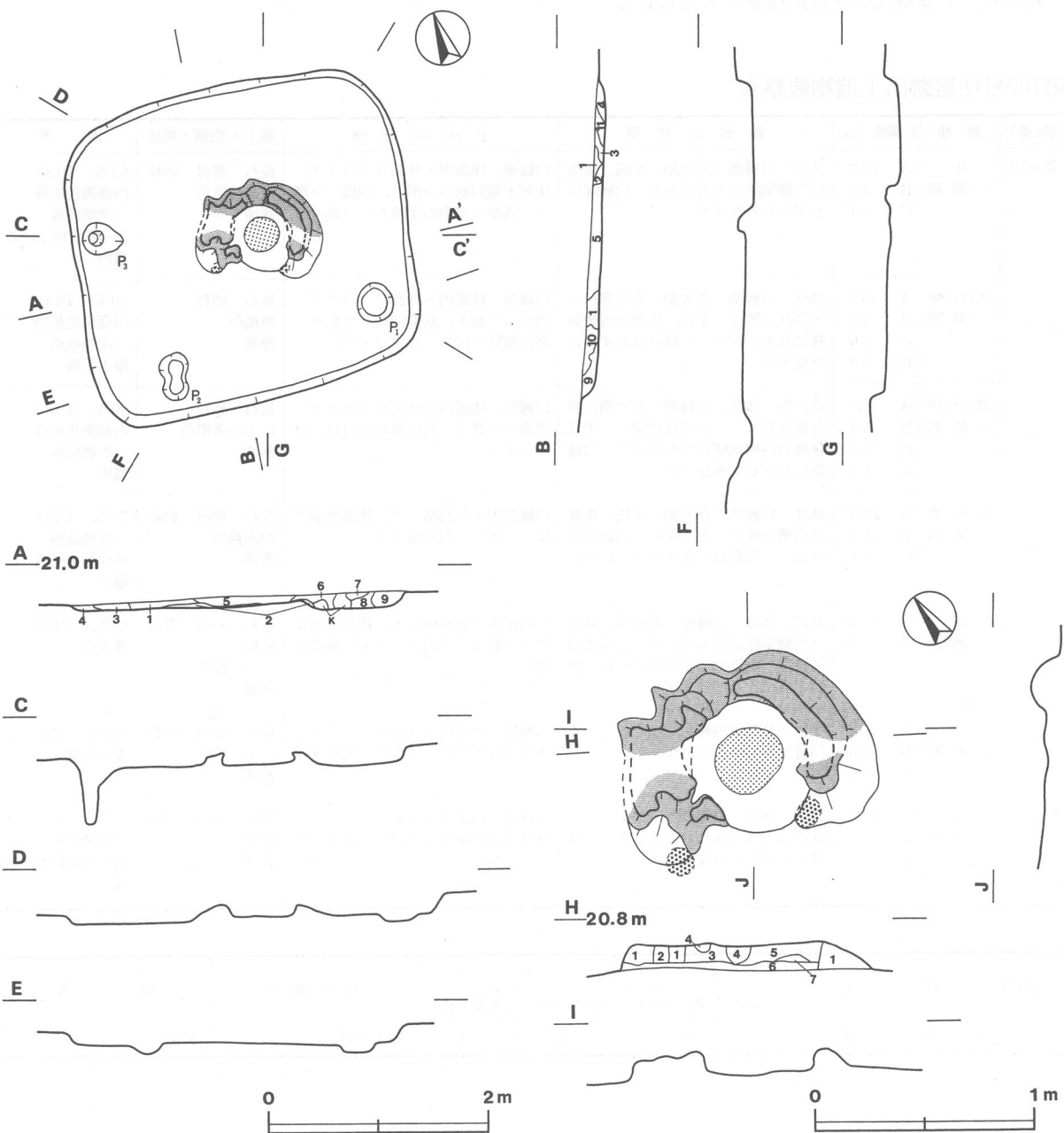
規模と平面形 長軸3.05m, 短軸2.88mの隅丸方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は10~18cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 特に踏み固められている部分はない。

竈 竈状の遺構で, 床面の中央部に付設されている。規模は, 焚口部からの長さ80cm, 最大幅114cm, 高さ10cmほどで, 砂混じりの粘土で, 南側の開いた馬蹄形状に構築されている。火床部は床面を2cmほど掘りくぼめており, 皿状をしている。内壁および火床部は火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。



第67図 第108号住居跡実測図

竈土層解説

- 1 褐灰色 粘土粒子・砂多量, ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子・粘土粒子中量, 砂少量
- 3 灰褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 橙 色 焼土小ブロック多量
- 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・粘土小ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム粒子多量
- 7 黒褐色 焼土中ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

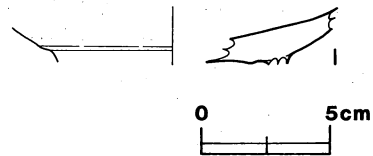
ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁は径34cmの円形で、深さ10cmの支柱穴である。P₂とP₃は長径35~43cm, 短径18~28cmの不定形で、いずれも深さ12~53cmで、性格は不明である。

覆土 11層からなり、不自然な堆積の状況がみられることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 極暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 灰褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 にぶい赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 7 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 8 暗赤褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量
- 10 黒褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 11 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片56点, 須恵器片16点が出土している。1の須恵器盤が西壁寄りの覆土中層から出土している。



所見 本跡は、小形の建物跡で、粘土を馬蹄形状に積み上げて構築した竈状の遺構を有している。時期は、遺物が少なく明確ではないが、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀と考えられる。

第68図 第108号住居跡出土遺物 実測図

第108号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図 1	盤 須恵器	B (1.5)	高台部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け, ロクロナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	15% P186 覆土中層

第109号住居跡 (第69図)

位置 調査区中央部, B6h₂区。

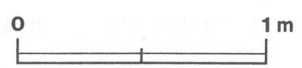
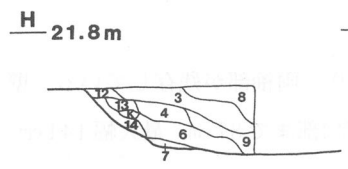
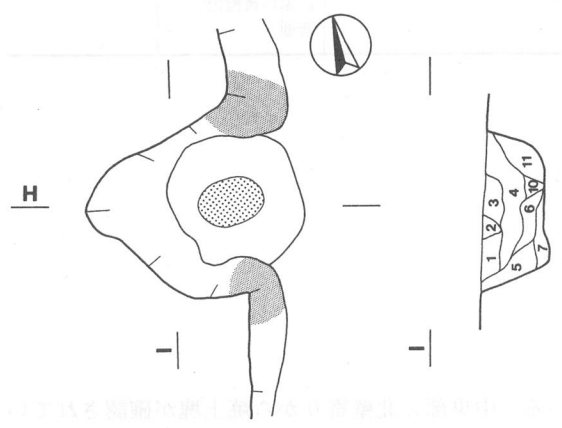
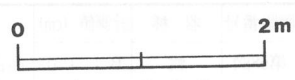
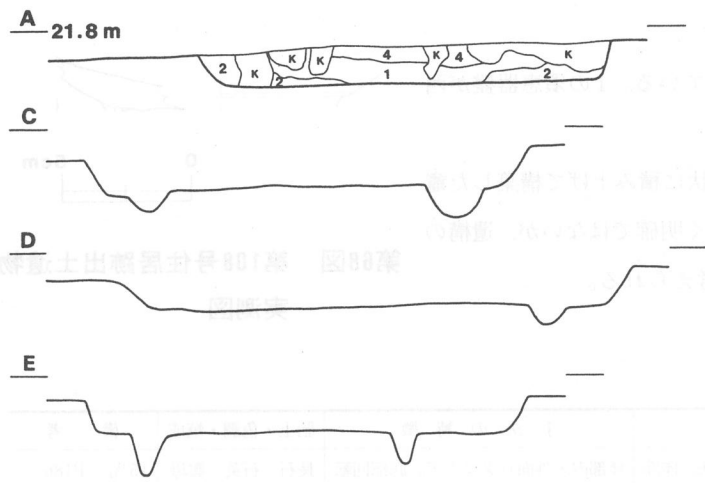
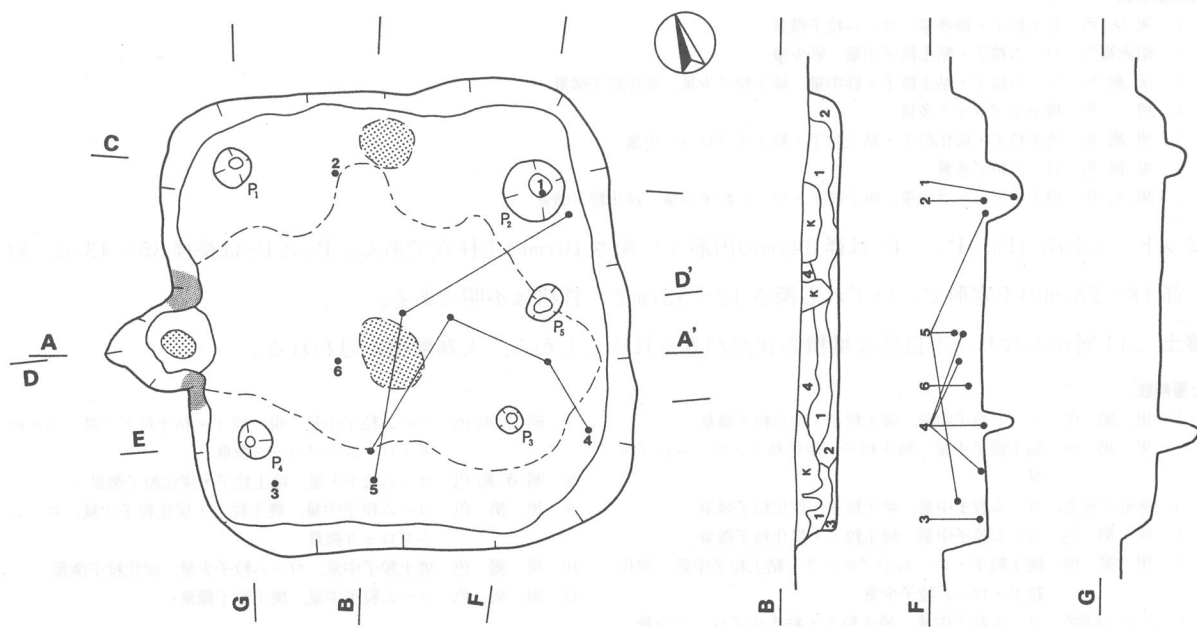
規模と平面形 長軸3.79m, 短軸3.61mの隅丸方形である。

主軸方向 N-76°-E

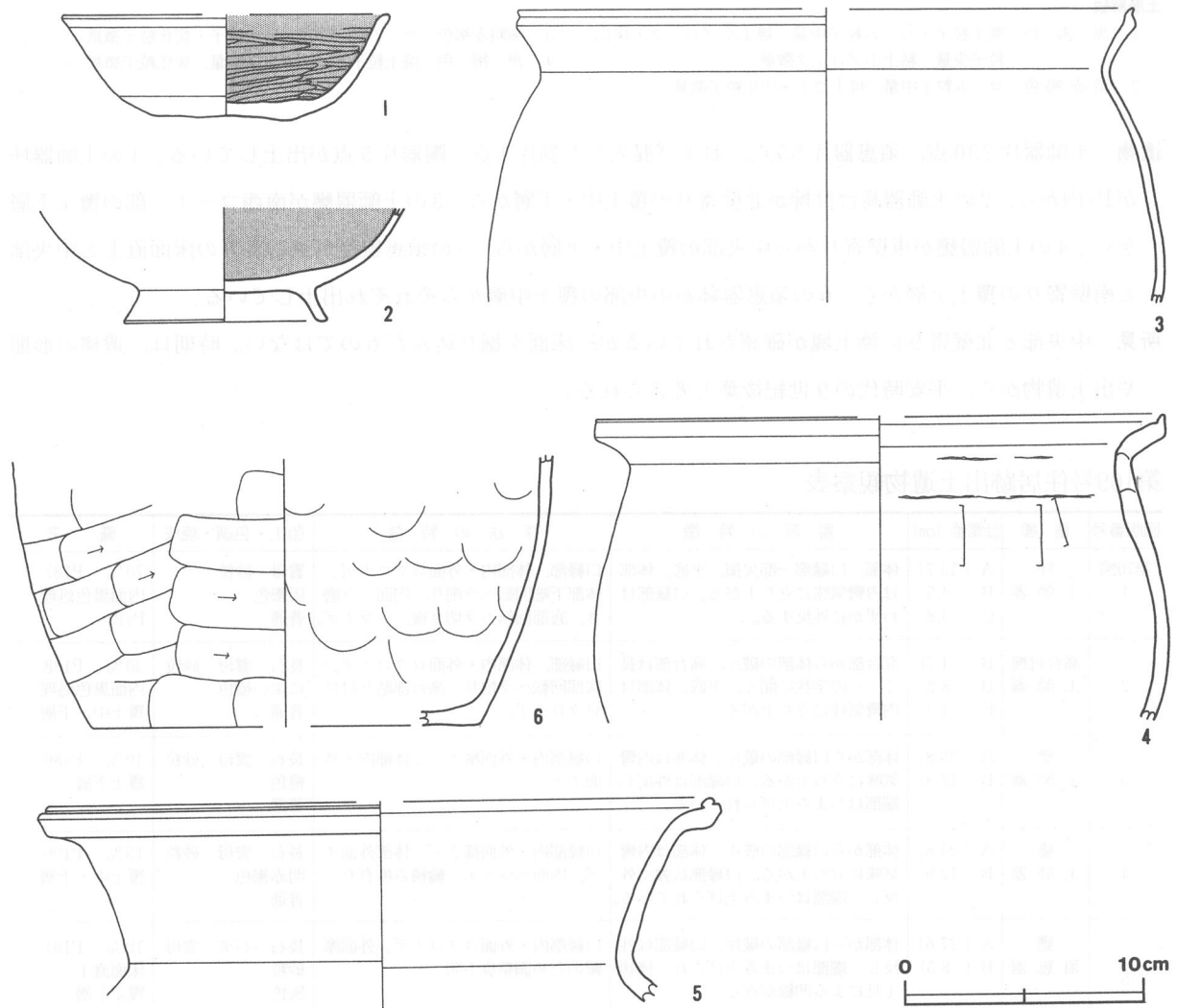
壁 壁高は26cmほどで、外傾して立ち上がる。

床 やや凹凸で、東壁付近から竈手前まで踏み固められている。中央部と北壁寄りから焼土塊が確認されている。

竈 西壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。壁に砂混じりの粘土を貼って、袖部として利用している。規模は、煙道部から焚口部まで87cm, 最大幅141cm, 壁外への掘り込みは60cmである。火床部は床面を2cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、立ち上がる。



第69图 第109号住居跡実測图



第70図 第109号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

- | | |
|--|--|
| 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 9 極暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量 | 10 暗褐色 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 | 11 極暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土中・小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 4 極暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 12 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量 | 13 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 6 極暗赤褐色 炭化物・炭化粒子・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 | 14 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土中・小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 7 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | |
| 8 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂少量, 炭化粒子微量 | |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁, P₃, P₄は径22~32cmの円形で、いずれも深さ16~34cmの主柱穴である。P₅は長径30cm, 短径24cmの楕円形で、深さ16cmの出入り口施設に伴うピットである。P₂は径51cmの円形, 深さ27cmで、性格は不明である。

覆土 4層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, 粘土小ブロック微量
 2 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 3 極暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 4 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片 230点, 須恵器片 55点, および混入した剝片 1点, 陶器片 5点が出土している。1の土師器坏がP₂内から, 2の土師器高台付椀が北壁寄りの覆土中・下層から, 3の土師器甕が南西コーナー部の覆土下層から, 4の土師器甕が東壁寄りから中央部の覆土中・下層から, 5の須恵器甕が東壁寄りの床面直上と中央部と南壁寄りの覆土上層から, 6の須恵器鉢が中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 中央部と北壁寄りに焼土塊が確認されているが, 床面を掘り込んだものではない。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀後葉と考えられる。

第109号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第70図 1	坏 土師器	A [13.7] B 4.5 C 5.8	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後, ヘラナデ。	雲母 砂粒 灰褐色 普通	70% P187 内面黒色処理 P ₂ 内
2	高台付椀 土師器	B (4.7) D 8.2 E 1.5	高台部から体部の破片。高台部は長く, ハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け, ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	30% P188 内面黒色処理 覆土中・下層
3	甕 土師器	A [25.8] B (12.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	10% P189 覆土下層
4	甕 土師器	A [23.8] B 12.9	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ, 輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	15% P190 覆土中・下層
5	甕 須恵器	A [27.6] B (8.5)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられ, 棒状工具による凹線が巡る。	口縁部内・外面ロクロナデ。外面摩擦のため調整痕不明。	長石 石英 雲母 砂粒 灰色 普通	10% P191 床面直上 覆土上層
6	鉢 須恵器	B (11.3) C [16.2]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。内面ナデ, 当て具痕有り。	長石 雲母 砂粒 オリーブ黒色 普通	10% P192 覆土中層

第110号住居跡 (第71図)

位置 調査区中央部, C6b₁区。

規模と平面形 長軸 4.87m, 短軸 (2.90) mである。本跡の東壁が調査区域外のため, 平面形は不明である。

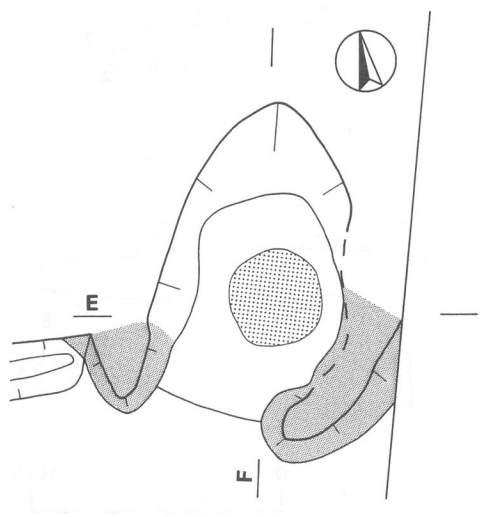
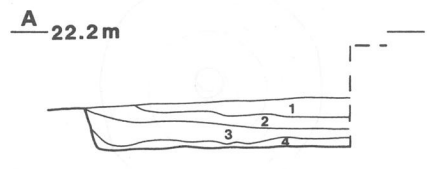
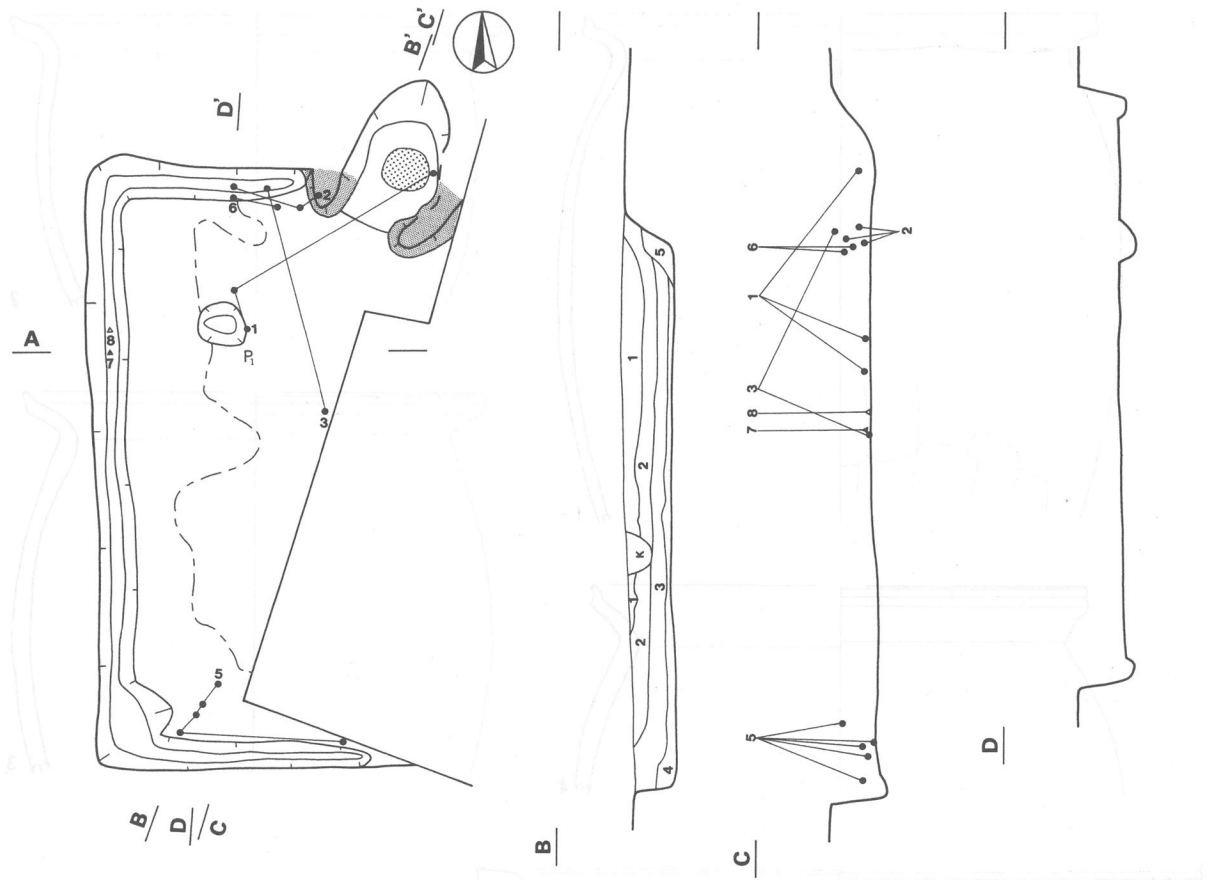
主軸方向 N-20°-E

壁 壁高は32~37cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

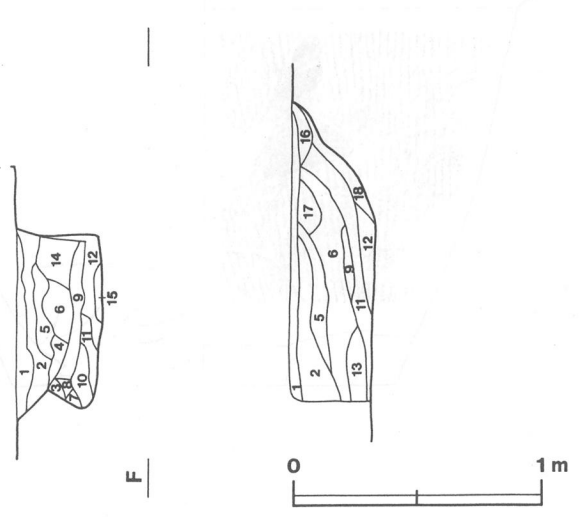
壁溝 半周している。上幅 15~72cm, 下幅 5~32cm, 深さ 5~7cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 南壁付近から竈手前まで踏み固められている。

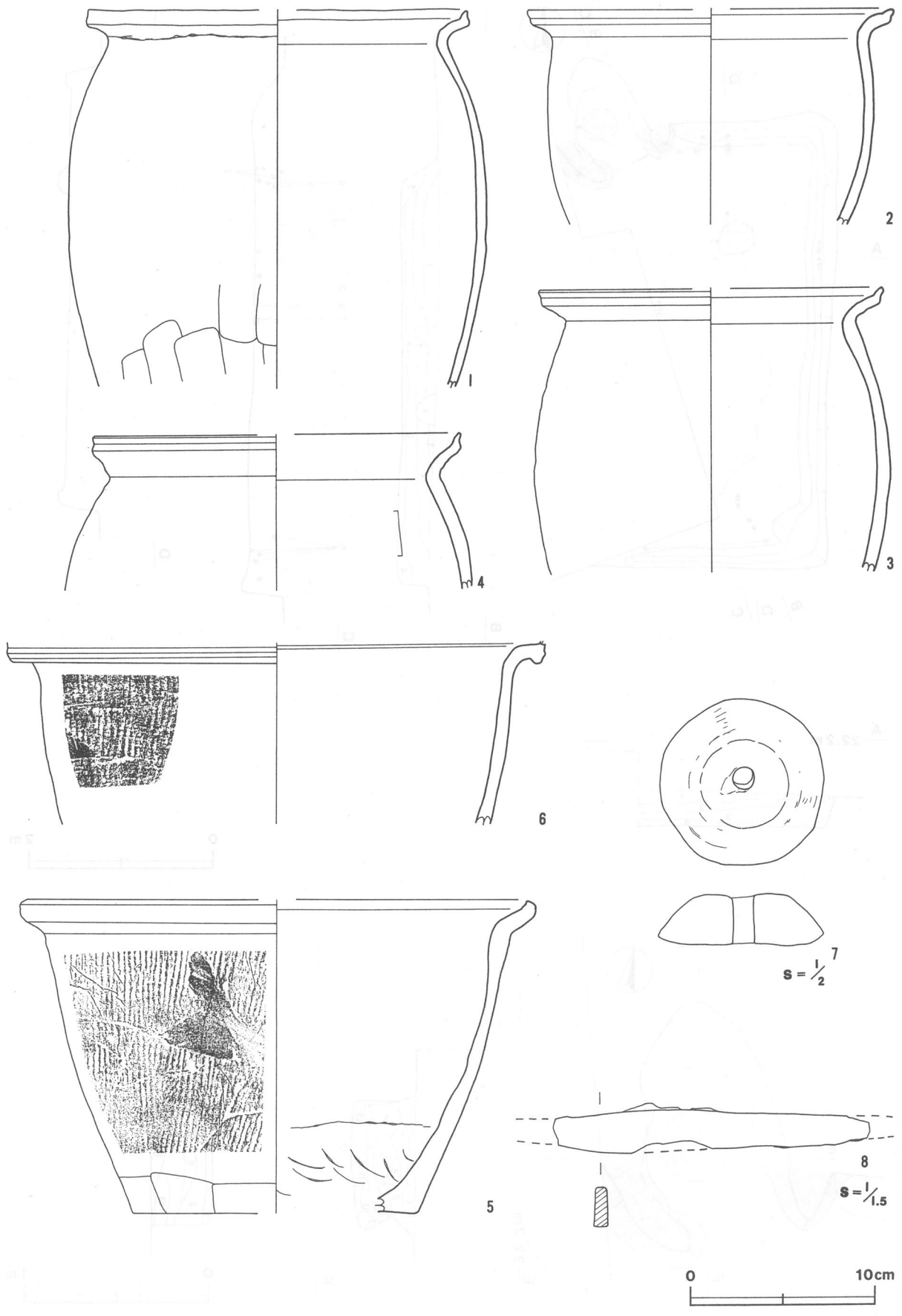
竈 北壁中央付近に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで 126cm, 最大幅 127cm, 壁外への掘り込みは 84cmである。火床部は床面を 4cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。焚口部は北壁に対して, 斜めに作られており, 東側袖部の内壁が赤変し, 硬く締まっている。煙道部は外傾し, 立ち上がる。



E 22.2m



第71图 第110号住居跡実测图



第72图 第110号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

- | | | |
|---------|--|---|
| 1 黒褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子・砂少量, 焼土粒子微量 | 子・砂中量, ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 砂少量, 焼土粒子・ローム粒子微量 | 11 極暗赤褐色 |
| 3 極暗褐色 | 砂中量, 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 | 焼土粒子多量, 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 粘土粒子・砂多量, 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量 | 12 極暗赤褐色 |
| 5 暗褐色 | 砂多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量, ローム粒子少量 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・砂少量 |
| 6 暗褐色 | 粘土粒子・砂多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 | 13 黒褐色 |
| 7 褐色 | 焼土小ブロック・粘土粒子・砂多量, 焼土粒子中量, ローム粒子少量 | 粘土粒子・砂多量, ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土大ブロック・焼土粒子多量, 炭化粒子・粘土粒子・砂中量, ローム粒子少量 | 14 暗褐色 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土粒子多量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂中量 | 粘土粒子・砂多量, ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子 | 15 極暗赤褐色 |
| | | 焼土中・小ブロック・焼土粒子多量, 炭化粒子・粘土粒子・砂中量, ローム粒子少量 |
| | | 16 暗赤褐色 |
| | | 焼土小ブロック・粘土粒子多量, 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂中量 |
| | | 17 ぶい赤褐色 |
| | | 粘土粒子・砂多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| | | 18 暗赤褐色 |
| | | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量, ローム粒子・砂少量 |

ピット 1か所 (P1)。P1は径42cmの円形で、深さ14cmの主柱穴である。

覆土 5層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量
- 5 黒褐色 粘土粒子多量, 焼土大・小ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子少量

遺物 土師器片217点、須恵器片94点、紡錘車1点、刀子1点、および混入した陶器片2点が出土している。1の土師器甕が竈内とP1付近の覆土下層から、2の土師器甕、6の須恵器鉢が竈西側の覆土中・下層から、3の土師器甕が中央部の床面直上と竈西側の覆土上層から、5の須恵器鉢が南西コーナー部の覆土上層から下層にかけて、7の紡錘車、8の刀子が西壁下の壁溝付近からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀中葉と考えられる。

第110号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第72図 1	甕 土師器	A [20.5] B (20.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 ぶい褐色 普通	30% P193 外面煤付着 竈内覆土下層
2	甕 土師器	A [19.7] B (11.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 ぶい赤褐色 普通	15% P194 覆土中～下層
3	甕 土師器	A [18.5] B (15.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 ぶい橙色 普通	10% P195 二次焼成痕 床面直上 覆土上層
4	甕 土師器	A [19.8] B (8.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 ぶい黄褐色 普通	5% P196 覆土中
5	鉢 須恵器	A [27.0] B (17.0)	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられ、棒状工具による凹線が巡る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面格子叩き、下位ヘラ削り。内面ナデ、当て具痕有り。	長石 雲母 砂粒 黒褐色 普通	40% P197 覆土上～下層
6	鉢 須恵器	B (9.8)	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反して立ち上がり、端部は上下につまみ出されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	5% P198 覆土中～下層

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第72図7	紡 錘 車	6.0	1.8	0.7	(63)	壁溝	DP4 90%

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
8	刀 子	8.5	1.2	0.4	(10)	壁溝	M10

第111号住居跡 (第74図)

位置 調査区中央部, B5j8区。

規模と平面形 長軸3.24m, 短軸3.05mの方形である。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は4~10cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 全面が粘土質で締まっている。また, 出入口施設周辺と北側の竈周辺が, やや高くなっている。

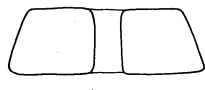
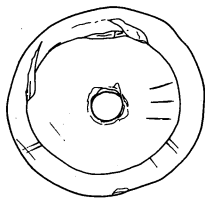
竈 天井部と両袖部のほとんどが削平され, 残存していない。しかし, 袖部と思われる粘土痕や焼土塊が確認されたことにより, 北壁中央に構築されていたと推定される。規模は, 煙道部から焚口部まで95cm, 最大幅[85]cm, 壁外への掘り込みは52cm, 火床部は床面を7cmほど掘りくぼめている。火床部と思われる部分の覆土を取り除くと, 長径34cm, 短径28cm, 深さ20cmの楕円形の掘り込みが確認されたが, 性格は不明である。煙道部は外傾し, 立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 極暗赤褐色 炭化物少量 | 6 暗赤褐色 焼土中ブロック微量 |
| 2 極暗褐色 焼土大ブロック・砂微量 | 7 黒褐色 焼土粒子・砂少量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子少量 | 8 黒褐色 炭化物少量 |
| 4 極暗赤褐色 焼土粒子少量, ローム小ブロック微量 | 9 暗赤褐色 焼土粒子・砂少量 |
| 5 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子微量 | 10 極暗赤褐色 焼土大ブロック少量, 粘土粒子微量 |

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₂は径35cmの円形で, 深さ10cmの出入口施設に伴うピットである。P₁は径26cmの円形, 深さ5cmで, 性格は不明である。

覆土 5層からなり, ブロック状の堆積の状況が見られることから, 人為堆積と思われる。



$$s = \frac{1}{2}$$

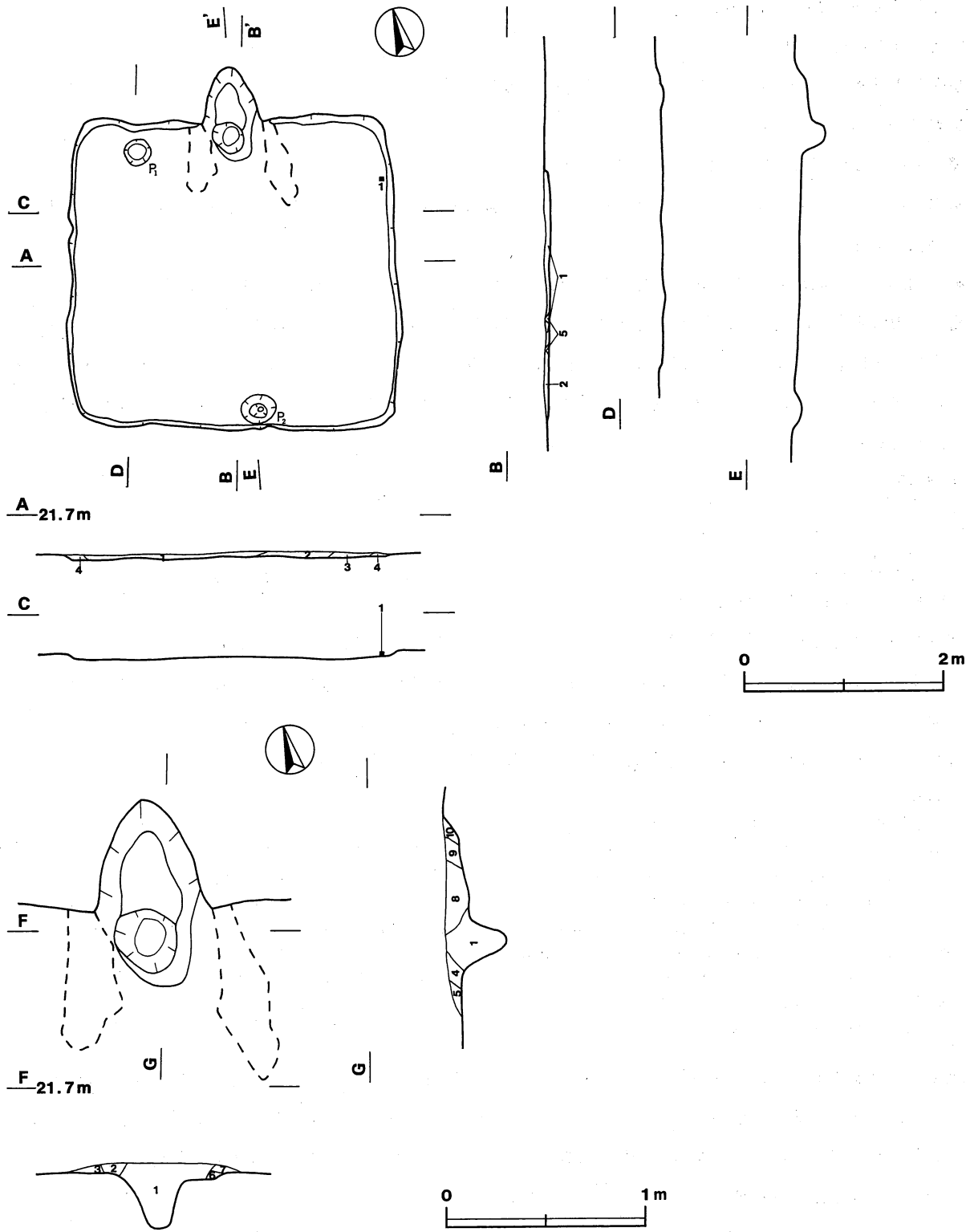
土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック中量

遺物 土師器片80点, 須恵器片1点, 紡錘車1点, および混入した陶器片2点が出土している。1の紡錘車が東壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 覆土が浅かったことから, 遺物が少なく, ほとんどが細片である。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の前期と考えられる。

第73図 第111号住居跡
出土遺物実測図



第74図 第111号住居跡実測図

第111号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第73図1	紡錘車	5.2	1.8	0.8	(70)	粘板岩	覆土下層	Q7 90%

第112号住居跡 (第75図)

位置 調査区西部, C4a8区。

規模と平面形 長軸3.76m, 短軸3.72mの方形である。

主軸方向 N-28°-E

壁 壁高は22~30cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 東コーナー部を除いて, ほぼ全周している。上幅8~35cm, 下幅4~11cm, 深さ3~6cmで, 断面形はU字状である。

床 凹凸で, 全面が粘土質で締まっている。また, 南西部から北東部にかけてやや傾斜している。

竈 北東壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで155cm, 最大幅158cm, 壁外への掘り込みは52cmである。火床部は床面を3cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。煙道部は外傾し, 緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂少量 | 6 黒褐色 粘土粒子少量 |
| 2 褐色 粘土粒子・砂多量, 焼土粒子少量 | 7 褐色 焼土粒子多量 |
| 3 暗褐色 粘土粒子・砂・焼土粒子少量 | 8 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 4 極暗褐色 焼土粒子少量 | 9 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子多量 |
| 5 暗褐色 粘土小ブロック・焼土粒子少量 | 10 灰褐色 粘土粒子・砂多量 |

ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁~P₃は径22~33cmの円形, P₄は長径30cm, 短径22cmの楕円形で, いずれも深さ8~23cmの支柱穴である。P₅は長径30cm, 短径23cmの楕円形で, 深さ19cmの出入り口施設に伴うピットである。P₆は長径40cm, 短径30cmの楕円形, 深さ22cmで, 性格は不明である。

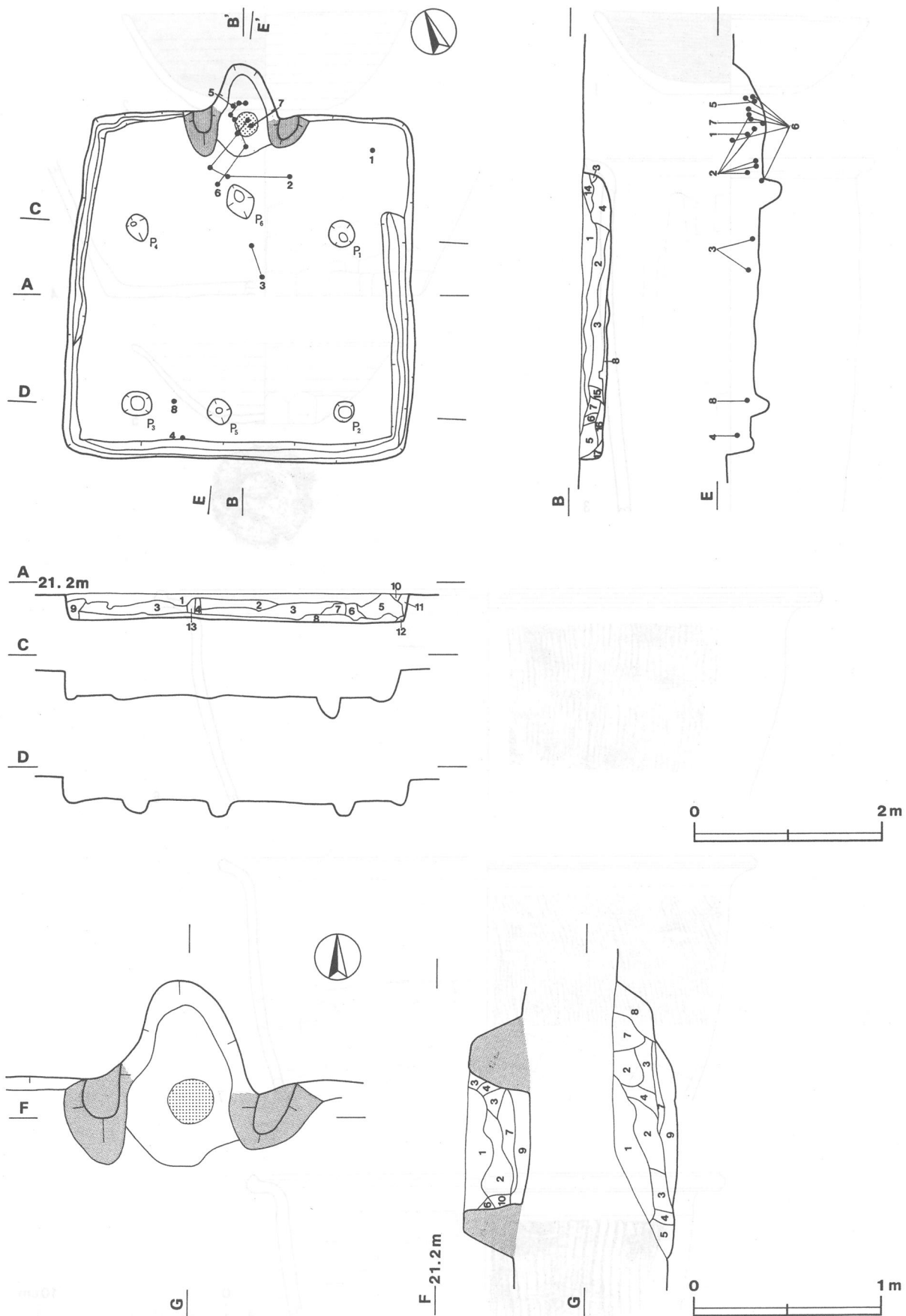
覆土 17層からなり, 不自然な堆積の状況がみられることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 | 10 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量 | 11 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子・焼土小ブロック・ローム粒子少量 | 12 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 におい黄褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量 | 13 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・焼土小ブロック微量 | 14 黒褐色 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 15 黒褐色 焼土中ブロック微量 |
| 7 褐色 焼土粒子・ローム粒子微量 | 16 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 8 褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量 | 17 褐色 ローム粒子微量 |
| 9 褐色 ローム粒子中量 | |

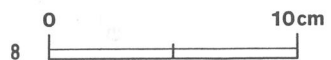
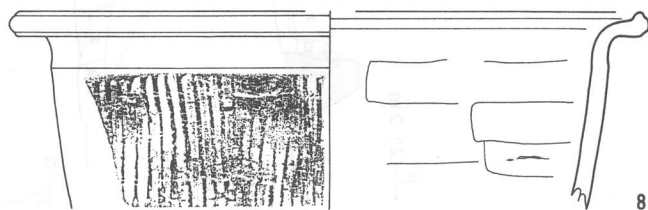
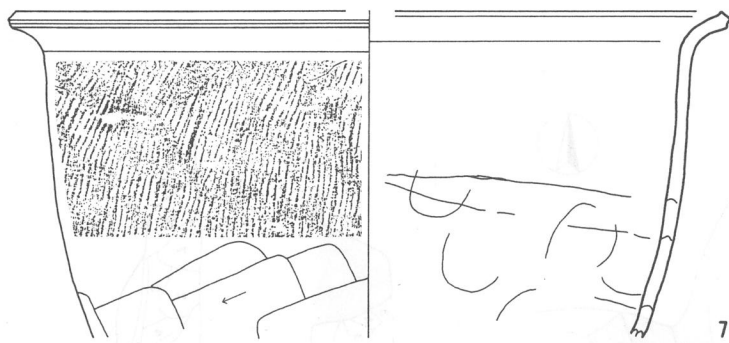
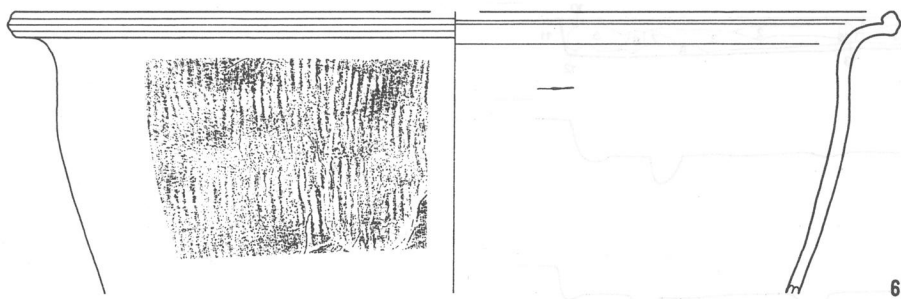
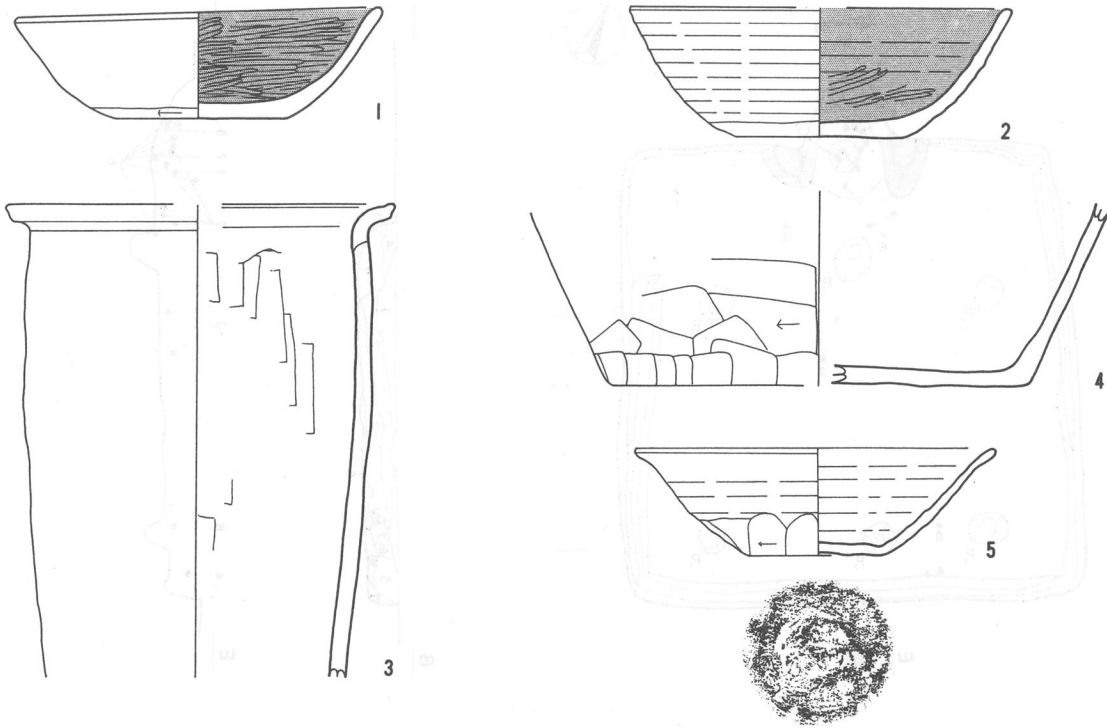
遺物 土師器片112点, 須恵器片60点, 鉄滓2点, および混入した陶器片1点が出土している。1の土師器片が, 東コーナー部の覆土中層から, 2の土師器片, 6の須恵器鉢が竈内と竈手前の覆土中・下層から, 3の土師器甕が中央部の覆土下層から, 4の土師器甕, 8の須恵器鉢が南西壁寄りの覆土中・下層から, 5の須恵器片, 7の須恵器鉢が竈内からそれぞれ出土している。

所見 6の須恵器鉢は, 竈の崩落にともない, 口縁部が煙道部から焚口部にかけて散乱している。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀後葉と考えられる。



第75图 第112号住居跡実測図

图例 实测图 出土物 测量图 1:1 比例



第76图 第112号住居跡出土遺物実測図

第112号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第76図 1	坏 土師器	A 14.5 B 4.5 C 6.7	底部, 体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 浅黄橙色 普通	85% P200 内面黒色処理 覆土中層
2	坏 土師器	A [15.1] B 5.2 C 6.9	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部手持ちヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 赤褐色 普通	70% P201 内面黒色処理 竈内 覆土中～下層
3	甕 土師器	A [15.5] B (19.0)	体部から口縁部の破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は強く外反し, 端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後, ナデ。内面ヘラナデ, 輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	10% P202 覆土下層
4	甕 土師器	B (7.0) C [16.8]	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい赤褐色 普通	15% P207 覆土中～下層
5	坏 須恵器	A 14.4 B 4.3 C 5.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後, 雑な手持ちヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 褐灰色 普通	95% P203 二次焼成痕 竈内
6	鉢 須恵器	A [35.3] B (11.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し, 端部はつまみ上げられ, 内面に凹線が巡る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	15% P204 竈内 覆土中～下層
7	鉢 須恵器	A [28.2] B (13.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き, 下位ヘラ削り。内面ナデ, 当て具痕, 輪積み痕有り。	長石 砂粒 灰色 普通	10% P205 竈内
8	鉢 須恵器	A [25.0] B (7.9)	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反して立ち上がり, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 黒色 普通	5% P206 覆土中～下層

第113号住居跡 (第77図)

位置 調査区南西部, D4e3区。

重複関係 本跡は第585号土坑と重複している。第585号土坑が, 本跡を掘り込んでいることから, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.60m, 短軸4.15mの長方形である。

主軸方向 N-18°-E

壁 覆土が浅く, 床面が露出しており, 壁は確認できなかった。

壁溝 全周している。上幅19~31cm, 下幅8~16cm, 深さ4~8cmで, 断面形はU字状である。

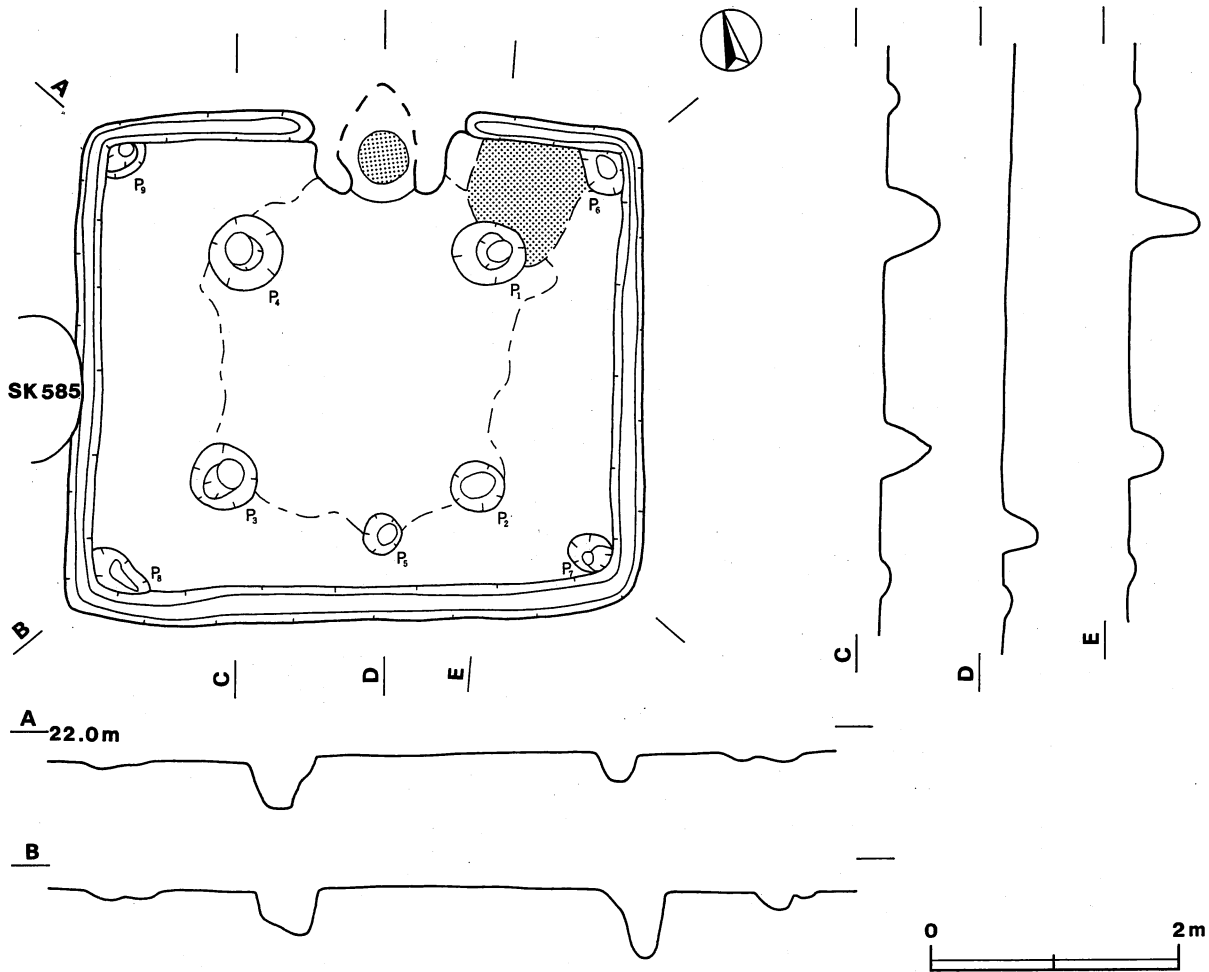
床 平坦で, 中央部に床面が残存しており, 踏み固められている。竈の東側から多量の焼土が確認されている。

竈 北壁中央に構築されていたと推定される。火床部の焼土塊と, 両袖部の粘土痕が残存しており, 規模は, 煙道部から焚口部まで [95] cm, 最大幅133cm, 壁外への掘り込みは [33] cmと推定される。

ピット 9か所 (P₁~P₉)。P₁は長径62cm, 短径50cmの楕円形, P₂~P₄は径40~60cmの円形で, いずれも深さ29~55cmの支柱穴である。P₅は径34cmの円形で, 深さ29cmの出入り口施設に伴うピットである。P₆~P₉は長径35~54cm, 短径28~30cmの楕円形または不定形で, いずれも深さ8~13cmの補助柱穴である。

遺物 土師器片3点, 須恵器片2点が出土している。覆土が浅かったことから, 遺物が少なく, ほとんどが細片である。

所見 遺構のほとんどが削平され, 床面が露出していたものと思われる。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の前期と考えられる。



第77図 第113号住居跡実測図

第114号住居跡 (第78・79図)

位置 調査区東部, C7i4区。

規模と平面形 長軸6.50m, 短軸5.70mの方形である。

主軸方向 N-1°-W

壁 壁高は32~40cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

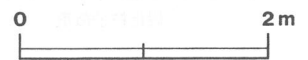
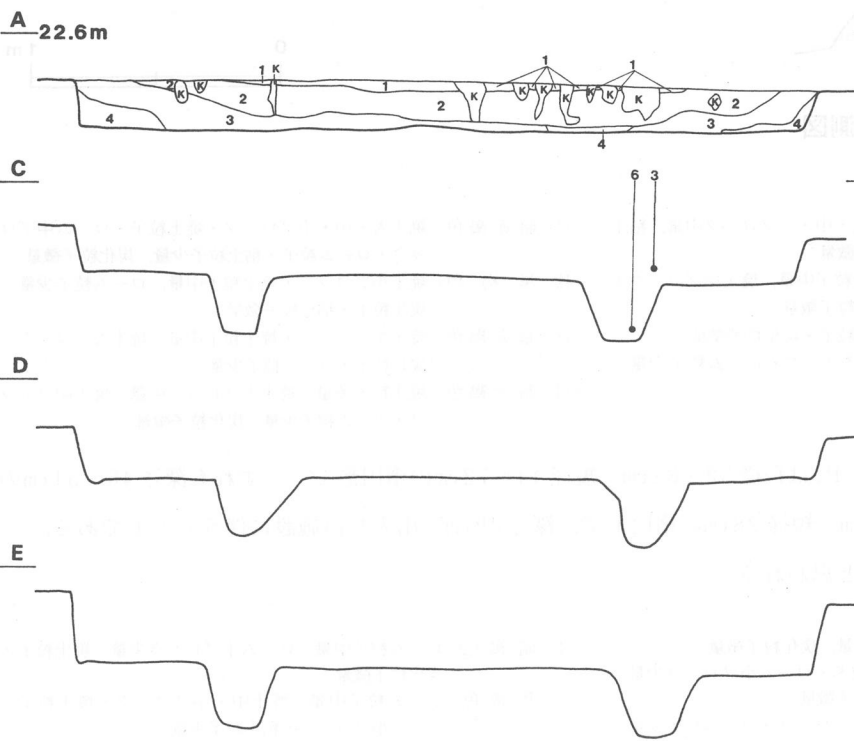
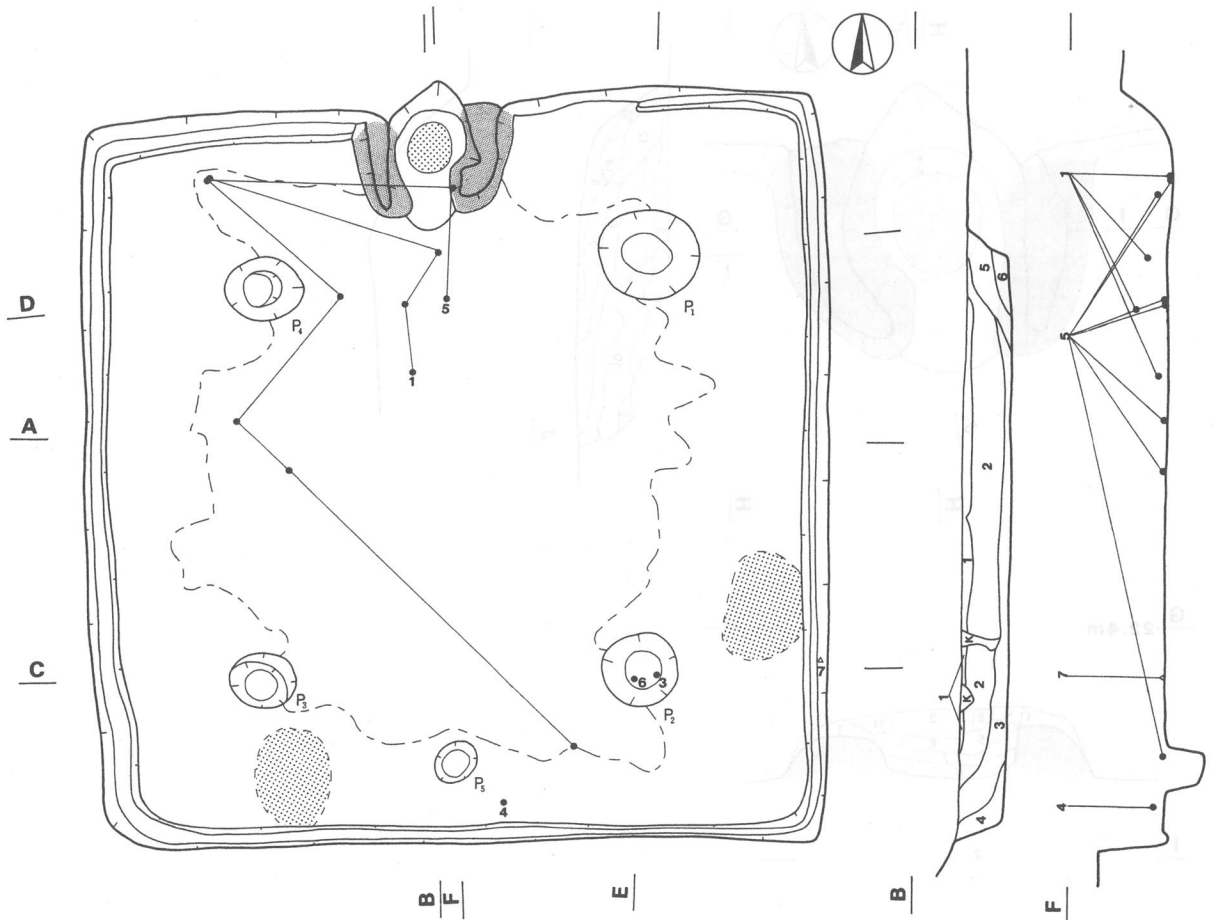
壁溝 全周している。上幅9~33cm, 下幅4~13cm, 深さ1~4cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 出入口施設から竈手前にかけて, 踏み固められている。東壁沿いと南壁沿いに, 焼土塊が確認されている。

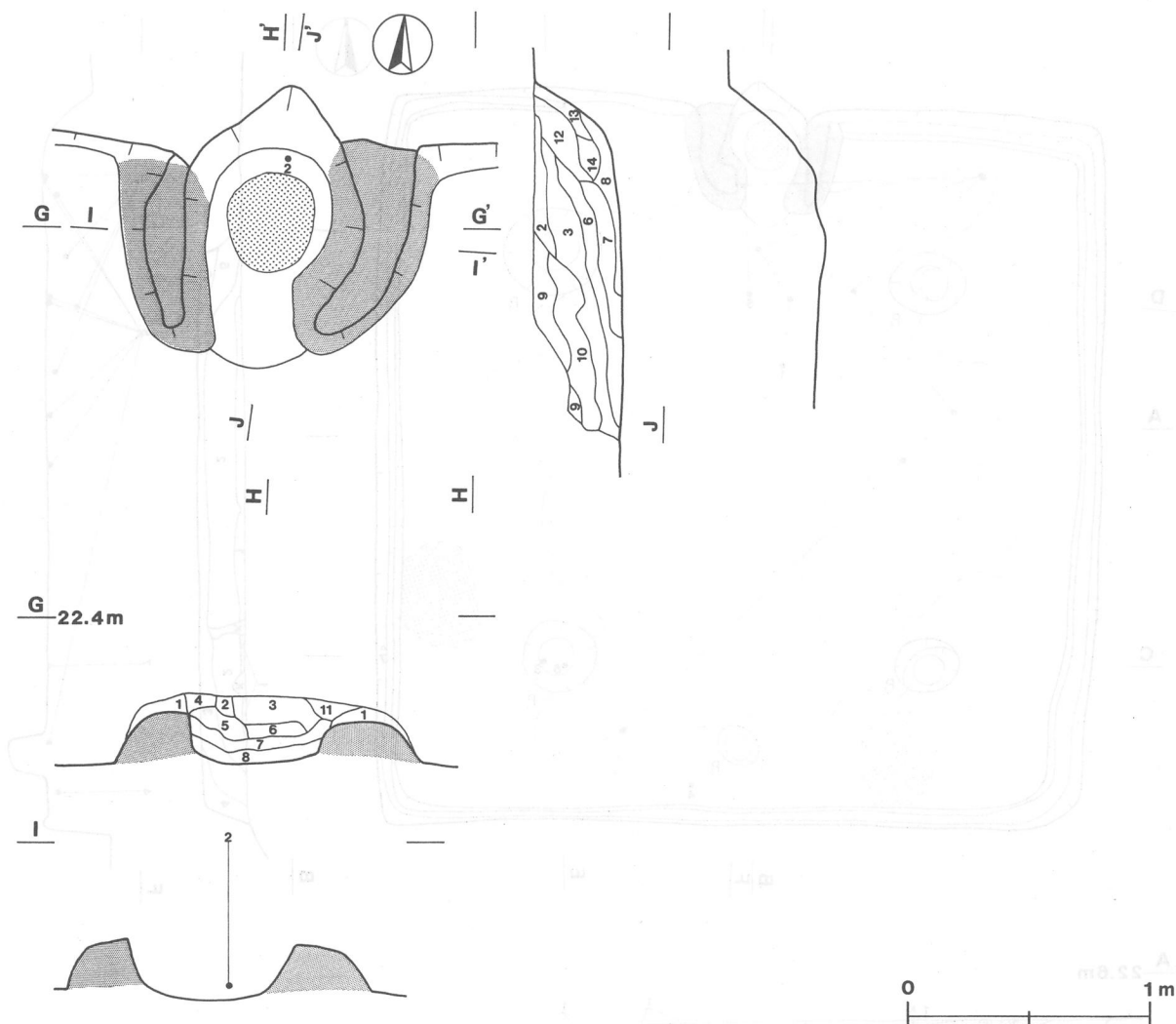
竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで121cm, 最大幅135cm, 壁外への掘り込みは21cmである。火床部は床面を3cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。煙道部は外傾し, 急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---|---------|--|
| 1 黒褐色 | 粘土粒子・砂中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 | 5 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土粒子・砂多量, 焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |



第78图 第114号住居跡実测图



第79図 第114号住居跡竈実測図

- | | |
|---|--|
| 7 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土大・中・小ブロック中量, 粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 11 暗赤褐色 焼土大・中・小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 8 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 12 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 9 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子中量, 焼土大ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 10 極暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 | 14 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は長径52~82cm, 短径44~72cmの楕円形で, いずれも深さ46~51cmの主柱穴である。P₅は長径35cm, 短径28cmの楕円形で, 深さ32cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 6層からなり, 自然堆積と思われる。

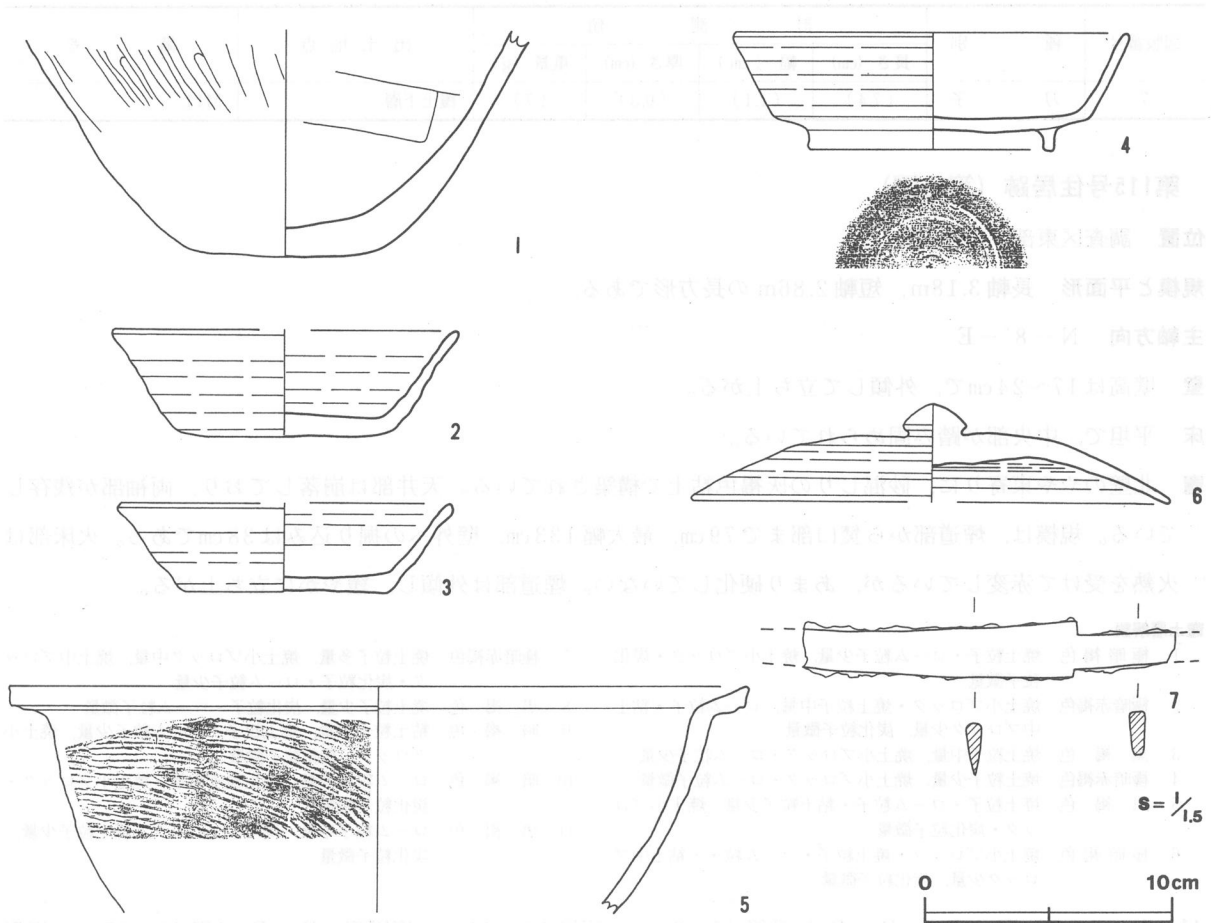
土層解説

- | | |
|--|---|
| 1 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土中・小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 粘土粒子・砂中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |

遺物 土師器片133点, 須恵器片90点, 刀子1点, 鉄滓1点, および混入した磁器片1点が出土している。1の土師器甕が北西コーナー部の床面直上と竈手前の覆土中・下層から, 2の須恵器坏が竈内から, 3の須恵器

坏がP₂付近の覆土下層から、4の須恵器高台付坏が南壁寄りの覆土下層から、5の須恵器鉢が南壁寄りから竈内までの床面直上と覆土下層の広範囲にわたり、6の須恵器蓋がP₂内から、7の刀子が東壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 東壁沿いと南壁沿いに、焼土塊が確認されており、床面直上から出土している5の須恵器鉢が二次焼成を受けていることから、焼失家屋の可能性はある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀後葉と考えられる。



第80図 第114号住居跡出土遺物実測図

第114号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第80図 1	甕 土師器	B (9.1) C 7.5	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面へラ磨き。内面へラナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	20% P209 床面直上 覆土中～下層
2	坏 須恵器	A [13.7] B 4.3 C [8.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	40% P210 二次焼成痕 竈内
3	坏 須恵器	A [13.2] B 3.6 C 8.2	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	20% P211 覆土下層
4	高台付坏 須恵器	A [15.8] B 4.7 D [9.6] E 1.0	高台部から口縁部の破片。高台部は直線的に開く。平底。体部は下位に稜を持ち、口縁部にかけて直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 褐灰色 普通	40% P212 覆土下層

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第80図 5	鉢 須恵器	A 14.4 B 4.3 C 5.3	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面クロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ。	雲母 砂粒 明赤褐色 普通	45% P213 二次焼成痕 床面直上 覆土下層
6	蓋 須恵器	A [19.4] B 3.9 F 2.6 G 1.2	口縁部からつまみの破片。宝珠状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で、緩やかに開く。	つまみ、天井部、口縁部内・外面クロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 砂粒 灰色 普通	40% P214 P2内

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
7	刀子	(7.4)	(1.1)	(0.3)	(7)	覆土下層	M11

第115号住居跡 (第81図)

位置 調査区東部, C7h₂区。

規模と平面形 長軸3.18m, 短軸2.86mの長方形である。

主軸方向 N-8°-E

壁 壁高は17~24cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁のやや東寄りに、砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで79cm, 最大幅133cm, 壁外への掘り込みは38cmである。火床部は火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|---|---|
| 1 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 7 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・粘土中ブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量 | 9 暗褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 極暗赤褐色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・ローム粒子微量 | 10 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 6 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土中ブロック少量, 炭化粒子微量 | |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁, P₂は長径25~30cm, 短径19~22cmの楕円形, P₃, P₄は径23~25cmの円形で、いずれも深さ8~10cmの支柱穴である。P₅は径29cmの円形で、深さ17cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 5層からなり、自然堆積と思われる。

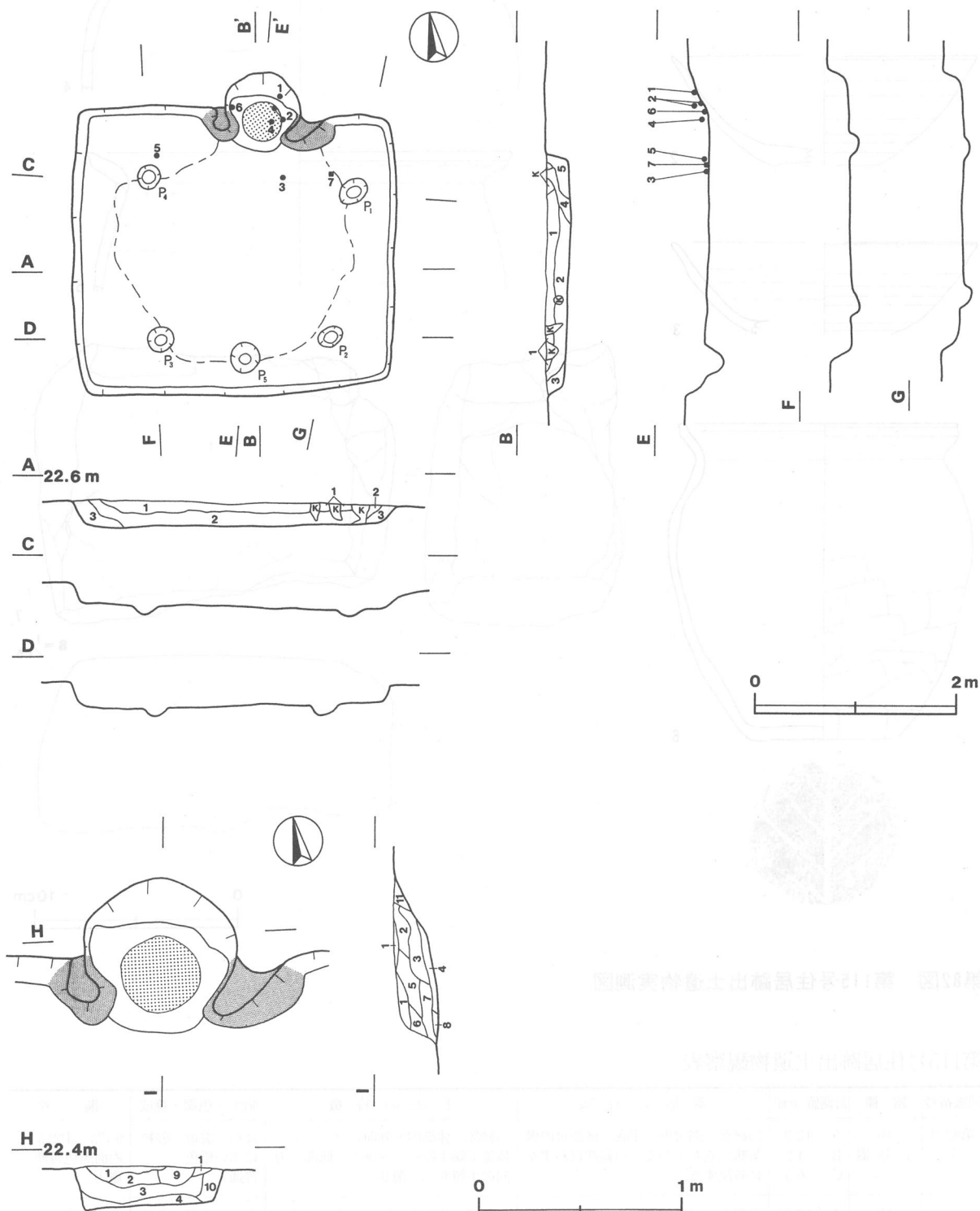
土層解説

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 | 4 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土中ブロック・粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量 | |

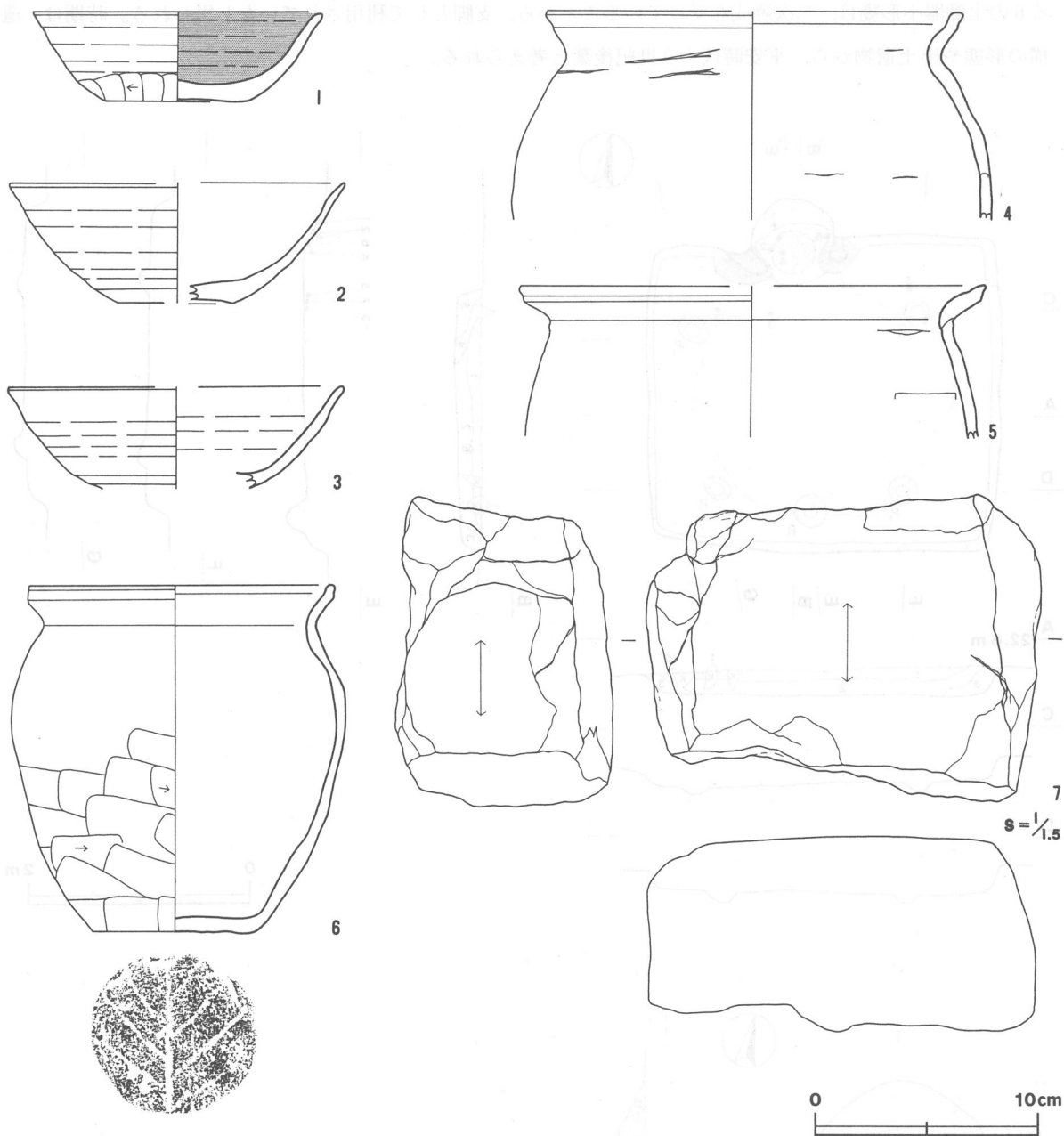
遺物 土師器片182点, 須恵器片66点, 砥石1点, および混入した陶器片4点が出土している。ほとんどの遺物は竈内と竈周辺に集中している。1, 2の土師器杯, 4の土師器甕が竈内から, 6の土師器小形甕が逆位で, 3の土師器杯, 7の砥石が竈手前の覆土下層から, 5の土師器甕が竈西側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 竈の火床部の状況から、短期間しか使用されなかった住居跡と考えられる。竈内から逆位で出土してい

る6の土師器小形甕は、二次焼成を受けていることから、支脚として利用されていたと思われる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後葉と考えられる。



第81図 第115号住居跡実測図



第82図 第115号住居跡出土遺物実測図

第115号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第82図 1	坏 土 師 器	A 13.0 B 4.2 C 6.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部はわずかに 外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちへら削り。底部一方 向の手持ちへら削り。	長石 雲母 砂粒 にふい橙色 普通	95% P215 内面黒色処理 竈内
2	坏 土 師 器	A [15.0] B 5.5 C [5.1]	底部から口縁部の破片。平底。体部 は内彎気味に立ち上がる。口縁部は わずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端回転へら削り。	長石 雲母 砂粒 外面にふい黄褐色 内面暗灰黄色 普通	45% P216 竈内
3	坏 土 師 器	A [15.0] B (4.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部はわずかに 外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端回転へら削り。	長石 雲母 砂粒 スコリア 橙色 普通	30% P217 覆土下層

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第82図 4	甕 土師器	A [18.9] B (9.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部は外反し、 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナ デ、頸部にヘラ当て痕。内面ナデ、 輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	15% P218 二次焼成痕 竈内
5	甕 土師器	A [19.9] B (6.8)	体部から口縁部の破片。口縁部は強 く外反して立ち上がり、端部はつま み上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナ デ。内面ヘラナデ、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	15% P219 覆土下層
6	小形甕 土師器	A 13.7 B 15.7 C 7.2	体部、口縁部一部欠損。平底。体部 は内彎して立ち上がる。口縁部は外 反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下 半ヘラ削り。内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	90% P220 底部木葉痕 二次焼成痕 竈内

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
7	砥石	(7.0)	(8.9)	(4.4)	(470)	砂岩	覆土下層	Q8

第116号住居跡 (第83図)

位置 調査区東部, C7h₁区。

重複関係 本跡は第22号溝, 第117号住居跡と重複している。本跡は第22号溝に掘り込まれ, 第117号住居跡の上部に構築されていることから, 第22号溝より古く, 第117号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸5.57m, 短軸5.44mの隅丸方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は5~10cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁のやや西寄りに, 砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 西側の袖部と東側の袖部の一部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで102cm, 最大幅 [170] cmである。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。煙道部は外傾し, 緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

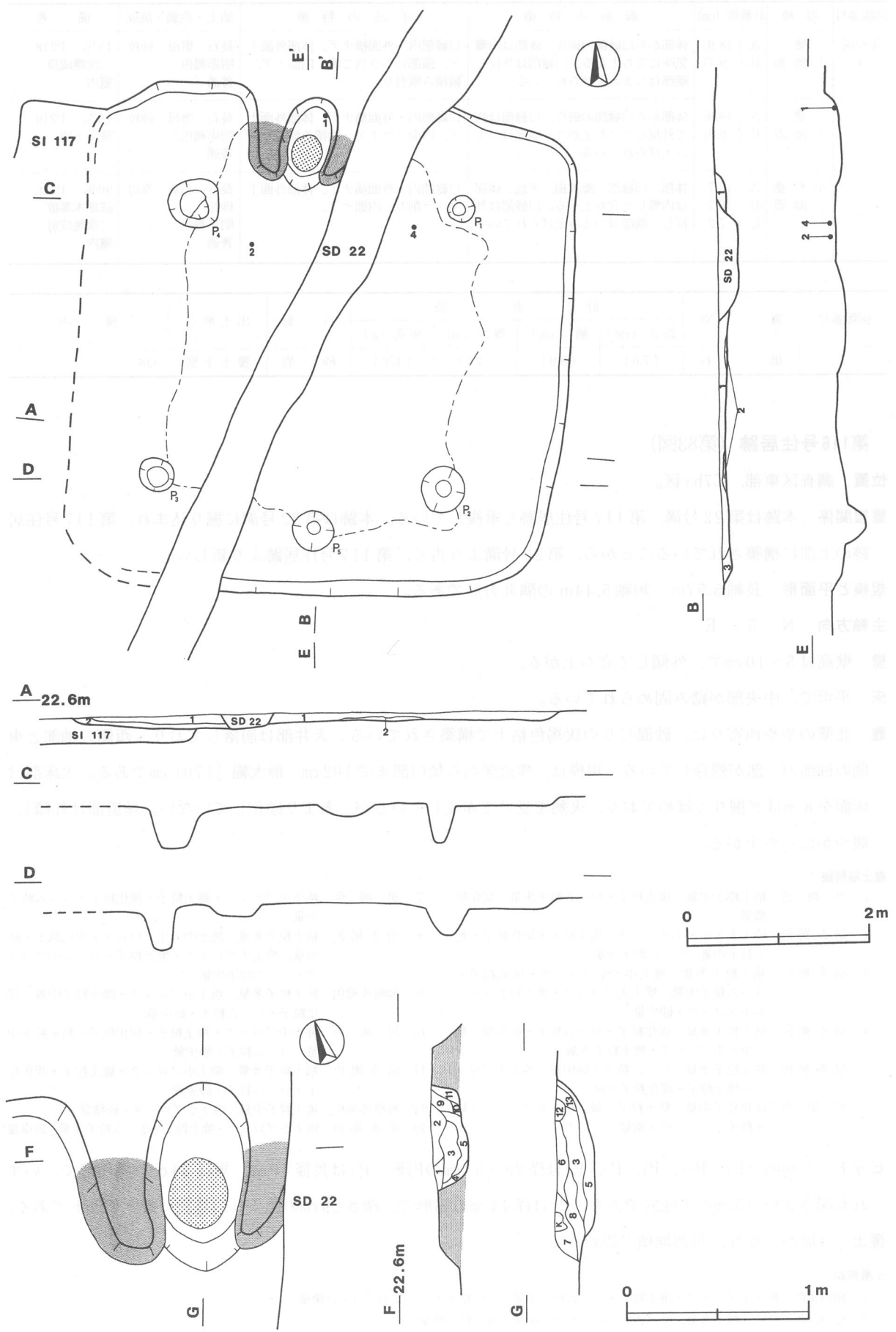
- | | |
|--|--|
| 1 黒褐色 粘土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 炭化物微量 | 7 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土大・中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量, ローム粒子少量 | 8 暗赤褐色 粘土粒子多量, 焼土中・小ブロック・炭化粒子・砂中量, 焼土大ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 粘土粒子多量, 焼土中・小ブロック・炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土大ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・砂少量 | 9 極暗赤褐色 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・砂少量 |
| 4 暗赤褐色 粘土粒子多量, 炭化粒子・ローム粒子・砂中量, 焼土中・小ブロック・焼土粒子少量 | 10 黒褐色 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量, ローム粒子・砂少量 |
| 5 暗赤褐色 粘土粒子多量, ローム粒子・砂中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 暗赤褐色 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量 |
| 6 黒褐色 炭化粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子微量 | 12 極暗赤褐色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・砂微量 |
| | 13 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 砂微量 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁, P₂, P₄は径28~54cmの円形, P₃は長径40cm, 短径34cmの楕円形で, いずれも深さ32~45cmの主柱穴である。P₅は径44cmの円形で, 深さ29cmの出入り口施設に伴うピットである。

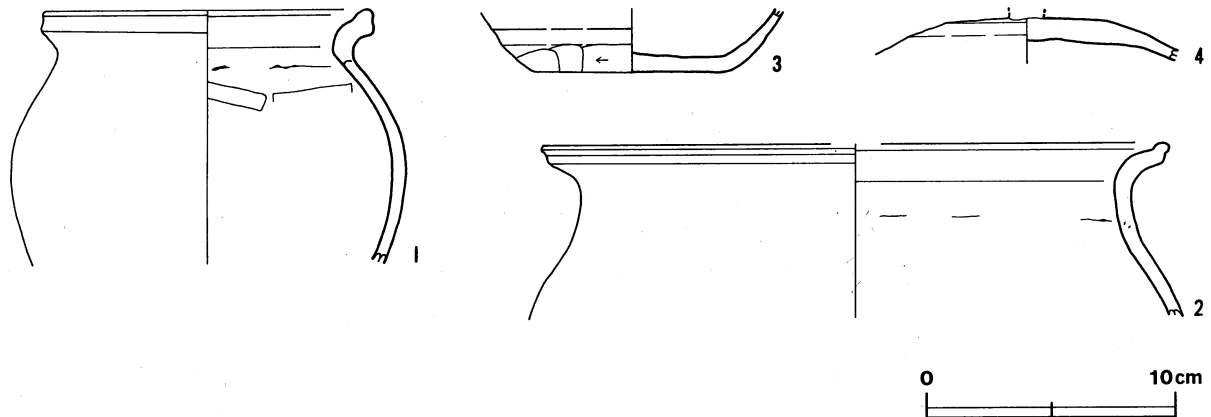
覆土 3層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

- 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 暗褐色 ローム粒子多量, ローム大・中ブロック中量, 焼土粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量



第83图 第116号住居跡実測图



第84図 第116号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片 202点, 須恵器片 102点が出土している。1の土師器甕が竈内から, 2の土師器甕が竈手前の覆土下層から, 3の須恵器坏が覆土中から, 4の須恵器蓋がP₁付近の覆土下層からそれぞれ出土している。
 所見 時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 奈良時代の8世紀後葉と考えられる。

第116号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第84図 1	甕 土師器	A 13.3 B (10.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は器肉を増しながら外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ, 輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	30% P222 竈内
2	甕 土師器	A [25.2] B (7.0)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	10% P223 覆土下層
3	坏 須恵器	B (2.6) C [8.0]	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面クロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	30% P224 覆土中
4	蓋 須恵器	B (1.8)	天井部の破片。天井部はほぼ平坦で, 上位に稜を持ち開く。	天井部内・外面クロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 暗灰黄色 普通	15% P226 覆土下層

第117号住居跡 (第85・86図)

位置 調査区東部, C6h₉区。

重複関係 本跡は第22号溝, 第116・118号住居跡と重複している。本跡は第22号溝に掘り込まれ, 本跡の上部に第116・118号住居跡が構築されていることから, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸7.40m, 短軸7.37mの方形である。

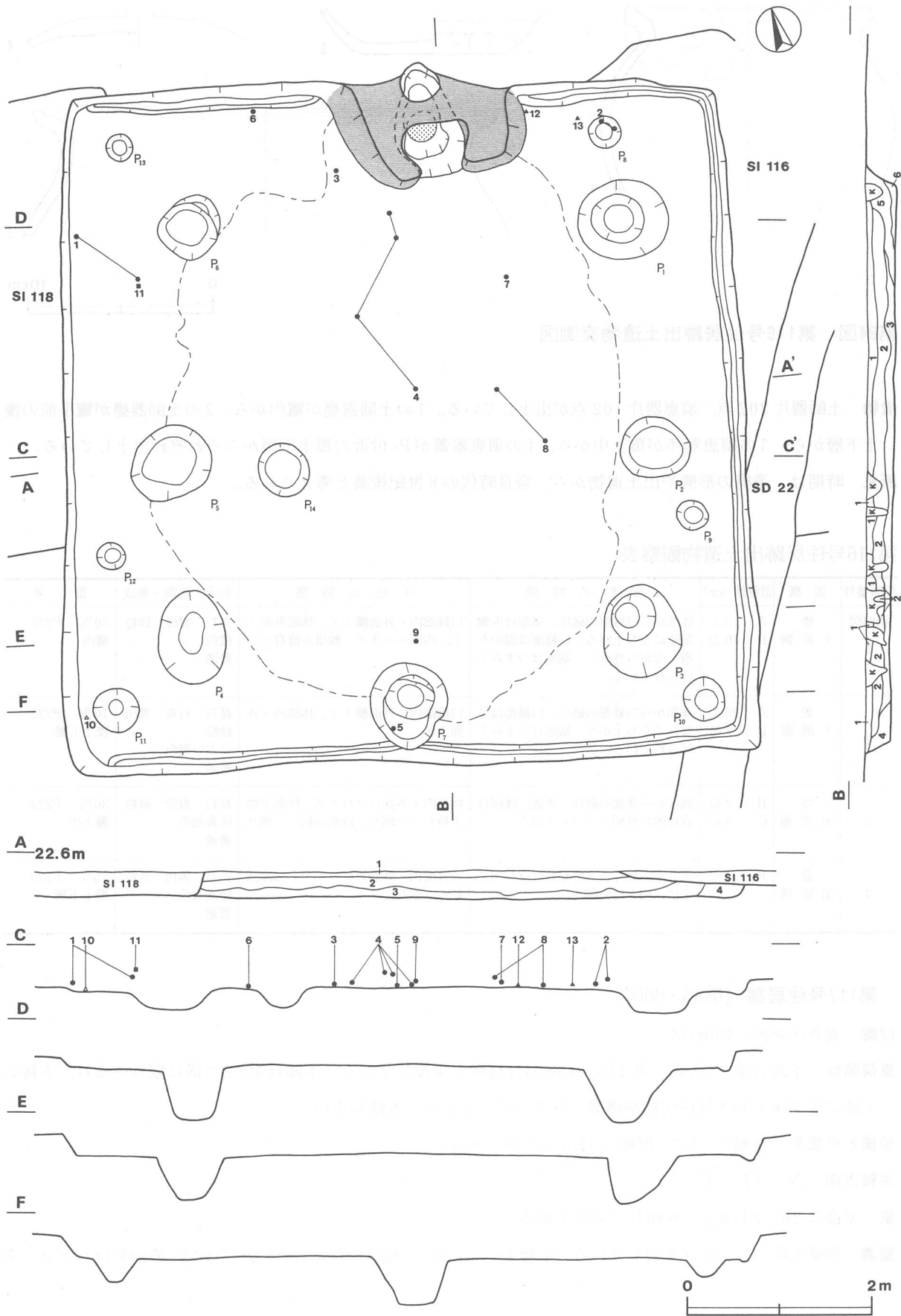
主軸方向 N-17°-E

壁 壁高は20~31cmで, 外傾して立ち上がる。

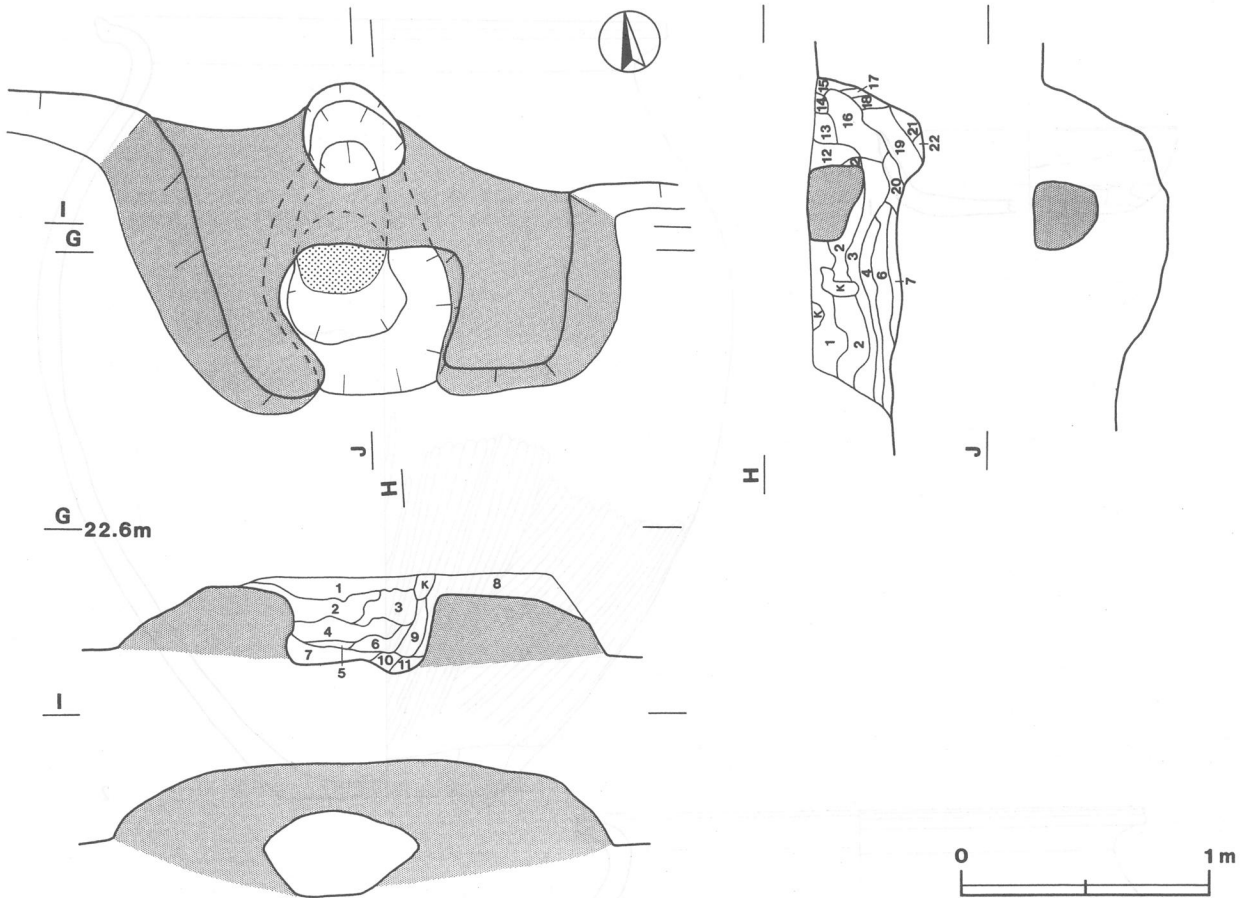
壁溝 西壁を除いて, ほぼ半周している。上幅10~37cm, 下幅3~7cm, 深さ2~7cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部, 煙道部と両袖部が残存しているが, 焚口部



第85图 第117号住居跡実测图

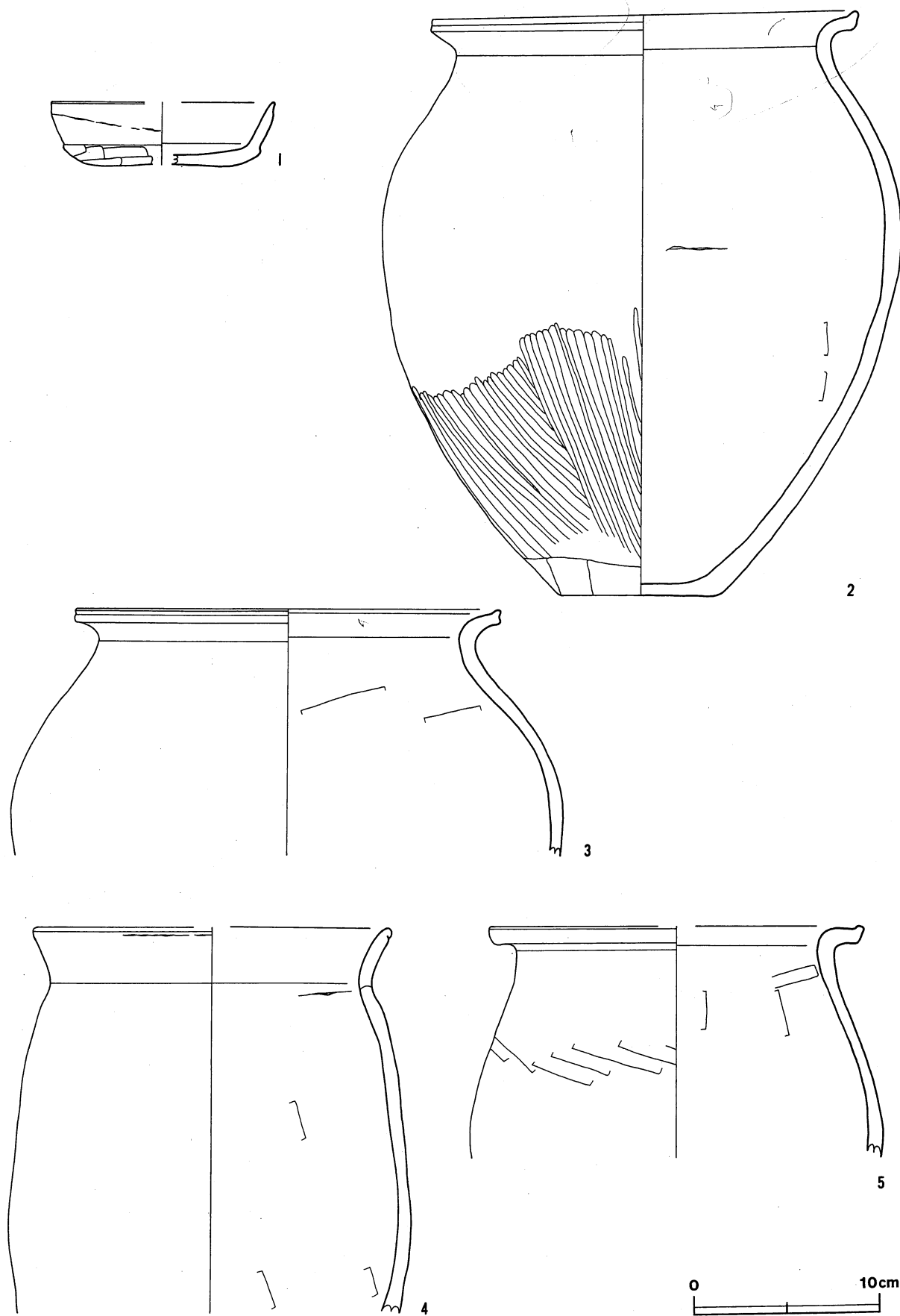


第86図 第117号住居跡竈実測図

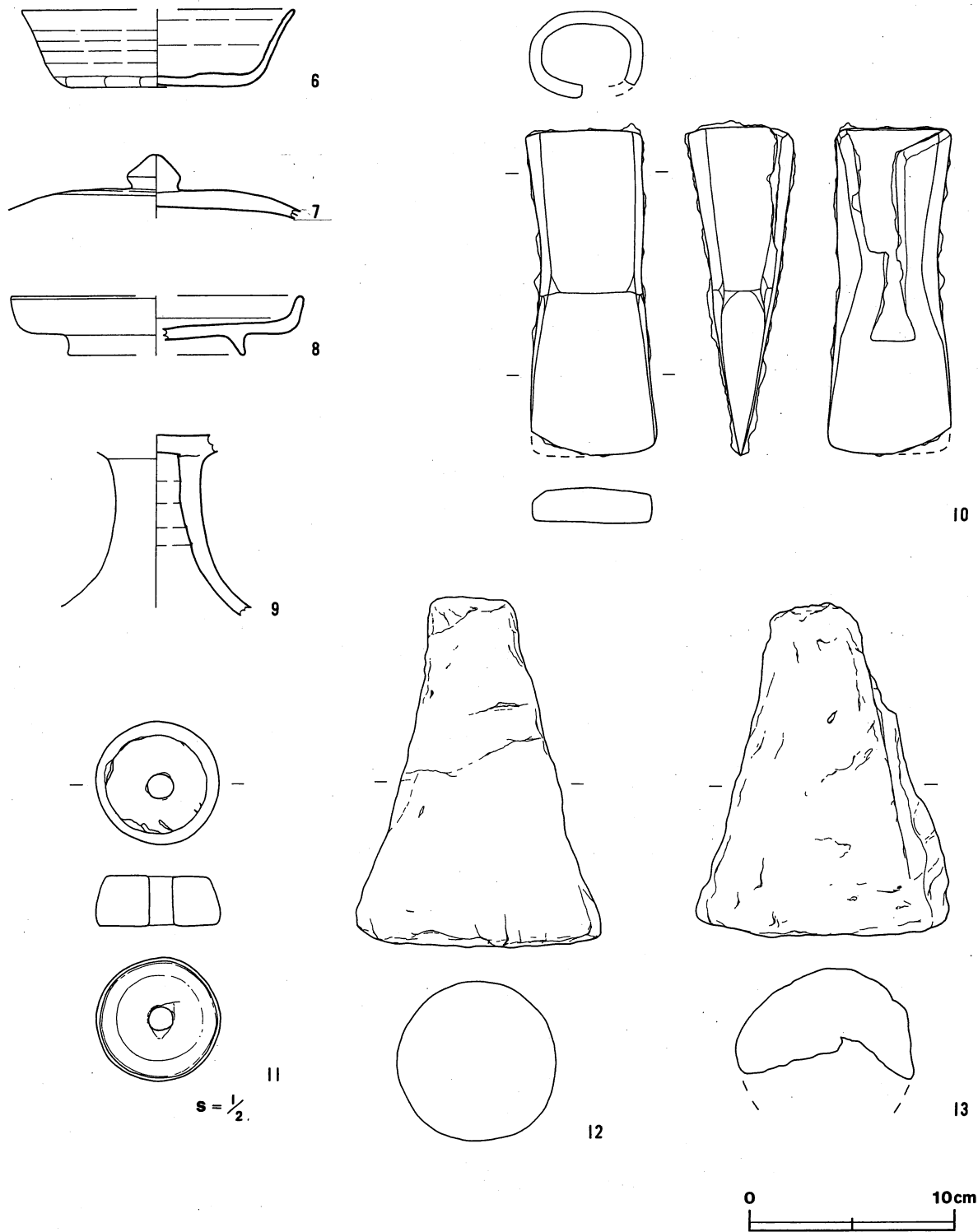
付近の天井が崩落している。規模は、煙道部から焚口部まで125cm、壁外への掘り込みは26cm、天井幅150～170cm、奥行き33～52cmの長方形をしている。火床面から天井部までの高さ28cm、残存する天井部の厚さ33～35cmである。両袖部は最大幅206cm、東側袖部幅62～75cm、西側袖部幅40～61cmで下部が厚く、上部はやや細くなる形状をしている。両袖部の内壁は火熱を受けて赤変し、硬く締まっている。東側袖部は西側袖部に比べて、粘土で厚く作られている。火床部は床面を16cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾し、急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|--|-----------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 | 10 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | 粘土粒子・砂多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土中ブロック・ローム粒子微量 | 11 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 12 黒褐色 | 焼土粒子・砂・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土中・小ブロック中量, 焼土大ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 13 黒褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子・砂微量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子多量, 炭化物中量, 焼土粒子少量 | 14 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物少量, 粘土小ブロック微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 15 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 砂微量 |
| 7 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 16 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 砂微量 |
| 8 暗褐色 | 粘土粒子・砂多量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 17 暗赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・砂微量 |
| 9 極暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 粘土小ブロック少量, ローム粒子微量 | 18 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物少量, 砂微量 |
| | | 19 黒褐色 | 焼土粒子・砂少量 |
| | | 20 におい赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂・粘土粒子微量 |
| | | 21 黒褐色 | 焼土粒子少量, 砂微量 |
| | | 22 暗褐色 | 砂・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |



第87図 第117号住居跡出土遺物実測図(1)



第88図 第117号住居跡出土遺物実測図(2)

ピット 14か所 (P₁~P₁₄)。P₁~P₆は長径70~101cm, 短径66~86cmの楕円形または不整楕円形で, いずれも深さ21~56cmの支柱穴である。P₇は長径93cm, 短径83cmの不整楕円形で, 深さ57cmの出入口施設に伴うピットである。P₈~P₁₃は径30~50cmの円形で, 深さ9~30cmの補助柱穴である。P₁₄は長径58cm, 短径52cmの楕円形, 深さ22cmで, 性格は不明である。

覆土 6層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---|---------|--|
| 1 極暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量 | 5 暗褐色 | 粘土粒子・粘土中ブロック・砂多量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 6 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・粘土中ブロック・砂中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 |

遺物 土師器片 419点, 須恵器片 182点, 鉄斧1点, 紡錘車1点, 支脚2点, および混入した石鏃1点, 陶器片1点が出土している。2の土師器甕がP₈付近の覆土下層から, 3の土師器甕が竈西側の床面直上から, 8の須恵器盤が中央部の床面直上と覆土下層から, 10の鉄斧が南西コーナー部の床面直上から, 11の紡錘車が西壁寄りの覆土中層から, 12の支脚が竈東側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀前半と考えられる。

第117号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第87図 1	坏 土師器	A [12.0] B 3.4 C [7.6]	底部から口縁部の破片。丸みのある平底。体部は内彎気味に立ち上がり, 下位に稜を持つ。口縁部は外傾気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部下位ヘラ削り。内面横ナデ。底部ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	35% P229 覆土中～下層
2	甕 土師器	A 22.8 B 31.5 C 8.5	底部, 体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下半ヘラ削り後, 下端を除きヘラ磨き。内面ヘラナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	90% P230 二次焼成痕 覆土下層
3	甕 土師器	A 22.9 B (13.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し, 端部はつまみ上げられ, 棒状工具による凹線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ, 内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	30% P232 床面直上
4	甕 土師器	A [19.0] B (20.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後, ナデ。内面ヘラナデ。輪積み痕有り。	長石 石英 雲母 砂粒 橙色 普通	15% P233 覆土中～下層
5	甕 土師器	A [20.2] B (12.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面にヘラ当て痕。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	15% P234 覆土下層
第88図 6	坏 須恵器	A [13.4] B 3.8 C 9.0	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後, 手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	70% P240 覆土下層
7	蓋 須恵器	B (3.0) F 2.6 G 1.3	天井部からつまみの破片。宝珠状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦である。	つまみ, 天井部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	20% P244 覆土下層
8	盤 須恵器	A [14.4] B 2.9 D [8.7] E 0.9	高台部から口縁部の破片。高台部は直線的に開く。平底。体部から口縁部にかけて, 直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。高台部貼り付け, ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	25% P246 床面直上 覆土下層
9	高盤 須恵器	B (8.8)	脚部から底部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部貼り付け, ロクロナデ。	長石 砂粒 灰白色 良好	15% P247 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
10	鉄斧	16.0	5.2	4.3	(710)	床面直上	M12 95%

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
		長径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第88図11	紡 錘 車	4.0	1.7	0.8	40	粘板岩	覆土中層	Q9 100%

図版番号	種 別	計 測 値			出土地点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
12	支 脚	17.2	12.0	(1260)	覆土下層	DP5 95%
13	支 脚	16.4	12.4	(810)	覆土下層	DP6 50%

第118号住居跡 (第89図)

位置 調査区東部, C6g3区。

重複関係 本跡は第117・119号住居跡と重複している。本跡は第117・119号住居跡の上部に構築されていることから、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.92m, 短軸4.43mの長方形である。

主軸方向 N-3°-E

壁 壁高は18~20cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁と西壁の一部で確認した。上幅[16~24]cm, 下幅[3~6]cm, 深さ[3~5]cmで、断面形はU字状と推定される。

床 平坦で、出入り口施設から竈付近にかけて、踏み固められている。

竈 北壁のやや東寄りに、砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで116cm, 最大幅148cm, 壁外への掘り込みは54cmである。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。特に、両袖部の内壁から煙道部にかけてはしっかりと焼けて、赤変している。煙道部は外傾し、緩やかな階段状に立ち上がる。

竈土層解説

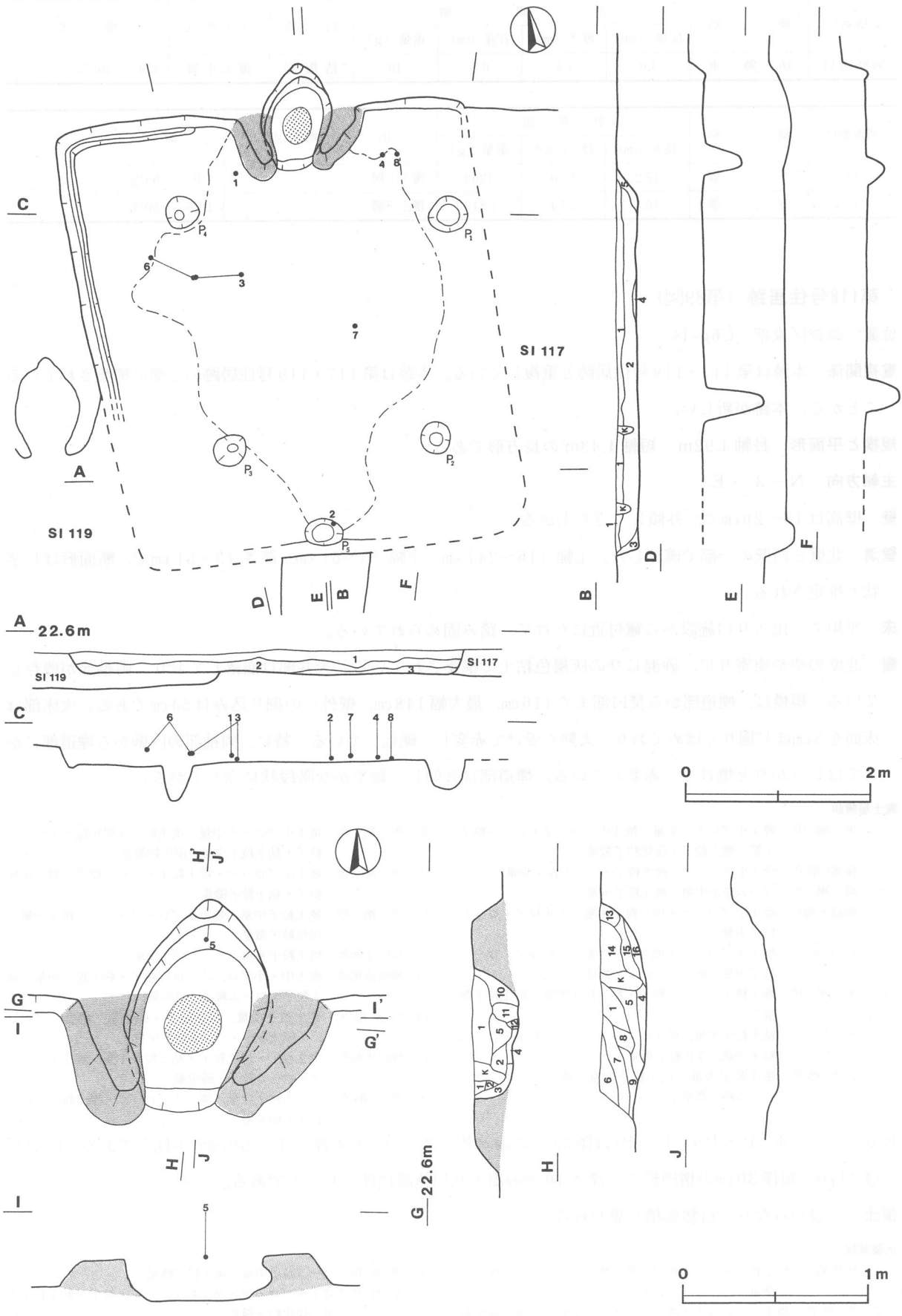
- | | |
|--|--|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化物微量 |
| 2 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 | 10 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 11 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 | 12 極暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土中ブロック微量 | 13 極暗赤褐色 焼土中・小ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子・ローム粒子・砂少量 |
| 6 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 粘土粒子多量, 炭化粒子・砂中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 7 黒褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 15 極暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量, 焼土中ブロック・ローム粒子・砂少量 |
| 8 暗赤褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム粒子微量 | 16 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂少量 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径30~42cmの円形で、いずれも深さ32~50cmの支柱穴である。P₅は長径41cm, 短径30cmの楕円形で、深さ10cmの出入り口施設に伴うピットである。

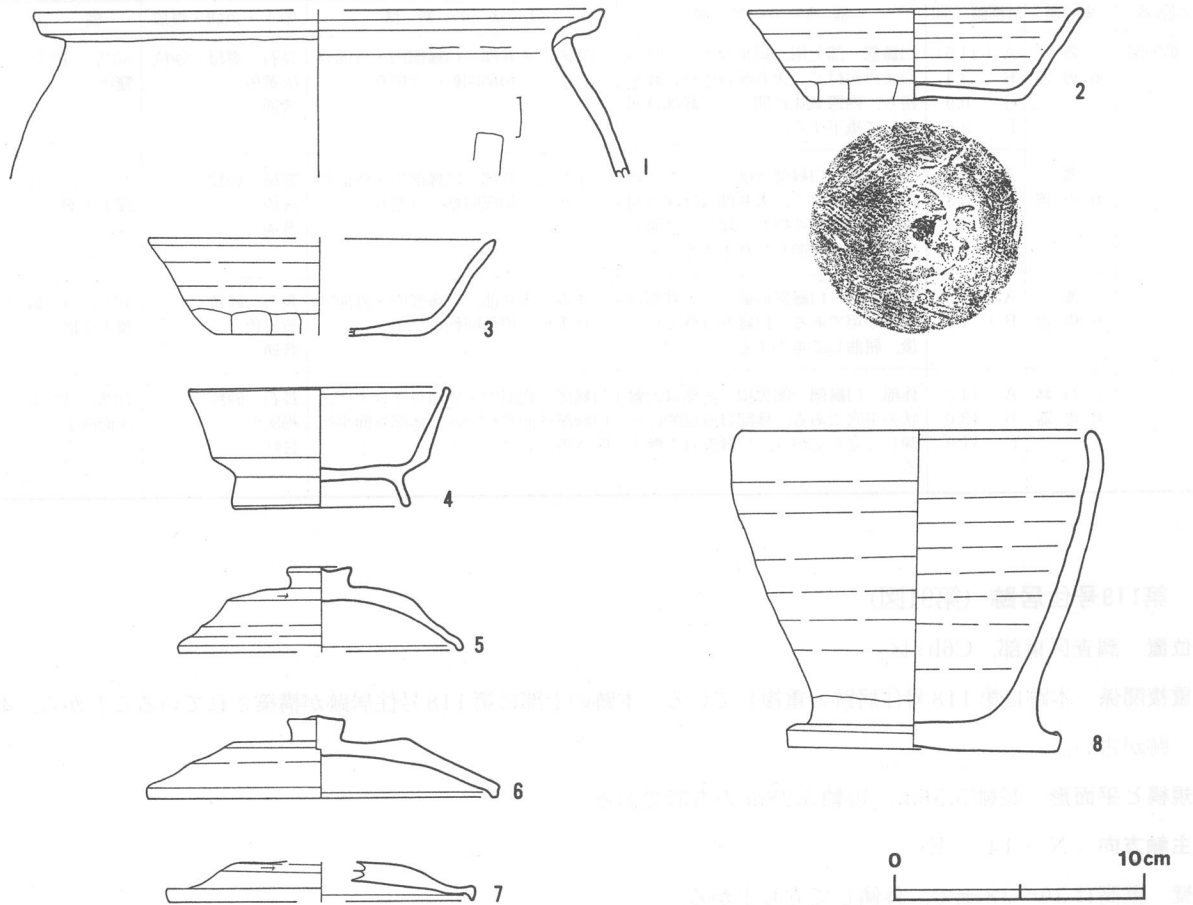
覆土 5層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | |



第89图 第118号住居跡実測図



第90図 第118号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片 228点, 須恵器片 119点が出土している。1の土師器甕が竈西側の覆土下層から, 2の須恵器杯が南壁寄りの覆土下層から, 3の須恵器杯が中央部の覆土中・下層から, 4の須恵器高台付杯が竈東側の覆土下層から, 5の須恵器蓋が竈内から, 6の須恵器蓋が西壁寄りの覆土上層から, 7の須恵器蓋が中央部の覆土下層から, 8の須恵器こね鉢が竈東側の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 奈良時代の8世紀中葉と考えられる。

第118号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第90図 1	甕 土師器	A [23.0] B (6.6)	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反して立ち上がり, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ, 内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	10% P249 覆土下層
2	杯 須恵器	A 13.5 B 3.7 C 8.6	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて, 直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後, 手持ちヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 褐灰色 普通	85% P250 二次焼成痕 覆土下層
3	杯 須恵器	A [14.0] B 3.9 C 8.5	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	20% P251 覆土中～下層
4	高台付杯 須恵器	A 10.6 B 4.9 D 7.2 E 1.3	高台部は長く, ハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり, 下位に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け, ロクロナデ。	長石 砂粒 灰色 普通	100% P252 覆土下層

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第90図 5	蓋 須恵器	A [11.5] B 3.4 G 0.9 F 2.6	口縁部一部欠損。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部は中位に稜を持ち、内彎気味に開く。口縁部は屈曲して垂下する。	つまみ、天井部、口縁部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	80% P253 竈内
6	蓋 須恵器	A 14.0 B 3.3 F 2.4 G 1.0	つまみから口縁部の破片。ボタン状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で、中位に稜を持ち、緩やかに開く。口縁部は屈曲して垂下する。	つまみ、天井部、口縁部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	雲母 砂粒 灰色 普通	40% P254 覆土上層
7	蓋 須恵器	A [12.3] B (1.7)	天井部から口縁部の破片。天井部はほぼ平坦である。口縁部は外反した後、屈曲して垂下する。	つまみ、天井部、口縁部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 砂粒 黄灰色 普通	40% P255 覆土下層
8	こね鉢 須恵器	A 14.2 B 13.0 C 11.0	体部、口縁部一部欠損。底部は円盤状の平底である。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部は内彎する。	口縁部、底部内・外面ロクロナデ。口縁部外面平行叩き。体部外面平行叩き後、ロクロナデ。	長石 砂粒 褐灰色 良好	70% P256 床面直上

第119号住居跡 (第91図)

位置 調査区東部、C6h7区。

重複関係 本跡は第118号住居跡と重複している。本跡の上部に第118号住居跡が構築されていることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.56m、短軸5.28mの方形である。

主軸方向 N-14°-E

壁 壁高は30~38cmで、外傾して立ち上がる。

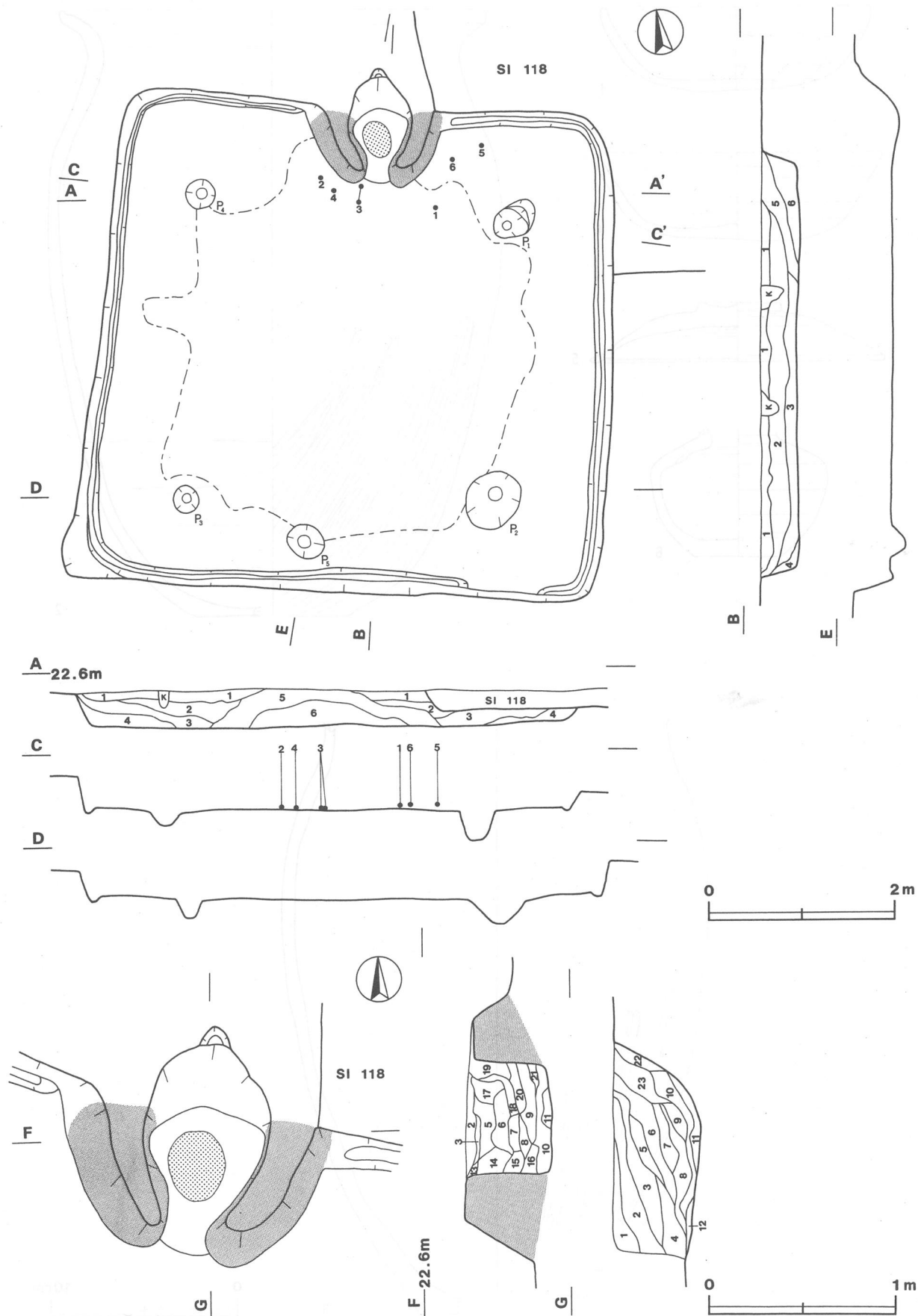
壁溝 南壁の一部を除き、ほぼ全周している。上幅13~50cm、下幅2~10cm、深さ3~5cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

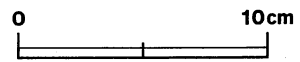
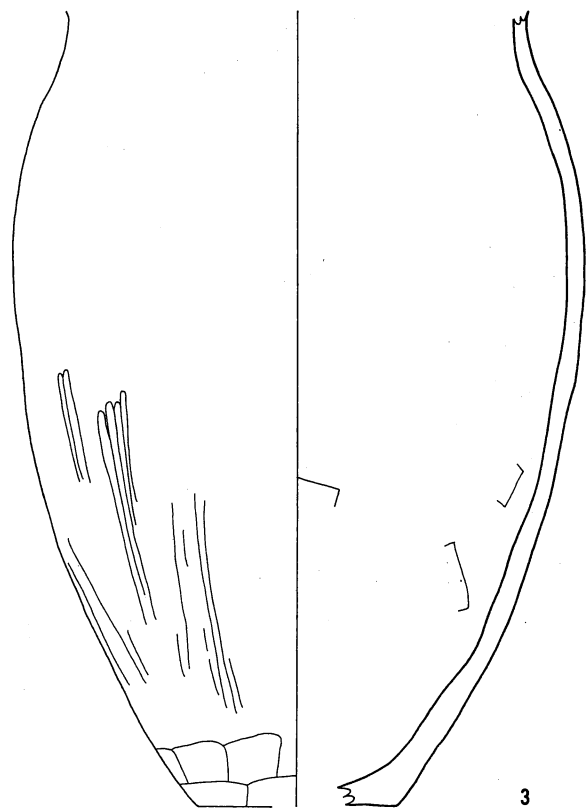
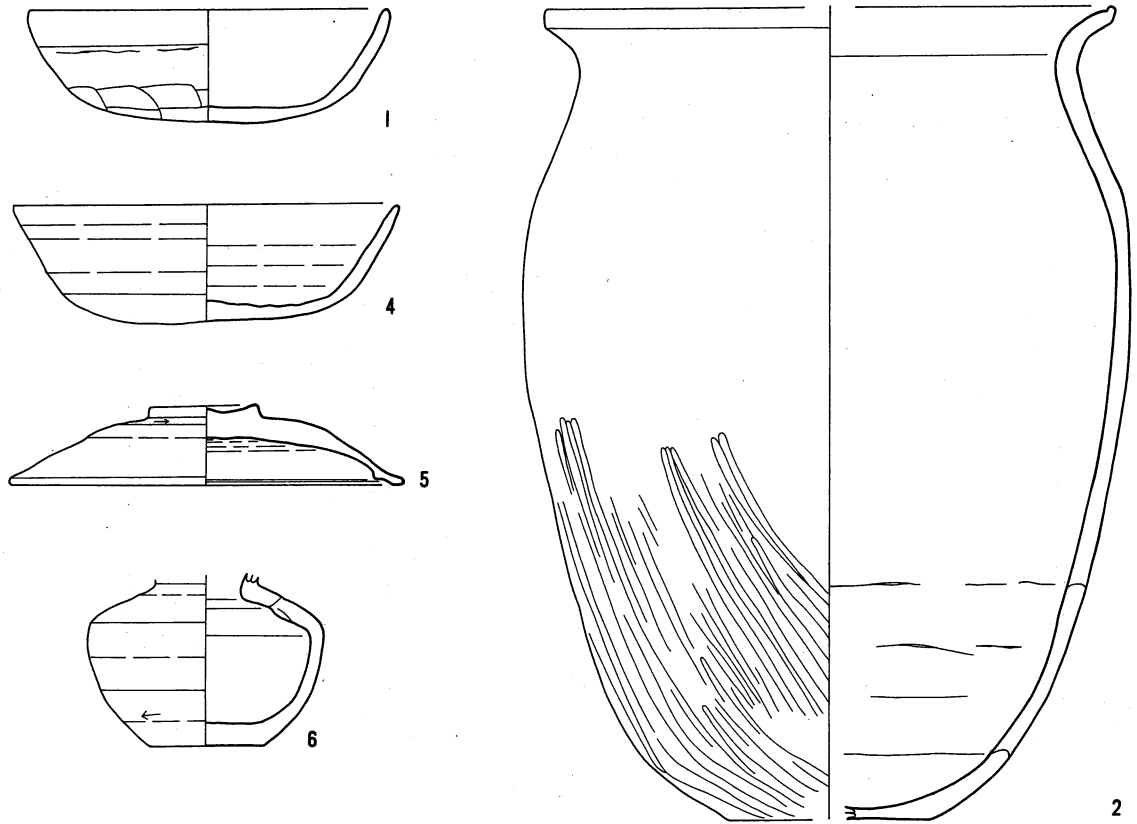
竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、煙道部と両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで122cm、最大幅150cm、壁外への掘り込みは43cmである。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾し、急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|--|--|
| 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化物微量 | 14 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・砂・粘土小ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子・粘土小ブロック少量、ローム小ブロック微量 | 15 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子・砂・粘土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物・砂・粘土粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック微量 | 16 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・砂少量 |
| 4 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・砂少量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 | 17 褐色 粘土粒子・砂多量、炭化粒子・ローム粒子中量、炭化物少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・砂・粘土粒子少量、炭化物・炭化粒子微量 | 18 黒褐色 粘土粒子・砂中量、焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 6 褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック・砂微量 | 19 暗褐色 粘土粒子・砂中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 7 にぶい赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・砂微量 | 20 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子・砂少量 |
| 8 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック・砂少量 | 21 極暗褐色 粘土粒子・砂中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 9 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量 | 22 暗赤褐色 炭化粒子・砂中量、焼土中・小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 10 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量 | 23 暗赤褐色 炭化粒子・ローム粒子中量、焼土大・小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂少量 |
| 11 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子多量、焼土大・中ブロック中量、炭化粒子少量 | |
| 12 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量 | |
| 13 暗赤褐色 焼土小ブロック・砂少量、焼土粒子微量 | |



第91图 第119号住居跡実测图



第92図 第119号住居跡出土遺物実測図

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁, P₂は長径51~65cm, 短径36~54cmの楕円形, P₃, P₄は径26~31cmの円形で、いずれも深さ20~37cmの支柱穴である。P₅は長径43cm, 短径35cmの楕円形で、深さ16cmの出入口口施設に伴うピットである。

覆土 6層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 粘土粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, ローム小ブロック微量
- 6 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック・粘土粒子中量, 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片268点, 須恵器片25点, 支脚1点が出土している。ほとんどの遺物が竈周辺に集中している。

1の土師器坏, 2, 3の土師器甕, 4の須恵器坏が竈手前の覆土下層から, 5の須恵器蓋, 6の須恵器甕が竈東側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 竈内や袖部の脇から遺物が出土していることから、それらは竈の補強材として使用されていたと考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀前葉と考えられる。

第119号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第92図 1	坏 土師器	A 14.6 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部下位へラ削り, 内面横ナデ。底部へラ削り。	長石 砂粒 橙色 普通	90% P257 覆土下層
2	甕 土師器	A [22.8] B 32.7 C [8.1]	底部, 体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下半へラ磨き。内面ナデ, 輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	60% P258 底部木葉痕 覆土下層
3	甕 土師器	B (32.0) C [8.0]	底部, 体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下半へラ削り後, 下端を除きへラ磨き。内面へラナデ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	60% P259 二次焼成痕 覆土下層
4	坏 須恵器	A 15.4 B 4.8 C 6.5	口縁部一部欠損。丸みのある平底。体部から口縁部にかけて, 直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面クロナデ。体部下端回転へラ削り。底部回転へラ削り。	長石 石英 砂粒 灰色 普通	95% P262 覆土下層
5	蓋 須恵器	A 15.9 B 3.3 G 0.6 F 4.3	口縁部一部欠損。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部から口縁部にかけて, 内彎気味に開く。口縁部は外反し, 内側にかえりが付く。	つまみ, 天井部, 口縁部内・外面クロナデ。頂部回転へラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	85% P263 覆土下層
6	甕 須恵器	B (6.9) C 4.7	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。上位に最大径を有し, 強く内傾する。	体部内・外面クロナデ。体部外面下位から底部回転へラ削り。	長石 砂粒 灰色 普通	80% P264 覆土下層

第120号住居跡 (第93図)

位置 調査区中央部, C6e₆区。

規模と平面形 長軸3.82m, 短軸(2.93)mである。本跡の北壁が調査区域外のため、平面形は不明である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は16~19cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南東コーナー部から、西壁下まで半周し、上幅[18~29]cm, 下幅[3~10]cm, 深さ[3~6]cmで、断面形はU字状と推定される。

床 全面が粘土質で、平坦で締まっている。特に、中央部が踏み固められている。中央部と西壁沿いに焼土塊

と炭化物が確認されている。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₃は長径24~32cm, 短径17~25cmの楕円形で、いずれも深さ26~38cmの支柱穴である。P₄は長径38cm, 短径30cmの楕円形で、深さ16cmの出入り口施設に伴うピットである。各ピットとも、底部は粘土層を掘り込んでいる。

覆土 3層からなり、焼土ブロック、ロームブロックの堆積している状況から、人為堆積と思われる。

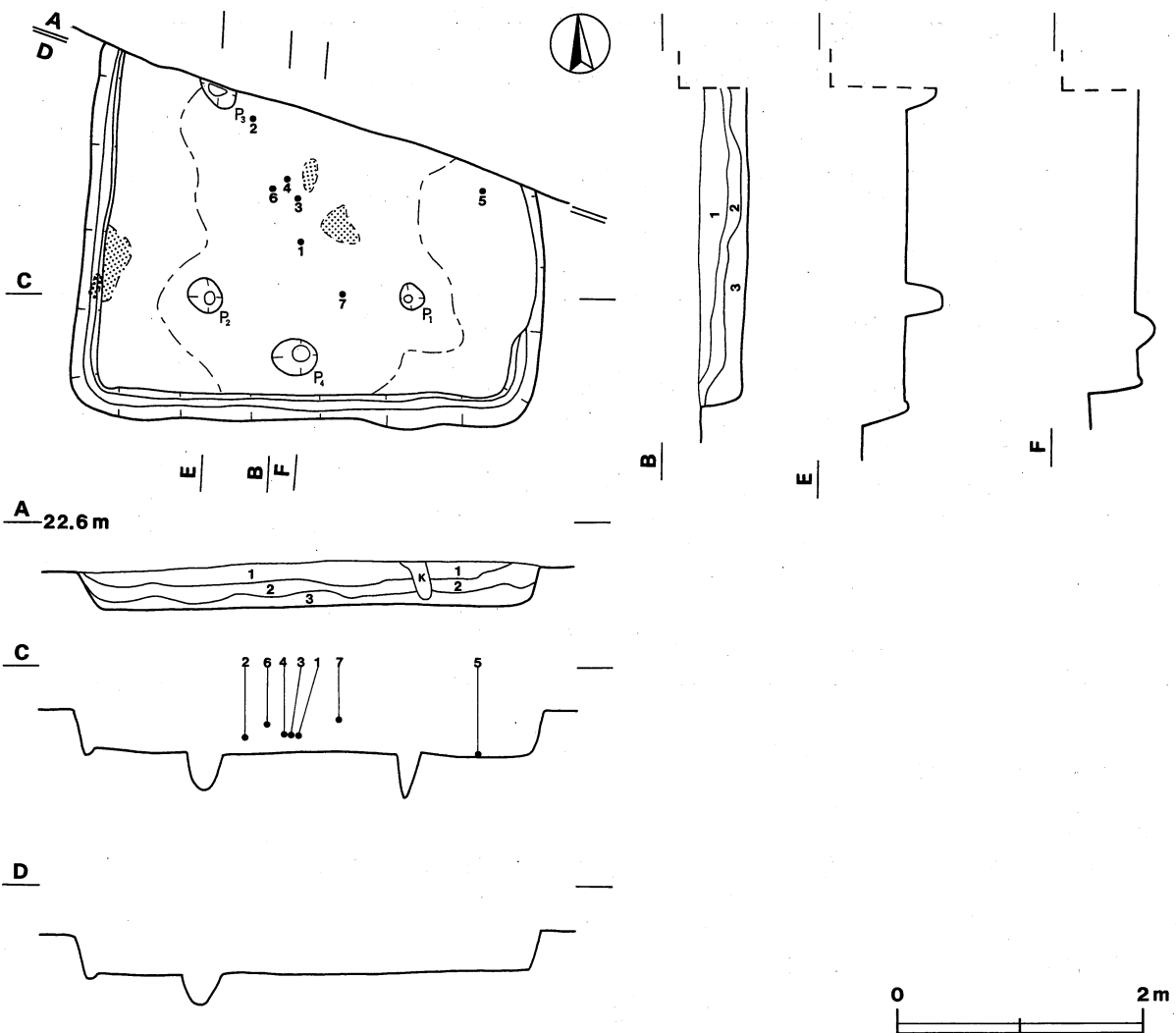
土層解説

- 1 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量

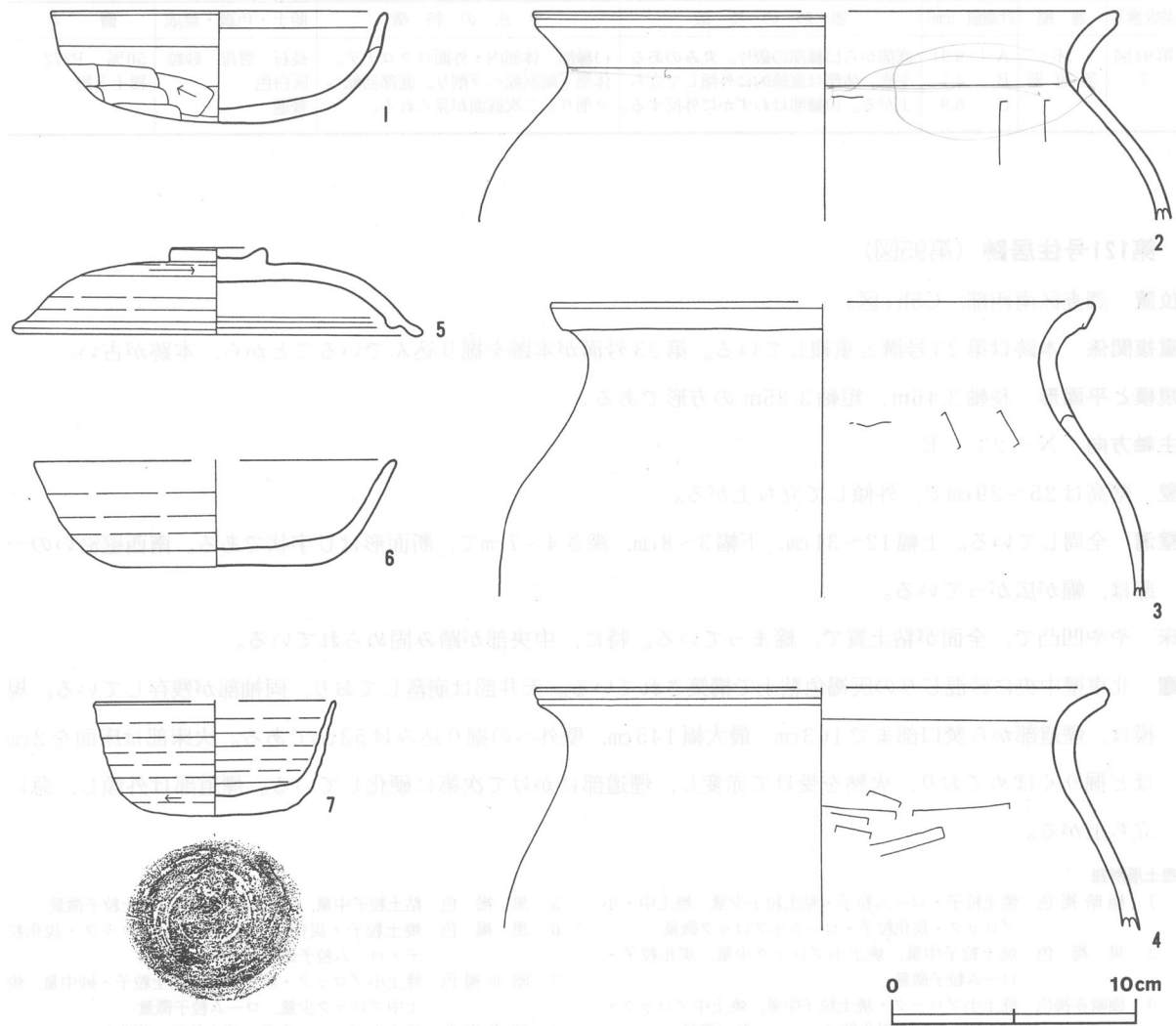
遺物 土師器片150点, 須恵器片19点, 支脚1点が出土している。ほとんどの遺物が中央部に集中している。

1の土師器坏, 2~4の土師器甕が中央部の覆土中層から, 5の須恵器蓋が東壁寄りの床面直上から, 6の須恵器坏が中央部の覆土上層から, 7の須恵器坏がP₁付近の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 中央部と西壁沿いに焼土塊と炭化物が確認されていることから、焼失家屋の可能性はある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の8世紀前葉と考えられる。



第93図 第120号住居跡実測図



第94図 第120号住居跡出土遺物実測図

第120号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第94図 1	坏 土師器	A [14.0] B 4.7	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部下半へラ削り。内面横ナデ。底部へラ削り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	60% P265 覆土中層
2	甕 土師器	A [24.0] B (8.6)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面へラナデ、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	10% P268 覆土中層
3	甕 土師器	A [22.1] B (12.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面へラナデ、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	15% P269 二次焼成痕 覆土中層
4	甕 土師器	A [23.7] B (10.0)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面へラナデ。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	10% P270 覆土中層
5	蓋 須恵器	A 16.9 B 3.6 G 0.8 F 3.9	口縁部一部欠損。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で、内彎気味に開く。口縁部は外反し、内側にかえりが付く。	つまみ、天井部、口縁部内・外面口クロナデ。頂部回転へラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 明黄褐色 普通	90% P267 二次焼成痕 床面直上
6	坏 須恵器	A [15.0] B 4.4 C [8.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面口クロナデ。体部下端回転へラ削り。底部回転へラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	45% P271 覆土上層

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第94図 7	坏 須恵器	A [9.9] B 4.7 C 6.9	底部から口縁部の破片。丸みのある平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。二次底面が見られる。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	50% P272 覆土上層

第121号住居跡 (第95図)

位置 調査区南西部, C5h4区。

重複関係 本跡は第23号溝と重複している。第23号溝が本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.46m, 短軸3.25mの方形である。

主軸方向 N-23°-E

壁 壁高は25~29cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅12~31cm, 下幅3~8cm, 深さ4~7cmで、断面形はU字状である。南西壁沿いの一部は、幅が広がっている。

床 やや凹凸で、全面が粘土質で、締まっている。特に、中央部が踏み固められている。

竈 北東壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで103cm, 最大幅145cm, 壁外への掘り込みは53cmである。火床部は床面を2cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、煙道部にかけて次第に硬化している。煙道部は外傾し、急に立ち上がる。

竈土層解説

1 極暗褐色	焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土中・小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量	5 黒褐色	粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
2 黒褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量	6 黒褐色	焼土粒子・炭化物少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
3 極暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量	7 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土中ブロック少量, ローム粒子微量
4 極暗赤褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック少量, 焼土大ブロック・炭化粒子微量	8 暗赤褐色	焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₃は径18~29cmの円形, P₄は長径30cm, 短径23cmの楕円形で、いずれも深さ8~22cmの支柱穴である。P₅は長径30cm, 短径22cmの楕円形で、深さ32cmの出入り口施設に伴うピットである。

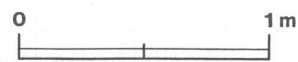
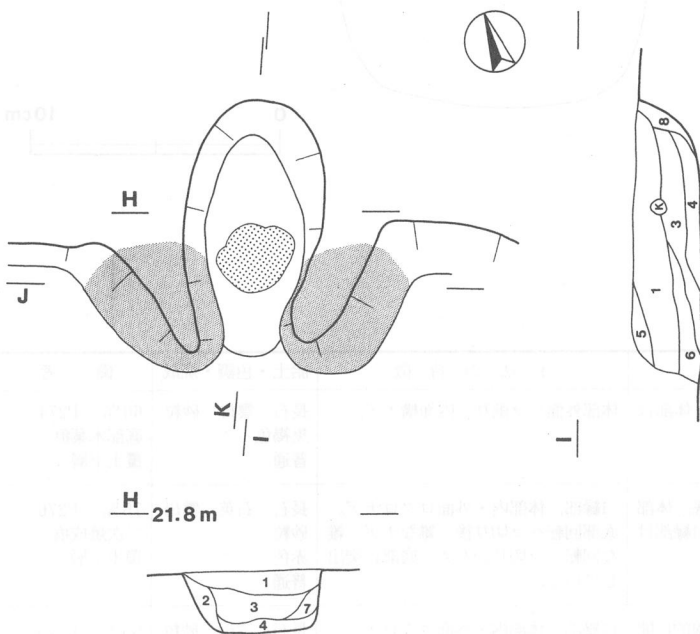
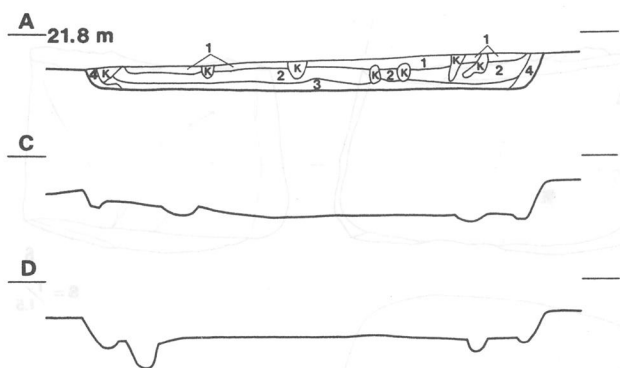
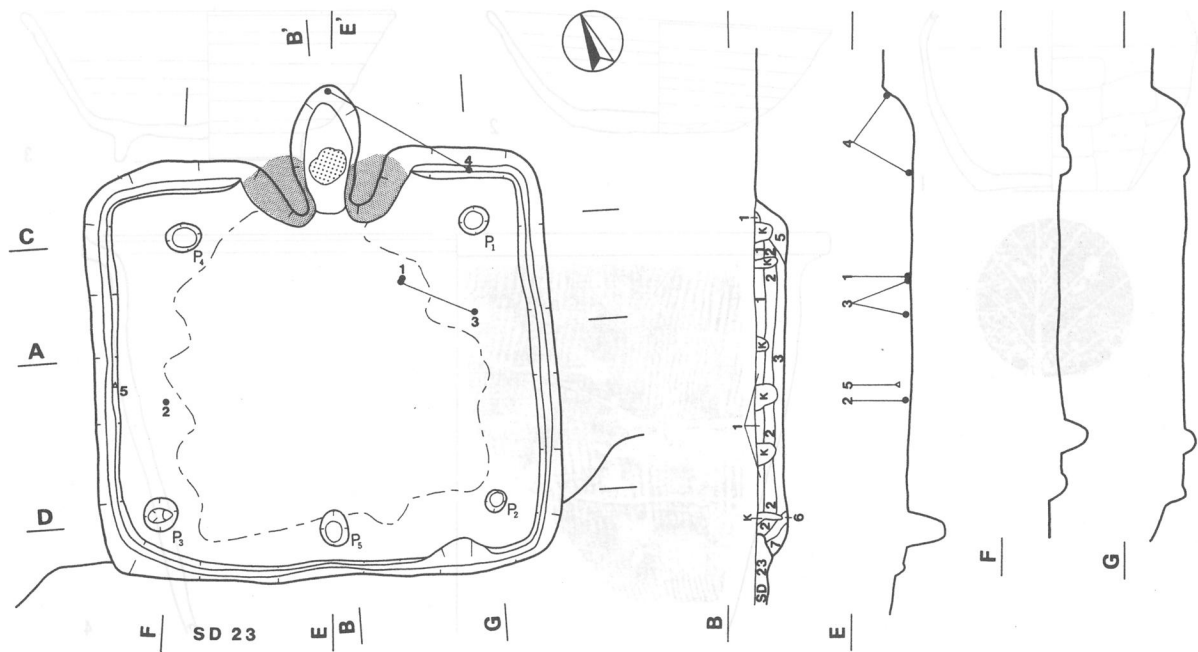
覆土 7層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

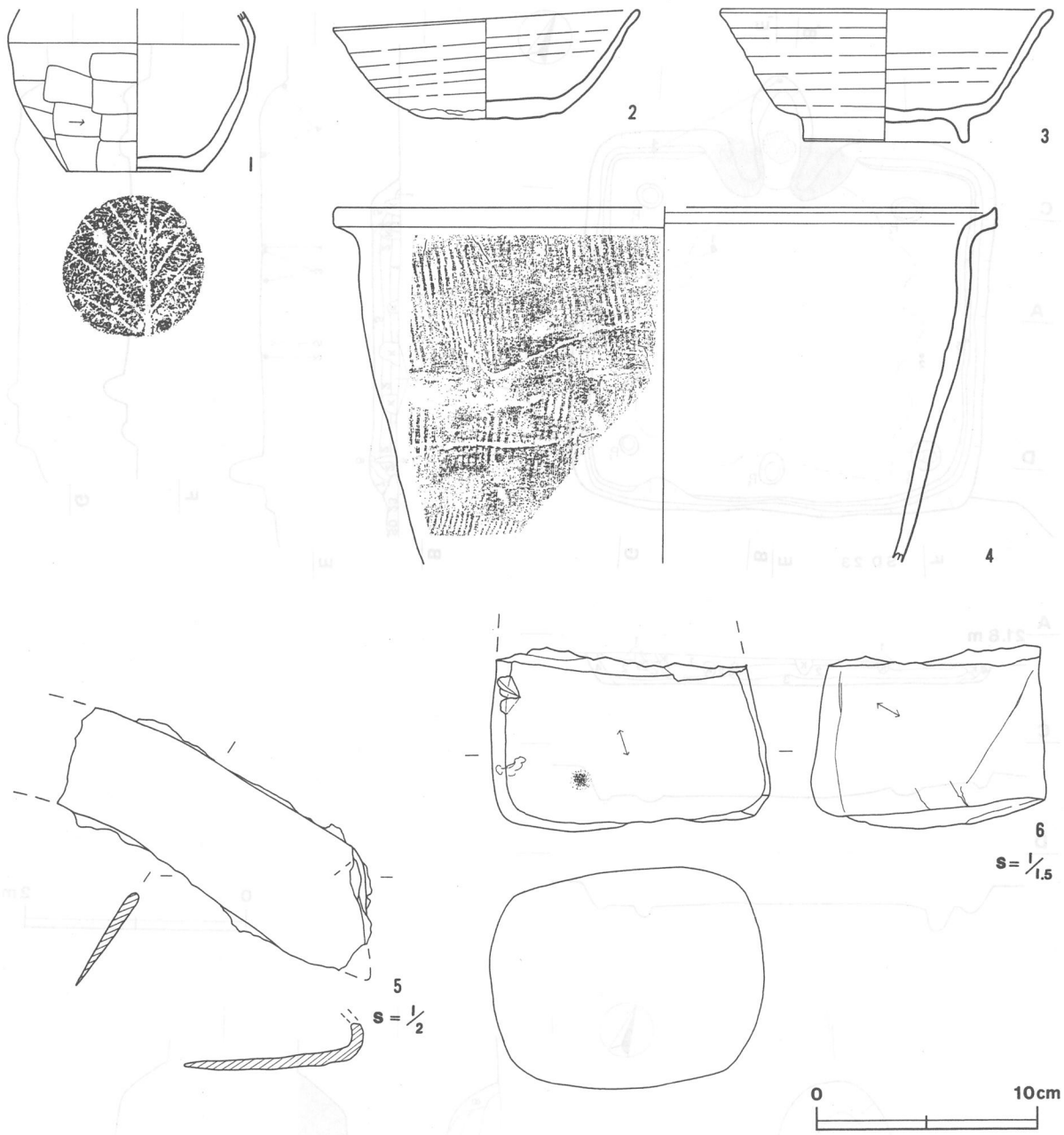
1 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量	5 黒褐色	焼土粒子・粘土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量
2 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量	6 黒褐色	ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム粒子少量
3 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量	7 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量		

遺物 土師器片62点, 須恵器片37点, 鎌1点, 砥石1点が出土している。1の土師器小形甕が中央部の覆土下層から、2の土師器坏が北西壁寄りの覆土下層から、3の須恵器高台付坏が南東壁寄りの覆土下層から、4の須恵器鉢が竈内と竈東側の覆土下層から、5の鎌が北西壁寄りの覆土中層から、6の砥石が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 重複している第23号溝の深さが住居跡より浅かったため、重複している南西壁付近も住居跡の壁が確認されている。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後葉と考えられる。



第95图 第121号住居跡実測图



第96図 第121号住居跡出土遺物実測図

第121号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第96図 1	小形甕土師器	B (7.4) C 6.2	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面へら削り。内面横ナデ。	長石 雲母 砂粒 黒褐色 普通	60% P274 底部木葉痕 覆土下層
2	坏土師器	A 14.0 B 4.5 C 6.7	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら切り後、雑なナデ。雑な回転へら切りのため、底部は突出している。	長石 石英 雲母 砂粒 赤色 普通	75% P276 二次焼成痕 覆土下層
3	高台付坏須恵器	A 14.8 B 6.1 D 7.3 E 1.1	体部一部欠損。高台部は直線的に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	95% P275 覆土下層

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第96図 4	鉢 須恵器	A [30.0] B (16.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部は強く外 反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外 面平行叩き。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	15% P277 竈内 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
5	鉄 鎌	(9.4)	(3.8)	(0.3)	(46)	覆土中層	M13

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
6	砥 石	(4.2)	(6.3)	(5.3)	(210)	凝灰岩	覆土中	Q10

第122号住居跡 (第97図)

位置 調査区南部, D5f6区。

重複関係 本跡は第123号住居跡と重複している。本跡が、第123号住居跡の上部に構築されていることから、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.72m, 短軸3.55mの方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は17~20cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁の一部と南東コーナー部は確認できないが、ほぼ全周していると推定される。上幅 [8~23] cm, 下幅 [1~10] cm, 深さ [2~5] cmで、断面形はU字状と推定される。

床 やや凹凸で、全面が粘土質で、締まっている。特に、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで88cm, 最大幅133cm, 壁外への掘り込みは33cmである。火床部は床面を3cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。西側の袖部は東側の袖部に比べて、粘土で厚く作られており、焚口部は北壁に対して、斜めに作られている。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

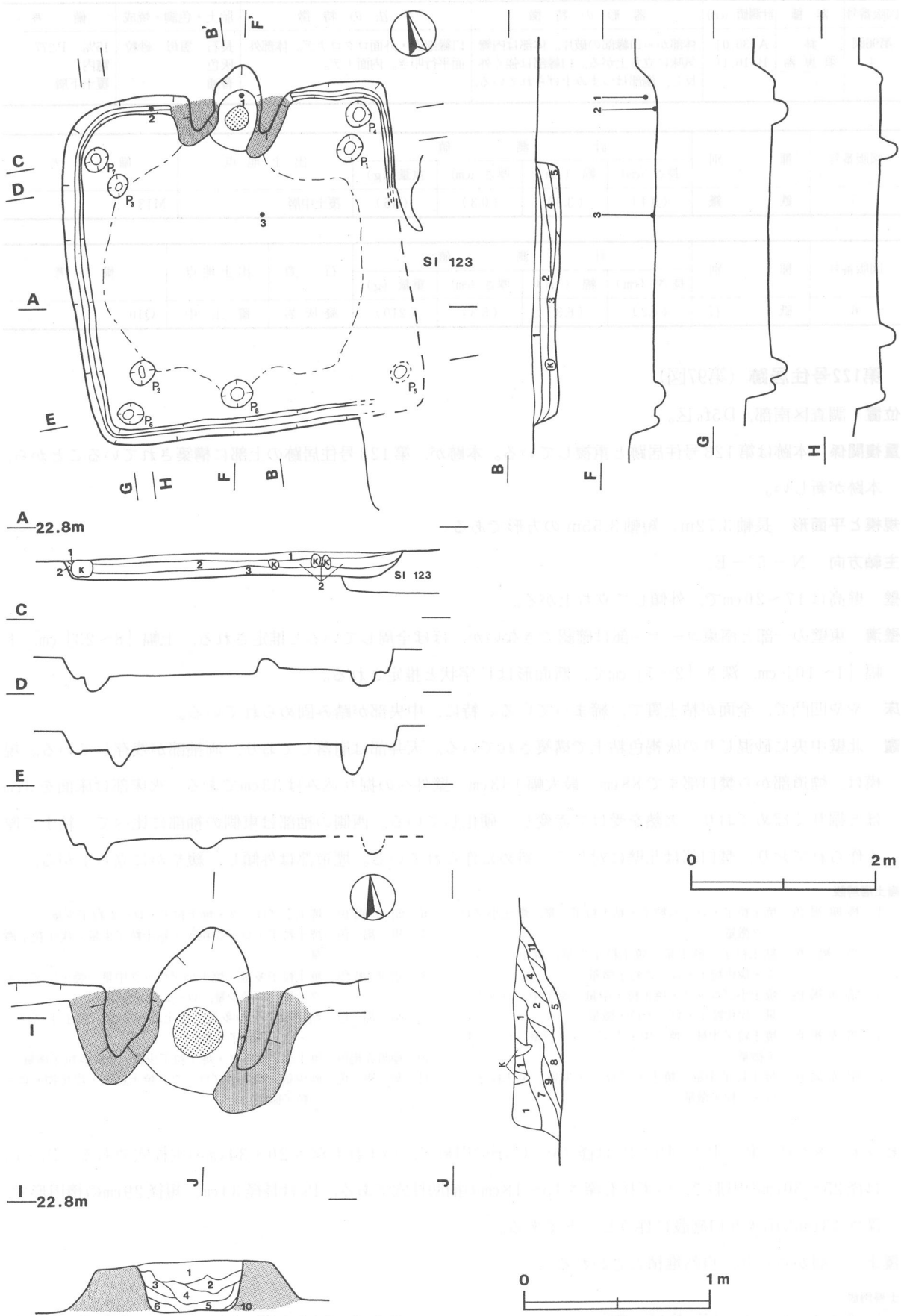
- | | |
|--|---|
| 1 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 粘土粒子・砂中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 | 7 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 8 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土中・小ブロック少量, ローム粒子微量 | 9 暗褐色 粘土粒子・砂多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 10 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| | 11 暗褐色 砂少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量 |

ピット 8か所 (P₁~P₈)。P₁~P₃は径25~31cmの円形で、いずれも深さ20~34cmの支柱穴である。P₄~P₇は径25~30cmの円形で、いずれも深さ15~18cmの補助柱穴である。P₈は長径34cm, 短径29cmの楕円形で、深さ13cmの出入り口施設に伴うピットである。

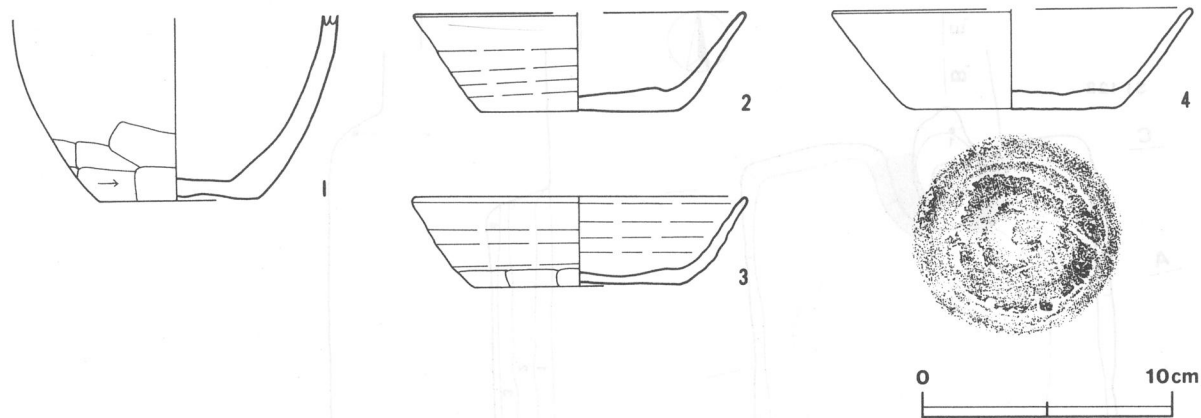
覆土 5層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|--|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 黒褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 2 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 5 暗褐色 粘土粒子・砂中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | |



第97图 第122号住居迹实测图



第98図 第122号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片 46点, 須恵器片 27点が出土している。1の土師器小形甕が竈内から, 2の須恵器坏が竈西側の床面直上から, 3の須恵器坏が中央部の床面直上から, 4の須恵器坏が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 奈良時代の8世紀中葉と考えられる。

第122号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第98図 1	小形甕 土師器	B (7.4) C 6.3	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい赤褐色 普通	20% P279 竈内
2	坏 須恵器	A [13.4] B 4.0 C 7.8	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	75% P278 床面直上
3	坏 須恵器	A 13.4 B 3.6 C 8.2	底部, 体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後, 手持ちヘラ削り。	長石 砂粒 灰色 普通	70% P280 床面直上
4	坏 須恵器	A [14.3] B 4.0 C 10.2	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて, 直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後, 雑なナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	65% P281 二次焼成痕 覆土中

第123号住居跡 (第99図)

位置 調査区南部, D5f7区。

重複関係 本跡は第122号住居跡と重複している。第122号住居跡が, 本跡の上部に構築されていることから, 本跡が古い。

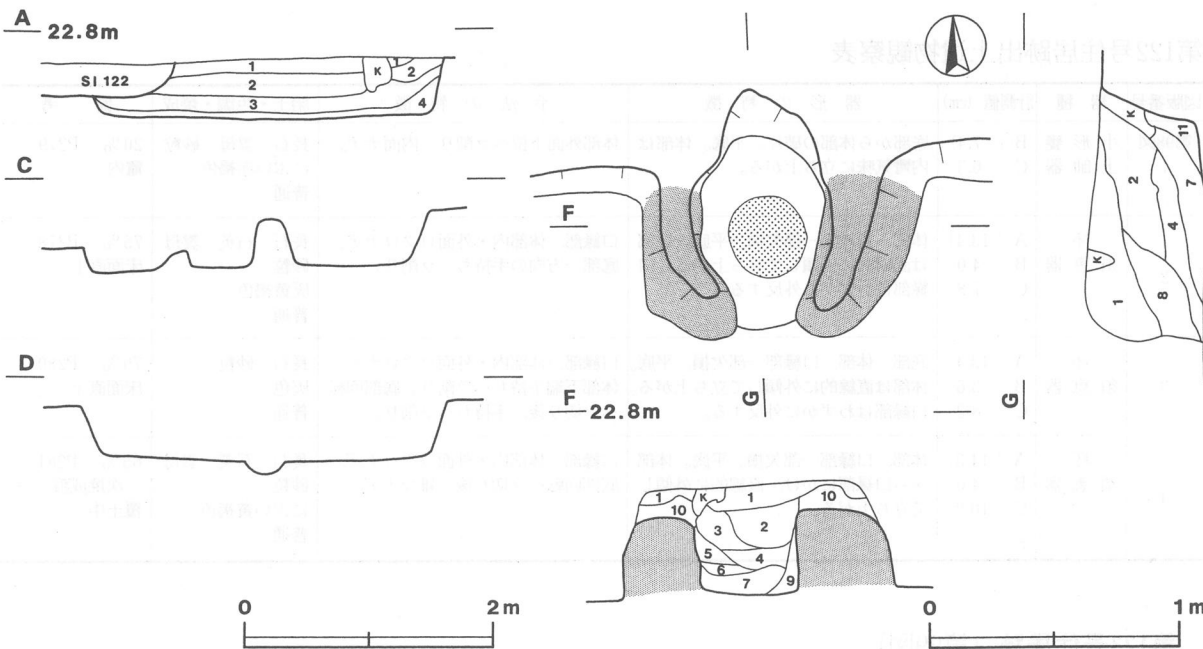
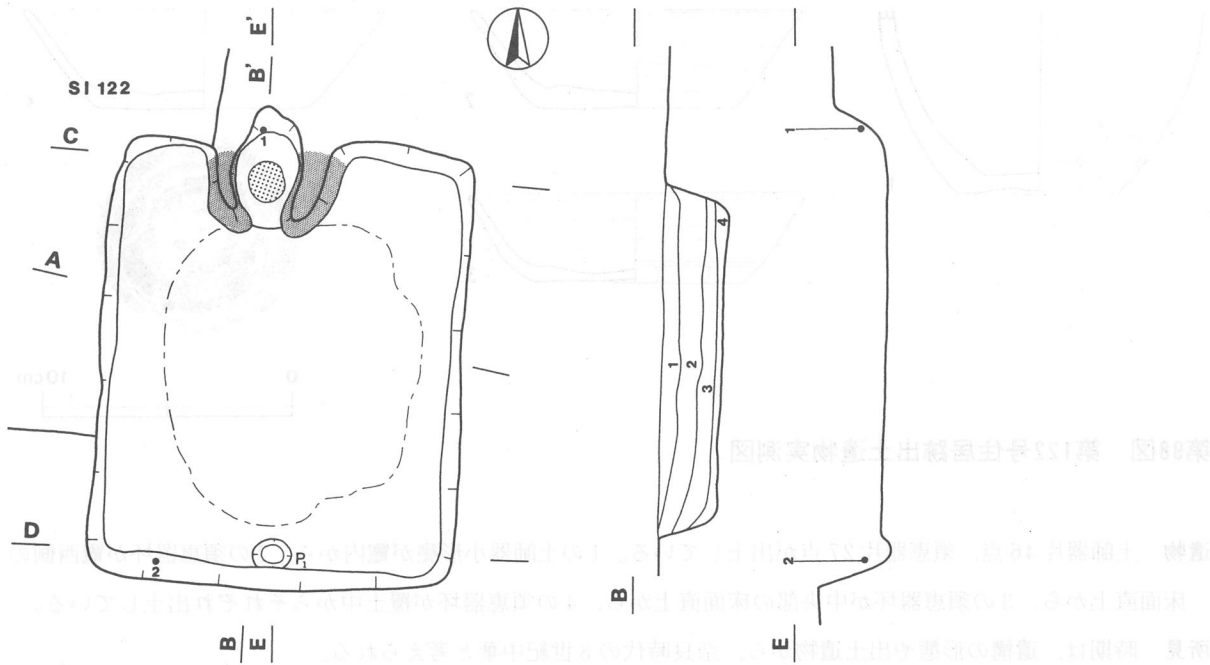
規模と平面形 長軸 3.61m, 短軸 2.93mの長方形である。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は48~50cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁のやや西寄りに, 砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 東側の袖部と西側の袖部の一部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで97cm, 最大幅(115)cm, 壁外への掘り込みは33cmである。火床部は床面を2cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化し

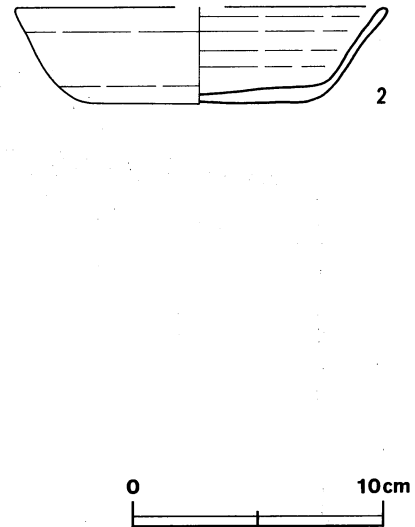
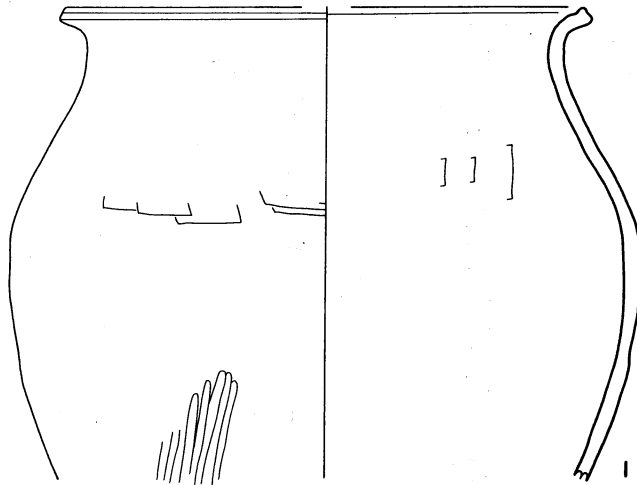


第99図 第123号住居跡実測図

ていない。煙道部は外傾し、急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--|---------|-----------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量 | 7 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| | | 11 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |



第100図 第123号住居跡出土遺物実測図

ピット 1か所 (P₁)。P₁は長径31cm, 短径23cmの楕円形で, 深さ10cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 4層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |

遺物 土師器片49点, 須恵器片9点が出土している。1の土師器甕が竈内から, 2の須恵器坏が南西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 奈良時代の8世紀前葉と考えられる。

第123号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第100図 1	甕 土師器	A [20.8] B (19.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し, 端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位にヘラ当て痕。下位ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	20% P283 二次焼成痕 竈内
2	坏 須恵器	A [14.9] B 3.9 C 9.2	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後, ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 スコリア 外面にぶい黄橙色 内面褐灰色 普通	70% P285 覆土中層

第124号住居跡 (第101図)

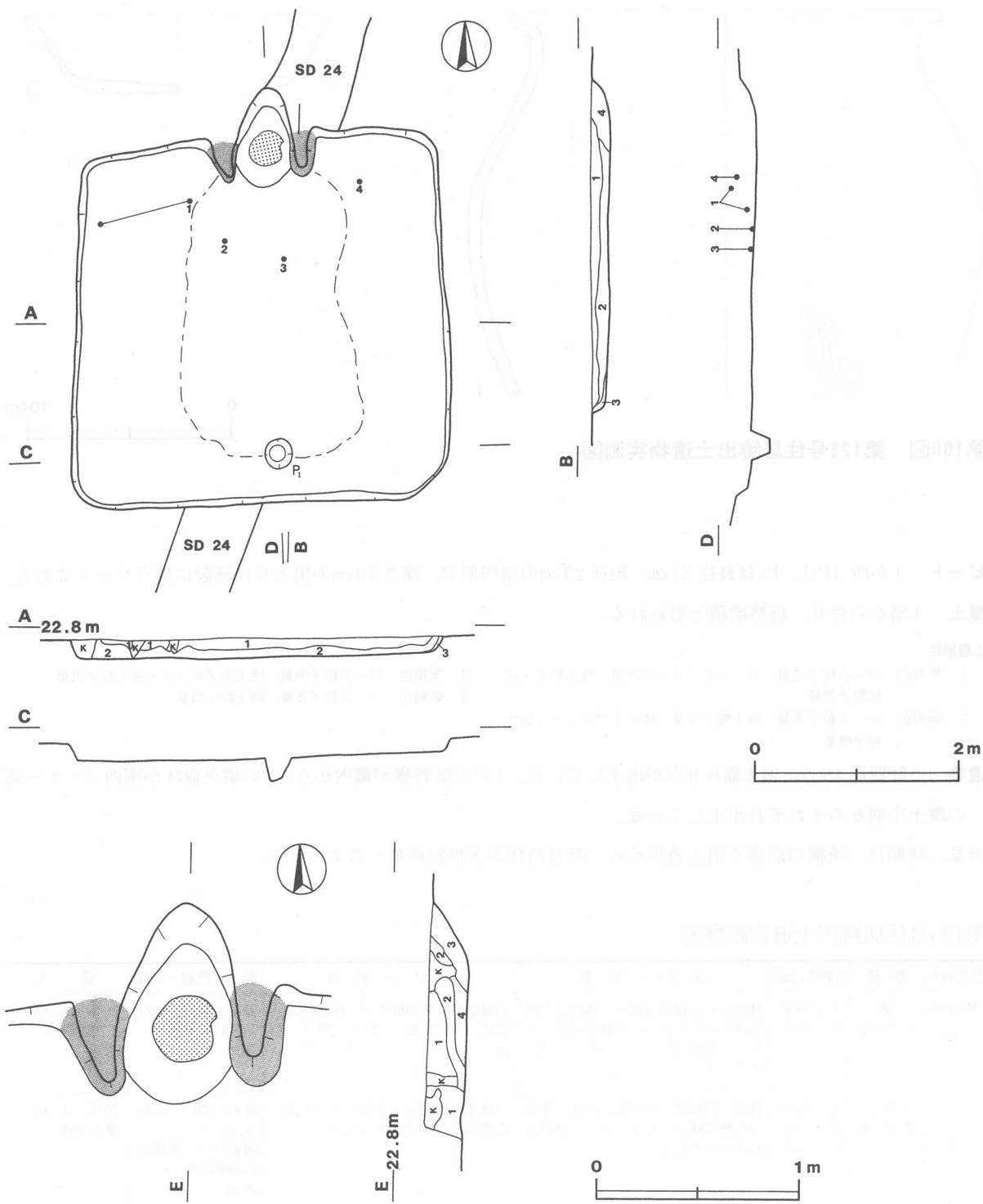
位置 調査区南部, D5gs区。

重複関係 本跡は第24号溝と重複している。第24号溝が, 本跡を掘り込んでいることから, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.75m, 短軸3.69mの方形である。

主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は12~15cmで, 外傾して立ち上がる。



第101図 第124号住居跡実測図

床 やや凹凸で，出入口施設から竈手前にかけて，踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚口部まで99cm，最大幅113cm，壁外への掘り込みは43cmである。火床部は床面を3cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変しているが，あまり硬化していない。煙道部は外傾し，緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量

ピット 1か所 (P₁)。P₁は長径29cm, 短径25cmの楕円形で, 深さ23cmの出入り口施設に伴うピットである。

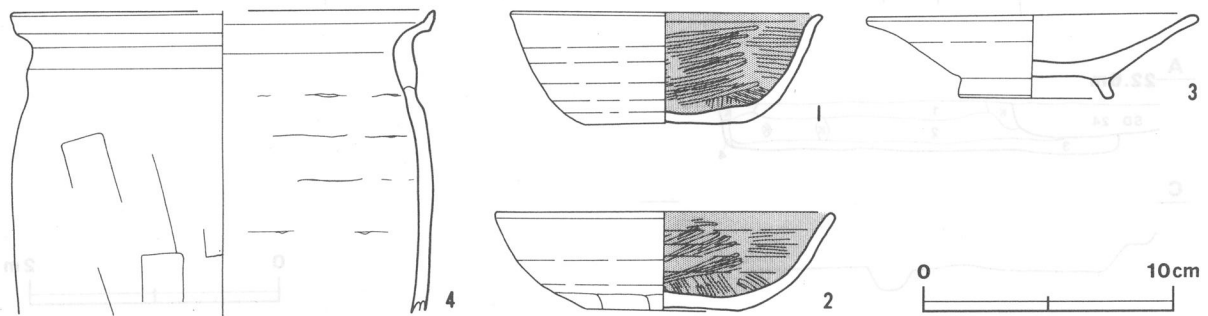
覆土 4層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 焼土粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量, ローム粒子微量

遺物 土師器片83点, 須恵器片32点, 鉄滓2点が出土している。1の土師器坏が竈西側の覆土中・下層から, 2の土師器坏, 3の土師器高台付皿が中央部の床面直上から, 4の土師器甕が竈東側の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 第24号溝の深さが本跡より浅かったため, 溝が掘り込んでいる範囲は, 土層からは確認できなかった。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀後葉と考えられる。



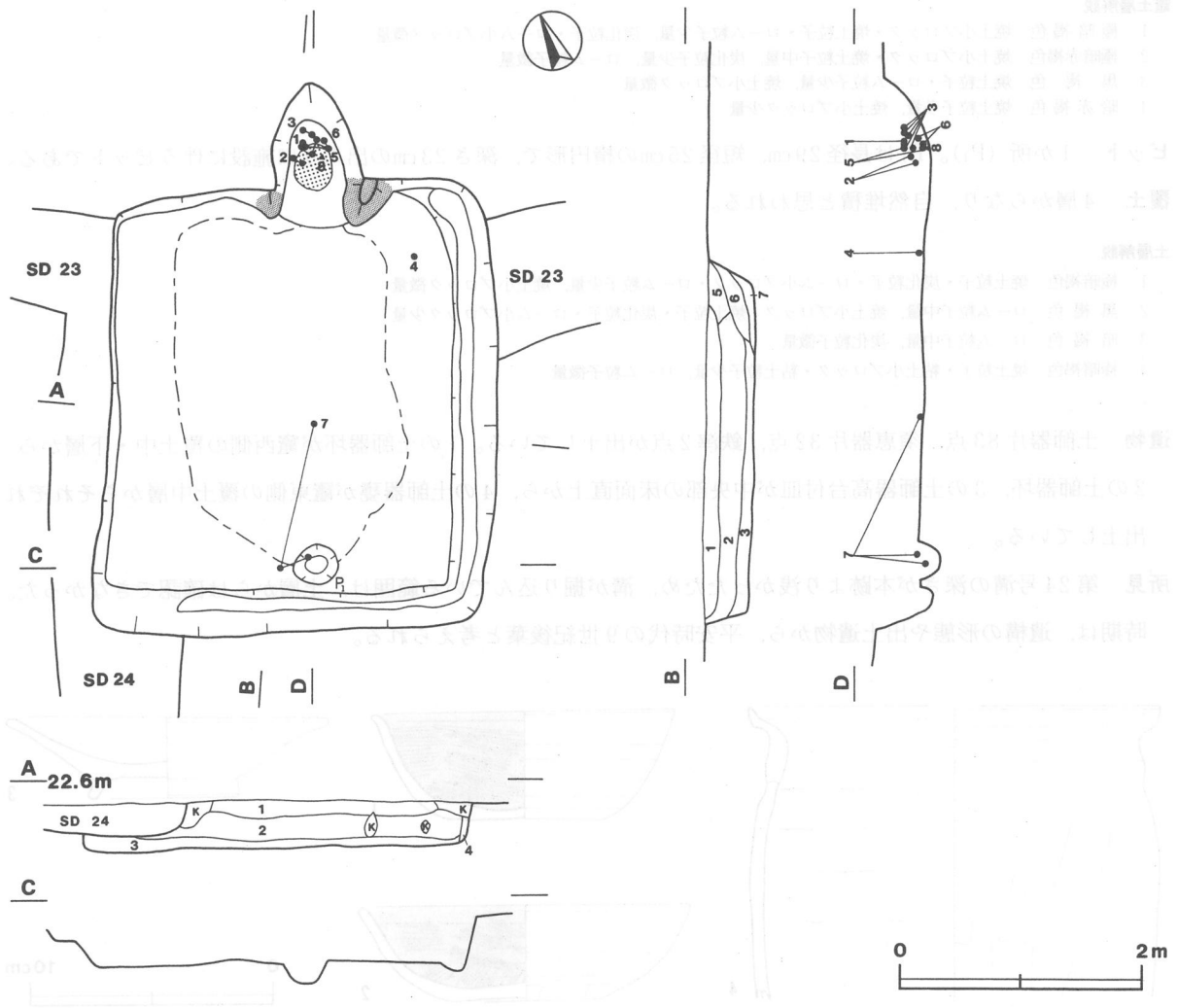
第102図 第124号住居跡出土遺物実測図

第124号住居跡出土遺物観察表

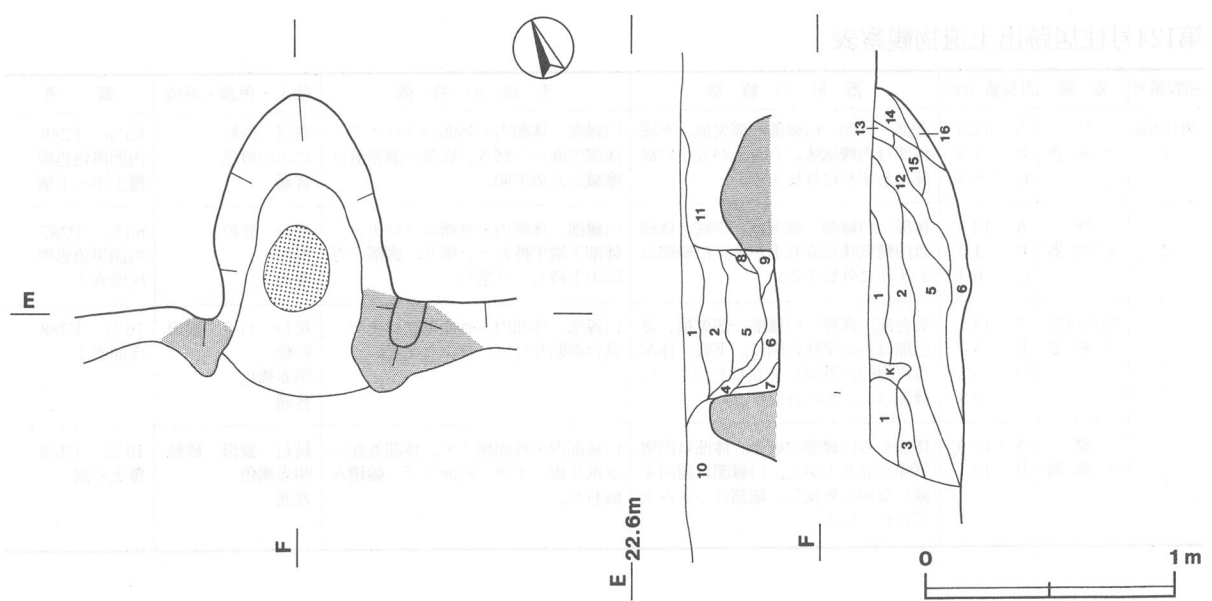
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第102図 1	坏 土師器	A 12.5 B 4.3 C 6.5	底部, 体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。底部の調整痕は摩滅のため不明。	雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	65% P286 内面黒色処理 覆土中～下層
2	坏 土師器	A 13.5 B 4.0 C 6.3	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部一方向の手持ちへラ削り。	長石 砂粒 褐色 普通	65% P287 内面黒色処理 床面直上
3	高台付皿 土師器	A 13.4 B 3.4 D 6.2 E 0.9	高台部, 底部, 口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。高台部貼り付け, ロクロナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	70% P288 床面直上
4	甕 土師器	A [17.0] B (12.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は器肉を減じながら外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後, ナデ。内面ナデ, 輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	10% P289 覆土中層

第125号住居跡 (第103図)

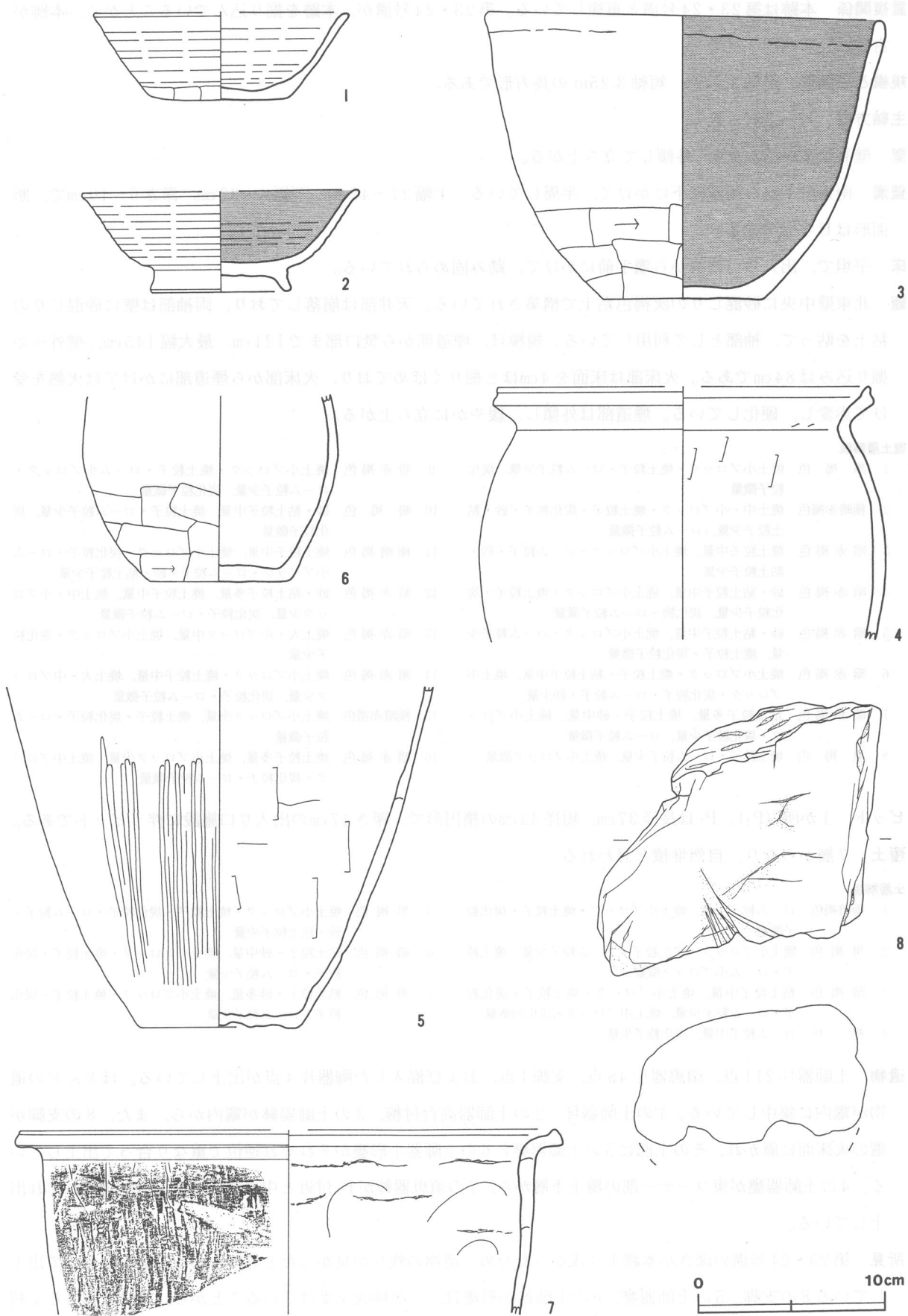
位置 調査区南部, D5c₀区。



第124号住居跡出土遺物実測図



第125号住居跡実測図



第104図 第125号住居跡出土遺物実測図

重複関係 本跡は第23・24号溝と重複している。第23・24号溝が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.72m、短軸3.25mの長方形である。

主軸方向 N-26°-E

壁 壁高は23~33cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南東壁下から南西壁下にかけて、半周している。上幅27~42cm、下幅4~22cm、深さ6~10cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、出入り口施設から竈手前にかけて、踏み固められている。

竈 北東壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部は壁に砂混じりの粘土を貼って、袖部として利用している。規模は、煙道部から焚口部まで121cm、最大幅145cm、壁外への掘り込みは84cmである。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめており、火床部から煙道部にかけては火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量	9 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 極暗赤褐色	焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂・粘土粒子少量、ローム粒子微量	10 暗褐色	砂・粘土粒子中量、焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗赤褐色	焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子・砂・粘土粒子少量	11 極暗褐色	焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・砂・粘土粒子少量
4 暗赤褐色	砂・粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、炭化物・ローム粒子微量	12 暗赤褐色	砂・粘土粒子多量、焼土粒子中量、焼土中・小ブロック少量、炭化粒子・ローム粒子微量
5 暗赤褐色	砂・粘土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13 暗赤褐色	焼土大・中ブロック中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
6 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子・砂少量	14 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土大・中ブロック少量、炭化粒子・ローム粒子微量
7 暗赤褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・砂中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量	15 極暗赤褐色	焼土小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
8 黒褐色	焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量	16 暗赤褐色	焼土粒子多量、焼土小ブロック少量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量

ピット 1か所 (P₁)。P₁は長径37cm、短径32cmの楕円形で、深さ17cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 7層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

1 極暗褐色	ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂・粘土粒子少量
2 黒褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量	6 暗褐色	粘土粒子・砂中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
3 暗褐色	粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土中ブロック・炭化物微量	7 黒褐色	粘土粒子・砂多量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
4 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量		

遺物 土師器片211点、須恵器片48点、支脚1点、および混入した陶器片4点が出土している。ほとんどの遺物が竈内に集中している。1の土師器坏、2の土師器高台付椀、3の土師器鉢が竈内から、また、8の支脚が竈の火床面に置かれ、その上部に5の土師器甕と6の土師器小形甕がそれぞれ逆位で重なり合って出土している。4の土師器甕が東コーナー部の覆土下層から、7の須恵器鉢がP₁付近と中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 第23・24号溝の深さが本跡より浅かったため、遺物の残りが良かったと考えられる。重なり合って出土している8の支脚、5の土師器甕、6の土師器小形甕は、二次焼成を受けていることから、共に支脚として利用していたと思われる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後葉と考えられる。

第125号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第104図 1	坏 土師器	A [13.7] B 4.7 C 7.3	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方方向の手持ちヘラ削り。	長石 砂粒 にぶい橙色 普通	65% P291 竈内
2	高台付碗 土師器	A [14.8] B 5.4 D 7.3 E 1.3	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	雲母 砂粒 橙色 普通	55% P294 内面黒色処理 二次焼成痕 竈内
3	鉢 土師器	A 21.6 B 15.6 C 8.6	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面横ナデ。	長石 砂粒 明赤褐色 普通	60% P295 内面黒色処理 竈内
4	甕 土師器	A [20.0] B (13.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	30% P296 覆土下層
5	甕 土師器	B (18.4) C 8.5	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後、ヘラ磨き。内面ヘラナデ、輪積痕有り。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	45% P297 二次焼成痕 竈内
6	小形甕 土師器	B (10.1) C 7.5	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	40% P298 二次焼成痕 竈内
7	鉢 須恵器	A [28.9] B (9.9)	体部から口縁部の破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ、当て具痕、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	20% P299 覆土下層

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
8	支脚	(14.8)	(12.3)	(1280)	竈内	DP7

第126号住居跡 (第105図)

位置 調査区東部, C6j9区。

重複関係 本跡は、第22号溝、第139号住居跡と重複している。第22号溝、第139号住居跡が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸6.13m、短軸6.10mの方形である。

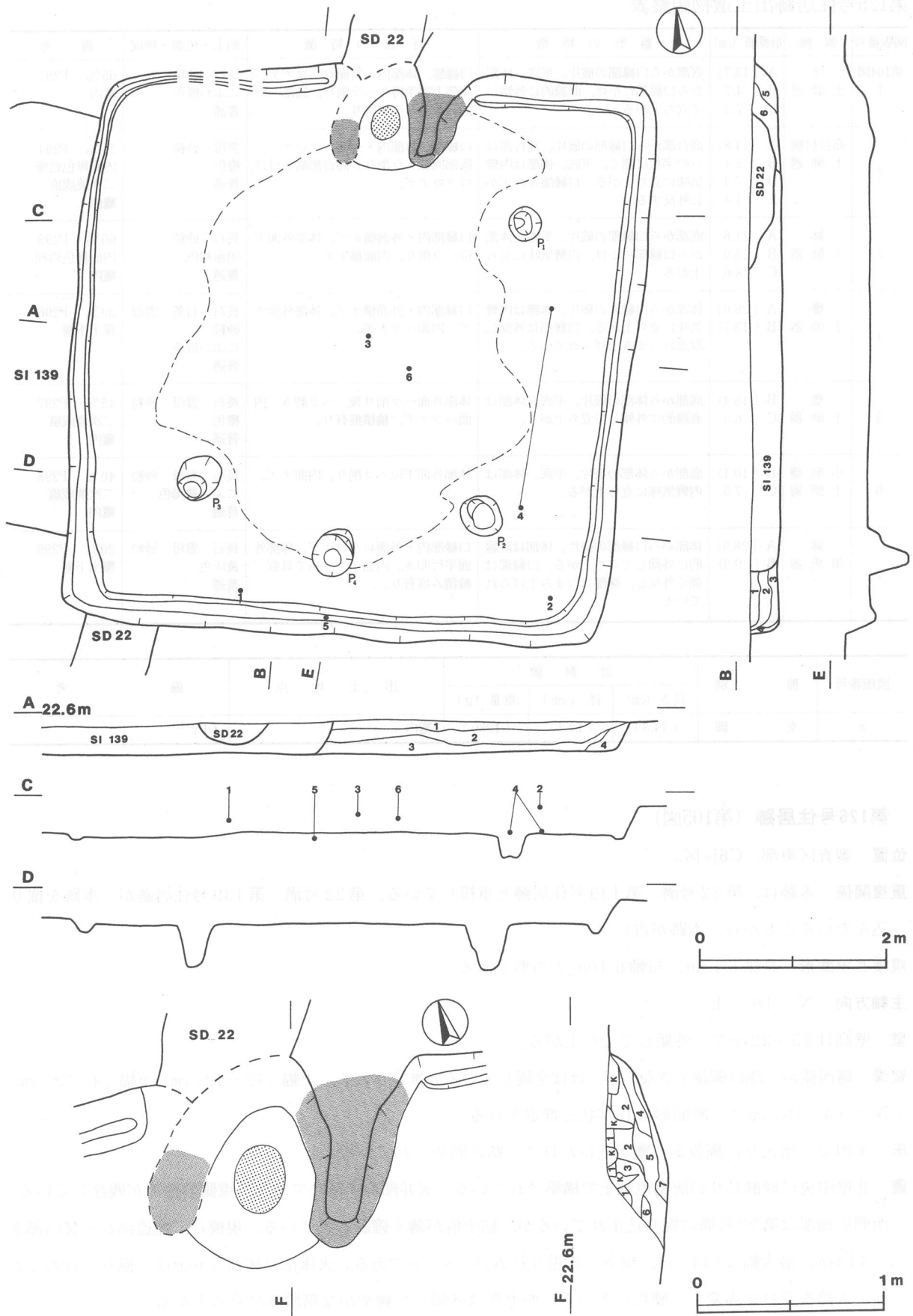
主軸方向 N-16°-E

壁 壁高は25~32cmで、外傾して立ち上がる。

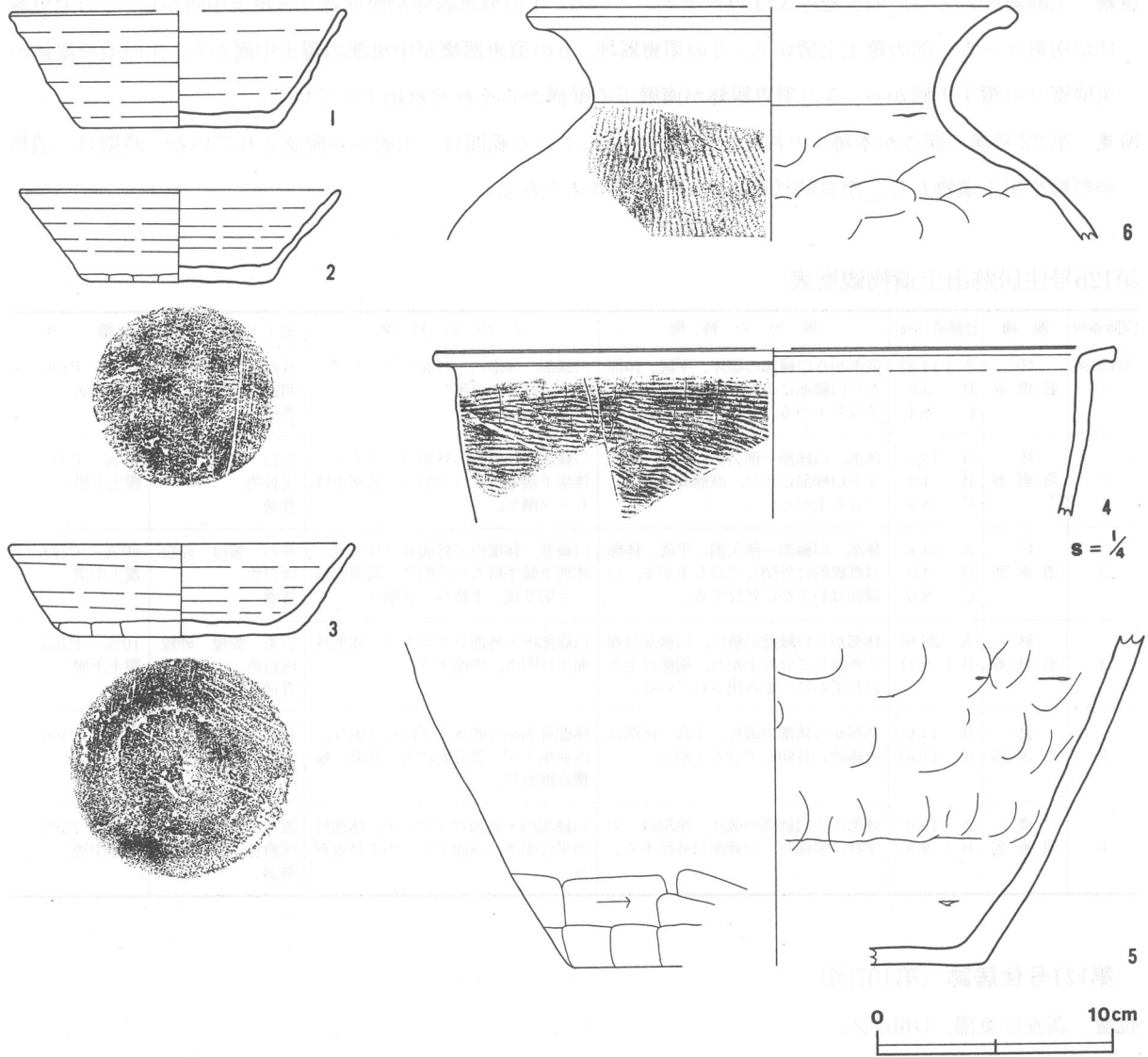
壁溝 竈西側の一部は確認できないが、ほぼ全周していると推定される。上幅 [12~42] cm, 下幅 [4~28] cm, 深さ [3~10] cmで、断面形はU字状と推定される。

床 平坦で、出入り口施設から竈手前にかけて、踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、東側の袖部が残存している。西側の袖部は第22号溝に掘り込まれているが、粘土痕が薄く確認されている。規模は、煙道部から焚口部まで114cm, 最大幅 [144] cm, 壁外への掘り込みは [8] cmである。火床部は床面を6cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾し、緩やかな階段状に立ち上がる。



第105图 第126号住居跡実測図



第106図 第126号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

- | | |
|---|--|
| 1 極暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 5 暗赤褐色 炭化粒子・ローム小ブロック微量
焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 粘土粒子・砂多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 3 極暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 粘土粒子微量 | 7 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 4 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量, | |

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁は径36cmの円形, P₂, P₃は長径48~51cm, 短径40~45cmの楕円形で, いずれも深さ28~50cmの主柱穴である。P₄は長径54cm, 短径42cmの楕円形で, 深さ43cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 6層からなり, ロームブロック, 焼土ブロックの堆積している状況から, 人為堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|--|---|
| 1 極暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 4 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量 | 5 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |

遺物 土師器片 329 点、須恵器片 334 点が出土している。1 の須恵器坏が南壁寄りの覆土中層から、2 の須恵器坏が南東コーナー部の覆土上層から、3 の須恵器坏、6 の須恵器甕が中央部の覆土中層から、4 の須恵器鉢が東壁寄りの覆土下層から、5 の須恵器鉢が南壁下の壁溝からそれぞれ出土している。

所見 第 22 号溝の深さが本跡より浅く、溝が掘り込んでいた範囲は、土層から確認されている。時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代の 8 世紀中葉と考えられる。

第126号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第106図 1	坏 須恵器	A [14.3] B 5.0 C 8.4	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 明黄褐色 普通	40% P300 覆土中層
2	坏 須恵器	A 13.7 B 4.0 C 8.0	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	75% P302 覆土上層
3	坏 須恵器	A 14.8 B 4.0 C 9.6	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	80% P303 覆土中層
4	鉢 須恵器	A [38.0] B (9.7)	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反して立ち上がり、端部は上下にわずかにつまみ出されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ。	石英 雲母 砂粒 灰白色 普通	10% P305 覆土下層
5	鉢 須恵器	B (14.0) C [17.6]	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面平行叩き、下位ヘラ削り。内面指ナデ、部分的に当て具痕、輪積み痕有り。	長石 砂粒 灰色 良好	30% P306 壁溝
6	甕 須恵器	A [10.0] B (9.9)	体部から口縁部の破片。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ、当て具痕有り。	雲母 砂粒 灰黄色 普通	20% P307 覆土中層

第127号住居跡 (第107図)

位置 調査区東部、D6b₈区。

重複関係 本跡は第 22 号溝と重複している。第 22 号溝が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 本跡の南東壁が第 22 号溝に掘り込まれているため、規模や平面形は明確ではないが、長軸 4.80m、短軸 (4.10) m の方形または長方形と推定される。

主軸方向 N - 24° - E

壁 壁高は 18~25 cm で、外傾して立ち上がる。

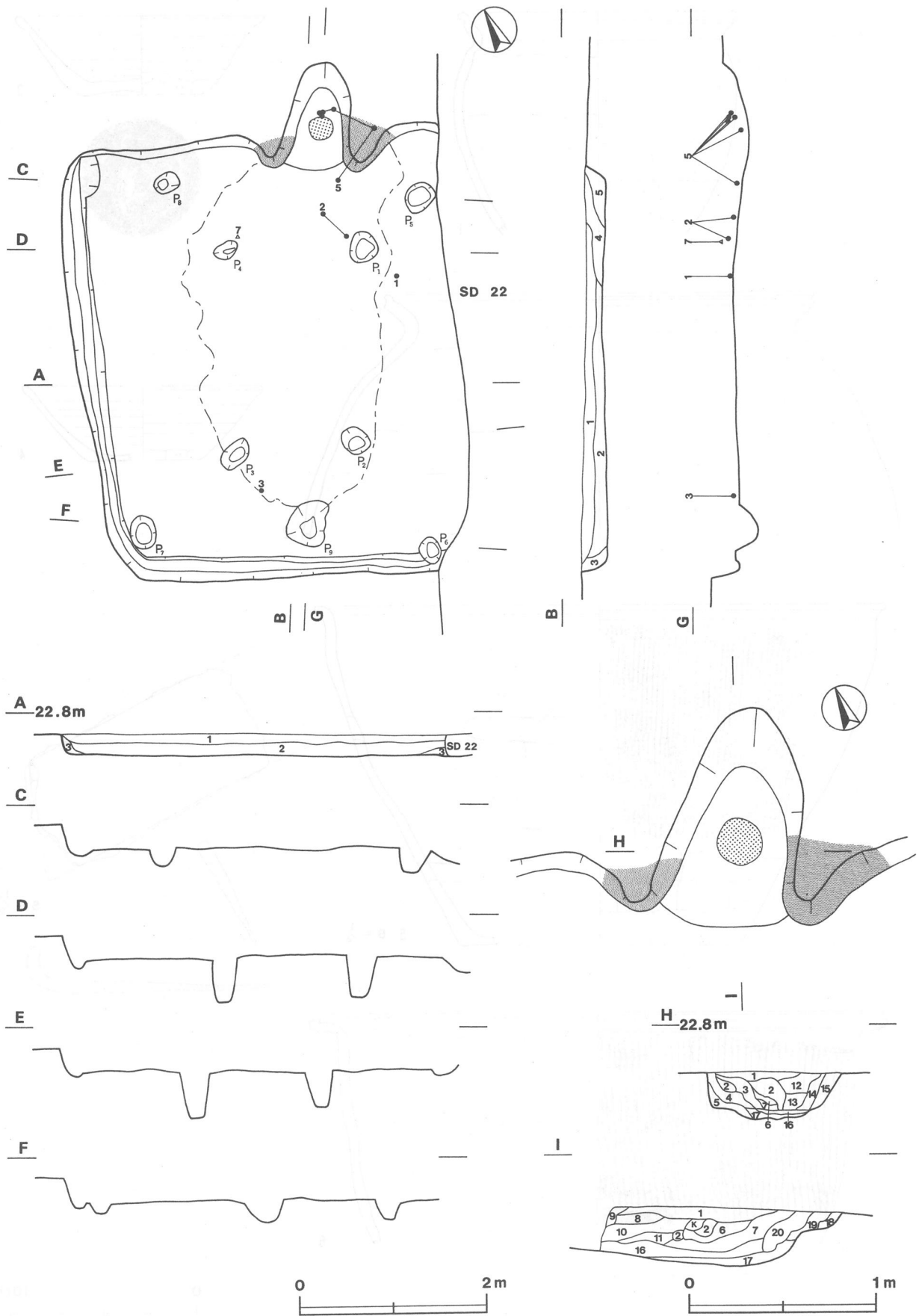
壁溝 南西壁下から、北西壁下まで半周し、上幅 [16~29] cm、下幅 [6~13] cm、深さ [4~8] cm で、断面形は U 字状と推定される。

床 平坦で、出入口施設から竈手前にかけて、踏み固められている。

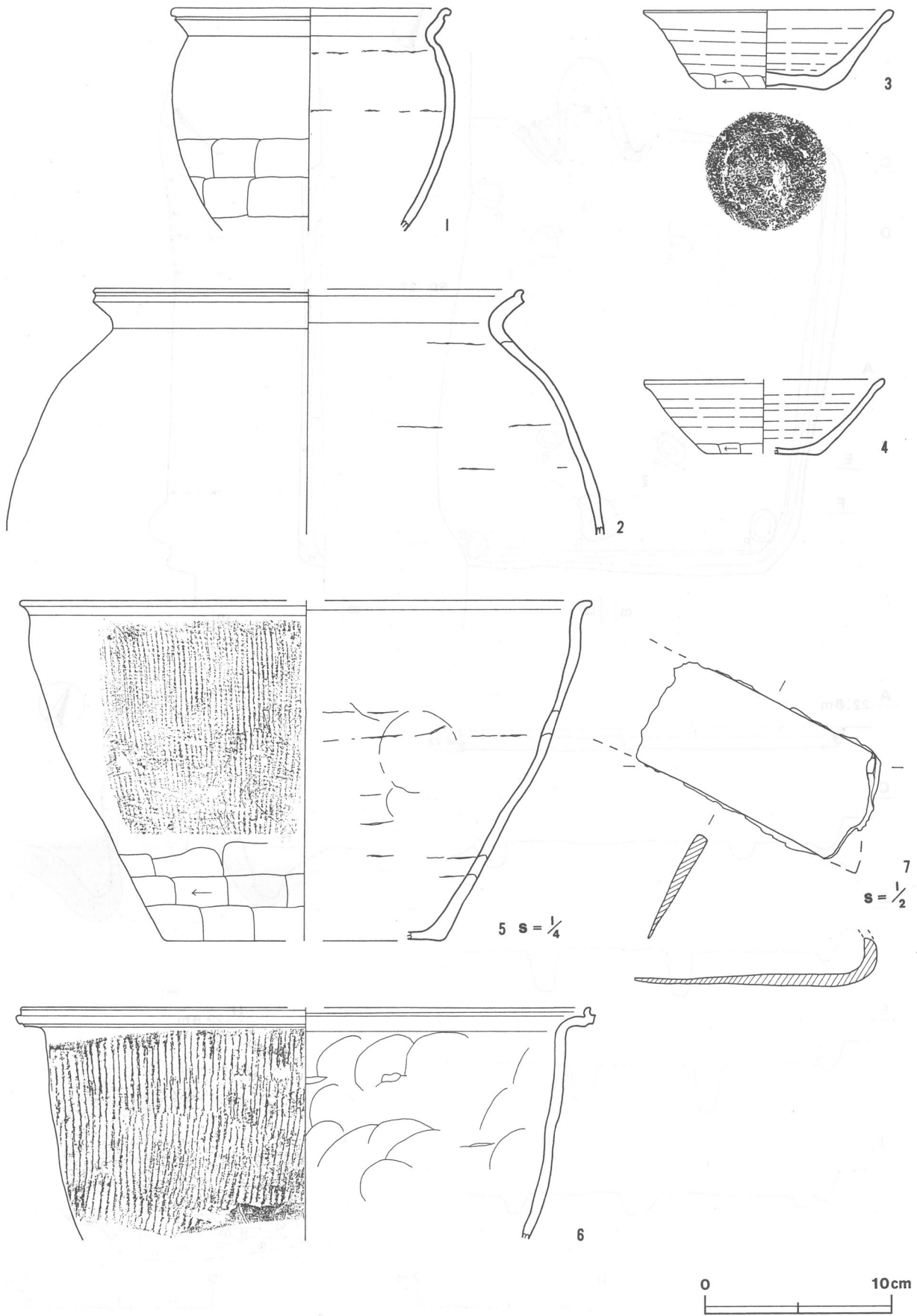
竈 北東壁中央付近に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで 118 cm、最大幅 155 cm、壁外への掘り込みは 68 cm である。火床部は床面を 18 cm ほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、煙道部にかけて硬化している。煙道部は外傾し、最初緩やかで、のち急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|--|---|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量 | 3 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土大ブロック・焼土粒子多量 | 4 極暗褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 |



第107图 第127号住居跡実測図



第108图 第127号住居跡出土遺物実測図

- | | | | |
|----------|---|----------|--|
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 13 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 6 暗褐色 | 粘土粒子多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 14 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子・砂微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量 | 15 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 8 極暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 粘土粒子微量 | 16 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量 |
| 9 暗褐色 | 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 17 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 10 黒褐色 | 焼土粒子・炭化物中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 18 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 11 黒褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 19 暗褐色 | 粘土粒子・砂中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 12 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 20 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |

ピット 9か所 (P₁~P₉)。P₁は径32cmの円形, P₂~P₄は長径28~38cm, 短径18~24cmの楕円形で, いずれも深さ38~52cmの支柱穴である。P₅~P₈は長径28~36cm, 短径20~28cmの楕円形で, いずれも深さ10~25cmの補助柱穴である。P₉は長径54cm, 短径40cmの不整楕円形で, 深さ25cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 5層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|-------|--|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 焼土粒子微量 | | |

遺物 土師器片508点, 須恵器片217点, 鎌1点が出土している。1の土師器小形甕が南東壁寄りの覆土下層から, 2の土師器甕が竈手前の覆土下層から, 3の須恵器坏が南西壁寄りの覆土下層から, 4の須恵器坏が覆土中から, 5の須恵器鉢, 6の須恵器鉢が竈内と東側の袖部内から, 7の鎌がP₄付近の覆土中層から, それぞれ出土している。

所見 竈内や袖部内から土師器片が出土していることから, それらは竈の補強材として使用されていたと考えられる。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀中葉と考えられる。

第127号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第108図 1	小形甕 土師器	A 15.1 B (12.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられ, 棒状工具による凹線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へラ削り。内面ナデ, 輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 灰褐色 普通	65% P310 覆土下層
2	甕 土師器	A [22.8] B (13.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面に輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 橙褐色 普通	10% P311 覆土下層
3	坏 須恵器	A 13.5 B 4.3 C 6.6	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部回転へラ切り後, 一方向の手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 褐灰色 普通	85% P314 覆土下層
4	坏 須恵器	A [12.9] B 4.0 C [6.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部回転へラ切り後, 一方向の手持ちへラ削り。	長石 雲母 砂粒 暗灰黄色 普通	50% P315 覆土中

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第108図 5	鉢 須恵器	A [40.0] B 24.4 C 19.5	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面クロナデ。体部外面格子叩き、下位ヘラ削り。内面ナデ、当て具痕、輪積み痕有り。	長石 石英 雲母 砂粒 におい黄橙色 普通	30% P308 二次焼成痕 竈内 袖部内
6	鉢 須恵器	A [30.5] B (12.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反する。端部はつまみ上げられた後、内側に折り返され、さらに上方へつまみ上げられている。端部と直下に棒状工具による凹線が巡る。	口縁部内・外面クロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ、当て具痕有り。	長石 雲母 砂粒 オリーブ黒色 普通	10% P309 二次焼成痕 竈内 袖部内

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
7	鉄 鎌	(10.3)	(4.2)	(0.4)	(45)	覆土中層	M14

第128号住居跡 (第109図)

位置 調査区南東部, D6a3区。

重複関係 本跡は第3号竪穴状遺構と重複している。本跡が、第3号竪穴状遺構を掘り込んでいることから、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸5.12m, 短軸4.61mの長方形である。

主軸方向 N-3°-E

壁 壁高は37~40cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北壁の一部を除き、ほぼ全周している。上幅19~32cm, 下幅4~14cm, 深さ2~4cmで、断面形はU字状である。

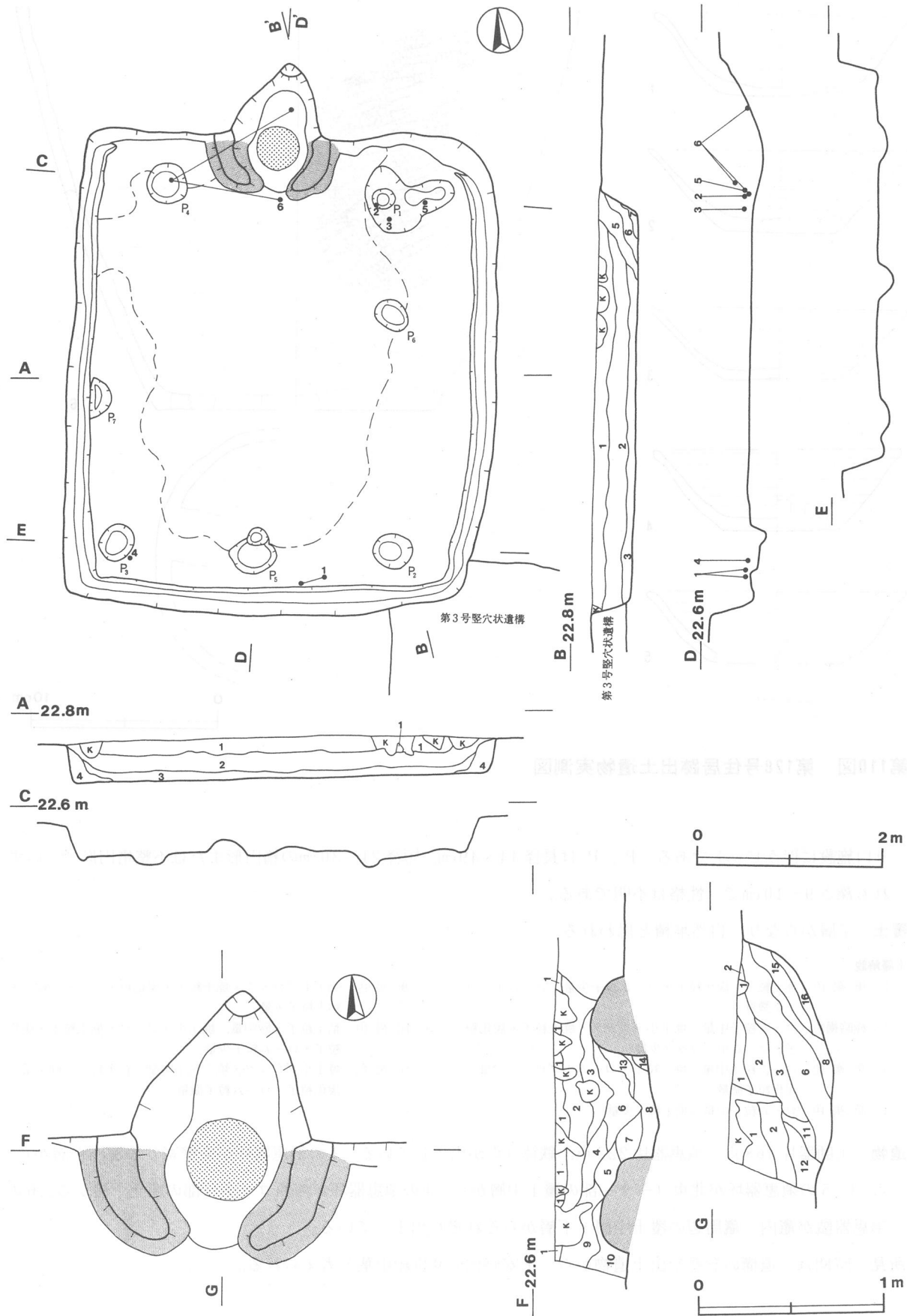
床 平坦で、出入口施設から竈手前にかけて、踏み固められている。竈の東側に、長軸96cm, 短軸75cm, 深さ6cmの不定形の掘り込みが見られる。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、煙道部と両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで138cm, 最大幅145cm, 壁外への掘り込みは76cmである。火床部は床面を12cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、煙道部にかけて硬化している。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

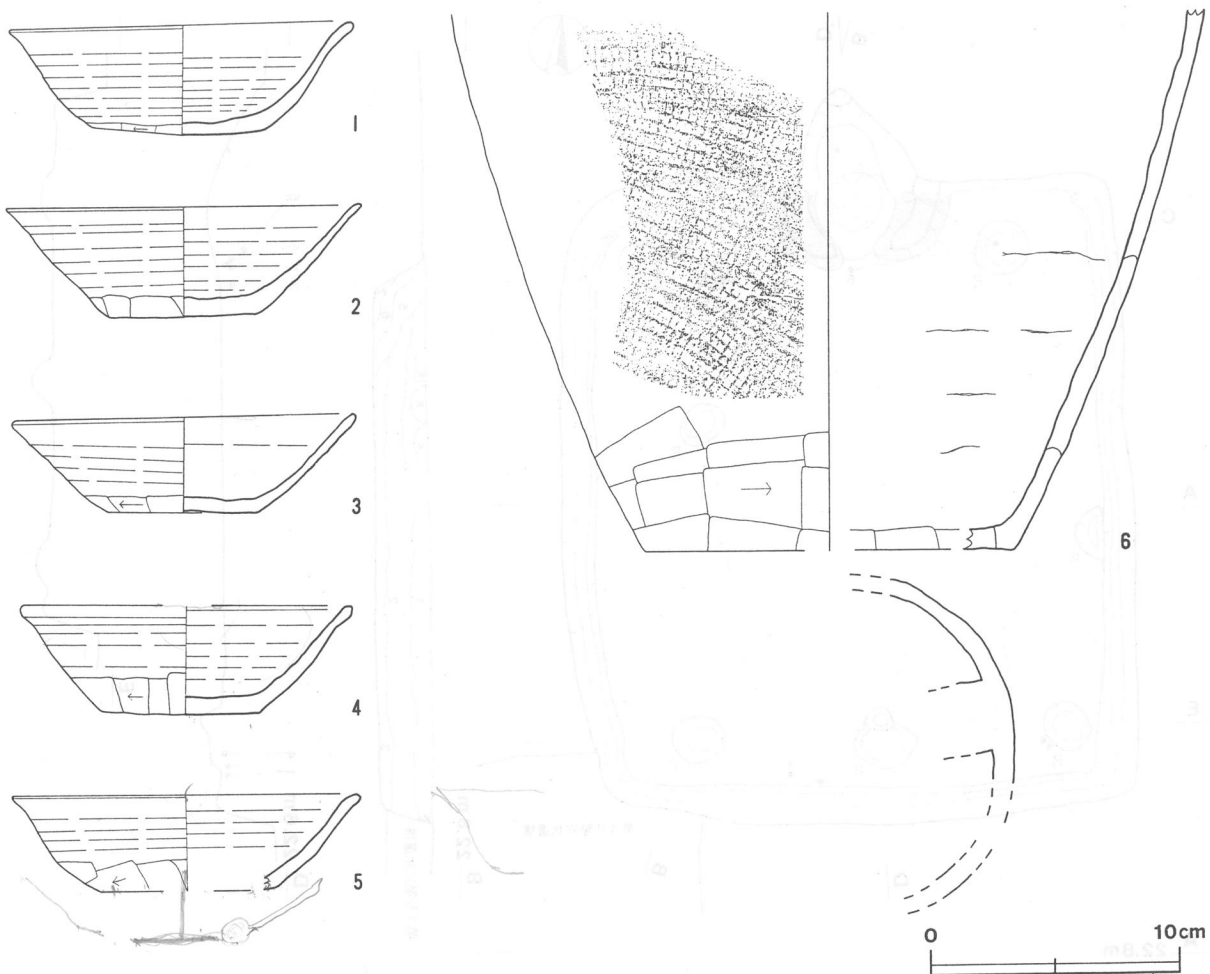
竈土層解説

- | | |
|---|--|
| 1 黒褐色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 | 9 極暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 粘土粒子・砂中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 粘土小ブロック中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 | 12 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土小ブロック微量 |
| 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土粒子・ローム中ブロック少量 | 13 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 6 灰褐色 粘土粒子・砂多量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土中・小ブロック中量, 焼土大ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 15 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂少量 |
| 8 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量 | 16 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂少量 |

ピット 7か所 (P₁~P₇)。P₁, P₄は径26~44cmの円形, P₂, P₃は長径40~43cm, 短径32~37cmの楕円形で、いずれも深さ11~16cmの支柱穴である。P₅は長径50cm, 短径39cmの不整楕円形で、深さ18cmの出入



第109图 第128号住居跡実測图



第110図 第128号住居跡出土遺物実測図

り口施設に伴うピットである。P₆、P₇は長径44~49cm、短径21~30cmの楕円形または不整楕円形で、いずれも深さ9~10cmで、性格は不明である。

覆土 7層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|---|--|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 5 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 2 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量 | 6 暗褐色 粘土粒子・砂中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、粘土粒子・砂少量、炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量 | |

遺物 土師器片468点、須恵器片222点、鉄滓3点が出土している。1の須恵器坏が南壁寄りの覆土下層から、2、3、5の須恵器坏が北東コーナー部の覆土中層から、4の須恵器坏が南西コーナー部の覆土下層から、6の須恵器甕が竈内と竈周辺の覆土中層・下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀中葉と考えられる。

第128号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第110図 1	坏 須恵器	A 14.0 B 4.5 C 7.0	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部手持ちへら削り。	長石 雲母 砂粒 褐色 不良	100% P317 覆土下層
2	坏 須恵器	A 14.2 B 4.5 C 5.8	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部回転へら切り後, へらナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	90% P318 覆土中層
3	坏 須恵器	A 13.6 B 4.0 C 6.0	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて, 直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部回転へら切り後, へらナデ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	85% P319 覆土中層
4	坏 須恵器	A [13.2] B 4.4 C 6.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部一方向の手持ちへら削り。	長石 石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	80% P320 覆土下層
5	坏 須恵器	A 14.0 B 4.0 C [7.2]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部手持ちへら削り。	長石 雲母 砂粒 黒色 不良	45% P321 覆土中層
6	甌 須恵器	B (21.6) C [14.9]	底部から体部の破片。多孔式。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面格子叩き, 下位へら削り。内面ナデ, 下端へら削り, 輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	30% P322 覆土中～下層

第130号住居跡 (第111図)

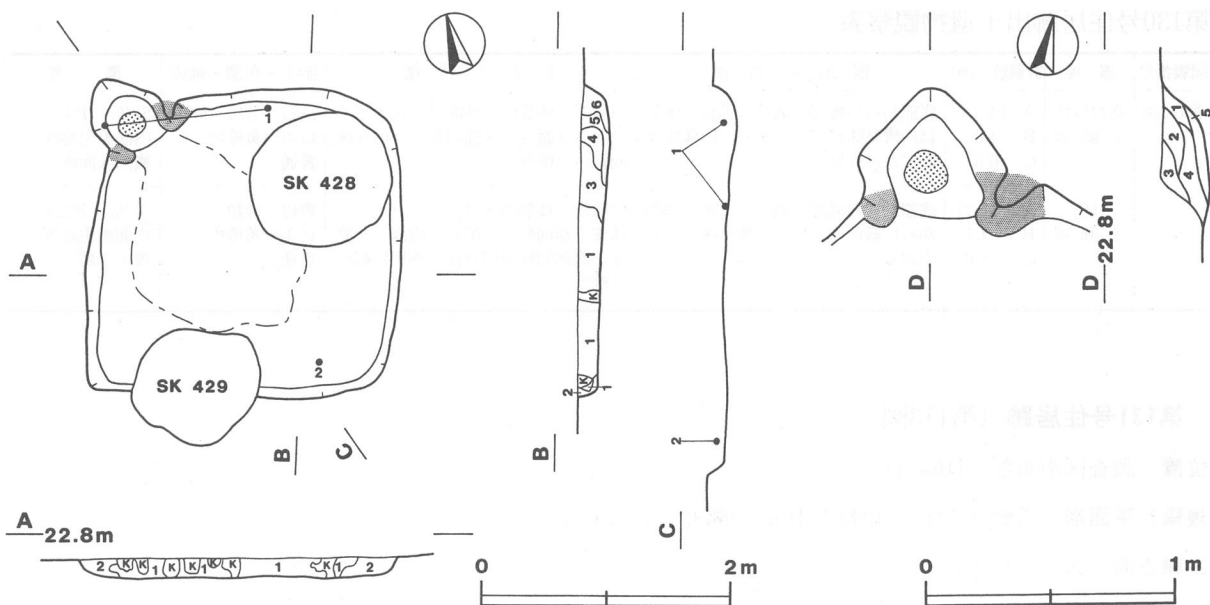
位置 調査区東部, D6b₅区。

重複関係 本跡は第428・429号土坑と重複している。第428・429号土坑が, 本跡を掘り込んでいることから, 本跡が古い。

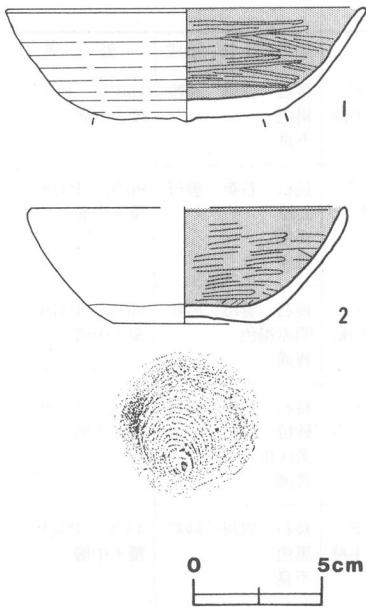
規模と平面形 長軸2.53m, 短軸2.47mの方形である。

主軸方向 N-17°-W

壁 壁高は37cmほどで, 外傾して立ち上がる。



第111図 第130号住居跡実測図



第112図 第130号住居跡
出土遺物実測図

床 やや凹凸で、中央部から竈手前にかけて、踏み固められている。
竈 北西コーナー部に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、コーナー部を利用して、粘土で袖部を作っている。規模は、煙道部から焚口部まで50cm、最大幅65cm、壁外への掘り込みは41cmである。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部は外傾し、急に立ち上がる。

竈土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・粘土粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量

覆土 6層からなり、ロームブロックを含有し、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 6 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片132点、須恵器片21点、および混入した陶器片2点が出土している。1の土師器高台付坏が竈内と北壁寄りの床面直上から、2の土師器坏が南東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 第428・429号土坑が掘り込んでいる範囲は、土層からは確認できなかった。竈の火床部の状況から、短期間しか使用されなかった住居跡と考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後葉と考えられる。

第130号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第112図 1	高台付坏 土師器	A 14.3 B 4.6 C 6.5	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。内面へラ磨き。底部回転へラ切り後、回転へラ削り。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	60% P323 内面黒色処理 竈内床面直上
2	坏 土師器	A [12.7] B 4.7 C 6.0	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転へラ削り。内面へラ磨き。底部回転糸切り後、外周回転へラ削り。	雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	50% P324 内面黒色処理 覆土下層

第131号住居跡 (第113図)

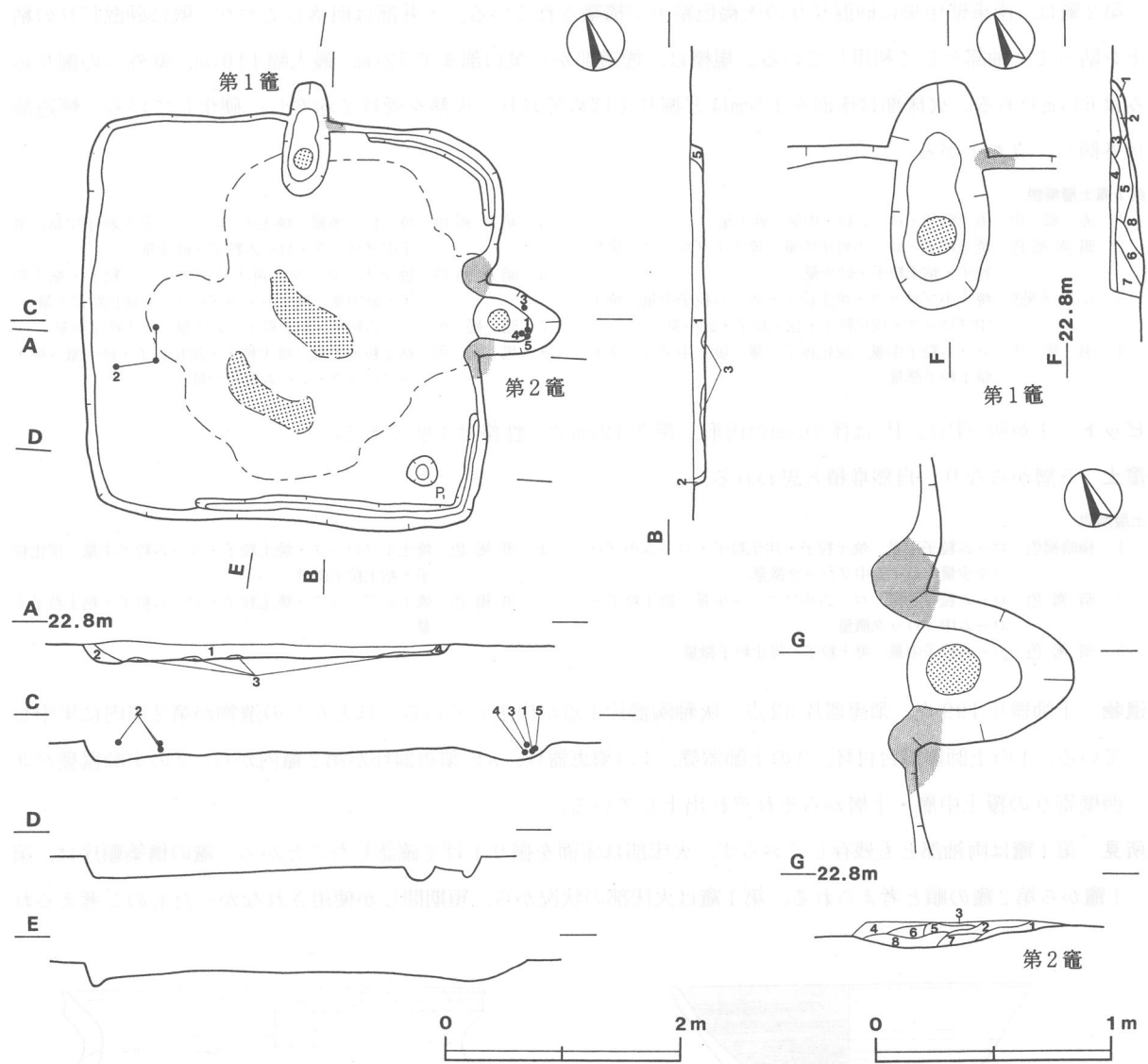
位置 調査区南東部, D6e0区。

規模と平面形 長軸3.54m, 短軸3.46mの隅丸方形である。

主軸方向 N-21°-E

壁 壁高は10~19cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東コーナー部から、南コーナー部を経て、西コーナー部の手前まで、半周している。上幅11~24cm, 下



第113図 第131号住居跡実測図

幅4~6cm, 深さ3~8cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 2か所。第1竈は, 残存部分が少なく明確ではないが, 北東壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されていたと考えられる。両袖部とも残存しておらず, 火床部は床面を掘り下げて確認した。規模は, 煙道部から焚口部まで98cm, 最大幅(54)cm, 壁外への掘り込みは31cmである。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けてわずかに赤変しているが, あまり硬化していない。煙道部は外傾し, 緩やかに立ち上がる。

第1竈土層解説

- | | | | |
|--------|--|--------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・砂中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂中量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・砂中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 7 極暗褐色 | 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂少量, 焼土粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | 炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土粒子・砂少量 | 8 極暗褐色 | 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂中量, 焼土中ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂少量, 焼土小ブロック微量 | | |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂少量 | | |

第2竈は、南東壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、壁に砂混じりの粘土を貼って、袖部として利用している。規模は、煙道部から焚口部まで72cm、最大幅110cm、壁外への掘り込みは61cmである。火床部は床面を12cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、硬化している。煙道部は外傾し、立ち上がる。

第2竈土層解説

- | | | | |
|----------|---|--------|---|
| 1 赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 砂少量 | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土大ブロック・炭化粒子中量, 焼土中ブロック・ローム粒子・砂少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土大ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土中・小ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土中ブロック・焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | 粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・砂中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量 |

ピット 1か所 (P₁)。P₁は径26cmの円形、深さ12cmで、性格は不明である。

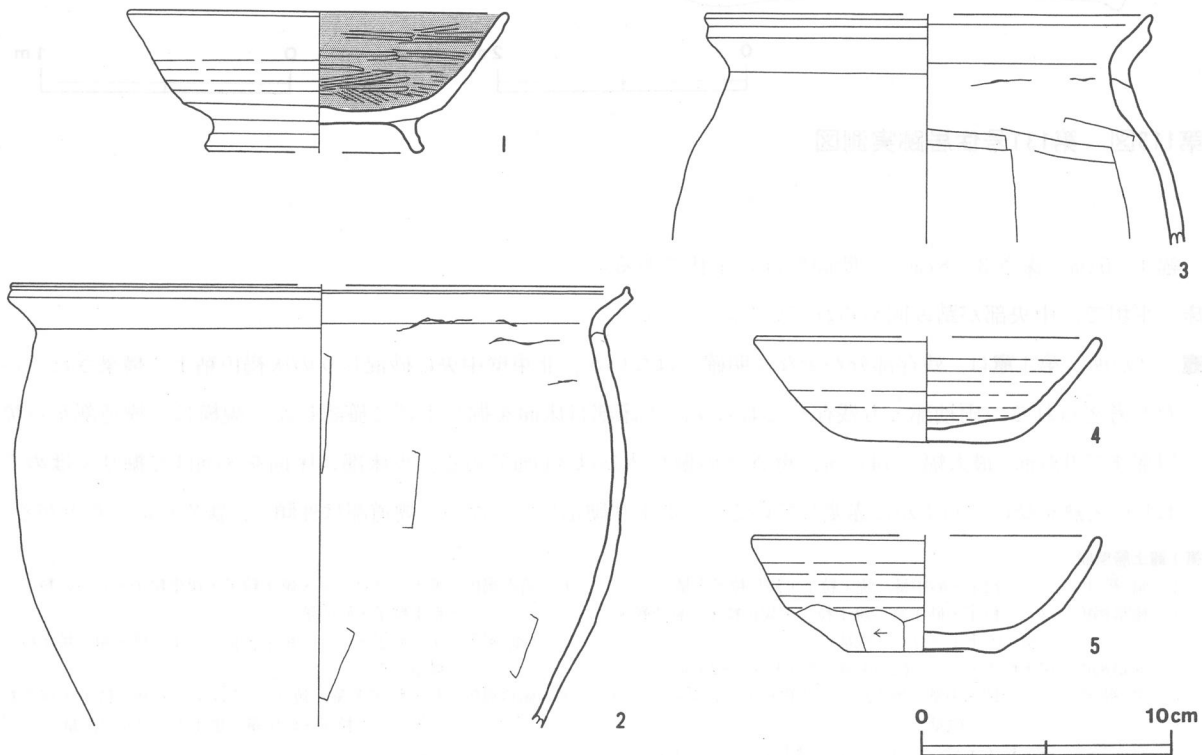
覆土 5層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---|-------|-----------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 | 4 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量 | 5 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片199点, 須恵器片32点, 灰釉陶器片1点が出土している。ほとんどの遺物が第2竈内に集中している。1の土師器高台付坏, 3の土師器甕, 4の須恵器坏, 5の須恵器坏が第2竈内から, 2の土師器甕が北西壁寄りの覆土中層・下層からそれぞれ出土している。

所見 第1竈は両袖部とも残存しておらず、火床部は床面を掘り下げて確認したことから、竈の構築順序は、第1竈から第2竈の順と考えられる。第1竈は火床部の状況から、短期間しか使用されなかったものと考えられ



第114図 第131号住居跡出土遺物実測図

る。床面の中央部に焼土塊が確認されているが、性格は不明である。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後葉と考えられる。

第131号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第114図 1	高台付坏土師器	A 15.2 B 5.6 D [8.4] E 1.4	高台部、体部、口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、下位に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 赤褐色 普通	80% P329 内面黒色処理 第2竈内
2	甕土師器	A [24.8] B (17.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	15% P325 覆土中〜下層
3	甕土師器	A [17.8] B (9.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	10% P326 第2竈内
4	坏須恵器	A [13.6] B 4.3 C 6.7	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 灰黄色 普通	55% P327 第2竈内
5	坏須恵器	A [13.9] B 4.6 C 6.0	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	55% P328 二次焼成痕 第2竈内

第132-A号、第132-B号住居跡 (第115図)

位置 調査区南東部、D6d8区。

重複関係 第132-A号住居跡と第132-B号住居跡は重複している。床面の高さがほぼ同じことや竈と壁溝と柱穴を共用していることから、第132-A号住居跡を利用して第132-B号住居跡が構築されている。よって、第132-A号住居跡が古く、第132-B号住居跡が新しい。

規模と平面形 第132-A号住居跡は長軸3.75m、短軸 [3.43] mの方形と推定される。第132-B号住居跡は長軸4.77m、短軸3.60mの隅丸長方形で、南側に拡張している。

主軸方向 N-23°-E

壁 壁高は16~24cmで、外傾して立ち上がる。

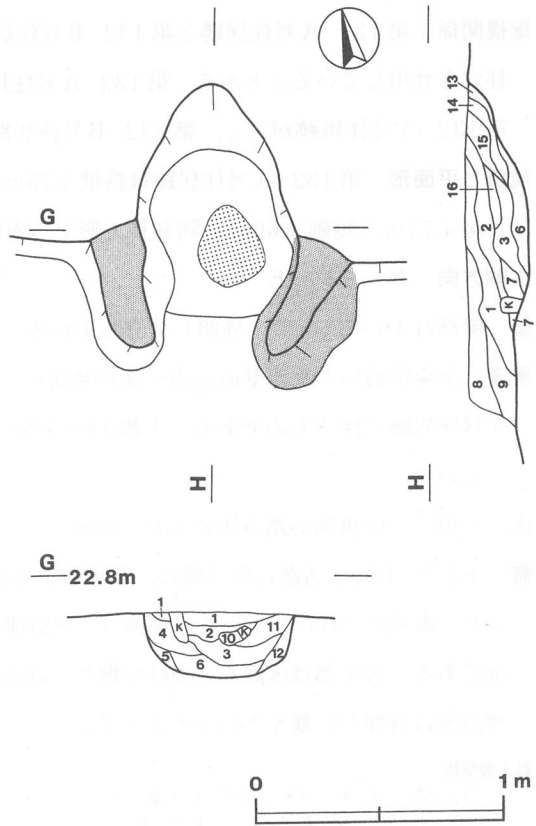
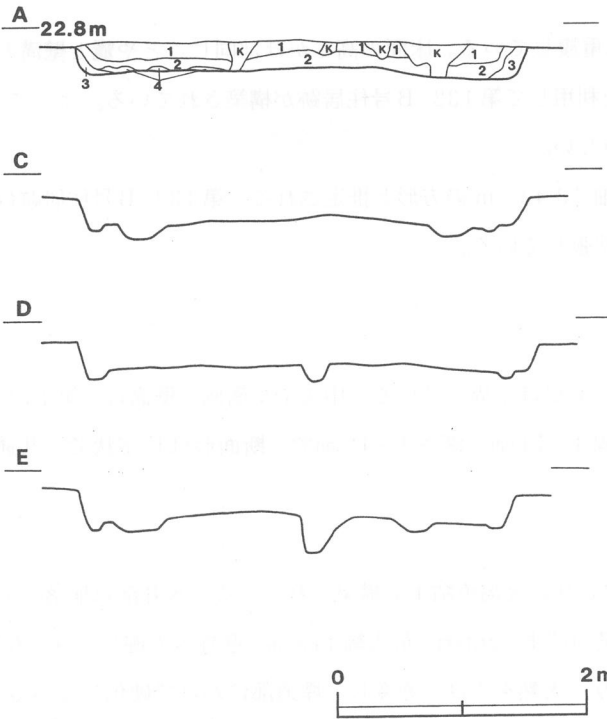
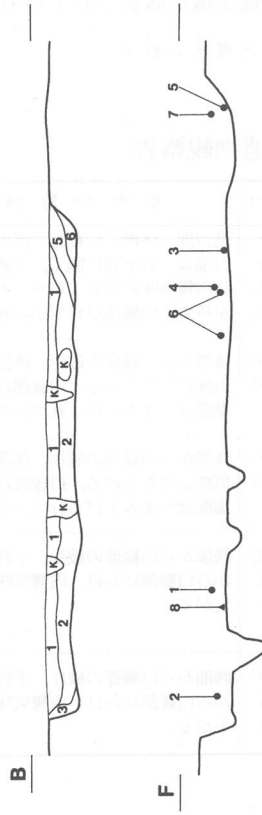
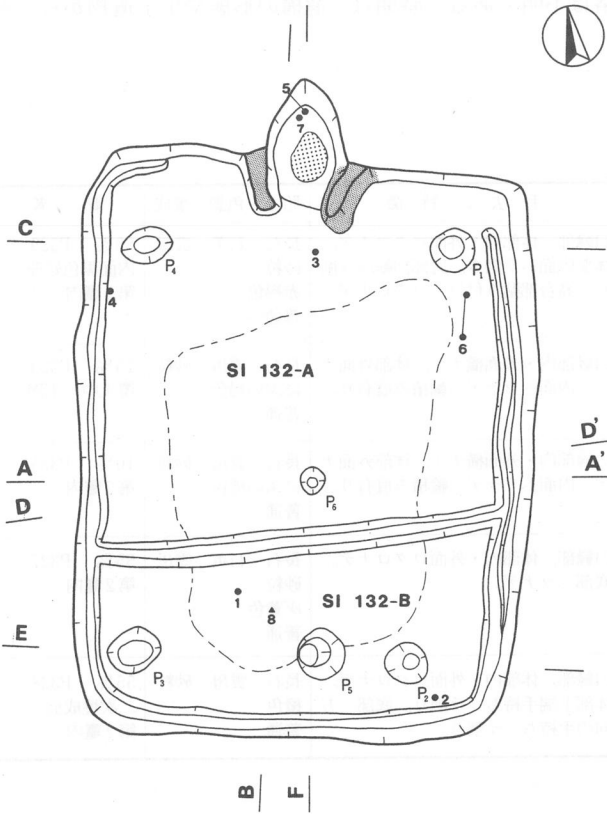
壁溝 南東壁沿いと北西壁沿いの一部が共通し、どちらもほぼ全周している。中央やや南側の壁溝は、第132-A号住居跡に伴うものである。上幅18~33cm、下幅4~11cm、深さ4~12cmで、断面形はU字状で、共通している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

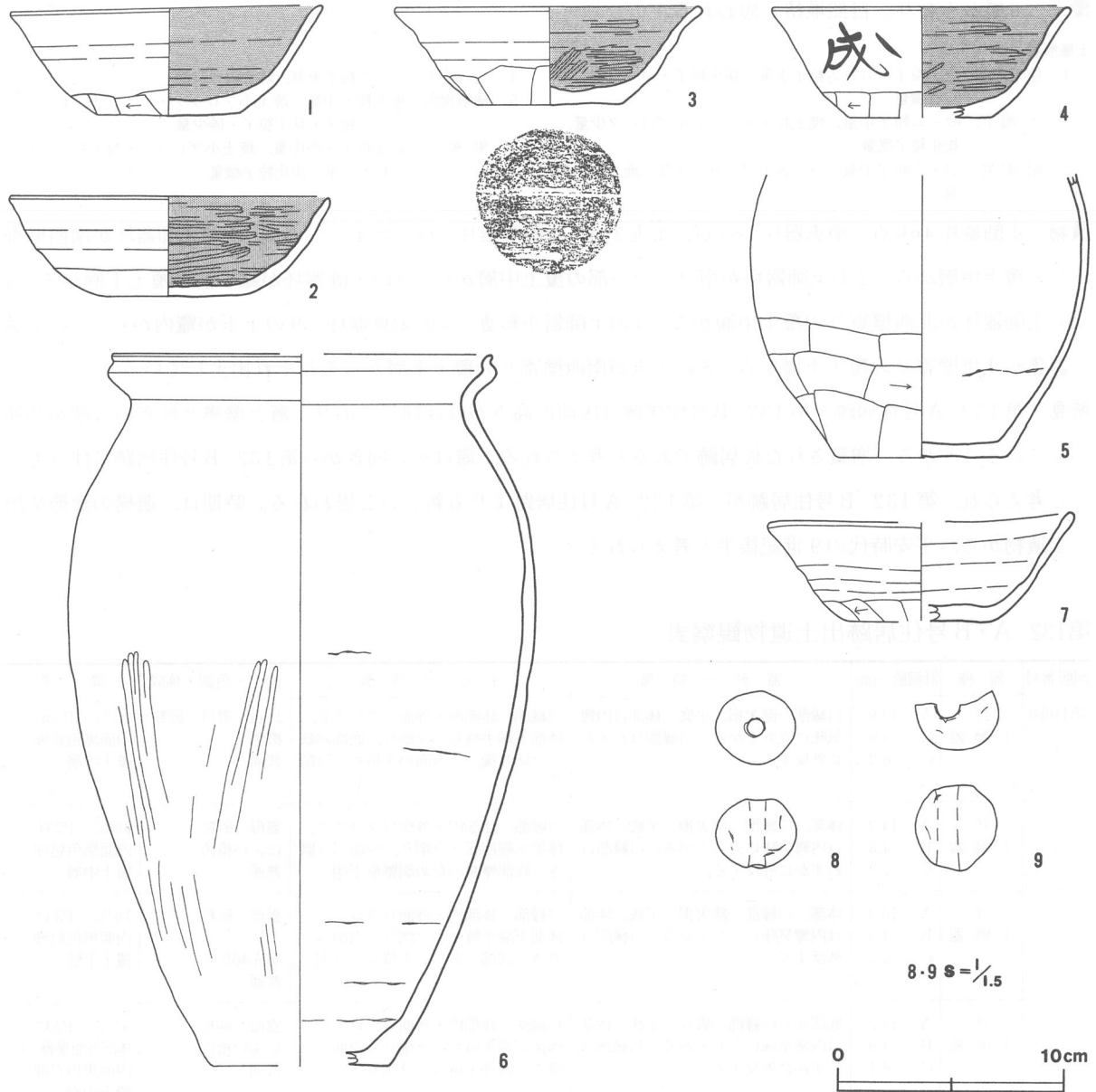
竈 第132-B号住居跡に伴う竈は、北東壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで93cm、最大幅118cm、壁外への掘り込みは67cmである。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、煙道部にかけて硬化している。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂中量、焼土大・中・小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量	4 暗褐色	焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
2 暗赤褐色	粘土粒子・砂多量、焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
3 暗赤褐色	焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土大ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量	6 暗赤褐色	焼土粒子多量、焼土中・小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子微量



第115图 第132-A号, 第132-B号住居跡実测图



第116図 第132-A号, 第132-B号住居跡出土遺物実測図

- | | | | |
|--------|-----------------------------------|---------|-------------------------------------|
| 7 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂少量 | 13 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 9 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 10 灰褐色 | 粘土粒子・砂多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 15 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 11 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 16 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |

ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁は径34cmの円形, P₄は長径40cm, 短径30cmの楕円形で, いずれも深さ10~25cmの第132-A・B号住居跡共用の支柱穴である。P₂, P₃は長径35~43cm, 短径29~34cmの楕円形で, いずれも深さ8~12cmの第132-B号住居跡の支柱穴である。P₅は径42cmの円形で, 深さ35cmの第132-B号住居跡の出入口口施設に伴うピットであり, P₆は径21cmの円形で, 深さ15cmの第132-A号住居跡の出入口口施設に伴うピットである。

覆土 6層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|--------|---|
| 1 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 極暗褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | 粘土粒子・砂中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |

遺物 土師器片 466点, 須恵器片 183点, 土玉 2点, 灰釉陶器片 7点が出土している。1の土師器坏が南西壁寄りの覆土中層から, 2の土師器坏が南コーナー部の覆土中層から, 3の土師器坏が竈手前の覆土下層から, 4の土師器坏が北西壁寄りの覆土中層から, 5の土師器小形甕, 7の須恵器坏, 9の土玉が竈内から, 6の土師器甕が北東壁寄りの覆土下層から, 8の土玉が南西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 第132-A号住居跡と第132-B号住居跡は床面の高さがほぼ同じであり、竈と壁溝と柱穴の一部が共通していることから、増築された住居跡であると考えられる。竈はその向きから第132-B号住居跡に伴うものと考えられ、第132-B号住居跡が、第132-A号住居跡よりも新しいと思われる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀後半と考えられる。

第132-A・B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第116図 1	坏 土師器	A 13.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後, 一方向の手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	95% P330 内面黒色処理 覆土中層
		B 5.0				
		C 6.2				
2	坏 土師器	A 14.2	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部摩擦のため調整痕不明。	雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	90% P331 内面黒色処理 覆土中層
		B 4.5				
		C 7.2				
3	坏 土師器	A 13.3	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部一方向の手持ちヘラ削り。	雲母 砂粒 スコリア 明赤褐色 普通	70% P332 内面黒色処理 覆土下層
		B 4.3				
		C 6.5				
4	坏 土師器	A 13.3	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部手持ちヘラ削り。	雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	55% P333 体部外面墨書「成」 内面黒色処理 覆土中層
		B 4.9				
		C [6.1]				
5	小形甕 土師器	B (12.6)	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	50% P334 底部木葉痕 二次焼成痕 竈内
		C 7.6				
6	甕 土師器	A [16.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下半ヘラ磨き。内面ナデ, 輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	60% P335 二次焼成痕 覆土下層
		B 31.7				
		C [8.0]				
7	坏 須恵器	A [13.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラナデ。	石英 雲母 砂粒 灰黄色 普通	45% P336 竈内
		B 4.9				
		C [6.5]				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
8	土玉	1.7	1.6	0.4	3.58	覆土下層	DP8 100%
9	土玉	1.8	1.9	0.5~0.6	(2.92)	竈内	DP9 50%

第133号住居跡 (第117図)

位置 調査区南東部, D6d6区。

規模と平面形 長軸 3.54m, 短軸 3.48m の方形である。

主軸方向 N-13°-E

壁 壁高は 20~23cm で, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅 12~30cm, 下幅 4~9cm, 深さ 2~7cm で, 断面形は U 字状である。

床 平坦で, 出入り口施設から竈手前にかけて, 踏み固められている。

竈 北壁のやや西寄りに, 砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで 96cm, 最大幅 105cm, 壁外への掘り込みは 65cm である。火床部は床面を 2cm ほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。煙道部は外傾し, 立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---|----------|--|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 11 暗赤褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 12 暗赤褐色 | 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム粒子・砂中量, 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 13 暗赤褐色 | 粘土粒子多量, ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土大ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 14 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 焼土大ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂少量, 焼土中ブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂少量 |
| 6 暗褐色 | 粘土粒子・砂中量, 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 16 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂少量, ローム粒子微量 |
| 8 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量 | 18 暗赤褐色 | 焼土大ブロック・焼土粒子多量 |
| 9 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂中量 | 19 暗赤褐色 | 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量 |
| 10 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂少量 | 20 極暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・砂少量 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄ は径 30~36cm の円形で, 深さ 11~21cm の支柱穴である。P₅ は長径 33cm, 短径 26cm の楕円形で, 深さ 8cm の出入り口施設に伴うピットである。

覆土 4層からなり, ロームブロック, 焼土ブロックの堆積している状況から, 人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 灰褐色 | 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |

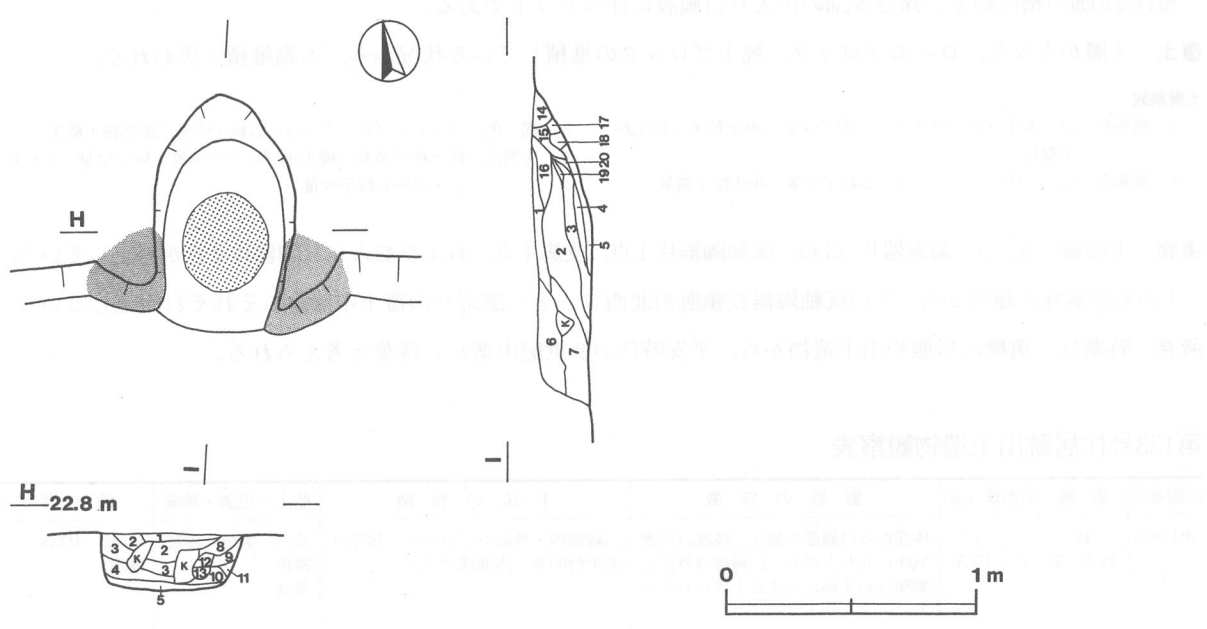
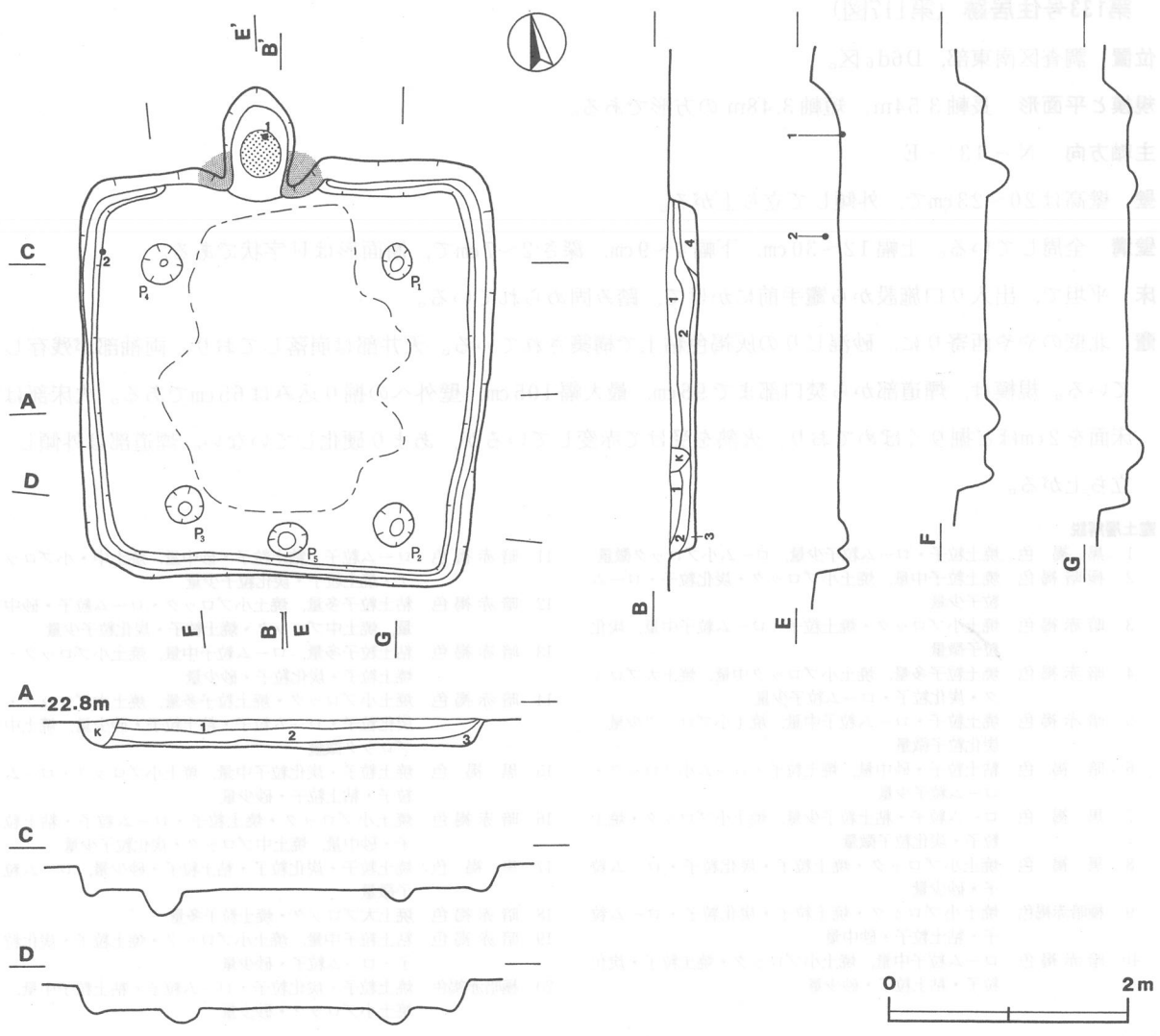
遺物 土師器片 67点, 須恵器片 53点, 灰釉陶器片 1点, 支脚 1点, および混入した陶器片 2点が出土している。

1の須恵器鉢が竈内から, 2の灰釉陶器長頸瓶が北西コーナー部寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

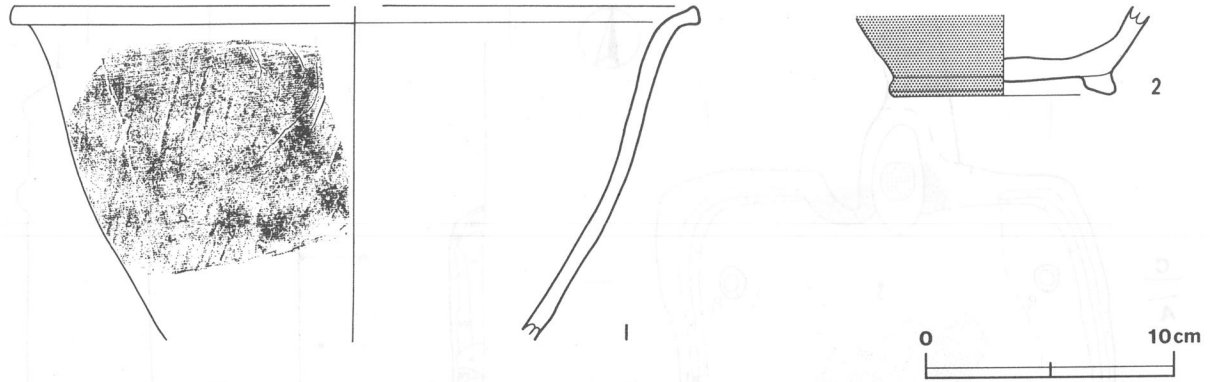
所見 時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の 9世紀中葉から後葉と考えられる。

第133号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第118図 1	鉢 須恵器	A [27.3] B (13.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面横ナデ。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	10% P338 竈内



第117図 第133号住居跡実測図



第118図 第133号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第118図 2	長頸瓶 灰釉陶器	B (3.5) C 9.0	高台部から体部の破片。高台部は短く、直線的に開く。平底。	体部内・外面ロクロナデ。高台部貼り付け、ロクロナデ。体部から高台部外面灰釉施釉。	長石 砂粒 緻密 にぶい黄橙色 良好	10% P340 黒笹90号窯式 覆土中層

第134号住居跡 (第119図)

位置 調査区南東部, D6d4区。

重複関係 本跡は第23号溝と重複している。第23号溝が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.50m, 短軸3.48mの隅丸方形である。

主軸方向 N-12°-E

壁 壁高は20~28cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅16~45cm, 下幅4~12cm, 深さ4~11cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

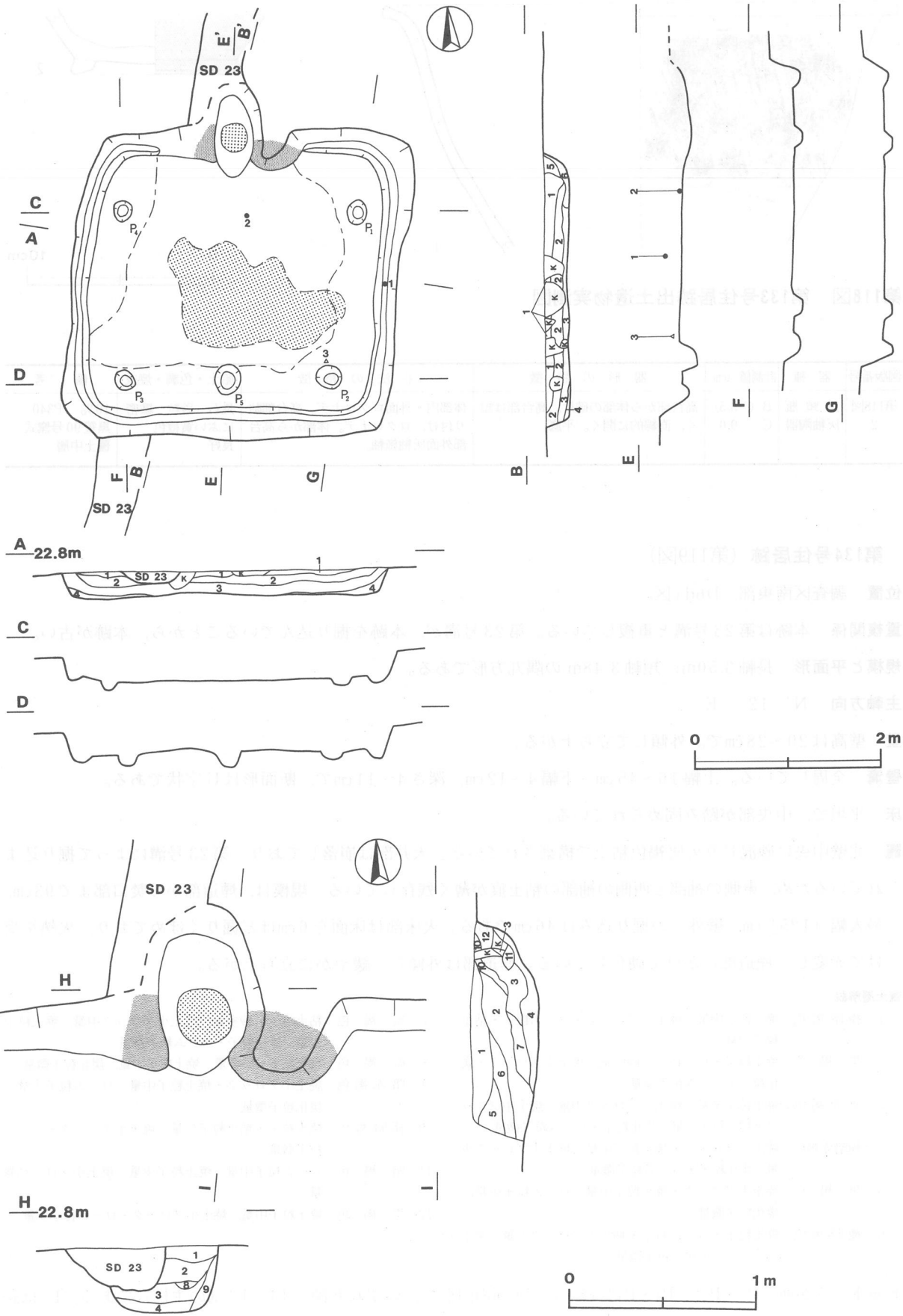
竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、第23号溝によって掘り込まれているため、東側の袖部と西側の袖部の粘土痕が薄く残存している。規模は、煙道部から焚口部まで93cm, 最大幅 [125] cm, 壁外への掘り込みは46cmである。火床部は床面を6cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変し、煙道部にかけて硬化している。煙道部は外傾し、緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

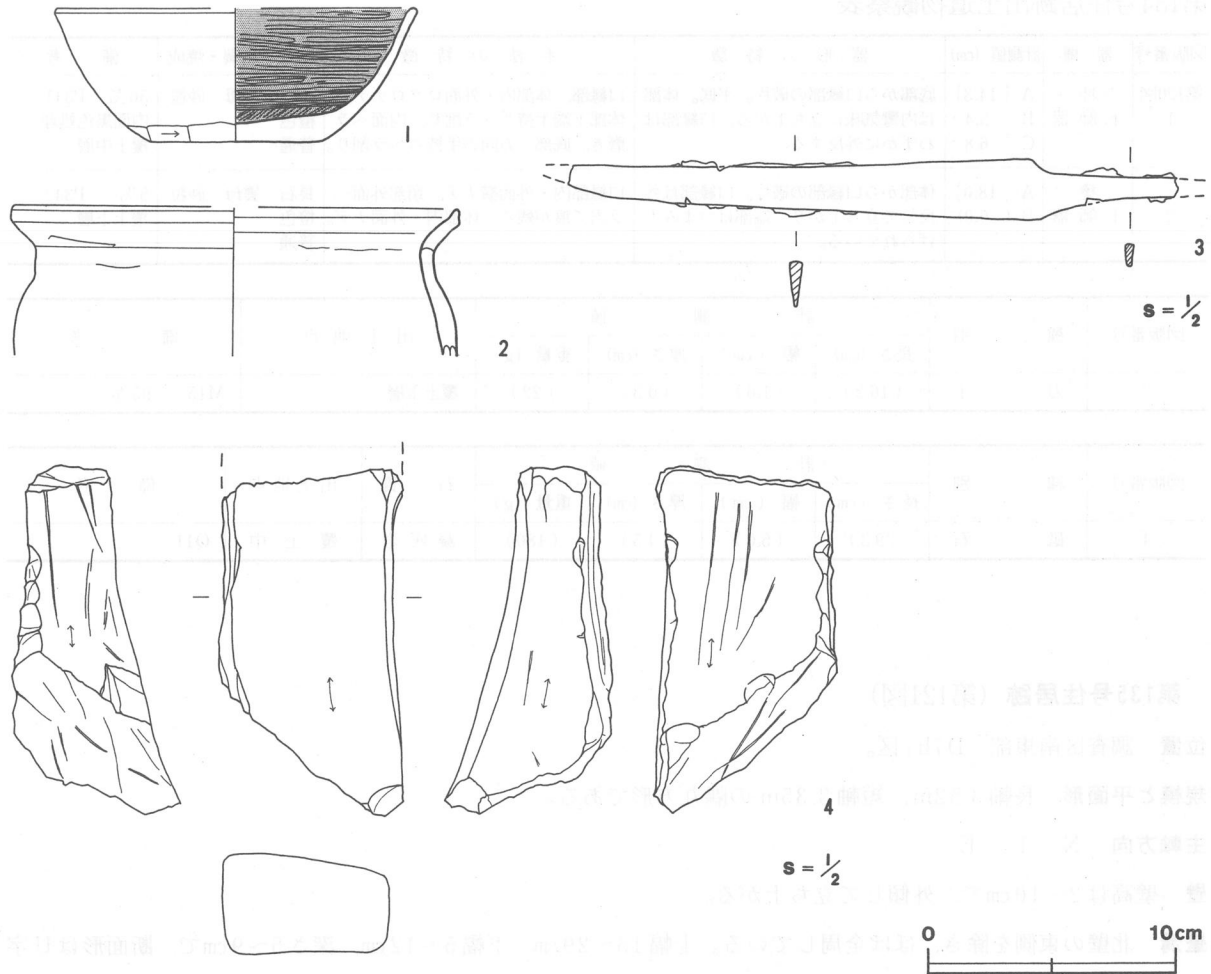
- | | |
|--|---|
| 1 極暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量 | 7 暗褐色 粘土粒子・砂多量, 焼土小ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 8 暗褐色 粘土粒子・砂多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 9 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 10 極暗褐色 焼土粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 6 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径23~28cmの円形で、いずれも深さ11~12cmの支柱穴である。P₅は長径32cm, 短径27cmの楕円形で、深さ18cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 6層からなり、自然堆積と思われる。



第119图 第134号住居跡実測図



第120図 第134号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- | | |
|---|---|
| 1 極暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 土粒子・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量, 焼 | 5 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| | 6 暗赤褐色 粘土粒子・砂中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |

遺物 土師器片 229点, 須恵器片 101点, 刀子 1点, 砥石 1点, および混入した陶器片 3点が出土している。1の土師器坏が東壁寄りの覆土中層から, 2の土師器甕が竈手前の覆土下層から, 3の刀子が南東コーナー部の覆土下層から, 4の砥石が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 第23号溝の深さが本跡より浅く, 溝が掘り込んでいる範囲は, 土層から確認されている。床面の中央部から焼土塊が確認されているが, 性格は不明である。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀後葉と考えられる。

第134号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第120図 1	坏土師器	A [14.3] B 5.4 C 6.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	50% P341 内面黒色処理 覆土中層
2	甕土師器	A [18.0] B (6.0)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ当て痕が残る。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	5% P342 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
3	刀子	(16.2)	(1.6)	(0.3)	(22)	覆土下層	M15 95%

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
4	砥石	(9.3)	(5.0)	(4.5)	(180)	凝灰岩	覆土中 Q11	

第135号住居跡 (第121図)

位置 調査区南東部, D7h₁区。

規模と平面形 長軸 3.52m, 短軸 3.35m の隅丸方形である。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は 2~10 cm で, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁の東側を除き, ほぼ全周している。上幅 15~29 cm, 下幅 5~12 cm, 深さ 5~9 cm で, 断面形は U 字状である。

床 やや凹凸で, 出入口施設から竈手前にかけて, 踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで 82 cm, 最大幅 126 cm, 壁外への掘り込みは 51 cm である。火床部は床面を 5 cm ほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。焚口部は北壁に対して, 斜めに作られている。煙道部は外傾し, 緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

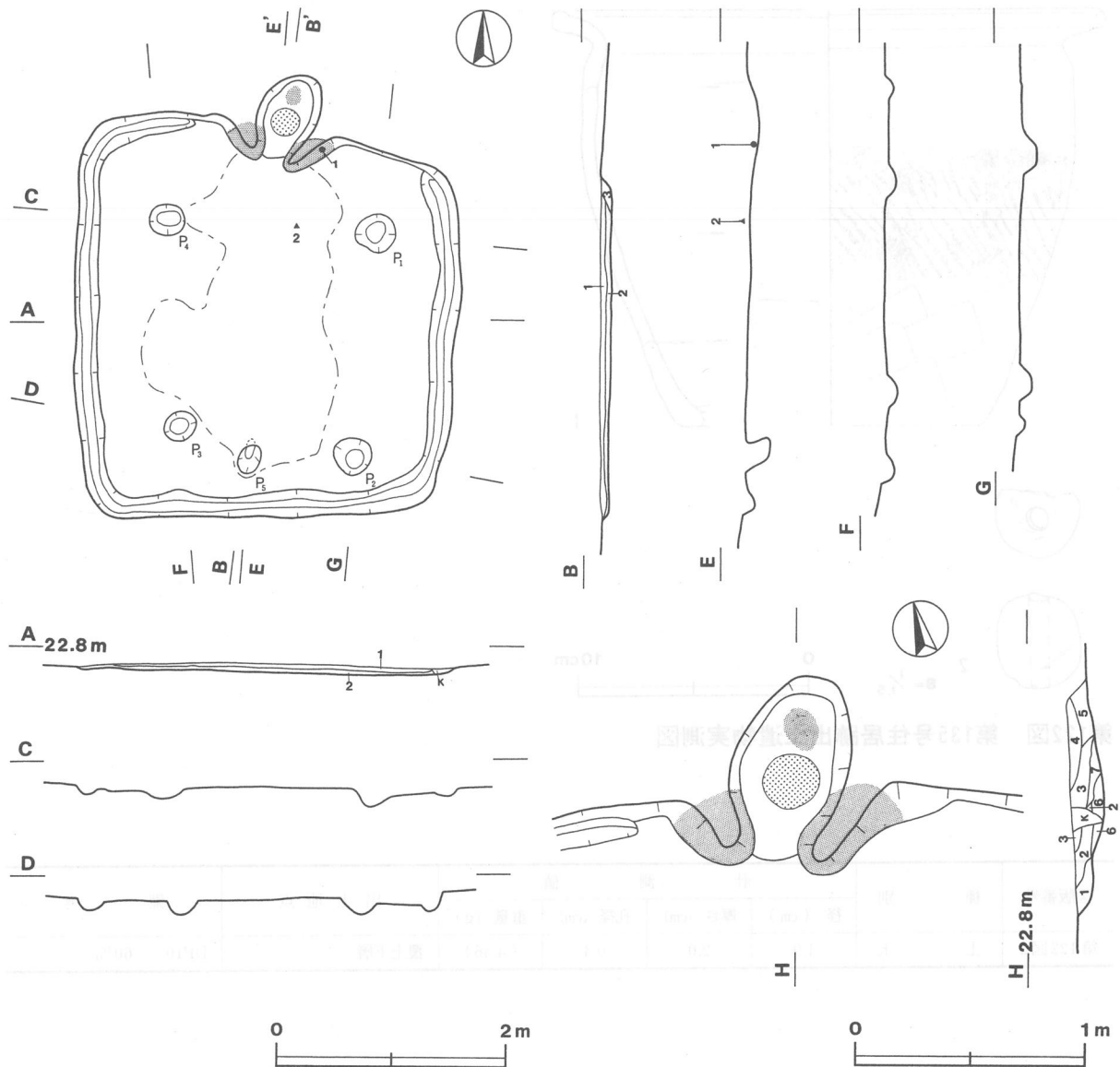
- | | |
|---|---|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 5 暗褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 4 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒 | |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄ は径 29~35 cm の円形で, 深さ 9~14 cm の支柱穴である。P₅ は長径 26 cm, 短径 18 cm の楕円形で, 深さ 21 cm の出入口施設に伴うピットである。

覆土 3層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 3 灰褐色 粘土粒子中量, 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量



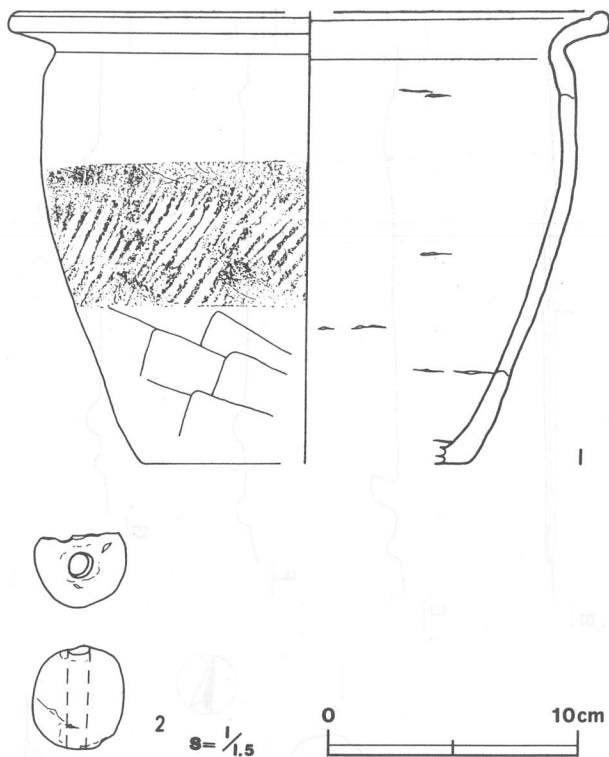
第121図 第135号住居跡実測図

遺物 土師器片 35点, 須恵器片 19点, 土玉 1点が出土している。1の須恵器鉢が竈の東側袖部内から, 2の土玉が竈手前の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 覆土が浅かったことから壁の残存率が悪く, 遺物も少なくほとんどが細片である。竈の袖部内から遺物が出土していることから, それらは竈の補強材として使用されていたと考えられる。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀後半と考えられる。

第135号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第122図 1	鉢 須恵器	A [23.2] B 18.4 C [13.1]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き, 下位ヘラ削り。内面ナデ, 輪積み痕有り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰色 普通	20% P344 袖部内



第122図 第135号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第122図2	土玉	1.9	2.0	0.4	(4.36)	覆土下層	DP10 60%

第136号住居跡 (第123図)

位置 調査区南東部, D6e3区。

規模と平面形 長軸3.31m, 短軸3.31mの隅丸方形である。

主軸方向 N-19°-E

壁 壁高は18cmほどで, 外傾して立ち上がる。

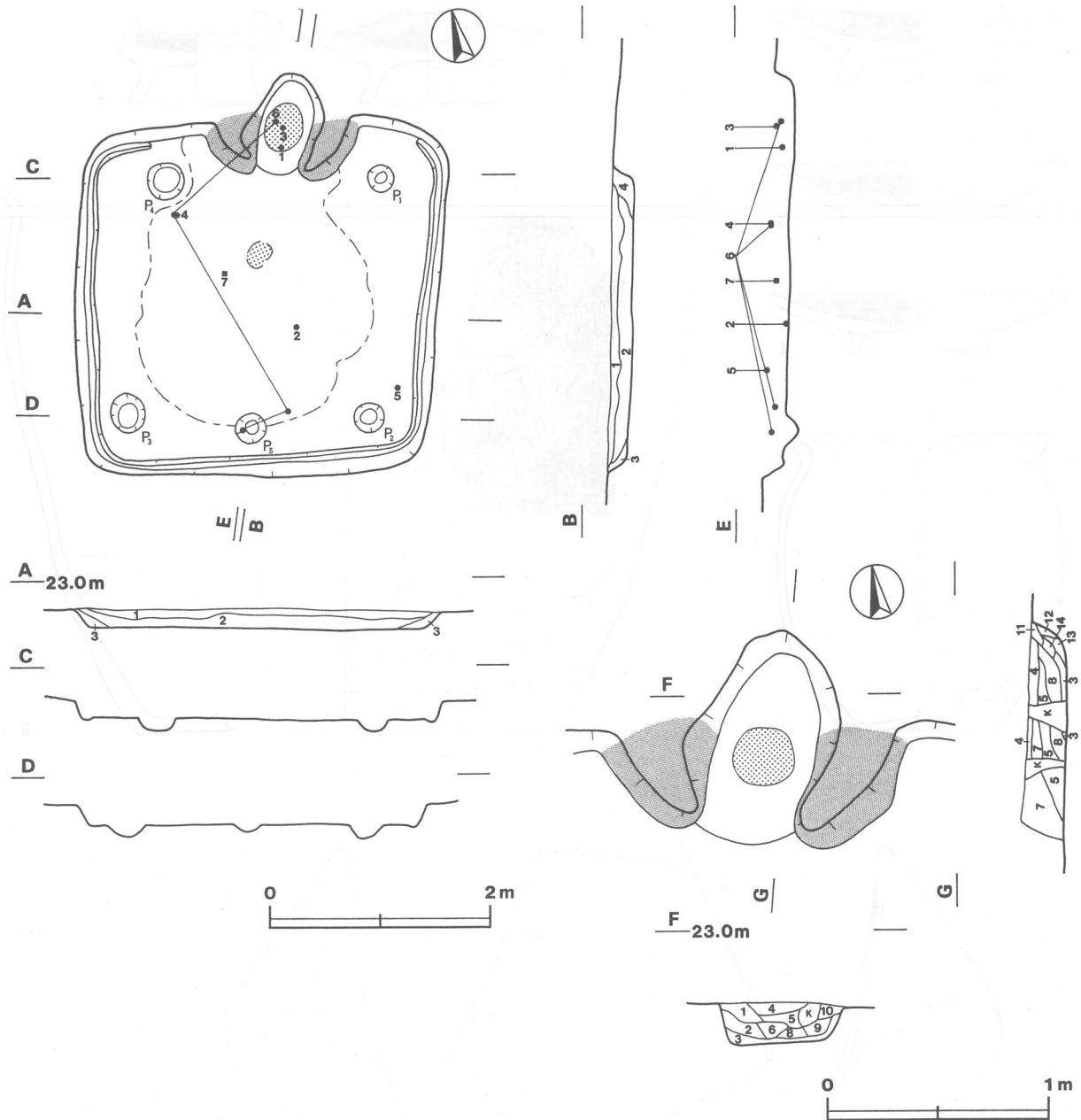
壁溝 ほぼ全周している。上幅12~22cm, 下幅2~6cm, 深さ2~4cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで98cm, 最大幅150cm, 壁外への掘り込みは43cmである。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。焚口部は北壁に対して, やや斜めに作られている。煙道部は外傾し, 急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|--|---|
| 1 暗赤褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子・砂少量, 炭化粒子微量 | 3 暗赤褐色 粘土粒子多量, ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂少量 |
| 2 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂・粘土粒子少量 | 4 暗褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・砂少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量 |

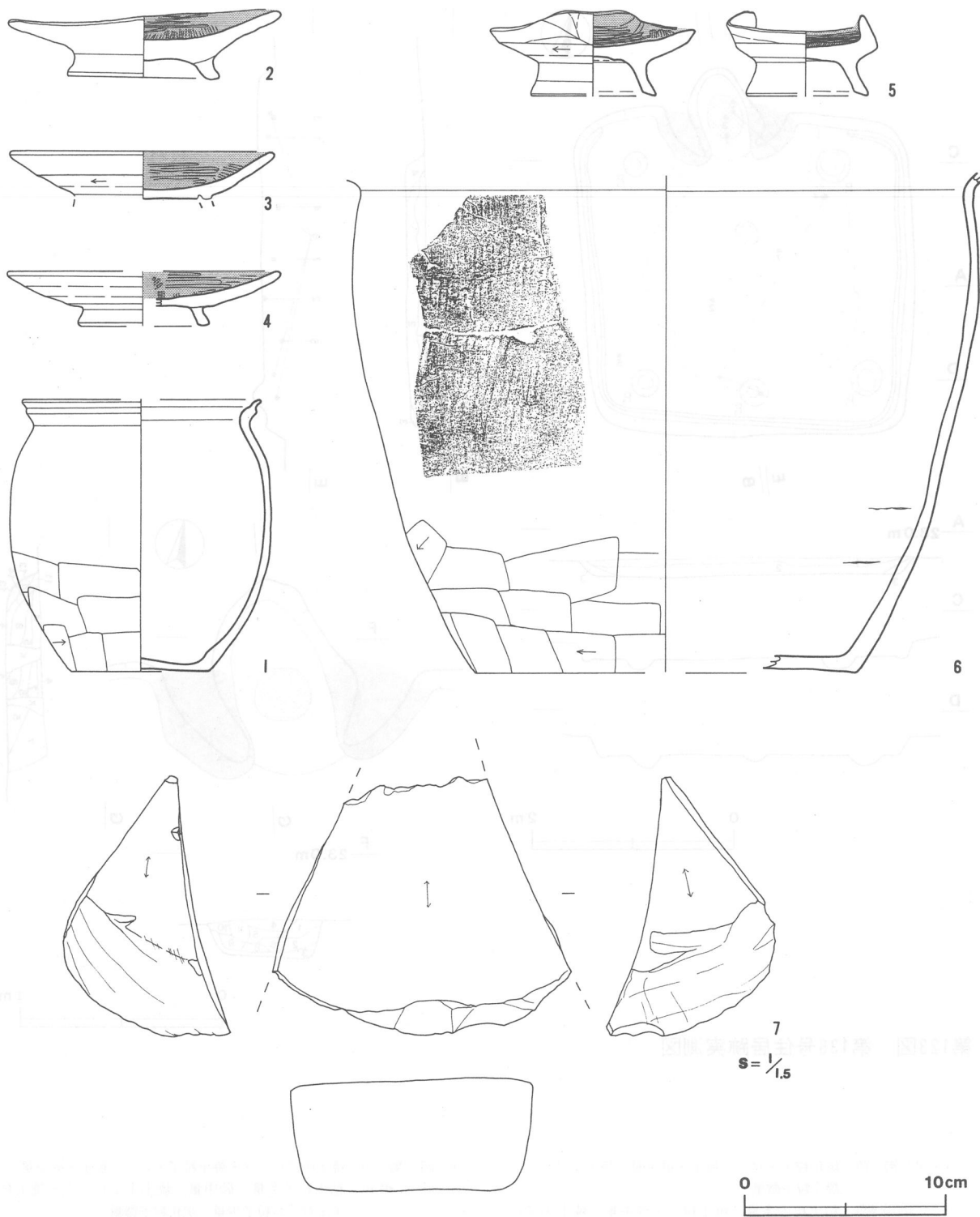


第123図 第136号住居跡実測図

- | | | | |
|----------|--|-----------|---|
| 5 黒褐色 | 炭化粒子・ローム粒子・砂少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | 焼土中ブロック・焼土粒子・ローム粒子・砂少量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 粘土粒子多量, 焼土粒子・砂中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 11 暗赤褐色 | 粘土粒子多量, 砂中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・砂中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 12 にぶい赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂少量 |
| 8 暗赤褐色 | 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム粒子・砂中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 13 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子・砂・粘土粒子少量 |
| 9 暗赤褐色 | 炭化粒子・ローム粒子・砂・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量 | 14 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・砂・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄ は径 26~37cm の円形で, 深さ 9~13cm の支柱穴である。P₅ は径 27cm の円形で, 深さ 12cm の出入口施設に伴うピットである。

覆土 4層からなり, 自然堆積と思われる。



第124図 第136号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|---|-------|----------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量 | 4 暗褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |

遺物 土師器片 126 点, 須恵器片 97 点, 砥石 1 点が出土している。1 の土師器小形甕, 3 の土師器高台付皿が竈内から, 2 の土師器高台付皿が中央部の床面直上から, 4 の土師器高台付皿が P₄ 付近の覆土上層から, 5 の土師器耳皿が南東コーナー部の覆土上層から, 6 の須恵器鉢が南壁寄りの覆土中層から竈内までの広範囲にわたり, 7 の砥石が中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 中央部に焼土塊が確認されているが, 性格は不明である。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の 9 世紀後葉と考えられる。

第136号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第124図 1	小形甕 土師器	A [11.7] B 13.6 C 7.0	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へら削り。内面横ナデ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	75% P345 二次焼成痕 竈内
2	高台付皿 土師器	A 13.5 B 3.5 D 7.5 E 1.1	体部, 口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部から口縁部にかけて, 直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部内面へら磨き。底部回転へら削り。高台部貼り付け, ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	95% P346 内面黒色処理 床面直上
3	高台付皿 土師器	A 12.8 B (2.4)	高台部欠損, 口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて, 直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下位回転へら削り。内面へら磨き。底部回転へら削り。高台部貼り付け, ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	90% P347 内面黒色処理 竈内
4	高台付皿 土師器	A [13.5] B 2.8 D [6.2] E 1.0	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部内面へら磨き。底部回転へら削り。高台部貼り付け, ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	40% P348 内面黒色処理 覆土上層
5	耳皿 土師器	A _総 10.3 A _短 5.4 B 4.2 D 6.2 E 1.6	高台部, 口縁部一部欠損。高台部は長く, ハの字状に開く。平底。体部は, 二か所が内側に丸く折り曲げられている。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下位回転へら削り。内面へら磨き。底部回転へら削り。高台部貼り付け, ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	90% P349 内面黒色処理 覆土上層
6	鉢 須恵器	B (24.8) C [19.0]	底部から頸部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。頸部は外反する。	体部外面平行叩き, 下位へら削り。内面下位指ナデ, 輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	30% P350 竈内 覆土中層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
7	砥石	(7.3)	(6.5)	(4.0)	(160)	凝灰岩	覆土中層	Q12

第137号住居跡 (第125図)

位置 調査区南部, D6e1 区。

規模と平面形 長軸 5.11m, 短軸 4.76m の方形である。

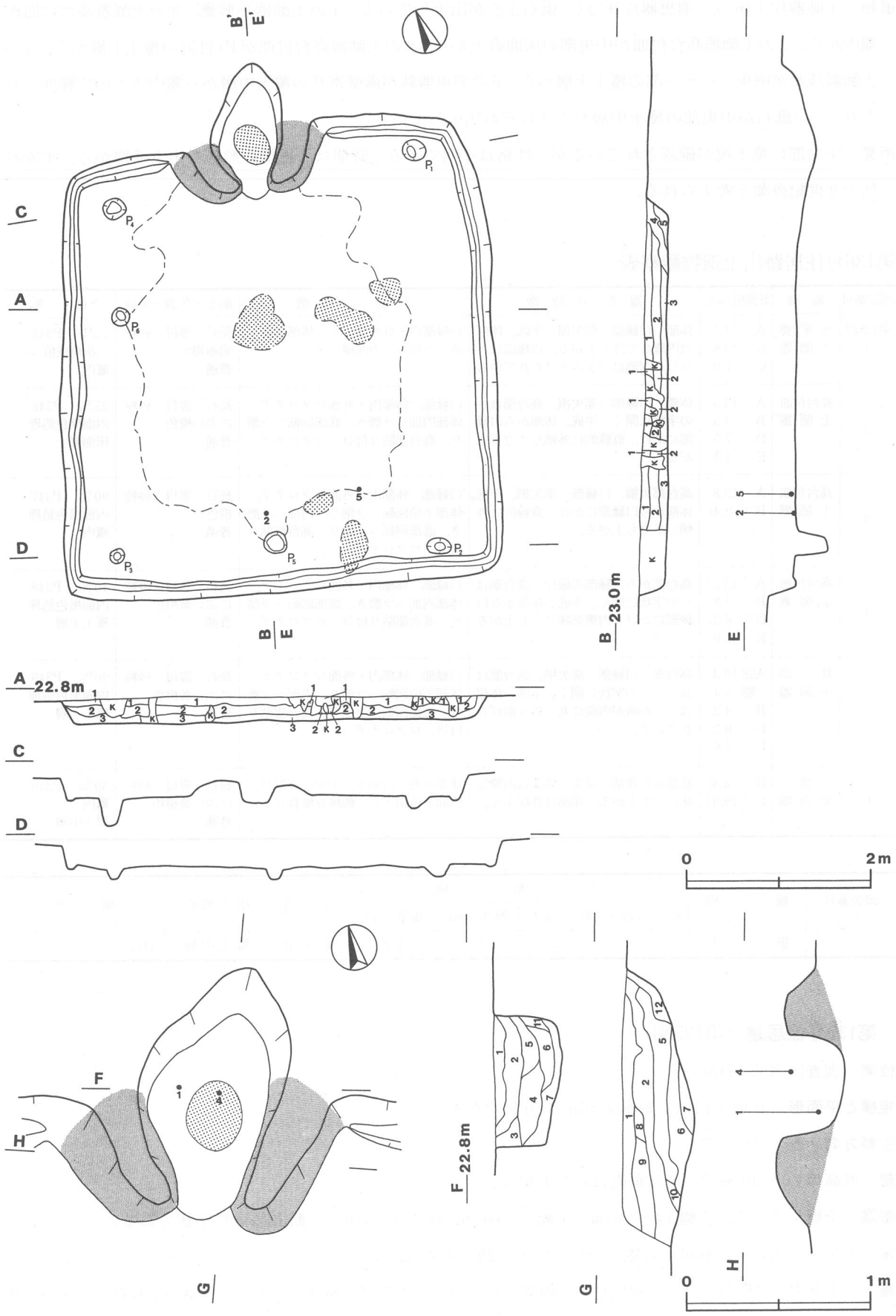
主軸方向 N - 21° - E

壁 壁高は 26~30cm で, ほぼ垂直に立ち上がる。

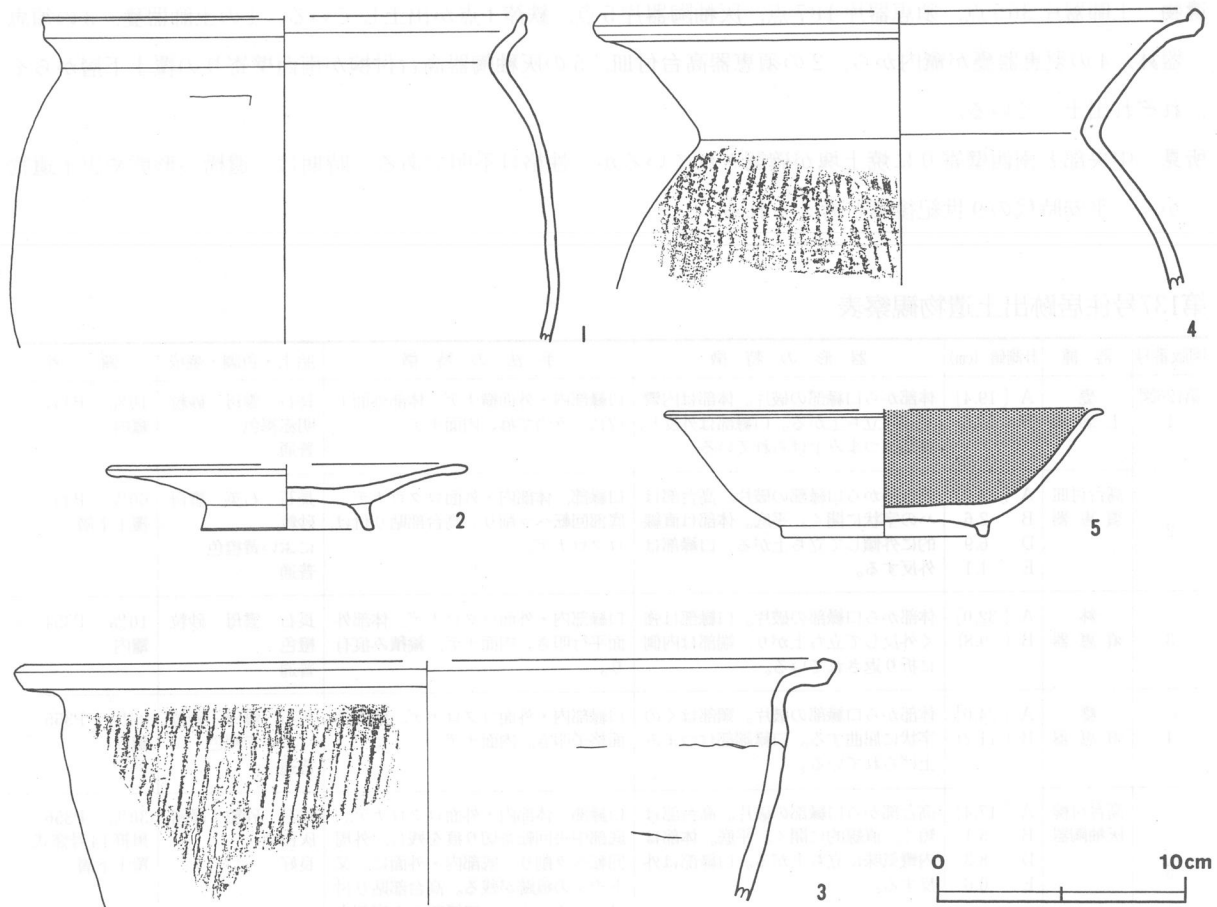
壁溝 全周している。上幅 14~29cm, 下幅 4~10cm, 深さ 3~5cm で, 断面形は U 字状である。

床 平坦で, 出入り口施設から竈手前にかけて, 踏み固められている。

竈 北東壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで 139cm, 壁外への掘り込みは 70cm である。両袖部は最大幅 163cm で, 粘土で袖部をしっかりと厚く作られている。火床部は床面を 12cm ほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化



第125图 第137号住居跡実測図



第126図 第137号住居跡出土遺物実測図

している。煙道部は外傾し、最初緩やかで、のち急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|--|---|
| 1 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 | 8 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子少量 | 9 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 粘土粒子・砂微量 |
| 3 暗褐色 粘土粒子多量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 粘土粒子・砂中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・ローム粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子・砂少量, ローム粒子微量 | 12 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 焼土中ブロック・ローム粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子微量 | |
| 7 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量 | |

ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁, P₃, P₄は径17~25cmの円形, P₂は長径26cm, 短径17cmの楕円形で、いずれも深さ11~31cmの支柱穴である。P₅は径25cmの円形で、深さ34cmの出入り口施設に伴うピットである。P₆は径20cmの円形、深さ26cmで、性格は不明である。

覆土 5層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|--|---|
| 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中・小ブロック微量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土中・小ブロック・粘土粒子・砂中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | |

遺物 土師器片 365点, 須恵器片 187点, 灰釉陶器片 5点, 鉄滓 1点が出土している。1の土師器甕, 3の須恵器鉢, 4の須恵器甕が竈内から, 2の須恵器高台付皿, 5の灰釉陶器高台付椀が南西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 中央部と南西壁寄りに焼土塊が確認されているが, 性格は不明である。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代の9世紀後葉と考えられる。

第137号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第126図 1	甕 土師器	A [19.4] B (13.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位にへら当て痕。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	10% P351 竈内
2	高台付皿 須恵器	A [14.0] B 2.6 D 6.9 E 1.1	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら削り。高台部貼り付け, ロクロナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	60% P353 覆土下層
3	鉢 須恵器	A [32.0] B (9.8)	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反して立ち上がり, 端部は内側に折り返されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ, 輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	10% P354 竈内
4	甕 須恵器	A [24.0] B (11.2)	体部から口縁部の破片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面格子叩き。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい赤褐色 普通	20% P355 竈内
5	高台付椀 灰釉陶器	A [17.4] B 5.1 D 8.3 E 0.6	高台部から口縁部の破片。高台部は短く, 直線的に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部中央回転糸切り痕を残し, 外周回転へら削り。底部内・外面に三又トチンの痕跡が残る。高台部貼り付け, ロクロナデ。口縁部から底部内面灰釉施釉。	長石 砂粒 緻密 灰白色 良好	30% P356 黒笹14号窯式 覆土下層

第138号住居跡 (第127図)

位置 調査区南部, D6g₂区。

規模と平面形 長軸 4.66m, 短軸 4.63m の方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は 48cm で, ほぼ垂直に立ち上がる。

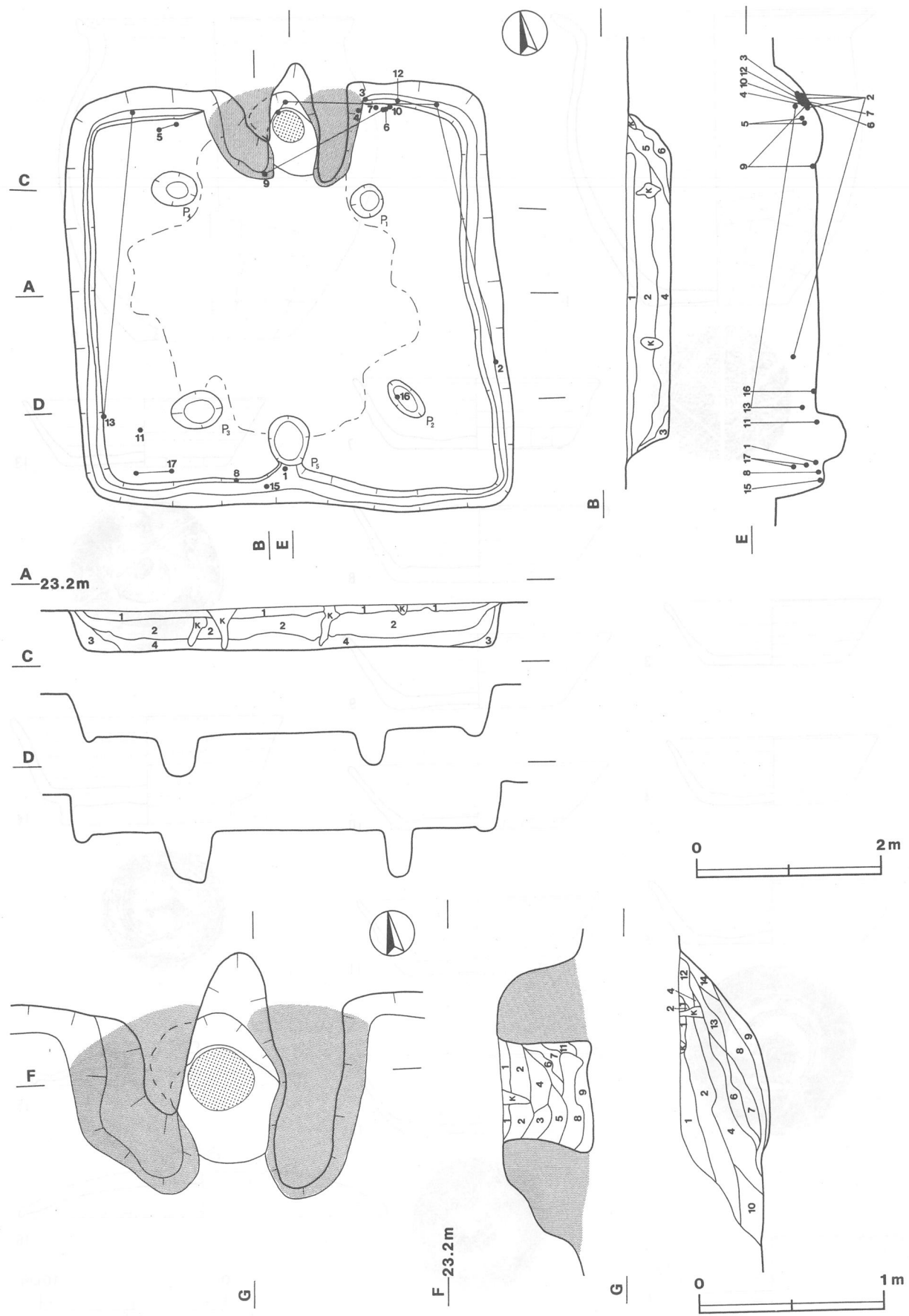
壁溝 全周している。出入り口施設に伴うピット付近は幅が広がっている。上幅 16~41cm, 下幅 2~15cm, 深さ 5~11cm で, 断面形は U 字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

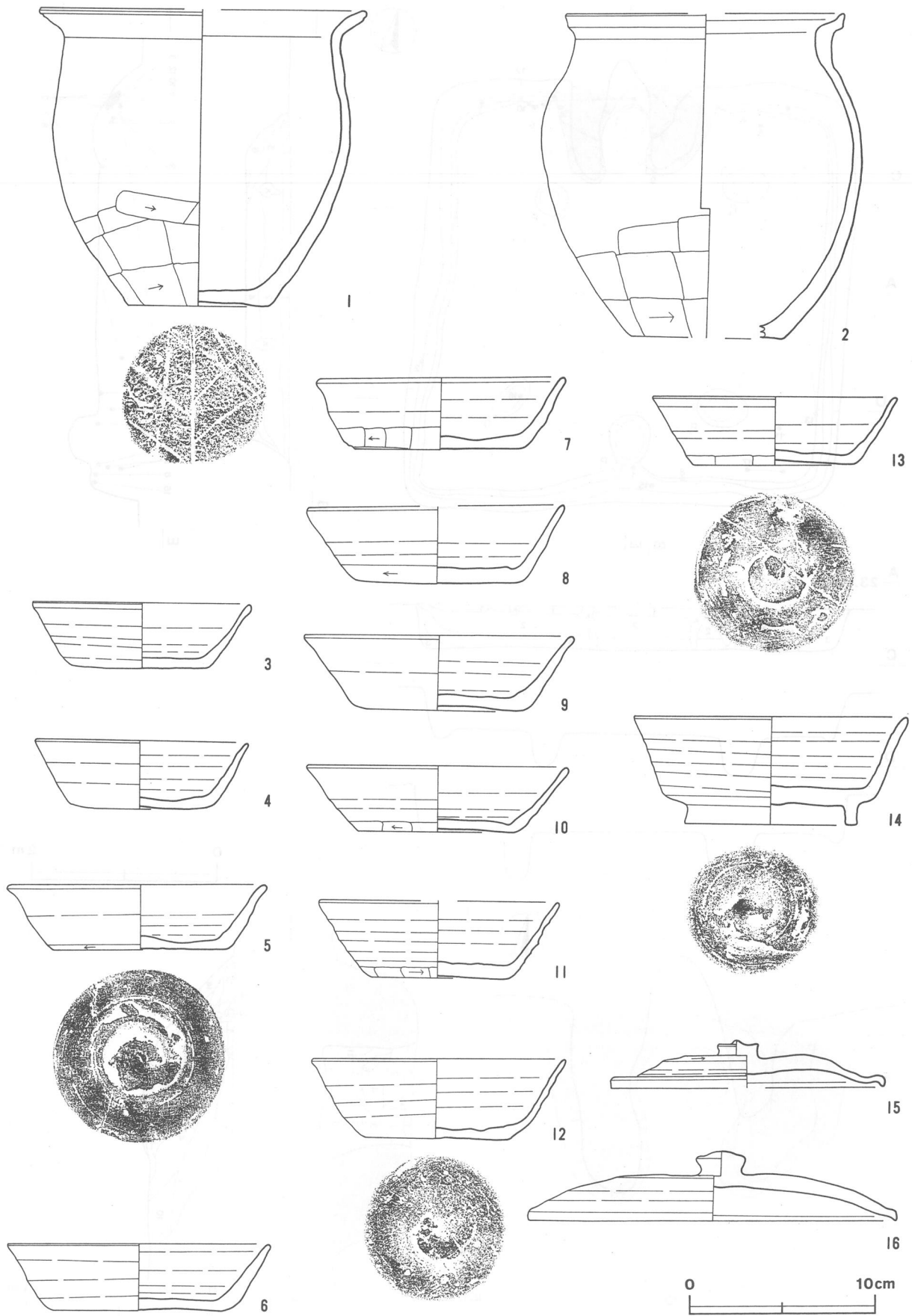
竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで 113cm, 壁外への掘り込みは 30cm である。両袖部は最大幅 175cm で, 粘土で袖部をしっかりと厚く作られている。火床部は床面を 8cm ほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変し, 硬化している。煙道部は外傾し, 急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|--|--|
| 1 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 粘土粒子微量 | 4 黒褐色 焼土粒子・粘土中ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂中量, 焼土中・小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 6 灰褐色 粘土粒子・粘土中ブロック多量, 焼土中ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |



第127图 第138号住居跡実測図

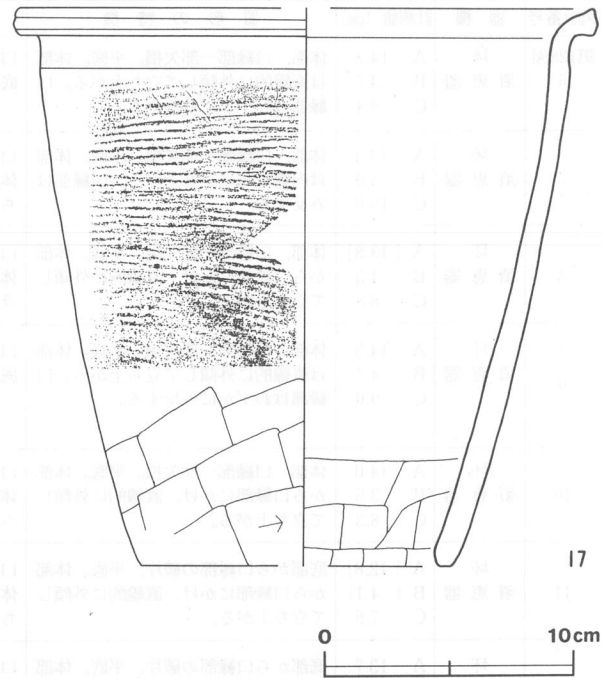


第128图 第138号住居跡出土遺物実測図(1)

- 7 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・粘土中ブロック少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土中・小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 9 極暗赤褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 10 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 11 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量
- 12 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 13 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
- 14 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁は径36cmの円形, P₂~P₄は長径49~56cm, 短径26~42cmの楕円形で, いずれも深さ37~56cmの主柱穴である。P₅は長径54cm, 短径41cmの楕円形で, 深さ33cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 6層からなり, 自然堆積と思われる。



第129図 第138号住居跡出土遺物実測図(2)

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 5 黒褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 6 極暗褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量

遺物 土師器片279点, 須恵器片221点, 支脚1点, 鉄滓4点が出土している。ほとんどの遺物が北壁と南壁寄りに集中している。1の土師器小形甕が南壁寄りの床面直上から, 2の土師器小形甕が東壁寄りの覆土中層と北東コーナー部の床面直上から竈内までの広範囲にわたり, 3, 4, 6, 7, 10, 12の須恵器坏が竈東側袖部脇の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 奈良時代の8世紀中葉と考えられる。

第138号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第128図 1	小形甕 土師器	A [17.4] B 16.0 C 7.7	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し, 端部直下に1条の沈線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	85% P357 底部木葉痕 床面直上
2	小形甕 土師器	A 15.0 B 17.7 C [8.2]	底部, 体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は器肉を増しながら外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい赤褐色 普通	80% P358 二次焼成痕 竈内床面直上 覆土中層
3	坏 須恵器	A 11.8 B 3.6 C 7.3	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面クロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	100% P360 覆土下層
4	坏 須恵器	A 11.5 B 3.7 C 7.4	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面クロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	100% P361 覆土下層
5	坏 須恵器	A 13.9 B 3.5 C 9.3	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面クロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後, 回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	90% P362 覆土中層

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第128図 6	坏 須恵器	A 14.2 B 3.7 C 9.4	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	90% P363 覆土下層
7	坏 須恵器	A 13.3 B 3.9 C 10.0	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	85% P364 覆土下層
8	坏 須恵器	A [13.8] B 4.3 C 8.8	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	80% P365 壁溝
9	坏 須恵器	A 14.5 B 4.1 C 9.0	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	80% P366 覆土下層
10	坏 須恵器	A 14.0 B 3.5 C 8.3	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	70% P367 覆土下層
11	坏 須恵器	A [12.8] B (4.1) C 7.6	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	60% P368 覆土下層
12	坏 須恵器	A 13.7 B 4.4 C 7.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	60% P369 覆土下層
13	坏 須恵器	A 13.3 B 3.7 C 8.6	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	60% P370 覆土中層
14	高台付坏 須恵器	A 14.8 B 5.9 D 9.2 E 1.1	体部、口縁部一部欠損。高台部は直線的に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	80% P371 袖部内
15	蓋 須恵器	A [14.6] B 2.6 F 2.1 G 1.1	口縁部からつまみの破片。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で、中に稜を持ち開く。口縁部は外反した後、屈曲して垂下する。	つまみ、天井部、口縁部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰色 良好	50% P373 壁溝
16	蓋 須恵器	A [20.0] B 3.7 F 2.7 G 1.3	口縁部からつまみの破片。擬宝珠状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で、緩やかに開く。口縁部は屈曲して、わずかに垂下する。	つまみ、天井部、口縁部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	砂粒 スコリア にぶい黄橙色 普通	35% P374 P ₂ 内
第129図 17	甗 須恵器	A [23.0] B 22.5 C [12.5]	底部から口縁部の破片。無底式。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反し、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き、下位ヘラ削り。内面ナデ、下位ヘラ削り。	長石 砂粒 灰白色 普通	20% P376 覆土中層

第139号住居跡 (第130図)

位置 調査区東部、C6j₉区。

重複関係 本跡は、第22号溝、第126号住居跡と重複している。本跡は第22号溝に掘り込まれ、第126号住居跡を掘り込んでいることから、第22号溝より古く、第126号住居跡より新しい。

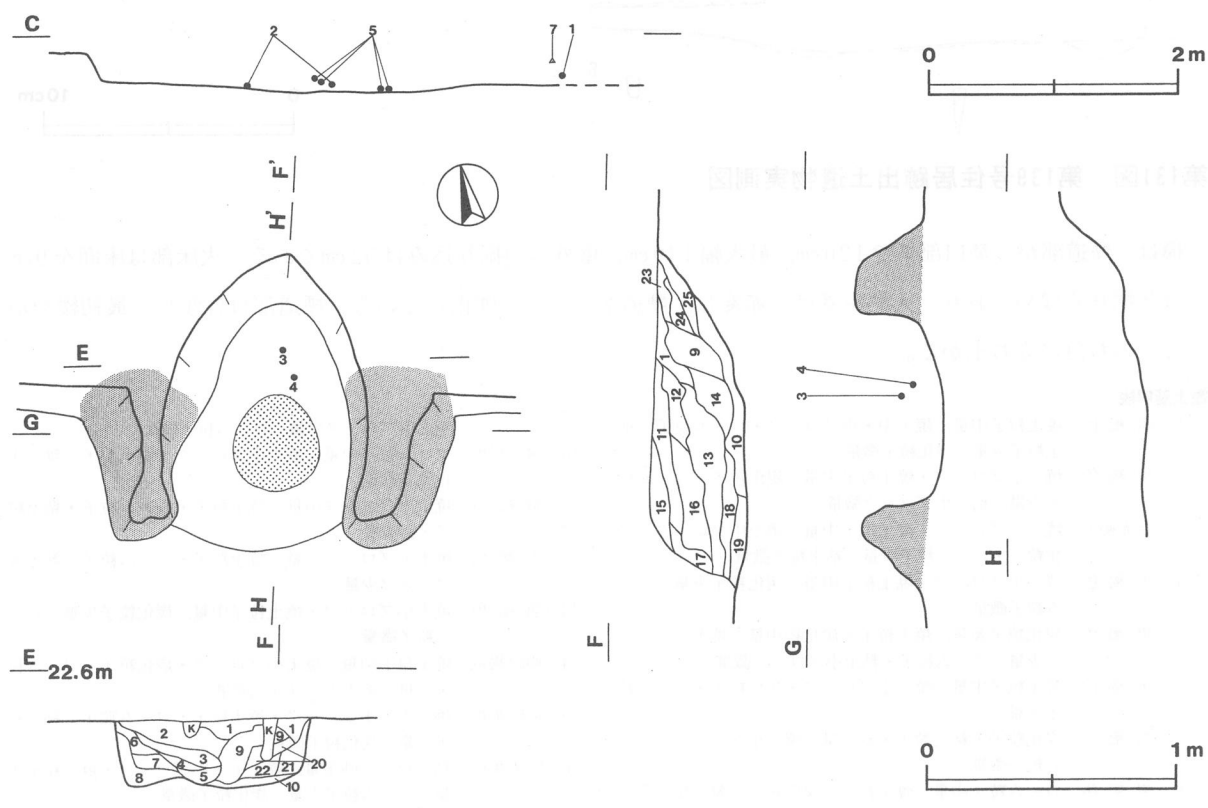
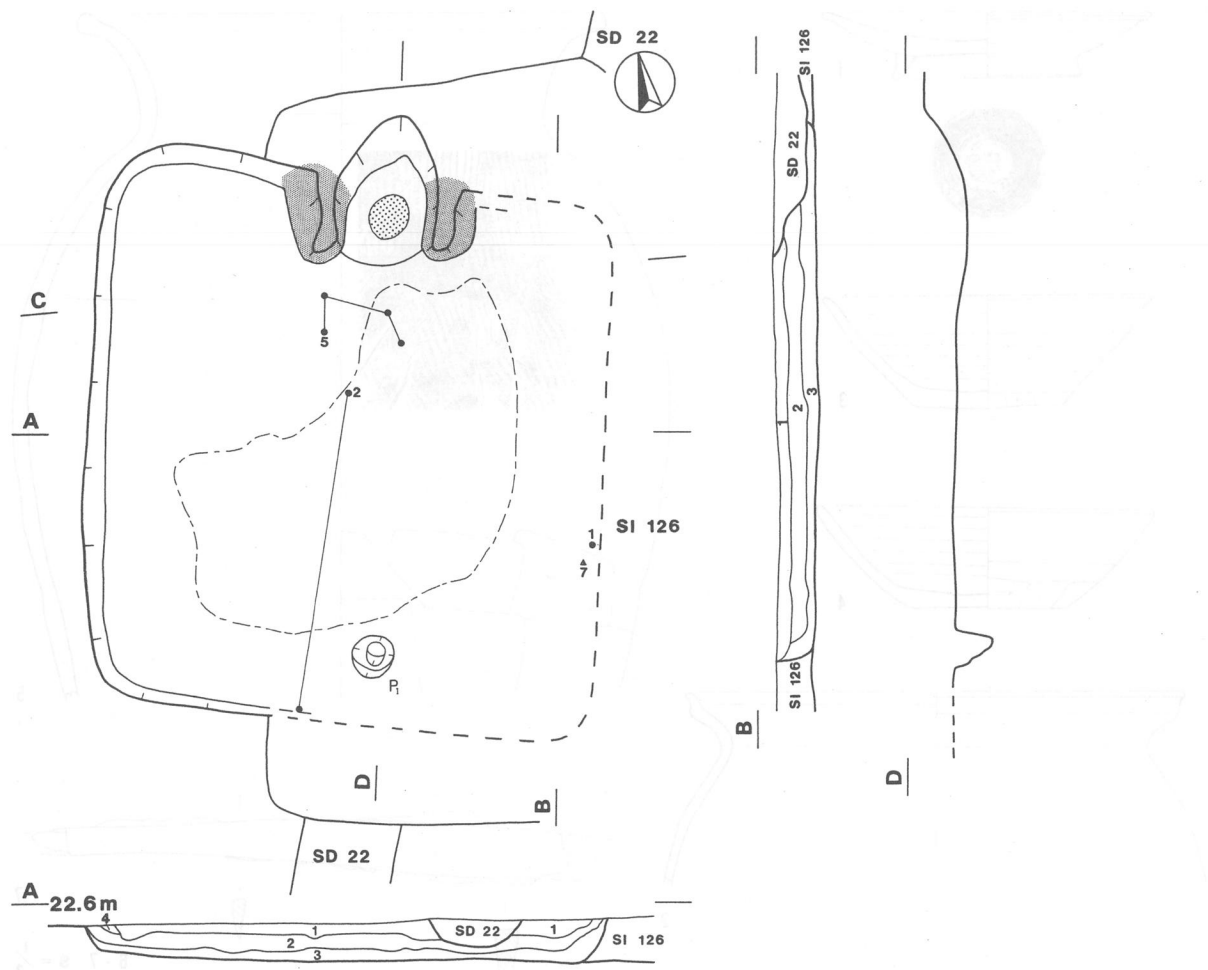
規模と平面形 長軸4.50m、短軸4.30mの方形である。

主軸方向 N-16°-E

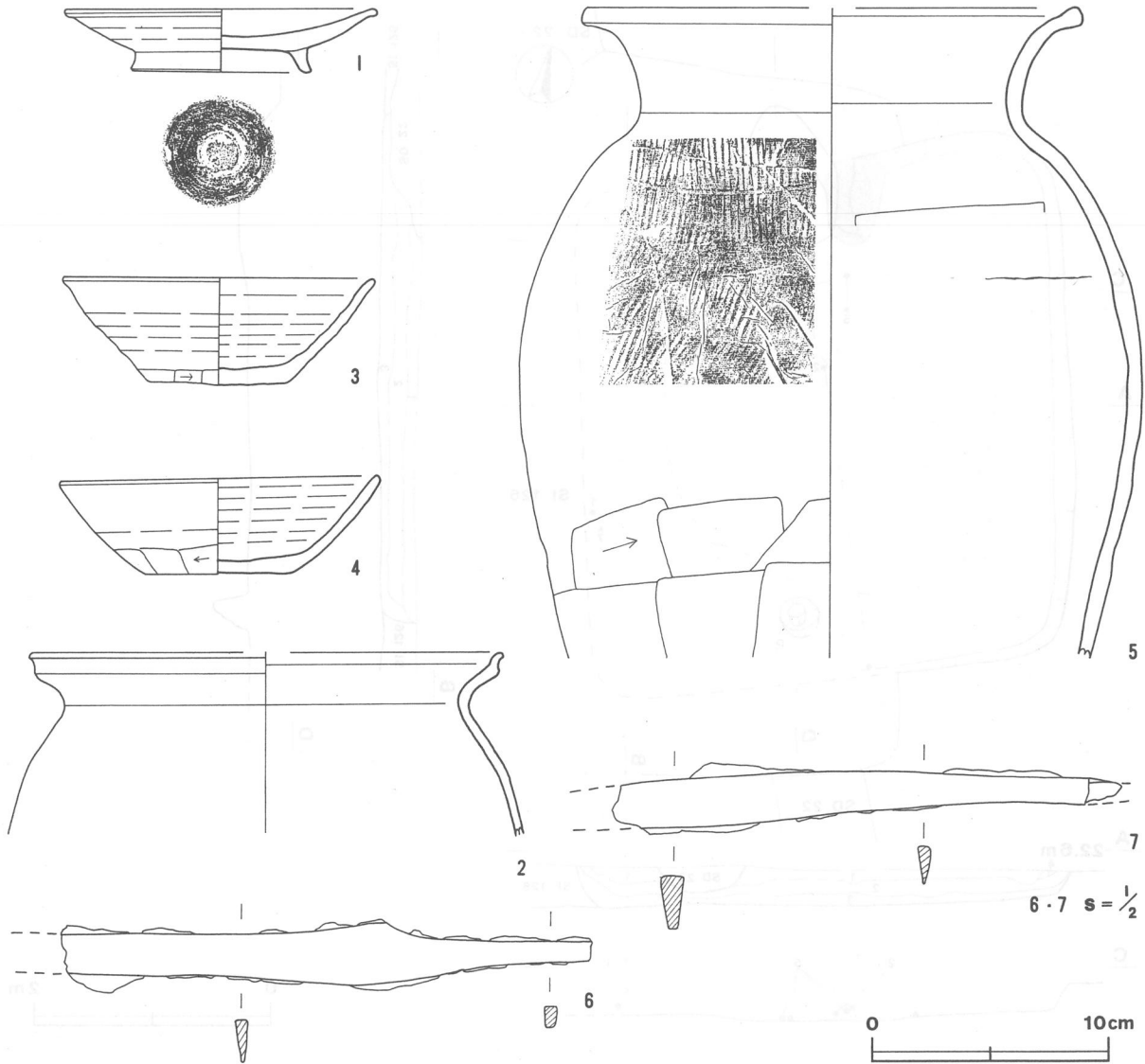
壁 壁高は23~33cmで、外傾して立ち上がる。

床 やや凹凸で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央に砂混じりの灰褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規



第130图 第139号住居跡実测图



第131図 第139号住居跡出土遺物実測図

模は、煙道部から焚口部まで120cm，最大幅149cm，壁外への掘り込みは52cmである。火床部は床面を9cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤変し，煙道部にかけて硬化している。煙道部は外傾し，最初緩やかで，のち急に立ち上がる。

甗土層解説

- | | | | |
|--------|---|-------------------|--|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子中量，焼土中・小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量 | 焼土中ブロック少量，ローム粒子微量 | |
| 2 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量，粘土小ブロック微量 | 10 暗赤褐色 | ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量，粘土粒子微量 | 11 暗褐色 | 焼土小ブロック中量，焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 12 黒褐色 | 焼土小ブロック中量，焼土粒子・ローム粒子・粘土大ブロック少量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子多量，焼土粒子・炭化物中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・粘土小ブロック微量 | 13 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 14 極暗褐色 | 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量，焼土中ブロック微量 |
| 7 暗褐色 | 炭化粒子・粘土粒子・砂少量，焼土小ブロック・ローム粒子微量 | 15 極暗褐色 | 焼土大・小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量 | 16 暗赤褐色 | 粘土粒子・砂多量，焼土中・小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土粒子多量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂中量， | 17 暗赤褐色 | 焼土大・小ブロック中量，焼土中ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |

18 暗赤褐色	粘土粒子・砂多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量	22 極暗赤褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
19 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量	23 黒褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
20 黒褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量	24 黒褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂少量
21 暗褐色	焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量	25 極暗赤褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム粒子少量, 粘土粒子・砂微量

ピット 1か所 (P₁)。P₁は径33cmの円形で、深さ30cmの出入り口施設に伴うピットである。

覆土 4層からなり、ロームブロックの堆積している状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子微量

遺物 土師器片479点, 須恵器片247点, 刀子2点, および混入した陶器片1点が出土している。1の土師器高台付皿が東壁寄りの覆土下層から, 2の土師器甕が中央部と南壁寄りの覆土下層から, 3, 4の須恵器坏が竈内から, 5の須恵器甕が竈手前の覆土中層・下層から, 6の刀子が覆土中から, 7の刀子が東壁寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 第22号溝の深さが本跡より浅く、溝が掘り込んでいる範囲は、土層から確認されている。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の9世紀中葉と考えられる。

第139号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第131図 1	高台付皿 土師器	A 13.1	体部, 口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け, ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 黒褐色 普通	95% P377 覆土下層
		B 2.8				
		D 7.5				
		E 1.0				
2	甕 土師器	A [20.0]	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がる。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	10% P378 覆土下層
		B (7.8)				
3	坏 須恵器	A 13.3	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後, ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	70% P380 竈内
		B 4.5				
		C 5.9				
4	坏 須恵器	A 13.5	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後, 一方向の手持ちヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	70% P381 二次焼成痕 竈内
		B 4.2				
		C 6.2				
5	甕 須恵器	A [20.8]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き, 下位ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	40% P383 覆土中～下層
		B (27.8)				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
6	刀子	(14.9)	(1.7)	(0.4)	(30)	覆土中	M16
7	刀子	(14.3)	(1.5)	(0.4)	(21)	覆土上層	M17

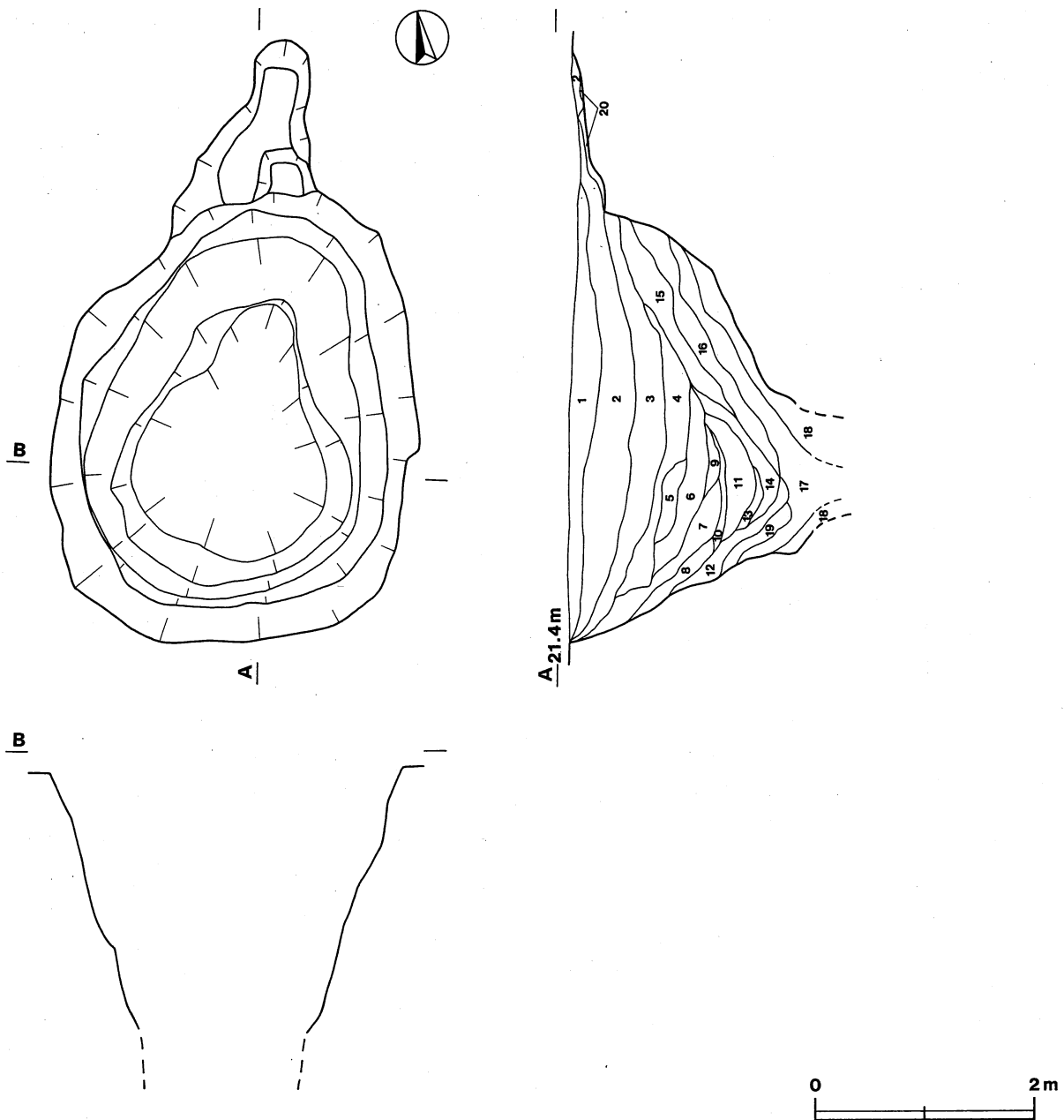
2 井戸

今回の調査で、井戸5基を検出した。調査区東部から1基、西部から3基、南部から1基である。以下、それぞれの井戸の特徴と出土遺物について記載する。

第8号井戸（第132図）

位置 調査区西部，C4e8区。

規模と形状 平面形は不整楕円形，断面形は確認面から2.35mの深さまで急傾斜を持った深めの楕鉢状をしており，そこから下は径1.20～1.56mの円筒形である。規模は上面径3.23～5.54mで，深さ2.60mまで掘り込んだところで，壁の崩落の危険があるために，それ以下の調査を打ち切った。また，北側の確認面に，不定形で深さ25cmほどの掘り込みがみられた。



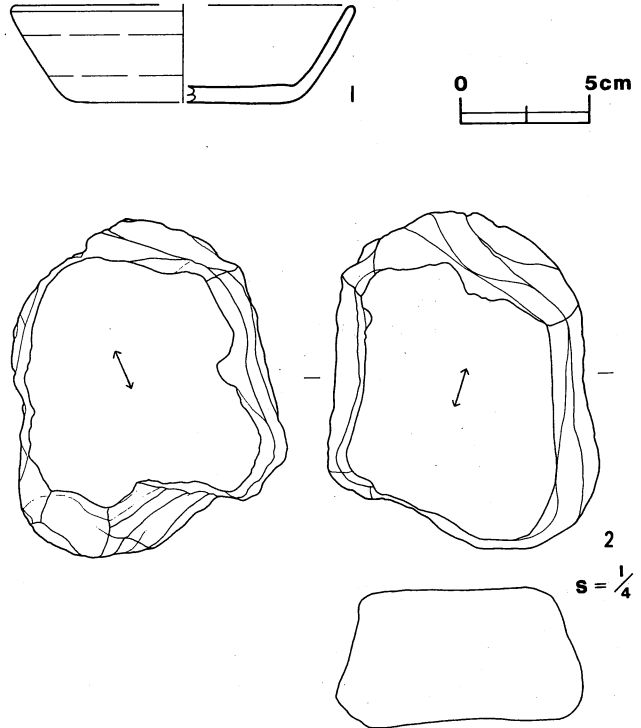
第132図 第8号井戸実測図

長径方向 N-18°-E

覆土 20層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 4 極暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・粘土大ブロック中量
- 6 暗褐色 ローム粒子・粘土中ブロック中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子・粘土中ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量
- 9 極暗褐色 粘土中ブロック・粘土粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 10 褐色 粘土粒子多量, 炭化粒子・ローム粒子微量
- 11 極暗褐色 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子微量
- 12 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 13 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 14 黒褐色 粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量
- 15 暗褐色 粘土小ブロック中量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 16 黒褐色 粘土小ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 17 黒褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・粘土小ブロック少量, ローム粒子微量
- 18 黒褐色 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック少量, 焼土粒子・ローム粒子微量
- 19 におい黄褐色 粘土粒子多量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 20 暗褐色 ローム粒子少量



第133図 第8号井戸出土遺物実測図

遺物 覆土中から、土師器片 137 点、須恵器片 37 点、灰釉陶器片 3 点、陶器片 5 点、古銭 1 点、鉄滓 1 点、雲母片岩を中心に礫 26 点、凹石 1 点、石鏃 1 点、1 の須恵器坏、2 の砥石が出土している。

所見 本井戸は、調査区西部の中・近世の墓域の南側に構築されている。北側の不定形の掘り込みは、不明である。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代以降と考えられる。

第8号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第133図 1	坏 須恵器	A [13.6] B 3.9 C [8.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	25% P390 覆土中

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
2	砥石	(18.2)	(14.3)	(7.6)	(2910)	砂岩	覆土中	Q13

第9号井戸 (第134図)

位置 調査区西部, D4a8区。

規模と形状 平面形は楕円形, 断面形は確認面から 0.82~1.25m の深さまで急傾斜を持った深めの掘鉢状をし

ており、そこから下は径1.30~1.95mの円筒形である。規模は上面径2.80~3.30mで、深さ2.40mまで掘り込んだところで、壁の崩落の危険があるために、それ以下の調査を打ち切った。

長径方向 N-90°-E

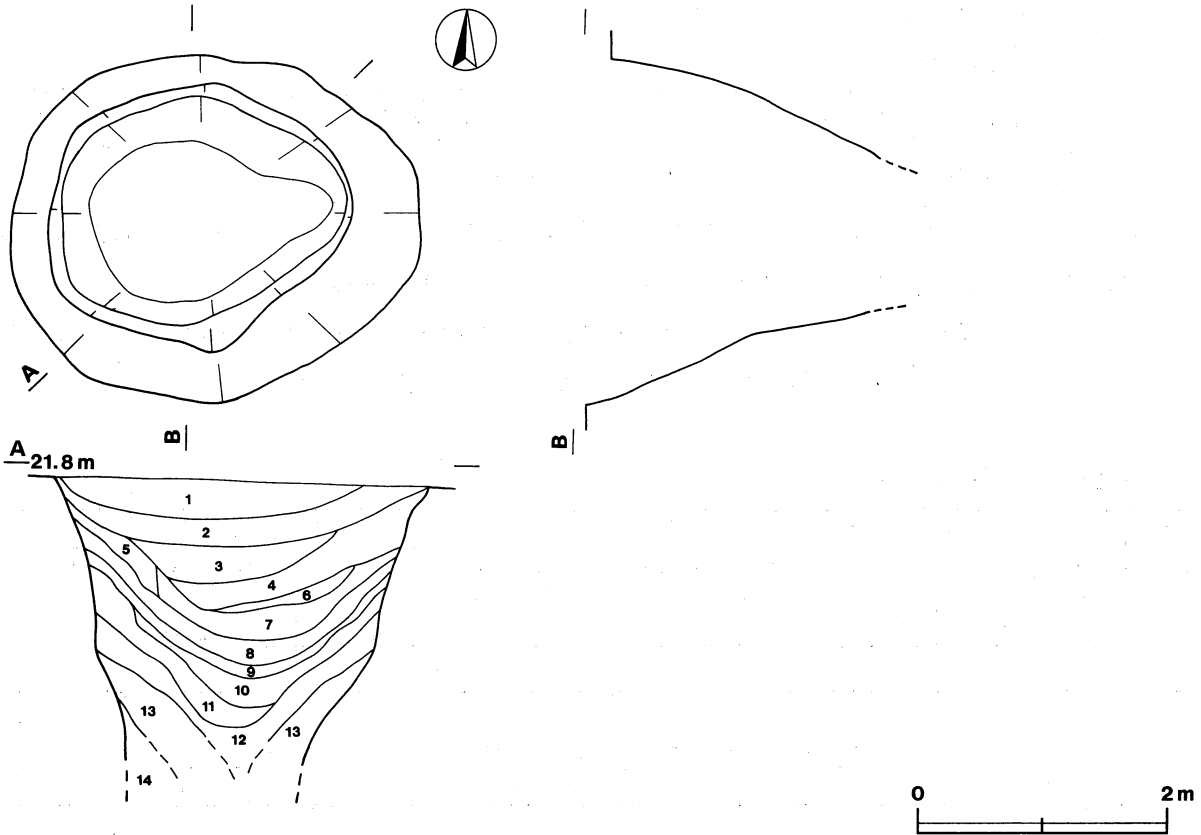
覆土 14層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|--|--------|--|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・砂・粘土粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子・ローム中ブロック・粘土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量 | 9 褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子中量 |
| 4 極暗褐色 | 粘土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム大ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック微量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム大・中ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化物微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 6 黒褐色 | 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量 | 12 褐色 | ローム粒子中量 |
| | | 13 黒褐色 | 粘土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| | | 14 暗褐色 | 粘土粒子多量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |

遺物 覆土中から、土師器片19点、須恵器片12点、灰釉陶器片1点、陶器片5点、雲母片岩を中心に礫7点が出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代以降と考えられる。



第134図 第9号井戸実測図

第10号井戸 (第135図)

位置 調査区東部, C7j₂区。

重複関係 本跡は第4号竪穴状遺構と重複している。本跡が、第4号竪穴状遺構を掘り込んでいることから、本跡が新しい。

規模と形状 平面形は不整楕円形、断面形は確認面から1.62mの深さまで急傾斜を持った深めの掘鉢状をしており、そこから下は径0.69~0.76mの円筒形である。規模は上面径5.00~(5.52)mで、深さ2.66mまで掘り込んだところで、壁の崩落の危険があるために、それ以下の調査を打ち切った。

長径方向 N-0°

覆土 8層からなり、人為堆積と考えられる。埋没していく過程で、焼土塊や炭化物を含む層が、数層に分かれて確認されている。

土層解説

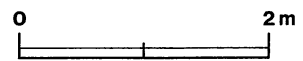
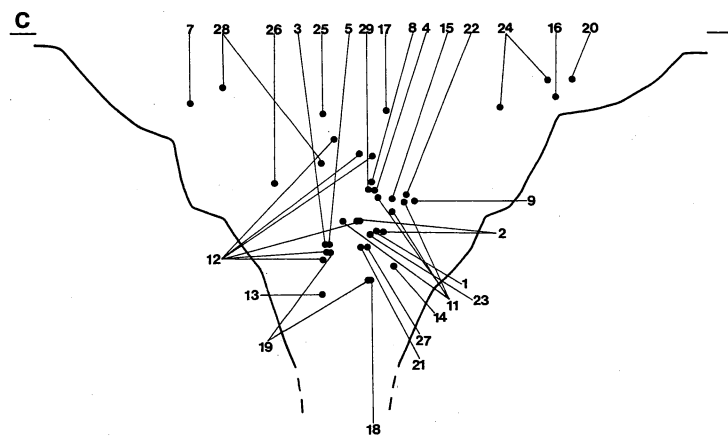
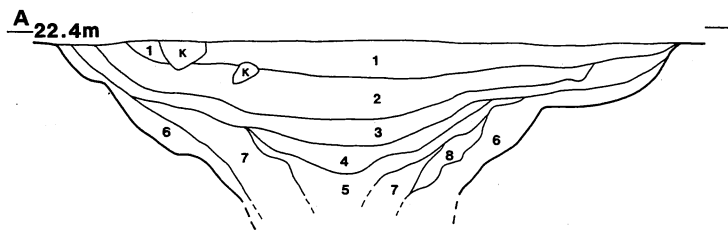
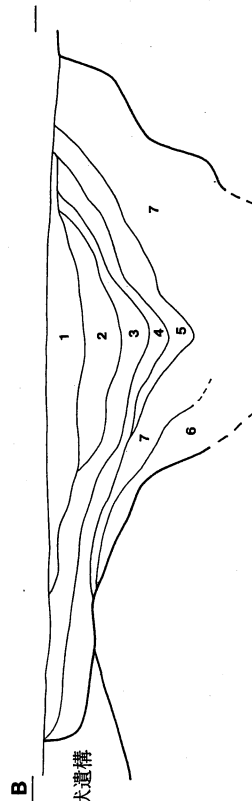
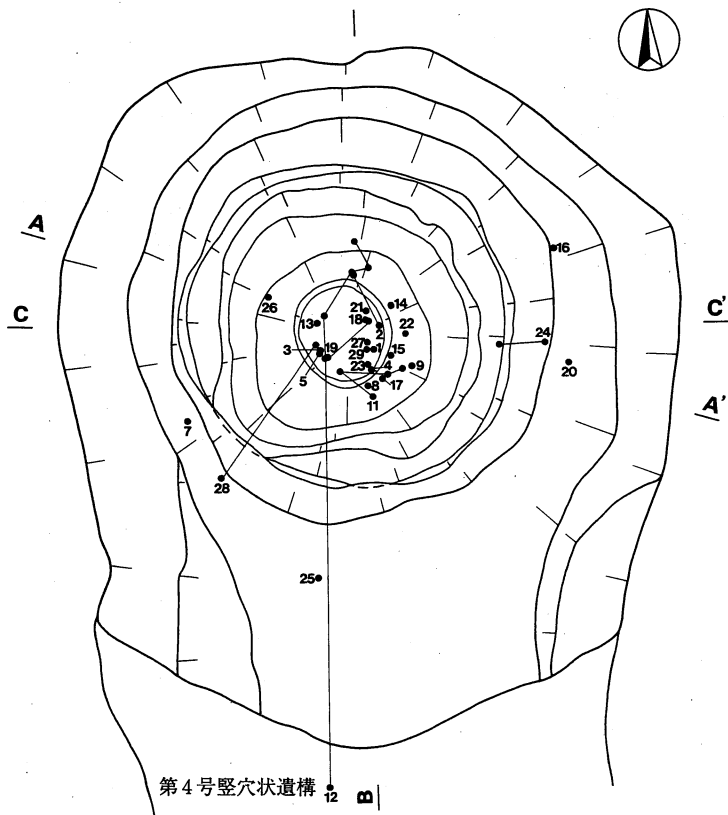
- | | |
|---|---|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 | 5 黒色 炭化粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量 |
| 2 極暗褐色 焼土粒子・炭化物中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 6 暗褐色 粘土小ブロック少量, 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 炭化物・炭化粒子中量, ローム粒子微量 | 7 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 4 極暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 8 にみ赤褐色 粘土粒子多量, 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量 |

遺物 覆土中から、土師器片1772点、須恵器片855点、灰釉陶器片1点、陶器片43点、鉄滓2点が出土している。3, 5の土師器坏, 13, 14の土師器小形甕, 18, 19, 21の須恵器坏, 27の須恵器甕が覆土下層からそれぞれ出土している。

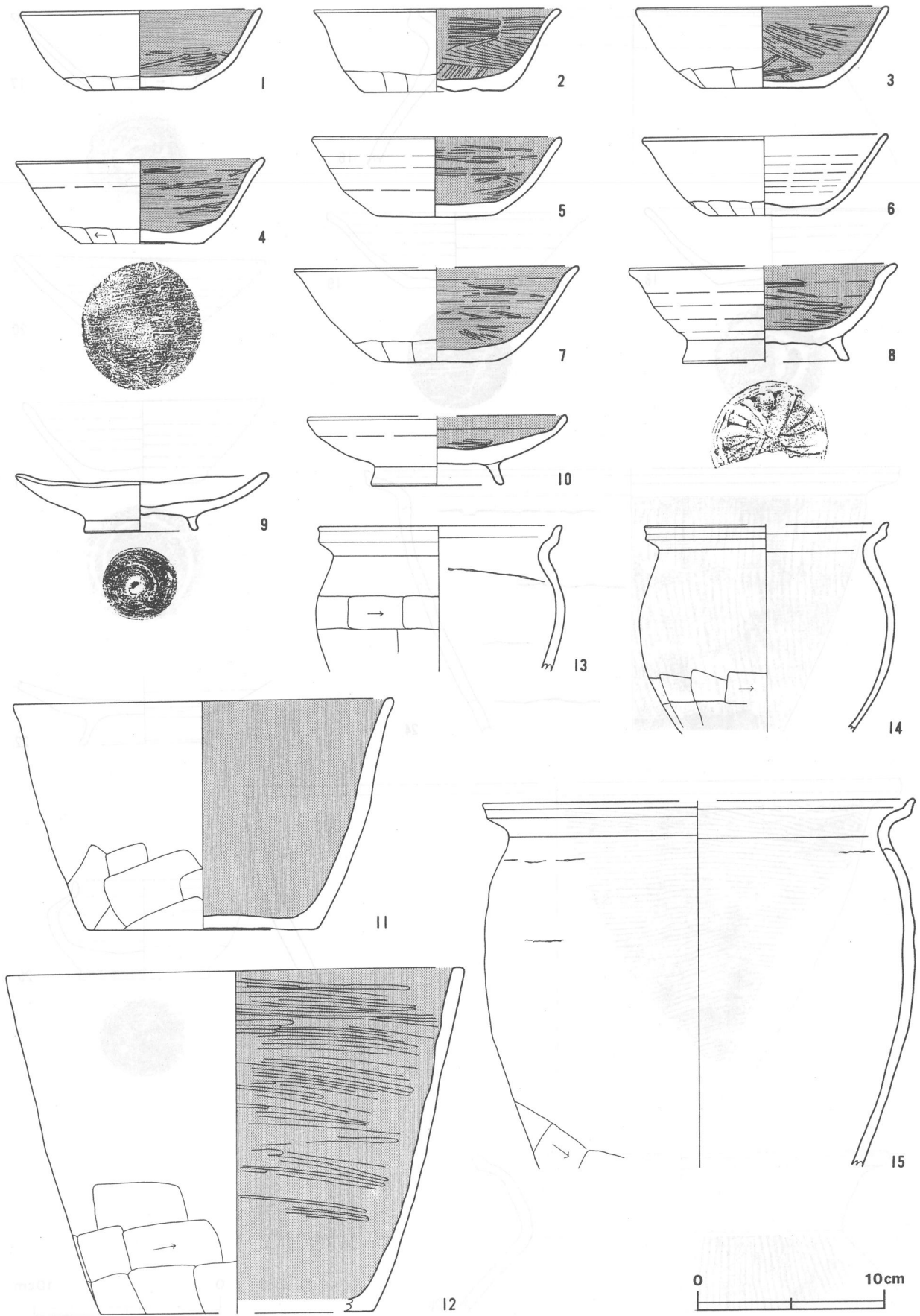
所見 出土遺物には、8世紀中葉から9世紀後葉と時期差があり、埋没していく過程で廃棄されていったものと思われる。本跡は重複する第4号竪穴状遺構の出土遺物とほとんど時期差がなく、同時期に存在した可能性が高いと思われる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の前期と考えられる。

第10号井戸出土遺物観察表

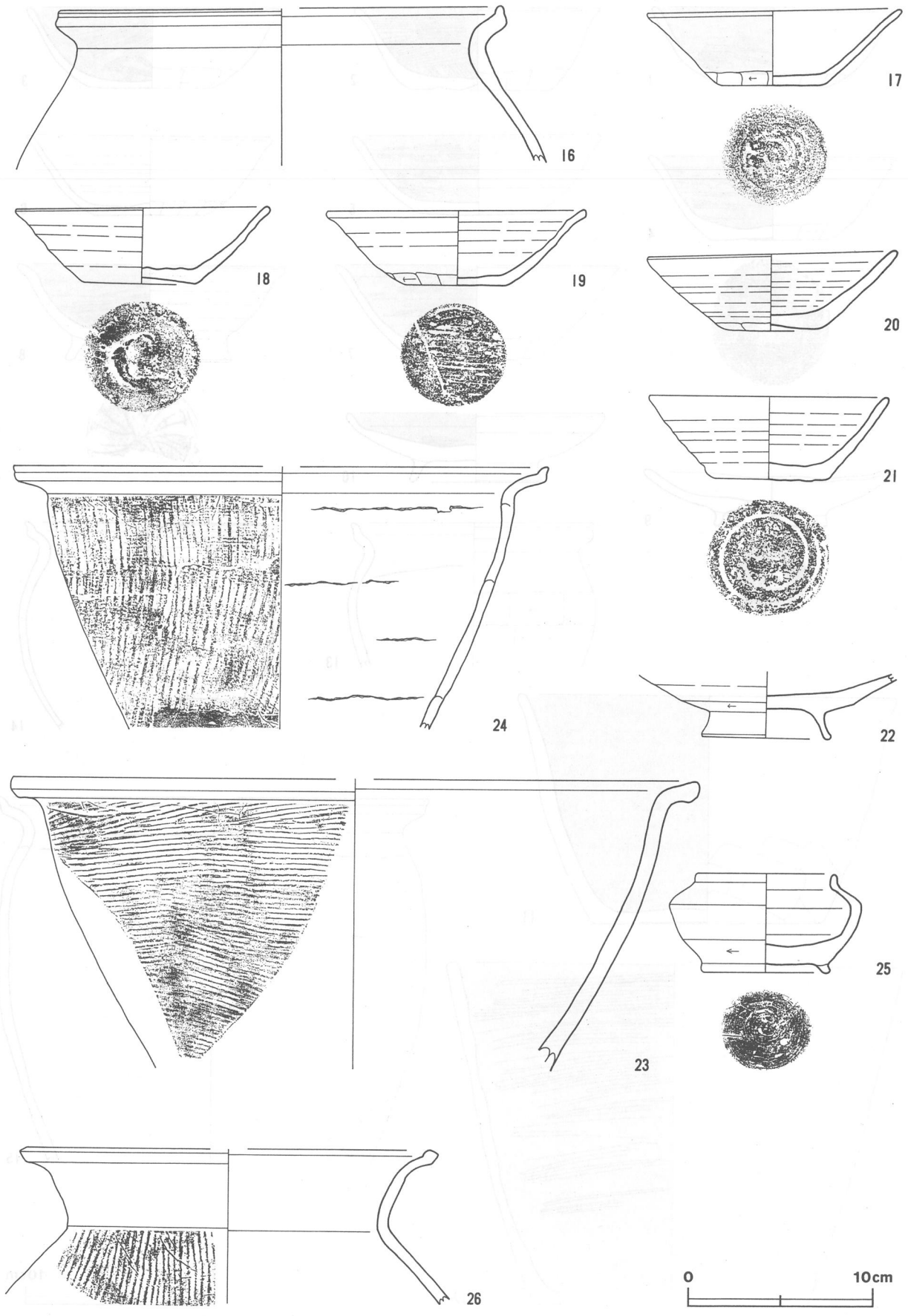
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 1	坏 土師器	A 12.9 B 4.3 C 5.7	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部一方向の手持ちヘラ削り。	雲母 砂粒 橙色 普通	95% P391 内面黒色処理 覆土中層
2	坏 土師器	A 13.3 B 4.5 C 7.5	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。	雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	85% P392 内面黒色処理 覆土中層
3	坏 土師器	A 13.3 B 4.4 C 6.5	底部, 体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	70% P393 内面黒色処理 覆土下層
4	坏 土師器	A 13.4 B 4.6 C 6.5	体部, 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部一方向の手持ちヘラ削り。	雲母 砂粒 スコ リア 黄褐色 普通	70% P394 内面黒色処理 覆土中層
5	坏 土師器	A 13.3 B 4.3 C 6.5	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部一方向の手持ちヘラ削り。	雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	65% P395 内面黒色処理 覆土下層
6	坏 土師器	A 13.1 B 4.3 C 6.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石 石英 砂粒 橙色 普通	60% P397 覆土中



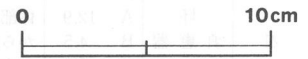
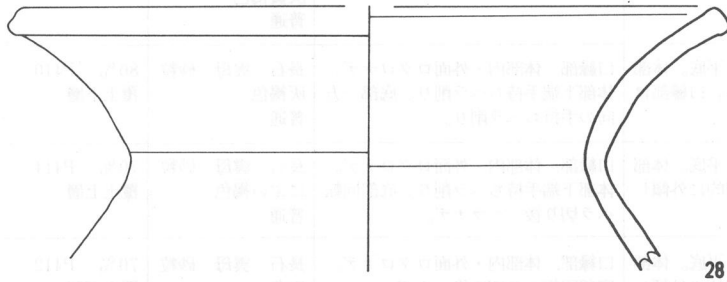
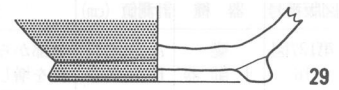
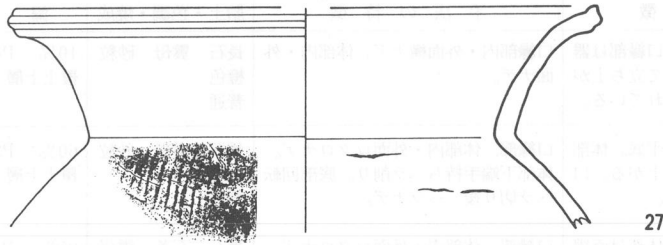
第135図 第10号井戸実測図



第136图 第10号井戸出土遺物実測図(1)



第137图 第10号井戸出土遺物実測図(2)



第138図 第10号井戸出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 7	坏 土師器	A [15.3] B 5.2 C 6.5	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石 砂粒 にぶい橙色 普通	55% P398 内面黒色処理 覆土上層
8	高台付椀 土師器	A [14.2] B 5.3 D [8.8] E 1.3	高台部から口縁部の破片。高台部は長く、ハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部菊花状調整痕。高台部貼り付け、ロクロナデ。	雲母 砂粒 明赤褐色 普通	50% P399 内面黒色処理 覆土中層
9	高台付皿 土師器	A 13.7 B 3.2 D 6.1 E 1.0	体部、口縁部一部欠損。高台部は短く、直線的に開く。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 黒褐色 普通	85% P400 覆土中層
10	盤 土師器	A [13.8] B 3.8 D 7.0 E 1.3	体部、口縁部一部欠損。高台部はハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	雲母 砂粒 橙色 普通	75% P401 内面黒色処理 覆土中
11	鉢 土師器	A 20.5 B 12.5 C 12.4	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面横ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	80% P402 内面黒色処理 覆土中層
12	鉢 土師器	A 24.8 B 18.6 C [14.7]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面ヘラ磨き。	長石 雲母 砂粒 明褐色 普通	65% P403 内面黒色処理 覆土中～上層
13	小形甕 土師器	A 13.1 B (8.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面横ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	35% P404 覆土下層
14	小形甕 土師器	A [13.2] B (11.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 赤褐色 普通	30% P405 二次焼成痕 覆土下層
15	甕 土師器	A [23.2] B (19.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	15% P407 覆土中層

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第137図 16	甕 土師器	A [24.1] B (8.5)	体部から口縁部の破片。口縁部は器肉を増しながら、外反して立ち上がる。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	10% P408 覆土上層
17	坏 須恵器	A 13.8 B 4.1 C 5.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 暗灰黄色 普通	60% P396 覆土上層
18	坏 須恵器	A 13.8 B 4.3 C 6.2	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、外周ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	95% P409 覆土下層
19	坏 須恵器	A 14.0 B 4.1 C 5.5	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方の手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰褐色 普通	80% P410 覆土下層
20	坏 須恵器	A 13.6 B 4.4 C 5.0	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	70% P411 覆土上層
21	坏 須恵器	A 12.9 B 4.5 C 6.3	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	70% P412 覆土下層
22	高台付皿 須恵器	B (3.6) D 1.4 E 6.8	高台部、口縁部一部欠損。高台部は長く、ハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、下位に稜を持つ。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 灰白色 普通	90% P413 覆土中層
23	鉢 須恵器	A [37.0] B (15.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 黒褐色 普通	10% P414 覆土中層
24	鉢 須恵器	A [29.0] B (14.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面擬格子叩き。内面ナデ、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	15% P406 覆土上層
25	小形短頸 壺 須恵器	A 7.6 B 5.4 D 6.8	体部、口縁部一部欠損。高台部は短く、ハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、上位に最大径を有する。口縁部は直立する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 砂粒 緻密 灰色 良好	70% P416 覆土上層
26	甕 須恵器	A [21.7] B (8.4)	体部から口縁部の破片。頸部はくの字状に屈曲して立ち上がる。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 灰色 普通	10% P417 覆土中層
第138図 27	甕 須恵器	A [23.4] B (8.7)	体部から口縁部の破片。頸部はくの字状に屈曲して立ち上がる。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 褐灰色 普通	10% P418 覆土下層
28	甕 須恵器	A [27.9] B (10.6)	頸部から口縁部の破片。頸部はくの字状に屈曲して立ち上がる。	口縁部内・外面ロクロナデ。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	10% P419 覆土上層
29	長頸瓶 灰釉陶器	B (3.0) D 8.8 E 1.0	高台部から体部の破片。高台部は短く、ハの字状に開く。平底。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。体部・高台部外面灰釉施釉。	長石 砂粒 緻密 黒褐色 良好	10% P420 井ヶ谷78号窯式 覆土中層

第11号井戸 (第139図)

位置 調査区西部、C5i5区。

規模と形状 平面形は円形、断面形は確認面から1.25mの深さまで急傾斜を持った深めの挿鉢状をしており、そこから下は径0.54~0.75mの円筒形である。規模は上面径1.83mほどで、深さ2.38mまで掘り込んだところで、壁の崩落の危険があるために、それ以下の調査を打ち切った。

長径方向 N-25°-W

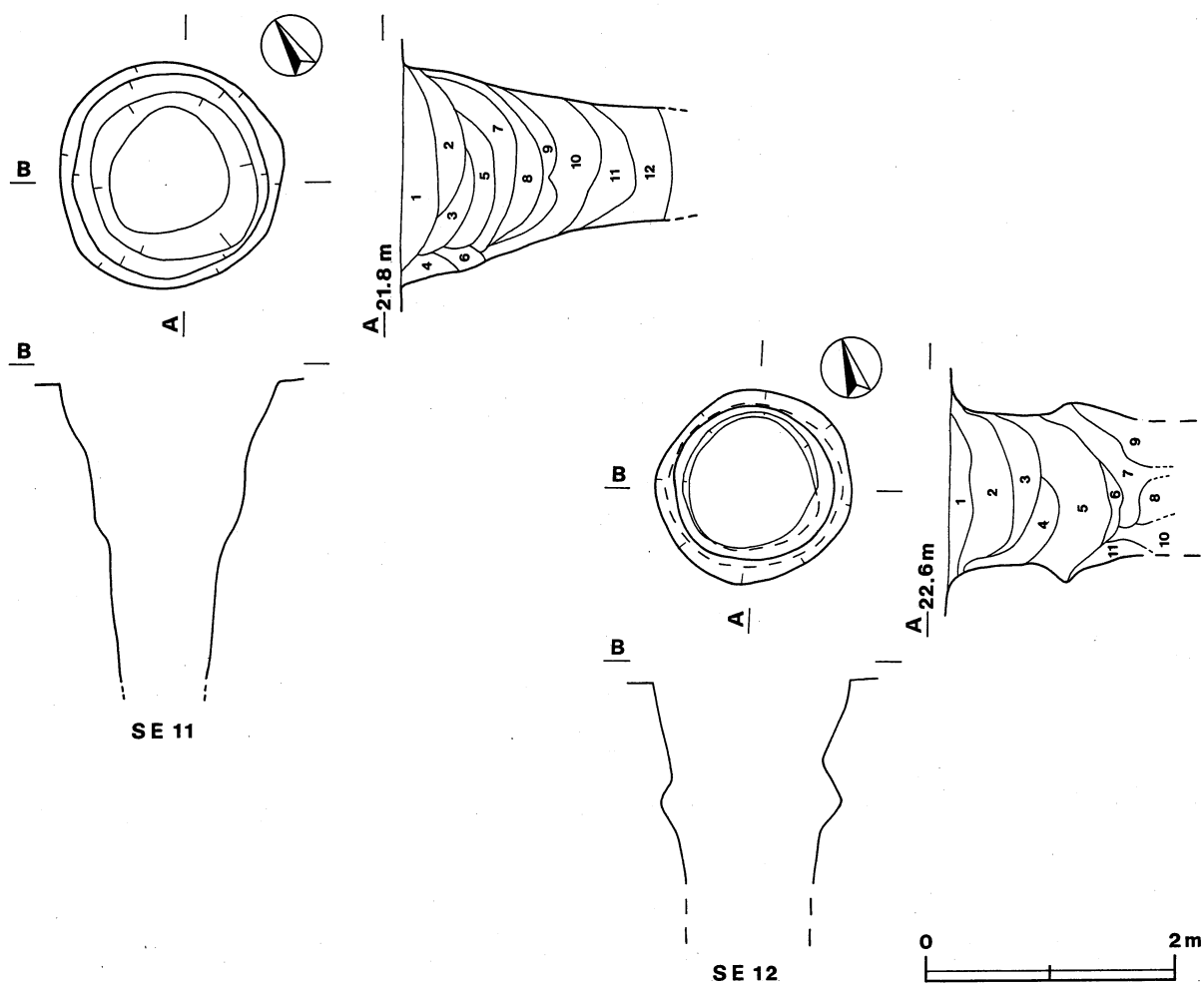
覆土 12層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|--|---------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 9 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量 | 10 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 炭化粒子・粘土大ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 11 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 12 にぶい黄褐色 粘土粒子多量, ローム粒子中量 |
| 5 暗褐色 粘土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | |
| 6 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | |
| 7 黒褐色 粘土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | |
| 8 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子微量 | |

遺物 覆土中から、土師器片 19点、須恵器片 14点、陶器片 1点、礫 2点が出土している。

所見 本跡は、調査区西部の中・近世の墓域の南側に構築されている。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代以降と考えられる。



第139図 第11・12号井戸実測図

第12号井戸 (第139図)

位置 調査区南部, D5j1区。

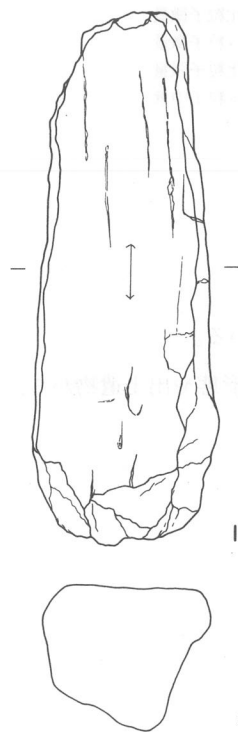
規模と形状 平面形は円形, 断面形は確認面から0.65~0.77mの深さまで急傾斜を持った深めの播鉢状をしており, そこからはオーバーハングしたあと, 径0.98~1.03mの円筒形である。規模は上面径1.48~1.60mで, 深さ2.70mまで掘り込んだところで, 壁の崩落の危険があるために, それ以下の調査を打ち切った。

長径方向 N-73°-E

覆土 11層からなり, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・粘土小ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・粘土中ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子中量, 粘土中ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 極暗褐色 炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 6 黒色 炭化粒子多量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 7 黒褐色 粘土粒子中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 黒褐色 粘土粒子多量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 炭化物微量
- 9 にぶい黄褐色 粘土粒子多量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 10 黒褐色 粘土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 11 黒褐色 粘土粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム粒子微量



第140図 第12号井戸
出土遺物実測図

遺物 覆土中から, 土師器片5点, 須恵器片7点, 鉄滓1点, 礫2点, 1の砥石が出土している。

所見 時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 平安時代と考えられる。

第12号井戸出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第140図1	砥石	14.2	5.1	3.9	(470)	緑泥片岩	覆土中	Q14

3 大形堅穴状遺構

今回の調査で, 調査区北部から大形堅穴状遺構1基を検出した。大形堅穴状遺構は, 茨城県南部から千葉県北部にかけて検出される例が多く, これまで「井戸または井戸状遺構」として報告されてきた。ここでは「大形堅穴状遺構」という名称で扱うことにする。以下, その特徴と出土遺物について記載する。

第3号大形堅穴状遺構 (第141図)

位置 調査区北部, A6h4区。

規模と形状 平面形は不整形円形, 断面形は深めの播鉢状で, 底面に一段の掘り込みをもつ。底面は平坦である。

規模は上面径 2.74~3.25m, 底面径 1.83~2.00m, 掘り込み面の径 0.62~0.70m で、深さ 1.45m である。

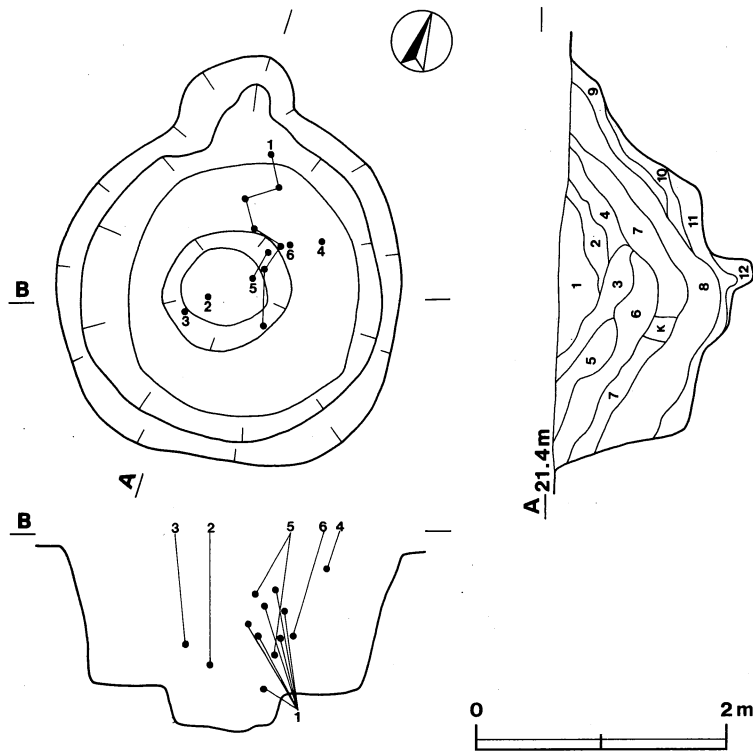
また、北西側の確認面に、深さ 25cm ほどの浅い掘り込みがみられる。

長径方向 N-17°-W

覆土 12層からなり、人為堆積と考えられる。全体的に、焼土粒子、炭化粒子、粘土ブロックを含んでおり、底面部から、多量の焼土塊が確認されている。下部の掘り込みは、白色粘土層まで掘り込んでいる。

土層解説

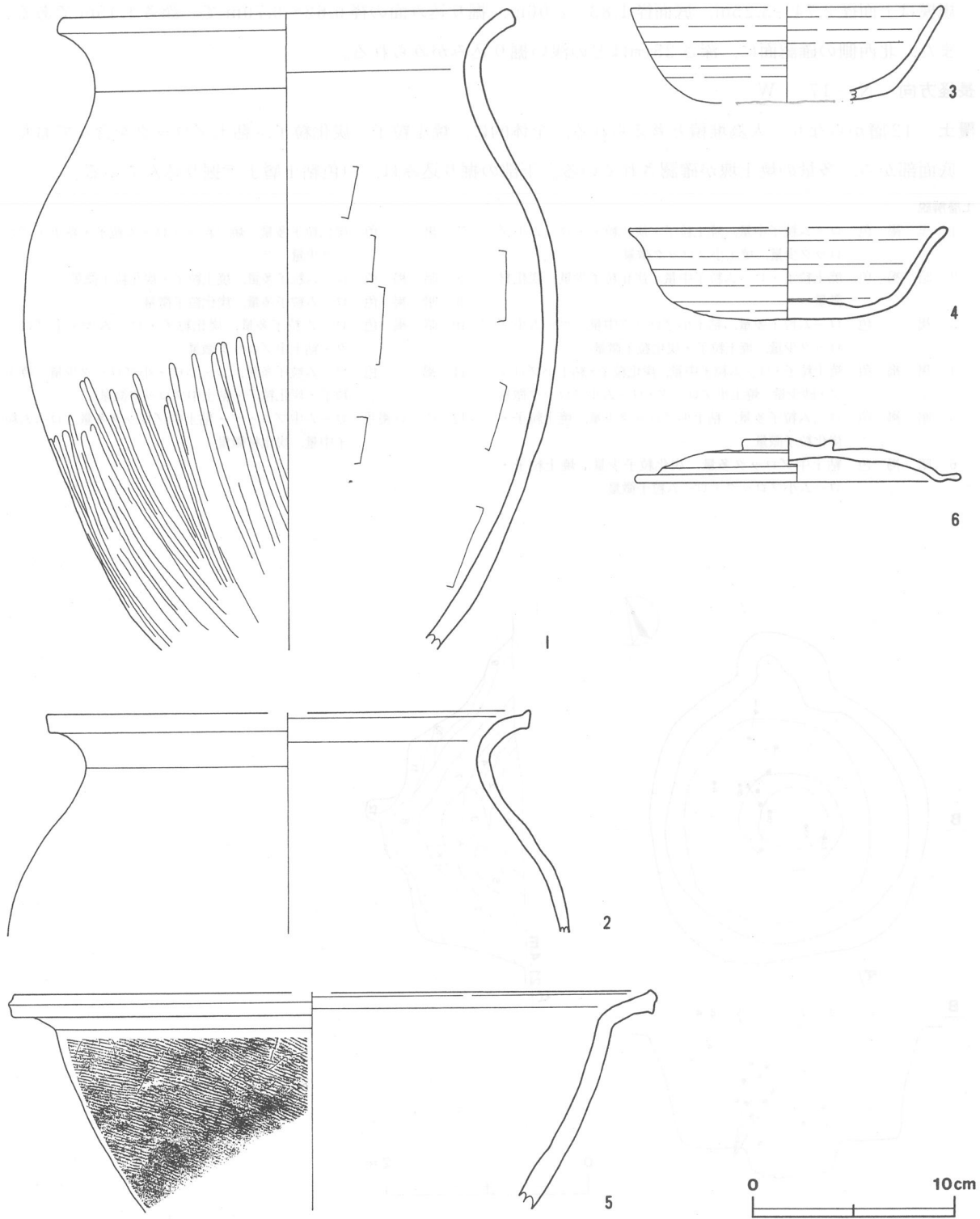
- | | | | |
|-------|--|----------|--|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量 | 7 黒色 | 炭化粒子多量, 焼土粒子・ローム粒子・粘土小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 炭化材微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量, 粘土小ブロック中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土小ブロック・砂少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム大・小ブロック・粘土中ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子多量, 粘土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子多量, ローム中・小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土中ブロック微量 |
| 6 暗褐色 | 粘土中ブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 12 にぶい褐色 | ローム中ブロック・粘土中ブロック多量, ローム粒子中量, 炭化材微量 |



第141図 第3号大形竪穴状遺構実測図

遺物 覆土中から、土師器片 109 点、須恵器片 21 点、鉄滓 3 点、礫 3 点が出土している。2 の土師器甕、3 の須恵器杯、6 の須恵器蓋が覆土下層から出土している。

所見 本跡の性格や北西側の浅い掘り込みについては不明である。時期は、遺構の形態や出土遺物から、奈良時代と考えられる。



第142図 第3号大形竖穴状遺構出土遺物実測図

第3号大形竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第142図 1	甕 土師器	A 22.3 B (31.8)	底部, 体部, 口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下半ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 明黄褐色 普通	70% P384 二次焼成痕 覆土中～上層
2	甕 土師器	A [24.0] B (11.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は器内を増しながら外反し, 端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	10% P385 二次焼成痕 覆土下層
3	坏 須恵器	A [15.5] B (4.2)	底部, 口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	85% P386 覆土下層
4	坏 須恵器	A [15.7] B 4.5 C 7.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後, 手持ちヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	50% P387 覆土上層
5	鉢 須恵器	A [31.6] B (10.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し, 端部は上下にわずかにつまみ出されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ。	長石 砂粒 灰色 普通	10% P388 覆土中～上層
6	蓋 須恵器	A 16.1 B 2.2	つまみから口縁部の破片。扁平なボタン状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で, 緩やかに開く。口縁部は外反し, 内側にかえりが付く。	つまみ, 天井部, 口縁部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	30% P389 覆土下層

4 竪穴状遺構

今回の調査で, 調査区東部から2基の竪穴状遺構が確認された。当初, 住居跡として調査したが, 床面に踏み締められた硬化面が見られないこと, 竈, 貯蔵穴及び柱穴等の内部施設がないこと等のことから, 竪穴住居跡と区別した。以下, それぞれの竪穴状遺構の特徴と出土遺物について記載する。

第3号竪穴状遺構 (第143図)

位置 調査区南東部, D6b4区。

重複関係 本跡は, 第128号住居跡と重複している。第128号住居跡が, 本跡を掘り込んでいることから, 本跡が古い。

規模と形状 平面形は, 長軸3.12m, 短軸2.64mの隅丸長方形で, 深さ37cmと推定される。底面は平坦で, 長方形を呈している。壁面は外傾して, 立ち上がっている。

長軸方向 N-3°-E

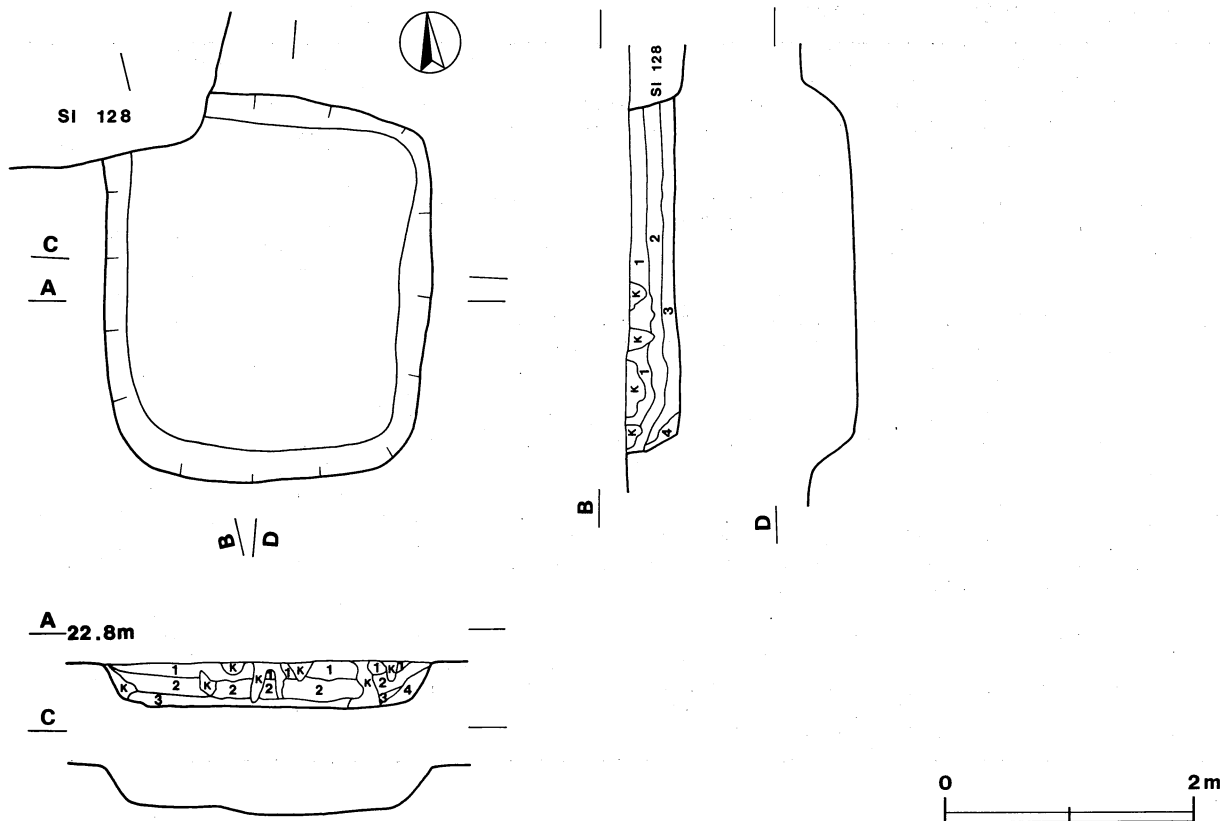
覆土 4層からなり, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|--|--|
| 1 極暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム中・小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |

遺物 覆土中から, 土師器片71点, 須恵器片34点が出土している。

所見 本跡の性格については不明であるが, 出土遺物と9世紀中葉の第128号住居跡との重複から, 時期は平安時代の9世紀中葉以前のもと考えられる。



第143図 第3号竪穴状遺構実測図

第4号竪穴状遺構 (第144図)

位置 調査区東部, D7b₂区。

重複関係 本跡は, 第10号井戸と重複している。第10号井戸が, 本跡を掘り込んでいることから, 本跡が古い。

規模と形状 平面形は, 長径 (5.40) m, 短径 5.04m の不整楕円形で, 深さ 100 cm と推定される。底面は平坦で, 不整楕円形を呈している。壁面は緩やかに外傾して, 立ち上がっている。

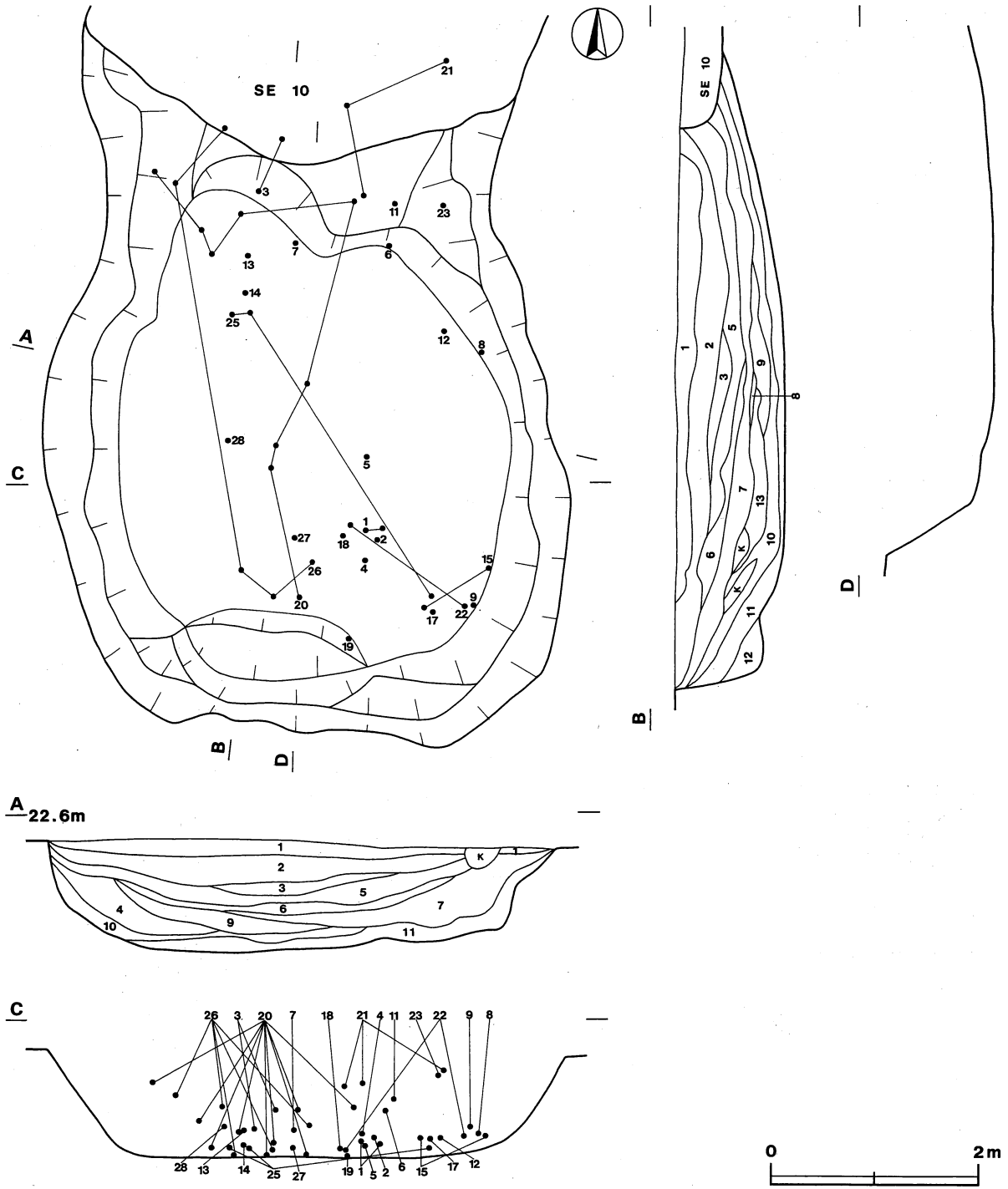
長径方向 N-0°

覆土 13層からなり, 人為堆積と考えられる。埋没していく過程で, 焼土塊や炭化物を含む層が, 数層に分かれて確認されている。

土層解説

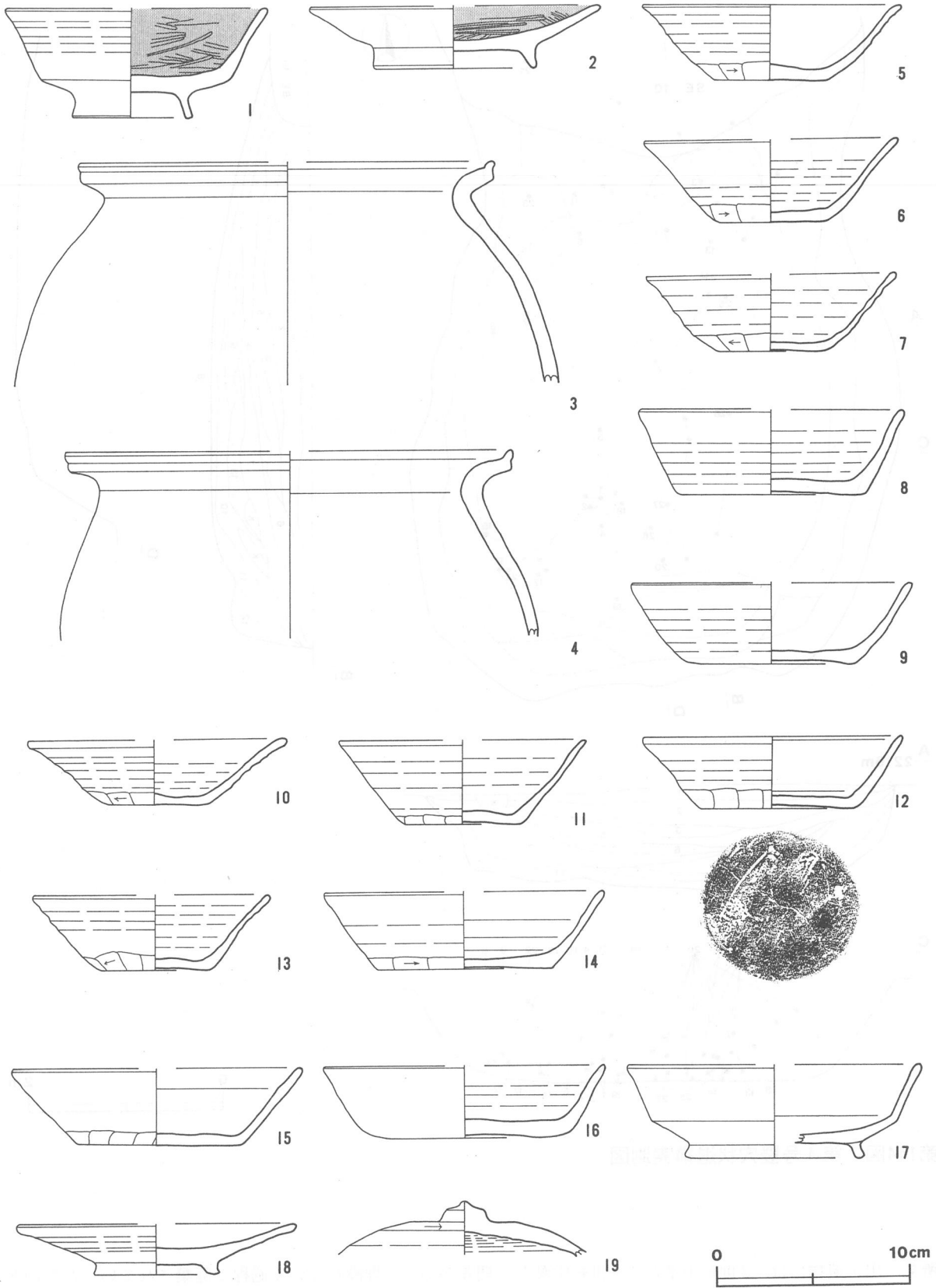
- | | | | |
|---------|---|---------|--|
| 1 黒褐色 | 焼土小ブロック中量, 焼土粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土粒子・炭化物中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 | 8 暗赤褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量 | 9 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子中量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | 粘土小ブロック少量, 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 5 黒色 | 炭化粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 | 12 暗褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子少量 |
| | | 13 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量, 焼土大・中ブロック・炭化物・ローム粒子中量 |

遺物 覆土中から, 土師器片 1438 点, 須恵器片 1409 点, 陶器片 28 点, 鉄滓 3 点, 雲母片岩を中心に礫 14 点が出土している。14 の須恵器坏, 19 の須恵器蓋, 20, 25 の須恵器鉢, 26 の須恵器甗が底面からそれぞれ出土している。

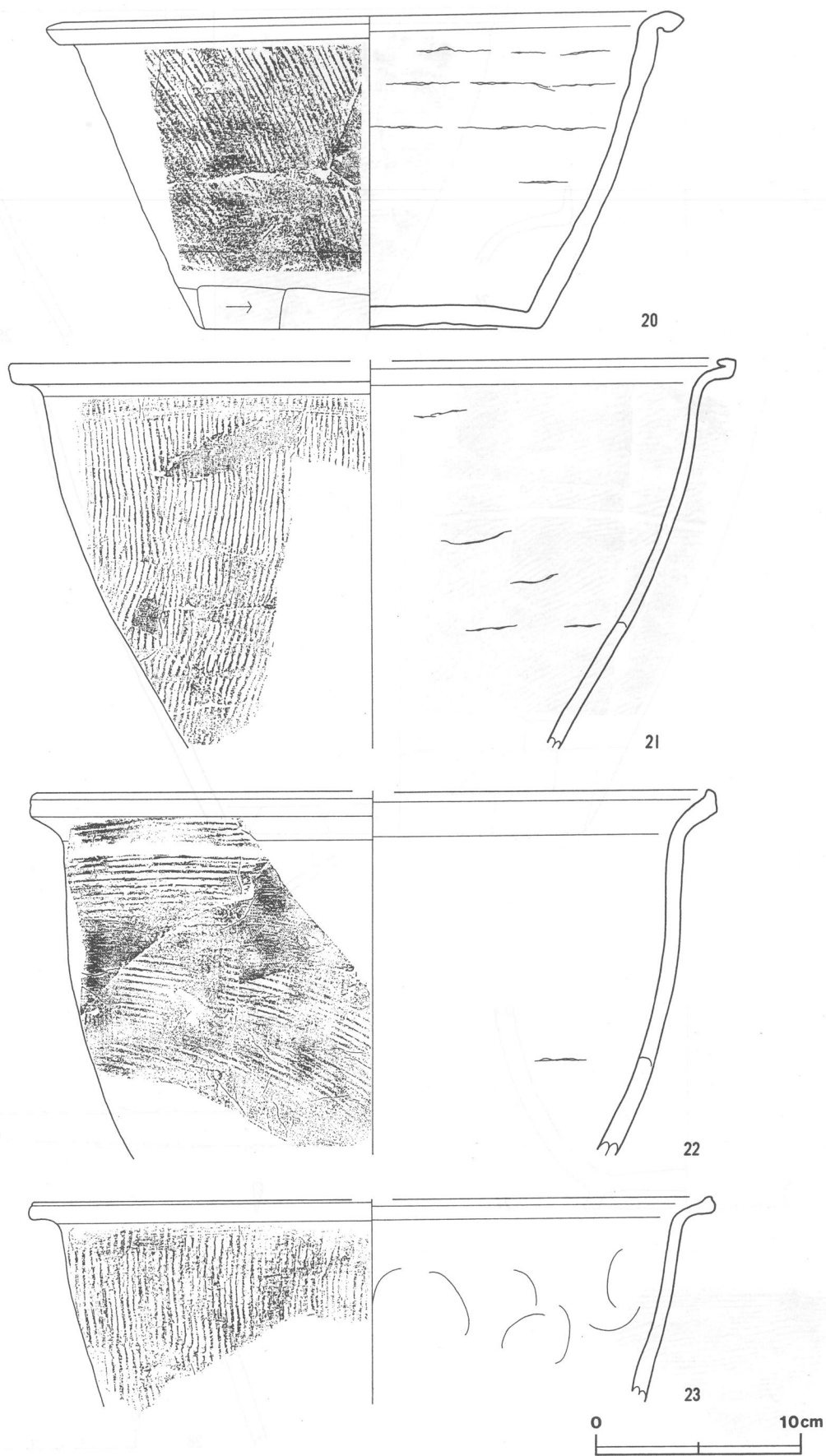


第144図 第4号竖穴状遺構実測図

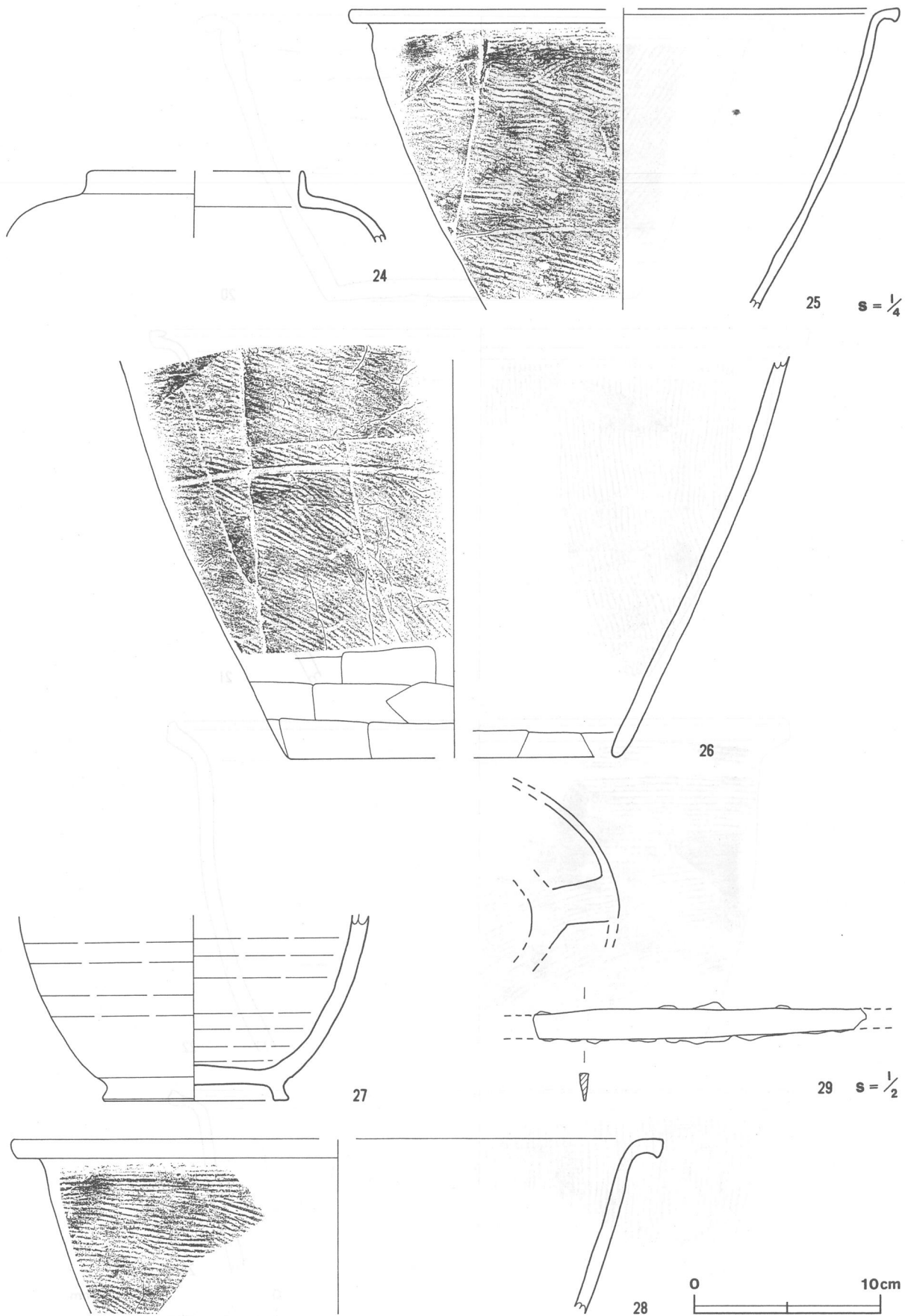
所見 出土遺物には、8世紀中葉から9世紀中葉と時期差があり、埋没していく過程で廃棄されていったものと思われる。本跡は重複する第10号井戸の出土遺物とほとんど時期差がなく、同時期に存在したことから、井戸に関連する施設の可能性があると思われる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、平安時代の前期と考えられる。



第145图 第4号竖穴状遺構出土遺物実測図(1)



第146図 第4号竖穴状遺構出土遺物実測図(2)



第147图 第4号竖穴状遺構出土遺物実測図(3)

第4号竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第145図 1	高台付坏 土師器	A [13.4] B 5.7 D 6.2 E 1.3	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、下位に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	60% P427 内面黒色処理 覆土下層
2	高台付皿 土師器	A [14.8] B 3.3 D 8.2 E 1.2	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	60% P428 内面黒色処理 覆土下層
3	甕 土師器	A [21.4] B (11.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	20% P429 覆土中層
4	甕 土師器	A [28.0] B (9.6)	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反して立ち上がる。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 スコリア にぶい褐色 普通	10% P430 覆土下層
5	坏 須恵器	A 13.3 B 3.9 C 5.9	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 赤褐色 普通	90% P424 覆土下層
6	坏 須恵器	A [13.1] B 4.3 C 5.6	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、ナデ。	長石 砂粒 灰褐色 普通	70% P425 覆土中層
7	坏 須恵器	A [12.8] B 4.1 C 5.5	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 スコリア 明褐色 普通	40% P426 覆土中層
8	坏 須恵器	A [13.6] B 4.4 C 9.7	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石 砂粒 灰色 普通	50% P431 覆土下層
9	坏 須恵器	A [14.6] B 4.3 C 8.9	体部、口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	70% P432 覆土中層
10	坏 須恵器	A [13.2] B 3.4 C 5.4	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	50% P433 覆土中
11	坏 須恵器	A [12.8] B 4.4 C 6.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、ヘラナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	50% P434 覆土中層
12	坏 須恵器	A 13.4 B 3.8 C 8.1	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	60% P435 覆土下層
13	坏 須恵器	A [12.0] B 3.9 C 5.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	60% P436 覆土中層
14	坏 須恵器	A [14.6] B 4.5 C 9.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石 砂粒 褐色 普通	45% P437 底面
15	坏 須恵器	A [15.0] B 4.0 C 8.4	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石 砂粒 灰黄色 普通	40% P438 覆土下層
16	坏 須恵器	A [14.7] B 3.8 C 10.4	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	40% P439 覆土中
17	高台付坏 須恵器	A [15.0] B 4.8 D [8.8] E 0.8	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、下位に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	30% P440 覆土下層

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第145図 18	高台付皿 須恵器	A [14.4] B 2.6 D 6.5 E 0.6	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	30% P441 覆土下層
19	蓋 須恵器	B (2.9) F 2.6 G 1.2	天井部からつまみの破片。擬宝珠状のつまみが付く。天井部はほぼ平坦で、緩やかに開く。	つまみ、天井部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	長石 砂粒 灰色 良好	65% P442 底面
第146図 20	鉢 須恵器	A 30.1 B 15.5 C 16.5	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部直下は突出している。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き、下位ヘラ削り。内面ナデ、輪積み痕有り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰色 普通	70% P443 底面
21	鉢 須恵器	A [35.5] B (19.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部は内側に折り返されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 黄灰色 普通	15% P444 覆土上層
22	鉢 須恵器	A [32.8] B (17.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。頸部・体部外面平行叩き。内面ナデ、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	10% P445 覆土下層
23	鉢 須恵器	A [33.1] B (10.0)	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反して立ち上がる。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面部分的に擬格子叩き。内面ナデ、当て具痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	10% P446 覆土上層
第147図 24	短頸壺 須恵器	A [11.5] B (3.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は直立する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	10% P447 覆土中
25	鉢 須恵器	A [38.8] B (21.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部は上下にわずかにつまみ出されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 灰白色 普通	20% P448 底面
26	甌 須恵器	B (21.6) C [17.6]	底部から体部の破片。多孔式。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面平行叩き、下位ヘラ削り。内面ナデ、下端ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	20% P449 底面
27	長頸瓶 須恵器	B (10.0) D 9.8 E 0.9	高台部から体部の破片。高台部はハの字状に開く。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	長石 砂粒 灰色 普通	20% P450 外面自然釉 覆土下層
28	鉢 須恵器	A [35.1] B (9.4)	体部から口縁部の破片。口縁部は強く外反して立ち上がる。端部直下はつまみ出されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	5% P415 覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
29	刀子	(11.9)	(1.1)	(0.3)	(19)	覆土中	M20

5 土坑

今回の調査で、土坑260基を検出した。性格や時期の違いについて検討した結果、次のように分類した。

- (1) 陥し穴…1基
- (2) 墓墳と考えられる土坑…3基
- (3) 墓墳の可能性のある土坑…19基
- (4) その他の土坑…237基

墓墳と考えられる土坑の判断基準は、土坑の覆土中に骨片等が含まれていること、副葬品と考えられる遺物が出土することを前提とした。しかし、実際には、土坑の出土遺物は細片が多く、全体的に数が少なかったことから、上記の条件を満たした墓墳と形状や覆土の堆積状況が類似している土坑、周辺に副葬品と考えられる

遺物が出土した土坑についても、総じて土墳墓と考えることとし、墓墳の可能性のある土坑とした。

以下、(1)~(3)について、形状のしっかりしたものや特徴のあるもの、遺物が多いものについて文章で記載し、その他のものは一覧表に掲載した。また、(4)については第163~176図と一覧表に掲載した。

(1) 陥し穴

第1号陥し穴 (SK-609) (第148図)

位置 調査区北部, A6c8区。

規模と形状 平面形は、長径2.92m、短径1.14mの長楕円形で、深さ135cmである。底面はU字状で、壁面は東西壁がオーバーハングしたあと、外傾して立ち上がっている。

長径方向 N-85°-W

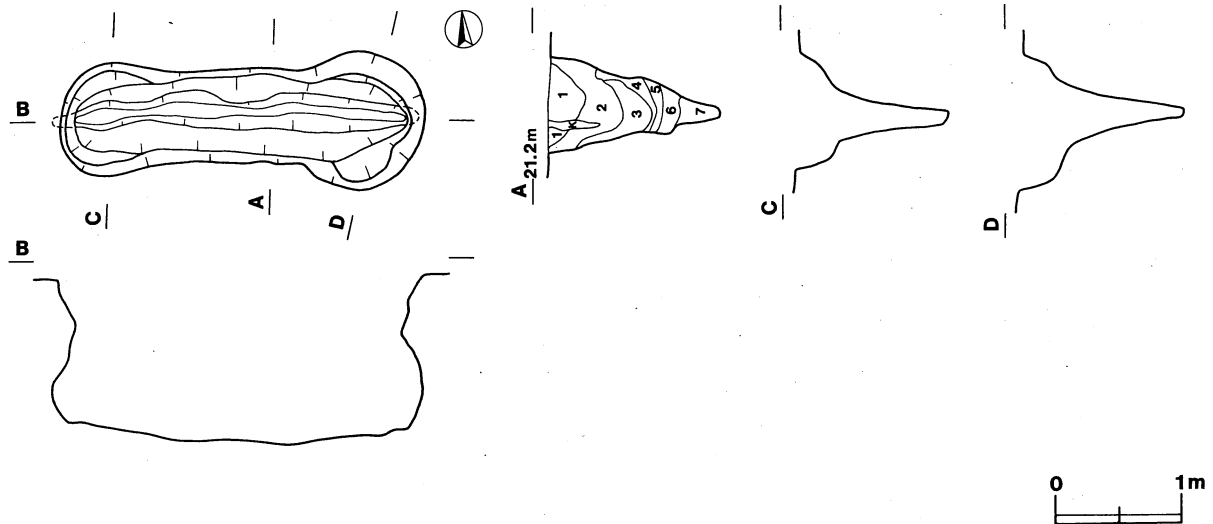
覆土 7層からなり、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量 | 6 灰褐色 粘土粒子・粘土小ブロック多量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 | |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 4 褐色 ローム粒子・粘土粒子・粘土小ブロック中量, 炭化粒子微量 | |
| 5 暗褐色 ローム粒子・砂・粘土粒子少量 | |

遺物 覆土中から、須恵器片2点が出土している。

所見 本跡の北側は傾斜面になっており、傾斜に対し直行するように構築されている。本跡は、遺構の形態等から縄文時代の陥し穴と考えられるが、詳しい時期については不明である。

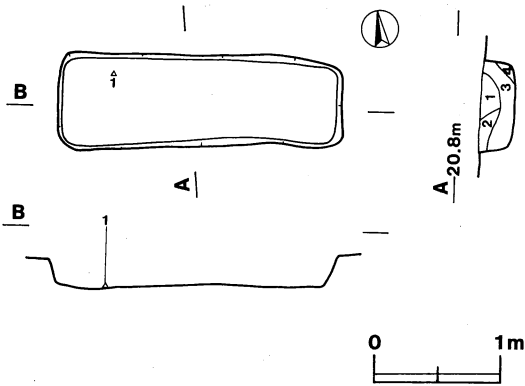


第148図 第1号陥し穴実測図

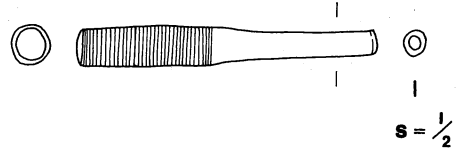
(2) 墓墳と考えられる土坑

第605号土坑 (第149図)

位置 調査区北部, A5g0区。



第149図 第605号土坑実測図



第150図 第605号土坑出土遺物
実測図

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

規模と形状 平面形は、長軸2.27m、短軸0.55mの長方形で、深さ25cmである。底面は平坦で、長方形を呈している。壁面は外傾して、立ち上がっている。

長軸方向 N-82°-W

覆土 4層からなり、人為堆積と考えられる。

遺物 覆土中から、土師器片19点、須恵器片5点、底面近くから1の煙管の吸い口が出土している。

所見 調査区北部の墓域内に構築されており、墓墳の可能性が高く、1の煙管の吸い口は副葬品と考えられる。

時期は、遺構の形態や出土遺物から、近世と考えられる。

第605号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考		
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)				
第150図1	煙管吸い口	8.0	1.1	12	底面	M19	銅製	100%

第453号土坑 (第151図)

位置 調査区東部, D6b₉区。

規模と形状 平面形は、長径1.48m、短径0.77mの楕円形で、深さ31cmである。底面は平坦で、楕円形を呈している。壁面は外傾して、立ち上がっている。

長径方向 N-20°-W

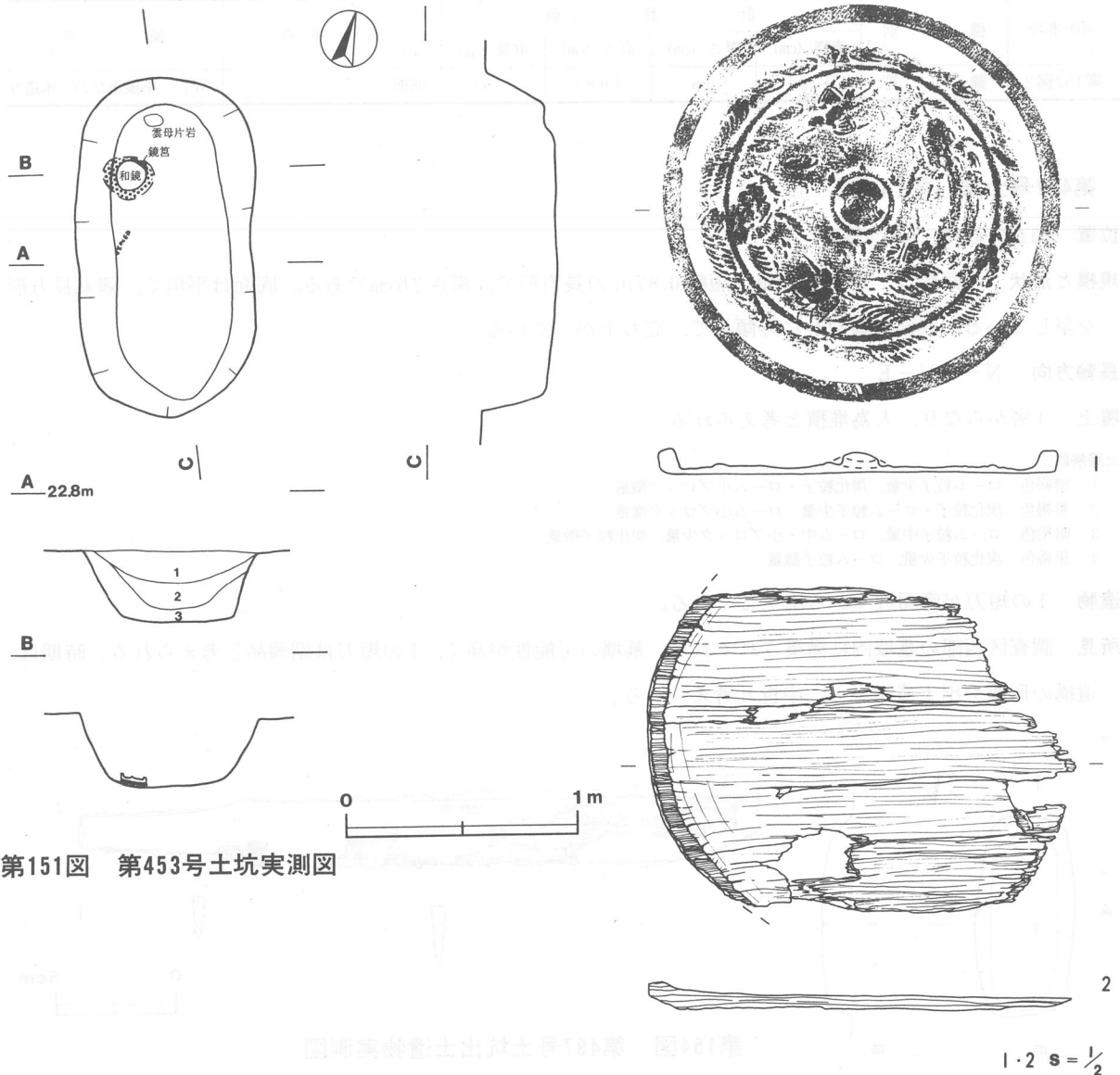
覆土 3層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・粘土大・小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片4点、須恵器片1点、和鏡1面、鏡筥1点、雲母片岩の礫1点が出土している。1の和鏡（松樹千鳥鏡）は北西部の底面近くから鏡面を下に向け、その下部から2の漆器鏡筥が張り付いて出土し、まわりには鏡筥が炭化した木片が確認されている。その北側の底面近くから、雲母片岩の礫が出土している。

所見 1の和鏡の鏡式については、縁は直角式中縁、圈は単線で中線、鈕は亀鈕で、鈕全体が亀の甲羅、頭、尾、足を象っている。図柄の特徴は、下辺に州浜を配し、圈に沿って松の生える岩山が描かれ、千鳥が1羽空を飛



第151図 第453号土坑実測図

第152図 第453号土坑出土遺物実測図

び、もう1羽は州浜のすぐ上を舞っている。精美でヘラ使いが入念であり、質の良い鏡である。材質は白銅製で、鏡名は「松樹千鳥鏡」である。鏡の年代は、13世紀前半（1200～1250年の間）の鎌倉時代始め頃と考えられる。2の鏡宮については、色調及び枠部の立ち上がりや鏡面に残っていたロクロ目からも、一木をくりぬいて作った黒漆塗りの一木造りと思われる。共に副葬品と考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、鎌倉時代初期の13世紀前半と考えられる。

第453号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値							備考
		面径 (cm)	縁高 (cm)	厚さ (cm)	鈕座径 (cm)	鈕径 (cm)	鈕高 (cm)	重量 (g)	
第152図 1	和鏡 松樹千鳥鏡	11.4	0.7	0.2	2.0	1.7	0.45	179	M48 白銅製 底面 100%

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		直径 (cm)	厚さ (cm)	高さ (cm)	重量 (g)		
第152図2	鏡 筒	[12]	0.5	(0.8)	(15)	底面	W1 黒漆塗りの一木造り

第497号土坑 (第153図)

位置 調査区西部, C4c0区。

規模と形状 平面形は, 長軸1.73m, 短軸0.87mの長方形で, 深さ26cmである。底面は平坦で, 隅丸長方形を呈している。壁面は緩やかに外傾して, 立ち上がっている。

長軸方向 N-18°-E

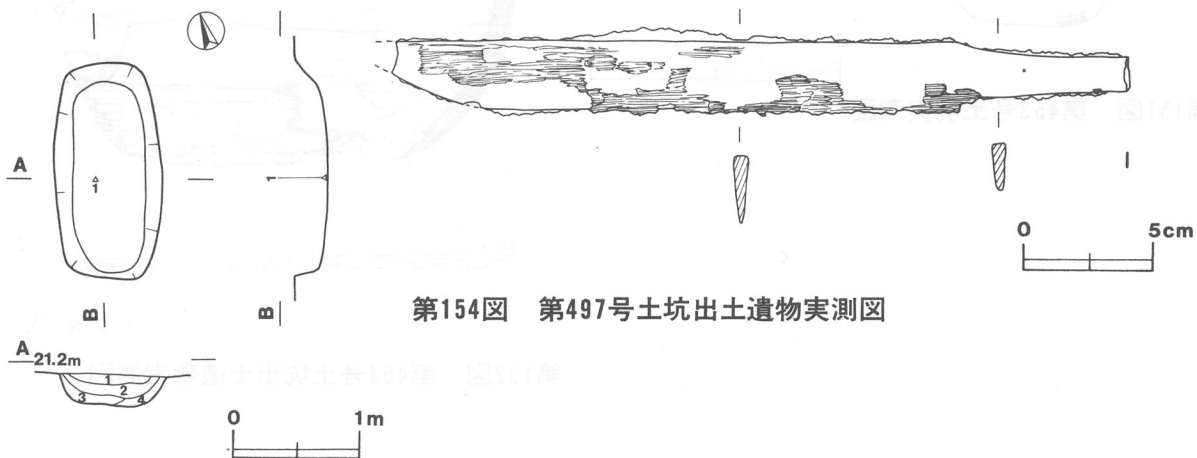
覆土 4層からなり, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量

遺物 1の短刀が底面近くから出土している。

所見 調査区西部の墓域内に構築されており, 墓墳の可能性が高く, 1の短刀は副葬品と考えられる。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 中世と考えられる。



第154図 第497号土坑出土遺物実測図

第153図 第497号土坑実測図

第497号土坑出土遺物観察表

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第154図1	短 刀	(29.5)	(2.7)	(0.7)	(168)	底面	M22 90%

(3) 墓墳の可能性のある土坑 (文章で記載以外は第162図)

第589号土坑 (第155図)

位置 調査区北部, A6e7区。

規模と形状 平面形は、長軸2.52m、短軸0.94mの長方形で、深さ67cmである。底面は平坦で、長方形を呈している。壁面は垂直に立ち上がっている。

長軸方向 N-16°-E

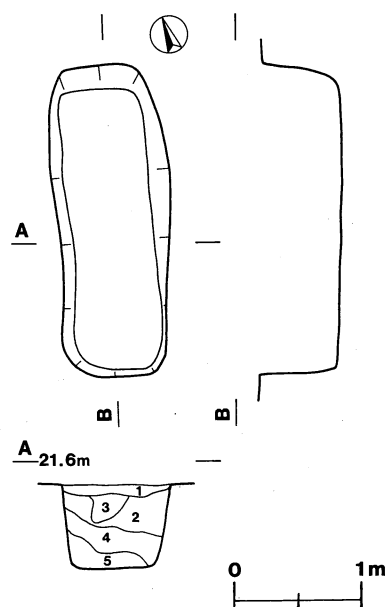
覆土 5層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 粘土小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 覆土中から、土師器片2点、須恵器片5点、陶器片3点が出土している。

所見 調査区北部の墓域内に構築されており、墓墳の可能性ある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、中・近世と考えられる。



第155図 第589号土坑実測図

第590号土坑 (第156図)

位置 調査区北部, A6f7区。

規模と形状 平面形は、長軸2.80m、短軸0.85mの長方形で、深さ53cmである。底面は平坦で、長方形を呈している。壁面は外傾して、立ち上がっている。

長軸方向 N-18°-E

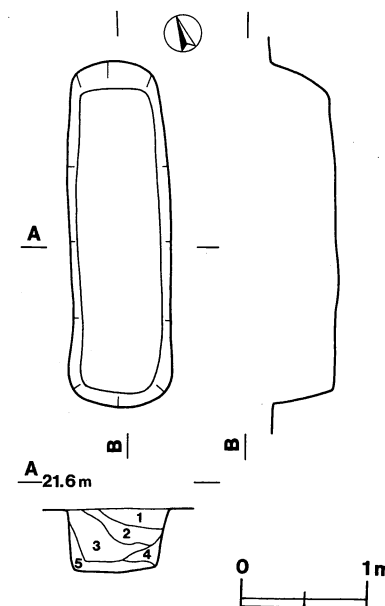
覆土 5層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子少量

遺物 覆土中から、土師器片2点、須恵器片4点、陶器片3点が出土している。

所見 調査区北部の墓域内に構築されており、墓墳の可能性ある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、中・近世と考えられる。



第156図 第590号土坑実測図

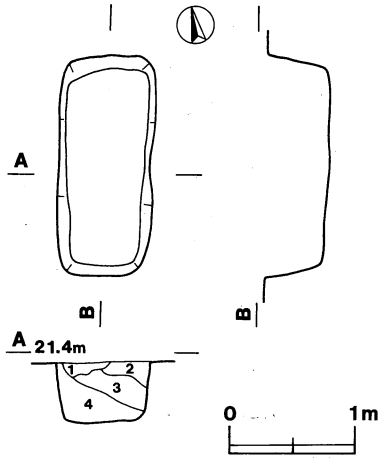
第591号土坑 (第157図)

位置 調査区北部, A6e6区。

規模と形状 平面形は、長軸1.77m、短軸0.77mの長方形で、深さ50cmである。底面は平坦で、長方形を呈している。壁面は外傾して、立ち上がっている。

長軸方向 N-13°-E

覆土 4層からなり、人為堆積と考えられる。



第157図 第591号土坑実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子中量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック中量, ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック多量, ローム粒子中量, 炭化物・ローム大ブロック少量

遺物 覆土中から, 土師器片4点, 須恵器片1点, 陶器片1点が出土している。

所見 調査区北部の墓域内に構築されており, 墓墳の可能性はある。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 中・近世と考えられる。

第597号土坑 (第158図)

位置 調査区北部, A6d₆区。

規模と形状 平面形は, 長軸2.45m, 短軸0.82mの長方形で, 深さ48cmである。底面は平坦で, 長方形を呈している。壁面は外傾して, 立ち上がっている。

長軸方向 N-17°-E

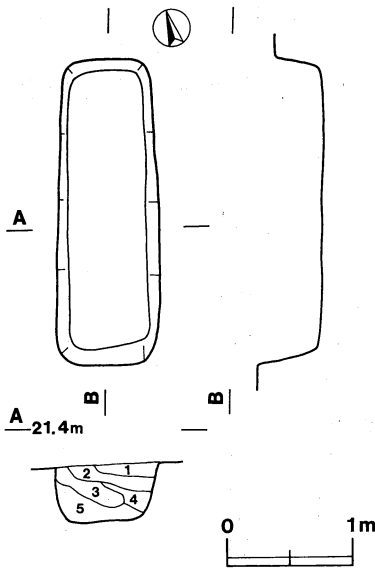
覆土 5層からなり, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 焼土粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック中量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物・ローム中ブロック・粘土小ブロック少量

遺物 覆土中から, 土師器片7点, 須恵器片2点, 陶器片1点が出土している。

所見 調査区北部の墓域内に構築されており, 墓墳の可能性はある。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 中・近世と考えられる。



第158図 第597号土坑実測図

第600号土坑 (第159図)

位置 調査区北部, A6g₁区。

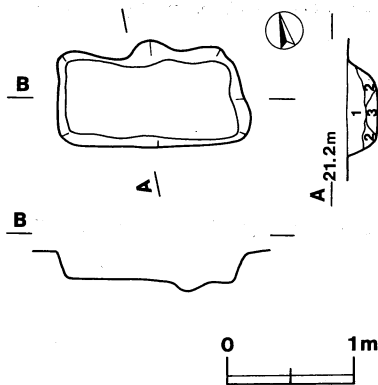
規模と形状 平面形は, 長軸1.55m, 短軸0.86mの不整長方形で, 深さ20cmである。底面はやや凹凸で, 長方形を呈している。壁面は外傾して, 立ち上がっている。

長軸方向 N-18°-W

覆土 3層からなり, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・粘土中ブロック少量, 炭化粒子・ローム中・小ブロック微量



第159図 第600号土坑実測図

遺物 覆土中から、土師器片3点、須恵器片1点が出土している。

所見 調査区北部の墓域内に構築されており、墓墳の可能性はある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、中・近世と考えられる。

第604号土坑 (第160図)

位置 調査区北部, A5g₉区。

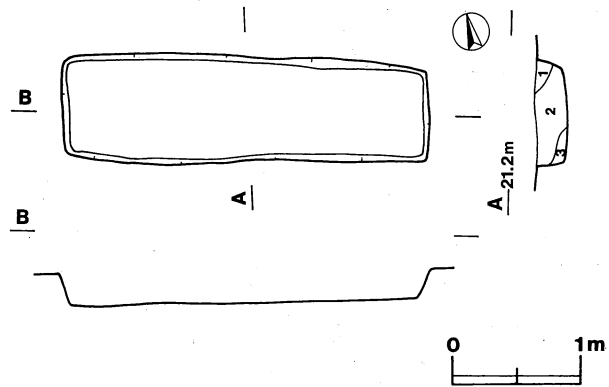
規模と形状 平面形は、長軸2.98m、短軸0.88mの長方形で、深さ26cmである。底面は平坦で、長方形を呈している。壁面は外傾して、立ち上がっている。

長軸方向 N-74°-W

覆土 3層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 極暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量



第160図 第604号土坑実測図

遺物 覆土中から、土師器片14点、須恵器片9点、陶器片1点、磁器片1点が出土している。

所見 調査区北部の墓域内に構築されており、墓墳の可能性はある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、中・近世と考えられる。

第492号土坑 (第161図)

位置 調査区西部, C5c₄区。

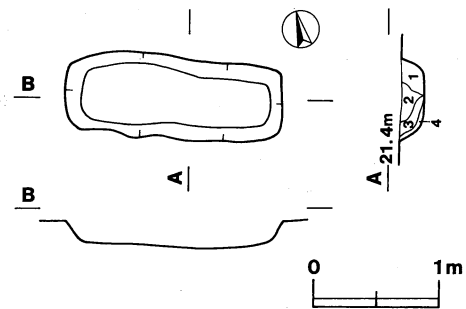
規模と形状 平面形は、長軸1.76m、短軸0.69mの長方形で、深さ22cmである。底面は平坦で、長方形を呈している。壁面は外傾して、立ち上がっている。

長軸方向 N-75°-W

覆土 4層からなり、人為堆積と考えられる。

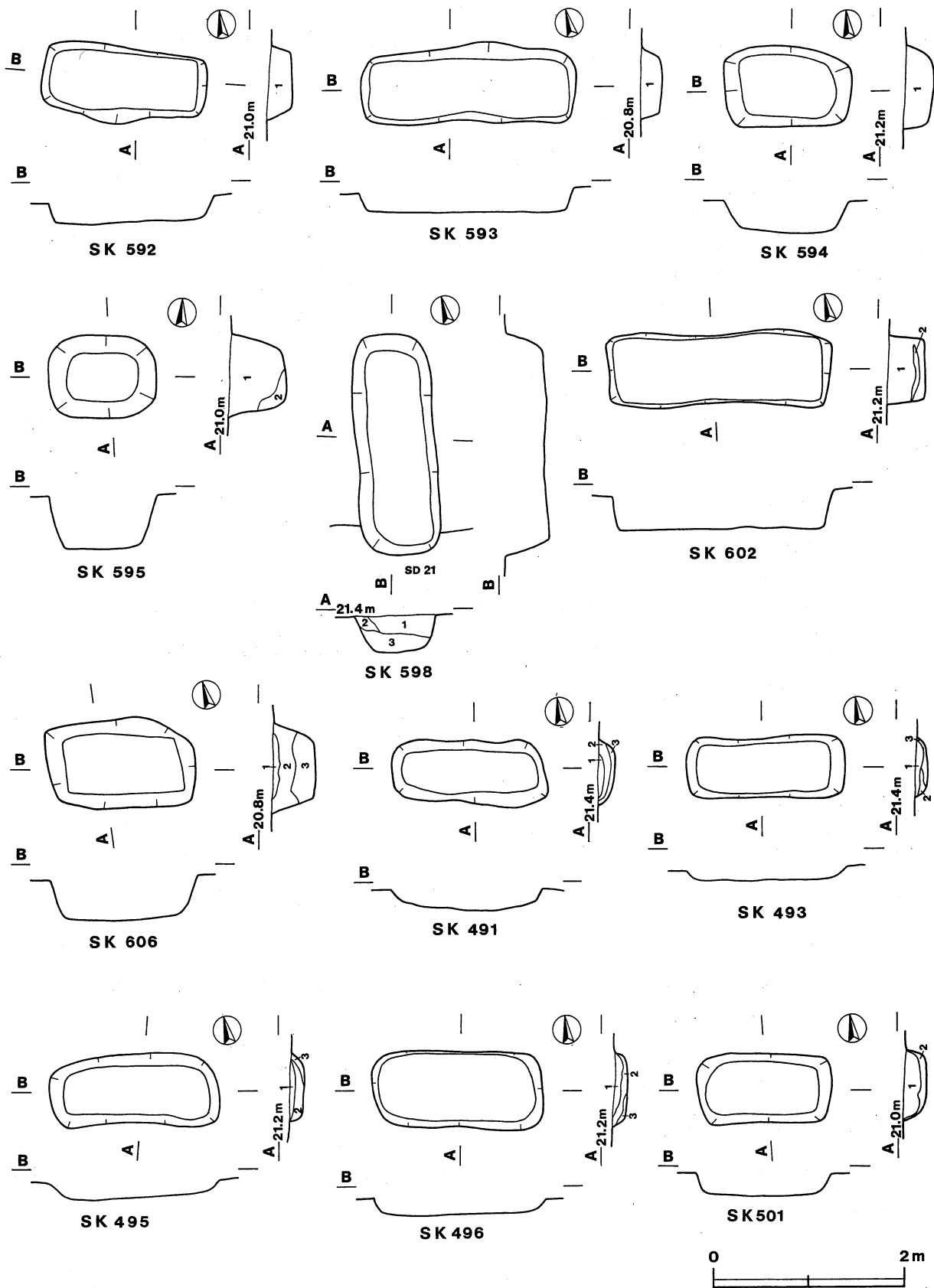
土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量



第161図 第492号土坑実測図

所見 調査区西部の墓域内に構築されており、墓墳の可能性はある。時期は、遺構の形態から、中・近世と考えられる。



第162図 墓墳の可能性のあるその他の土坑実測図

第592号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量

第593号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第594号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粘土小ブロック多量, ローム小ブロック中量

第595号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・ローム粒子微量
- 2 褐色 粘土小ブロック中量

第598号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 極暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

第602号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗赤灰色 焼土粒子中量, ローム中・小ブロック・ローム粒子微量

第606号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 3 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量

第491号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第493号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量

第495号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量

第496号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

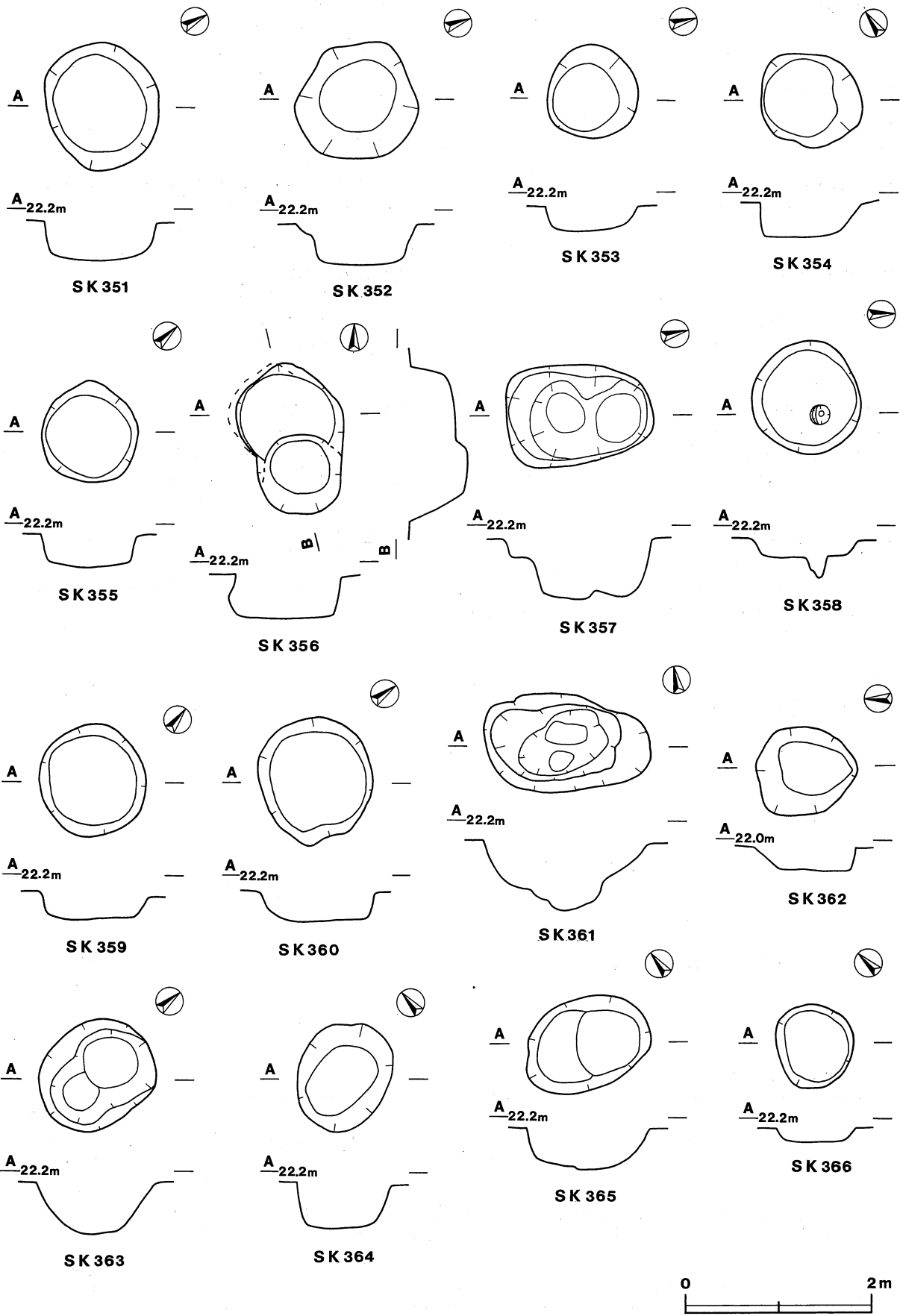
第501号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量

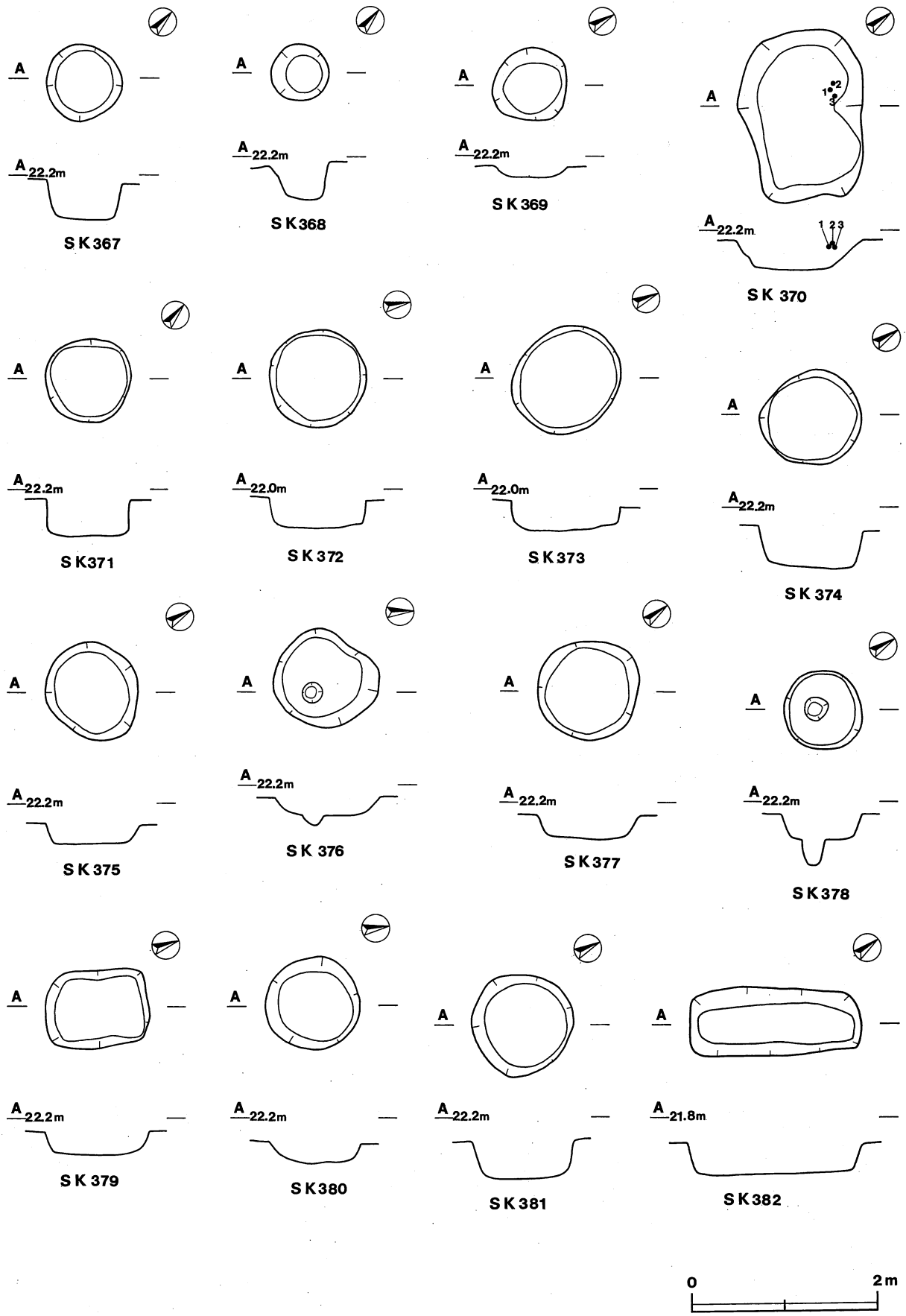
(4) その他の土坑 (第163~176図)

第370号土坑出土遺物観察表

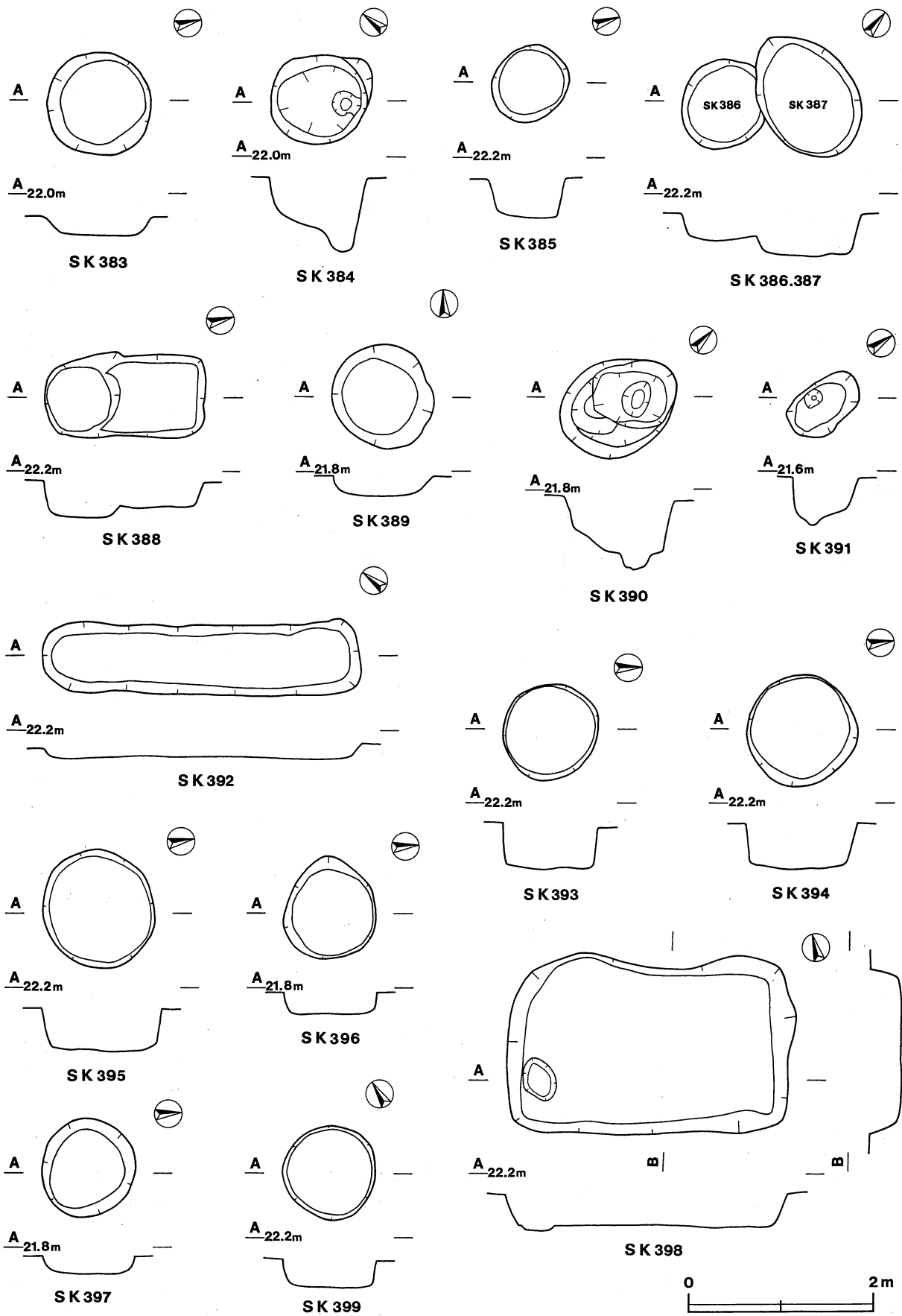
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第177図 1	甕 土師器	A [17.0] B (6.9)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がる。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい赤褐色 普通	5% P422 覆土上層
2	甕 土師器	A [18.2] B (9.5)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がる。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	5% P423 覆土上層
3	鉢 須恵器	A [30.7] B (17.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面クロナデ。体部外面格子叩き, 下位ヘラ削り。内面ナデ, 輪積み痕有り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰褐色 普通	15% P421 覆土上層



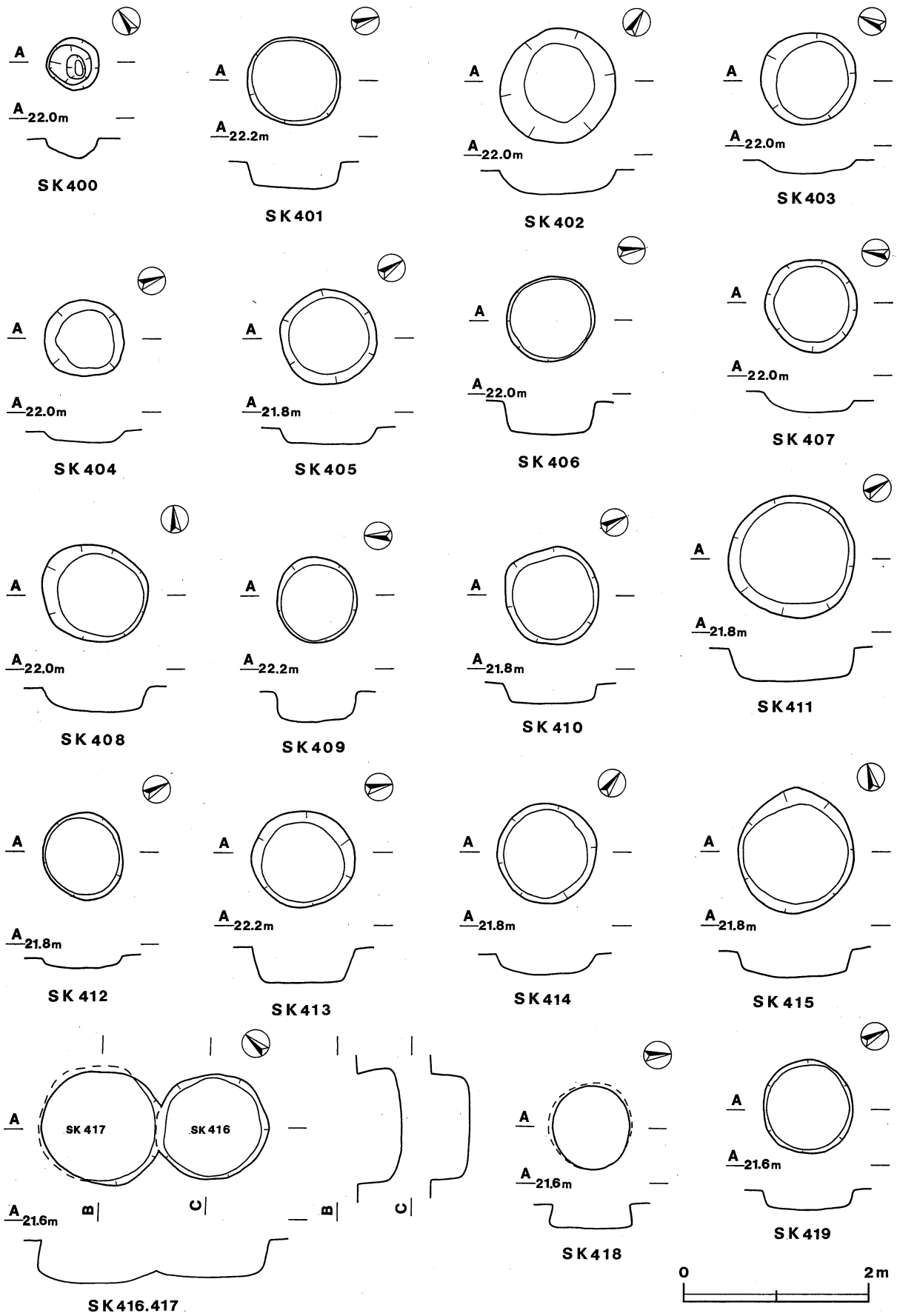
第163図 その他の土坑実測図(1)



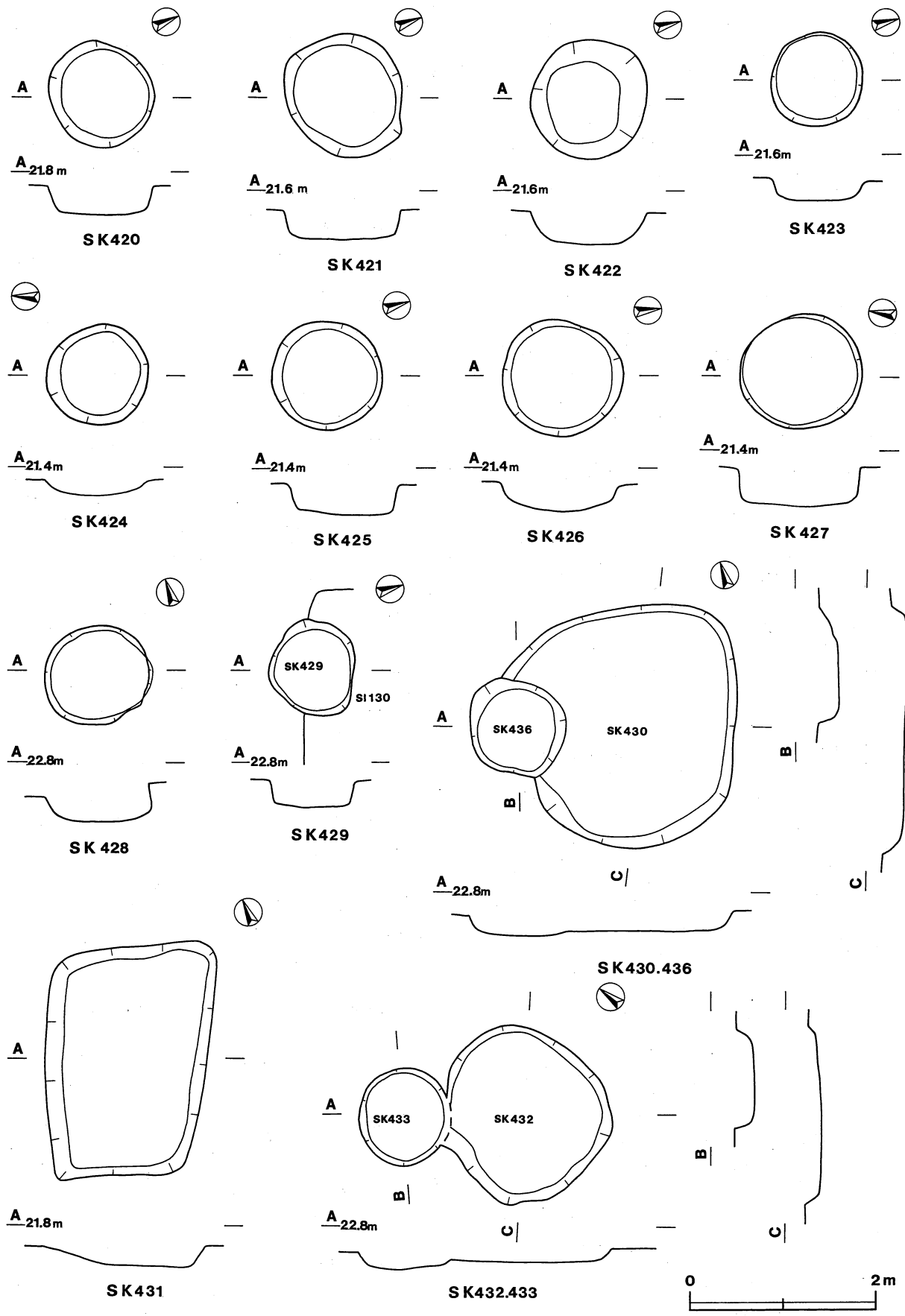
第164図 その他の土坑実測図(2)



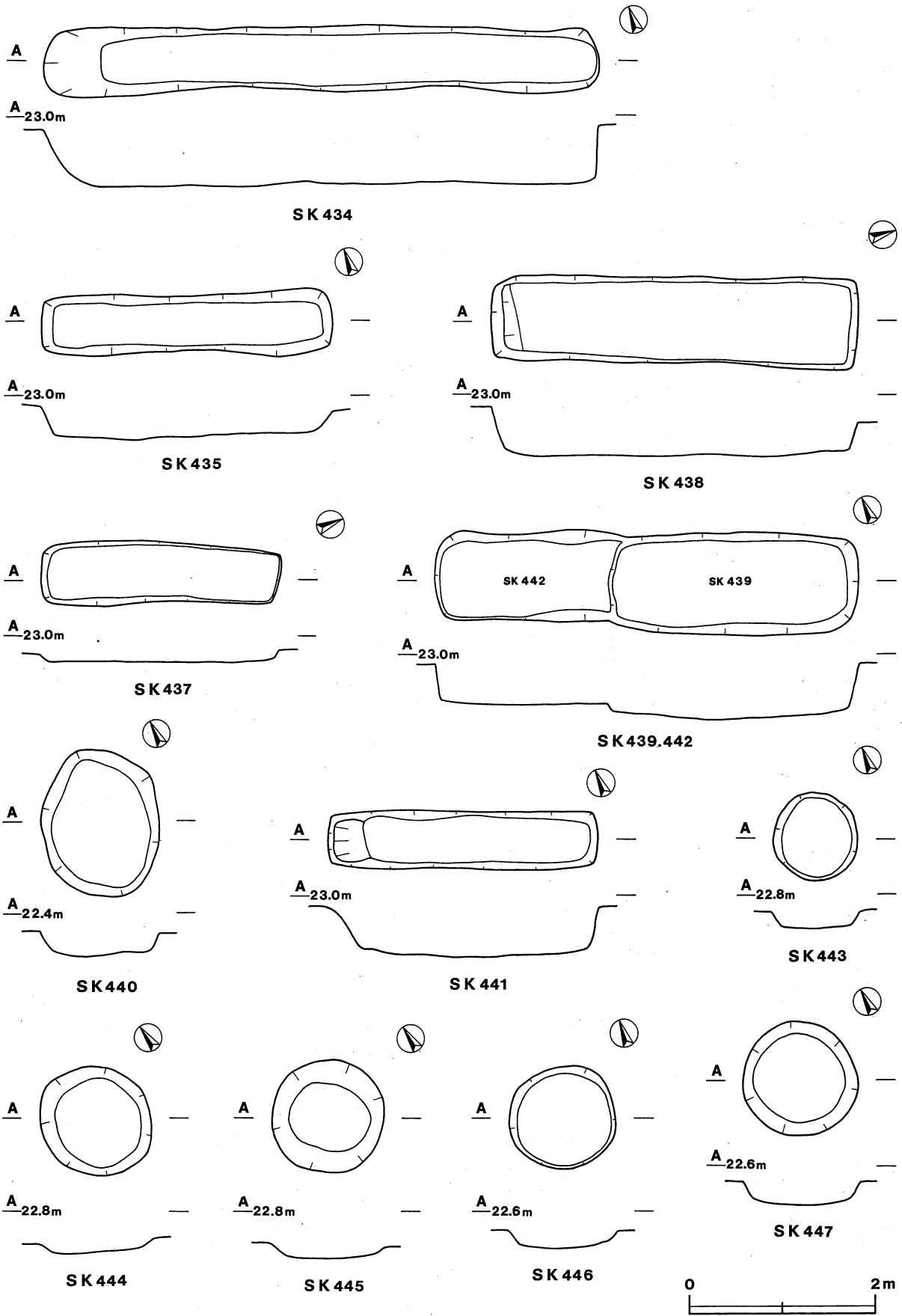
第165図 その他の土坑実測図(3)



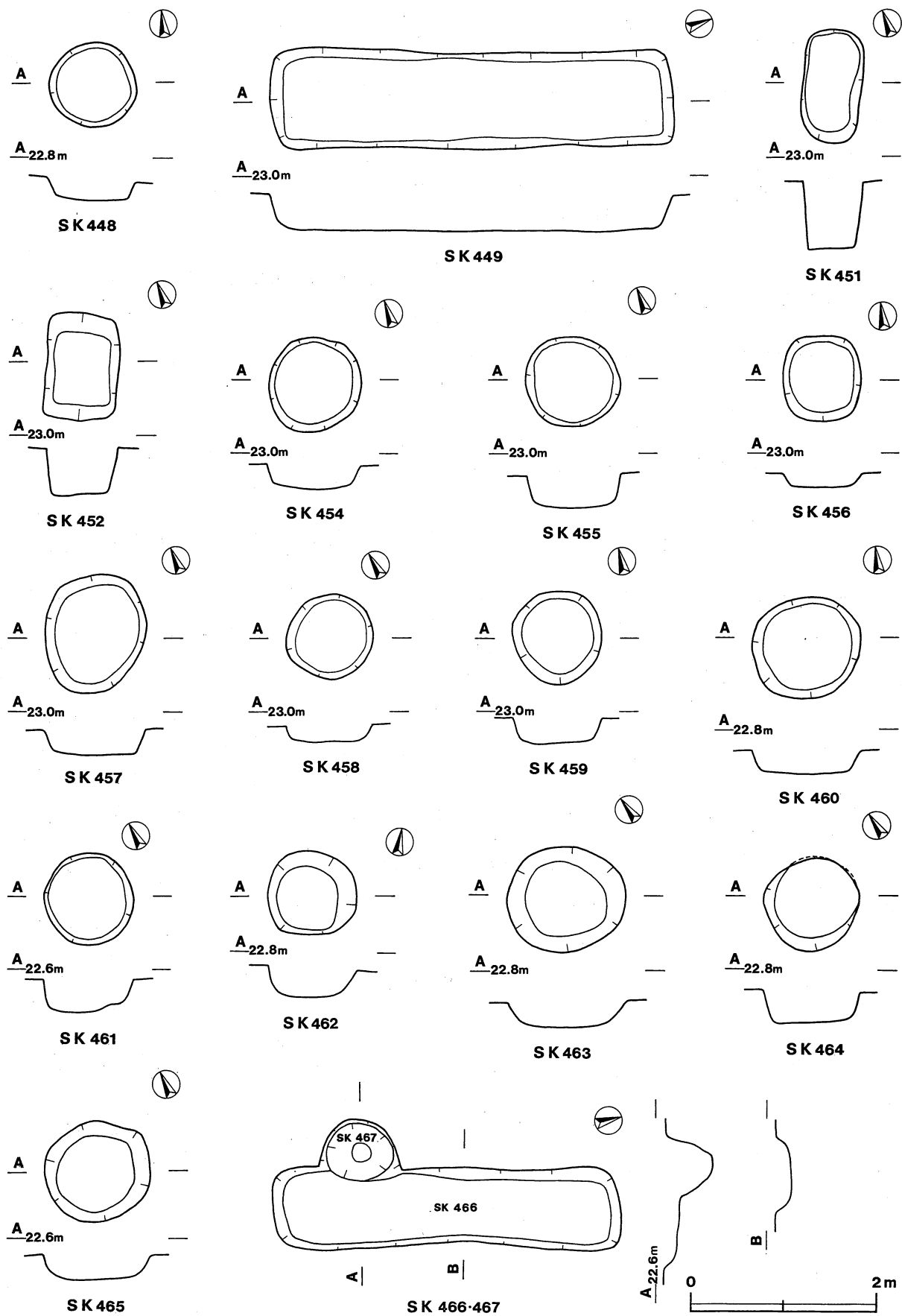
第166図 その他の土坑実測図(4)



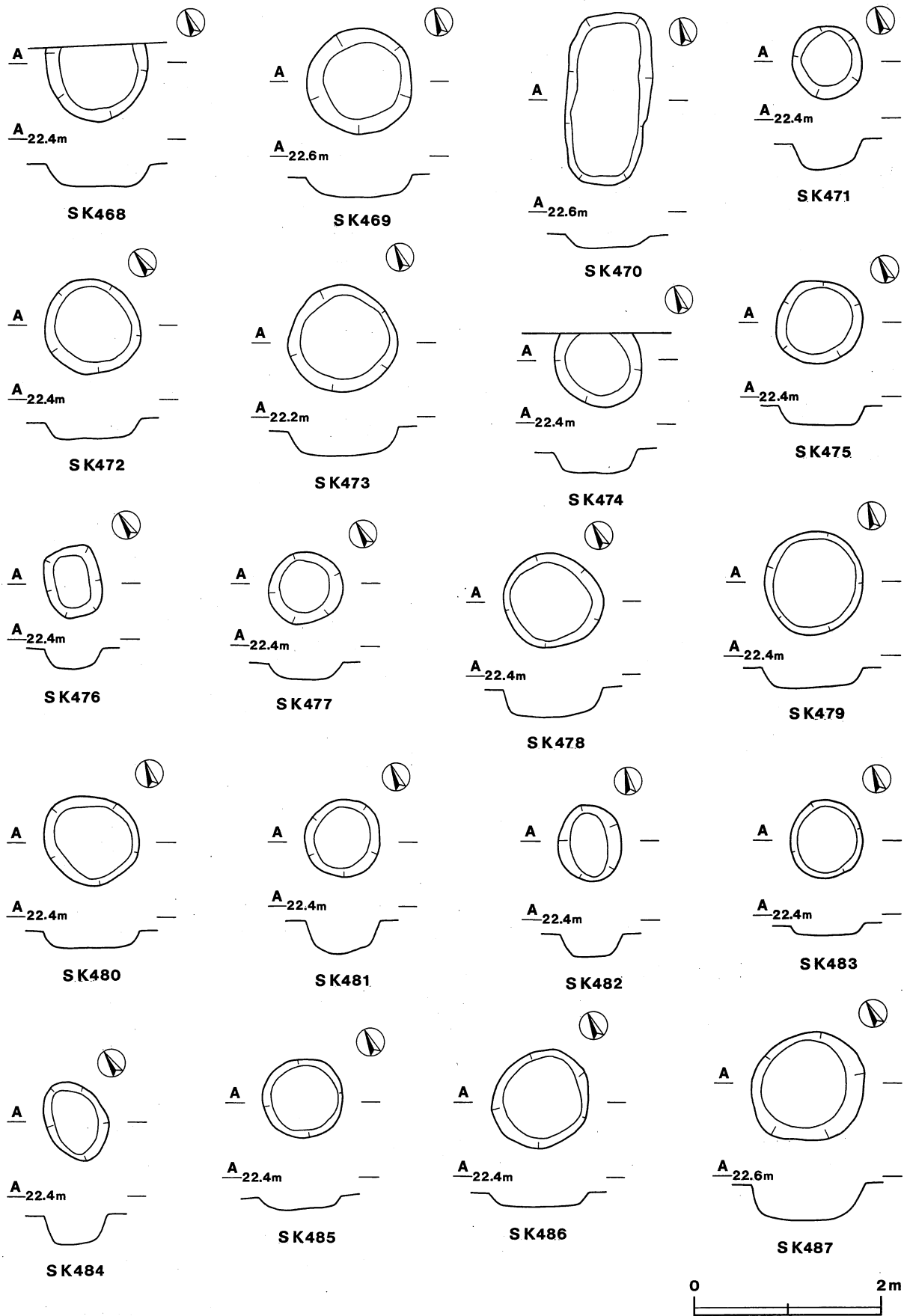
第167図 その他の土坑実測図(5)



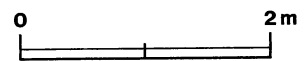
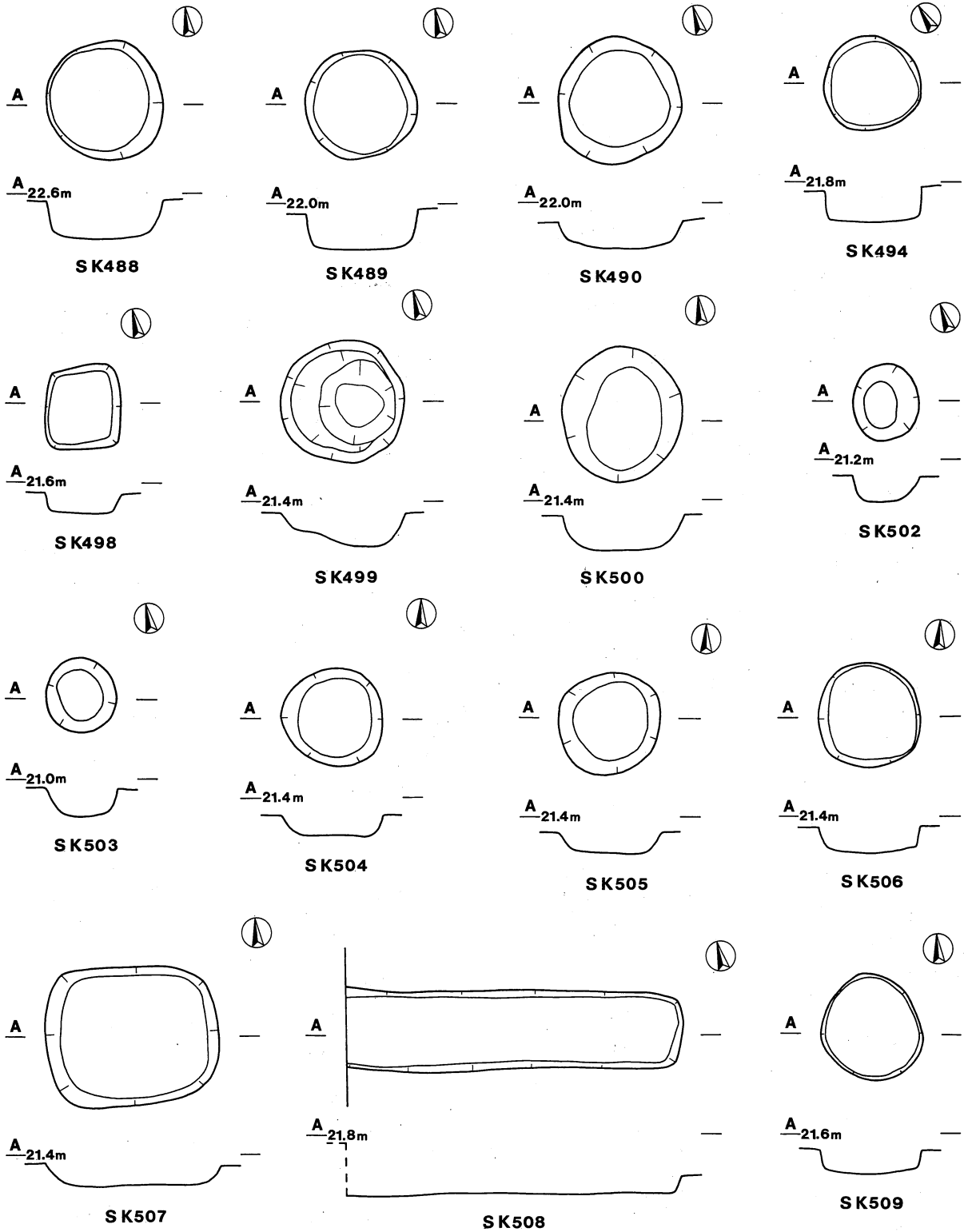
第168図 その他の土坑実測図(6)



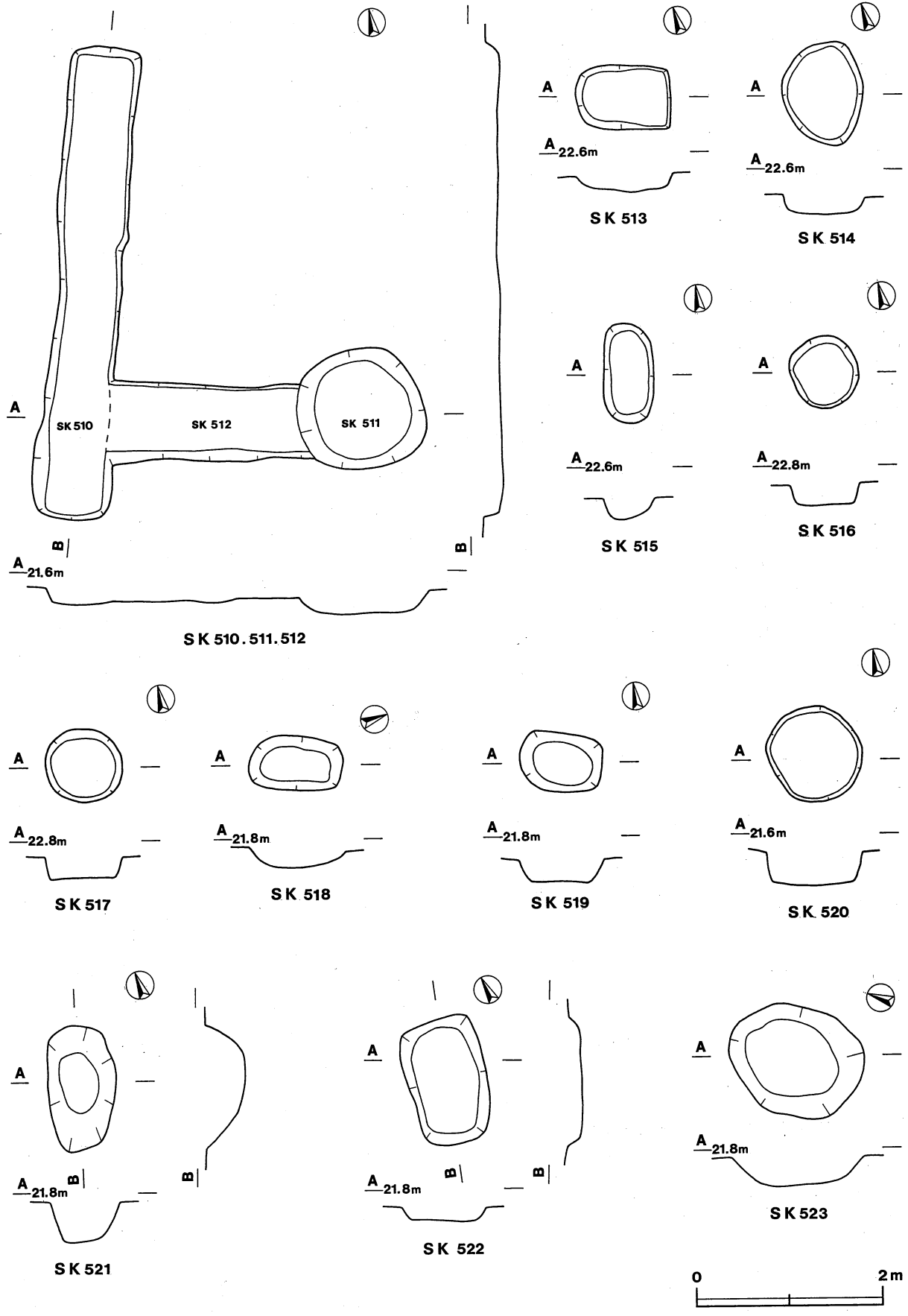
第169図 その他の土坑実測図(7)



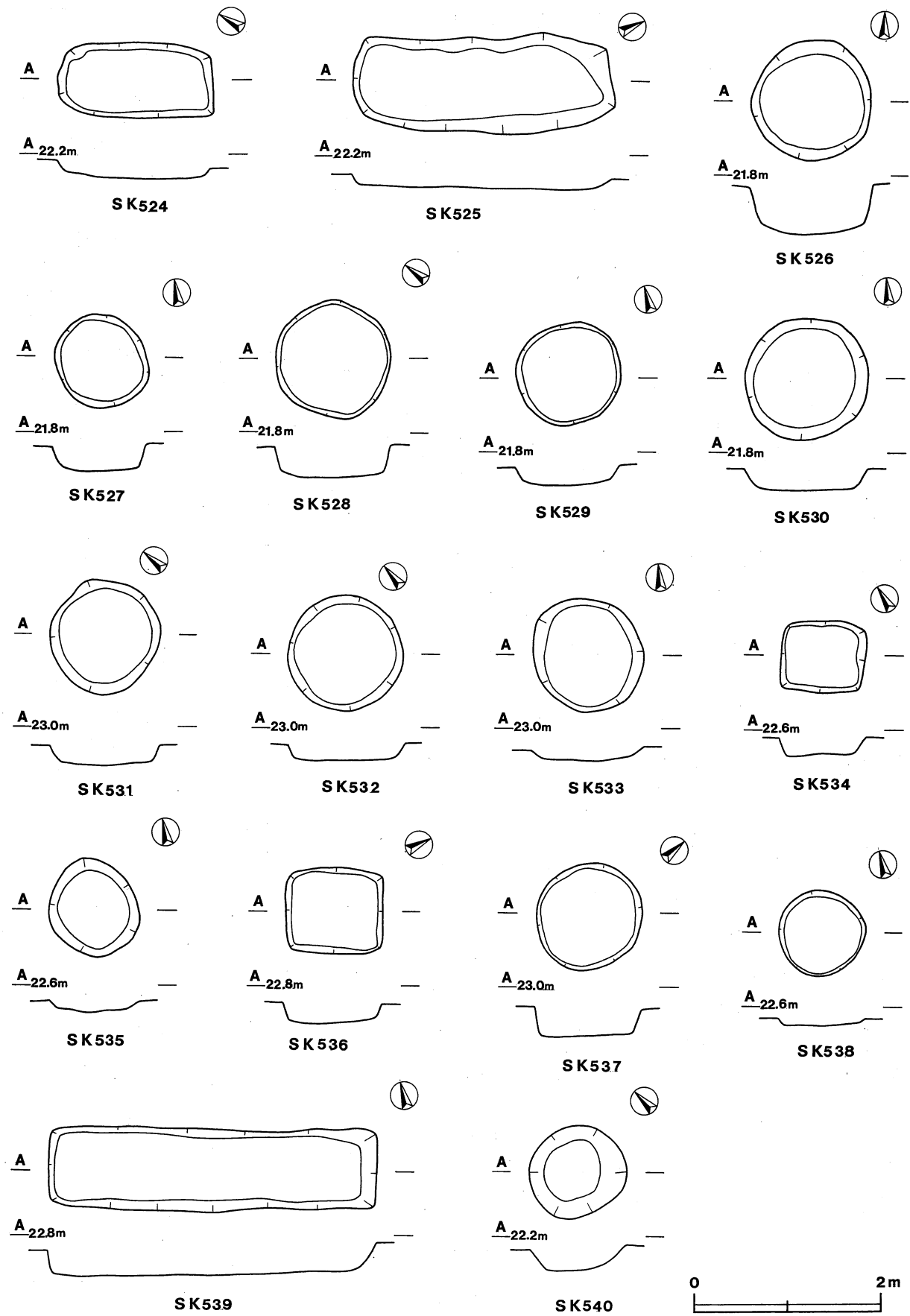
第170図 その他の土坑実測図(8)



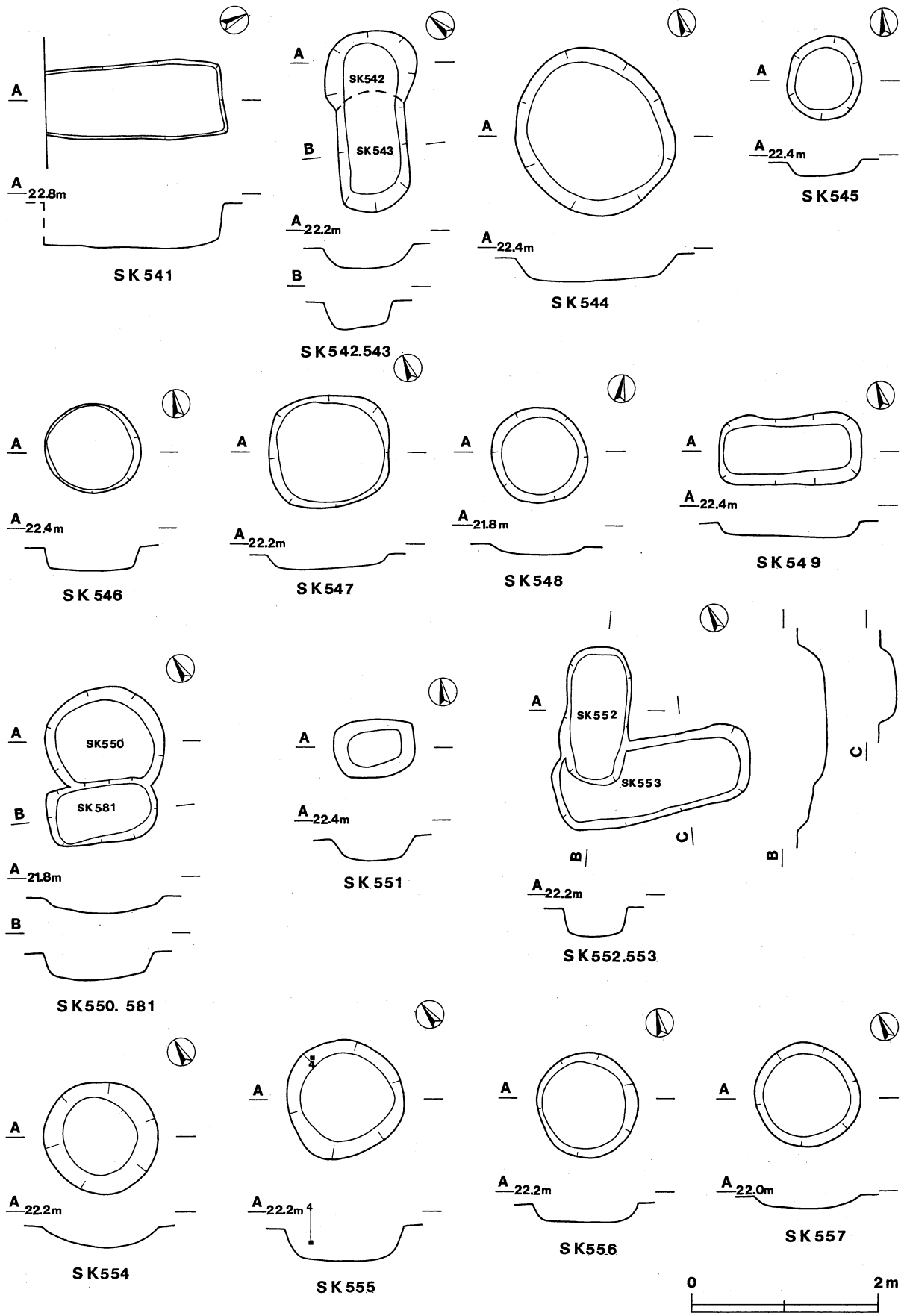
第171図 その他の土坑実測図(9)



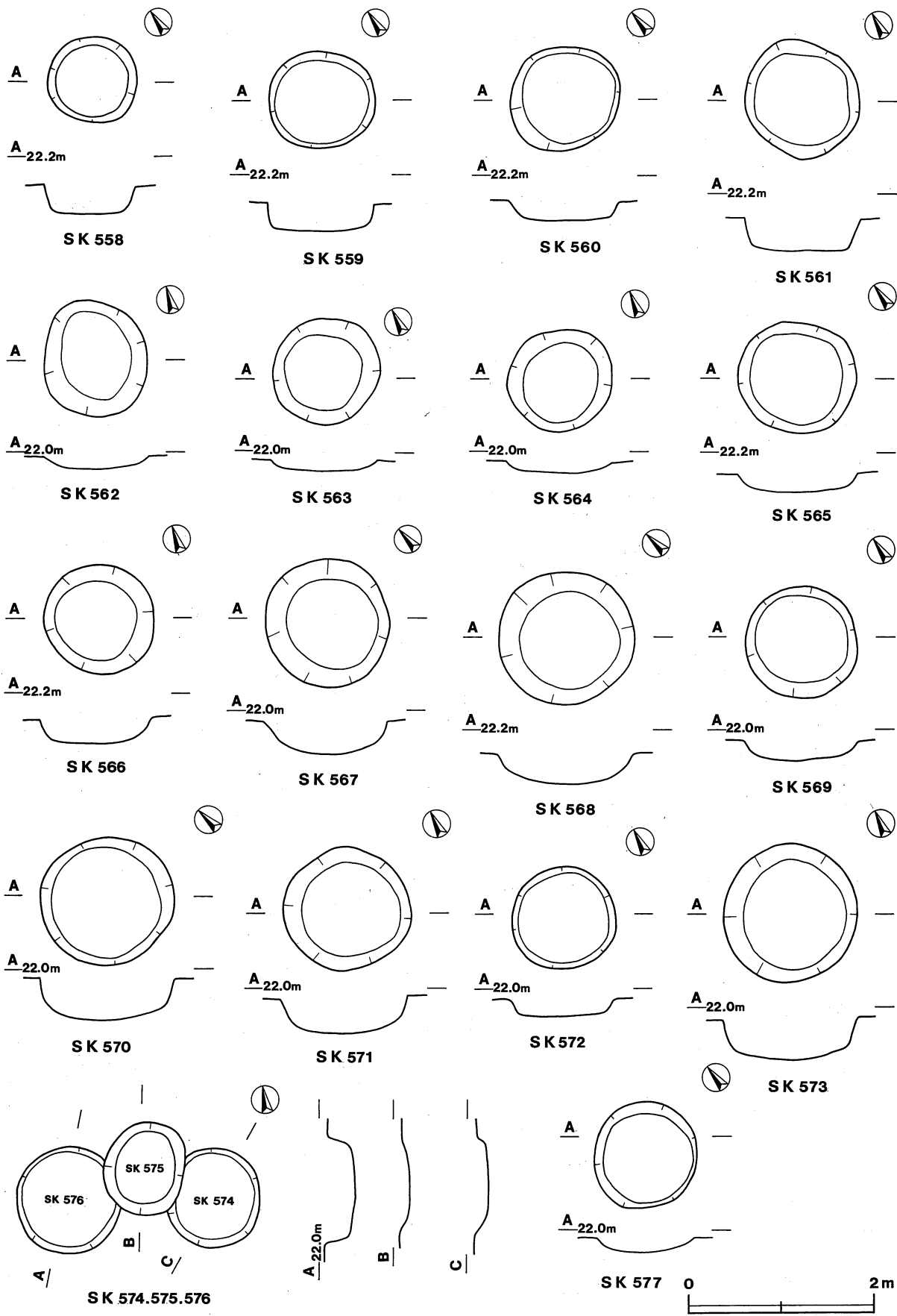
第172図 その他の土坑実測図(10)



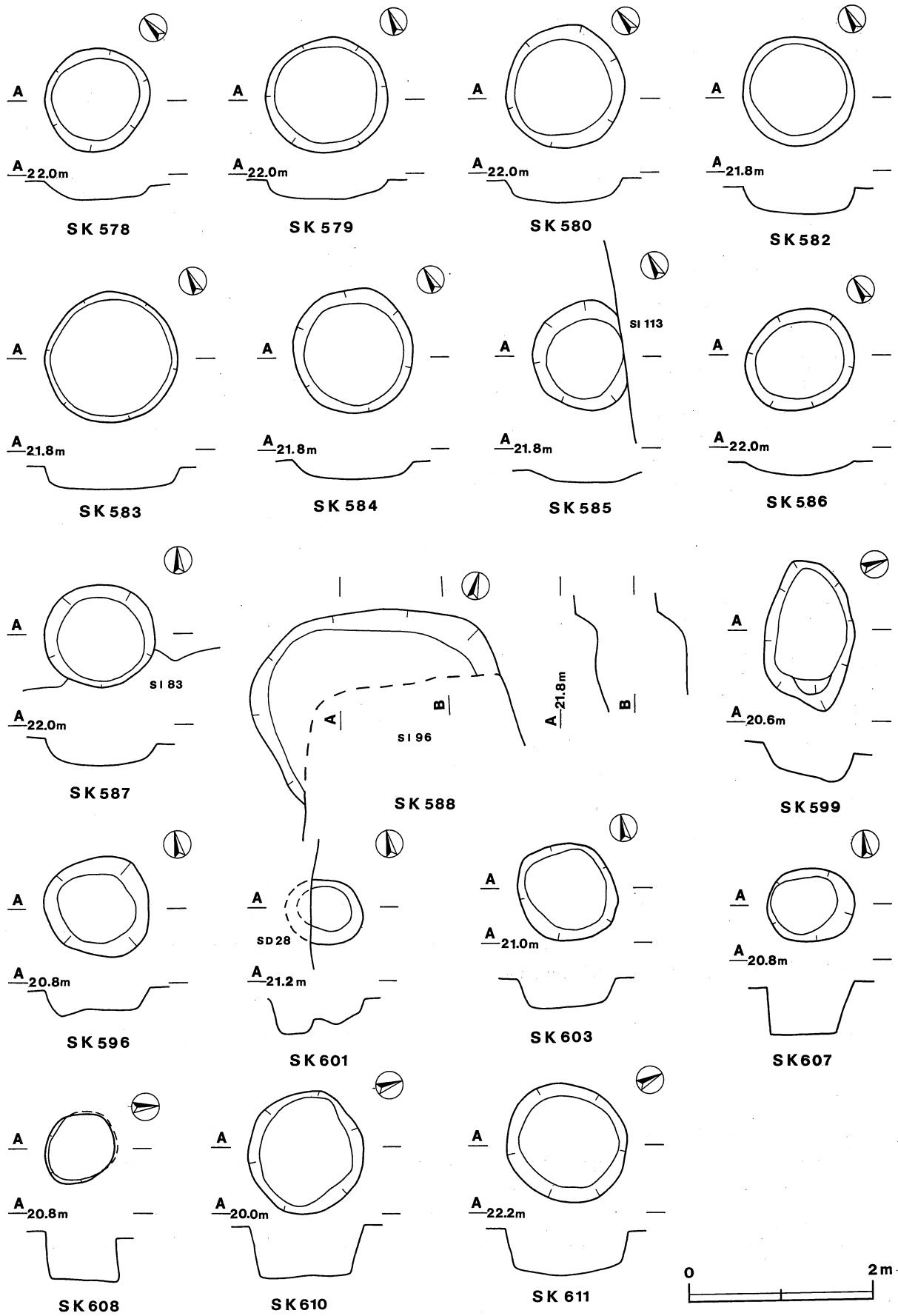
第173図 その他の土坑実測図(11)



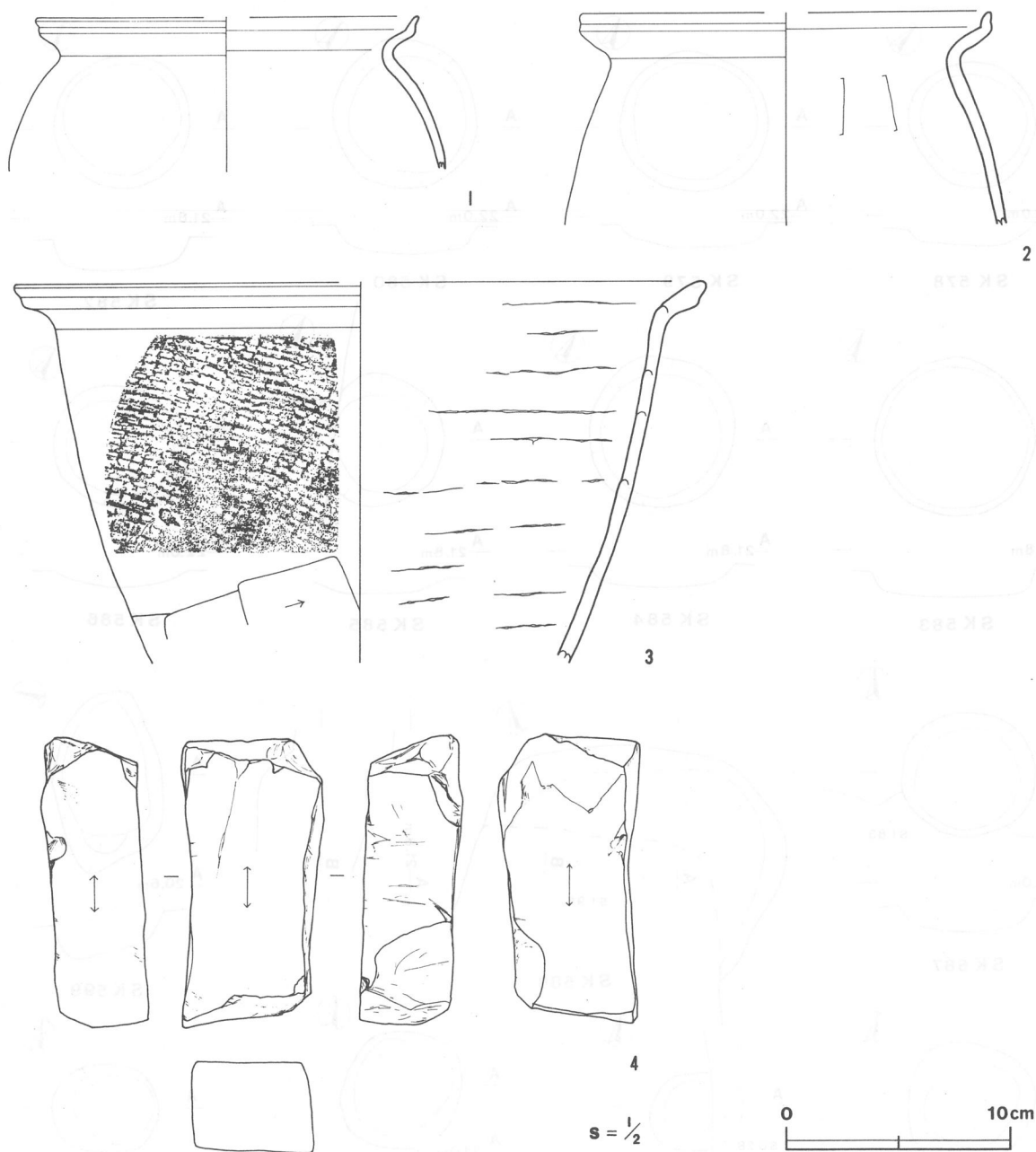
第174図 その他の土坑実測図(12)



第175図 その他の土坑実測図(13)



第176図 その他の土坑実測図(14)



第177図 第370・555号土坑出土遺物実測図

第555号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第177図4	砥石	(8.7)	(4.2)	(3.1)	(130)	凝灰岩	覆土中層	Q15

6 埋葬施設

今回の調査で、調査区北東部から1基の埋葬施設が確認された。以下、確認された第1号埋葬施設の特徴と出土遺物について記載する。

第1号埋葬施設 (第178図) (M-1)

位置 調査区北東部, B7c4区。

重複関係 本跡は第84号住居跡と重複している。本跡が、第84号住居跡を掘り込んでいることから、本跡が新しい。

規模と形状 平面形は、長径0.5m、短径0.4mの楕円形で、深さ25cmである。底面は皿状で、円形を呈している。壁面は外傾して、立ち上がっている。

長径方向 N-0°

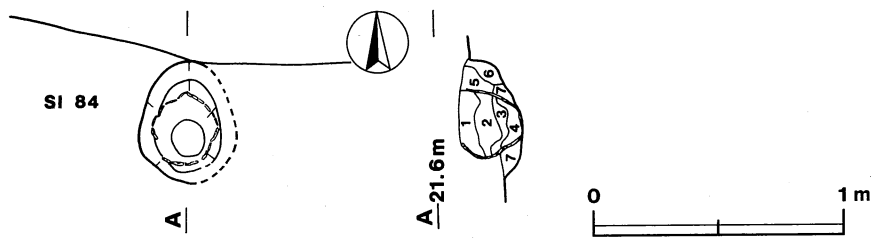
覆土 7層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・骨粉微量 | 5 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 灰褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片20点が出土している。1の土師器甕が中央部の底面から、正位に据えられた状態で出土している。甕内の覆土上層からは、火葬されたと思われる骨粉が少量確認されている。

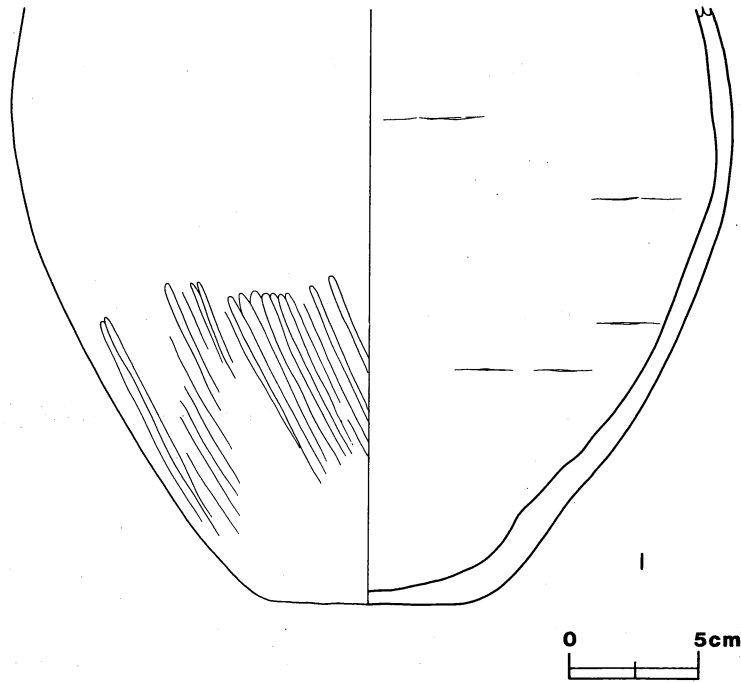
所見 本跡は、骨粉等の出土状況から、土師器甕を蔵骨器とした埋葬施設であると思われる。時期は、出土遺物と9世紀中葉の第84号住居跡との重複から、本跡は9世紀中葉以降の平安時代と考えられる。



第178図 第1号埋葬施設実測図

第1号埋葬施設出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第179図 1	甕 土師器	B (23.5) C 8.1	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面下位へラ磨き。内面ナデ、輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	65% P451 底面



第179図 第1号埋葬施設出土遺物実測図

7 溝

今回の調査で、調査区北部から3条、東部から1条、南部から4条、計8条の溝が確認された。ほとんどの溝は、覆土が薄く、出土遺物がほとんどないことから、性格や時期は不明であるが、調査区東部や南部の溝は住居跡を掘り込んでいることから、奈良・平安時代の前期以降と考えられる。また、調査区北部では、墓墳と考えられる土坑群の中央部を、調査区西部ではその南側に溝が巡っていることから、墓域に関連した性格の可能性が考えられる。さらに、最近の地籍図の筆境と溝の位置がほぼ一致していることから、土地の区画溝的な役割にも利用されたものと考えられる。

確認された溝（第180図・付図）の特徴や遺物については、一覧表に記載する。

第21号溝土層解説

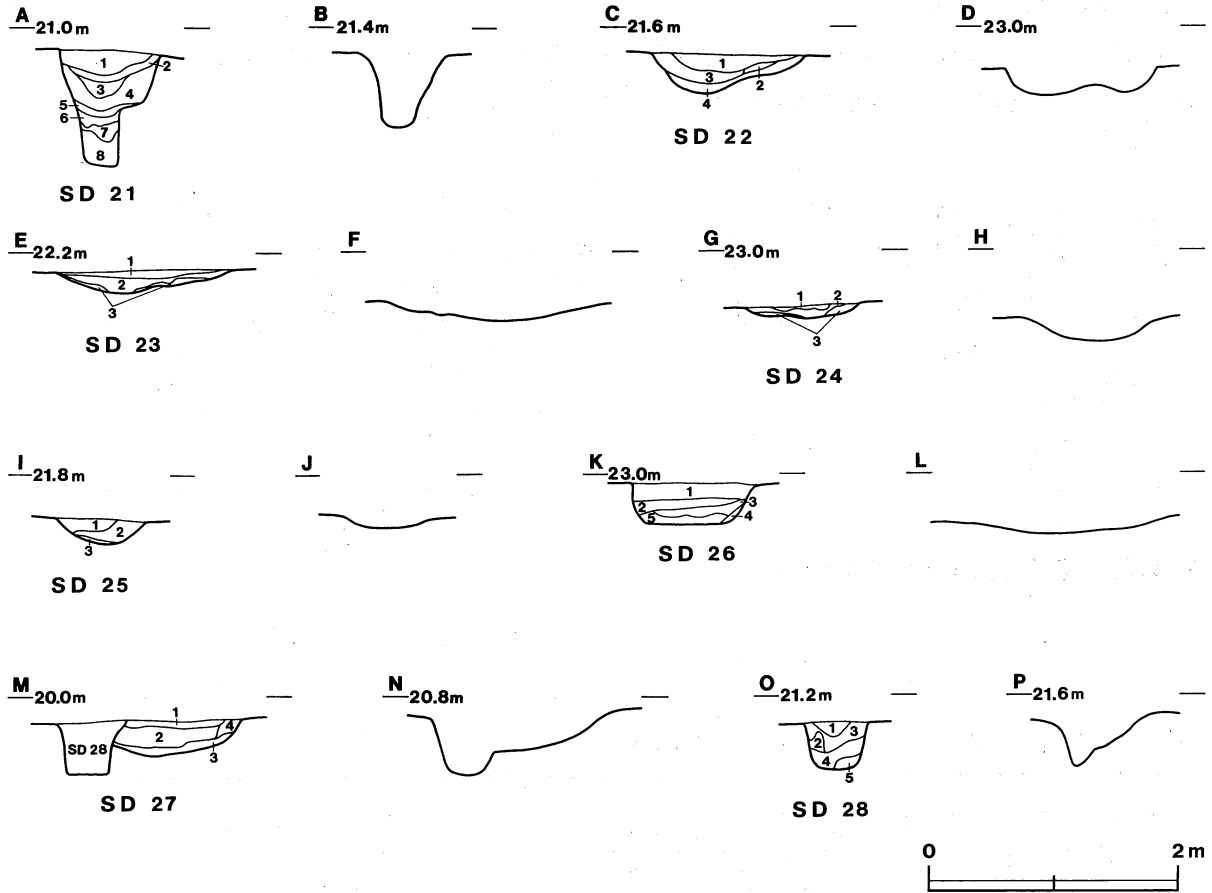
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・粘土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 2 暗褐色 粘土中・小ブロック中量, ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・粘土大・中・小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 灰褐色 粘土大・中ブロック多量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 6 暗褐色 粘土小ブロック・粘土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
- 8 黒褐色 粘土中・小ブロック中量, ローム粒子少量

第22号溝土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

第23号溝土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量



第180図 第21～28号溝土層断面図

第24号溝土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第25号溝土層解説

- 1 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第26号溝土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量

第27号溝土層解説

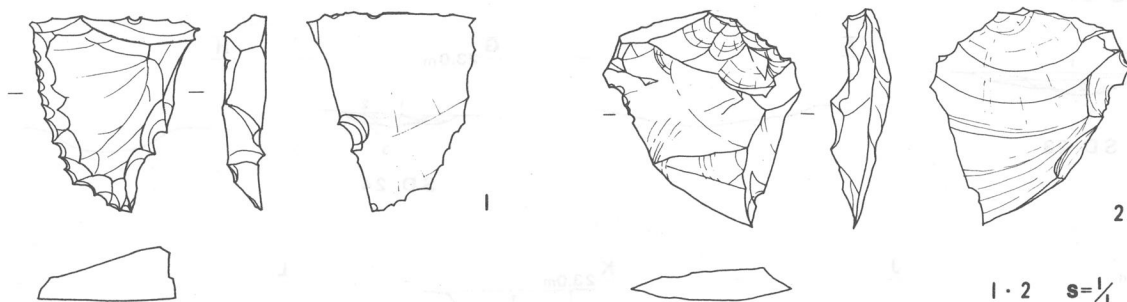
- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第28号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量

8 遺構外出土遺物

当遺跡からは、遺構に伴わない旧石器時代から近世までの土器片や土製品、石器等が出土している。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的なものについて掲載する。(第181～184図)



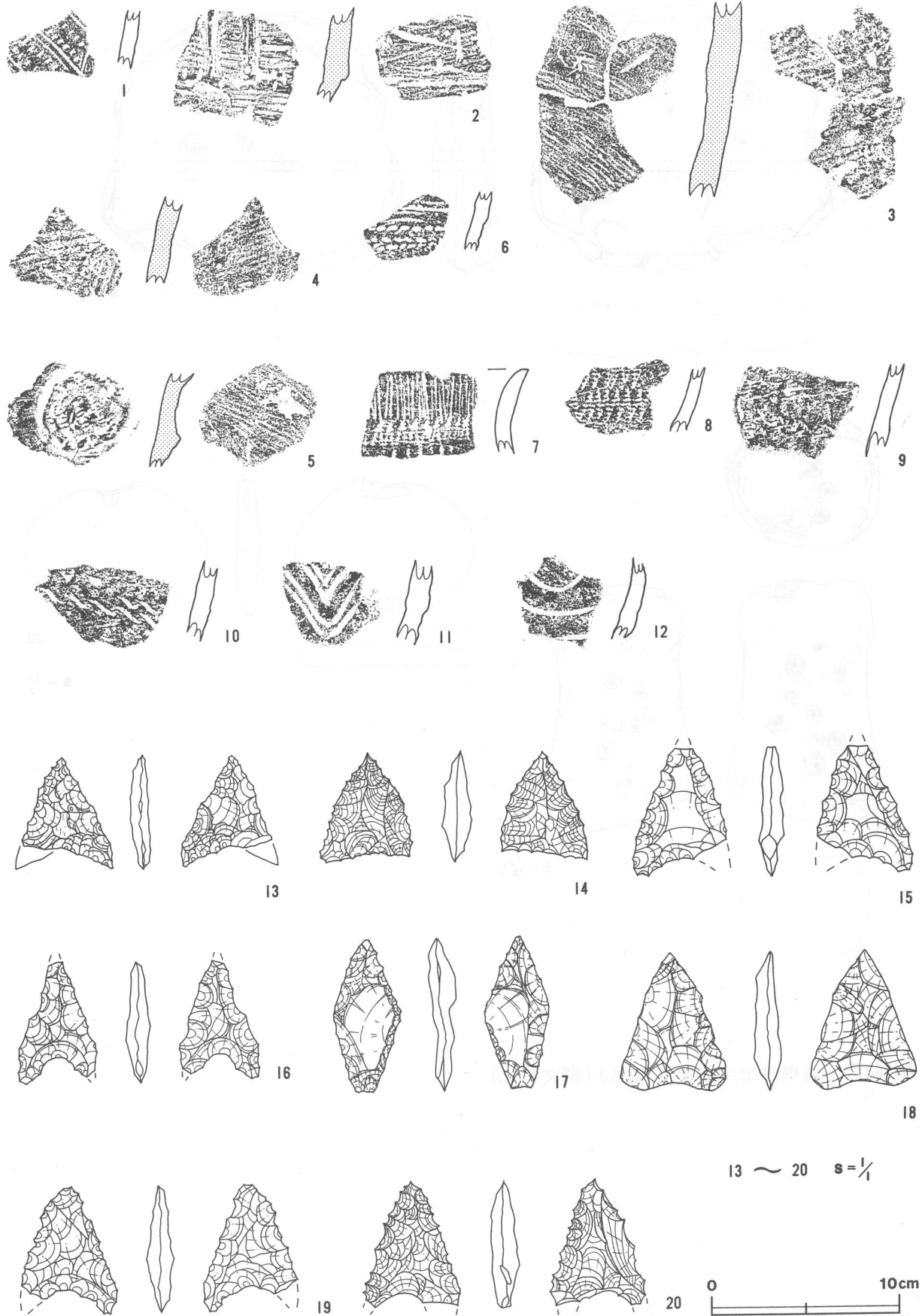
第181図 遺構外出土遺物実測図(1)

遺構外出土石器一覧表 (旧石器時代) (第181図)

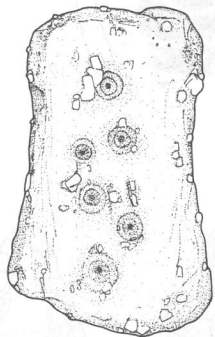
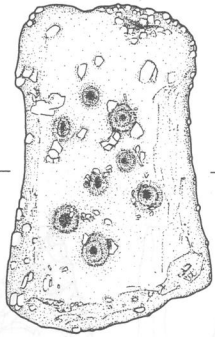
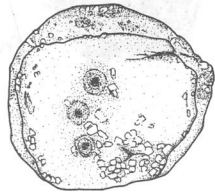
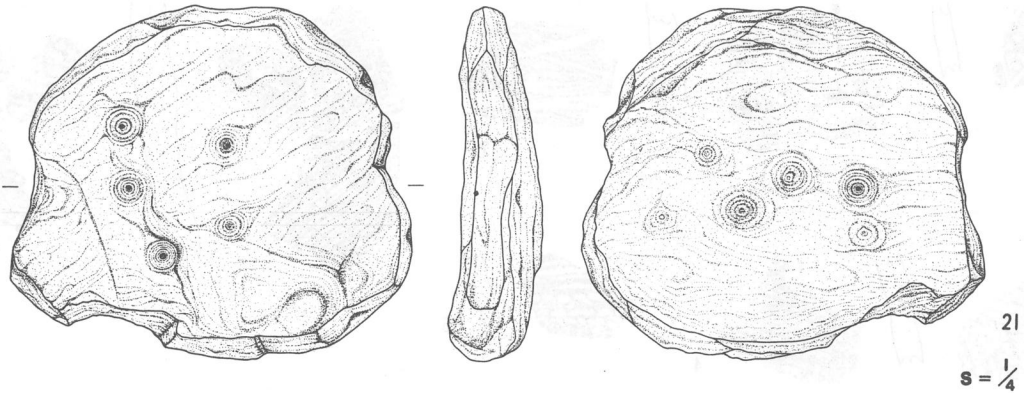
図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
1	ナイフ形石器	(2.7)	(2.2)	0.6	(3.58)	頁岩	表採	Q22 基部
2	剥片	3.0	2.5	0.7	3.64	頁岩	表採	Q18

遺構外出土遺物観察表 (縄文時代) (第182図)

群	時期	型式	図版番号	器種・部分	器形及び文様の特徴	備考
I	早期 中葉	田戸下層	1	深鉢形土器胴部片	半截竹管による平行沈線文と刺突文が施されている。	TP1 表採
II	早期 後葉	茅山下層	2, 3	深鉢形土器胴部片	内・外面に条痕文が施されている。胎土に繊維が含まれる。	TP4, 5 表採
		茅山上層	4	深鉢形土器胴部片	内・外面に条痕文が施されている。胎土に繊維が含まれる。	TP2 表採
			5	深鉢形土器口縁部片	外面は環状の貼付文に、櫛状工具による刺突文が、内面には条痕文が施されている。胎土に繊維が含まれる。	TP3 表採
III	前期 後葉	浮島 II	6	深鉢形土器胴部片	半截竹管による変形爪形文が施されている。	TP6 表採
		興津 I	7	深鉢形土器口縁部片	口縁部直下に縦位条線が、胴部には肋のある貝による波状文が施されている。	TP7 表採
			8	深鉢形土器胴部片	肋のある貝による波状文が施されている。	TP8 表採
		下小野	9, 10	深鉢形土器胴部片	結節した無節縄文が施されている。	TP9, 10 試掘グリッド, 表採
IV	中期 前葉	阿玉台	11	深鉢形土器胴部片	隆帯の両端に、半截竹管による平行沈線が施されている。	TP11 表採
V	後期 前葉	称名寺	12	深鉢形土器胴部片	沈線文で文様を構成している。	TP12 表採

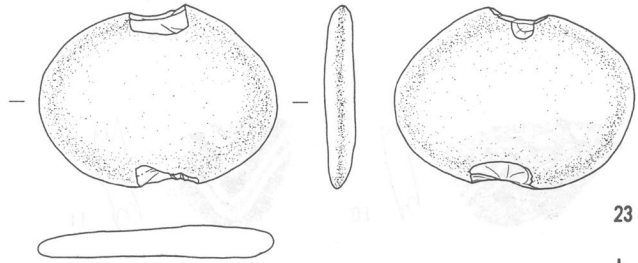
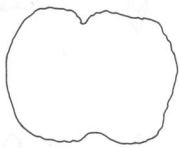


第182図 遺構外出土遺物実測図(2)

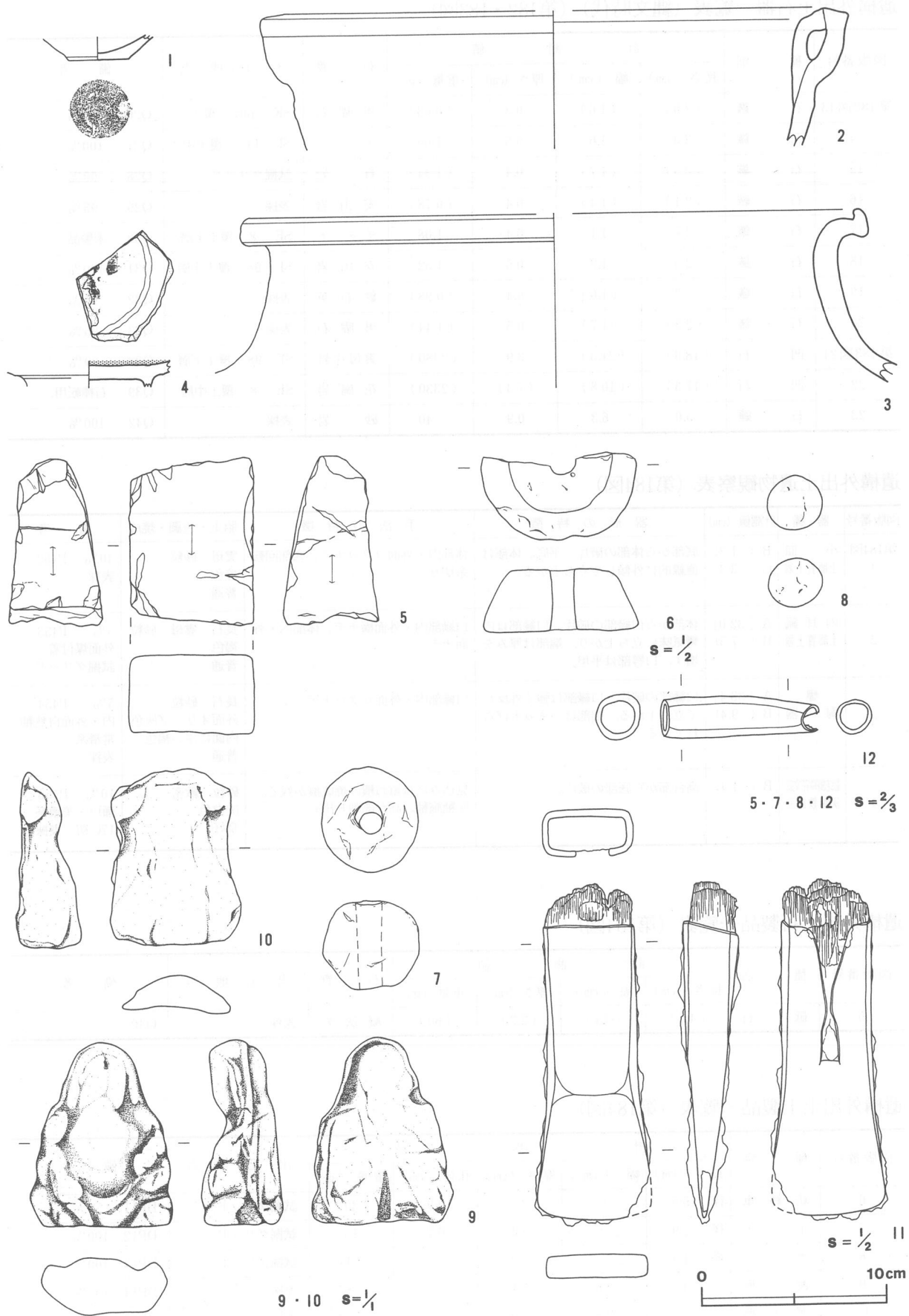


22

$s = \frac{1}{4}$



第183図 遺構外出土遺物実測図(3)(縄文時代)



第184図 遺構外出土遺物実測図(4)

遺構外出土石器一覧表（縄文時代）（第182・183図）

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第182図13	石 鏃	(2.0)	(1.6)	0.3	(0.63)	黒曜石	SK-607 覆土中	Q26 90%
14	石 鏃	2.0	1.6	0.5	1.06	チャート	SI-117 覆土中	Q27 100%
15	石 鏃	(2.3)	(1.7)	0.4	(1.34)	頁岩	試掘グリッド	Q28 90%
16	石 鏃	(2.1)	(1.4)	0.4	(0.78)	安山岩	表採	Q29 95%
17	石 鏃	2.7	1.1	0.4	1.08	チャート	SE-8 覆土上層	Q30 未製品
18	石 鏃	2.5	1.9	0.5	1.52	安山岩	SI-98 覆土中層	Q31 100%
19	石 鏃	2.3	(1.6)	0.4	(0.98)	鉄石英	表採	Q32 95%
20	石 鏃	(2.3)	(1.7)	0.5	(1.44)	黒曜石	表採	Q33 95%
第183図21	凹石	(18.9)	(21.3)	3.9	(2380)	雲母片岩	SI-98 覆土下層	Q38 90%
22	凹石	(17.3)	(10.8)	(7.3)	(2330)	花崗岩	SE-8 覆土中層	Q39 石棒転用
23	石 錘	5.0	6.3	0.9	40	砂岩	表採	Q42 100%

遺構外出土遺物観察表（第184図）

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第184図1	小皿 土師質土器	B (1.3) C 3.3	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	雲母 砂粒 橙色 普通	40% P452 表採
2	内耳鍋 土師質土器	A [32.0] B (7.5)	体部から口縁部の破片。口縁部は内彎気味に立ち上がり、端部は厚みを増す。口唇部は平坦。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	5% P453 外面煤付着 試掘グリッド
3	甕 陶器	A [33.4] B (9.4)	口縁部の破片。口縁部は強く外反して立ち上がる。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石 砂粒 外面オリーブ灰色 内面にふい褐色 普通	5% P454 内・外面自然釉 常滑系 表採
4	総帯華文皿 灰釉鉄絵皿	B (1.4)	高台部から底部の破片。	見込みには重ね積み焼成痕が残る。灰釉施釉。高台部削り出し。	砂粒 緻密 灰白色 良好	10% P455 瀬戸・美濃系 17C初 表採

遺構外出土石製品一覧表（第184図）

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
5	砥石	(4.6)	(3.4)	(2.2)	(60)	凝灰岩	表採	Q40

遺構外出土土製品一覧表（第184図）

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
6	紡錘車	径 5.6	/	2.3	0.9	(39)	試掘グリッド	DP11 50%
7	土玉	径 2.9	/	2.4	0.7	15	試掘グリッド	DP12 100%
8	土玉	径 1.5	/	1.3	/	2.44	試掘グリッド	DP13 100%
9	泥人形	3.3	2.6	1.1	/	7.85	表採	DP14 100%
10	泥人形	3.2	2.4	(0.6)	/	(5.10)	表採	DP15

遺構外出土金属製品一覧表 (第184図)

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
11	鉄 斧	10.6	(4.0)	1.7	(163)	表探	M24 木質付着 95%
12	煙 管	(4.3)	1.2	(1~1.5)	(6.9)	試掘グリッド	M43 銅製

神田遺跡遺構一覽表

表2 住居跡一覽表

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
							壁溝	柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	炉・竈			
78	B7h7	N-0°	[長方形]	(2.37)×2.25	8~12	平坦	一部	-	-	2	-	電	人為	土師器24, 須惠器8	本跡→SI-80, 96, SD-22
79	B7h6	N-0°	[方形,長方形]	2.85×(1.50)	20	平坦	一部	-	-	1	-	電	人為	土師器166, 須惠器78, 鎌1, 陶器5	本跡→SI-80, SD-22
80	B7h7	N-13°-W	方 形	3.95×3.87	10~14	平坦	全周	-	-	3	1	電	人為	土師器110, 須惠器19, 刀子1, 角釘1, 土製支脚1	SI-78, 79→本跡→SD-22
81	B7j7	N-1°-E	方 形	3.55×3.38	4~6	平坦	半周	-	-	1	1	電	自然	土師器14, 須惠器15	
82	C7a7	N-6°-E	長 方 形	3.10×2.74	2~8	平坦	半周	-	-	1	1	電	人為	土師器13, 須惠器2	
83	B7h5	N-5°-W	方 形	3.85×3.82	26~30	平坦	全周	4	-	-	1	電	人為	土師器122, 須惠器302	本跡→SK-587
84	B7e4	N-4°-W	方 形	3.50×3.42	19~20	平坦	全周	4	-	-	1	電	人為	土師器254, 須惠器38, 砥石1, 鉄滓2, 陶器1	本跡→M-1
85	B7a2	N-11°-W	長 方 形	2.90×2.50	22~28	平坦	半周	4	-	-	1	電	人為	土師器27, 須惠器21	
86	B6b0	N-6°-W	方 形	4.90×4.62	42~46	平坦	全周	4	-	-	1	電	人為	土師器433, 須惠器93, 砥石1, 角釘1, 縄文土器1, 陶器2	
87	B7c1	N-17°-W	方 形	3.30×3.23	20~21	平坦	半周	4	-	-	-	電	人為	土師器119, 須惠器51, 支脚1	SI-88→本跡
88	B7d1	N-1°-W	方 形	4.30×4.24	28~30	平坦	全周	4	-	1	1	電	人為	土師器220, 須惠器43, 陶器1	本跡→SI-87
89	B6c9	N-7°-E	隅丸方形	3.90×3.58	48~54	平坦	全周	4	-	-	1	電	自然	土師器344, 須惠器262	
90	B6i9	N-22°-E	隅丸方形	2.85×2.77	28~40	平坦	-	-	-	4	-	-	人為	土師器45, 須惠器34	
91	B6h8	N-14°-W	不 明	3.05×(2.60)	14~16	平坦	一部	-	-	1	-	電	人為	土師器70, 須惠器29, 陶器1	本跡→SI-92
92	B6h8	N-17°-W	不 明	3.04×(1.20)	29~35	平坦	-	-	-	-	-	電	人為	土師器84, 須惠器14	SI-91→本跡
93	A6g8	N-2°-W	[方形]	[3.12]×2.90	1~3	凹凸	-	4	-	-	1	電	不明	土師器34, 須惠器13	
94	A6h8	N-6°-E	長 方 形	4.56×4.03	8~12	平坦	-	4	-	-	1	電	不明	土師器132, 須惠器52, 砥石1, 陶器1	
95	B6a7	N-14°-W	長 方 形	4.76×4.30	21~32	平坦	全周	4	-	-	1	電	人為	土師器341, 須惠器48, 砥石1, 支脚1	焼失家屋
96	B7g6	N-77°-E	隅丸長方形	2.81×2.53	30~36	平坦	-	-	-	1	-	電	自然	土師器67, 須惠器42	SI-78, SK-588→本跡→SD-22
97	A6i5	N-10°-E	長 方 形	3.14×2.80	12~18	平坦	全周	4	-	-	1	電	自然	土師器38, 須惠器3	
98	B6a5	N-15°-E	隅丸方形	4.67×4.65	31~34	平坦	全周	4	-	1	1	電	人為	土師器642, 須惠器329, 凹石1, 石鏃1	
99	B6a4	N-14°-E	方 形	4.37×4.32	34~42	平坦	全周	4	-	-	1	電	人為	土師器119, 須惠器19, 角釘1	
100	B6b5	N-2°-W	隅丸方形	6.38×6.30	24~29	平坦	全周	4	-	2	1	電	人為	土師器1348, 須惠器905, 鉄鏃2, 砥石1, 支脚1	
101	A6i2	N-15°-E	長 方 形	4.54×3.80	35~43	平坦	全周	3	-	-	1	電	人為	土師器214, 須惠器124, 鎌1, 鉄滓4, 陶器5	
102	B6a1	N-5°-W	[方形,長方形]	3.65×(3.10)	10~16	平坦	半周	4	-	-	1	電	自然	土師器238, 須惠器63, 紡錘車1	本跡→SI-103, 104
103	A6j2	N-5°-W	方 形	4.03×3.89	36	平坦	全周	4	-	-	1	電	自然	土師器46, 須惠器12	SI-102→本跡→SI-104
104	B6a2	N-0°	方 形	4.23×3.92	26~28	平坦	-	2	-	-	1	電	自然	土師器188, 須惠器161, 鉄滓1	SI-102, 103→本跡
105	B6d2	N-16°-E	隅丸方形	4.18×3.95	32~37	平坦	全周	4	-	-	1	電	自然	土師器182, 須惠器76, 鉄滓10, 陶器1	SI-106→本跡
106	B6d3	N-0°	長 方 形	3.22×2.61	48~52	平坦	-	-	-	-	-	電	自然	土師器70, 須惠器23	本跡→SI-105
107	B5b0	N-12°-W	方 形	3.44×3.25	10~16	平坦	-	4	-	-	1	電	自然	土師器72, 須惠器24, 鎌1, 陶器1	
108	A5g7	N-10°-E	隅丸方形	3.05×2.88	10~18	平坦	-	1	-	2	-	電	人為	土師器56, 須惠器16	
109	B6h2	N-76°-E	隅丸方形	3.79×3.61	26	凹凸	-	3	-	1	1	電	人為	土師器230, 須惠器55, 剝片1, 陶器5	
110	C6b1	N-20°-E	不 明	4.87×(2.90)	32~37	平坦	半周	1	-	-	-	電	自然	土師器217, 須惠器94, 紡錘車1, 刀子1, 陶器2	
111	B5j8	N-15°-E	方 形	3.24×3.05	4~10	平坦	-	-	-	1	1	電	人為	土師器80, 須惠器1, 紡錘車1, 陶器2	
112	C4a8	N-28°-E	方 形	3.76×3.72	22~30	凹凸	全周	4	-	1	1	電	人為	土師器112, 須惠器60, 鉄滓2, 陶器1	
113	D4e3	N-18°-E	長 方 形	4.60×4.15	不明	平坦	全周	4	-	4	1	電	不明	土師器3, 須惠器2	本跡→SK-585
114	C7i4	N-1°-W	方 形	6.50×5.70	32~40	平坦	全周	4	-	-	1	電	自然	土師器133, 須惠器90, 刀子1, 鉄滓1, 磁器1	焼失家屋
115	C7h2	N-8°-E	長 方 形	3.18×2.86	17~24	平坦	-	4	-	-	1	電	自然	土師器182, 須惠器66, 砥石1, 陶器4	
116	C7h1	N-5°-E	隅丸方形	5.57×5.44	5~10	平坦	-	4	-	-	1	電	自然	土師器202, 須惠器102	SI-117→本跡→SD-22
117	C6h9	N-17°-E	方 形	7.40×7.37	20~31	平坦	半周	6	-	7	1	電	自然	土師器419, 須惠器182, 鉄斧1, 紡錘車1, 支脚2, 石鏃1	本跡→SI-116, 118→SD-22
118	C6g8	N-3°-E	長 方 形	4.92×4.43	18~20	平坦	一部	4	-	-	1	電	自然	土師器228, 須惠器119	SI-117, 119→本跡
119	C6h7	N-14°-E	方 形	5.56×5.28	30~38	平坦	全周	4	-	-	1	電	自然	土師器268, 須惠器25, 支脚1	本跡→SI-118
120	C6e6	N-5°-E	不 明	3.82×(2.93)	16~19	平坦	半周	3	-	-	1	-	人為	土師器150, 須惠器19, 支脚1	焼失家屋

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
							壁溝	柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	扉・竈			
121	C5h4	N-23°-E	方 形	3.46 × 3.25	25~29	凹凸	全周	4	-	-	1	竈	自然	土師器62, 須惠器37, 鎌1, 砥石1	本跡→SD-23
122	D5f6	N-5°-E	方 形	3.72 × 3.55	17~20	凹凸	全周	3	-	4	1	竈	自然	土師器46, 須惠器27	SI-123→本跡
123	D5f7	N-2°-E	長 方 形	3.61 × 2.93	48~50	平坦	-	-	-	-	1	竈	自然	土師器49, 須惠器9	本跡→SI-122
124	D5g8	N-6°-E	方 形	3.75 × 3.69	12~15	凹凸	-	-	-	-	1	竈	自然	土師器83, 須惠器32, 鉄滓2	本跡→SD-24
125	D5c0	N-26°-E	長 方 形	3.72 × 3.25	23~33	平坦	半周	-	-	-	1	竈	自然	土師器211, 須惠器48, 支脚1, 陶器4	本跡→SD-23, 24
126	C6j9	N-16°-E	方 形	6.13 × 6.10	25~32	平坦	全周	3	-	-	1	竈	人為	土師器329, 須惠器334	本跡→SI-139, SD-22
127	D6b8	N-24°-E	[方形, 長方形]	4.80 × (4.10)	18~25	平坦	半周	4	-	4	1	竈	自然	土師器508, 須惠器217, 鎌1	本跡→SD-22
128	D6a3	N-3°-E	長 方 形	5.12 × 4.61	37~40	平坦	全周	4	-	2	1	竈	自然	土師器468, 須惠器222, 鉄滓3	第3号竪穴状遺構→本跡
130	D6b5	N-17°-W	方 形	2.53 × 2.47	37	凹凸	-	-	-	-	-	竈	人為	土師器132, 須惠器21, 陶器2	本跡→SK-428, 429
131	D6e0	N-21°-E	隅丸方形	3.54 × 3.46	10~19	平坦	半周	-	-	1	-	竈2	自然	土師器199, 須惠器32, 灰釉陶器1	
132A	D6d8	N-23°-E	[方形]	3.75 × [3.43]	16~24	平坦	全周	4	-	-	2	竈	自然	土師器466, 須惠器183, 土玉2, 灰釉陶器7	本跡→SI-132B
132B			隅丸長方形	4.77 × 3.60											SI-132A→本跡
133	D6d6	N-13°-E	方 形	3.54 × 3.48	20~23	平坦	全周	4	-	-	1	竈	人為	土師器67, 須惠器53, 灰釉陶器1, 支脚1, 陶器2	
134	D6d4	N-12°-E	隅丸方形	3.50 × 3.48	20~28	平坦	全周	4	-	-	1	竈	自然	土師器229, 須惠器101, 刀子1, 砥石1, 陶器3	本跡→SD-23
135	D7h1	N-1°-E	隅丸方形	3.52 × 3.35	2~10	凹凸	全周	4	-	-	1	竈	自然	土師器35, 須惠器19, 土玉1	
136	D6e3	N-19°-E	隅丸方形	3.31 × 3.31	18	平坦	全周	4	-	-	1	竈	自然	土師器126, 須惠器97, 砥石1	
137	D6e1	N-21°-E	方 形	5.11 × 4.76	26~30	平坦	全周	4	-	1	1	竈	自然	土師器365, 須惠器187, 灰釉陶器5, 鉄滓1	
138	D6g2	N-10°-E	方 形	4.66 × 4.63	48	平坦	全周	4	-	-	1	竈	自然	土師器279, 須惠器221, 支脚1, 鉄滓4	
139	C6j9	N-16°-E	方 形	4.50 × 4.30	23~33	凹凸	-	-	-	-	1	竈	人為	土師器479, 須惠器247, 刀子2, 陶器1	SI-126→本跡→SD-22

表3 井戸一覧表

井戸 番号	位置	長径方向	平面形	規 模			深さ(m)	断面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(単位はm)								
				上 面	底 面	掘り込面						
8	C4e8	N-18°-E	不整楕円形	5.54 × 3.23	(1.56×1.20)		(2.60)	掘鉢円筒	-	人為	土師器137, 須惠器37, 灰釉陶器3, 凹石1	
9	D4a8	N-90°-E	楕 円 形	3.30 × 2.80	(1.95×1.30)		(2.40)	掘鉢円筒	-	人為	土師器19, 須惠器12, 灰釉陶器1, 陶器5	
10	C7j2	N-0°	[不整楕円形]	(5.52) × 5.00	(0.76×0.69)		(2.66)	掘鉢円筒	-	人為	土師器177, 須惠器85, 灰釉陶器1, 陶器43	第4号竪穴状遺構→本跡
11	C5i5	N-25°-W	円 形	1.83 × 1.82	(0.75×0.54)		(2.38)	掘鉢円筒	-	人為	土師器19, 須惠器14, 陶器1, 礫2	
12	D5j1	N-73°-E	円 形	1.60 × 1.48	(1.03×0.98)		(2.70)	掘鉢円筒	-	人為	土師器5, 須惠器7, 砥石1, 鉄滓1, 礫2	

表4 大形竪穴状遺構一覧表

大形 竪穴 番号	位置	長径方向	平面形	規 模			深さ(m)	断面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(単位はm)								
				上 面	底 面	掘り込面						
3	A6h4	N-17°-W	不 整 円 形	3.25×2.74	2.00×1.83	0.70×0.62	1.45	掘鉢	平坦	人為	土師器109, 須惠器21, 鉄滓3, 礫3	

表5 竪穴状遺構一覧表

竪穴 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
3	D6b4	N-3°-E	隅丸長方形	3.12 × 2.64	37	外傾	平坦	自然	土師器71, 須惠器34	本跡→SI-128
4	D7b2	N-0°	[不整楕円形]	(5.40) × 5.04	100	外傾	平坦	人為	土師器1438, 須惠器1409, 陶器28, 鉄滓3, 礫14	本跡→SE-10

表6 陥し穴一覧表

◎印は本文中に記述

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
◎609	A6c8	N-85°-W	長楕円形	2.92 × 1.14	135	外傾	U字状	自然	須恵器2	

表7 墓壙と考えられる土坑一覧表

◎印は本文中に記述

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
◎453	D6b9	N-20°-W	楕円形	1.48 × 0.77	31	外傾	平坦	人為	和鏡1, 鏡筥1, 礫1, 土師器4, 須恵器1	
◎497	C4c0	N-18°-E	長方形	1.73 × 0.87	26	緩斜	平坦	人為	短刀1	
◎605	A5g0	N-82°-W	長方形	2.27 × 0.55	25	外傾	平坦	人為	煙管の吸い口1, 土師器19, 須恵器5	

表8 墓壙の可能性のある土坑一覧表

◎印は本文中に記述

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
491	C5c5	N-82°-W	長方形	1.61 × 0.70	23	緩斜	皿状	人為		
◎492	C5c4	N-75°-W	長方形	1.76 × 0.69	22	外傾	平坦	人為		
493	C5c3	N-80°-W	長方形	1.67 × 0.68	12	緩斜	平坦	人為	土師器5, 須恵器3	
495	C5b1	N-82°-W	隅丸長方形	1.77 × 0.72	20	緩斜	平坦	人為	須恵器1, 陶器1	
496	C4b0	N-81°-W	隅丸長方形	1.77 × 0.76	18	緩斜	平坦	人為		
501	C4a0	N-79°-W	長方形	1.40 × 0.75	24	外傾	平坦	人為		
◎589	A6e7	N-16°-E	長方形	2.52 × 0.94	67	垂直	平坦	人為	土師器2, 須恵器5, 陶器3	
◎590	A6f7	N-18°-E	長方形	2.80 × 0.85	53	外傾	平坦	人為	土師器2, 須恵器4, 陶器3	
◎591	A6e6	N-13°-E	長方形	1.77 × 0.77	50	外傾	平坦	人為	土師器4, 須恵器1, 陶器1	
592	A6b5	N-76°-W	長方形	1.71 × 0.81	23	緩斜	平坦	人為	礫1	
593	A6b4	N-75°-W	長方形	2.25 × 0.85	25	緩斜	平坦	人為	土師器2	
594	A6c6	N-81°-W	長方形	1.34 × 0.86	35	緩斜	平坦	人為	土師器2, 須恵器2, 陶器4, 磁器3	
595	A6c6	N-89°-W	楕円形	1.13 × 0.87	57	外傾	平坦	人為	土師器1	
◎597	A6d6	N-17°-E	長方形	2.45 × 0.82	48	外傾	平坦	人為	土師器7, 須恵器2, 陶器1	
598	A6f6	N-11°-E	長方形	2.34 × 0.85	46	外傾	平坦	人為	土師器10, 須恵器2	SD-21→本跡
◎600	A6g1	N-18°-W	不整長方形	1.55 × 0.86	20	外傾	凹凸	人為	土師器3, 須恵器1	
602	A5h0	N-77°-W	長方形	2.38 × 0.80	39	外傾	平坦	人為	土師器11, 須恵器4, 陶器1	
◎604	A5g9	N-74°-W	長方形	2.98 × 0.88	26	外傾	平坦	人為	土師器14, 須恵器9, 陶器1, 磁器1	
606	A5g8	N-77°-W	長方形	1.54 × 0.95	45	外傾	平坦	人為		

表9 その他の土坑一覧表 (第163~176図)

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
351	C7a4	-	円形	1.36 × 1.30	40	外傾	皿状	自然		
352	B7j4	N-44°-W	不整円形	1.39 × 1.21	45	外傾	平坦	不明	土師器1	
353	B7j4	-	円形	5.02 × 5.00	27	外傾	皿状	自然	土師器3	
354	B7j3	N-38°-W	不整円形	1.14 × 0.98	37	垂直	平坦	自然	土師器6, 須恵器3	
355	B7i3	N-45°-W	不整円形	1.10 × 1.03	34	外傾	皿状	自然	須恵器1	
356	B7j3	N-10°-W	不整楕円形	1.56 × 1.02	61	外傾	平坦	人為	土師器8, 須恵器7, 瓦質土器1	
357	B7i3	N-14°-E	不整楕円形	1.57 × 1.10	64	外傾	平坦	自然	土師器13, 須恵器4	
358	B7i3	-	円形	1.20 × 1.20	19	外傾	平坦	人為	土師器2, 須恵器1	
359	B7i3	-	円形	1.16 × 1.02	29	外傾	平坦	人為	土師器13, 須恵器5	
360	B7h3	-	円形	1.39 × 1.35	32	外傾	平坦	人為	土師器1, 須恵器4	
361	B7i4	N-70°-W	楕円形	1.83 × 1.08	73	緩斜	皿状	自然	土師器11, 須恵器6	
362	B7h4	-	円形	1.10 × 0.93	26	外傾	平坦	自然	土師器3	
363	B7i2	N-0°	不整円形	1.29 × 1.06	55	緩斜	皿状	人為	土師器3	
364	B7j2	N-70°-E	楕円形	1.20 × 0.97	54	外傾	平坦	人為	土師器6, 須恵器2	
365	B7i1	N-72°-W	楕円形	1.42 × 0.99	44	外傾	平坦	人為	土師器3, 須恵器5	
366	B7i1	-	円形	0.90 × 0.89	16	外傾	平坦	自然		
367	B7i1	-	円形	0.83 × 0.81	41	外傾	平坦	人為		
368	B7i1	-	円形	0.63 × 0.60	39	外傾	平坦	自然	土師器3, 須恵器2	
369	B6i0	-	円形	0.87 × 0.81	13	緩斜	平坦	不明	土師器2, 須恵器1	
370	B6h0	N-59°-W	隅丸長方形	1.81 × 1.35	33	緩斜	平坦	人為	土師器33, 須恵器14, 礫1	
371	B7i2	-	円形	0.94 × 0.90	40	垂直	平坦	人為	土師器2	
372	B7g4	-	円形	1.05 × 1.05	30	垂直	平坦	人為	土師器16, 須恵器12, 礫2	
373	B7g4	-	円形	1.23 × 1.10	28	垂直	皿状	人為	土師器8, 須恵器5	
374	B7g4	-	円形	1.10 × 1.01	42	外傾	平坦	人為	土師器3	
375	B7f3	-	円形	1.10 × 0.96	22	外傾	平坦	自然	土師器2, 須恵器1	
376	B7g1	N-0°	不整円形	1.14 × 1.05	21	緩斜	皿状	自然		
377	B7g1	-	円形	1.14 × 1.09	26	外傾	平坦	人為	土師器5	
378	B6g0	-	円形	0.88 × 0.84	27	外傾	平坦	人為	土師器2, 須恵器1	
379	B6h0	N-12°-E	長方形	1.12 × 0.84	25	緩斜	平坦	自然		
380	B6g8	-	円形	1.01 × 0.99	23	緩斜	皿状	自然	土師器4, 須恵器4	
381	B6f8	-	円形	1.12 × 1.11	40	外傾	平坦	人為	土師器4	
382	B6j9	N-34°-E	長方形	1.85 × 0.72	35	外傾	平坦	自然		
383	B6f8	-	円形	1.13 × 1.13	20	緩斜	平坦	自然	土師器1	
384	B7h5	N-17°-W	不整円形	1.19 × 1.02	53	緩斜	皿状	人為		
385	B6g7	-	円形	0.87 × 0.77	44	緩斜	平坦	自然	須恵器1	
386	B6g8	-	円形	1.03 × 0.93	51	緩斜	平坦	自然	土師器8	SK-387
387	B6g8	N-75°-W	楕円形	1.45 × 1.10	65	緩斜	平坦	人為	土師器17, 須恵器7	SK-386
388	B7h1	N-12°-E	不整楕円形	1.75 × 0.90	30	外傾	平坦	人為	土師器1, 須恵器1	
389	B7h5	N-37°-W	不整円形	1.14 × 1.06	21	外傾	皿状	人為	土師器8, 須恵器2	
390	B7h6	N-12°-E	楕円形	1.33 × 1.02	76	外傾	皿状	人為	土師器12, 須恵器2	
391	B7j7	N-29°-W	不整楕円形	0.86 × 0.52	52	垂直	皿状	自然	土師器6, 須恵器11	
392	B6g9	N-34°-W	隅丸長方形	3.44 × 0.75	15	緩斜	平坦	不明	土師器3, 須恵器1	
393	B6d0	-	円形	1.70 × 1.20	49	垂直	平坦	自然	土師器7, 須恵器5	
394	B6d0	-	円形	1.21 × 1.20	50	垂直	平坦	自然		
395	B7d1	-	円形	0.65 × 0.60	45	垂直	平坦	人為	土師器9, 須恵器2	
396	B6d6	-	円形	1.11 × 1.10	24	垂直	平坦	自然	土師器2, 須恵器2	

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
397	B6e6	-	円形	1.07 × 1.00	20	外傾	平坦	自然	土師器 11, 須恵器 3, 礫 1	
398	B6e0	N-75°-W	隅丸長方形	3.10 × 1.90	33	緩斜	平坦	人為	土師器 27, 須恵器 13, 礫 2	
399	B6e0	-	円形	1.10 × 1.02	30	垂直	平坦	自然	土師器 8, 須恵器 3	
400	B6b8	-	円形	0.58 × 0.57	21	緩斜	皿状	自然	土師器 13, 須恵器 1, 礫 1	
401	B6e9	-	円形	1.01 × 0.94	28	外傾	平坦	自然	土師器 1, 須恵器 1	
402	B6e7	-	円形	1.25 × 1.20	26	緩斜	平坦	人為	土師器 14, 須恵器 7	
403	B6f7	-	円形	1.04 × 1.00	14	緩斜	平坦	自然	土師器 2, 須恵器 2	
404	B6f6	-	円形	0.85 × 0.83	13	緩斜	平坦	自然	土師器 3, 須恵器 2	
405	B6f4	-	円形	1.04 × 1.03	16	緩斜	平坦	自然	土師器 3, 須恵器 1	
406	B6f8	-	円形	0.98 × 0.94	36	垂直	平坦	自然	土師器 1, 須恵器 2	
407	B6e7	-	円形	1.00 × 0.98	18	緩斜	平坦	人為	土師器 4, 須恵器 2	
408	B6e7	-	円形	1.17 × 1.05	26	外傾	平坦	自然	土師器 4, 須恵器 2	
409	B6e9	-	円形	0.92 × 0.86	32	垂直	平坦	自然	土師器 4, 須恵器 2	
410	B6f4	-	円形	1.06 × 1.05	20	外傾	平坦	人為	土師器 6, 須恵器 6	
411	B6f3	-	円形	1.40 × 1.33	36	垂直	平坦	人為	土師器 11, 須恵器 12	
412	B6f4	-	円形	0.95 × 0.87	12	外傾	平坦	人為	土師器 1, 須恵器 2	
413	B6f0	-	円形	1.10 × 1.02	38	垂直	平坦	人為	土師器 10, 須恵器 5	
414	B6e2	-	円形	1.08 × 1.06	22	外傾	平坦	自然	須恵器 1	
415	B6e3	-	円形	1.38 × 1.25	30	垂直	平坦	人為	土師器 13, 須恵器 7	
416	B6c1	-	円形	1.26 × 1.12	42	垂直	平坦	人為	土師器 1, 須恵器 1	SK-417→本跡
417	B6c1	-	円形	[1.34] × 1.20	48	内傾	平坦	人為	土師器 9, 須恵器 7	本跡→SK-416
418	B5d9	-	円形	0.90 × 0.85	26	内傾	平坦	人為	土師器 5	
419	B5d9	-	円形	1.00 × 1.00	20	外傾	平坦	人為	土師器 6	
420	B6e4	-	円形	1.16 × 1.08	30	外傾	平坦	人為	土師器 8, 須恵器 8	
421	B5d0	N-56°-E	不整円形	1.46 × 1.28	32	外傾	平坦	人為	土師器 6, 須恵器 5	
422	B5c9	-	円形	1.31 × 1.26	34	緩斜	皿状	人為	土師器 9, 須恵器 1	
423	B5c9	-	円形	1.03 × 1.00	23	外傾	平坦	人為	土師器 7, 須恵器 9	
424	B5i7	-	円形	1.11 × 1.08	17	緩斜	皿状	人為		
425	B5i6	-	円形	1.19 × 1.17	35	外傾	平坦	人為	須恵器 1	
426	B5j6	-	円形	1.32 × 1.30	30	外傾	皿状	人為	土師器 1, 須恵器 2	
427	B5i7	-	円形	1.32 × 1.24	40	垂直	平坦	人為	土師器 12, 須恵器 2, 陶器 2	
428	D6b6	-	円形	1.15 × 1.12	36	緩斜	皿状	人為	土師器 9, 須恵器 5	SI-130→本跡
429	D6b5	-	円形	1.09 × 0.95	29	垂直	平坦	人為	土師器 10, 須恵器 6	SI-130→本跡
430	D5i4	N-57°-E	不整円形	2.75 × 2.69	21	緩斜	平坦	人為	土師器 2, 須恵器 2	本跡→SK-436
431	D4a9	N-38°-E	隅丸長方形	2.45 × 1.78	22	緩斜	平坦	人為	須恵器 1	
432	D5i3	-	円形	1.92 × (1.78)	16	緩斜	平坦	自然		本跡→SK-433
433	D5i3	-	円形	1.06 × [1.00]	20	外傾	平坦	人為		SK-432→本跡
434	D5j0	N-66°-W	隅丸長方形	5.93 × 0.68	61	垂直	平坦	人為	土師器 5, 須恵器 5	
435	D5i8	N-70°-W	長方形	3.13 × 0.65	34	外傾	平坦	人為		
436	D5i4	N-34°-W	不整円形	1.10 × 1.01	23	外傾	平坦	人為		SK-430→本跡
437	D5i9	N-21°-E	長方形	2.56 × 0.63	10	緩斜	平坦	人為		
438	E5d2	N-19°-E	長方形	6.94 × 3.96	46	外傾	平坦	人為	鉄滓 2	
439	D5i0	N-65°-W	長方形	2.69 × 1.12	61	外傾	平坦	人為	鉄滓 1	SK-442
440	D5c7	N-9°-E	楕円形	1.64 × 1.26	26	外傾	平坦	人為		
441	D5i9	N-66°-W	長方形	2.92 × 0.63	55	外傾	平坦	人為		
442	D5i0	N-65°-W	長方形	1.87 × 1.00	44	垂直	平坦	不明		SK-439
443	D7c3	-	円形	0.96 × 0.93	18	緩斜	平坦	自然	須恵器 2	

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
444	D7e3	-	円形	1.30 × 1.14	13	緩斜	平坦	自然	須惠器 2, 礫 1	
445	D7e3	-	円形	1.23 × 1.23	14	緩斜	平坦	人為	土師器 3, 須惠器 3	
446	D7c3	-	円形	1.15 × 1.14	18	緩斜	平坦	人為	土師器 1	
447	D7d2	-	円形	1.24 × 1.18	24	外傾	皿状	自然	土師器 6, 須惠器 3	
448	D7d2	-	円形	0.92 × 0.92	22	外傾	皿状	人為	土師器 5, 須惠器 4, 礫 1	
449	D6i0	N-21°-E	長方形	4.35 × 1.04	40	外傾	平坦	人為	須惠器 1	
451	D6g8	N-25°-E	隅丸長方形	1.20 × 0.64	74	垂直	平坦	人為	陶器 2	
452	D6h8	N-26°-E	長方形	1.15 × 0.78	52	垂直	平坦	人為		
454	D5i0	-	円形	1.05 × 1.00	27	外傾	平坦	人為		
455	D5g0	-	円形	1.05 × 1.00	36	外傾	平坦	人為	土師器 1, 須惠器 3	
456	D5h9	-	円形	0.93 × 0.82	14	外傾	皿状	人為	土師器 1	
457	D5h9	-	円形	1.28 × 1.07	27	外傾	皿状	自然		
458	D5i9	-	円形	0.95 × 0.90	17	緩斜	平坦	人為		
459	D5i9	-	円形	1.01 × 0.94	27	外傾	平坦	人為		
460	D6c8	-	円形	1.19 × 1.08	25	外傾	皿状	人為	土師器 1, 須惠器 1	
461	C6j7	-	円形	1.00 × 0.94	36	垂直	皿状	人為		
462	D6b6	-	円形	0.97 × 0.91	32	外傾	皿状	人為	土師器 47, 須惠器 11, 陶器 2	
463	C6j6	-	円形	1.25 × 1.16	29	緩斜	皿状	人為	土師器 8, 須惠器 4	
464	D6a6	-	円形	1.00 × 0.97	34	垂直	皿状	自然	土師器 8, 須惠器 8	
465	C6j6	-	円形	1.18 × 1.05	28	外傾	皿状	人為	須惠器 2, 灰釉陶器 1	
466	D6a5	N-19°-E	隅丸長方形	3.78 × 0.80	17	緩斜	平坦	人為		SK-467
467	D6b5	-	円形	0.78 × (0.63)	52	外傾	平坦	人為		SK-466
468	C6e5	-	[円形]	1.10 × (0.82)	22	緩斜	平坦	自然	須惠器 1	
469	C6i5	-	円形	1.12 × 1.12	24	緩斜	平坦	人為	土師器 2, 須惠器 3	
470	C6g7	N-16°-E	隅丸長方形	1.84 × 0.91	14	緩斜	平坦	自然		
471	C6e5	-	円形	0.78 × 0.76	28	外傾	平坦	人為		
472	C6f5	-	円形	1.04 × 1.00	20	緩斜	平坦	人為	須惠器 1	
473	C6e4	-	円形	1.18 × 1.14	28	緩斜	平坦	人為	土師器 3, 須惠器 3	
474	C6d4	-	[円形]	1.00 × (0.82)	24	緩斜	平坦	自然		
475	C6h5	-	円形	0.98 × 0.90	20	外傾	平坦	人為	土師器 2, 須惠器 3	
476	C6i5	N-19°-E	隅丸長方形	0.75 × 0.58	22	外傾	皿状	自然	土師器 16, 須惠器 6	
477	C6g5	-	円形	0.82 × 0.76	18	緩斜	平坦	自然	土師器 2	
478	C6h4	-	円形	1.07 × 0.98	31	外傾	平坦	人為	土師器 3	
479	C6i4	-	円形	1.13 × 1.05	22	緩斜	平坦	人為	土師器 2, 須惠器 1	
480	C6i4	-	円形	1.03 × 0.96	18	外傾	平坦	人為		
481	C6h4	-	円形	0.84 × 0.80	36	外傾	皿状	自然	土師器 3	
482	C6i4	N-2°-E	楕円形	0.84 × 0.68	23	緩斜	平坦	人為	土師器 2	
483	C6i4	-	円形	0.84 × 0.78	11	緩斜	平坦	人為		
484	C6g4	N-9°-E	楕円形	0.88 × 0.63	31	外傾	平坦	人為	土師器 2	
485	C6h3	-	円形	0.86 × 0.86	15	緩斜	平坦	自然	土師器 2, 須惠器 1	
486	C6h3	-	円形	1.09 × 1.02	16	緩斜	平坦	人為	土師器 4, 須惠器 1	
487	D6b5	-	円形	1.28 × 1.18	40	外傾	平坦	人為	土師器 2, 須惠器 2	
488	D6b4	-	円形	1.21 × 1.16	39	外傾	平坦	人為		
489	C5i9	-	円形	1.10 × 1.07	40	垂直	皿状	人為		
490	C5i8	-	円形	1.30 × 1.23	27	外傾	皿状	人為		
494	C5i6	-	円形	0.97 × 0.97	34	垂直	平坦	人為		
498	C5h4	N-16°-E	方形	0.85 × 0.75	20	外傾	平坦	自然		

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係 (古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
499	C5f2	-	円形	1.27 × 1.25	34	外傾	皿状	自然	土師器 10, 須惠器 6	
500	C5e1	-	円形	1.39 × 1.21	35	外傾	皿状	人為	須惠器 1	
502	C4a9	-	円形	0.79 × 0.67	25	外傾	平坦	自然		
503	C4a0	-	円形	0.74 × 0.71	28	外傾	皿状	自然		
504	C4e0	-	円形	1.05 × 0.98	20	緩斜	平坦	人為	土師器 5, 須惠器 4, 鉄滓 1, 礫 1	
505	C4d9	-	円形	1.05 × 1.02	23	緩斜	平坦	人為		
506	C4f0	-	円形	1.06 × 1.00	26	外傾	平坦	人為	須惠器 1	
507	C4e9	N-89°-W	隅丸長方形	1.74 × 1.42	22	緩斜	平坦	人為		
508	C4f6	N-75°-W	[長方形]	(3.36) × 0.81	19	外傾	平坦	自然	土師器 1, 須惠器 1	
509	C4h6	-	円形	1.12 × 0.97	24	外傾	平坦	自然		
510	C4h6	N-17°-E	長方形	5.12 × 0.86	17	外傾	平坦	自然		SK-512
511	C4i6	-	円形	1.47 × 1.38	26	緩斜	平坦	人為		SK-512
512	C4i6	N-75°-W	長方形	(2.25 × 0.90)	11	緩斜	平坦	自然	土師器 2	SK-510, 511
513	D5c8	N-70°-W	不整長方形	1.03 × 0.69	19	外傾	平坦	自然		
514	D5c8	N-0°	不整円形	1.10 × 0.86	20	外傾	平坦	自然		
515	D5c7	N-5°-E	楕円形	1.08 × 0.56	23	緩斜	皿状	人為		
516	D5g7	-	円形	0.78 × 0.76	24	外傾	平坦	自然		
517	D5g6	-	円形	0.84 × 0.77	23	外傾	平坦	自然		
518	C5j4	N-25°-E	隅丸長方形	1.01 × 0.59	20	緩斜	皿状	人為		
519	C5i3	N-73°-W	隅丸長方形	0.89 × 0.65	25	緩斜	平坦	自然		
520	D4a7	-	円形	1.05 × 0.96	26	外傾	平坦	人為	土師器 6, 須惠器 2	
521	D5b1	N-19°-E	楕円形	1.33 × 0.72	42	緩斜	皿状	人為	土師器 2, 須惠器 1	
522	D4a4	N-16°-E	長方形	1.36 × 0.86	17	緩斜	平坦	自然		
523	D4a0	N-3°-W	楕円形	1.47 × 1.18	32	緩斜	皿状	人為	須惠器 1	
524	D5c4	N-29°-W	長方形	1.68 × 0.81	16	緩斜	平坦	人為		
525	D5c3	N-23°-E	長方形	2.79 × 0.57	14	緩斜	平坦	人為		
526	D4b7	-	円形	1.32 × 1.30	52	外傾	皿状	人為	土師器 4, 須惠器 1, 鉄滓 1	
527	D4b7	-	円形	1.05 × 0.95	27	外傾	皿状	人為		
528	D4c7	-	円形	1.26 × 1.21	35	外傾	皿状	人為		
529	D4c6	-	円形	1.14 × 1.13	20	外傾	皿状	人為	土師器 1	
530	D4b5	-	円形	1.33 × 1.33	25	緩斜	皿状	人為	土師器 3	
531	E5b7	-	円形	1.26 × 1.19	23	外傾	皿状	自然		
532	E5b7	-	円形	1.25 × 1.24	17	緩斜	平坦	自然		
533	E5b6	-	円形	1.29 × 1.15	14	緩斜	皿状	自然		
534	D5g5	N-66°-W	方形	0.90 × 0.78	20	外傾	平坦	自然		
535	D5g4	-	円形	1.09 × 0.95	12	緩斜	皿状	人為		
536	D5h5	N-24°-E	長方形	1.05 × 0.90	22	外傾	平坦	自然		
537	E5c6	-	円形	1.17 × 1.10	31	外傾	平坦	人為		
538	D5h4	-	円形	0.92 × 0.92	8	緩斜	平坦	人為		
539	D5j5	N-70°-W	長方形	3.54 × 0.89	30	外傾	平坦	人為	土師器 4, 陶器 1	
540	D5f5	-	円形	1.03 × 0.98	24	緩斜	皿状	人為		
541	E5d4	N-20°-E	[長方形]	(1.90) × 0.80	48	垂直	平坦	自然	土師器 4, 陶器 1	
542	D5e2	-	[円形]	1.06 × (0.70)	24	緩斜	皿状	人為		本跡→SK-543
543	D5e2	N-30°-E	[楕円形]	(1.30) × 0.75	30	緩斜	皿状	人為		SK-542→本跡
544	D4i0	-	円形	1.84 × 1.63	26	緩斜	皿状	人為	土師器 2, 須惠器 1	
545	D4i0	-	円形	0.90 × 0.80	16	緩斜	平坦	自然		
546	D4h0	-	円形	1.04 × 0.96	25	外傾	平坦	人為		

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
547	D4h9	N-74°-W	隅丸方形	1.28 × 1.20	16	緩斜	平坦	人為		
548	D4c4	-	円形	1.06 × 1.06	10	緩斜	皿状	人為		
549	E4a9	N-74°-W	長方形	1.53 × 0.78	16	外傾	平坦	自然		
550	D4c4	-	円形	1.28 × 1.22	17	緩斜	皿状	人為	土師器 5, 須惠器 1, 陶器 1	本跡→SK-581
551	D4j9	N-87°-W	長方形	0.89 × 0.63	24	緩斜	皿状	人為		
552	D4i8	N-30°-E	長方形	1.47 × 0.69	30	垂直	皿状	人為		SK-553→本跡
553	D4i8	N-70°-W	長方形	2.13 × 0.88	18	緩斜	皿状	人為		本跡→SK-552
554	D4j8	-	円形	1.24 × 1.20	23	緩斜	皿状	人為		
555	D4j7	-	円形	1.30 × 1.30	36	外傾	平坦	人為	土師器 3, 砥石 1	
556	E4a8	-	円形	1.14 × 1.07	21	外傾	平坦	人為	須惠器 1, 陶器 1	
557	D4i7	-	円形	1.15 × 1.09	12	緩斜	平坦	人為		
558	D4i5	-	円形	0.98 × 0.95	32	外傾	平坦	人為	土師器 2, 須惠器 1	
559	D4i5	-	円形	1.14 × 1.04	31	外傾	平坦	人為		
560	D4i5	-	円形	1.23 × 1.12	21	緩斜	平坦	人為		
561	D4i5	-	円形	1.30 × 1.22	36	外傾	平坦	人為		
562	D4i4	-	円形	1.30 × 1.12	13	緩斜	皿状	人為	須惠器 1	
563	D4g4	-	円形	1.19 × 1.11	12	緩斜	皿状	人為		
564	D4h4	-	円形	1.16 × 1.12	12	緩斜	皿状	人為		
565	D4i3	-	円形	1.29 × 1.17	20	緩斜	皿状	人為	須惠器 1	
566	D4g4	-	円形	1.21 × 1.19	28	緩斜	皿状	人為	土師器 2, 須惠器 1	
567	D4h3	-	円形	1.39 × 1.35	35	緩斜	皿状	人為		
568	D4h3	-	円形	1.48 × 1.46	32	緩斜	皿状	人為	土師器 4, 須惠器 1	
569	D4g4	-	円形	1.27 × 1.21	23	緩斜	皿状	人為	土師器 2, 須惠器 3, 陶器 2	
570	D4h3	-	円形	1.43 × 1.36	47	外傾	皿状	人為	土師器 2	
571	D4h3	-	円形	1.38 × 1.34	39	外傾	皿状	人為	土師器 1	
572	D4g3	-	円形	1.13 × 1.12	19	外傾	平坦	人為	土師器 1, 須惠器 1	
573	D4h3	-	円形	1.46 × 1.44	45	外傾	皿状	人為		
574	D4g3	-	[円形]	1.07 × (0.93)	14	緩斜	平坦	人為		本跡→SK-575
575	D4g3	-	円形	1.00 × 0.88	11	緩斜	皿状	人為		SK-574, 576→本跡
576	D4g2	-	[円形]	1.16 × 1.12	30	外傾	平坦	人為		本跡→SK-575
577	D4h2	-	円形	1.20 × 1.10	16	緩斜	皿状	人為		
578	D4g2	-	円形	1.15 × 1.12	19	緩斜	皿状	人為	土師器 1, 須惠器 1	
579	D4g2	-	円形	1.34 × 1.24	20	外傾	皿状	人為	須惠器 1	
580	D4g2	-	円形	1.35 × 1.28	26	外傾	皿状	人為		
581	D4c4	N-62°-W	長方形	1.17 × 0.67	29	外傾	平坦	自然		SK-550→本跡
582	D4c4	-	円形	1.25 × 1.17	30	外傾	皿状	人為		
583	D4d4	-	円形	1.24 × 1.22	24	外傾	平坦	人為		
584	D4d3	-	円形	1.36 × 1.30	19	緩斜	皿状	人為		
585	D4e2	-	[円形]	1.20 × (1.00)	13	緩斜	皿状	人為		SI-113→本跡
586	D4f2	-	円形	1.21 × 1.08	14	緩斜	皿状	人為	土師器 3	
587	B7h5	-	円形	1.20 × 1.11	28	緩斜	皿状	人為	土師器 14, 須惠器 6	SI-83→本跡
588	B7g6	N-60°-E	不整楕円形	(2.70 × 0.80)	57	緩斜	平坦	自然	土師器 50, 須惠器 44, 礫 1	本跡→SI-96
596	A6b4	-	円形	1.16 × 1.14	24	緩斜	平坦	不明	土師器 3, 陶器 1	
599	A7d2	N-80°-W	不整楕円形	1.67 × 0.96	35	緩斜	皿状	自然		
601	A6g2	-	円形	0.86 × 0.70	29	緩斜	皿状	人為	須惠器 1	SD-28→本跡
603	A5g5	-	円形	1.18 × 1.05	32	緩斜	皿状	人為	土師器 2, 須惠器 1, 礫 1	
607	A5f7	N-82°-W	楕円形	0.94 × 0.79	54	垂直	平坦	自然	須惠器 1	

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係 (古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
608	A5g7	N-44°-W	楕円形	0.84 × 0.71	49	垂直	平坦	自然		
610	A5d5	-	円形	1.34 × 1.25	56	外傾	平坦	人為	土師器 28, 須惠器 2	
611	C7a4	-	円形	1.31 × 1.25	48	外傾	皿状	自然	土師器 6, 須惠器 1	

表10 埋葬施設一覽表

埋葬 施設 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模			壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係 (古→新)
				長径(軸) × 短径(軸)		深さ (cm)					
				上面 (m)	底面 (m)						
1	B7c4	N-0°	楕円形	0.50 × 0.40	0.16 × 0.13	25	外傾	皿状	人為	土師器 20	SI-84→本跡

表11 溝一覽表 (付図, 第180図)

溝 番号	中心 位置	主軸方向	規 模				壁面	断面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係 (古→新)
			長さ (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)					
21	A7g1	N-71°-W N-13°-E	(38.9)	0.4 ~ 0.9	0.1 ~ 0.3	22~88	垂直	□	人為	土師器 12, 須惠器 8, 陶器 2, 磁器 7, 鉄滓 3	本跡→SK-598 SD-28
22	E5a1 D6c8	N-25°-E	(83.9)	(0.6 ~ 1.4)	(0.2 ~ 0.5)	22	緩斜	∪	不明	土師器 381, 須惠器 191, 陶器 1, 礫 2	SI-78, 79, 80, 96, 116, 117, 126, 127, 139→本跡
23	C5i5	N-60°-W	88.0	0.4 ~ 1.4	0.2 ~ 1.3	11	緩斜	∪	自然	土師器 9, 須惠器 16, 陶器 3, 礫 1	SI-121, 125, 134→本跡 SD-24
24	D5f8	N-22°-E	29.2	0.6 ~ 1.2	0.3 ~ 0.5	19	緩斜	∪	不明	土師器 8, 須惠器 2	SI-124, 125→本跡 SD-23
25	C4j9	N-80°-E	9.6	0.5 ~ 0.9	0.2 ~ 0.5	9	緩斜	∪	自然	土師器 1, 須惠器 2	
26	E5a2	N-9°-E	(14.8)	1.1 ~ 1.6	0.4 ~ 0.9	11	緩斜	∪	人為		
27	A6d2	N-7°-E	(21.0)	(1.0) ~ 1.4	(0.5 ~ 0.8)	22~29	緩斜	∪	自然	土師器 2, 須惠器 6, 陶器 1	本跡→SD-28
28	A6h3	N-11°-E N-17°-E N-73°-W	(56.1)	0.4 ~ 0.7	0.2 ~ 0.3	30~42	外傾 ・ 垂直	∪□	人為	土師器 66, 須惠器 47, 陶器 7, 磁器 6, 鉄滓 3, 礫 9	SD-27→本跡→SK-601 SD-21

第4節 まとめ

当遺跡からは、今回の調査で旧石器時代から近世までの遺構と遺物が検出され、これまでの先人の生活の一端について少なからず解明することができた。ここでは、時代ごとに調査の結果を記述し、まとめとする。

1 旧石器時代から縄文時代までの遺構と遺物について

当遺跡からは、旧石器時代の石器（ナイフ形石器、剥片）、縄文時代の土器片と石器（石鏃、凹石、石錘）が出土していることから、当遺跡は長い時代を通じて、人々の生活と何らかのかかわりのあった場所であることがうかがえる。これらの遺物は、表採または他の時代の遺構に混入していたものである。

縄文時代の遺構は、調査区北部で陥し穴（第609号土坑）が確認されている。北側は傾斜面になっており、傾斜に対し直行するように構築されている。当遺跡から石鏃が多く出土していることから、遺跡付近は縄文時代は狩猟の場として利用されていたものとみられる。

縄文土器片は、縄文時代早期から後期までのものが出土している。^①ほとんどの土器片は表採である。住居跡が存在した可能性もあるが、耕作等による攪乱のため確認することができなかった。しかし、当時の人々の生活とかかわりのあった場所であると考えられる。

2 古墳時代から平安時代までの集落変遷（第185・186図）

当遺跡からは、今回の調査で古墳時代の竪穴住居跡1軒、奈良時代の竪穴住居跡20軒、平安時代の竪穴住居跡40軒、奈良から平安時代と思われる竪穴住居跡1軒を検出した。そこで、出土遺物と住居跡との関係をもとに、時期の明確な52軒を3期に区分して、各期ごとの集落の変遷について検討することにする。

○I期 古墳時代後期（7世紀）

調査区北部の第95号竪穴住居跡の1軒が該当する。住居跡の主軸方向はN-14°-W、平面形は長方形で、規模は21㎡の中形の住居跡である。^②平成7年度の調査では、古墳時代後期（6～7世紀）の竪穴住居跡は調査A区から1軒、調査B区から8軒が検出されており、軒数は少ないものの、調査C区にも集落の範囲が及んでいたことがわかる。出土遺物には、土師器杯・甕、須恵器蓋などがある。内・外面黒色処理の土師器杯も出土している。

○II期 奈良時代（8世紀）

8世紀前葉の第86・88・99・117・119・120・123号竪穴住居跡、中葉の第100・118・122・126・138号竪穴住居跡、後葉の第81・94・98・101・106・114・116号竪穴住居跡が該当する。前葉から中葉の住居跡は、調査区の全域から検出されているが、後葉になると東部から北部に集中している。住居跡の主軸方向はN-6°-W～N-17°-Eの範囲で、ほとんどが東寄りの主軸を持っている。特に、N-6°-W～N-10°-Eの範囲に主軸を持っている住居が13軒あることから、規則性が認められる。平面形は方形または隅丸方形がほとんどで、規模は53%が大・中形の住居跡で、小形の住居跡は47%を占めている。そのうち、8世紀前半の第117号竪穴住居跡（55㎡）や8世紀中葉の第100号竪穴住居跡（40㎡）のように、超大形の規模を有する住居跡が出現しているのも特徴である。

出土遺物には、土師器杯・甕、須恵器杯・高台付杯・盤・蓋・甕などがある。須恵器は胎土に白雲母を含み、

軟質ぎみの焼成の新治窯産須恵器が大部分を占めている。須恵器坏は丸底から平底に変化し、底径が大きく、器高が低い様相を呈し、底部は回転ヘラ切り後、ヘラ削り調整を行っている。また、第120号住居跡等から出土している8世紀前葉の須恵器坏には二次底部面をもつものも見られる。

○Ⅲ期 平安時代(9世紀)

9世紀前葉の第84・105号住居跡、中葉の第87・91・110・127・128・139号住居跡、後葉の第80・83・85・89・92・93・96・102～104・107・109・112・115・121・124・125・130～132-A・B、134～137号住居跡が該当する。前葉の住居跡は、調査区の北部で検出されているが、中葉になると北部から中央部に広がり、後葉には調査区の全域に広く分散している。人口の増加によって、住居の数も増加していったと考えられる。住居跡の主軸方向はN-17°-W～N-77°-Eの範囲で、東寄りの主軸を持っている住居跡が多い。特に、N-0°～N-28°-Eの範囲に主軸を持っている住居跡が18軒みられるが、主軸の幅は他の時期より広がりが見られる。平面形は方形または隅丸方形が67%で、規模は第137号竪穴住居跡の24㎡を最大とするが、94%が小形の住居跡である。前期よりも小形化が進んでいることがわかる。また、住居の東側やコーナー部に竈を持つ住居跡が現れる。

出土遺物には、土師器坏・高台付坏・高台付皿・甕、須恵器坏・高台付坏・高台付皿・甕・鉢、灰釉陶器などがある。須恵器坏は、Ⅱ期より口径に対する底径の比が小さくなり、器高の増加がみられ、体部下端から底部にかけて、手持ちヘラ削り調整を行っている。また、十分な還元状態で焼き上げない土師質の須恵器坏も多く出土している。後半になると、ロクロ成形の土師器坏が増え、内面をヘラ磨きした後、黒色処理を施しているものが多くなる。その他に、第133号竪穴住居跡からは、黒笹90号窯式と考えられる灰釉陶器長頸瓶が、第137号竪穴住居跡からは、黒笹14号窯式と考えられる灰釉陶器高台付碗が出土している。

3 中世から近世までの変遷について

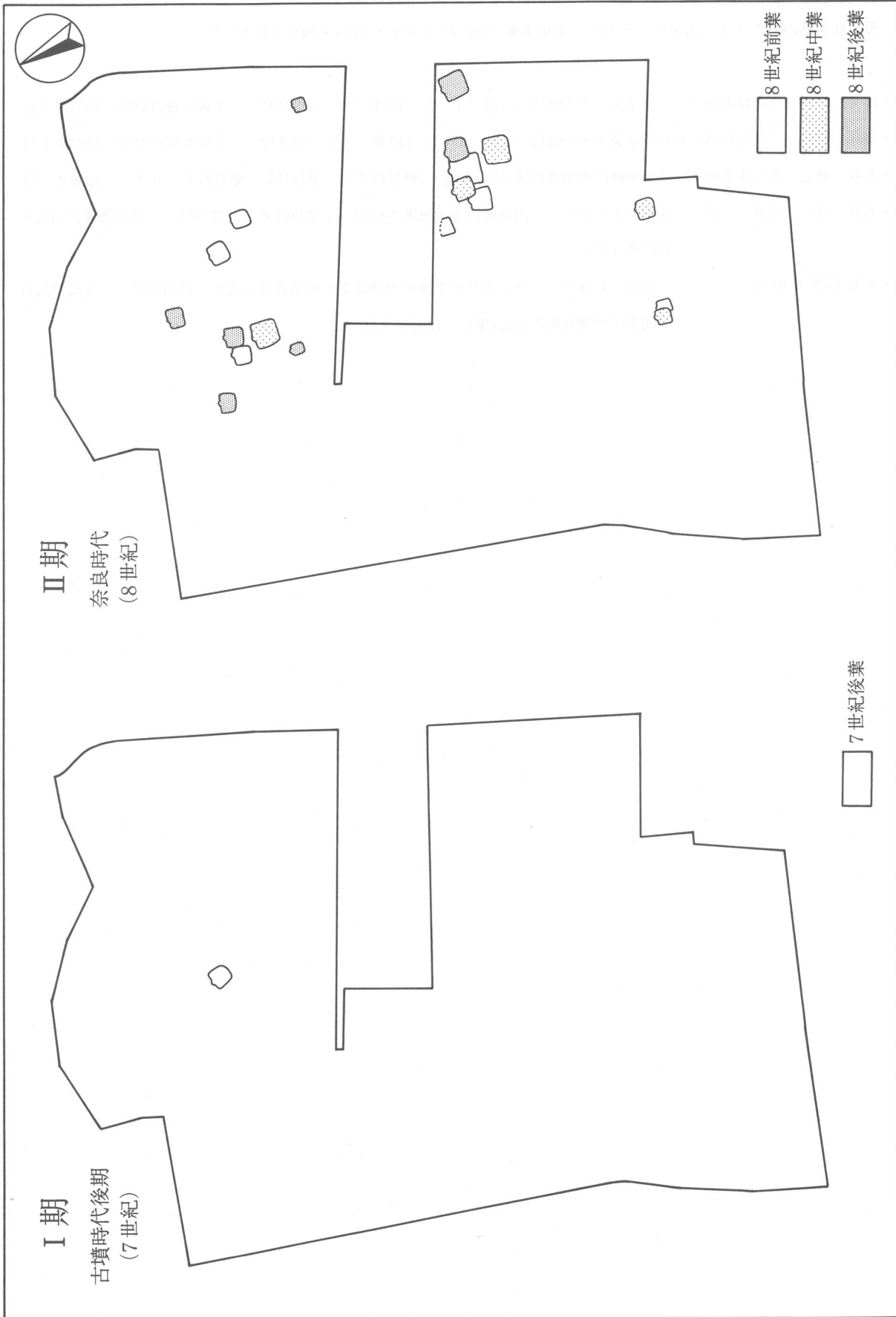
当遺跡は、中世から近世にかけては、主に墓域としての役割を担っていたと考えられる。墓墳と考えられる土坑は、調査区北側の第28号溝付近と調査区西側に多く集中している。形態としては、楕円形を呈する土坑(1基)、長方形を呈する土坑(21基)である。土坑からは人骨は出土しておらず、遺物も少ないため、時期判断は困難である。しかし、第453号土坑から白銅製の和鏡「松樹千鳥鏡」と黒漆塗りの一木造りの漆器鏡管が出土しており、中世初期の墓墳と考えられる。また、第497号土坑からは短刀が、第605号土坑からは煙管の吸い口が出土しており、中世から近世の墓墳の可能性が高く、ともに副葬品と考えられる。

以上をまとめると、今回の調査で、神田遺跡においては、縄文時代から近世までの人々の生活の痕跡を確認することができた。遺跡付近は縄文時代は狩猟の場として利用され、7世紀後葉に集落が形成され、平安時代の9世紀にかけて、多数の住居が繰り返し構築され、9世紀後葉にそのピークを迎え、後に分散していく傾向がうかがえる。中世になると、この地は墓域として利用されるようになり、しばらくは住居も造られなかったと考えられる。当遺跡は、古墳時代から平安時代の集落跡と、中世から近世の墓域が中心の複合遺跡であることが明らかになった。

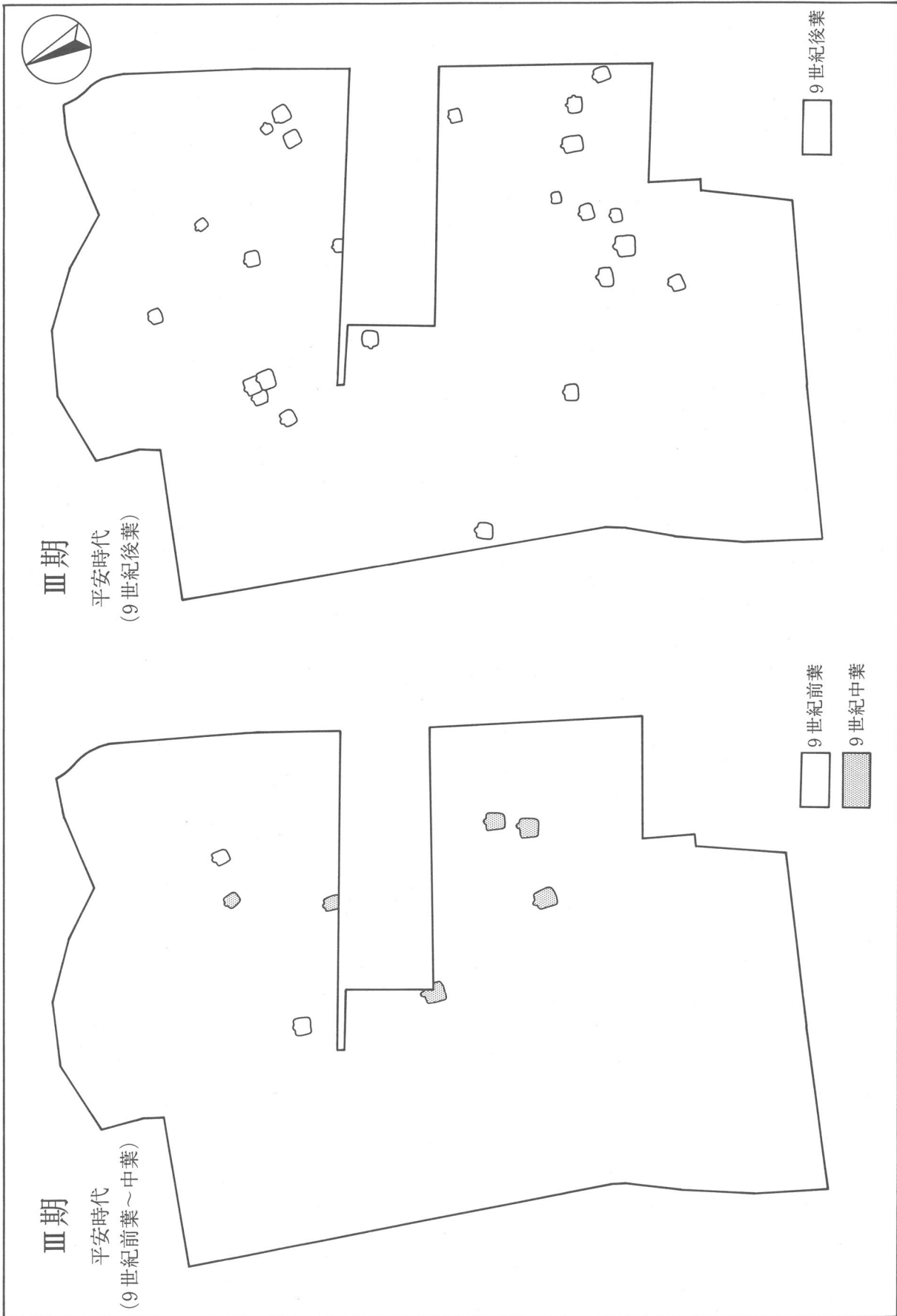
註・参考文献

- (1) 茨城県立歴史館の斎藤弘道氏の土器編年による。
- (2) 竪穴住居跡の大きさは、30㎡以上を大形、30㎡未満20㎡以上を中形、20㎡未満を小形とした。

- ・浅井 哲也 「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅰ）」『研究ノート 創刊号』 茨城県教育財団 1992年7月
- ・浅井 哲也 「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅱ）」『研究ノート 第2号』 茨城県教育財団 1993年7月
- ・赤井 博之, 佐々木義則 「新治窯跡群産須恵器坏AIの変化」『婆良岐考古 第18号』 婆良岐考古同人会 1996年5月
- ・赤井 博之, 吉澤 悟 「茨城県千代田町一丁田窯跡出土須恵器の検討」『婆良岐考古 第19号』 婆良岐考古同人会
1997年5月
- ・茨城県教育財団 「(仮称)葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 神田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第121集』 1997年3月



第185図 時期別別居跡配置図(1)



第186図 時期別居住跡配置図(2)